高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２４年６月

福井工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・・　2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３

基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１

基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３３

基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２５

基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６３

基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０１

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・３１５

基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７３

基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９３

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　福井工業高等専門学校

（２）所在地　福井県鯖江市

（３）学科等の構成

学　科：機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科

専攻科：生産システム工学専攻，環境システム工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成24年5月1日現在）

学生数：学　科　996人

専攻科　52人

専任教員数：　76人(校長含む)

助手数：　0人

２　特徴

福井工業高等専門学校(以下，本校と略称)は，実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和 40 年 4 月に創立され，機械工学科，電気工学科，工業化学科の 3 学科で発足した。その後，昭和 45 年度に土木工学科を，昭和 63 年度には電子情報工学科を増設した。平成 5 年度に土木工学科を環境都市工学科に，また平成 7 年度には工業化学科を物質工学科として改組した。さらに，平成 17 年度には，電気工学科を電気電子工学科とした。したがって，現在の学科構成は機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科の 5 学科からなり，本校の基本理念に掲げる環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行っている。また，平成 10 年度には専攻科を設置し，生産システム工学と環境システム工学の 2 専攻においてさらに進んだ教育を行っている。本校は，創立以来 6,792 名の本科卒業生及び 349 名の専攻科修了生を社会に輩出しており，卒業生・修了生は工業・技術系の有益な人材として我が国の産業界で活躍している。

教育の特徴としては，豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため，ものづくり教育を積極的に推し進めていることが挙げられる。例えば，ＮＨＫアイデア対決ロボットコンテストでは，平成 5 年度と平成 9 年度の 2 度にわたって最高賞であるロボコン大賞を獲得し，平成 12～22 年度にわたっては連続して全国大会への出場を果たした。また，高等専門学校連合会主催の全国高等専門学校プログラミングコンテストや，同デザインコンペティションにも毎年積極的に参加し，受賞歴も多く，平成 20 年度の同デザインコンペティションでは優秀賞を受賞した。さらに，平成 22 年度の文部科学省等主催のデザインパテントコンテストに応募した専攻科生は，意匠登録出願支援対象者として表彰された。

教育のもう一つの特徴として，工学基礎コースを全国で初めて設置したことがある。平成 17 年度から設けた同コースは，入学時に学科を決められない中学生のために，2 年次より転科可能なコースであり，中学校側からの評価も高い。

本校は地域連携テクノセンターを核にして，地元に立脚し，開かれた学校を目指した地元密着型の産官学共同研究を進めている。平成 16 年度には，福井県の伝統産業である和紙の生産者組合，福井県和紙工業協同組合と地元の依頼により伝統産業支援室を設置し，和紙に関する共同研究を行っている。

さらに，本校が立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地であることを受け，福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を実施している。平成 17 年度には，地場産業支援室を設置するとともに，地域社会との連携を一層深めるため，同年度，近隣 2 市 1 町と包括的な連携である地域連携協定を締結し，さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組んでいる。

国際連携としては海外学生派遣制度の他，平成 17 年度からオーストラリアの Ballarat 大学と提携し，学生の相互互換留学制度を開始し，定期的に交流を図っている。

学校運営の評価として，平成 14 年度に校外の有識者による外部評価委員会(平成 16 年度から評議員会，平成 21 年度から外部有識者会議）を設置し，外部有識者会議開催後にはその結果の開示を行うとともに，毎年自己点検・評価書を発行し公表している。

本校は，平成 17 年 5 月に福井県初の日本技術者教育認定機構の認定校となった。その後も，教育の質の向上と改善のために公開授業の実施，学生・教員相互からの評価を行っている。さらに，本校卒業生・修了生や企業・大学を対象にアンケート調査を定期的に行い，それらの結果に基づき継続的な改善に努めている。

Ⅱ　目的

福井工業高等専門学校の使命

基本理念

・創造性豊かな人材を育成する。
・幅広い工学的素養，基礎能力および応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

教育方針

・技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
・個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する。
・教養の向上に努め，良識ある国際人としての成長を期する。
・健康の増進に努め，身体的精神的に強靭な耐久力を育成する。
・規律ある日常生活に徹し，明朗，闊達な資性の涵養を図る。

養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え，国際社会で活躍できる技術者

学習・教育目標

１．本科(準学士課程)

RA　多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
RB　数学とその他の自然科学，および専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
RC　技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
RD　国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
RE　実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

２．専攻科課程

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
JB　数学とその他の自然科学，情報処理，および異なる技術分野を含む問題にも対処できる，ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
JD　国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
JE　実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

上記の学習・教育目標の下，一般科目教室および各学科の人材の育成に関する目的その他の教育上の目的を，以下のように設定している。

(1)　一般科目教室は，高度な技術教育の基盤となる学力を身に付け，豊かな教養と知性を持つ社会人を育成す

る。

(2) 機械工学科は，機械システムの開発・設計・生産の分野において，基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(3) 電気電子工学科は，通信・エレクトロニクス，情報・制御，光・電子デバイス，エネルギー等の分野において，基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(4) 電子情報工学科は，情報化社会の基盤となるソフトウェア，コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野において，基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(5) 物質工学科は，材料工学あるいは生物工学の分野において，基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(6) 環境都市工学科は，社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において，基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

また，専攻科における目指すべき人材像は，

得意とする専門分野を持つことに加え，他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し，自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた，国際社会で活躍できる実践的技術者

であり，生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻の目的を以下のように設定している。

(1) 生産システム工学専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，機械・設計関連，システム制御関連，電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

(2) 環境システム工学専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，構造・材料関連，生物・化学関連，環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的に昭和４０年に創立された。創造性豊かな実践的開発型の技術者になるために必要なものづくり教育と，地元密着型の産官学共同研究を積極的に進めており，これらを通して地域社会のみならず国際社会で活躍できる技術者の養成を図っている。その使命を果たすために，学則第１条に本校の目的を明確に定め(資料１―１―①―１)，これを核にして平成２３年１月に「福井工業高等専門学校の基本理念等に関する規則」を制定(資料１―１―①―２)し，本校の基本理念，教育方針，養成すべき人材像，本科(準学士課程)と専攻科課程における学習・教育目標，一般科目教室・各学科・各専攻の目的を定めている。

資料１―１―①―１

「福井工業高等専門学校学則」

第１章　本校の目的

第１条　本校は，教育基本法，学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

２　本校は，その目的を実現するための教育を行い，その成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。

３　本校は，教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため，その教育研究活動の状況を公表するものとする

第１条の２　本校の基本理念，教育方針，学習・教育目標及び学科・専攻ごとの人材の育成に関する目的その他の教育上の目的については，別に定める。

（出典　本校規則集）

資料１―１―①―２

「福井工業高等専門学校の基本理念等に関する規則」

第１章　基本理念

第１条　本校の基本理念は、次のとおりとする。

(1)　創造性豊かな人材を育成する。

(2)　幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。

(3)　高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。

(4)　環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。

(5)　地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

第２章　教育方針

第２条　本校の教育方針は、次のとおりとする。

(1)　技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。

(2)　個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。

(3)　教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。

(4)　健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する。

(5)　規律ある日常生活に徹し、明朗、かっ達な資性のかん養を図る。

第３章　学習・教育目標

第３条　本校の本科（準学士課程）の学習・教育目標は、次のとおりとする。

(1)　多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

(2)　数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

(3)　技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

(4)　国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

(5)　実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

第４条　本校の専攻科の学習・教育目標は、次のとおりとする。

(1)　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

(2)　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

(3)　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

(4)　国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

(5)　実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

第４章　人材の育成に関する目的その他の教育上の目的

第５条　本校の一般科目教室及び各学科の人材の育成に関する目的その他の教育上の目的（以下「目的」という。）は、次のとおりとする。

(1)　一般科目教室は、高度な技術教育の基盤となる学力を身に付け、豊かな教養と知性を持つ社会人を育成する。

(2)　機械工学科は、機械システムの開発・設計・生産の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(3)　電気電子工学科は、通信・エレクトロニクス、情報・制御、光・電子デバイス、エネルギー等の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(4)　電子情報工学科は、情報化社会の基盤となるソフトウェア、コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(5)　物質工学科は、材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(6)　環境都市工学科は、社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

第６条　本校の専攻科の専攻ごとの目的は、次のとおりとする。
(1)　生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連及び情報・通信関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。
(2)　環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連及び防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

第７条　本校の養成すべき人材像は、次のとおりとする。
優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者

（出典　本校規則集）

また平成２３年度には，本科(準学士課程)と専攻科課程におけるそれぞれ５つの大項目からなる「学習・教育目標」をより理解しやすくするために，各大項目を具体化した小項目を再設定した。すなわち，本科については１１の小項目(資料１―１―①―３）を，また専攻科については２０の小項目(資料１―１―①―４)を各大項目に対応して設けた。

さらに，以上の各学習・教育目標と，一般科目教室・各学科・各専攻における開講科目との対応関係は（資料１―１―①―５）に示すように明確であり，各小項目や大項目に配置された開講科目を習得することによってその学習・教育目標が達成できたことを，平成２２年度より学生自らが学習達成度評価シート(資料１―１―①―６)に１回／１年の頻度で定期的にチェックを入れることで確認している。

本科では，一般科目教室と各学科において学年毎に「目指す能力」，「達成目標」そして「到達目標例」(資料１―１―①―７)もシラバスに記載し，学生の能力育成と向上の一助としている。

資料１－１－①－３

「本科（準学士課程）の学習・教育目標」

RA　多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1　人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる。

2　様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持てる。

RB　数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

1　数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる。

2　専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し、工学的現象を正しく理解できる。

RC　技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

1　課題に対して自主的に問題を発見し、解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる。

RD　国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

1　英語による基礎的な対話や文章が理解でき、自分の意見を表現できる。

2　日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき、自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できる。

3　わかりやすい図表等を作成し、それを用いて日本語により効果的な説明ができる。

RE　実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

1　実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び、理論との比較や考察などができる。

2　課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し、データを解析・考察することにより、結果を客観的に説明できる。

3　身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し、個人あるいはグループで課題を達成できる。

（出典　平成２４年度学生便覧）

資料１－１－①－４

「専攻科課程の学習・教育目標」

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。

2 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。

3 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。

2 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。

3 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

1 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性及び経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できる。

2 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できる。

3 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せる。

4 異なる分野の人を含んだグループでの協議及び共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できる。

JD　国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

1　英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、 英語により自分の意見を適切に表現できる。

2　得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明できる。

3　自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現できる。

4　日本語による口頭発表や討議において、 自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行える。

5　正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる。

JE　実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

1　得意とする専門技術分野を含む複数の工学分野において、与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導ける。

2　数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できる。

3　技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せる。

4　自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できる。

5　考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる。

（出典　平成２４年度学生便覧）

資料１―１―①―５

「学習・教育目標と開講科目の関係」

平成23年度本科（準学士課程）の学習・教育目標と科目の配置

機械工学科

本科（準学士課程）

大項目	小項目		1年	2年	3年	4年	5年
RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける.	1	人間社会の基本的な仕組みを理解し，様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる.	歴史，地理	歴史，倫理社会	政治経済	ドイツ語，中国語	法学，哲学，経済学，歴史学特講，ドイツ語，中国語
	2	様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を，認識・理解する意識を持てる.	音楽	美術			
RB 数学とその他の自然科学，および専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける.	1	数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる.	基礎解析A，基礎解析B，物理，化学，生物	解析Ⅰ，線形代数，物理，化学	解析Ⅱ，数理統計学，工学基礎物理Ⅰ，基礎数学，基礎物理	解析Ⅲ，応用数学，工学基礎物理Ⅱ	数学特講
	2	専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し，工学的現象を正しく理解できる.	ものづくり科学，コンピュータ科学入門，製図	C言語基礎，機械工作法Ⅰ，材料学Ⅰ，機械工作実習，機械製図	C言語応用，機械工作法Ⅱ，材料学Ⅱ，材料力学Ⅰ，流れ学Ⅰ，電気工学，機械設計製図Ⅰ	機械計算力学，機械設計法，材料力学Ⅱ，工業力学，機構学，流れ学Ⅱ，熱力学，電子工学，センサ工学，工学演習，機械設計製図Ⅱ	材料科学，流体機械，伝熱工学，熱機関，電子応用，メカトロニクス，ロボット工学，システム工学，材料力学Ⅲ，振動工学，自動制御，生産技術演習，アイデア設計工学，機械設計製図Ⅲ
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける.	1	課題に対して自主的に問題を発見し，解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる.			創造工学演習	知能機械演習	
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける.	1	英語による基礎的な対話や文章が理解でき，自分の意見を表現できる.	英語Ⅰ，コミュニケーションⅠ	英語Ⅱ，コミュニケーションⅡ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ，英語特講
	2	日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき，自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できる.	国語	国語	国語，日本語Ⅰ，日本語Ⅱ	国語表現，日本語Ⅲ	国語講読，日本語Ⅳ，卒業研究
	3	わかりやすい図表等を作成し，それを用いて日本語により効果的な説明ができる.					卒業研究
RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける.	1	実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び，理論との比較や考察などができる.				機械工学実験Ⅰ	機械工学実験Ⅱ
	2	課題の背景を理解し，習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し，データを解析・考察することにより，結果を客観的に説明できる.					卒業研究
	3	身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し，個人あるいはグループで課題を達成できる.	保健体育	保健体育	保健体育	保健体育	

（出典　平成２４年度シラバス，p.M-01～M02）

資料１―１―①―６

「学習達成度評価シート（抜粋）」

学習達成度評価シート

平成　　年度入学
機　械　工　学　科
学籍番号
氏　　名

福井工業高等専門学校

機械工学科　学習達成度評価シート

大項目		小項目	1年			2年			3年			4年			5年			全学年
			科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	平均点
RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。	1	人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる。	□ 歴史 □ 地理	( )		□ 歴史 □ 倫理社会	( )		□ 政治経済	( )		□ ドイツ語* □ 中国語*	( )		□ 法学 □ 哲学* □ 経済学* □ 歴史学特講* □ ドイツ語* □ 中国語*	( )		
	2	様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持てる。	□ 音楽	( )		□ 美術	( )											
RB 数学とその他の自然科学、および専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。	1	数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる。	□ 基礎解析A □ 基礎解析B □ 物理 □ 化学 □ 生物	( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅰ □ 線形代数 □ 物理 □ 化学	( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅱ □ 数理統計学 □ 工学基礎物理Ⅰ □ 基礎数学 □ 基礎物理	( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅲ □ 応用数学 □ 工学基礎物理Ⅱ	( ) ( ) ( )		□ 数学特講*	( )		
	2	専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し、工学的現象を正しく理解できる。	□ コンピュータ科学入門 □ 製図 □ ものづくり科学	( ) ( ) ( )		□ C言語基礎 □ 機械工作実習 □ 機械工作法Ⅰ □ 機械製図 □ 材料学Ⅰ	( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ C言語応用 □ 機械工作法Ⅱ □ 機械設計製図Ⅰ □ 材料学Ⅱ □ 材料力学Ⅰ □ 流れ学Ⅰ □ 電気工学	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 機械計算力学 □ 機械設計製図Ⅱ □ 機構学 □ 機械設計法 □ 材料力学Ⅱ □ 熱力学 □ 流れ学Ⅱ □ 工業力学 □ 電子工学 □ センサ工学 □ 工学演習	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 生産技術演習 □ 機械設計製図Ⅲ □ アイデア設計工学 □ 振動工学 □ 自動制御 □ 材料科学** □ 材料力学Ⅲ** □ 伝熱工学** □ 熱機関** □ 流体機械** □ ロボット工学** □ 電子応用** □ メカトロニクス** □ システム工学**	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。	1	課題に対して自主的に問題を発見し、解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる。							□ 創造工学演習	( )		□ 知能機械演習	( )					
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。	1	英語による基礎的な対話や文章が理解でき、自分の意見を表現できる。	□ 英語Ⅰ □ コミュニケーションⅠ	( ) ( )		□ 英語Ⅱ □ コミュニケーションⅡ	( ) ( )		□ 英語Ⅲ	( )		□ 英語Ⅳ	( )		□ 英語Ⅴ □ 英語特講*	( ) ( )		
	2	日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき、自分の思いや主張を適切に日本語の話語や文章で表現できる。	□ 国語	( )		□ 国語	( )		□ 国語 □ 日本語Ⅰ □ 日本語Ⅱ	( ) ( ) ( )		□ 国語表現 □ 日本語Ⅲ	( ) ( )		□ 国語講読* □ 日本語Ⅳ □ 卒業研究	( ) ( ) ( )		
	3	わかりやすい図表等を作成し、それを用いて日本語により効果的な説明ができる。													□ 卒業研究	( )		
RE 実践的能力と論理的思考能力をを身に付ける。	1	実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び、理論との比較や考察などができる。										□ 機械工学実験Ⅰ	( )		□ 機械工学実験Ⅱ	( )		
	2	課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し、データを解析・考察することにより、結果を客観的に説明できる。													□ 卒業研究	( )		
	3	身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し、個人あるいはグループで課題を遂成できる。	□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )					
科目数		合計点																
平均点																		

注意：点数欄の（ ）内に、優＝3点，良＝2点，可＝1点，仮進＝0点として点数を記入　　*：選択必修科目，　**：選択科目

（出典　学生課）

資料１―１―①―７

「機械工学科における目指す能力，達成目標，到達目標例」

平成23年度

機械工学科
豊かな創造力をもつ機械技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】機械工学科の使命は、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を育成することである。基本方針として、(1)機械技術者として必要な基礎学力の育成、(2)技術革新・高度情報化社会に対応できる能力の育成、(3)創造性・実践的能力の育成および人間形成の育成、を掲げており、機械工学に関する知識・技術を習得することを達成目標としている。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
５年	機械工学の専門的な知識を身に付けて、それらの問題を解決する能力	・「自動制御」「振動工学」を修得すること。 ・「生産技術演習」「アイデア設計工学」「機械設計製図Ⅲ」「機械工学実験Ⅱ」を修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・ラプラス変換やマトリクス演算を理解し制御工学の演算に応用できること。 ・機械構造物における振動問題について理解できること。 ・生産技術における問題点と改善案についてプレゼンテーションできること。 ・自ら立案したプロジェクト計画案に基づいてものづくりができること。 ・研究を通して得られたデータの解析を行い、適切な論述による報告書の作成および口頭発表において、研究内容を正確に示すことができること。
４年		・「材料力学Ⅱ」「流れ学Ⅱ」「熱力学」「工業力学」「機械設計法」「機構学」を修得すること。 ・「センサ工学」「電子工学」「機械計算力学」を修得すること。 ・「機械設計製図Ⅱ」「知能機械演習」「機械工学実験Ⅰ」を修得すること。	・流体の連続の式、ベルヌーイの式、運動量の法則に関連する基本的な問題が解けること。 ・熱効率の定義や熱力学第１・第２法則について説明できること。 ・機械要素や構造物に作用する力やモーメントについて理解できること。 ・機械要素（ねじ、軸、軸受、歯車など）の種類を理解し、安全設計に必要な計算ができること。また、リンク機構やカム機構について説明できること。 ・機械工学実験の結果を解析し、報告書を期限までに作成できること。
３年	機械工学の基礎的な内容について理解し説明できる能力	・「材料力学Ⅰ」「流れ学Ⅰ」「機械工作法Ⅱ」「材料学Ⅱ」「電気工学」を修得すること。 ・「機械設計製図Ⅰ」「創造工学演習」「Ｃ言語応用」を修得すること。	・簡単な機械や構造物の応力や変形の解析力を習得すること。 ・流体の物性値、静力学に関連する基本的な問題が解けること。 ・溶接、切削・研削、特殊加工の各種加工法を説明できること。また、炭素鋼の状態図・熱処理・材料記号の知識を身につけること。 ・簡単な機械・器具の設計製図手法およびスケッチ製図手法を理解すること。 ・実際のハードウェアの動作を考慮したプログラミングができること。また、アイデア創出から製作品性能評価までの一連の過程を体験すること。
２年		・「機械工作法Ⅰ」「材料学Ⅰ」を修得すること。 ・「機械工作実習」「機械製図」「Ｃ言語基礎」を修得すること。	・鋳造や塑性加工などの工作法の種類や特徴を説明できること。 ・金属の結晶構造や、基本状態図を説明できること。 ・旋盤・フライス盤などの工作機械の基本的操作法を習得すること。 ・ＪＩＳ機械製図法を理解し、ボルト・ナット、豆ジャッキ、軸、歯車、Ｖベルトなどの機械要素を正しく製図できること。 ・Ｃ言語による簡単なプログラミングができること。
１年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典　平成２４年度シラバス，p.M-03）

また，学校教育法第１１５条には「高等専門学校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的にする。」との，高等専門学校に対して一般的に求められる目的が規定されており，前述した本科と専攻科における学習・教育目標，並びに各学科等の目的は，同第１１５条に適合している(資料１―１―①―８)。

資料１－１－①－８

「学校教育法第１１５条と，学習・教育目標，各学科等の目的との対応」

「深く専門の学芸を教授」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
本科の学習・教育目標において ・専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける	本科の学習・教育目標において ・技術者に必要なデザインマインドを身に付ける ・実践的能力、論理的思考能力を身に付ける ・国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける
機械工学科の目的において ・機械技術者として必要な基礎学力の育成	機械工学科の目的において ・技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成 ・創造性、実践的能力等の育成および人間力の育成
電気電子工学科の目的において ・電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成	電気電子工学科の目的において ・幅広い専門分野に適応できる応用力の育成 ・独創力およびコミュニケーション能力の育成
電子情報工学科の目的において ・基礎的な学力と能力の育成	電子情報工学科の目的において ・変化するIT社会に対応できる応用力の育成 ・実験実習や卒業研究を通した実践的能力や創造能力の育成
物質工学科の目的において ・物質工学に必要な基礎科学および幅広い専門基礎能力の育成 ・材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成	物質工学科の目的において ・実践的能力およびプレゼンテーション能力の育成
環境都市工学科の目的において ・建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成	環境都市工学科の目的において ・幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成 ・実験実習や卒業研究を通した実践的能力や創造能力の育成
専攻科における学習・教育目標において ・異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける	専攻科における学習・教育目標において ・技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける ・国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける ・実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける
生産システム工学専攻の目的において ・高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授	生産システム工学専攻の目的において ・生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書，p. 8）

（分析結果とその根拠理由）

学校教育法第１１５条に則って本校の目的を定め，その実現に向けて基本理念，教育方針，養成すべき人材像，本科(準学士課程)と専攻科課程の学習・教育目標，並びに一般科目教室・各学科・各専攻の目的を明確に，判りやすい表現で設定している。さらに，設定された学習・教育目標と開講科目との対応関係を明確にするとともに，学生自らが学習・教育目標の達成状況を確認できるシステムとなっている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

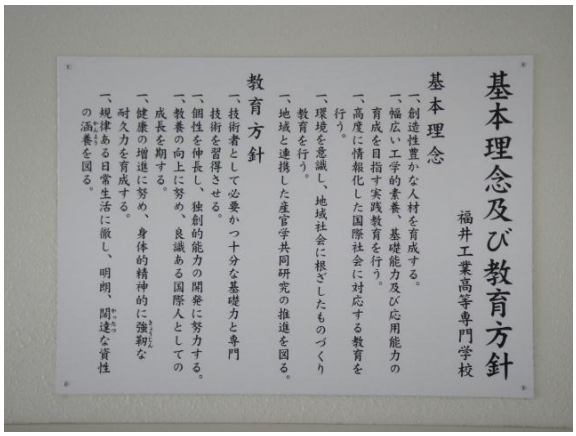
学習・教育目標は，その大項目を平成１５年１０月より全ての教室，実験室，演習室，廊下や図書館等に，また基本理念と教育方針については平成２３年４月より学生玄関，福利施設や学寮等の主だった箇所にパネル掲示(資料１―２―①―１)し，教職員及び学生に周知している。さらに，学級担任や専攻科委員より担当学生に対して基本理念，教育方針等についての説明会を実施し，各学科等の目的とともに学生便覧(資料１―２―①―２)にも掲載して周知している。本科と専攻科の新入学生に対しては上記の説明を新入生オリエンテーション時に行っている(資料１―２―①―３)。教職員に対しては学生便覧と本校ホームページ(資料１―２―②―１)を通して，非常勤講師に対しては「教育課程に関する意見交換会」時(資料１―２―①―４)に周知するとともに，新任教職員には新任教職員オリエンテーション時に説明し，周知している(資料１―２―①―５)。さらに，非常勤を含む全教員が授業等で使用する教員手帳の表紙裏にも基本理念，教育方針等を記載し，周知している。

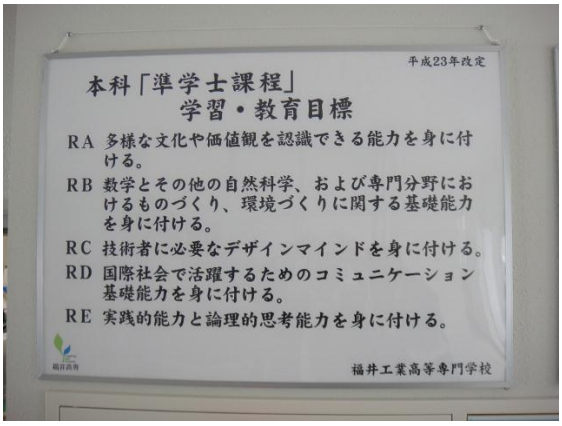
本校では，本科４，５学年(全学科)と専攻科の教育課程を融合し，「日本技術者教育認定機構(JABEE)」が認定した「環境生産システム工学」教育プログラムを実施している。これを受けて，同教育プログラムが目指すエンジニア像(専攻科の目指す人材像と同一)を，本科４，５年と専攻科１，２年の全学生と教職員にリーフレット(資料１―２―①―６)を配布するとともに，このことが記載された本科シラバス又は専攻科シラバス用いて専攻科委員やJABEE委員が学生に説明し，周知している。

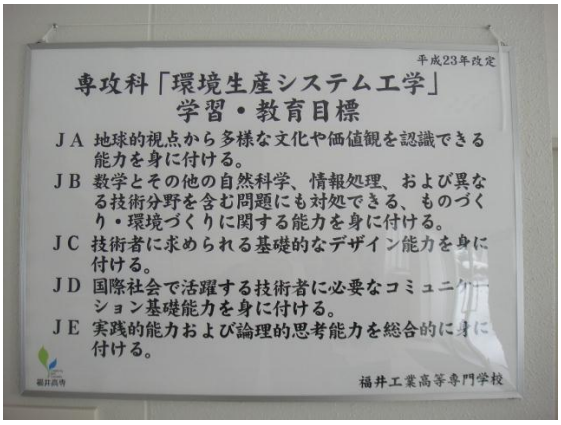
以上，本校の基本理念，教育方針，養成すべき人材像等の目的の周知箇所並びにその対象者をまとめると，(資料１―２―①―７)のようになる。

資料１―２―①―１

「基本理念，教育方針，学習・教育目標の掲示パネル」







（出典　教室，実験室，廊下等）

資料１―２―①―２

「基本理念，教育方針と養成すべき人材像」

基本理念

創造性豊かな人材を育成する

幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う

高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う

環境を意識し地域社会に根ざしたものづくり教育を行う

地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

校長　池田大祐書

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、かっ達な資性のかん養を図る

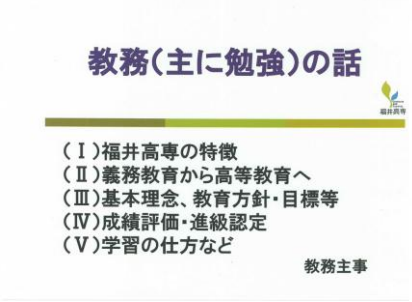
養成すべき人材像

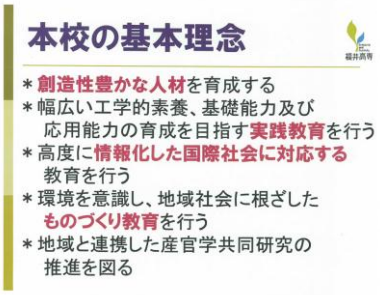
優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者

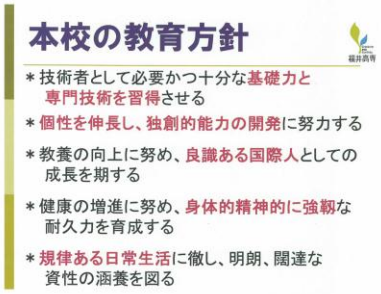
（出典　平成２４年度学生便覧）

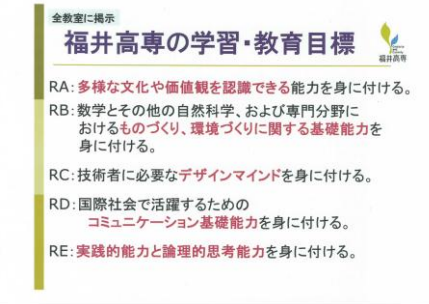
資料１―２―①―３

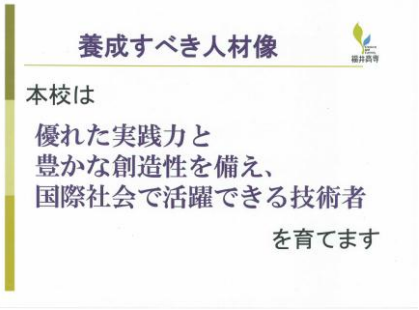
「新入生オリエンテーション時の説明資料（抜粋）」











（出典　学生課）

資料１―２―①―４

「非常勤講師との意見交換会案内」

非常勤講師との教育課程に関する意見交換会

1　日 時　　平成２４年４月１９日（木）18 時 30 分より１時間程度

2　場 所　　本校大会議室（管理棟２階）

3　次 第

（1）学校長挨拶（教務主事）　18 時 30 分

（2）教務全般に関する内容説明（教務主事）　18 時 35 分

（3）福井高専の教育改善活動について(JABEE 委員長)　18 時 50 分

（4）公開授業と成績資料の PDF 化について
（創造教育開発センター長）　19 時 10 分

（5）非常勤講師の先生方との懇談（意見交換）　19 時 15 分

（6）事務連絡（教務主事）　19 時 25 分

配付資料

1「非常勤講師の先生方のための授業の進め方のご案内」
2「平成 24 年度の教務に関する注意事項等のお願い」
3「環境生産システム工学」教育プログラム
4「平成 24 年度成績評価資料について」
5　成績資料データファイル登録マニュアル
6　基本理念，教育方針，学習・教育目標等及びアンケート

（出典　学生課）

資料１―２―①―５

「新任教職員オリエンテーション開催案内」

Subject:【再送及び対象者追加】新任教職員オリエンテーションの開催について
From: kamee_t@fukui-nct.ac.jp (福井高専人事労務係)
Date: 2012/03/30 17:50
To: uejima@fukui-nct.ac.jp (上島　晃智), fujita@fukui-nct.ac.jp (藤田　克志), tubokawa@fukui-nct.ac.jp (坪川　武弘), katanaka@fukui-nct.ac.jp (田中　嘉津彦), abe@fukui-nct.ac.jp (阿部　孝弘), kaji@fukui-nct.ac.jp (鍛治　肇), kitta@fukui-nct.ac.jp (橘田　良一)

教務主事　　殿
学生主事　　殿
寮務主事　　殿
企画室長　　殿
専攻科長　　殿
総務課長　　殿
学生課長　　殿

人事労務係です。お世話になります。

表題の件について，対象者に総務課長及び学生課長を追加し，実施することとなりました。急な変更で申し訳ありませんが，よろしくお願いいたします。

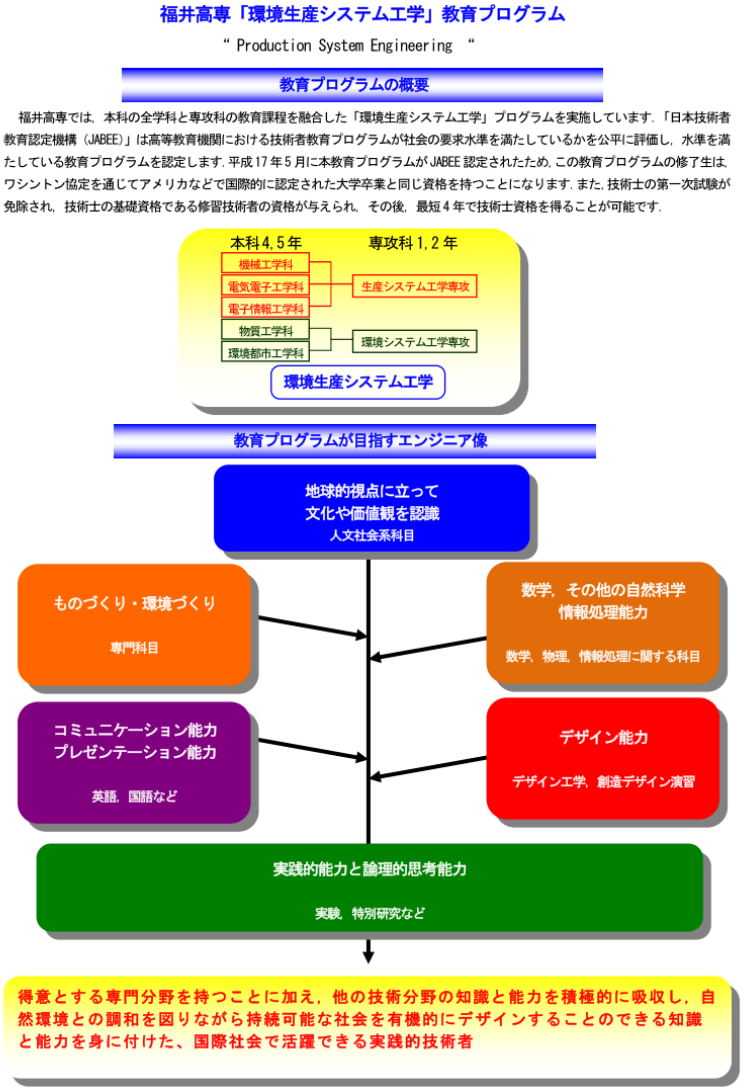
【新任教職員オリエンテーション】

１．日　　時　　平成２４年４月２日（月）１３：３０から１６：３０
２．場　　所　　小会議室１
３．対 象 者　　教員４名，事務４名，技術１名　計９名
４．説明者及び内容等
　校　　長　　１３：３０～１３：５０
　総務課補佐（総務課の所掌事務について）１３：５０～１４：１０
　学生課補佐（学生課の所掌事務について）１４：１０～１４：３０
　（　　休　　憩　　１４：３０～１４：４０）
　教務主事（教務に係る事項について）　１４：４０～１５：００
　学生主事（学生に係る事項について）　１５：００～１５：２０
　寮務主事（寮務に係る事項について）　１５：２０～１５：４０
　（　　休　　憩　　１５：４０～１５：５０）
　企画室長（企画に係る事項について）　１５：５０～１６：１０
　専攻科長（専攻科に係る事項について）１６：１０～１６：３０

（出典　総務課）

資料１―２―①―６

「「環境生産システム工学」教育プログラム」



（出典　専攻科）

資料１―２―①―７

「本校の目的の周知箇所，及びその対象者」

	基本理念	教育方針	養成すべき人材像	学習・教育目標	対　象　者
学校要覧	○	○	○	○	全教職員・外部
学生便覧	○	○	○	○	学生・全教職員
シラバス	○	○	○	○	学生・全教職員
ホームページ	○	○	○	○	学生・全教職員・外部
教室・実験室・廊下等	○	○	×	○	学生・全教職員・外部
教員手帳	○	○	○	○	全教員

平成２４年４～５月，本科・専攻科の学生と，非常勤を含む全教職員を対象に，本校の基本理念，教育方針等についての認識度アンケート(資料１―２―①―８，９)を実施した。回収率は本科学生９７．８％，専攻科学生１００％，教職員９７．３％（うち常勤者は１００％）であった。

（資料１―２―①―１０)に，各設問に対する学生からの回答を集計した結果を示した。問１：「基本理念」，問２：「教育方針」，問３：「養成すべき人材像」，そして問４：「本科の学習・教育目標」については，“よく知っている”及び “ある程度知っている”を合わせた，所謂“ポジティブ”な回答率はいずれも８割を超えているが，唯一専攻科学生の「教育方針」に対する回答率のみ本科学生に比べると低い。また本校では，JABEE 認定に伴って本科４年次から技術者教育プログラムである「環境生産システム工学」プログラムを実施しているため，このアンケートではこれに関連して，本科４年生以上の学生を対象に，問５：「専攻科の学習・教育目標」の認識度を調査した。その結果，同項目の専攻科学生のポジティブな回答率は８８％であるのに対して，本科学生のそれは７１％であり，特に本科４年生では６１％と低い値であった。４年生の数値が低い理由として，本調査の実施時期が前述した技術者教育プログラムが開始された初年度の開始時期であったことに加え，卒業後の進路意識がまだ十分に醸成されていないことが考えられる。これらの結果を踏まえ，本調査における問１～５までの設問事項に対して「あまり知らない」又は「まったく知らない」の，所謂「ネガティブ」な回答した学生に対し，６～７月に個別指導の時間を設け，学級担任又は担当専攻科委員から各項目の具体的な説明を再度行い，認識度の向上に向けた取組みを実施している。

次に，教職員からの回答の集計結果を，常勤教員(再雇用者を含む)，非常勤講師，及び技術・事務職員ごとに（資料１―２―①―１１)に示す。この中で常勤教員の問１：「基本理念」，問２：「教育方針」，問３：「養成すべき人材像」，問４：「各学科が育成する人材像及び専攻科が育成する技術者像」，問５：「本科(準学士課程)の学習・教育目標」，及び問８：「専攻科の学習・教育目標」に対するポジティブな回答率はいずれも十分に高く，周知が適切になされ理解が進んでいるといえる。また，技術・事務職員においては問１，２の回答率は常勤教員とほぼ同様であるが，問３～５及び８に対するネガティブな回答率が１０％程度ある。さらに，非常勤講師においても問３を除いて他の設問事項に対する回答率は，技術・事務職員の問８と同様に約１０％が“ネガティブ”と回答している。これらを全教職員についてまとめたものを（資料１―２―①―１２)に示す。問１～５についての“ポジティブ”な回答率はいずれも高く，ほぼ全教職員がこれらの項目を理解しているといえるが，問８についてはそれらよりも低い値になっている。このような状況を踏まえ，基準４で後述する「アドミッションポリシー」の周知を含め，“ネガティブ”に回答した教職員を対象に教務主事と専攻科長による講習会等を開き，理解度の向上に努めている。

資料１―２―①―８

「本校の基本理念等のアンケート（本科低学年）（抜粋）」

平成 24 年 5 月 14 日

１・２・３年学生 各位

教務主事

本校の基本理念、教育方針等に関するアンケート

皆さんご存知のように、本校の教育プログラム(授業)は、基本理念、教育方針等に基づいて組立てられています。したがって、これらを意識しながら授業に臨むことは、本校での学習を体系づけて理解するうえで非常に大切なことです。

そこで、これらに対する学生諸君の理解度を調査するために**記名アンケート**へのご協力をお願いいたします。

＊関心の低い学生諸君には、認識を高めもらうため、研修会等に参加をしてもらう予定です

１．本校の**基本理念**を知っていますか。
（１）よく知っている
（２）ある程度知っている
（３）あまり知らない
（４）まったく知らない

２．本校の**教育方針**を知っていますか。
（１）よく知っている
（２）ある程度知っている
（３）あまり知らない
（４）まったく知らない

３．本校の**養成すべき人材像**を知っていますか。
（１）よく知っている
（２）ある程度知っている
（３）あまり知らない
（４）まったく知らない

４．本科（準学士課程；１～５年）の**学習・教育目標**を知っていますか。
（１）よく知っている
（２）ある程度知っている
（３）あまり知らない
（４）まったく知らない

５．あなたの**自己学習時間**はどれくらいですか。
(授業時間以外の学習時間でレポート作成など校内での学習時間を含む)

平均(１日)＿＿＿＿＿時間

クラス：　　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　学生課）

資料１―２―①―９

「本校の基本理念等のアンケート（常勤教員）（抜粋）」

平成 24 年 4 月 18 日

常勤教員　各位

教務主事
専攻科長

本校の基本理念、教育方針等に関するアンケートについて

日頃より本校学生への教育にご尽力頂き感謝申し上げます。

さて、標記の件、本校の教育プログラムは、基本理念、教育方針等に基づいて作られておりますが、これらに対する皆様の理解度を調査するために記名アンケートへのご協力をお願いいたします。
以下の設問に対し、あてはまる項目に○をつけ、4 月 27 日（金）までに学生課教務係へ提出して下さるようお願いいたします。
なお、理解度の低い方には、関心を高めていただくため、研修会等を実施する予定です。

１．本校の基本理念を知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

２．本校の教育方針を知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

３．本校の養成すべき人材像を知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

４．本校の養成すべき人材像を念頭に，各学科が育成する技術者像及び専攻科が育成する技術者像（＝環境生産システム工学育プログラム（JABEE）が目指す技術者像）が定められていることを知っていますか.
（1）知っている
（2）知らない

５．本科（準学士課程；１～５年）の学習・教育目標を知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

６．本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

７．本科における推薦入学者の選抜では、各学科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。
（1）知っている
（2）知らない

８．本校専攻科の学習・教育目標(＝環境生産システム工学プログラム（JABEE）の学習・教育到達目標)を知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

９．本校専攻科のアドミッションポリシーを知っていますか。
（1）よく知っている
（2）ある程度知っている
（3）あまり知らない
（4）まったく知らない

１０．本校専攻科における入学者の選抜(推薦・学力)では、専攻科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。
（1）知っている
（2）知らない

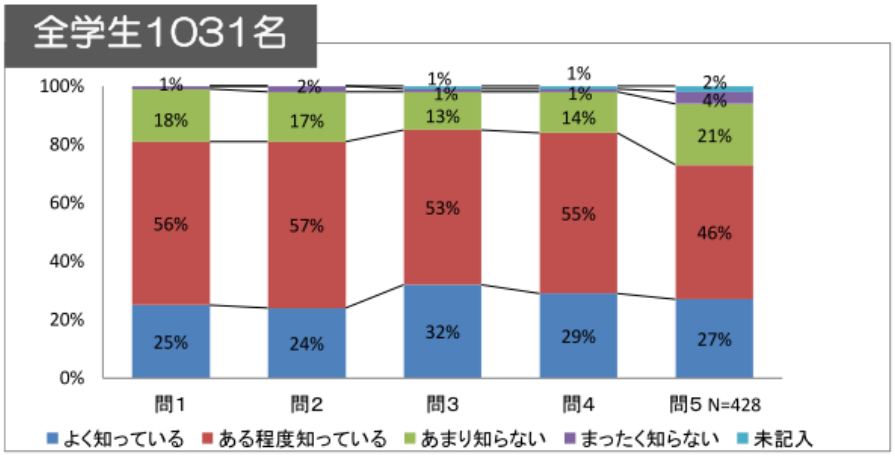
ご協力ありがとうございました。

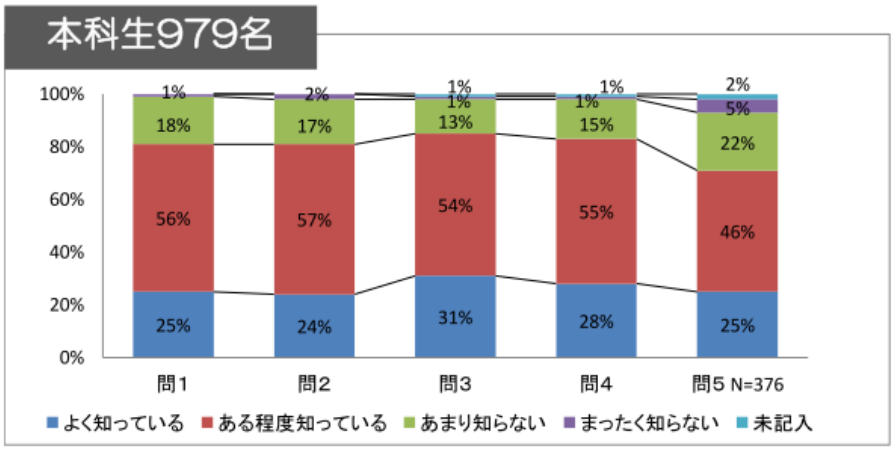
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

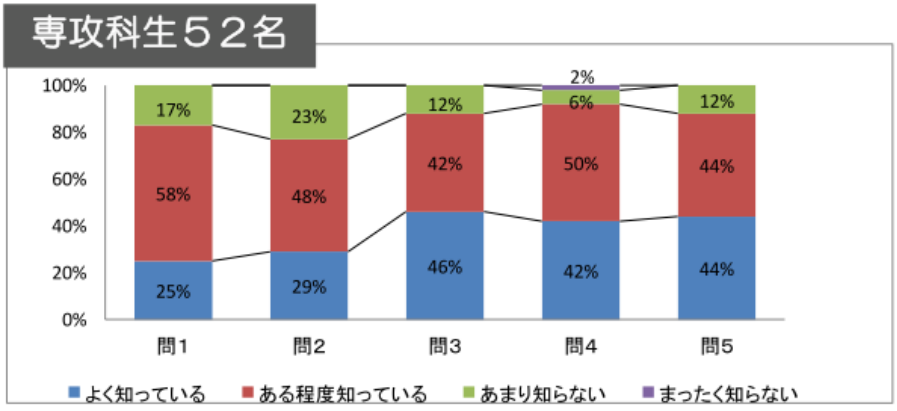
（出典　学生課）

資料１―２―①―１０

「本校の基本理念等のアンケート結果（学生，抜粋）」





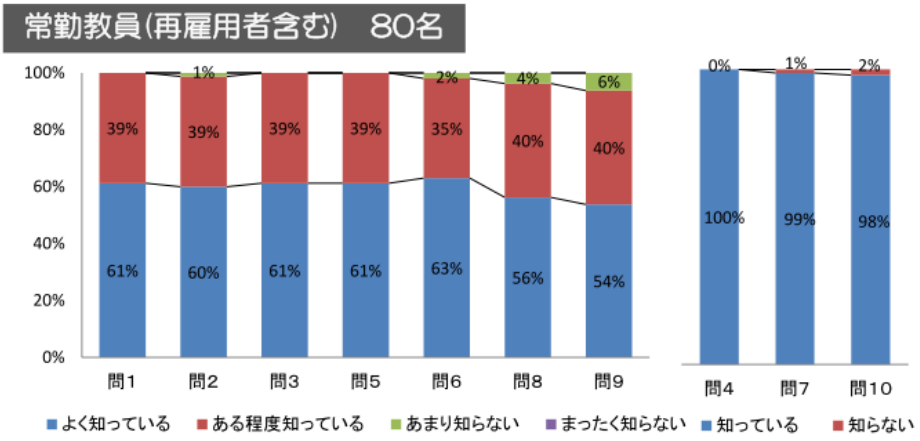


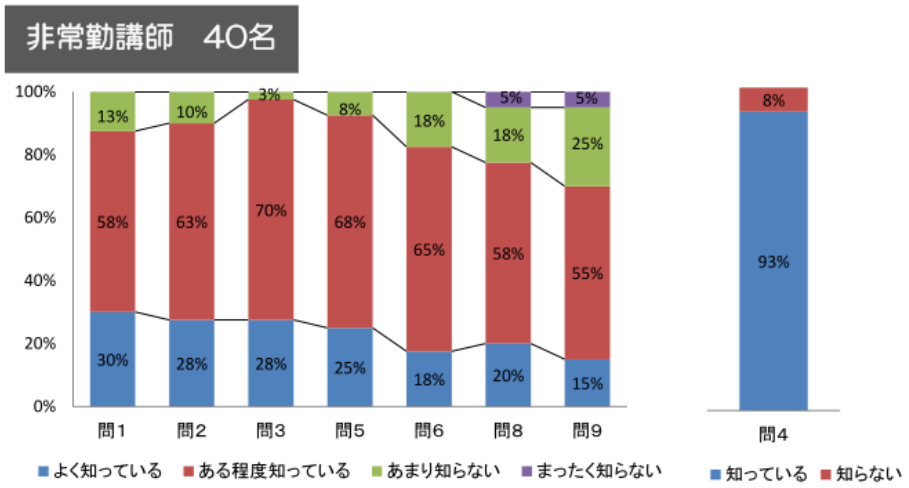
問１．本校の基本理念を知っていますか。
問２．本校の教育方針を知っていますか。
問３．本校の養成すべき人材像を知っていますか。
問４．本科（準学士課程；１～５年）の学習・教育目標を知っていますか。
問５．環境生産システム工学プログラム（JABEE）（＝本校専攻科の学習・教育目標の

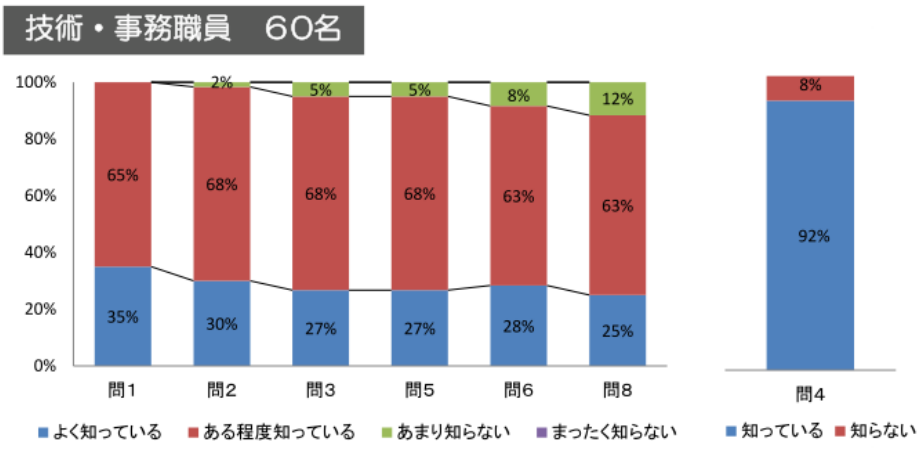
（出典　学校運営会議）

資料１―２―①―１１

「本校の基本理念等のアンケート結果（教職員，抜粋）」





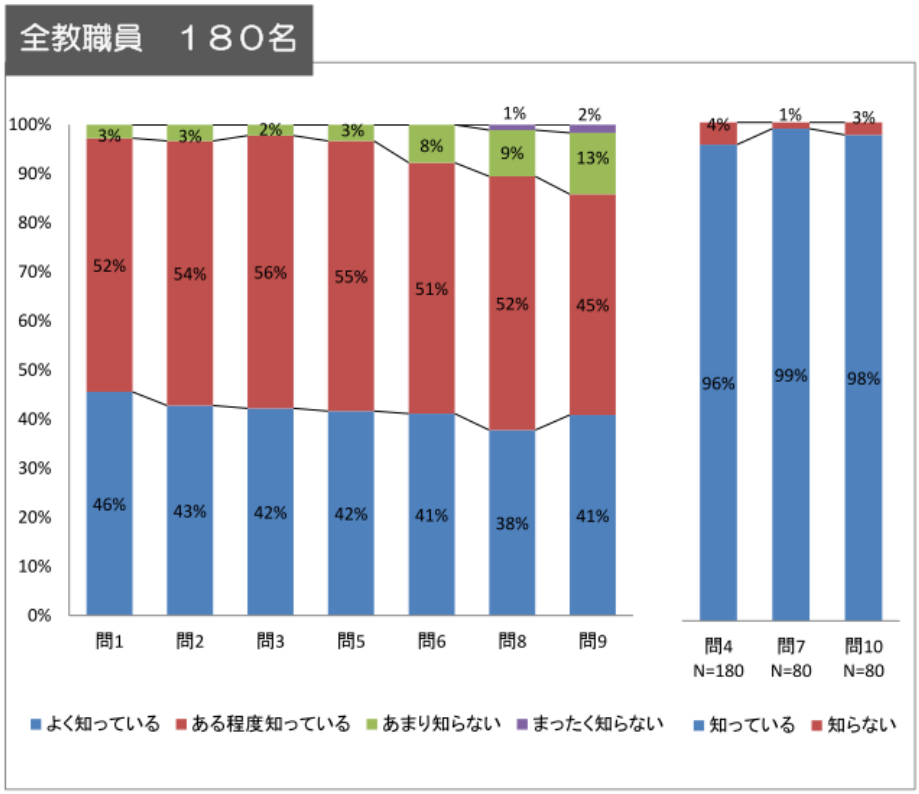


問１．本校の基本理念を知っていますか。
問２．本校の教育方針を知っていますか。
問３．本校の養成すべき人材像を知っていますか。
問４．本校の養成すべき人材像を念頭に，各学科が育成する技術者像及び専攻科が育成する技術者像（＝環境生産システム工学育プログラム（JABEE）が目指す技術者像）が定められていることを知っていますか。
問５．本科（準学士課程：１～５年）の学習・教育目標を知っていますか。
問６．本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
問７．本科における推薦入学者の選抜では、各学科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。
問８．本校専攻科の学習・教育目標(＝環境生産システム工学プログラム（JABEE）の学習・教育到達目標)を知っていますか。
問９．本校専攻科のアドミッションポリシーを知っていますか。
問１０．本校専攻科における入学者の選抜(推薦・学力)では、専攻科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。

（出典　学校運営会議）

資料１―２―①―１２

「本校の基本理念等のアンケート結果（全教職員）」



問１．本校の基本理念を知っていますか。
問２．本校の教育方針を知っていますか。
問３．本校の養成すべき人材像を知っていますか。
問４．本校の養成すべき人材像を念頭に，各学科が育成する技術者像及び専攻科が育成する技術者像（＝環境生産システム工学育プログラム（JABEE）が目指す技術者像）が定められていることを知っていますか。
問５．本科（準学士課程；１～５年）の学習・教育目標を知っていますか。
問６．本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
問７．本科における推薦入学者の選抜では、各学科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。
問８．本校専攻科の学習・教育目標(＝環境生産システム工学プログラム（JABEE）の学習・教育到達目標)を知っていますか。
問９．本校専攻科のアドミッションポリシーを知っていますか。
問１０．本校専攻科における入学者の選抜(推薦・学力)では、専攻科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。

（出典　学校運営会議）

（分析結果とその根拠理由）

基本理念，教育方針や学習・教育目標等は教室や実験室等の主要箇所にパネル掲示するほか，学生便覧や教員手帳等にも記載している。さらに，新入生や新任教職員に対してはオリエンテーション時にも説明して，周知を図っている。本年度当初に行った基本理念，教育方針等の認識度アンケートによると，基本理念，教育方針，養成すべき人材像，本科(準学士課程)の学習・教育目標等に対し“よく知っている”及び“ある程度知っている”と答えた学生の回答率はいずれも８０％を超え，また，教職員に関しては９０～９８％であった。以上のことから，本校の目的等は教職員及び学生に周知されているといえる。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の基本理念，教育方針，養成すべき人材像等の目的は，ホームページに掲載して社会にも公表している(資料１―２―②―１)。また，印刷物としては本校の目的と，一般科目教室・各学科・各専攻の目的等を記載した本校要覧(資料１―２―②―２)を用意し，就職関連企業からの求人来訪者，研究打合せ等のための来校者，インターンシップ先訪問，進路・入試説明会(資料１―２―②―３)や中学校訪問等で広く配布し，中学生と中学校関係者には目的のみならず本校のアドミッションポリシーについても詳細な説明を行っている。入試広報資料としてパンフレット「福井高専の歩き方」(資料１―２―②―４)やリーフレット「国立福井高専」(資料１―２―②―５)にも本校や学科等の目的の一部を中学生向けにわかりやすい文言で記述し，これらの入試広報資料は体験入学や進路・入試説明会等での配布とともに，福井・石川・滋賀県内の中学校(２１３校)にも送付している。この他，学生募集要項にも明記(資料１―２―②―６～８)して県内外の中学校，高等学校や全国高専等へ送付し，公表している。

資料１―２―②―１

「本校の目的のホームページへの記載」

HOME > 学校案内 > 学校紹介 > 本校の使命

本校の使命

基本理念

1. 創造性豊かな人材を育成する
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強靭(きょうじん)な耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、闊達(かったつ)な責性の涵養(かんよう)を図る

本校の養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会に活躍できる技術者

学習・教育目標（大項目）

本科（準学士課程）

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

(平成23年改定)

専攻科（環境生産システム工学プログラム 学習・教育到達目標）

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
JB 数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
JE 実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

(平成23年改正)

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/outcomes.html）

資料１―２―②―２

「本校の目的の学校要覧への記載」

基本理念
教育方針
学習・教育目標
Learning and Educational objectives

基本理念

・創造性豊かな人材を育成する
・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進につとめ、身体的精神的に強じんな耐久力を育

養成すべき人材像

・優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者

学習・教育目標

《本科(準学士課程)》

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1. 人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる。
2. 様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持てる。

RB 数学とその他の自然科学、および専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

1. 数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる。
2. 専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し、工学的現象を正しく理解できる。

Basic Philosophy

・To develop the students' creativity
・To provide a curriculum which will give the students the fundamental and advanced skills that are required for careers in engineering.
・To provide the students with skills in advanced information technology which are necessary for working in todays' international environment.
・To educate and make the students aware of environmentally friendly manufacturing. To emphasize our regions traditional and new industries in the local community.
・To promote industry-government –academic collaborations in cooperation with the local community.

Educational Policy

1. To develop the students' basic skills and expertise in their special fields which will be required for them to work in the future as engineers.
2. To develop students' personal potential and encourage their creativity.
3. To help the students develop their personal potential. Make students aware of the international environment. Develop students' common sense.
4. To improve students' health and develop their physical and mental endurance.
5. To improve students' daily lives so that they can lead happy and meaningful lives.

Desirable Human Resources to Nurture

"Engineers who are possessed of both excellent practical ability and rich originality, and can take an active role in the internationalized society"

Learning and Educational Objectives

《Regular Course》

RA : To develop the students' abilities and for them to become aware of their cultural heritage and its values.

1. With an understanding of Japanese society the students will become more aware of their language, the traditions of their country and its long and rich history.
2. The students will recognize and appreciate the regional diversity in art and culture of Japan.

RB : To develop the students' basic abilities in mathematics, the sciences, and their specific fields of specialization. Further to make the students aware of the contemporary environmental issues in scientific /technological advancements.

1. The students will understand the mathematical and scientific fundamentals necessary for a career in engineering and science.
2. The students will develop their ability to process information, and understand technological change with the knowledge and skills they have learned in their special fields.

基本理念、教育方針、学習・教育目標
Learning and Educational objectives

RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

1. 課題に対して自主的に問題を発見し、解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる。

RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

1. 英語による基礎的な対話や文章が理解でき、自分の意見を表現できる。
2. 日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき、自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できる。
3. わかりやすい図表等を作成し、それを用いて日本語により効果的な説明ができる。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

1. 実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び、理論との比較や考察などができる。
2. 課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し、データを解析・考察することにより、結果を客観的に説明できる。
3. 身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し、個人あるいはグループで課題を達成できる。

《専攻科》「環境生産システム工学」プログラム

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1. 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。
2. 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。
3. 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1. 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。
2. 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。
3. 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を横断的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

RC: To develop the students' design skills that are necessary for engineering.

1. The students will identify problems, solve problems, and develop their problem solving competence.

RD: To develop the basic communicative competence to work actively in the globalized society.

1. The students will understand basic dialogs and passages and express their own opinions about these readings.
2. The students will accurately understand and appreciate Japanese passages or literary works, and properly express their thoughts and ideas in Japanese.
3. The students will construct easy-to-understand graphs and charts and thereby give clear explanations in Japanese.

RE: To acquire practical and critical thinking skills.

1. The students will analyze data of their own experiments and research work and compare the data they acquired with theoretical hypotheses and discuss the differences critically.
2. The students will research the background of each task they are given. After the background research they will learn to select the most appropriate method to perform their experiment or orient their research. Finally, they will explain critically and objectively the results they received through data analysis.
3. The students will set appropriate goals according to their abilities and find solution to their individual or group task in order to gain knowledge and practicality in the field of health and sports.

《Advanced Engineering Course》
Production System Engineering Program accredited by JABEE

JA: To develop cultural sensitivity, respect the differences of cultural values and develop a global point of view.

1. The students will learn to appreciate the multicultural diversity of the world and develop their own inherent sensitivities and values.
2. The students will learn to understand the impact of human activities and civilization on the earth's environment with a view to building a sustainable global society.
3. The students will learn to clearly understand the social responsibility that engineers will have to acknowledge and to fully understand the code of ethics specified by engineering organizations.

JB: To develop the skills to work with all fields of technology in a project. They will do this with skills learned in mathematics, information processing and manufacturing skills. They will do all of this while constrained by the environment implications of their projects.

1. The students will have sufficient knowledge of mathematics and other sciences to solve engineering problems.
2. The students will have the sufficient knowledge of information processing necessary to help them to understand and solve engineering problems.
3. The students will become aware of the impact of their roles as engineers in society and be able to extend their academic interests besides their special field of engineering to cope with the manufacturing process, fully aware of building a sustainable society.

基本理念、教育方針、学習・教育目標
Learning and Educational goals

JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

1. 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性および経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できる。
2. 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できる。
3. 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せる。
4. 異なる分野の人を含んだグループでの協議および共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できる。

JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

1. 英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、英語により自分の意見を適切に表現できる。
2. 得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明できる。
3. 自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現できる。
4. 日本語による口頭発表や討議において、自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行える。
5. 正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる。

JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

1. 得意とする専門技術分野を含む複数の工学分野において、与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導ける。
2. 数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できる。
3. 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せる。
4. 自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できる。
5. 考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる。

JC: To acquire the basic design skills that are required of engineers.

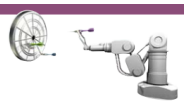
1. The students will learn about specific manufactured and industrial products already available and used which will help them design their final product. The students will also understand the function, the comparative safety, as well as the economic feasibility of these objects in their designs. Finally, the students will understand the environmental impact of using these products.
2. The students will understand the problems which will arise as they develop new products. They will learn to distinguish between new phenomena from old phenomena as they do their research and development. From the results the students will note the differences in their research data and results.
3. The students will be able to discuss problems creatively from various viewpoints and to coherently present the results.
4. The students will be able to discover a number of potential solutions through cooperative group discussions among members of different specialties and to choose the most appropriate solutions.

JD: To acquire the basic communicative competence required for engineers who are active in the international community.

1. The students will be able to understand general topics in daily life and express themselves competently in English.
2. The students will be able to explain in Japanese the contents of English papers in their fields of specialty.
3. The students will be able to express their own ideas and viewpoints in discourse and writing in Japanese, using clear and descriptive expressions.
4. The students will be able to make oral presentations or attend discussions in Japanese, and to respond to questions from the audience appropriately.
5. The students will be able to construct easy-to-understand graphs and figures.

JE: To acquire the practical skills needed in an engineering environment and the critical thinking skills required in professional environments.

1. The students will learn to understand the possible technological significance of their experiments. They will learn to work within the time constraints that are part of a working in a corporate environment. To do this they will learn to develop appropriate methodology and planning; finally implementing their plan and method.
2. The students will develop statistical methods and data analyses to analyze their experiments and simulations.
3. The students will become aware of practical technological problems that engineers experience and to become able to present them concretely.
4. The students will learn to make specific, detailed plans to achieve their research goals.
5. The students will learn to discuss their views in professional discussions coherently. Further they will learn to recommend solutions from their experimental and analytical results.



アドミッションポリシー
（入学者受入方針）
Admissions Policy

本校は、入学者として次のような人を広く求めます。
Fukui National College of Technology seeks the students with the following attributes.

学校としてのアドミッションポリシー
All departments commonly seek those students who:

1. ものづくり、環境づくりに興味がある人
2. 基礎学力が備わっている人
3. 新しい目標にいつもチャレンジする人
4. 国際社会で活躍したいと思っている人
5. 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

Are interested in manufacturing of products and the environment;
Have fundamental competence;
Are eager to tackle new object;
Are eager to play active roles in the international community;
Want to acquire the ability to find challenge and their solutions on their own.

各学科のアドミッションポリシー
Admissions Policy of each department

機械工学科のアドミッションポリシー
1. 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人
2. サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人
3. 機会を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

Department of Mechanical Engineering seeks those who:
(1) Are interested in mechanical systems such as cars, airplanes, and robots, and also interested in research fields such as environmental, welfare, and space engineering.
(2) Want to contribute to human society by studying science and showing their creativity for manufacturing of products.
(3) Want to learn technical knowledge of various research fields such as materials needed for producing machines, energy for working them, and information for controlling them.

電気電子工学科のアドミッションポリシー
1. ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
2. 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
3. 燃える自動車や大規模発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

Department of Electrical and Electronic Engineering seeks those who:
Want to learn the electronic and programming technologies related to a robot control, system design, computer use, and so on;
Want to learn the electric circuit and information and communication technologies which are used for an information household appliance, optical communication, and so on;
Want to learn an eco-friendly clean energy technologies which are used for battery car and photovoltaic power generation, and moreover, wants to learn new material technologies.

電子情報工学科のアドミッションポリシー
1. コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
2. ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
3. 未来の！？機器の開発をやってみたい人

Department of Electronics and Information Engineering seeks those who:
Are interested in mechanism and programming of computer;
Wish to apply computer network and/or to make computer program controlling intelligent robot;
Have the dream to develop epoch-making IT equipment.

物質工学科のアドミッションポリシー
1. 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
2. 地球に優しいものづくりをしたい人
3. バイオの技術で社会に貢献したい人

Department of Chemistry and Biology seeks those who:
Want to step in respect of the first step to chemistry and biology;
Want to do chemical manufacture from the global viewpoint;
Want to contribute to the society in biotechnology.

環境都市工学科のアドミッションポリシー
1. 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
2. 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人

Department of Civil Engineering seeks those who:
Are interested in building ecological communities for coexistence with natural lives;
Are interested in developing sustainable facilities, areas and cities full of safety and amenity;
Are interested in designing engineering systems to prevent hazards and disasters.

専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。
The Advanced Engineering Course seeks the following students who are qualified to be and eager to be:

1. 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
2. 何事にも自主的・積極的に臨む姿勢を持つ人
3. ものづくり・環境づくりに意欲のある人
4. 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
5. 国際社会で活躍できる実践的技術者を目指す人
6. 学士工学の学位を取得したい人

Those who are well trained in their specialized field of engineering（including fundamental knowledge of mathematics);
Those who have vigorous learning will and act on themselves;
Those who show keen interest in manufacturing products and creating environments;
Those who understand a wide variety of systems and desire to acquire creative designing ability;
Those who aim to be a practical engineer acting internationally;
Those who aim to obtain a bachelor's degree in engineering.

（出典　国立福井高専要覧２０１２，p.1～4）

資料１―２―②―３

「入試説明会概要と過去５年間の参加者数」

⑧　入試説明会（１０～１１月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科長・一般科目主任・教務主事補によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県１０会場（１１回）、滋賀県６会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（２回）と高専会場（２回）以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去５年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で６６名、合計で１２８名増加していた。福井新聞に９月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して２９名増加している。今年は福井県の中学３年生の人数が約３００名減少したが、参加生徒数は幸いにも増加し、過去８年間では最多の人数となり、オープンキャンパスの参加者増に対応していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年から６校増えて１７校から参加依頼があり、副校長が１０回、教務主事補が７回出席し入試に関する話を行った。なお、昨年までは丹南地区の中学校からの依頼が主であったが、今年度は滋賀県からの依頼が４校と増加し、大野や若狭地区からの依頼もあった。なお、２月には、中学校２年生に対する本校紹介の依頼が１件あり、教務主事補が参加した。

＜過去５年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（９月集計）の推移＞

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
23年度	258	272	61	591	291
22年度	351	337	61	749	312
21年度	285	256	80	621	283
20年度	268	223	65	556	254
19年度	329	297	78	704	278

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書，p.64～65）

資料１―２―②―３

「福井高専の歩き方」

（出典　学生課）

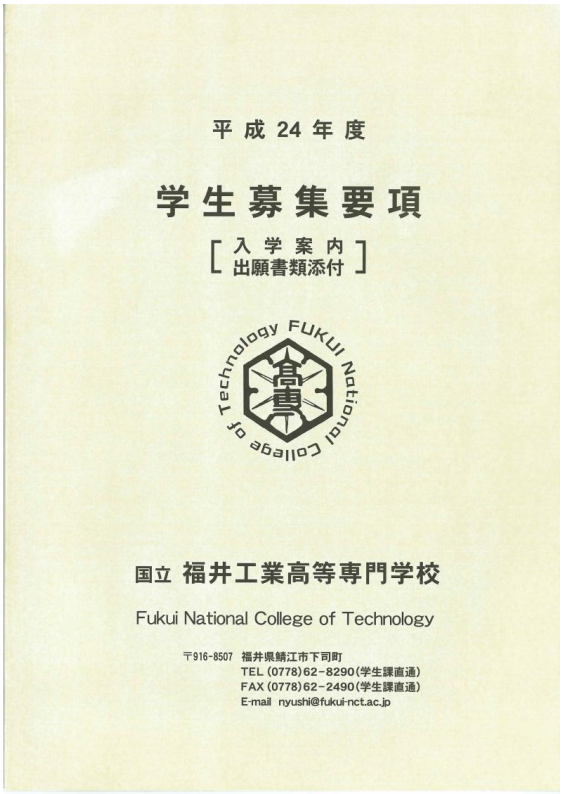
資料１―２―②―４

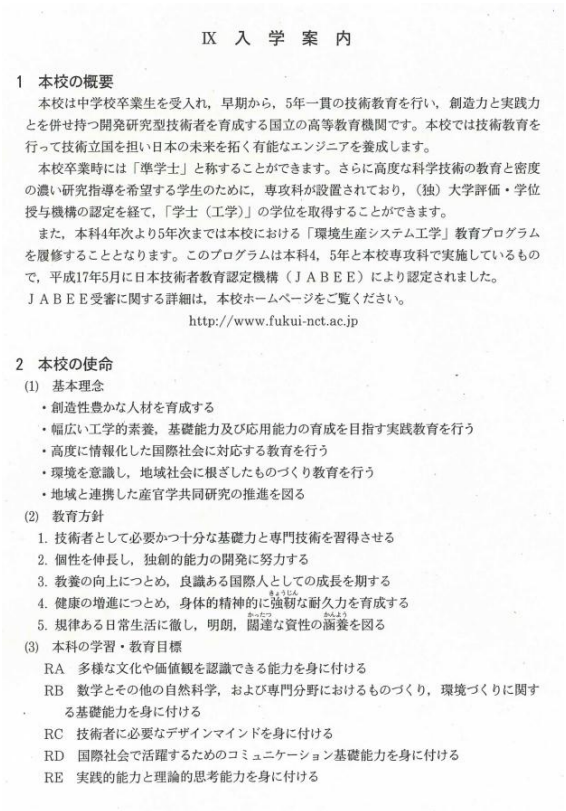
「リーフレット「国立福井高専」」

（出典　学生課）

資料１―２―②―５

「平成２４年度学生募集要項」





Ⅸ 入 学 案 内

1 本校の概要

本校は中学校卒業生を受入れ，早期から，5年一貫の技術教育を行い，創造力と実践力とを併せ持つ開発研究型技術者を育成する国立の高等教育機関です。本校では技術教育を行って技術立国を担い日本の未来を拓く有能なエンジニアを養成します。

本校卒業時には「準学士」と称することができます。さらに高度な科学技術の教育と密度の濃い研究指導を希望する学生のために，専攻科が設置されており，（独）大学評価・学位授与機構の認定を経て，「学士（工学）」の学位を取得することができます。

また，本科4年次より5年次までは本校における「環境生産システム工学」教育プログラムを履修することとなります。このプログラムは本科4，5年と本校専攻科で実施しているもので，平成17年5月に日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）により認定されました。

ＪＡＢＥＥ受審に関する詳細は，本校ホームページをご覧ください。

http://www.fukui-nct.ac.jp

2 本校の使命

(1) 基本理念

・創造性豊かな人材を育成する
・幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

(2) 教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上につとめ，良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進につとめ，身体的精神的に強靭な耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し，明朗，闊達な資性の涵養を図る

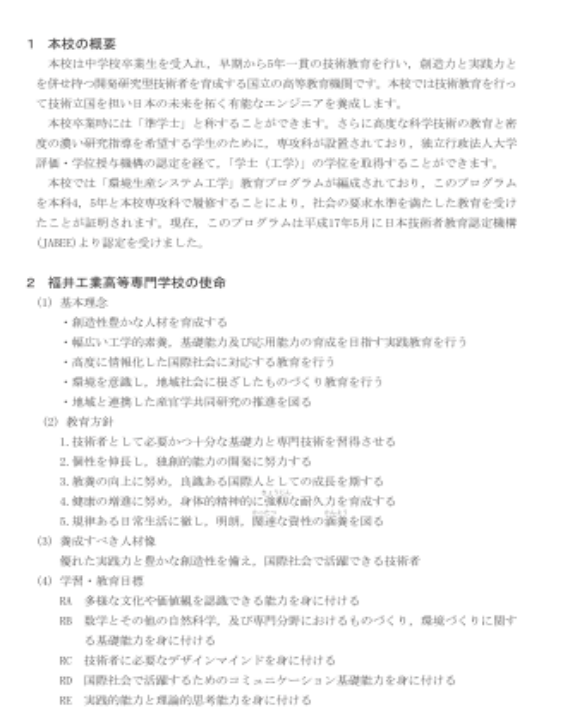
(3) 本科の学習・教育目標

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける
RB 数学とその他の自然科学，および専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける
RE 実践的能力と理論的思考能力を身に付ける

（出典　平成２４年度学生募集要項，p. 12）

資料１―２―②―６

「平成２５年度編入学生募集要項」



入 学 案 内

1 本校の概要

本校は中学校卒業生を受入れ，早期から5年一貫の技術教育を行い，創造力と実践力とを併せ持つ開発研究型技術者を育成する国立の高等教育機関です。本校では技術教育を行って技術立国を担い日本の未来を拓く有能なエンジニアを養成します。

本校卒業時には「準学士」と称することができます。さらに高度な科学技術の教育と密度の濃い研究指導を希望する学生のために，専攻科が設置されており，独立行政法人大学評価・学位授与機構の認定を経て，「学士（工学）」の学位を取得することができます。

本校では「環境生産システム工学」教育プログラムが編成されており，このプログラムを本科4，5年と本校専攻科で履修することにより，社会の要求水準を満たした教育を受けたことが証明されます。現在，このプログラムは平成17年5月に日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定を受けました。

2 福井工業高等専門学校の使命

(1) 基本理念

・創造性豊かな人材を育成する
・幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

(2) 教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上に努め，良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進に努め，身体的精神的に強靭な耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し，明朗，闊達な資性の涵養を図る

(3) 養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え，国際社会で活躍できる技術者

(4) 学習・教育目標

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける
RB 数学とその他の自然科学，及び専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける
RE 実践的能力と理論的思考能力を身に付ける

（出典　平成２５年度編入学生募集要項，p. 7）

資料１―２―②―７

「平成２５年度専攻科学生募集要項」

平成25年度

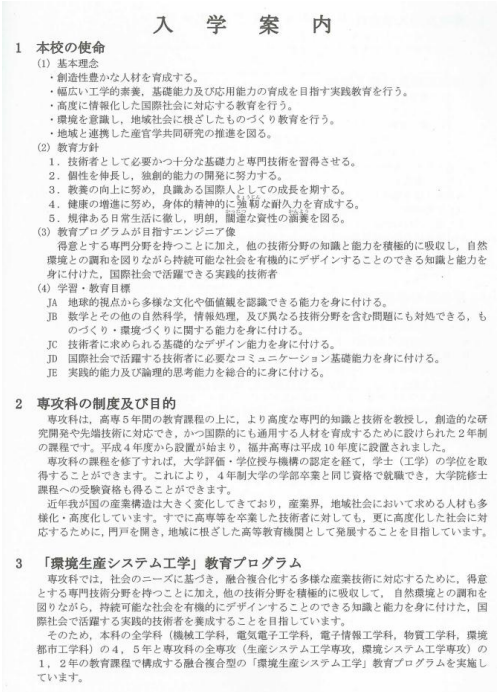
専攻科学生募集要項

［入学案内 出願書類添付］

国立 福井工業高等専門学校

Fukui National College of Technology

〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL (0778) 62-8290 (学生課直通)
FAX (0778) 62-2490 (学生課直通)
E-mail nyushi@fukui-nct.ac.jp



入　学　案　内

1　本校の使命

(1) 基本理念
・創造性豊かな人材を育成する。
・幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

(2) 教育方針
1．技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
2．個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する。
3．教養の向上に努め，良識ある国際人としての成長を期する。
4．健康の増進に努め，身体的精神的に強靭な耐久力を育成する。
5．規律ある日常生活に徹し，明朗，闊達な資性の涵養を図る。

(3) 教育プログラムが目指すエンジニア像
得意とする専門分野を持つことに加え，他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し，自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた，国際社会で活躍できる実践的技術者

(4) 学習・教育目標
JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
JB　数学とその他の自然科学，情報処理，及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる，ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
JD　国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
JE　実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

2　専攻科の制度及び目的

専攻科は，高専５年間の教育課程の上に，より高度な専門的知識と技術を教授し，創造的な研究開発や先端技術に対応でき，かつ国際的にも通用する人材を育成するために設けられた２年制の課程です。平成４年度から設置が始まり，福井高専は平成10年度に設置されました。

専攻科の課程を修了すれば，大学評価・学位授与機構の認定を経て，学士（工学）の学位を取得することができます。これにより，４年制大学の学部卒業と同じ資格で就職でき，大学院修士課程への受験資格も得ることができます。

近年我が国の産業構造は大きく変化してきており，産業界，地域社会において求める人材も多様化・高度化しています。すでに高専等を卒業した技術者に対しても，更に高度化した社会に対応するために，門戸を開き，地域に根ざした高等教育機関として発展することを目指しています。

3　「環境生産システム工学」教育プログラム

専攻科では，社会のニーズに基づき，融合複合化する多様な産業技術に対応するために，得意とする専門技術分野を持つことに加え，他の技術分野を積極的に吸収して，自然環境との調和を図りながら，持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた，国際社会で活躍する実践的技術者を養成することを目指しています。

そのため，本科の全学科（機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科）の４，５年と専攻科の全専攻（生産システム工学専攻，環境システム工学専攻）の１，２年の教育課程で構成する融合複合型の「環境生産システム工学」教育プログラムを実施しています。

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項，p. 17）

（分析結果とその根拠理由）

本校ホームページに基本理念，教育方針，養成すべき人材像等の目的を広く社会にも公開している。印刷物である本校要覧や学生募集要項等にもそれらを明記し，県内外中学校等への送付のみならず，進路・入試説明会，中学校訪問時に持参しての説明や，就職関連企業者が求人のために来校した際にも配布し，広く公表している。また，入試広報資料であるパンフレット・リーフレットにも各学科の目的等を記載し，進路・入試説明会や体験入学時に配布するなどを通して，本校の目的は広く社会に対して公表されていると判断する。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の基本理念，教育方針，養成すべき人材像，一般科目教室・各学科・各専攻の目的は規則に明確に定められ，アドミッションポリシーとともに本校ホームページ，学校要覧や学生募集要項に掲載し，広く社会にも公表されている。また本校学生には，設定された学習・教育目標と開講科目との対応が容易に理解でき，学習への動機付けを行えるように学習達成度評価シートを用意し，学生自らが定期的に学習・教育目標の達成度を確認するシステムを構築している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校は，学則第１条においてその目的を明確に定め，これを核にして基本理念，教育方針，養成すべき人材像，学習・教育目標や，一般科目教室・各学科・各専攻の目的を設定している。基本理念，教育方針そして養成すべき人材像に基づいて設定された学習・教育目標や各学科等の目的は，学校教育法第１１５条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に則ったものになっている。本科と専攻科における学習・教育目標はいずれも５つの大項目から成り，各大項目は判りやすくするために小項目に細分化・具体化されている。本校では，学習・教育目標毎に各学科等での開講科目を配置した学習達成度評価シートを用意しており，学生自らがそれにチェックすることで目標の達成度状況を確認し，能動的に学習に取組むことができるシステムになっている。さらに，シラバスには一般科目教室と各学科における「目指す能力」，「達成目標」そして「到達目標例」を記載し，学年毎の目標を明確に設け，学生の学習に対する動機付けを行っている。

本校における基本理念，教育方針等の目的の教職員及び学生への周知は，それらが記載されたパネルを教室，実験室，演習室，廊下や図書館等の主要箇所に掲示して行っている。この他，学生に対しては，学級担任や専攻科委員より担当クラス毎に基本理念，教育方針等についての説明会を実施し，各学科等の目的とともに学生便覧にも掲載して周知するとともに，新入生オリエンテーション時にも説明を行っている。教職員に対しては，学生便覧，本校ホームページや新任教職員オリエンテーションを通して，また非常勤講師に対しては「教育課程に関する意見交換会」時に周知している。平成２４年４～５月にかけて実施した基本理念，教育方針等の認識度アンケートの調査結果によれば，基本理念，教育方針，養成すべき人材像，本科(準学士課程)の学習・教育目標の，“よく知っている”及び“ある程度知っている”の学生と教職員の回答率はいずれも８０％以上であったことから，本校の目的は教職員と学生に周知されているといえる。

社会に対しては，基本理念，教育方針等の目的のほか，一般科目教室・各学科・各専攻の目的等もホームページ，本校要覧や学生募集要項等に記載し，公表している。学校要覧は，就職関連企業からの求人来訪者，研究打合せ等の来校者，インターンシップ先訪問，進路・入試説明会や中学校訪問等でも広く配布し，中学生や中学校関係者には目的とあわせて本校のアドミッションポリシーについても詳細な説明を行っている。さらに，中学生に対しては，本校や学科等の目的の一部を中学生向けにわかりやすい文言で記述した入試広報資料を用意して，体験入学や進路・入試説明会等において配布し，募集要項とともに福井・石川・滋賀県内の中学校にも送付している。このように，本校の目的は広く社会に対しても公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，工学の基礎である機械・電気・化学の各専門分野に立脚した「機械工学科，電気工学科，工業化学科」の３学科で昭和４０年度に発足した。この内，工業化学については福井県が繊維及び染色関係の企業が多いことを受けての設置である。

また，福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であるとともに，土木技術者不足に対応するため，昭和４５年度には「土木工学科」が，また昭和６３年度には情報社会の到来を受けて，ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が増設された。

その後，平成５年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として，また，平成７年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し，“材料工学コース”と“生物工学コース”の二コース制とした。さらに平成１７年度には，電気工学科卒業者にも，近年の進展する電子技術を基礎より教育する必要があるため，電気工学科を「電気電子工学科」と改称した。

したがって，現在の学科構成は本校の基本理念(資料２―１―①―１)に掲げた環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行うため「機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科」の５学科から成り，その編成は高等専門学校設置基準の規定に適合している(資料２―１―①―２)。そして，本校の学科構成は福井県の主幹産業である繊維工業，化学工業，眼鏡枠工業，電子電気工業，環境土木産業に基づいたものであり，これらの産業においては繊維工業，眼鏡枠工業などに代表されるようにデザイン技術が重要となるものが多い。

各学科は，本校の養成すべき人材像(資料２―１―①―３)に基づき，「基礎的知識と技術を身に付け，論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する」を共通のキーワードとして教育目的を定め(資料２―１―①―４)，ものづくり，環境づくりに関する基礎能力と，デザインマインドの育成を行っている。また一般科目では，専門の基礎科目である数学や物理並びに人文系科目等を履修し，専門課程での学習に十分に教育効果をあげることができるようになっている。

資料２―１―①―１

「福井工業高等専門学校の基本理念等に関する規則」

第１章　基本理念

第１条　本校の基本理念は、次のとおりとする。

(1)　創造性豊かな人材を育成する。

(2)　幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。

(3)　高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。

(4)　環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。

(5)　地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

（出典　本校規則集）

資料２―１―①―２

「学則（学科と学級編成）（抜粋）」

第３章　学科，学級，入学定員及び職員組織

第７条　学科，学級及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学　級　数	入　学　定　員
機 械 工 学 科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
電子情報工学科	1	40人
物 質 工 学 科	1	40人
環境都市工学科	1	40人

（出典　本校規則集）

資料２―１―①―３

「養成すべき人材像」

養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者

（出典　平成２４年度学生便覧）

資料２―１―①―４

「福井工業高等専門学校の基本理念等に関する規則（各学科等の教育目的）」

第５条　本校の一般科目教室及び各学科の人材の育成に関する目的その他の教育上の目的（以下「目的」という。）は、次のとおりとする。

(1)　一般科目教室は、高度な技術教育の基盤となる学力を身に付け、豊かな教養と知性を持つ社会人を育成する。

(2)　機械工学科は、機械システムの開発・設計・生産の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(3)　電気電子工学科は、通信・エレクトロニクス、情報・制御、光・電子デバイス、エネルギー等の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(4)　電子情報工学科は、情報化社会の基盤となるソフトウェア、コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(5)　物質工学科は、材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

(6)　環境都市工学科は、社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

本校が位置する地域社会の産業が繊維工業，化学工業，眼鏡枠工業，電子電気工業，環境土木産業等であることに立脚した学科構成であり，またその構成は高等専門学校設置基準の規定にも適合している。さらに，各学科の教育目的は本校の養成すべき人材像を基軸にして，適切に設定されている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導すること」を目的に設置され，本科に積み上げ型の，「生産システム工学専攻」と「環境システム工学専攻」の２専攻から構成されている(資料２―１―②―１)。「生産システム工学専攻」は機械工学科・電気電子工学科・電子情報工学科を，また「環境システム工学専攻」は物質工学科・環境都市工学科を，それぞれ基盤としている(資料２―１―②―２)。本校の基本理念や教育方針等を基軸にして，専攻科の学習・教育目標を(資料２―１―②―３)のように設定している。これらの２専攻では，専攻科カリキュラムに本校本科４，５年のカリキュラムを加えた内容で「環境生産システム工学」教育プログラムを実施しており，同教育プログラムは日本技術者認定機構(JABEE)から，社会の要求水準を満たした融合複合分野の技術者教育プログラムであるとの認定を受けている(資料２―１―②―４)。そして，専攻科が目指すエンジニア像は，本校の養成すべき人材像を受けて「得意とする専門分野を持つことに加え，他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し，自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた，国際社会で活躍できる実践的技術者」となっている(資料２―１―②―５)。

資料２―１―②―１

「専攻科の規則」

第６章　専攻科

第２９条　本校に，専攻科を置く。

第３０条　専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

第３１条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入　学　定　員
生産システム工学専攻	12人
環境システム工学専政	8人

第３２条　専攻科に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等専門学校を卒業した者

(2)　短期大学を卒業した者

(3)　専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者

(4)　外国において，学校教育における14年の課程を修了した者
(5)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
(6)　我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
(7)　その他専攻科において，高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第３３条　校長は，専攻科の入学志願者について，別に定めるところにより選考の上，入学を許可する。

第３４条　専攻科の修業年限は，2年とする。ただし，4年を超えて在学することはできない。

第３５条　専攻科学生の休学期間は，1年以内とする。ただし，特別の理由がある場合は，1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

２　休学期間は，通算して2年を超えることができない。

３　休学期間は，前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

第３６条　専攻科の授業科目及び単位数等は，一般科目及び専門共通科目にあっては別表第５，専門展開科目にあっては別表第６のとおりとする。

２　履修方法については，別に定めるところによる。

第３７条　専攻科に2年以上在学し，次の要件を全て満たした者について修了を認定する。

(1)　所定の授業科目を履修し，62単位以上を修得した者
(2)　本校が定める「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件を満たした者

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３　第1項第1号に規定する単位の修得及び第1項第2号に規定する「環境生産システム工学」教育プログラムについては，別に定める。

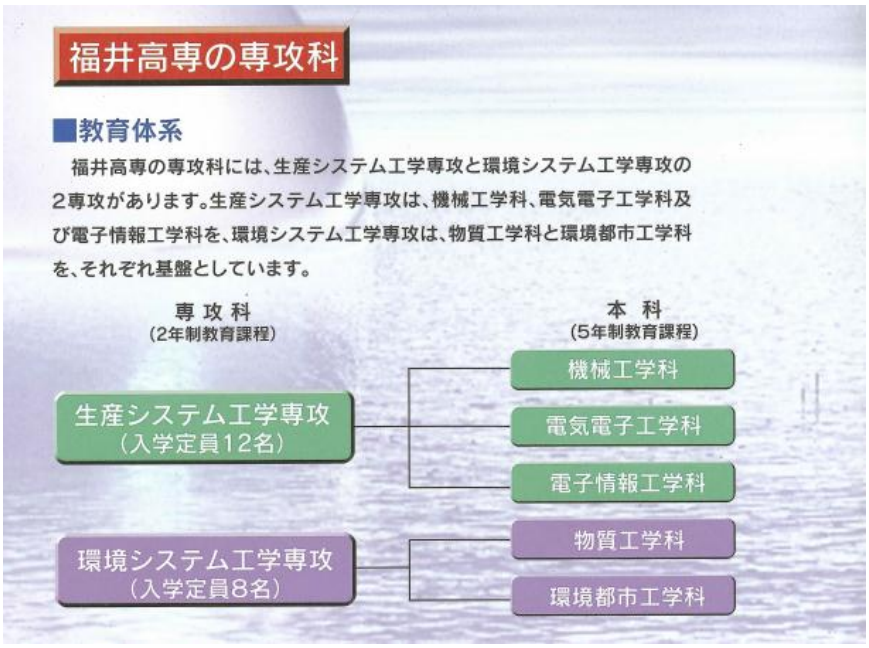
第３８条　専攻科学生については，第３条から第６条まで，第12条，第15条の３，第19条，第21条，第23条から第26条まで，第27条第１号，第２号，第４号及び第５号の規定を準用する。この場合において，第15条の３第２項中「30単位」とあるのは「大学における学修16単位」と，第26条の２中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」及び「30単位」とあるのは「16単位」と，第27条第４号中「第22条」とあるのは「第35条」と読み替えるものとする。

第３９条　本章に定めるもののほか，専攻科に関する必要事項は，別に定める。

（出典　本校規則集）

資料２―１―②―２

「専攻科の構成」



（出典　専攻科パンフレット）

資料２―１―②―３

「専攻科の学習・教育目標」

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1　異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。

2　持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。

3　技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1　工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。

2　工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。

3　得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

1 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性及び経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できる。

2 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できる。

3 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せる。

4 異なる分野の人を含んだグループでの協議及び共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できる。

JD　国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

1 英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、 英語により自分の意見を適切に表現できる。

2 得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明できる。

3 自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現できる。

4 日本語による口頭発表や討議において、 自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行える。

5 正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる。

JE　実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

1 得意とする専門技術分野を含む複数の工学分野において、与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導ける。

2 数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できる。

3 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せる。

4 自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できる。

5 考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる。

（出典　平成２４年度学生便覧）

資料２―１―②―４

「JABEE 認定証」

認　定　証

福井工業高等専門学校専攻科

プログラム名：環境生産システム工学

工学（融合複合・新領域）関連分野

Quality Assurance by JABEE Since 1999

頭書の技術者教育プログラムは審査の結果JABEE認定基準に適合していることを認定します

認定開始年度：2004 年度

（次回審査時期およびその内容については審査結果報告書に記載）

2005 年 5 月 12 日

日本技術者教育認定機構

会長　吉川　弘之

（出典　総務課）

資料２―１―②―５

「専攻科の目指すエンジニア像」

本校専攻科の目指すエンジニア像

得意とする専門分野を持つことに加え、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~kyomu/senkou/info.html）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科課程の２専攻は，本校5学科の教育成果を基礎の上に構成されており，本校の養成すべき人材像に基づいたエンジニア像を掲げて学習・教育目標を設け，２年間の学習を通して研究を行うことのできる技術者を育成している。専攻科での教育プログラムは，得意とする技術専門分野の知識と能力を深めるとともに，異なる技術専門分野に関する知識と能力も育成することができる融合複合化されたものであり，現在の多様な社会状況を反映したものになっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目的を達成するための全学的なセンターとして，総合情報処理センター，地域連携テクノセンター及び教育研究支援センターを設け，各センター長には教員を任命して運営している。

総合情報処理センターは，本校における情報処理の高度化や，教育研究の支援等を主な目的としている(資料２―１―③―１)。現在，同センターには４つの演習室(保有パソコン台数は１５１台)があり，学生の情報リテラシー教育，情報処理教育を担当するほか，多くの実験実習等の科目でも利用されている(資料２―１―③―２)。放課後等の空き時間は，学生の自学自習場所としても提供している。さらに，学生の資格取得や地域貢献としての公開講座等にも利用されている(資料２―１―③―３)。

資料２―１―③―１

「総合情報処理センター規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校総合情報処理センター規則

福井工業高等専門学校総合情報処理センター規則（平成元年6月1日規則第3号）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校内部組織規則（昭和54年規則第2号）第17条第2項の規定に基づき、総合情報処理センター（以下「センター」という。）の組織及びセンター長に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（目的）

第２条　センターに、電子計算機システムの利用を円滑にすることをもって、本校における教育、研究及び事務に関する情報処理の高度化を図るとともに、教育及び研究を支援し、情報ネットワークの整備、学術情報サービス、その他の業務の情報処理を効率的に行うことにより、本校の発展に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　センターの維持管理に関すること。

(2)　教育研究用電子計算機の円滑な利用を積極的に支援すること。

(3)　キャンパス情報ネットワークに関すること。

(4)　情報化に係るシステム等の開発及び運用を支援すること。

(5)　その他センターに関し必要なこと。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

資料２―１―③―２

「総合情報処理センター演習室の時間割」

口演習室の時間割

平成24年度【前期】

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3E 情報処理Ⅱ		5EJ 電子情報工学実験Ⅳ	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				
	3	1ALL ものづくり科学			5B 構造デザイン
	4				
	5		5M 機械工学実験Ⅱ	3C 情報処理演習	4B 環境都市工学設計製図Ⅳ
	6	3M C言語応用			
	7			使用可能	使用可能
	8	使用可能	使用可能		
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
火	1	4EJ 電子情報工学実験Ⅲ	使用可能	2E 情報処理Ⅰ	4M 知能機械演習
	2				
	3			5B 水文学	
	4				
	5	5E 現代制御工学	3M 創造工学演習	4C 情報科学	3B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6				
	7	1F4 コンピュータ科学入門		1F3 コンピュータ科学入門	5B 数値解析
	8		使用可能		
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
水	1	使用可能	使用可能	3EJ 数値解析	5B 環境保全工学
	2				
	3	2C プログラミング基礎		5E 制御工学	4B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	4				
	5	1ALL ものづくり科学		3EJ プログラミング応用	1ALL ものづくり科学
	6				
	7	使用可能		使用可能	使用可能
	8				
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
木	1	3EJ 電子情報工学実験Ⅱ	2M 機械工作実習	2EJ プログラミング基礎	使用可能
	2				
	3			4EJ 情報構造論	3B 環境都市工学実験実習Ⅱ
	4				
	5	使用可能	使用可能	4B 環境都市工学実験実習Ⅲ	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6	1F2 コンピュータ科学入門			
	7				使用可能
	8	使用可能		使用可能	
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
金	1	2EJ 電子情報工学実験Ⅰ	2PS/ES 画像情報処理	4EJ 創造工学演習	4M 機械計算力学
	2				
	3		使用可能		5B 構造デザイン
	4				
	5	2M C言語基礎	使用可能	1F1 コンピュータ科学入門	使用可能
	6	1F5 コンピュータ科学入門			5M アイデア設計工学
	7			使用可能	
	8	使用可能			使用可能

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~ip/jikanwari.html）

資料２―１―③―３

「総合情報処理センターのその他の利用状況」

利用日	利用内容	利用者
４／１２	授業支援ソフト講習会	総合情報処理センター
６／１２	鯖江市防災リーダー養成講座	環境都市工学科
６／２６	CAD利用技術者試験	環境都市工学科
７／３	公開講座	環境都市工学科
７／２４	公開講座	教育研究支援センター
１０／９	鯖江市防災リーダー養成講座	環境都市工学科
１０／１５	キャンパスリサーチ	機械工学科
１０／２７	web調達システム操作説明会	総務課契約係
１２／２	JDreamⅡ講習会	学生課情報サービス係

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書，p.92）

地域連携テクノセンターは，校内のみならず地域産業界等との共同研究の推進を通して，幅広い視野と独創性に富む自主開発能力を持つ技術者の養成，及び地域社会の発展に寄与することが目的である(資料２―１―③―４)。同センターには，超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡，赤外吸収スペクトル測定装置，Ｘ線光電子分光装置，誘導結合形高周波プラズマ発光分光分析装置等が設置されている(資料２―１―③―５)。これらの施設・設備は，産官学共同研究を含めた研究活動を展開している教員の指導の下で卒業研究(本科(準学士課程))や特別研究(専攻科課程)を行っている学生が実践能力向上のために利用しているほか，本科や専攻科の授業における工学実験に際しても有効活用されている。また，福井県内での起業意欲を高揚し，伝統産業や地場産業の活性化に寄与する目的で，平成１９年度から同センター内に「アントレプレナーサポートセンター」を設置し，数年後に起業を目指す，もしくは自らのアイデアを事業に結び付きたいと考える本校学生や，地域の技術者を支援している。「アントレプレナーサポートセンター」には毎年，複数名の本校学生が入所し，起業家精神を醸成しており，地域社会からの要請を受けてソフトウェア等を開発した例もある。さらに，同センターには，本校と地域社会との密接な関係を維持し，研究成果を共有又は還元することを目的に「伝統産業支援室」と「地場産業支援室」も設けている。

資料２―１―③―４

「地域連携テクノセンター規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター規則

（設置）

第１条　福井工業高等専門学校に福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは、校内共同研究及び地域産業界等との共同研究の推進を図り、もって幅広い視野と独創性の高い自主技術開発力を持つ技術者の養成及び地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次に掲げる業務を行う。

(1)　校内共同研究に関すること。

(2)　地域産業界等との共同研究、受託研究等に関すること。

(3)　地域産業界等からの技術相談に関すること。

(4)　学生、研究員等への技術教育に関すること。

(5)　大型分析・計測器等の共同利用設備の管理及び整備計画に関すること。

(6)　その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

資料２―１―③―５

「地域連携テクノセンターの保有機器（抜粋）」

地域連携テクノセンターの保有機器

１．超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡（元素分析システム付）

日本電子　ＪＳＭ－7001Ｆ　ＴＴＬＳ型
構成　サーマル電界放出形電子銃（ＦＥ）
　　下方二次電子検出器・上方二次電子検出器・
　半導体反射電子検出器
　　コニカル対物レンズ（磁場漏れのないアウトレンズ）
　　５軸コンピュータ制御モータ駆動試料ステージ
　　エネルギー分散形Ｘ線分析装置（ＥＤＳ）
性能　二次電子像分解能：1.2nm（加速電圧 30ｋV）
　　観察倍率：×10～×1,000,000
　　加速電圧：0.1ｋV（試料バイアス電圧負荷）～30ｋV
　　ＥＤＳエネルギー分解能：133eV 以下　，　検出可能元素：Ｂｅ～Ｕ
用途　金属材料、電気電子材料、機能材料、新素材などの材料表面をナノメートルオーダーの高分解能で観察できます。また、ＳＥＭと組み合わせて広範囲の元素分析が可能で、材料・機械・エレクトロニクス・情報・化学・バイオなどの分野に有用です。

２．赤外吸収スペクトル測定装置　一式

構成・性能
　フーリエ変換赤外分光分析装置 Spectrum100 型
　　分解能　最高 0.4cm-1
　　測定波数範囲　7800～350cm-1
　　S/N 比　55000:1
　赤外顕微鏡　Spotlight200
　　測定波数範囲　透過・反射・ATR 測定時 7800～600cm-1
　　測定モード　透過／反射／Ge-ATR マッピング及び透過／反射／ATR ポイント測定
用途　赤外分光法は特に分子の官能基や早い運動についての情報が容易に得られる特徴を持っており，材料全般について測定可能です。また，ＡＴＲ（全反射法），顕微赤外法部分を持つことから，特に水溶液の測定や微少部位の測定に有利です。

３．Ｘ線光電子分光装置（ＥＳＣＡ）

日本電子　ＪＰＳ－9000 型
最小分析装置　200μｍφ
用途　Ｘ線モノクロメーターを内蔵し，単色化したＡＩＫα線源が利用でき，金属，高分子やハイテク材料の表面分析に最適です。

４．誘導結合形高周波プラズマ発光分光分析装置（ＩＣＰ）

パーキンエルマー社　Optima3000
特徴　Charge-Coupled-device（ＣＣＤ）を受光部に使用
波長範囲　160～790ｎｍ　分解能　0.007ｎｍ
用途　試料に外部エネルギーを与えることにより，放射された光をＣＣＤ分光器で解析し，試料に含まれる元素の種類と量を測定します。化学試料，生体試料中の微量成分分析，

（出典　地域連携テクノセンター活動紹介誌 JOINT2011）

教育研究支援センターは，本校における教育研究支援業務を円滑に実施することを目的とする(資料２―１―③―６)。同センター所属の技術職員は，専門的な技術内容等に応じて３つの技術班を構成し(資料２―１―③―７)，この内の第一技術班は本校の共同利用施設である機械実習工場を運営し，機械工学科の機械工作実習，創造工学演習等のほか，電気電子工学科の機械工学概論や環境都市工学科の構造デザイン等の授業科目の教育支援以外に，卒業・特別研究で使用する実験装置等の製作支援に加えて，ロボコンに代表される課外活動で用いる部品や用具等の製作支援を行い，他の技術班と同様に本校の実践的なものづくり教育，研究活動や出前授業・公開講座の実施支援を通して地域貢献にも寄与している(資料２―１―③―８，９)。

資料２―１―③―６

「教育研究支援センター規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１２条に基づき、福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に福井工業高等専門学校教育研究支援センター（以下「センター」という。）を設置する。

（目的）

第２条　センターは、本校において教育研究支援に携わる職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次に掲げる業務を行う。

(1)　教育研究支援のための基本計画の策定
(2)　教育研究に対する技術支援
(3)　技術向上のための研修、技術発表会・講演会の企画及び実施
(4)　教育研究関連機器の保守・管理・操作
(5)　技術の継承及び保存
(6)　技術資料の作成、保管及び提供
(7)　所掌業務に係る調査統計及び報告に関すること。
(8)　その他本校における教育研究支援業務に関すること。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

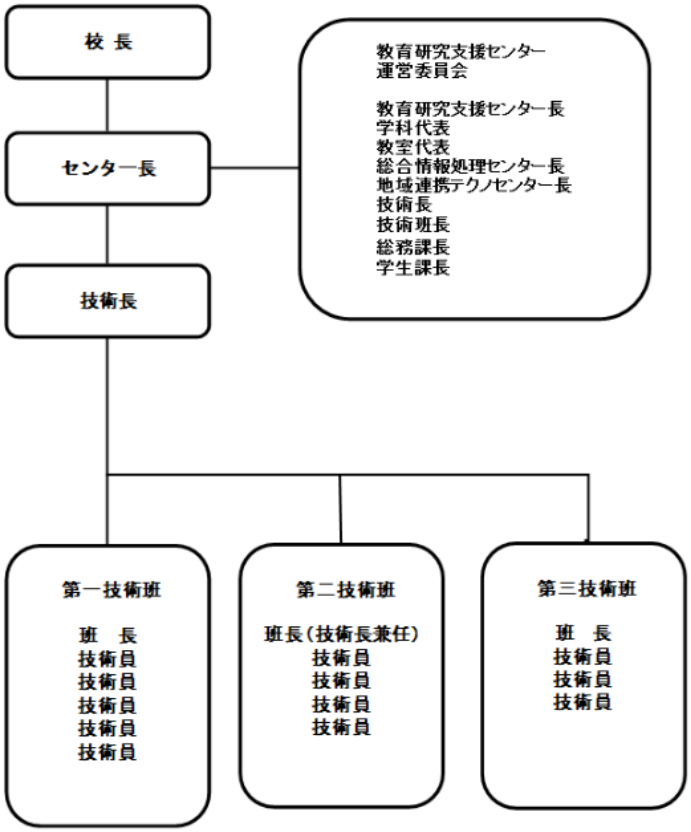
資料２―１―③―７

「教育研究支援センター組織図」

福井高専　教育研究支援センター　-Technical Support Center-

平成24年度組織図

平成24年度教育研究支援センター組織図



（出典　本校ホームページhttp://www.tsc.fukui-nct.ac.jp/p_blog/var/center/index.php?id=org）

資料２―１―③―８

「第一技術班教育研究支援一覧」

平成23年度 教育研究支援一覧　第一技術班

前期

学年	科目名	開講期	前期コマ数	形態	担当教員	センター職員
全2学年	物理	通年	3	週1:2＋1コマ	岡本	藤田、吉田
全1学年	ものづくり科学	通年	4	週2回: 2コマ×2	芳賀	藤田、吉田
2M	C言語基礎	通年	1	週1:1コマ	亀山	藤田、吉田
2M	機械工作実習	通年	4	週1:4コマ	加藤寛	木村、藤沢、北川、藤田、吉田
3M	C言語応用	前期	2	週1:2コマ	亀山	北川
3M	創造工学演習	通年	3	週1:3コマ	加藤寛	木村、藤沢、北川、藤田、吉田
4M	知能機械演習	前期	4	週1:4コマ	村中	北川
5M	アイディア設計工学	前期	2	週1:2コマ	田中	木村、藤沢、北川、藤田
5M	機械工学実験Ⅱ	通年	3	週1:3コマ	加藤	藤沢、吉田
5M	卒業研究	通年	6	週2:3＋3コマ	加藤	木村、藤沢、北川、藤田、吉田
5E	機械工学概論Ⅱ	通年	2	週1:2コマ	松尾	木村、藤沢、北川、藤田、吉田

後期

学年	科目名	開講期	後期コマ数	形態	担当教員	センター職員
全1学年	ものづくり科学	通年	2	週1回: 2コマ	芳賀	藤田、吉田
2M	C言語基礎	通年	1	週1:1コマ	亀山	藤田、吉田
2M	機械工作実習	通年	4	週1:4コマ	加藤寛	木村、藤沢、北川、藤田、吉田
3M	機械設計製図Ⅰ	通年	3	週1:3コマ	松尾	吉田
3M	創造工学演習	通年	3	週1:3コマ	亀山	木村、藤沢、北川、藤田、吉田
4M	機械工学実験Ⅰ	後期	4	週1:4コマ	加藤	藤田
5M	機械工学実験Ⅱ	通年	3	週1:3コマ	田中	木村
5M	卒業研究	通年	12	週4:3＋3＋3＋3コマ、週3:4＋4＋4コマ	加藤	木村、藤沢、北川、藤田、吉田

（出典　教育研究支援センター平成２３年度年次報告）

資料２―１―③―９

「技術支援等の例」

平成23年度 技術支援等一覧

担当班	研究・技術支援	時間 期間等	人数	依頼元 学科・センター等
第一技術班	・製図室ドラフターの点検・修理	3日	1	機械工学科
	・機械工学実験Ⅰ実験書作成等実験準備	2日	2	
	・出前授業(6/18)越前市大虫小学校　試作等準備及び当日支援	1ヶ月	1	
	・出前授業(6/18)福井市和田小学校　試作等準備及び当日支援	1ヶ月	1	
	・出前授業(10/15)越前市岡本小学校　教材等準備	2日	1	
	・公開講座「手作りピー玉スターリングエンジン」の教材準備、当日支援	2日	1	
	・キャンパスウオーク2011　準備及びデモ実験・体験実験補助	2日	5	
	・キャンパスツアー(オープンキャンパス夏)2011　準備・会場設営・当日の支援	1ヶ月	5	
	・キャンパスリサーチ2011（3D-CAD）準備・当日の支援	1ヶ月	1	
	・日本機械学会連絡員業務	通年	1	
	・機械工学科卒業研究発表会概要集作成	2日	1	
	・全国高等専門学校ロボットコンテスト　ロボット製作技術指導	6ヶ月	2	学生主事
	・高専ロボコンの機械工場における作業，および部品製作に関する支援依頼	6ヶ月	4	
第二技術班	・キャンパスリサーチ2011（3D-CAD）準備・当日の支援	1ヶ月	1	機械工学科
	・第二種電気工事士の技能試験用技能講習会（上期）	1ヶ月	2	電気電子工学科
	・第二種電気工事士の技能試験用技能講習会（下期）	1ヶ月	2	
	・キャンパスウオーク２０１１　デモ実験および体験実験補助	1日	2	
	・キャンパスツアー　準備・当日の支援	1日	2	
	・キャンパスリサーチ２０１１　実験支援	2日	1	
	・知的財産セミナー　音響等の準備	1日	1	
	・公開講座　やってみようソーラーカー教室	1日	2	
	・2011キャンパスリサーチ　準備・当日の支援	2日	1	電子情報工学科
	・歯磨きロボットコンテスト準備・当日の支援	2日	1	
	・専攻科ホームページの作成	通年	1	専攻科長
第三技術班	・キャンパスウォーク2011　実験準備・デモ実験補助	8日	2	物質工学科
	・キャンパスツアー　準備・当日の支援	2日	2	
	・キャンパスリサーチ　準備・当日の支援	3日	1	
	・出前授業(8/9)浜四郷公民館　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(8/20)くすのき児童館　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(9/3)福井市和田小学校　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(9/9)福井市清水中学校　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(9/14)越前市王子保小学校　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(10/15)越前市岡本小学校　準備及び当日の支援	3日	1	
	・出前授業(10/23)鯖江市中河小学校　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(11/5)鯖江市神明小学校　準備及び当日の支援	2日	2	
	・出前授業(11/26)あっとほーむ　準備及び当日の支援	2日	2	
	・公開講座「小さな大工さん講座」にかかる準備、実施等	1日	1	環境都市工学科
	・キャンパスツアー　準備・当日の支援	2日	1	
	・受託試験による水質検査	通年	1	地域連携テクノセンター
	・作業環境測定の実施依頼	6ヶ月	1	事務部

（出典　教育研究支援センター平成２３年度年次報告）

（分析結果とその根拠理由）

各センターは本校の教育組織として明確に位置付けされ，教育目標を達成するために機能的に運営・運用されている。さらに，各センターは本校の教育研究活動の推進のみならず，地域貢献にも大きく寄与している。

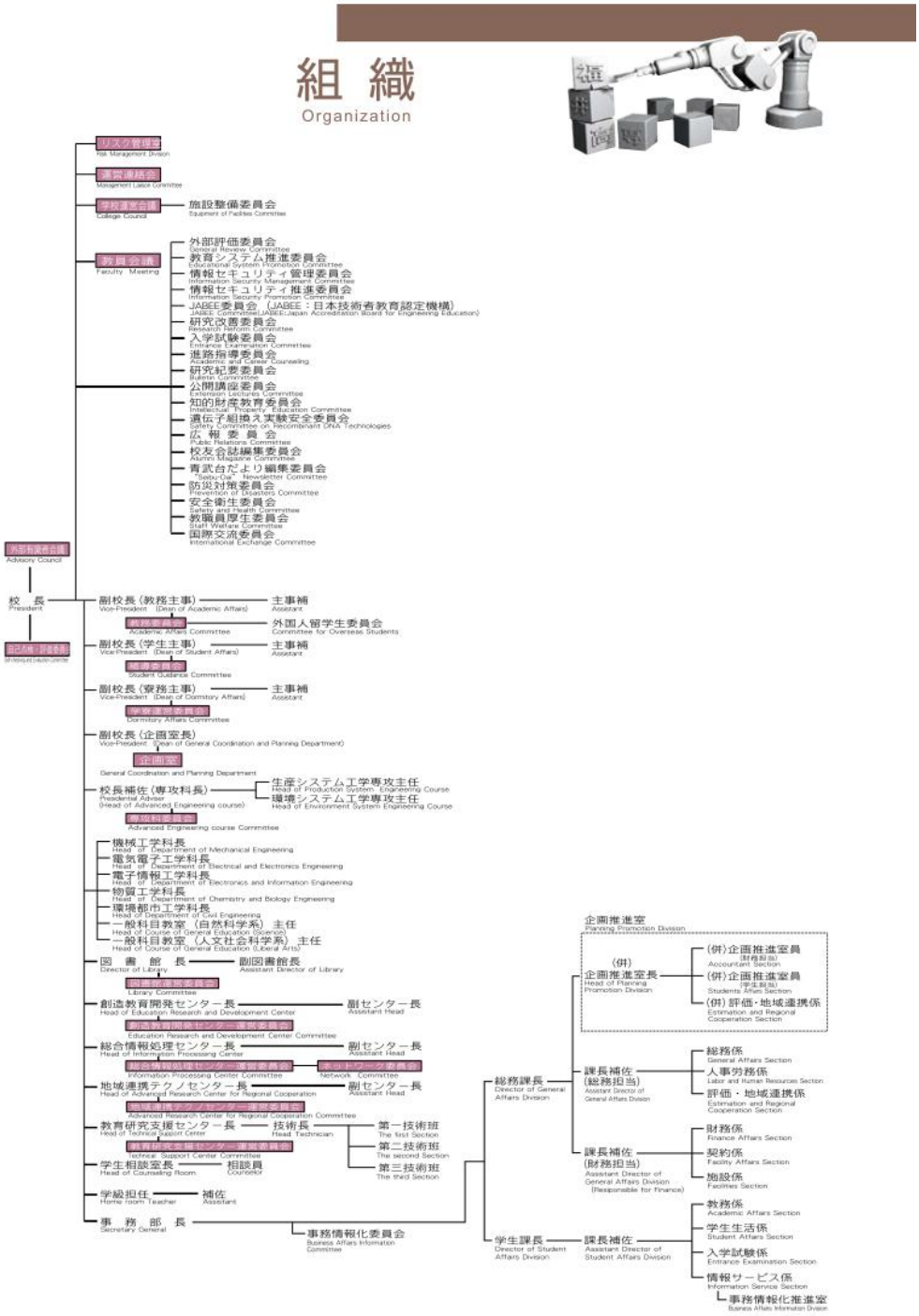
観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育活動を有効且つ円滑に展開するために，校長の下，各種会議や委員会が組織されている(資料２―２―①―１)。

資料２―２―①―１

「本校の組織図」



（出典　国立福井高専要覧２０１２，p.9）

「学校運営会議」は，校長，副校長，校長補佐，学科長及び教室主任，事務部長から構成され，校長が議長を務め，教育研究活動と管理運営等の重要事項について審議し，教育活動上の学校の基本方針を決定することを目的とし(資料２―２―①―２)，毎月１回開催されている。

「教員会議」(資料２―２―①―３)は，校長を含む全教員がその構成員であり，本校としての意思の統一と教育研究活動に関する情報の共有化を図ることを目的に，毎月１回定期的に開催されている。

資料２―２―①―２

「福井工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校内部組織規則

第２章　会議

（学校運営会議）

第２条　校長の諮問に応じ、管理運営の重要事項について審議するため、本校に学校運営会議を置く。

２　学校運営会議は、次の職にあるものをもって組織する。

(1)　校　　長

(2)　副 校 長

(3)　校長補佐

(4)　学科長及び教室主任

(5)　事務部長

(6)　その他校長が特に必要と認めた者

３　校長は、学校運営会議を招集してその議長となる。

４　学校運営会議の庶務は、総務課が処理する。

（出典　本校規則集）

資料２―２―①―３

「福井工業高等専門学校教員会議規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校教員会議規則

（設置）

第１条　本校に教員会議を置く。

（目的）

第２条　教員会議は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　校長の諮問した事項

(2)　学生の入学、卒業、懲戒その他学籍の異動に関する判定

(3)　諸規程の制定及び改廃

（組織）

第３条　教員会議は、専任の教授、准教授、講師、助教及び助手をもって組織する。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

校長の下に，４人の副校長（教務主事，学生主事，寮務主事及び企画室長）と校長補佐（専攻科長）を置き，有効な教育活動を展開するための教員組織を構成している(資料２―２―①―４)。

資料２―２―①―４

「福井工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）」

（副校長及び校長補佐の職務）

第６条の２　学則第９条の２に定める副校長及び校長補佐の職務は、次のとおりとする。

(1)　副校長

イ　本校の教育研究等を推進するため、校長を補佐し、業務を掌理すること。

ロ　校長に事故があるときは、その職務を代理し、校長が欠員のときはその職務を行うこと。(校長が指名した者に限る。)

(1)　校長補佐

校長を補佐し、校長から指示された特定の職務に関すること。

（企画室長）

第７条　企画室に企画室長を置き、校長がこれを命ずる。

２　企画室長は、次の事項を総括する。

(1)　新規の事業の計画立案に関すること

(2)　本校の長期目標、中期目標、中期計画及び業務運営の計画策定に関すること

(3)　その他校長が必要と認める事項

（主事の業務）

第８条　学則第9条に定める主事の職務は、次のとおりとする。

(1)　教務主事

イ　教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。

ロ　入学、退学、休学、進級及び卒業の認定等に関すること。

ハ　指導要録に関すること。

ニ　教員の研修に関すること。

(2)　学生主事

イ　学生の補導、厚生及び課外教育に関すること。

ロ　学生の個人相談及び集団指導に関すること。

ハ　学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

(3)　寮務主事

イ　寮生の指導及び厚生に関すること。

ロ　寮生の個人相談及び集団指導に関すること。

ハ　寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

（専攻科長及び専攻主任）

第１０条　専攻科に専攻科長を置き、校長がこれを命ずる。

２　専攻科長は、次の事項を総括する。

(1)　専攻科の入学者選抜等に関すること。

(2)　専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。

(3)　専攻科の学生の進学及び就職に関すること。

(4)　専攻科の学生の厚生補導に関すること。

(5)　その他専攻科の運営に関すること。

（出典　本校規則集）

副校長（教務主事）は，本科の教育計画及び教育課程の編成の立案並びに実施，入学，退学，休学，転学科，進級及び卒業の認定，指導要録の作成や教科書を含めた教材の取扱い等について校長を補佐し，教務委員会(資料２―２―①―５)と入学試験委員会(資料２―２―①―６)を運営している。これら二つの委員会は毎月１回開催され，両委員会で審議する事項については，教務主事と教務主事補から構成される教務主事団会議で事前に十分な検討を行い，両委員会での議事が円滑に効率よく進行するようにしている。本校では本科での教育を基礎とした専攻科を設置しているため，本科と専攻科での教育内容・方法等は密接に関係する。このため，教務主事団会議に専攻科長も参加して，本科と専攻科の連携を深めている。

資料２―２―①―５

「福井工業高等専門学校教務委員会規則（抜粋）」

（設置）

第１条　本校に教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　教育課程及び授業時間割の編成等授業実施に関する事項

(2)　特別活動、学校行事等に関する事項

(3)　退学、休学、進級及び卒業の認定等に関する事項

(4)　その他教務に関する重要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　教務主事

(2)　教務主事補

(3)　学科長及び教室主任

(4)　学生課長

２　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

３　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（専門部会）

第４条　委員会の所掌事項を専門的に審議するために必要に応じて専門部会を置くことができる

２　専門部会に関する必要な事項は、別に定める。

（庶務）

第５条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

資料２－２－①－６

「福井工業高等専門学校入学試験委員会規則（抜粋）」

（設置）

第１条　本校に、入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1) 学生募集に関する事項

(2) 入学者選抜の実施に関する事項

(3) 入学者選抜の合格候補者の選考に関する事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号を掲げる委員をもって組織する。

(1) 教務主事

(2) 教務主事補

(3) 学科長及び教室主任

(4) 事務部長

２　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

３　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第４条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

副校長（学生主事）は，本科学生の補導，厚生，課外活動，個人相談，集団指導，規律保持，事故の処理や保健指導等に関する事項について校長を補佐し，毎月１回定期的に開催される補導委員会（資料２―２―①―７）と，学生主事と学生主事補からなる学生主事団会議を運営している。学生主事団会議では，補導委員会での審議事項等について事前に十分な検討を行っている。また，補導委員会には寮務主事も参加し，学寮とも連携を図っている。

資料２―２―①―７

「福井工業高等専門学校補導委員会規則（抜粋）」

（設置）

第１条　本校に補導委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　学生の保健管理に関する事項

(2)　学生の福利厚生に関する事項

(3)　学生の規律及び風紀に関する事項

(4)　学生の育英奨学に関する事項

(5)　学生会に関する事項

(6)　その他学生の補導に関する重要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　学生主事

(2)　寮務主事

(3)　学生主事補

(4)　学級担任

(5)　学生課長

2　委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

3　校長は、第2条第6号のうち、専攻科生と関連する事項を審議する場合は、委員会に専攻科委員会委員を加えるものとする。

4　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第４条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

副校長（寮務主事）は，寮生の指導，厚生，個人相談，集団指導，規律保持，事故の処理や保健指導等に関する事項について校長を補佐し，学寮運営委員会(資料２―２―①―８)と，寮務主事と寮務主事補からなる寮務主事団会議を運営している。特に，寮務主事団会議は毎週定期的に開催され，学寮に関する情報の共有化を図るとともに，学寮運営委員会での審議事項等について事前打合せ等を行っている。学寮運営会議には学生主事も参加し，補導委員会とも連携を図る体制が構築されている。

資料２―２―①―８

「福井工業高等専門学校学寮運営委員会規則（抜粋）」

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校学寮規則（昭和40年規則第3号）第4条の規定による学寮運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を調査審議する。

(1)　学生の入寮及び寮生の退寮に関する事項

(2)　寮生の指導に関する事項

(3)　学寮の施設・設備の管理に関する事項

(4)　寮生の保健衛生に関する事項

(5)　寮生の福利厚生に関する事項

(6)　その他学寮の運営上重要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　寮務主事

(2)　学生主事

(3)　学科の教員のうちから校長が任命する者　各学科1人

(4)　教室の教員のうちから校長が任命する者　各教室1人

(5)　学生課長

2　前項第3号及び第4号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3　委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

4　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第４条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

副校長（企画室長）は，本校の新規事業の計画立案，中・長期目標，中期計画及び業務運営の計画策定等(資料２―２―①―９)について校長を補佐し，企画室会議を運営している。

資料２―２―①―９

「福井工業高等専門学校企画室規則（抜粋）」

（設置）

第１条　本校に企画室を置く。

（審議事項）

第２条　企画室は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 新規の事業の計画立案に関すること

(2) 本校の長期目標、中期目標、中期計画及び業務運営の計画策定に関すること

(3) その他校長が必要と認める事項

（職員）

第３条　企画室に次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 企画室長

(2) 総務課長

(3) 校長が必要と認めるもの

（室長）

第４条　室長は企画室の業務を掌理する。

（会議）

第５条　企画室の会議（以下「会議」という。）は、室長が召集し、議長は室長をもって充てる。

２　室長が必要と認めるときは、第３条に定める職員以外の者を会議に出席させることができる。

（庶務）

第６条　企画室の庶務は、総務課が処理する。

（雑則）

第７条　この規則に定めるもののほか、企画室に関し必要な事項は、会議の議に基づき別に定める。

（出典　本校規則集）

校長補佐（専攻科長）は，専攻科の入学選抜，教育課程の編成，教育計画の立案，専攻科生の進学・就職及び厚生補導等に関して校長を補佐し，定期的に開催される専攻科委員会を運営している。

資料２―２―①―１０

「福井工業高等専門学校専攻科委員会規則（抜粋）」

（設置）
第１条　福井工業高等専門学校学則第39条の規定に基づき、福井工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。
(1)　入学者選抜等に関すること。
(2)　教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。
(3)　学生の進学及び就職に関すること。
(4)　学生の厚生補導に関すること。
(5)　その他専攻科の運営に関すること。
（組織）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　専攻科長
(2)　専攻主任
(3)　学科（教室）の教員　5名
(4)　学生課長
２　前項第3号の委員は、校長が命ずる。
３　第1項第3号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。
（庶務）
第６条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育活動を効率よく展開する上で必要な運営体制が規則で明文化されており，さらに組織も構築・整備され，他の委員会とも連携を取りながら，それぞれの所掌事項に関する必要な活動が行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

観点２―２―①で述べた教育活動と管理運営の重要事項について審議する「教員会議」には全教員が参加している。また，学生教育・厚生補導・進路指導等に関する「教務委員会」，「補導委員会」や「進路指導委員会」を始めとする各委員会にも他の委員会と同様，一般科目及び専門科目の担当教員がそれぞれ複数名参加しており，委員会の会議席上では有意義な情報交換や意見交換が行われ，有機的な連携が図られている。本科１，２学年の学級担任と担任補佐はそれぞれ一般科目教員と専門科目教員が，また同３学年の学級担任は専門科目教員が務め，その担任補佐は一般科目教員が担っており，一般科目と専門科目担当教員が連携しながら３学年までの学級運営を行っている（資料２―２―②―１）。

資料２―２―②―１

「平成２４年度学級担任（補佐）一覧」

学級担任（補佐）一覧

学年＼クラス		F１	F２	F３	F４	F５
1	担任	荻野　繁春	中村　吉秀	山本　裕之	朝倉　相一	島田　　茂
	補佐	香月　壮亮	髙山　勝己	山本　幸男	川上　由紀	芳賀　正和

学年＼学科		M	E	Ei	C	B
2	担任	池田　昌弘	森　　芳周	森　　貞	加藤　清考	柳原　祐治
	補佐	五味　伸之	石栗　慎一	西　　仁司	平井　恵子	奥村　充司
3	担任	村中　貴幸	佐藤　　匡	村田　知也	川村　敏之	辻野　和彦
	補佐	大久保　弦	山田　孝禎	岡本　拓夫	宮本　友紀	小寺　光雄
4	担任	安丸　尚樹	米田　知晃	高久　有一	松井　栄樹	辻子　裕二
	補佐	松尾　光恭	大久保　茂	蘆田　　昇	常光　幸美	山田　幹雄
5	担任	金田　直人	河原林友美	青山　義弘	小泉　貞之	江本　晃美
	補佐	藤田　克志	丸山　晃生	野村　保之	西野　純一	武井　幸久

（出典　平成２４年度学生便覧，p. 62）

さらに，教員間の教育的連携については，毎年度１回の頻度で本校の学習・教育目標に対応した事項に関して，創造教育開発センター（資料２―２―②―２）主催の「教員間ネットワーク会議」（資料２―２―②―３，４）において授業内容や進度について議論している。例えば，英語教員と専門学科教員との間での「教員間ネットワーク会議」では，一般教育と専門教育のそれぞれの立場からの英語教育について，進路先アンケート結果や外部有識者会議での意見等も踏まえた議論がなされ（資料２―２―②―５），本年度から新入生を対象にした課題確認テストを前期授業を開始する４月５日（木）に実施（資料２―２―②―６）することや，多読教材への取組み奨励等を基軸にした英語に親しむ指導を，英語科を中心に行うことになった。この他，数学についても「教員間ネットワーク会議」での議論を踏まえ，教授単元の順番の変更等もなされた（資料２―２―②―７）。このような議事録は学内サーバーにアップ・公開され，教員間連携の向上と教育改善に資されている。

資料２―２―②―２

「創造教育開発センター規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校創造教育開発センター規則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校内部組織規則（昭和 54 年規則第 2 号）第 17 条第２項の規定に基づき、創造教育開発センター（以下「センター」という。）の組織及びセンター長に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（目的）

第２条　センターは、教育発展のために、教育方法、教育評価、教育課程等の教育体制向上に関する諸活動を行うとともに、教育改善、ＦＤに貢献し、学際的な教育研究を推進することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 教育改善、ＦＤに関すること。
(2) 教育課程の調査・検討に関すること。
(3) メディア教育に関すること。
(4) 教員間の教育的連携に関すること。
(5) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

資料２―２―②―３

「教員間ネットワーク会議開催案内１」

Subject: [kyouin-ml:1455] 平成23年度ネットワーク会議の開催について(ご案内)
From: takakom@fukui-nct.ac.jp (武藤　香子)
Date: 2012/02/09 17:51
To: kyouin-ml@fukui-nct.ac.jp
CC: kyomu@fukui-nct.ac.jp

平成24年2月9日

教員各位

教務主事
専攻科長
創造教育開発センター長

平成23年度ネットワーク会議の開催について（ご案内）

教育改善の一環として，相互に関連する一般科目および専門科目，あるいは学科をまたぐ学習・教育目標に関連する科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われなければなりません．本校では，このような連携を行うためのシステムとして教員間ネットワーク会議があります．つきましては今年度も下記6つの教員間ネットワーク会議を開催いたしたいと存じます．

教員の皆様におかれましては，ご自分の担当教科・科目が関係する学習・教育目標に対応する教員間ネットワーク会議への出席をお願い申しあげます．なお，興味ある内容であるならば，お一方で複数の会議に出席していただいても結構です．出席のご希望は2月21日（火）までに，専門の方は学科長，一般科目教室の方はそれぞれの教科主任にご連絡ください．学科長，教科主任から教務係へ連絡していただきます．

出席者が決まりましたら，当方で座長と議事録担当者を決めさせていただきます．その方々の主導で3月末までに会議を開催していただきます．したがいまして，人数が多い会議では開催期日等がご希望に添えない場合があることをご承知おきください．

なお，議事録はLacooda上で公開する予定です．ご協力の程，よろしくお願い申し上げます．

記

1. 社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議（学習・教育目標RA1およびJA1, 2, 3）
2. 数学および自然科学に関するネットワーク会議（学習・教育目標RB1およびJB1）
3. 専門複合科目に関するネットワーク会議（学習・教育目標RB2およびJB2, JB3）
4. デザイン教育に関するネットワーク会議（学習・教育目標RCおよびJC）
5. コミュニケーション教育に関するネットワーク会議（学習・教育目標RD1およびJD1, 2）
6. プレゼンテーション教育に関するネットワーク会議（学習・教育目標RD2, 3およびJD2, 3, 4）

以上

（出典　学内メール）

資料２―２―②―４

「教員間ネットワーク会議開催案内２」

Subject: 教員間ネットワーク会議の開催日について
From: Yoshichika MORI <y-mori@fukui-nct.ac.jp>
Date: 2012/03/01 10:48
To: katanaka@fukui-nct.ac.jp, kaneda@fukui-nct.ac.jp, kawamoto@fukui-nct.ac.jp, yfa@fukui-nct.ac.jp, tadayosi@fukui-nct.ac.jp, yamasan@fukui-nct.ac.jp, masaho@fukui-nct.ac.jp

機械工学科　田中先生、金田先生
電気電子工学科　川本先生
電子情報工学科　青山先生
物質工学科　吉村先生
環境都市工学科　山田先生、吉田先生

卒研発表でお忙しいところ失礼します。先日から日程調整をしておりました「社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議」について、全学科の先生方が集まれる時間帯ということで、以下のように決めたいと思います。

３月１４日（水）１１時３０分　小会議室３（本館２階中央階段横）

時間は40分前後です。議題、資料などは事前にお送りするようにします。

また、ご都合が悪くなった場合は、当該学科の他の先生に交代していただいてもかまいません。急な企業面談などで交代も無理な場合は、後日議事録をお送りしますので、メールでご意見を伺いたいと思います。それでは、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（出典　学内メール）

資料２―２―②―５

「教員間ネットワーク会議議事録例１（抜粋）」

平成２４年３月２３日

平成２３年度教員間ネットワーク会議報告

（５．コミュニケーション教育に関するネットワーク会議）

期日：平成２４年３月２３日
場所：会議室
出席者：加藤寛敬、芳賀正和（機械工学科）
大久保茂、河原林友美（電気電子工学科）
前川公男（電子情報工学科）
上嶋晃智、常光幸美（物質工学科）
廣部英一、阿部孝弘（環境都市工学科）
吉田三郎（一般科目教室英語科）

議事内容

２．昨年度の専門各科からの英語指導の特徴的な工夫例や、英語科への要望等の確認（工夫例の詳細は昨年度のネットワーク会議の議事録を参照）

① 英語については、アドミッションポリシーや教育目標に「国際社会で活躍できる」といっているので本科卒業時点での現状把握が不可欠。進路先アンケートや先の外部有識者会議でも英語力の低さが指摘されている。（C 科より）
② 卒業研究を担当する電子情報工学科各教員がいくつかのグループに分かれて、配属学生に対してグループごとに題材を選び英文輪読を行い個別指導を行なう（M 科、E 科、C 科も同様）
③ 専攻科生に対しては１年次の工学演習の中で英語を扱い、修了要件の特別研究論文の英文アブストラクトを書かせている。（B 科より）
④ 教材や先生方の授業カリキュラムについて異議はないが、高校の普通科と比較して、英語の授業時間が少ないことから、中学生レベルからの発展、積み上げが成功していないと思われる。（同）
⑤ 文法は課題を事前に与えても、繰り返し演習して理解する習慣がない。
⑥ 5 年生の 4 月から就職採用試験が、6 月頃から編入学試験が順次行われていく．　4 年後期頃に、大学編入学試験や就職採用試験を見据えた英語指導をさらに盛り込むことができれば、学生達の意識向上の一助になる。（E 科より）

４．各学科からの提案、要望を受けて英語科の今年の取り組みについて

・昨年度から今年にかけての新機軸として、

① １年一斉課題テストの実施によるヘッドスタート。
② 図書館の多読教材への取り組みの奨励
③ 英文法・構文学習の学年をまたいだ教材連携による取り組み
④ コミュニケーションⅠ・Ⅱと英語Ⅰ・Ⅱとの連携の強化
⑤ TOEIC　IP テストの受験奨励と受験料補助（検討中）
⑥ 英語特講におけるプレゼンテーション基礎指導の実施
⑦ 現代英語における英語プレゼンテーション指導と評価の実施
⑧ ２年生への新学期へのテコ入れ（２０１３年授業当初の課題テストの実施を予定）

（出典　創造教育開発センター）

資料２―２―②―６

「課題確認テストの実施日程」

4月

1	日		
2	月	春季休業（～3 日）	
3	火	入寮式（10:30）　新入寮生オリエンテーション（11:00） 開寮（14:00）	
4	水	入学式（10:00）　専攻科オリエンテーション　2～5年 HR（11:00） 教育後援会総会（12:00）　保護者懇談会（13:30）	
5	木	一斉健康診断（本科・専攻科） 課題確認テスト	
6	金	前期授業開始	Fri-1
7	土		
8	日		
9	月		Mon-1
10	火		Tue-1
11	水	午前休講　　新入生歓迎会，クラブ紹介	Wed-0.5
12	木	新入生オリエンテーション合宿（奥越高原青少年自然の家）	Thu-1
13	金	新入生オリエンテーション合宿（奥越高原青少年自然の家）	Fri-2

（出典　学生課）

資料２―２―②―７

「教員間ネットワーク会議議事録例２」

平成 23 年 3 月 10 日

数学および自然科学に関するネットワーク会議議事録

１．開催日時　平成 23 年 3 月 9 日（水）13:20～
２．開催名所　小会議室３
３．議題　・数学応用数学と専門科目について
４．出席者　朝倉、長水、宮田（一般科目教室），村中（機械工学科），
荒川、石栗（電気電子工学科），高久（電子情報工学科），
津田、加藤（物質工学科），奥村（環境都市工学科），
宮田（一般科目教室，司会および議事録）

数学応用数学と専門科目について

数学に関する要望と現状を話していただき議論しました。
・M科　近年３，４，５年担当の数学科教員と力学系教員とで会議を持ち学生の現状や問題点について情報交換し協力してきた。微分方程式に関する理解を深めて欲しい。
・Ｅ科　電磁気学とベクトル解析の関連を強化したい。積分形式による記述を４年生前期に微分形式による記述を４年生後期からしている。ベクトル解析を４年生の前期から始めてほしい。
・ＥＩ科　力学系の知識がやや不足、計算力が低下している学生がいて、二極化する傾向にある。
・Ｃ科　４年生の時間数が他学科より少ないため編入後に必要な分野を選択できるように分野を配置して欲しい。
・　Ｂ科　力学系の力が弱く、文章を数式化するのが難しい学生が増えている。
・その他　数学を多く使う学科ではカリキュラムを見直して時間数を高学年で減らし低学年で増やしてもよいのではないか。

・ネットワーク会議を開いて学生の現状などについて共通理解を深めたことは意義がある。４年生の微分方程式、ベクトル解析、フーリエ解析、ラフラス変換、複素関数につては各学科の要望に応じて取捨選択し講義する順番も変える。１年生から３年生までの数学のカリキュラムについては現状のままでよい。ただ、若干の遅れがでており微分方程式もしくは重積分を４年生に積み残さざるを得ない状況にある。今後も協力して学生指導にあたることを確認した。

（議事録：宮田）

（出典　創造教育開発センター）

（分析結果とその根拠理由）

「教員会議」や各委員会は一般科目及び専門科目を担当する教員から構成されるとともに，本科３学年までの学級運営に当たっても，一般科目・専門科目担当の教員が担任，又は担任補佐として担当し，連携が密である。さらに，本校学習・教育目標等に応じた「教員間ネットワーク会議」が定期的に開催されるなど，多くの機会を通して情報交換や意見交換が行える機会があり，機能的に連携が取られているといえる。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

（資料２―２―①―１）に示したように，校長の下，事務部長が統括する事務部が置かれ，総務課と学生課の２課体制で本校は運営されている（資料２―２―③―１）。

学業成績・進学や，学生生活・就職等の学生と直接かかわる事項の事務全般を学生課が担当し，教員の教育指導を円滑に実施するために，十分に機能している。学生課は，教務係，学生生活係，入学試験係および情報サービス係からなり，教務委員会，入学試験委員会，補導委員会，学寮運営委員会，進路指導委員会，留学生委員会や国際交流委員会等の運営を支援している。例えば，教務係では，学級運営の一助となるように「学級担任の手引き」（資料２―２―③―２）を作成し，公開している。学生生活係では，課外活動を指導する教員への支援として，特に体育系クラブにおける安全な活動を意識し「体育クラブ活動における指導マニュアル」（資料２―２―③―３）を作成し，年度当初，副校長（学生主事）が主催する部・同好会指導教員会議において配布している。さらに，教育寮である学寮での教員による宿日直に際しての寮生の生活指導や学習指導に対する支援を「寮監マニュアル」を整備して行っている（資料２―２―③―４）。学生の進路指導支援においては，進路情報管理システムへのデータ入力や大学・大学院説明会の開催を始め，企業・機関等へのインターンシップ依頼状や礼状の送付，就職・進学関連資料の整理，「進路のしおり」（資料２―２―③―５）の作成など多岐にわたる。また情報サービス係では，学生の総合情報処理センターでの放課後の利用促進のための便宜を図るなど，多様な支援ができる体制となっている。

資料２―２―③―１

「福井工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校事務組織規則

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条第6項及び福井工業高等専門学校学則第10条の規定に基づく福井工業高等専門学校事務組織は、この規則の定めるところによる。

第２条　事務部に次の2課を置く。

総務課

学生課

第３条　総務課に企画推進室及び次の6係を置く。

総務係

人事労務係

評価・地域連携係

財務係

契約係

施設係

第４条　学生課に次の4係を置く。

教務係

学生生活係

入学試験係

情報サービス係

第５条　事務部に事務部長を置く。

２　事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第６条　総務課及び学生課にそれぞれ課長を置く。

２　課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第７条　総務課及び学生課にそれぞれ課長補佐を置く。

２　課長補佐は、課長の事務を補佐する。

（以下、省略）

（出典　本校規則集）

資料２―２―③―２

「学級担任の手引き」

平 成 24 年 度

学 級 担 任 の 手 引 き

この手引は、学級運営の一助として作成してありますので当該学級の入学年度版の「学生便覧」と併用してご利用ください。また、これに書かれていないことについては、関係者（係）と連絡、協議等をお願いします。

福 井 工 業 高 等 専 門 学 校

目　　次

Ⅰ　基本姿勢 1

Ⅱ　学級運営 2
1. 学生の欠席等について 2
2. 学生の保健について 2
3. 学生の緊急時連絡系統図について 3
4. 学習指導について 3
5. 中間試験及び期末試験について 3
6. 追試験について 3
7. 休学、復学及び退学について 3
8. 生活指導について 4
9. 休日に係る学生指導について 5
10. 進路について 5
11. 学級委員について 5
12. 特別活動について 6
13. 学校行事について 6
(1) 全校行事 6
(2) 学年別行事 7
14. 保護者懇談会について 8
15. 清掃及び美化について 8
16. 教室の備品について 9
17. 学級日誌及び当番について 9
18. 掲示板の活用について 9
19. その他 9

Ⅲ　年間行事等予定及び留意事項 11
1. 前期の行事等予定及び担任留意事項について 11
(1) ４月初旬 11
(2) ４月中旬～５月 11
(3) ６月 11
(4) ７月 11
(5) ８～９月 11
2. 後期の行事等予定及び担任留意事項について 11
(1) ９月下旬～１０月 11
(2) １１月末～翌年１月 12
(3) １月中旬 12
(4) ２～３月初旬 12
(5) ３月中旬～年度末 12
3. 翌年度の留意事項について 13

Ⅳ　学生に関する委員会等 14
1. 教務委員会 14
2. 補導委員会 14
3. 学寮運営委員会 14
4. 留学生委員会 14
5. 進路指導委員会 14

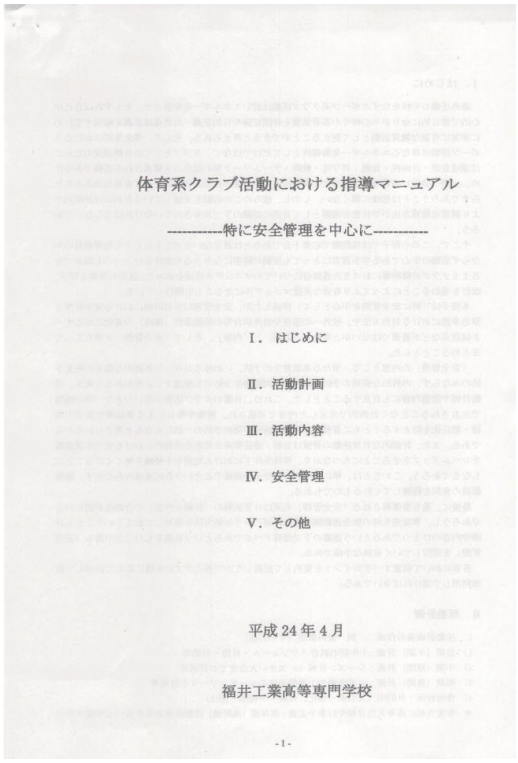
Ⅴ　学生生活に係る学内諸規則等 15
1. 学内諸規則 15
2. 教務に関する申合事項集 16

Ⅵ　参考資料 17
授業時間表 17
試験日程表 17
平成 24 年度学級担任・担任補佐名簿 18
平成 24 年度主事・主事補・学科長・教室主任・学生相談室名簿 19

（出典　学生課）

資料２―２―③―３

「体育系クラブ活動における指導マニュアル」



体育系クラブ活動における指導マニュアル

----------特に安全管理を中心に----------

Ⅰ．はじめに

Ⅱ．活動計画

Ⅲ．活動内容

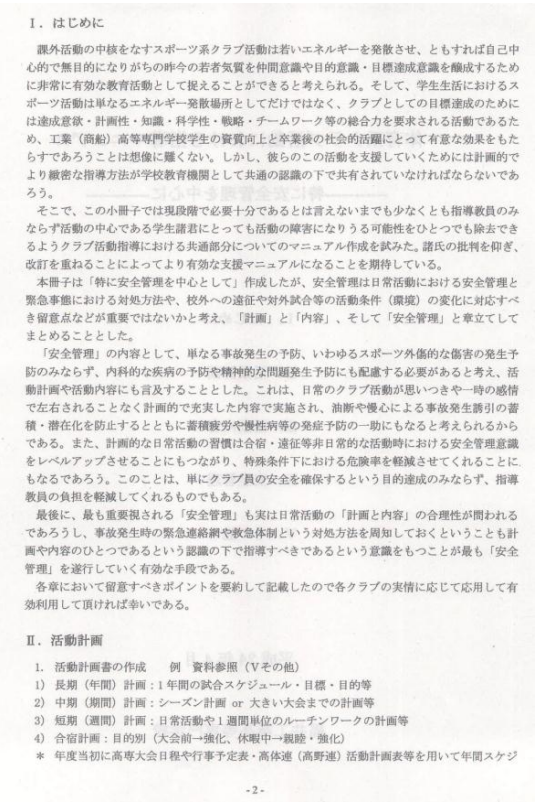
Ⅳ．安全管理

Ⅴ．その他

平成 24 年 4 月

福井工業高等専門学校

-1-



Ⅰ．はじめに

課外活動の中核をなすスポーツ系クラブ活動は若いエネルギーを発散させ、ともすれば自己中心的で無目的になりがちの昨今の若者気質を仲間意識や目的意識・目標達成意識を醸成するために非常に有効な教育活動として捉えることができると考えられる。そして、学生生活におけるスポーツ活動は単なるエネルギー発散場所としてだけではなく、クラブとしての目標達成のためには達成意欲・計画性・知識・科学性・戦略・チームワーク等の総合力を要求される活動であるため、工業（商船）高等専門学校学生の資質向上と卒業後の社会的活躍にとって有意な効果をもたらすであろうことは想像に難くない。しかし、彼らのこの活動を支援していくためには計画的でより緻密な指導方法が学校教育機関として共通の認識の下で共有されていなければならないであろう。

そこで、この小冊子では現段階で必要十分であるとは言えないまでも少なくとも指導教員のみならず活動の中心である学生諸君にとっても活動の障害になりうる可能性をひとつでも除去できるようクラブ活動指導における共通部分についてのマニュアル作成を試みた。諸氏の批判を仰ぎ、改訂を重ねることによってより有効な支援マニュアルになることを期待している。

本冊子は「特に安全管理を中心として」作成したが、安全管理は日常活動における安全管理と緊急事態における対処方法や、校外への遠征や対外試合等の活動条件（環境）の変化に対応すべき留意点などが重要ではないかと考え、「計画」と「内容」、そして「安全管理」と章立てしてまとめることとした。

「安全管理」の内容として、単なる事故発生の予防、いわゆるスポーツ外傷的な傷害の発生予防のみならず、内科的な疾病の予防や精神的な問題発生予防にも配慮する必要があると考え、活動計画や活動内容にも言及することとした。これは、日常のクラブ活動が思いつきや一時の感情で左右されることなく計画的で充実した内容で実施され、油断や慢心による事故発生誘引の蓄積・潜在化を防止するとともに蓄積疲労や慢性病等の発症予防の一助にもなると考えられるからである。また、計画的な日常活動の習慣は合宿・遠征等非日常的な活動時における安全管理意識をレベルアップさせることにもつながり、特殊条件下における危険率を軽減させてくれることにもなるであろう。このことは、単にクラブ員の安全を確保するという目的達成のみならず、指導教員の負担を軽減してくれるものでもある。

最後に、最も重要視される「安全管理」も実は日常活動の「計画と内容」の合理性が問われるであろうし、事故発生時の緊急連絡網や救急体制という対処方法を周知しておくということも計画や内容のひとつであるという認識の下で指導すべきであるという意識をもつことが最も「安全管理」を遂行していく有効な手段である。

各章において留意すべきポイントを要約して記載したので各クラブの実情に応じて応用して有効利用して頂ければ幸いである。

Ⅱ．活動計画

1．活動計画書の作成　　例　資料参照（Ⅴその他）

1）長期（年間）計画：1 年間の試合スケジュール・目標・目的等

2）中期（期間）計画：シーズン計画 or 大きい大会までの計画等

3）短期（週間）計画：日常活動や 1 週間単位のルーチンワークの計画等

4）合宿計画：目的別（大会前→強化、休暇中→親睦・強化）

＊ 年度当初に高専大会日程や行事予定表・高体連（高野連）活動計画表等を用いて年間スケジ

-2-

（出典　学生課）

資料２―２―③―４

「寮監マニュアル」

寮監マニュアル

福井工業高等専門学校

学寮（青武寮）

2011.4.1

目　　次

1.　日課に関する事項 ―― 1
(1)　自習時間

(2)　点呼
① 実施要領
② 点呼実施時間
③ 点呼開始時の放送内容
④ 点呼違反等について（外出届含む） ―― 2
＊不在者の確認

(3)　巡回
① 巡回方法
② 巡回時間 ―― 3
③ 日直者の巡回
④ 規則違反者への対応

(4)　清掃
① 清掃当番
② 実施日時
③ 実施要領

(5)　消灯

(6)　「作業」指導 ―― 4
① 作業時間
② 作業内容
③ 作業無視者への対応
―― 寮監のタイムテーブル（当直・日直） ――

(7)　検食

2.　規則違反、交通事故、病気、事件などに関する事項
(1)　規則違反
① 点呼無視 ―― 5
② 飲酒
③ 喫煙
④ 女子寮の門限
⑤ 部外者の寮内立ち入り

(2)　交通事故、病気等
☆ AED ―― 6
☆ 指定病院
☆ タクシーチケット
① 交通事故
② 一般的な事故、病気

(3)　事件
① 事件の概要の把握
② 事件の引継ぎ ―― 7
③ 保護者への連絡
５Ｗとは？

3.　緊急時における外注警備員への連絡

4.　留学生の長期休暇中の安全指導

5.　火災報知・警報などに関する事項 ―― 8
(1)　火災報知
① 火災の時
② 誤報の時

(2)　ガス漏れ警報
① ガス漏れの時
② 誤報の時

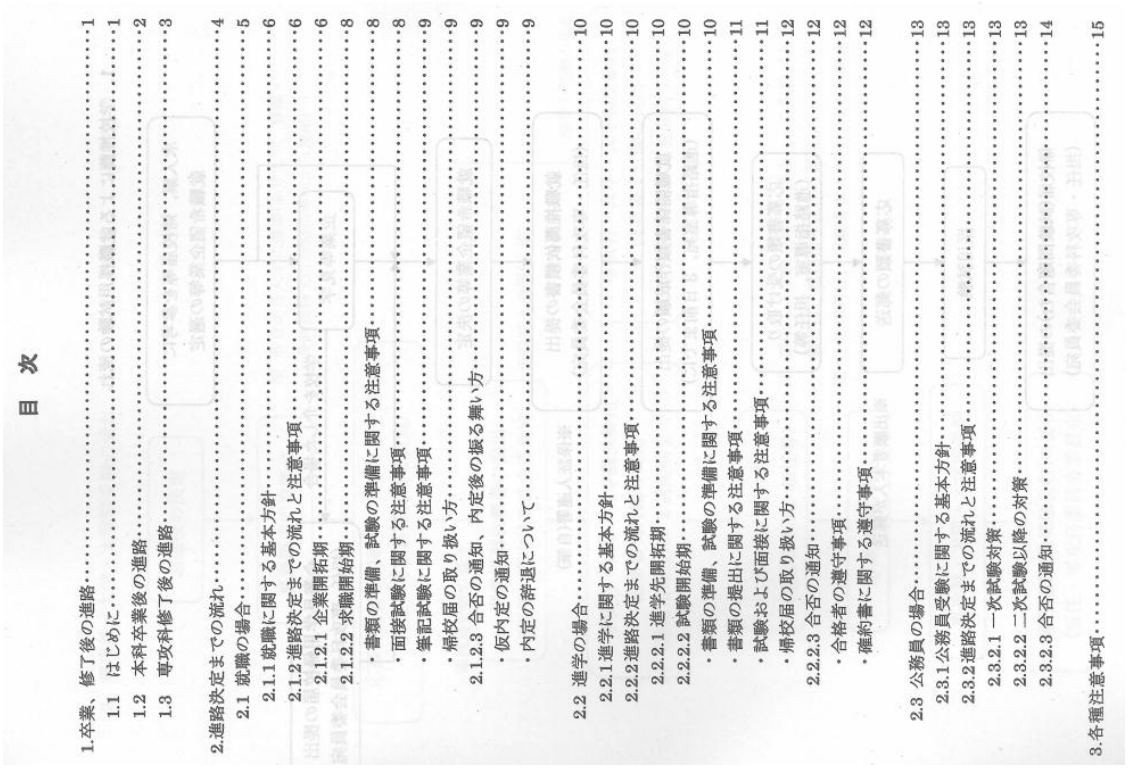
(3)　警報器が作動した時

別図「自動火災報知設備の取り扱い」　東寮・南寮 ―― 9
火災の場合 ―― 10～12
非火災の場合
別図「ガス漏れ警報設備の取り扱い」　東寮・南寮 ―― 13
誤報の場合（東・南） ―― 14
事務室・北寮 ―― 15
別図「北（女子）寮セキュリティ（復旧）解除方法等」 ―― 16～20

（出典　学生課）

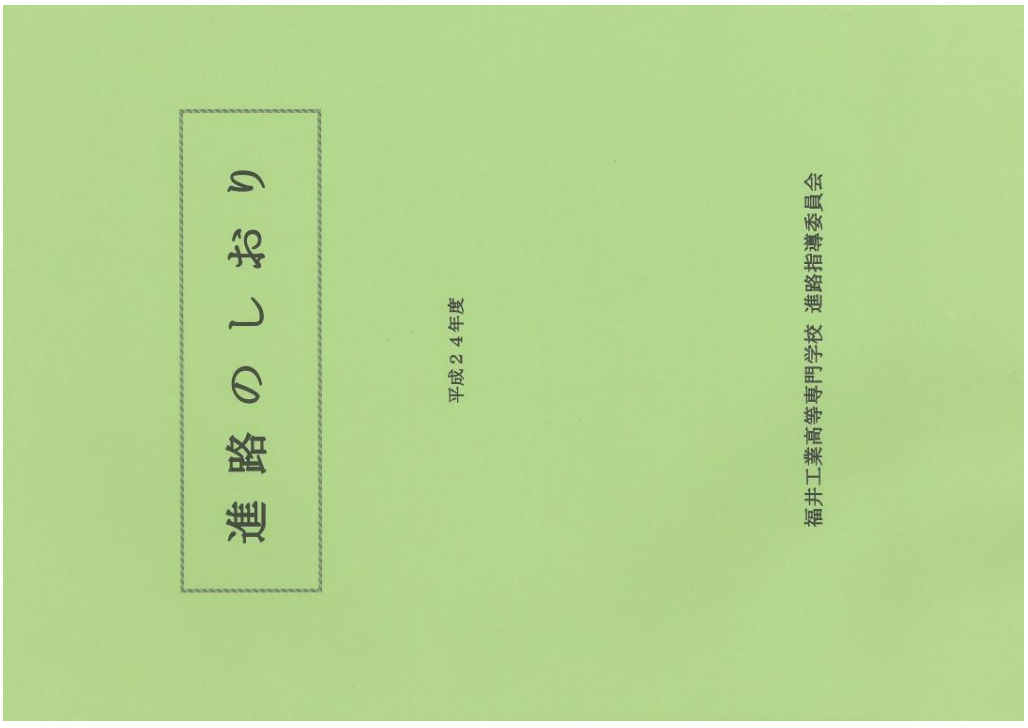
資料２―２―③―５

「平成２４年度進路のしおり」



目　次

1.卒業、修了後の進路……1
1.1 はじめに……1
1.2 本科卒業後の進路……2
1.3 専攻科修了後の進路……3
2.進路決定までの流れ……4
2.1 就職の場合……5
2.1.1 就職に関する基本方針……6
2.1.2 進路決定までの流れと注意事項……6
2.1.2.1 企業開拓期……6
2.1.2.2 求職開始期……8
・書類の準備、試験の準備に関する注意事項……8
・面接試験に関する注意事項……8
・筆記試験に関する注意事項……9
・帰校届の取り扱い方……9
2.1.2.3 合否の通知、内定後の振る舞い方……9
・仮内定の通知……9
・内定の辞退について……9
2.2 進学の場合……10
2.2.1 進学に関する基本方針……10
2.2.2 進路決定までの流れと注意事項……10
2.2.2.1 進学先開拓期……10
2.2.2.2 試験開始期……10
・書類の準備、試験の準備に関する注意事項……10
・書類の提出に関する注意事項……11
・試験および面接に関する注意事項……11
・帰校届の取り扱い方……12
2.2.2.3 合否の通知……12
・合格者の遵守事項……12
・確約書に関する遵守事項……12
2.3 公務員の場合……13
2.3.1 公務員受験に関する基本方針……13
2.3.2 進路決定までの流れと注意事項……13
2.3.2.1 一次試験対策……13
2.3.2.2 二次試験以降の対策……13
2.3.2.3 合否の通知……14
3.各種注意事項……15



進路のしおり

平成２４年度

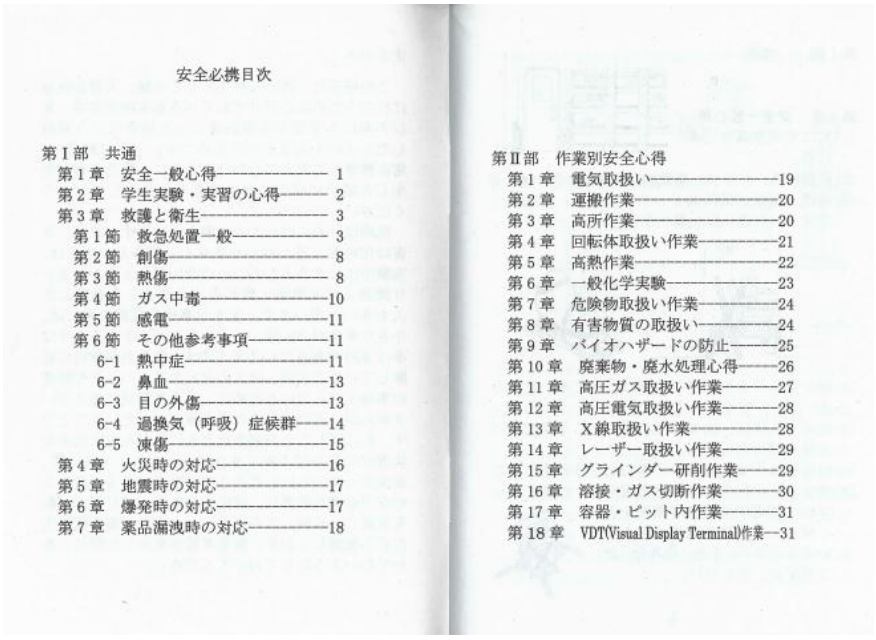
福井工業高等専門学校 進路指導委員会

（出典　学生課）

一般科目教室や各学科における実験・実習等の実施に際しては，全教職員と学生に配布している国立高等専門学校発行の「実験実習安全必携」（資料２―２―③―６）に基づいた安全教育を年度第一回目の授業の際に行っている。また，これらの実験・実習等においては教育研究支援センター（前出資料２―１―③―１５）に所属する技術職員が，各学科等と連絡を密にとりながら支援している（前出資料２―１―③―１７）。なお，同センターでは実験・実習で使用する器具のほか，課外活動クラブの要請に応じて用具の補修や製作支援等も担当している（前出資料２―１―③―１８）。

資料２―２―③―６

「実験実習安全必携」



安全必携目次

第Ⅰ部　共通
第１章　安全一般心得―― 1
第２章　学生実験・実習の心得―― 2
第３章　救護と衛生―― 3
第１節　救急処置一般―― 3
第２節　創傷―― 8
第３節　熱傷―― 8
第４節　ガス中毒――10
第５節　感電――11
第６節　その他参考事項――11
6-1　熱中症――11
6-2　鼻血――13
6-3　目の外傷――13
6-4　過換気（呼吸）症候群――14
6-5　凍傷――15
第４章　火災時の対応――16
第５章　地震時の対応――17
第６章　爆発時の対応――17
第７章　薬品漏洩時の対応――18
第Ⅱ部　作業別安全心得
第１章　電気取扱い――19
第２章　運搬作業――20
第３章　高所作業――20
第４章　回転体取扱い作業――21
第５章　高熱作業――22
第６章　一般化学実験――23
第７章　危険物取扱い作業――24
第８章　有害物質の取扱い――24
第９章　バイオハザードの防止――25
第10章　廃棄物・廃水処理心得――26
第11章　高圧ガス取扱い作業――27
第12章　高圧電気取扱い作業――28
第13章　X線取扱い作業――28
第14章　レーザー取扱い作業――29
第15章　グラインダー研削作業――29
第16章　溶接・ガス切断作業――30
第17章　容器・ピット内作業――31
第18章　VDT(Visual Display Terminal)作業―31

（出典　国立高等専門学校機構）

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動の支援体制として事務部が組織化されており，さらに「教育研究支援センター」所属の技術職員による支援も充実しており，円滑に教育活動を実施しているといえる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学科，専攻科，センターや事務組織等は，本校の教育目的を達成するために必要な観点から設置・整備されている。また，本科３学年までの学級担任と副担任は，一般科目教室と専門学科所属の教員が務めるほか，“教員間ネットワーク会議”や“教育システム推進委員会”等が設けられ，教員間，委員会間のみならず事務部とも連携を取りながら効率良く，かつ円滑にPDCAサイクルに沿って本校全体の教育改善と質の向上が図れるシステムが構築されている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準２の自己評価の概要

本科は基本理念に基づいて環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を実践する機械工学，電気電子工学，電子情報工学，物質工学，及び環境都市工学の５学科から構成され，学科毎に教育目的を定めており，さらにこれら５学科の教育内容等は福井県の主幹産業のニーズにも対応している。本校では，５年間の本科の上に生産システム工学と環境システム工学の２専攻で編成された２年間の専攻科課程を設置しており，専攻科における学習・教育目標は本科におけるそれをさらに発展させたもので，専攻科が目指すエンジニア像は，本校の養成すべき人材像に基づいて「得意とする専門分野を持つことに加え，他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し，自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた，国際社会で活躍できる実践的技術者」となっている。これらの学科と専攻の構成は学則で規定されており，本校の教育目的を達成する上で適切である。

本校の教育目的を達成するための全学的なセンターとして，総合情報処理センター，地域連携テクノセンター及び教育研究支援センターがあり，各センターは教育目標を達成するために機能的に運営・運用されている。特に，「地域連携テクノセンター」や「教育研究支援センター」は，学生と教職員の研究活動の推進のみならず，地域貢献にも大きく寄与している。

教育活動を有効かつ円滑に展開するために，校長の下，学校運営会議，教員会議や各委員会の規則等も明文化され機能しており，さらにそれらが有機的に連携してPDCAサイクルに基づいた本校全体の教育改善システムが構築されている。教員会議を始めとする各委員会は一般科目及び専門科目担当教員で構成され，また「教員間ネットワーク会議」を定期的に開催するなど，教員間の連携が常時取られている。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の一般科目担当教員は常勤２３名（博士と修士の学位取得者は，それぞれ９名と１３名），非常勤等２３名，合計４６名で構成され（資料３－１－①－１，２），高等専門学校設置基準第６条第２項に規定されている『一般科目を担当する専任者は，５学級を有する場合は２２名を下回ってはならない』の要件を満たしている。また，観点１－１－①において具体的に述べた本校の学習・教育目標（前出資料１－１－①－３，４）を達成するために，一般科目では専門科目を学ぶうえで基礎となる科目と，社会人としての一般常識や豊かな人間性を育むために必要な科目が配置され，教員は各自の専門分野に適合した授業科目を担当しているほか，実務経験として小中高等学校での教育実績を有する常勤教員が１１名，他高専での教育実績を有する常勤教員が２名在職しており，幅広い観点からの厚生補導・基礎教育体制の醸成に寄与している。さらに，平成１７年度から設けた本校独自の教育制度である「工学基礎コース」，１年次の混合学級及び２年次以降の学科ごとの学級編成に対応した学級担任を自然系ならびに人文系から選出しており，幅広い教養を礎にした人間性の形成に主眼を置き，学生生活導入期の重要な学級運営を行っている。なお，「工学基礎コース」とは本校への入学意思はあるものの，志望学科が絞り込めない中学生・保護者や中学校関係者からの意見に基づいて平成１７年度より導入した本校独自の制度で，１年から２年進級時に本人の意思と成績により転科が可能なコースである。

養成すべき人材像『優れた実践力と豊かな創造性を備え，国際社会で活躍できる技術者』に即して，１年次の英語科目と４・５年次の中国語科目（選択必修）においてネイティブスピーカー（非常勤）を配置し外国語教育にあたっている。また，専攻科における現代英語科目（必修）においてもネイティブスピーカー（非常勤）による教育指導がなされている。

資料３－１－①－１

「一般科目担当教員の配置」

自然系			
科目名	**常勤(職名)**	**専門分野等**	**非常勤等**
数学	坪川武弘(教)	数学教育，応用数学	近藤基和
	長水壽寛(教)	数学教育，トポロジー，博士(理学)	国村政子
	柳原祐治(准教)	確率論，数理物理学，修士(理学)，2B担任	清尾八郎
	井之上和代(准教)	数学教育，代数幾何，修士(理学)	松原邦昭
応用数学	朝倉相一(教)	応用数学，理学修士，F4担任	
	中谷実伸(准教)	代数幾何学・無限可積分系，博士(理学)	
物理	岡本拓夫(教)	地震学，博士(工学)	松田和久
			青木礼三
応用物理	加藤清考(准教)	素粒子論，場の理論，博士(理学)，2C担任	
	池田昌弘(講)	材料物理学，博士(理学)，2M担任	
化学	山本裕之(教)	セルロース科学，F3担任	牧野芳之
生物			安野敏勝
保健体育	島田茂(教)	運動生理学，教育学修士，F5担任	今富満彦
	東章弘(准教)	スポーツバイオメカニズム，健康科学，教育学修士	山本 治
	山田孝禎(講)	老年学，運動生理・生化学，博士(学術)	菅野紀昭
人数計	13		11

※平成２４年５月１日現在

（出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.27，平成２４年度開講科目調書）

資料３－１－①－２

「一般科目担当教員の配置」

人文系			
科目名	**常勤(職名)**	**専門分野等**	**非常勤等**
国語	大久保弦(准教)	国文学，文学修士	前田安信(嘱託教授)
	中村吉秀(准教)	日本語学，教育学修士，F2担任	村田千津子
中国語			王玉
			林文嫻
ドイツ語			田中まり
法学			丹尾哲
倫理社会	森芳周(准教)	哲学，倫理学，博士(文学)，2E担任	
政治経済	廣重準四郎(教)	西洋経済史，経済学修士	
歴史	荻野繁春(教)	考古学，文学修士，F1担任	竹内 亮
地理			門井直哉
音楽			石井美鶴
美術			岩本宇司
英語	小寺光雄(教)	英語教育，文学修士	ウィルキ ウィリアム
	森貞(准教)	認知言語学，英語学，博士(文学)，2Ei担任	村かおり
	原口治(准教)	イギリス文学，修士(文学)	
	吉田三郎(准教)	英語教育学，教育学修士	
	宮本友紀(講)	英語教育，言語コミュニケーション，修士(教育学，理学)	
人数計	10		12

※平成２４年５月１日現在

※嘱託教授１名は，非常勤等教員として計上した。

（出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.27，平成２４年度開講科目調書）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成に照らしての一般科目の常勤教員数は，高等専門学校設置基準をやや上回る程度であるが，適切な非常勤講師に依頼することにより，本校の教育目的等を達成すべく一般科目としてなすべき教育の実現は可能な配置となっている。また，常勤教員のほとんどが修士以上の学位取得者であるのに加えて，実務経験として小中高等学校での教育実績を有する常勤教員が１１名，他高専での教育実績を有する常勤教員が２名在職しており，高等専門学校の工学の専門性と全人教育が効果的に機能するのに十分な質を有した教員が配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校設置基準第６条第３項及び本校の教育目標（前出資料１－１－①－３）に則り，機械，電気電子，電子情報，物質工学及び環境都市の各学科は（資料３－１－②－１）に示す開講科目に対し，常勤５２名（博士と修士の学位取得者は，それぞれ４７名と４名），非常勤等２５名，合計７７名で構成されている。科目別の教員配置は，教育課程を踏まえつつ，各教員の専門分野を鑑み各学科において審議，決定されている。一部の専門科目については，より適切な教育サービスを学生に提供するため，非常勤講師に依頼している。さらに，企業・機関での実務経験を有する常勤教員が各学科に配置されており（資料３－１－②－２），学習・教育目標に掲げる『実践的能力と論理的思考能力を身に付ける』等を涵養するにふさわしい教員配置となっている。

資料３－１－②－１

「学科ごとの専門科目担当教員の配置状況」

機械工学科

科目名	常勤(役職)	専門分野
材料学	安丸尚樹	材料工学
材料科学	(教授)	
機械設計製図		
工業力学	田中嘉津彦	流圧工学
振動工学	教授	トライボロジー
アイディア設計工学		
機械製図		
機械工作法	加藤寛敬	材料工学
メカトロニクス	(教授)	トライボロジー
創造工学演習		機械工作法
機械工作実習		
流れ学	藤田克志	流体工学
流体機械	(教授)	
機械設計製図		
機械工学概論	松尾光恭	工作機械
電子応用	(教授)	マイクロ加工
生産技術演習		計測解析
機械工作実習		
機械設計製図		
熱力学	芳賀正和	熱・物質移動
伝熱工学	(准教授)	
熱機関		
機械設計製図		
材料力学	村中貴幸	塑性加工学
知能機械演習	(准教授)	
機械設計製図		
アイディア設計工学		
自動制御	亀山建太郎	制御工学
C言語基礎	(准教授)	
C言語応用		
知能機械演習		
機械工作実習	千徳英介	レーザ加工
知能機械演習	(講師)	
機械設計法	金田直人	繊維機械
機構学	(助教)	機構設計
機械製図		
創造工学演習	五味伸之	品質工学
C言語応用	(助教)	工程管理
センサ工学		
機械計算力学		
機械工作実習		
科目名	**非常勤等**	
電気工学	茂呂能一郎	
生産技術演習	伊坂篤美	
	塙 将	
	大西武夫	
システム工学	井上清一	
ロボット工学		

電気電子工学科

科目名	常勤(役職)	専門分野
電力システム	川本 昂	電気・電子材料物性
パワーエレクトロニクス	(教授)	
情報処理システム論		
電子材料		
電気回路	大久保茂	通信工学
情報通信工学	(教授)	
電気磁気学		
電気回路演習	山本幸男	電子材料物性
電子工学	(教授)	
電気電子応用工学		
電気材料		
電気磁気学	佐藤匡	制御工学
制御工学	(准教授)	
現代制御工学		
電子創造工学	荒川正和	電子物性
ディジタル技術	(准教授)	電子デバイス
情報処理	米田知晃	イオン注入
電子工学	(准教授)	イオン散乱分光法
計測工学		
電子創造工学		
情報処理システム論	丸山晃生	数理論理学
情報処理	(准教授)	
電子回路	河原林友美	人工知能
工業英語	(講師)	
電子創造工学		
電気回路	石栗慎一	超電導工学
電気機器	(助教)	超電導物理
電気磁気学	竹本泰敏	電力システム
電子創造工学	(助教)	
パワーエレクトロニクス		
科目名	**非常勤等**	
計測工学	前多信博	
電気電子設計	(嘱託教授)	
電気数学		
電気回路	川崎章司	
電力システム	野波隆行	
	横山恭太	
電気法規	河合賢一	
情報処理システム論	久保長徳	
電気電子応用工学	勝山俊夫	
電子材料・デバイス	田邉英彦	

電子情報工学科

科目名	常勤(役職)	専門分野
プログラミング基礎	董田昇	教育工学
オペレーティングシステム	(教授)	認知工学
認知科学		
制御工学		
電気回路	野村保之	統計力学
情報理論	(教授)	物性基礎論
システム工学		プラズマ物理学
プログラミング応用	斉藤徹	計算機アーキテクチャ
情報構造論	(教授)	情報ネットワーク
データベース		
信号解析基礎	下條雅史	基礎物理
情報理論	(准教授)	素粒子物理
情報数学		
情報工学基礎	青山義弘	計算機工学
情報基礎演習	(准教授)	
論理回路		
計算機構成論		
工業英語		
計算機アーキテクチャ		
電気磁気学	高久有一	核融合論理物理学
ディジタル信号処理	(准教授)	計算機シミュレーション
電子工学基礎		media システムプログラミング
創造工学演習		
計算機シミュレーション		
計算機構成論	西仁司	システムシミュレーション
	(准教授)	
情報基礎演習	村田知也	知覚情報処理
数値計算	(助教)	知能ロボティクス
ソフトウェア工学		
人工知能	小松貴大	認知科学
	(助教)	運動学習
電気磁気学	川上由紀	通信・ネットワーク工学
	(助教)	
科目名	**非常勤等**	
電子回路	前川公男	
通信システム	(嘱託教授)	
情報ネットワーク		
電子材料・デバイス	田邉英彦	
制御工学	森	
機械工学概論	松本隆康	
半導体工学	葛原正明	

物質工学科

科目名	常勤(役職)	専門分野
分析化学	小泉貞之	分析化学
化学	(教授)	環境科学
機器分析		
放射線概論		
生物化学	上島晃智	生化学
微生物学	(教授)	分析化学
生理学		機器分析
電気化学	津田良弘	触媒化学
有機化学	(教授)	生物無機化学
生物機能化学		
有機材料化学		
機能材料化学		
電気化学	常光幸美	金属表面化学
材料工学	(教授)	
物理化学		
無機化学		
無機材料化学		
基礎材料化学		
生物化学	高山勝己	生物電気化学
応用微生物学	(教授)	生物学
コンピュータ科学入門	平井恵子	画像処理・理解
プログラミング基礎	(准教授)	情報科学
計測工学		
情報ネットワーク		
化学工学	加藤敏	化学工学
反応工学	(准教授)	高分子材料
設計製図		微粒子材料
物理化学	西野純一	無機材料化学
無機化学	(准教授)	
量子化学		
設計製図		
有機化学	松井栄樹	有機電気化学
生命科学	(准教授)	生物有機化学
工業英語		
合成化学		
遺伝子工学	川村敏之	遺伝子工学
分子生物学	(講師)	生物工学
環境微生物学		化学物質影響科学
科目名	**非常勤等**	
情報化学	吉村忠與志	
情報処理演習	(嘱託教授)	
計測制御		
環境科学		
基礎工学概論	河合勝清	
	仁木秀明	
品質管理	北畑進	

環境都市工学科

科目名	常勤(役職)	専門分野
水理学	廣部英一	水工学
河川工学	(教授)	河川工学
環境都市工学実験実習		応用生態工学
水文学		
環境都市計画論	武井幸久	地域・都市・地区計画
都市交通工学	(教授)	交通・交流計画
計画数理学		身体論
地域都市計画		
建設材料学	山田幹雄	廃棄物利用
建設複合材料	(教授)	浅層地盤改良
舗装工学		
コンクリート構造学	阿部孝弘	コンクリート工学
環境都市工学設計製図	(教授)	破壊力学
環境都市工学実験実習		
数値解析		
地震工学	吉田雅穂	地震防災工学
構造力学	(教授)	
環境都市工学実験実習		
構造デザイン		
環境保全工学	奥村充司	上下水道工学
環境衛生工学	(准教授)	水環境工学
地盤工学	辻子裕二	地盤防災工学
測量学	(准教授)	空間情報学
環境都市工学実験実習		
防災工学		
構造力学	辻野和彦	空間情報工学
測量学	(准教授)	
応用測量学		
環境都市工学実験実習		
環境都市工学実験実習	香月壮亮	都市環境
建築環境	(講師)	建築環境
水理学	田安正茂	海岸工学
環境都市工学実験実習	(助教)	
海岸工学		
環境都市工学設計製図	江本晃美	建築設計
建築計画	(助教)	都市・地域計画
建築設備		
科目名	**非常勤等**	
構造力学	前島正彦	
鋼構造学		
施工管理学	松村淦美	
建設法規	森下篤郎	

※平成２４年５月１日現在

※校長除く

※嘱託教授３名は，非常勤等教員として計上した。

（出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.12～ｐ.24，平成２４年度開講科目調書）

資料３－１－②－２

「各学科の学位取得者及び企業・機関経験者の配置状況」

学科名	常勤教員数	学位取得者数		企業･機関経験者数
		修士	博士	
機械工学科	11	0	11	7
電気電子工学科	10	0	10	3
電子情報工学科	10	1	8	2
物質工学科	10	1	9	1
環境都市工学科	11	2	9	2

※平成２４年５月１日現在

（この他，物質工学科の教員１名が人事交流により豊橋技術科学大学に出向中）

（出典　教員総覧データから作成）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成に照らして各学科の教員は適切に配置されている。教育課程は時代の要請に応じて適宜見直され，適切なカリキュラムの編成がなされている。これに対する人員配置も，高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく，学位取得者，企業経験者を各学科に配置するな

ど教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科は，生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻の２専攻で構成されている。これらの専攻は，本科４・５年次とともに単一の技術者教育プログラムである「環境生産システム工学プログラム」を構成しており，目指すエンジニア像及びこれを実践するために５つの大きな項目とそれらを２０の小項目に細分化した学習・教育目標(JA①～JE⑤)が定められている(前出資料１－１－①－４)。これらの目標を達成するために，教員の専門性を考慮した適切な配置がなされている。また，より深い一般基礎知識と幅広い専門知識を教授するために，修士又は博士の学位を取得している教員を，担当授業科目とそれぞれの専門分野とを適合させつつ，厳格かつバランスよく配置している。なお，専攻科担当教員は，全員が大学評価・学位授与機構による７年ごとの審査で認定された者である（資料３－１－③－１，２）。

資料３－１－③－１

専攻科開講科目(一般科目及び専門共通科目)と担当教員の配置状況

専攻科一般科目と担当教員

科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
現代英語	原口治(准教授)	文学修士	イギリス文学
生命進化論	森芳周(准教授)	博士(文学)	哲学
東西技術史論	荻野繁春	文学修士	考古学
専攻科専門共通科目と担当教員			
科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
技術者倫理	森芳周(准教授), 吉村忠(嘱託教授), 吉川(非)	博士(文学)	哲学
創造デザイン演習	阿部孝弘(教授), 亀山, 丸山, 下條, 加藤, 田安	博士(工学)	コンクリート工学
デザイン工学	藤田克志(教授), 江本, 高麗(非)	博士(工学)	流体力学
先端材料工学	安丸尚樹(教授), 川本, 山田, 常光, 高木(非)	博士(工学)	材料学
環境工学	奥村充司(准教授), 相川(非), 桶谷(非), 長谷川(非)	工学修士	衛生工学, 水環境学
地球環境	吉村忠(嘱託教授)	理学博士	分析化学
経営工学	中西登志夫(非)		
インターンシップ			
ものづくり情報工学	青山義弘(准教授), 亀山,石栗, 蘆田, 吉村, 辻野, 川岸(非)	博士(工学)	計算機工学
画像情報処理	平井恵子(准教授)	博士(工学)	画像処理
連続体力学	藤田克志(教授), 村中	博士(工学)	流体力学
量子力学	加藤清考(准教授)	博士(理学)	素粒子論
地球物理	岡本拓夫(教授)	博士(工学)	地震工学
現代数学論	中谷実伸(准教授)	博士(理学)	代数幾何学
工業数理	長水壽寛(教授)	博士(理学)	数学教育
物質科学	西野純一(准教授)	博士(工学)	無機材料化学
生物学	山本裕之(教授), 川村	博士(工学)	セルロース科学

（出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.31，平成２４年度開講科目調書）

資料３－１－③－２

専攻科開講科目(専門展開科目)と担当教員の配置状況

専攻科専門展開科目(生産システム工学専攻)と担当教員

科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
生産ｼｽﾃﾑ工学実験Ⅰ	安丸尚樹(教授), 村中, 山本幸, 川本, 米田, 下條, 青山	博士(工学)	材料学
生産ｼｽﾃﾑ工学実験Ⅱ	安丸, 加藤寛, 藤田, 村中, 松尾, 前多, 山本, 佐藤, 加藤, 下條, 斉藤	博士(工学)	材料学
生産ｼｽﾃﾑ工学演習Ⅰ	金田直人(助教), 荒川, 下條	博士(工学)	繊維機械
生産ｼｽﾃﾑ工学演習Ⅱ	亀山建太郎(准教授), 千徳, 金田, 荒川, 下條	博士(工学)	制御工学
生産ｼｽﾃﾑ工学特別研究	特別研究指導教員		
設計生産工学	加藤寛敬(教授), 松尾	Ph.D	材料工学
生産材料工学	安丸尚樹(教授)	博士(工学)	材料学
エネルギー変換工学	芳賀正和(准教授), 田中	博士(工学)	熱力学
人間－機械システム	亀山建太郎(准教授), 才田(非)	博士(工学)	制御工学
計測･制御工学	佐藤匡(准教授)	博士(工学)	制御工学
電子物性工学	山本幸男(教授)	博士(工学)	電子材料物性
システムプログラム	蘆田昇(教授)	法学士	認知科学
光学基礎	西仁司(准教授)	博士(工学)	システムシミュレーション
電子機器工学	川本昴(教授), 川崎(非)	博士(工学)	電気･電子材料物性
情報通信システム	大久保茂(教授), 田辺	工学博士	通信工学
計算機システム	斉藤徹(教授), 青山	博士(工学)	情報ネットワーク
ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	斉藤徹(教授)	博士(工学)	情報ネットワーク

専攻科専門展開科目(環境システム工学専攻)と担当教員

科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
環境ｼｽﾃﾑ工学実験Ⅰ	常光幸美(教授), 高山, 加藤敏, 河村, 武井, 山田, 廣部, 田安	工学博士	金属表面化学
環境ｼｽﾃﾑ工学実験Ⅱ	加藤敏(准教授), 松井, 川村, 西野, 奥村, 辻子, 辻野	博士(工学)	化学工学
環境ｼｽﾃﾑ工学演習Ⅰ	加藤敏(准教授), 川村, 山田	博士(工学)	化学工学
環境ｼｽﾃﾑ工学演習Ⅱ	加藤敏(准教授), 川村, 山田	博士(工学)	化学工学
環境ｼｽﾃﾑ工学特別研究	特別研究指導教員		
有機反応化学	松井栄樹(准教授)	博士(薬学)	有機電気化学
生物化学工学	上嶋晃智(教授)	理学博士	生化学
触媒化学	津田良弘(教授)	博士(工学)	触媒化学
材料化学	常光幸美(教授)	工学博士	金属表面化学
動的構造デザイン	吉田雅穂(教授), 辻子, 前島(非)	博士(工学)	地震防災工学
化学プロセス工学	加藤敏(准教授)	博士(工学)	化学工学
応用微生物工学	髙山勝己(教授)	博士(農学)	生物工学
環境水工学	廣部英一(教授)	博士(工学)	水工学
建設構造･材料学	阿部孝弘(教授), 山田	博士(工学)	コンクリート工学
環境都市システム工学	武井幸久(教授)	博士(工学)	都市計画
都市防災システム	辻子裕二(准教授), 吉田, 松森(非)	博士(工学)	空間情報工学
環境施設設計	奥村充司(准教授)	工学修士	衛生工学, 水環境学

(出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.31，平成２４年度開講科目調書)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成はもとより，本校の目的と設定目標に則った当該科目を担当する教員配置が適切になされている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育活動を適切に行うために，高等専門学校設置基準に則って教員選考規則を制定し，採用や昇任選考を行っており，採用に際しては公募制とし，複数の候補者から優秀な者を選考している。年齢構成比率のパイチャート（資料３－１－④－1）からわかるように本校では３０，４０，５０歳代の比率がほぼ等分されている。また，本校では教員の公募案内において“教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合は，女性を積極的に採用する”旨の記載を行い，女性教員の積極的な採用に努めており（資料３－１－④－２），現在７名の女性常勤教員が在職している（資料３－１－④－３）。女性教員の働きやすい職場環境を整えるため，学寮宿直業務の免除や育児休業取得に配慮するなどの措置を講じている。

職務上必要な資格である博士の学位についても，本校教員の取得状況は高レベルであり，専門科目（理系の一般科目を含む）を担当する常勤教員６５名のうち，約８２％を占める５３名が同資格を取得している。この数値は国立高等専門学校機構第２期中期計画における目標の７０％を上回っており，高等教育機関にふさわしい専門教育が可能となっている。

教員組織の活動がより活発になるように，内部組織規則に則り設けられた創造教育開発センター(前出資料２―２―②―２)が主体となり，（資料３－１－④－４）に示すように学内外において様々なＦＤ活動が実施されている。例えば，校内のＦＤ活動の一つとして公開授業週間（平成２３年度は6/２７～7/1に実施）を設け，教員が他の教員の授業を参観できる制度がある（資料３－１－④－５）。

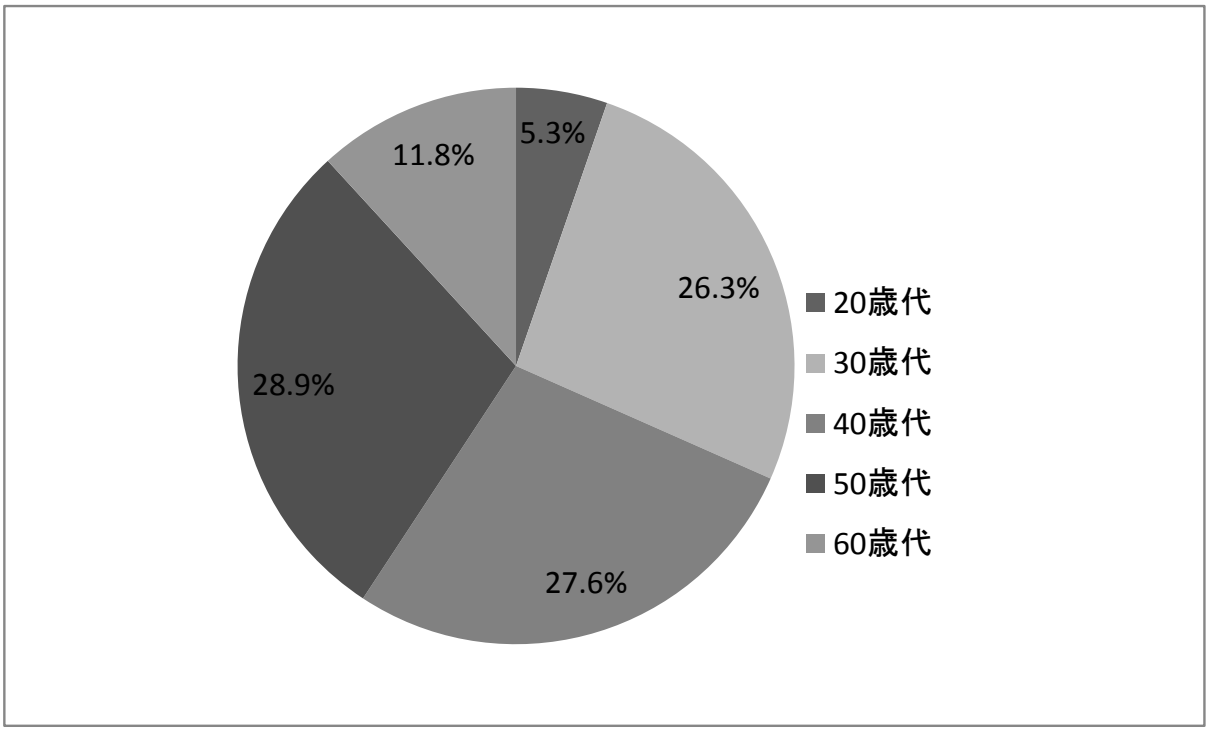
さらに，校長裁量経費による教育研究活動への支援を行っている。同経費による事業の採択は，校長ヒアリングを通して決定され（資料３－１－④－６，７），採択された事業は年度末に成果報告書の提出が求められる。この内，特徴的な事業については全教員を対象にした成果報告の発表を行っている（資料３－１－④－８）。

本校では毎年度末，優れた実績を残した教職員を対象に校長表彰を行い（資料３－１－④－９，１０），教職員の勤務意欲の高揚と本校の活性化に寄与している。

この他，教員組織の活動の活発化のために，国立高等専門学校機構の高専・両技術科学大学間人事交流，在外・内地研究員の各制度を活用している（資料３－１－④－１１，１２）。

資料３－１－④－１

「教員の年齢構成一覧」



（出典　本校ホームページ 教育情報
http://www.fukui-nct.ac.jp/info/edu_info/data/kyousyokuin_kousei.pdf より作図）

資料３－１－④－２

「本校教員公募案内例」

一般科目教室自然科学系教員（数学）の公募について

１．職名人員　　１名（准教授又は講師）
２．所属学科　　一般科目教室自然科学系
３．専門分野　　数学
４．担当科目　　本科の数学科目、応用数学科目および専攻科の科目
５．応募資格　　次の(1)～(4)のいずれの条件にも該当する方
(1) 博士の学位を有することが望ましい。学位を有しない場合は、着任までに取得見込み、又は着任後の学位取得に熱意のある方。
(2) 心身ともに健康で、高等専門学校での教育・研究・地域貢献に関心を持ち、クラス担任、クラブ指導および学生寮の学生指導等に理解と熱意がある方
(3) 一般科目教室および数学科の運営等に協力できる方
(4) 専門分野における研究実績を有する方
６．採用時期　　平成 24 年 9 月 1 日 以降、可能な限り早い時期
７．提出書類　　(1) 採用・昇任候補者個人調書（第 1 号様式）
(2) 著書及び論文等一覧（第 2 号様式）
(3) 著書及び論文等の概要（第 3 号様式）
(4) 上記(3)で概要を記した主要論文・解説記事等（コピー可）
(5) 著書及び論文等以外の業績又は職務経験を有する方については、その内容を記したもの（第 4 号様式）
(6) 高等専門学校における教育・研究等についての抱負（第 5 号様式）
(7) 応募者について意見を伺える方の連絡先（氏名、所属、電話番号、メールアドレス等）があれば望ましい
※ 第 1 号様式～第 5 号様式は、本校ホームページ内から取得して下さい。
(http://www.fukui-nct.ac.jp/info/kyouinkoubo.html)
８．選考方法　　(1) 第 1 次選考　書類審査
(2) 第 2 次選考　第 1 次選考合格者を対象に面接審査
（健康診断書持参のこと。旅費及び宿泊費等は自己負担となります。）
９．応募締切　　平成 24 年　5 月　21 日（月）（必着）
１０．書類提出先　　〒916-8507　福井県鯖江市下司町
福井工業高等専門学校　総務課人事労務係
Tel：0778-62-8202（直通）、Fax：0778-62-2597
※封筒に「一般科目教室自然科学系教員（数学）公募書類在中」と朱書の上、簡易書留で郵送して下さい。応募書類は返却致しません。
１１．問合せ先　　福井工業高等専門学校　一般科目教室自然科学系主任　長水壽寛
Tel：0778-62-8231（教員室直通）、E-mail：nagamizu@fukui-nct.ac.jp
１２．その他　　応募者から提供される個人情報は、福井工業高等専門学校の教員を採用する目的を達するために利用するものであり、福井工業高等専門学校以外の第三者に提供、又は公表することはありません。
なお、本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には女性を積極的に採用します。

（出典　総務課）

資料３－１－④－３

「教員の男女構成一覧」

区分		校長		教員								計		計
				教授		准教授		講師		助教				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
校長		1										1	0	1
一般科目教室				9		10	1	2	1			21	2	23
専門学科	機械工学科			5		3		1		2		11	0	11
	電気電子工学科			3		4			1	2		9	1	10
	電子情報工学科			3		4				2	1	9	1	10
	物質工学科			4	1	3	1	1				8	2	10
	環境都市工学科			5		3		1		1	1	10	1	11
計		1	0	29	1	27	2	5	2	7	2	69	7	76

（出典　本校ホームページ 教育情報 http://www.fukui-nct.ac.jp/info/edu_info/data/kyousyokuin_kousei.pdf より作成）

資料３－１－④－４

「平成２３年度ＦＤ関連行事一覧」

期日	名　称
4月1日	新任教職員オリエンテーション
6月3日	第7回Fレックスシンポジウム
6月27日～7月1日	公開授業週間
7月20日	非常勤講師との教育課程に関する意見交換会
7月21日	第49回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会
7月26日	教職員のためのハラスメント防止に関する講演会
7月29日～8月4日	前期授業アンケート
8月1日～8月3日	高等専門学校技術職員研修
8月4日	平成23年度「就職・キャリア支援教職員研修会」
8月8日	メンタルヘルス講習会
8月26日～8月27日	第2回FD合宿研修会
8月29日～8月31日	高等専門学校新任教員研修会
8月30日～9月1日	東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（物質系）
9月1日	科学研究費補助金制度に関する講演会
	本科卒業生及び専攻科修了性の教育達成度に関するアンケート実施
	＜企業・大学・専攻科・公共団体宛て：平成19～21年卒業＞
9月7日～9月9日	高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）
9月8日～9月9日	平成23年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会
9月26日～9月27日	高等専門学校教員研修（管理職研修）
10月1日	卒業生・修了生アンケート実施＜卒業生・修了生宛：平成19～21年＞
11月9日～11月11日	東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修（複合領域コース）
11月24日	全国学生指導担当教職員研修会
12月6日	創造教育開発センター主催FD研修会
12月17日	平成23年度「就職・キャリア支援教職員研修会（専門コース第2回）」
2月4日	FD講演会「アンケートから見る福井高専の学生の特徴」
1月26日～1月27日	第8回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会
2月9日	平成23年度 学生の自殺予防に関する研修会
2月14日～2月23日	後期授業アンケート
3月3日～3月4日	平成23年度 東海・北陸地区国立高等専門学校新任教員研修会

（出典　国立福井高専要覧２０１２，ｐ.35）

資料３－１－④－５

「平成２２年度公開授業週間参観状況」

		参観したクラス							専門基礎(1年)		専攻科	合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	もの科学	コン入門	共通科目	
参加教員の所属	機械	2	1			1	1					5
	電気電子	2	7								1	10
	電子情報			3						1		4
	物質				6							6
	環境都市					8	1					9
	自然	1					5	2				8
	人文						2	2				4
合計		5	8	3	6	9	9	4	0	1	1	46

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械		2	2	1			5
	電気電子		2	4	2	1	1	10
	電子情報	1		2	1			4
	物質		2	1	1	2		6
	環境都市		6	2	1			9
	自然	3	1	2	2			8
	人文	2	1			1		4
合計		6	14	13	8	4	1	46

（出典　平成２２年度創造教育開発センター年次報告書）

資料３－１－④－６

「平成２３年度校長裁量経費配分額一覧」

平成23年度校長裁量経費配分額一覧

No	代表者	学科・教室等	区分	要求プロジェクト名	要求書提出者(及び主たる使用者)	査定額(千円)
1	亀山	機械工学科	プロジェクト	機械工学科・電気電子工学科における 組み込み系技術者育成教育の充実	亀山　建太郎　准教授 五味　伸之　助教 米田　知晃　准教授 丸山　晃生　准教授	[redacted]
2	石栗	電気電子工学科	プロジェクト	中学生が運転できるソーラーカーの改修	川本　昇　教授 佐藤　匡　准教授 河原林友美　嘱師 石栗　慎一　助教 五味　伸之　助教	[redacted]
3	高山	物質工学科	プロジェクト	遺伝子工学実験における遺伝子増幅(PCR)関連 実験の充実化	上島　晃智　教授 高山　勝己　准教授	[redacted]
4	森	一般科目(人文)	プロジェクト	英語学習支援システムの構築による 英語教育改革プロジェクト	小寺　光雄　教授 森　貞　准教授 原口　治　准教授 吉田　三郎　准教授 宮本　友紀　講師	[redacted]
5	豊田	総合情報処理センター	プロジェクト	ウィルス対策サーバーの更新	豊田　昇　教授 平井　恵子　准教授 奥田　篤士　助教 五味　伸之　助教 清水　幹郎　センター員 内藤　岳史　センター員	[redacted]
6	小寺 吉村	図書館	プロジェクト	ブックハンティングの充実	図書館長:小寺光雄 副図書館長:吉村忠與志 図書館運営委員	[redacted]
7	河原林	電気電子工学科	実験等設備	電子回路設計・製作・評価のための設備充実	前多　信博　教授 佐藤　匡　准教授 米田　知晃　准教授 河原林友美　講師	[redacted]
8	村田	電子情報工学科	実験等設備	学生実験のためのロボットアーム実習における機材	斉藤　敬　准教授 村田　知也　助教	[redacted]
9	高山	物質工学科	実験等設備	クリーンベンチ、安全キャビネット保守点検	上島　晃智　教授 高山　勝己　准教授 川村　敏之　講師	[redacted]
10	吉田	環境都市工学科	実験等設備	手回し携帯振動台「ぶるる」及び 小型デジタル振動計「アッコ」の整備	吉田　雅穂　教授 辻子　裕二　准教授	[redacted]
11	豊田	総合情報処理センター	実験等設備	統合プリント管理システム	センター員	[redacted]
		要求件数	11 件		金額合計	[redacted]

（出典　総務課）

資料３－１－④－７

「平成２４年度校長裁量経費によるプロジェクト募集案内」

Subject: 平成24年度校長裁量経費によるプロジェクト等の募集について(照会)
From: tukasa-i@fukui-nct.ac.jp (塚崎勇夫)
Date: 2012/06/08 10:09
To: uejima@fukui-nct.ac.jp, fujita@fukui-nct.ac.jp, tubokawa@fukui-nct.ac.jp, katanaka@fukui-nct.ac.jp, abe@fukui-nct.ac.jp

平成２４年６月７日

副校長・校長補佐
各学科長
各教室主任　　殿
図書館長
各センター長
各課長

校　　長

平成２４年度校長裁量経費によるプロジェクト等の
募集について（照会）

本校の教育研究活動の一層の充実発展を図るために、本年度も校長裁量経費をプロジェクト計画経費等として配分することといたしましたので下記のとおり募集します。
つきましては、当該経費を必要とする計画がある場合には、下記事項に留意のうえ要求書を作成し、平成２４年６月２８日（木）までに総務課財務係[tukasa-i@fukui-nct.ac.jp]へ提出願います。

記

１．校長裁量経費による要求書式・部数

	提出書式	提出部数
様式１	プロジェクト計画経費要求書	１部
様式２	実験・実習用等設備経費要求書	１部

(1) 要求趣旨
様式１：各教員又は各学科等において、以下の事項に必要な経費であること。
①教育方法の改善
②産業界等との交流の促進
③ものづくり活動を通じ学生の創造性、独創性を涵養するためのプロジェクト
④将来的に本校の発展に貢献することを目的とした研究
⑤その他校長が要求書提出を認めたプロジェクト等
様式２：各教員又は各学科等において、教育の改善を進めるために必要となる実験・実習等の設備の購入及び設備の更新に係る経費であること。

※ただし、原則として校長裁量経費申請者は、平成２３年度科学研究費補助金を申請した者又は平成２３年度に外部資金を獲得した者であること。

２．説明聴取
配分にあたっては計画内容等について、必要に応じ校長ヒアリングを実施しますのでご承知置き願います。（ヒアリングの日程は後日連絡します。）

３．報告会の開催
成果報告会は、翌年度の夏頃を予定しています。

※各様式、要求金額内訳書は、
ラクーダ(グループウェア)／電子書庫／総務課／財務係
／01総務課(財務)提出各種調書／240607校長裁量経費要求書　の中にあります。

（出典　学内メール）

資料３－１－④－８

「平成２２年度校長裁量経費にかかる報告会の案内」

事　務　連　絡
平成２３年７月２９日

教職員　各位

校　長

平成２２年度校長裁量経費にかかる報告会について（ご案内）

このことについて，下記のとおり開催しますのでご出席下さるようお願いします。
なお，当日は教員に限らず，学生・技術職員・事務職員も聴講できますので是非ご出席くださるよう併せてお願いします。

記

１、報告会開催日時　平成２３年９月１日(木)１３：００～１４：００
（教員会議校長報告中）

２、発表時間　各発表１０分程度

３、会　場　大講義室

４、発 表 者
① 電気電子工学科　米田　知晃　准教授
（機械，電気電子，電子情報工学科共通の計測・制御実験基盤の構築）
② 総合情報処理センター（電子情報工学科）　奥田　篤士　助教
（授業支援システム）

（出典　学内メール）

資料３－１－④－９

「校長表彰規則」

福井工業高等専門学校校長表彰規則

平成16年1月22日規則第3号

改正　平成19年 2月 1日規則第 1号　平成19年 3月 8日規則第 3号

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員で、職務に精励し、その功績が顕著な者に対し、その功労に報いるとともに、教職員の勤務意欲の高揚と本校の活性化を図るため、校長表彰（以下「表彰」という。）を行うものとする。

（表彰資格）

第２条　表彰は、次の各号の一に該当すると認められた者について行う。

(1)　優れた教授方法等を開発して、教育の向上に寄与した者

(2)　課外活動等の学生指導で実績をあげた者

(3)　著名な学術賞を受賞した者

(4)　有益な発明、発見、研究等を行い、業績をあげた者

(5)　産官学連携事業で実績をあげた者

(6)　本校の管理運営に尽力し、実績をあげた者

(7)　事務改善のため創意工夫をこらし、事務能率の向上に寄与した者

(8)　災害等でその危険を克服して職務を遂行した者

(9)　その他、特に他の教職員の模範と認められる行為があった者

（候補者の選考）

第３条　被表彰候補者を選考するため、校長表彰選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

２　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　企画室長

(2)　教務主事

(3)　学生主事

(4)　寮務主事

(5)　専攻科長

(6)　事務部長

３　委員長は、企画室長をもって充てる。

４　委員会の庶務は、総務課が処理する。

（被表彰者の決定）

第４条　被表彰者は、委員会の推薦に基づき、校長が決定する。

（表彰の方法等）
第５条　表彰は、表彰状を贈ることにより行う。ただし、副賞を付与することがある。
２　表彰は、毎年1回年度末に行うものとする。

附　則
この規則は、平成16年1月22日から施行する。
附　則（平成19年2月1日改正）
この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。
附　則（平成19年3月8日改正）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料３－１－④－１０

「平成２３年度校長表彰者一覧」

氏　　名	職　　名	推　　薦　　理　　由
島田　茂	教　　授	指導した学生が全国体育大会で好成績を上げた。
吉田　三郎	准 教 授	同
奥田　篤士	元助教	同
堀井　直宏	技術専門職員	シリカガラス材料の発明による特許の取得
鍛治　肇	総務課長	総務課長として本校の管理運営に尽力した。
橘田　良一	学生課長	学生課長として本校の管理運営に尽力した。
佐藤　匡	准 教 授	高専の高ブランド化による女子学生増に向けた取り組みと“in situ”型工学デザイン教育の実践
西　仁司	講　　師	ものづくりと地域連携による教育と指導
村田　知也	助　　教	福井発！ビジネスプランコンテスト 2011 グランプリ受賞
片岡　裕一	技術専門職員	労働安全衛生関係の資格取得による貢献及び地元伝統産業への社会貢献

（出典　福井工業高等専門学校校報 Vol.４４ No.１－１から作成）

資料３－１－④－１１

「高専・両技科大間教員交流者一覧」

高専・両技科大間教員交流一覧

年度	区分	学科等名	氏名	職名	派遣機関名・期間
18	派遣	物質工学科	津田　良弘	助教授	沼津高専・１年間
19	派遣	電子情報工学科	野村　保之	助教授	豊田高専・１年間
19	受入	電子情報工学科	奥本　　幸	助教授	徳山高専・２年間
20	派遣	一般科目教室	瀬川　直美	准教授	木更津高専・１年間
22	派遣	環境都市工学科	辻子　裕二	准教授	豊橋技科大・１年間
22	受入	環境都市工学科	間瀬　実郎	准教授	呉高専・１年間
24	派遣	物質工学科	佐々　和洋	助　教	豊橋技科大・１年間

（出典　総務課）

資料３－１－④－１２

「教員の派遣一覧」

■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	派遣先大学名	研究題目
平成18(2006)	岡田　将人	機械工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	金沢大学大学院	CBN(立方晶窒化ホウ素)工具を用いたハードミリングに関する研究
	田安　正茂	環境都市工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	長岡技術科学大学大学院	人工構造物に作用する流体力の数値計算法の開発およびその現地検証
平成22(2010)	金田　直人	機械工学科	H22. 5. 1 ～H23. 2. 28	金沢大学大学院	合繊仮燃加工における撚トルク発生のメカニズムに関する研究

■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	取組名称
平成19(2007)	丸山　晃生	電気電子工学科	H20.3. 30 ～H21. 3. 1	オーストラリア国立大学(ANU)	非古典論理に対する自動推論システムの構築とその高専教育への展開

※平成23年12月31日現在

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書，p.136）

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の活動をより活発化するため，本校の教員募集においては公募制を採用し，年齢構成は特定の年代に偏らず，各年代にわたってバランスのとれたものとなっている。博士の学位等の資格取得率も高いレベルにあり，国立高等専門学校機構中期計画における目標を達成し，質の高い実践的な教育が行われている。

また，教員組織の活動を活性化するために，教員相互の授業参観の学校行事への導入，校長裁量経費の重点的配分，校長表彰，高専・両技術科学大学間人事交流及び在外・内地研究員の各制度を活用している。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために，国立高等専門学校機構の教員顕彰制度に基づく教員による自己評価・相互評価及び学生による評価を毎年度行い（資料３－２－①－１），その結果は公表されている。また，本校独自の制度として学生による授業評価も平成１４年度からアンケート形式で行っており（資料３－２－①－２），今後の課題を記述した報告書を作成し，公表している（資料３－２－①－３）。これらに基づいて総合的な評価を行い，優れた教員は機構理事長表彰の候補者として同機構に推薦するとともに，教育内容・方法等に関して改善が必要と判断される場合には指導を行っている。

校長は，毎年１回定期的に全教員を対象に面談を行っている。この校長面談は，全教員から校長へ事前に提出される「教職員面談シート（教員用）」（資料３－２－①－４）に基づいて実施され，校長は当該年度における校務分掌，教育研究活動等及び前年度における自己点検・評価等の状況を個別に把握し，各教員に適切な助言を与えている。校長面談の結果は，校長表彰（前出資料３－１－④－８，９）や校務分掌の編成等に活用されている。

資料３－２－①－１

「教員顕彰評価項目（抜粋）」

参考資料 01：教員の教育業績等評価

第１部　教員による自己評価

自己評価項目についての留意事項

(1) 多くの項目は５年間の平均値を基に記入して下さい。
(2) 着任後５年未満の教員は，その年数の平均値を基に記入して下さい。
(3) 完全にあてはまらないような設問，回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
(4) 小数点が出るような場合，小数点以下を四捨五入して下さい。

配点

A．授業等の担当　［４９］

１．授業について　［６］

（１）週当たりの授業単位時間数はどれだけですか？最近５年間の平均値で答えて下さい。（１単位時間；約 50 分。実験，実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。）
１）１５単位時間以上：［３点］
２）１２～１４単位時間：［２点］
３）１１単位時間以下：［１点］

（２）正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？（不定期に実施しているものを含む。）
１）進学・就職希望者，資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：［３点］
２）進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：［２点］
３）達成度の低い学生についてのみ実施している：［２点］
４）正規の授業で十分理解されていると自信をもっているので，補習授業は行っていない：［１点］
５）補習授業をまったく考えていない：［０点］

２．授業内容・方法　［１１］

（１）シラバスはありますか？また，有効に利用していますか？
１）シラバスの内容を学生によく説明し，講義や成績判定に利用している：［３点］
２）シラバスはあり，およその目安としている：［２点］
３）シラバスはあるが，あまり利用していない：［１点］
４）シラバスはまだ作成配布していない：［０点］

（２）教科書及び参考書は使用していますか？
１）自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：［３点］
２）標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：［２点］

3）自分で作った教材を用いるので，教科書・参考書は使用していない：［２点］
4）標準的な教科書あるいは参考書を使用している：［１点］

（３）教育方法の工夫
1）グループ学習，ディスカッションなど新しい教育方法を実践している：［３点］
2）一方的な授業ではなく，双方向型の授業になるように工夫している：［２点］
3）通常の講義形式で授業を行っている：［１点］

（４）学生による評価の取り入れ
1）授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている：［２点］
2）学生による授業評価などを取り入れ，学生の要望にも対応できる授業を行っている：［１点］

３．成績評価　［9］

（１）成績評価基準
1）教育目標に対する達成度で評価している：［３点］
2）クラス内あるいは学年内での相対評価で決めている：［２点］
3）独自の評価基準あるいは上記以外の評価基準で評価している：［１点］

（２）定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを学生本人に返却・通知していますか？（注：ＪＡＢＥＥへの認定申請の際，必要とされる答案はコピーでも良い。）
1）定期試験はもとより，小テストやレポートも採点した後，説明あるいは添削して学生に返却している：［３点］
2）定期試験の答案のみ返却している，あるいは，小テストやレポートのみ採点して返却している：［２点］
3）定期試験ごとに点数のみを通知する：［１点］

（３）授業の効果の確認
1）定期試験で確認するほか，レポートや宿題のチェック，アンケート調査，各種の実力試験，資格試験，コンテストの成績などにより確かめている：［３点］
2）定期試験で確認するほか，卒業研究の成果，就職・進学試験の結果などにより確かめている：［２点］
3）定期試験でのみ確認している：［１点］

４．授業に関連する指導　［6］

（１）欠席の多い学生にはどのように対応していますか？
1）クラス担任と密接に連絡をとりながら早めに対応している：［３点］
2）時期をみてクラス担任と連絡をとりながら，独自でも対応している：［２点］
3）独自で対応している：［１点］

（２）オフィスアワーの設定と活用
1）オフィスアワーを設けているが，それ以外でも学生の来室に快く応じている：［３点］
2）オフィスアワーを設けて，活用している：［２点］

3）オフィスアワーは特に設けていないが，学生の来室に快く応じている：[２点]
4）学生の質問時間は特に設けていない：[１点]

＊　一般教科担当教員で卒業研究，留学生を担当しない場合は「－」を記入し，「Ｂ．ＦＤ活動，地域貢献」へ跳ぶ

５．卒業論文指導の状況等（専攻科における研究指導を含む）　[１１]

（１）指導学生数（職位，役職を考慮）
1）標準より多い学生数を指導している：[２点]
2）職位，役職を考慮して標準の学生数を指導している：[１点]
3）標準より少ない学生数を指導している：[０点]

（２）テーマ（分野と設備を考慮）
1）学生一人ひとりに別々の適切なテーマを与えた：[３点]
2）分野と設備を考慮して，適切なテーマであった：[２点]
3）分野と設備を考慮して，ほぼ適切なテーマであった：[１点]
4）不適切なテーマであった：[０点]

（３）卒論発表時の評価（学生の資質と指導効果を評価）
1）学生一人ひとりをよく指導した結果，すべて立派な発表であった：[３点]
2）学生一人ひとりをよく指導した結果，ほぼ満足な発表であった：[２点]
3）学生の資質を考慮し，適切な発表であった：[１点]
4）すべてにおいて指導の不足が見られる発表であった：[０点]

（４）卒業論文の評価（学生の資質と指導効果を評価）
1）学生一人ひとりをよく指導した結果，すべて価値ある論文であった：[３点]
2）学生一人ひとりをよく指導した結果，ほぼ満足な論文であった：[２点]
3）学生の資質を考慮し，まずまずの論文であった：[１点]
4）すべてにおいて指導の不足が見られる論文であった：[０点]

６．留学生の指導等（教育方法の工夫，生活指導等）　[６]

（１）授業の方法等
1）留学生がいることを念頭に置いて，常に工夫を凝らして行っている：[２点]
2）留学生用に必要に応じて工夫を凝らして行っている：[１点]
3）留学生がいることに特に留意，工夫することはしていない：[０点]

（２）課外授業（正規の授業以外の授業）について
1）課外授業を頻繁に行っている：[２点]
2）課外授業を求めに応じて行っている：[１点]
3）課外授業は行っていない：[０点]

（３）生活面の指導や相談について
1）生活指導や相談を積極的に頻繁に行っている：[２点]
2）生活指導や相談は求めに応じて行っている：[１点]
3）生活指導や相談がなかったので，行っていない：[０点]

（出典　総務課）

資料３－２－①－２

「授業アンケート評価項目」

１．アンケート調査について

平成 22 年度の学生による授業アンケート（達成度評価）を平成 22 年の前期期末試験終了後及び 23 年の期末試験終了後に行った。

特別指導期間から特別学習期間のテスト返却後，以下に示す授業アンケートを web 上で実施した。アンケート項目は一昨年に引き続き，得点の推移を観察するため，同じ内容で行った。項目の評定も昨年度と同様，４段階（「強くそう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」）であった。

アンケート項目は以下のとおりである。

（1）　自己評価のカテゴリ

1　私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた。

2　私はこの授業の予習，復習を十分に行った。

3　私はこの授業に積極的に取り組んだ。

（2）　講義（製図を含む）の評価のカテゴリ

4　黒板，OHP は見やすかった。

5　演習問題や課題の量，内容は適切だった。

6　教員の説明は良く聞き取れた。

7　試験の内容，レベル（難易度）は適切である。

（3）　実験・実習の評価のカテゴリ

8　実験の内容，レベル（難易度）は適切である。

9　指導書は役に立った。

10　安全性は確保されていた。

（4）　講義，実験・実習共通の評価のカテゴリ

11　内容に関心，興味を持った。

12　内容は理解できた。

13　内容はシラバスと一致していた。

14　教員の準備は良くなされていた。

15　教員は学生の理解度を把握していた。

16　教員は授業に熱心であると思った。

17　この授業には総合的に満足である。

18　この授業の目標を達成した。

（出典　授業アンケート報告書）

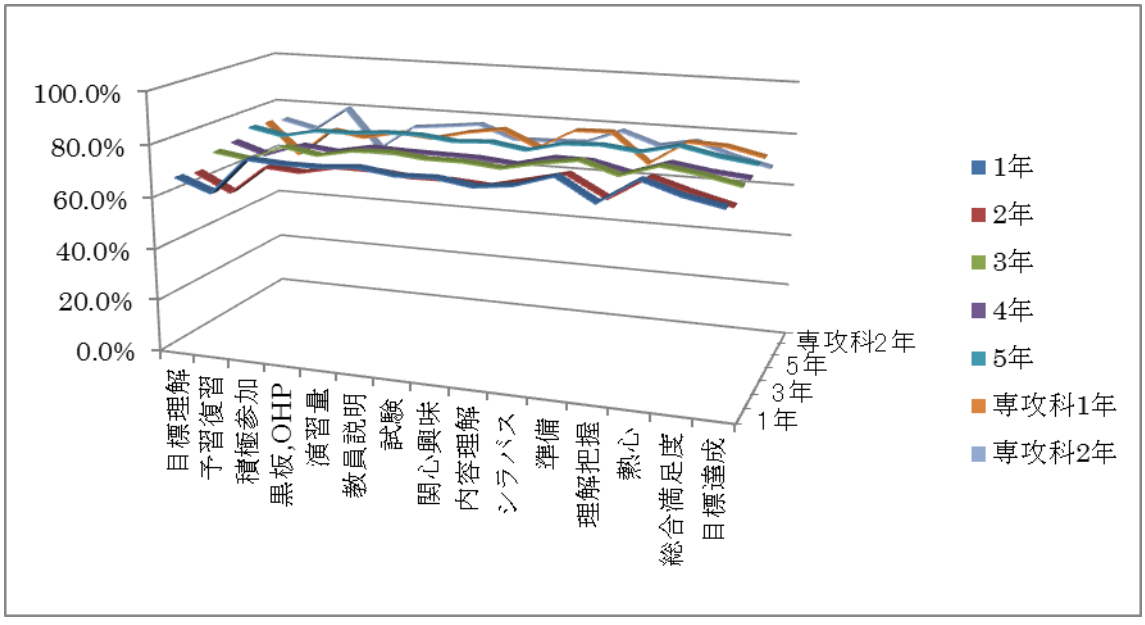
資料３－２－①－３

「授業アンケート評価まとめ」

2010 年度のまとめ

各項目に関する得点平均(8 実験，9 指導書，10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%



授業アンケートは「強く思う(100。0%)」，「まあまあ思う(66。7%)」，「あんまり思わない(33。3%)」，「全く思わない(0。0%)」の 4 段階評価である。各学年，各項目の平均は，ほぼ 4 段階評価の上位から 2 番目の「まあまあ思う(66。7%)」以上であった。

（出典　授業アンケート報告書）

資料３－２－①－４

「教職員面談シート」

（別紙様式）

平成２４年度　教職員面談シート（教員用）

所　属

氏　名

１．勤務状況

本人の今年度の職務の概要について	**校務分掌**	
	授業等	
	課外活動，研究活動，社会貢献活動等	
今年度の抱負・目標等について		
昨年度の状況（自己点検・評価）について		
職務に関する希望事項		

２．健康状況

健康状態について	□　健康　　□　やや不健康　　□　不健康 （健康状態に係る特記事項）

３．その他

特記事項があれば記入してください	

校長所見	

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

本校における教員の教育活動の定期的な評価は，国立高等専門学校機構の教員顕彰制度や本校独自の学生による評価制度によって行われ，評価体制が整備され，適切に実施されている。さらに，全教員を対象に毎年１回定期的に校長面談がなされ，各教員に適切な助言が与えられている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

本校専任教員の任用等（採用・昇任）に当たっては，福井工業高等専門学校教員選考規則（資料３－２－②－１）とともに，校長裁定による審査基準(訪問調査時に提示)を設けて実施・運用している。校長裁定による審査基準では，任用候補者の研究業績，教育実績，社会貢献，科学研究費補助金等を始めとする競争資金の獲得状況，そして学内候補者の場合は所属学科や学校の運営に対する寄与度等の観点から総合的に判断することが明文化されている。任用候補者の教授能力の評価を規則に則った手順に従って複数の選考委員（推薦委員会委員）により慎重に議論し，最終的に校長が任用候補者を決定している。中途退職や定年退職における教員の欠員補充による教員採用の場合においても，これと同様である。

また，専攻科担当教員の選考の場合においても選考規則（資料３－２－②－２）が明確に定められ，上述した専任教員の任用等と同様な手続きに従って選考・決定される。

資料３－２－②－１

「教員選考規則」

福井工業高等専門学校教員選考規則

平成13年12月20日規則第12号

改正　平成17年 3月10日規則第 1号　　平成17年 7月 7日規則第10号
平成19年 3月 8日規則第 3号　　平成21年 3月30日規則第 2号

（趣旨）

第１条　この規則は，独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第6号）第7条及び第12条の規定に基づき，福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任に係る選考手続きに関し必要な事項を定めるものとする。

（選考基準）

第２条　教員の選考基準は，高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に定めるもののほか，校長が別に定めるところによる。

（選考の発議）

第３条　校長は，教員を採用し，又は昇任させようとするときは，必要に応じ当該教員が所属することとなる学科長又は教室主任の意見を聴取の上，その都度，次条に規定する推薦委員会を設置し，候補者の推薦を求めるものとする。

２　前項の場合において，校長は，原則として公募を行い，これに応募した者の中から候補者の推薦を求めるものとする。

３　公募の応募者には，次の書類を提出させるものとする。

(1)　採用・昇任候補者個人調書（第1号様式）

(2)　著書及び論文等一覧（第2号様式）

(3)　著書及び論文等の概要（第3号様式）並びに該当業績の抜刷り又は写し

(4)　著書及び論文等以外の業績又は職務経験を有する者については，その内容を記したもの（第4号様式）

(5)　高等専門学校における教育・研究等についての抱負（第5号様式）

(6)　その他校長が必要と認めるもの

（推薦委員会）

第４条　推薦委員会は，当該学科，教室の教授3名及びその他の学科，教室の教授2名の計5名の委員をもって構成する。

２　推薦委員会の委員長及び委員は，校長が指名する。

（候補者の推薦）

第５条　推薦委員会は，第2条に規定する選考基準に基づき書類審査の上，複数の候補者について推薦順位を付し，候補者に係る次の資料を添えて校長に推薦するものとする。

(1)　第3条第3項に定められた書類
(2)　候補者推薦理由書（第6号様式）
（教育研究上の業績及び識見に関する意見等を記載すること）
2　推薦委員会は，前項の規定により推薦された候補者に対して，面接審査を実施するものとする。その際，必要に応じて校長は面接審査に加わるものとする。
3　推薦委員会は，前項に規定する面接審査終了後，推薦委員会報告書（第7号様式）により推薦委員会における選考の経緯及び選考理由を明らかにし，校長に候補者を推薦するものとする。
（候補者の決定）
第６条　校長は，推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し，その結果を推薦委員会に通知するものとする。
2　校長は，必要に応じ校外の学識経験者の意見を聴取するものとする。
（非常勤講師の任用）
第７条　非常勤講師を任用する場合は，第3条から第6条までの規定にかかわらず，当該学科等から推薦された候補者について，別に定めるところにより校長が適否を決定する。

附　則
この規則は，平成13年12月20日から施行する。
附　則
この規則は，平成17年3月10日から施行し，平成16年4月1日から適用する。
附　則
この規則は，平成17年7月7日から施行する。
附　則
この規則は，平成19年4月1日から施行する。
附　則（平成21年3月30日改正）
この規則は，平成21年4月1日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料３－２－②－２

「専攻科担当教員選考規則」

福井工業高等専門学校専攻科担当教員の選考に関する取扱い

平成13年12月20日校長裁定

改正　平成19年3月12日

福井工業高等専門学校において教授，准教授，講師及び助教（以下「教員」という。）に専攻科を担当させようとする場合の選考については，次のとおり取り扱うものとする。

第１　校長は，教員に専攻科を担当させようとするときは，必要に応じ専攻科長の意見を聴取の上，その都度，第2に規定する推薦委員会を設置し，候補者の推薦を求めるものとする。

第２　推薦委員会は，専攻科を担当する教授5名の委員をもって構成する。

２　推薦委員会の委員長及び委員は，校長が指名する。

第３条　校長は，推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し，その結果を推薦委員会に通知するものとする。

附　則

この取扱いは，平成13年12月20日から実施する。

附　則（平成19年3月12日改正）

この取扱いは，平成19年4月1日から実施する。

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の退職に伴う新規教員の採用等については，明確に規程が定められ，これに基づいた推薦委員会の検討結果を受けて，校長が最終任用候補者を適切に決定している。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務組織は，教育支援及び学生支援を行うための組織として，学生課を配置し，教育課程の展開を支援する主な部署である教務係に４名の職員を配置している。教務係における教育支援業務（資料３－３－①－１）は，教育課程及び学年暦，教科書、教材及び教具の取りまとめ，工場見学旅行及び校外実習の連絡調整等があり，教員と協働により業務を行っている。また，図書館には司書の資格を有する職員を３名配置（この内の２名は非常勤）し，学生への教育支援を行っている。

技術職員については，教育研究支援に携わる職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに，その専門性を担保し，その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする教育研究支援センターに配置している。教育研究支援センターは，ものづくり分野を担当する第一技術班，制御・情報分野を担当する第二技術班，マテリアル・環境分野を担当する第三技術班の３班からなり，再雇用職員を含め１４名を配置している。教育研究支援センターの主な業務（資料３－３－①－２）は，教育研究支援のための基本計画の策定，教育研究に関する技術支援，技術向上のための研修，技術発表会・講演会の企画及び立案，教育関連機器の保守・管理・操作，技術の継承及び保存，技術資料の作成，保管及び提供等であり，同センターと各学科が連携し，教育支援を行っている。

資料３－３－①－１

「福井工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）」

第１９条　学生課教務係においては、次の事務をつかさどる。
(1)　学生課事務の連絡調整に関すること。
(2)　入学、休学、復学、転科、転学、退学、卒業等に関すること。
(3)　教育課程及び学年暦に関すること。
(4)　授業及び特別教育活動に関すること。
(5)　試験及び学業成績の整理に関すること。
(6)　教科書、教材及び教具に関すること。
(7)　工場見学旅行及び校外実習に関すること。
(8)　外国人留学生に関すること。
(9)　大学編入学に関すること。
(10)　学籍、指導要録等の記録に関すること。
(11)　学生の諸証明の発行に関すること。
(12)　学生の進路に関すること。
(13)　所掌事務に係る調査統計報告に関すること。
(14)　その他、課の所掌事務で、他の係に属しないものを処理すること。

（出典　本校規則集）

資料３－３－①－２

「福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則（抜粋）」

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１２条に基づき、福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に福井工業高等専門学校教育研究支援センター（以下「センター」という。）を設置する。
（目的）
第２条　センターは、本校において教育研究支援に携わる職員の技術業務を組織的かつ効率的に

行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次に掲げる業務を行う。

(1)　教育研究支援のための基本計画の策定

(2)　教育研究に対する技術支援

(3)　技術向上のための研修、技術発表会・講演会の企画及び実施

(4)　教育研究関連機器の保守・管理・操作

(5)　技術の継承及び保存

(6)　技術資料の作成、保管及び提供

(7)　所掌業務に係る調査統計及び報告に関すること。

(8)　その他本校における教育研究支援業務に関すること。

（技術班）

第４条　センターに第一技術班、第二技術班及び第三技術班を置く。

２　第一技術班は、次に掲げる業務に従事する。

(1)　第3条に規定する業務のうちものづくり分野に関すること。

(2)　第一技術班の運営に関すること。

３　第二技術班は、次に掲げる業務に従事する。

(1)　第3条に規定する業務のうち制御・情報分野に関すること。

(2)　第二技術班の運営に関すること。

４　第三技術班は、次に掲げる業務に従事する。

(1)　第3条に規定する業務のうちマテリアル・環境分野に関すること。

〈2〉　第三技術班の運営に関すること。

（職員）

第５条　センターに、次に掲げる職員を置く。

(1)　センター長

(2)　技術長

(3)　技術班長

(4)　技術員

２　センターに、技術専門員を置くことができる。

（センター長）

第６条　センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。

２　センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（技術長）

第６条の２　技術長は、本校センター所属の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

（技術専門員）

第６条の３　技術専門員は、本校センター所属の技術専門職員の中から校長が任命する。

（技術班長）
第６条の４　技術班長は、本校センター所属の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。
（技術員）
第６条の５　技術員は、本校センター所属の技術専門職員及び技術職員をもって充てる。
（職務）
第７条　センター長は、センターの業務を総括する。
２　技術長は、センター長の命を受けてセンターの業務を掌理し、各班の連絡調整及び統括を行う。
３　技術専門員は、上司の命を受けて極めて高度の専門的な技術に基づく業務に従事する。
４　技術班長は、上司の命を受けて班の業務を整理するとともに、所掌の業務に従事する。
５　技術員は、上司の命を受けて所掌の業務に従事する。
（センター運営委員会）
第８条　センターの円滑な運営を図るため、福井工業高等専門学校教育研究支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）
効率的な人員配置により，少ない人数ながらもレベルの高い事務が執り行われている。また，教育活動についても，事務職員及び技術職員との連携がシステムレベル，ヒューマンリレイションレベルにおいて効果的に機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
本校の教育の目的を達成するために，一般科目及び専門科目の各教員は高等専門学校設置基準を満たす常勤教員が，それぞれの専門性を考慮した授業科目を担当し，バランス良く配置されている。専攻科においても教育の目的を達成するために，企業・機関等での実務経験や研究分野との適合性を総合的に判断して担当授業科目が決定されている。また，教員の新規採用や昇任についても規程が明確に定められ，適切に運用されているとともに，教員組織の活動の活発化に向けてはＦＤ活動や校長裁量経費の重点配分等の適切な措置が講じられている。

全教員の教育活動に対する評価に際しては，国立高等専門学校教員顕彰や本校独自の学生による評価制度に加えて，校長面談による定期的な評価が実施されている。毎年度末には優れた教員を対象に校長表彰を行っており，適切な評価体制が構築・機能している。

（改善を要する点）
該当なし。

（３）基準３の自己評価の概要

本校の目的を達成するための本科や専攻科での教育課程を展開するのに必要な一般科目教員・専門科目教員の各授業担当者は，各教員の専門性を考慮するとともに，研究内容・業績の観点からその授業内容との適合性・妥当性の確認を行って決定され，その配置もバランス良く適切である。さらに，教育支援者である事務職員及び技術職員も取得資格や専門性を考慮して適切に配置されおり，教員との連携もとられている。

教員の採用及び昇任に関しては規則等を制定し，公募制によって企業・機関等での実務経験者や，博士等の資格を有する優秀な教員を採用しており，さらに女性教員の採用にも積極的に努めている。

教員組織の活動をより活発化させるため，毎年度，校長裁量経費の重点配分，校長表彰を実施するとともに，高専・両技術科学大学間人事交流及び在外・内地研究員の各制度を活用している。教員の教育活動に対する定期的な評価は，国立高等専門学校機構の教員顕彰制度，本校独自の学生による評価制度や校長面談によって適切に行われ，それは校務分掌の編成や校長表彰等に資されている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜は，本科の入学者選抜，本科４年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜を行っており，能力・適性において高等専門学校教育を受けるにふさわしい資質を有する者を，公正かつ妥当な方法で選抜するものである。また，いずれの選抜方法においてもアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を関連付けて，入学者選抜を実施している。

本校のアドミッション・ポリシーは基本理念，教育方針，養成すべき人材像及び学習・教育目標（資料４－１－①－１）に対応し定められている。本科（準学士課程）アドミッション・ポリシーについては，学校として明確に定められる（資料４－１－①－２）とともに，各学科のアドミッション・ポリシーが各学科の目的に合わせて定められている（資料４－１－①－３，４）。

アドミッション・ポリシーは，カレッジガイド，学校要覧，学生便覧，ホームページに掲載し，将来の学生を含めた社会に対して周知，配布を行っている。なお，本校ホームページにはカレッジガイドのデジタルパンフレットを掲載し，いつでもカレッジガイドがパソコン画面で本をめくるように見ることができる（資料４－１－①－３）。またカレッジガイドと学校要覧については，各中学校へ郵送するとともに，本校で開催する学校説明会，入学試験委員会委員が行う中学校訪問と入試説明会（資料４－１－①－５），及びオープンキャンパスにおいて，中学生，保護者，中学校教諭に対して配付すると同時にパワーポイントを使い，具体例を示してわかりやすく口頭で説明している。

資料４－１－①－１

「本校の基本理念，教育方針，養成すべき人材像及び学習・教育目標」

学校案内 | 学科紹介 | 入試情報 | 中学生の方へ | 企業の方へ | 在学生の方へ | 卒業生の方へ

HOME > 学校案内 > 学校紹介 > 本校の使命

本校の使命

基本理念

1. 創造性豊かな人材を育成する
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強靭(きょうじん)な耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、闊達(かったつ)な資性の涵養(かんよう)を図る

本校の養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会に活躍できる技術者

学習・教育目標（大項目）

本科（準学士課程）

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

専攻科（環境生産システム工学プログラム 学習・教育到達目標）

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
JB 数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。
JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。
JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
JE 実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

（平成23年改正）

学校案内

学校紹介
校長からの挨拶
本校の使命
ト各学科の目的
└専攻科の目的
沿革
組織
校章・校歌・ロゴマーク
資料集
キャンパスマップ
キャンパスマップ（動画編）
ニュース速報
トピックス

施設紹介
図書館
創造教育開発センター
総合情報処理センター
地域連携テクノセンター
教育研究支援センター
学生相談室
青武寮

アクセス
交通アクセス
高専の周辺地図

教員公募

教育情報公開
工事・調達情報
高専機構の情報公開
認証評価

福井高専の歩き方
デジタルパンフレットを読む

入試情報
ADMISSIONS

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/outcomes.html）

資料４－１－①－２

「本科のアドミッション・ポリシー」

3　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本校は入学者として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

(1)　ものづくり，環境づくりに興味がある人
(2)　基礎学力が備わっている人
(3)　新しい目標にいつもチャレンジする人
(4)　国際社会で活躍したいと思っている人
(5)　自分で課題を考え，解決する能力を身に付けたい人

（出典　平成２４年度学生募集要項, p. 1）

資料４－１－①－３

「デジタルパンフレットに掲載された各学科のアドミッション・ポリシー」

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/）

資料４－１－①－４

「ホームページに掲載された各学科のアドミッション・ポリシー」

（出典　本校ホームページ http://http://www.fukui-nct.ac.jp/~nyusi/policy.html）

資料４－１－①－５

「入試説明会概要と過去５年間の参加者数」

⑧　入試説明会（１０～１１月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科長・一般科目主任・教務主事補によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県１０会場（１１回）、滋賀県６会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（２回）と高専会場（２回）以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去５年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で６６名、合計で１２８名増加していた。福井新聞に９月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して２９名増加している。今年は福井県の中学３年生の人数が約３００名減少したが、参加生徒数は幸いにも増加し、過去８年間では最多の人数となり、オープンキャンパスの参加者増に対応していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年から６校増えて１７校から参加依頼があり、副校長が１０回、教務主事補が７回出席し入試に関する話を行った。なお、昨年までは丹南地区の中学校からの依頼が主であったが、今年度は滋賀県からの依頼が４校と増加し、大野や若狭地区からの依頼もあった。なお、２月には、中学校２年生に対する本校紹介の依頼が１件あり、教務主事補が参加した。

＜過去５年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（９月集計）の推移＞

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
23 年度	258	272	61	591	291
22 年度	351	337	61	749	312
21 年度	285	256	80	621	283
20 年度	268	223	65	556	254
19 年度	329	297	78	704	278

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書, p. 64）

専攻科課程のアドミッション・ポリシーは，専攻科学生募集要項（資料４－１－①－６）及び学生便覧に記載し配布するとともに，ホームページで公開している。高等学校からの本科４年次編入学生については，アドミッション・ポリシーを編入学生募集要項に記載し（資料４－１－①－７），ホームページでも公開している。また，ホームページで学生募集要項の電子ファイル及び入学試験担当窓口を公開し，社会へアドミッション・ポリシーが広く認識され，理解されやすいように努めている（資料４－１－①－８）。

また，教職員への周知に関しては，教員会議で説明するとともに，学生募集要項，専攻科学生募集要項，学校案内，学生便覧を毎年配布してアドミッション・ポリシーの周知を図っている。アドミッション・ポリシーの周知状況に関しては，平成２４年４月に非常勤を含む全教職員を対象にアンケートを行った結果（資料４－１－①－９），「よく知っている」，「ある程度知っている」と答えた割合は，本科（準学士課程）については９２％とよく周知されていたが，専攻科課程については８５％と若干周知度が落ちている結果となった。再雇用者を含む教員に対しては本科（準学士課程）について９８％，専攻科課程について９４％という結果であり，よく周知されていると考えられる。また，入学者選抜がアドミッション・ポリシーに基づいて実施されていることに対して、本科（準学士課程），専攻科課程ともにほぼ全員に周知されているという結果であった。

資料４－１－①－６

「専攻科課程アドミッション・ポリシー」

平成２５年度 専攻科学生募集要項

Ⅰ 募集人員

生産システム工学専攻　　１２名
環境システム工学専攻　　８名

Ⅱ 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

福井工業高等専門学校専攻科では，次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。

・得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
・何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
・ものづくり・環境づくりに意欲のある人
・多様なシステムを理解し，創造的にデザインする能力を身に付けたい人
・国際社会で活躍できる実践的技術者を目指す人
・学士（工学）の学位を取得したい人

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項, p. 1）

資料４－１－①－７

「編入学生募集要項に掲載された本科のアドミッション・ポリシー」

１　募集学科，募集人員及び編入学年，日程

募集学科	募集人員	編入学年
機械工学科 電気電子工学科 電子情報工学科 物質工学科 環境都市工学科	各学科とも若干名	第４学年

出願期間	平成24年８月６日（月）～８日（水）
選抜期日	平成24年８月28日（火）
合格者発表	平成24年８月31日（金）
編入学確約書提出	平成24年９月７日（金）午後４時まで

２　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本校は，入学者として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

(1) ものづくり，環境づくりに興味がある人
(2) 基礎学力が備わっている人
(3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
(4) 国際社会で活躍したいと思っている人
(5) 自分で課題を考え，解決する能力を身に付けたい人

（出典　平成２５年度編入学生募集要項, p. 1）

資料４－１－①－８

「学生募集要項と入学試験担当窓口の案内」

専攻科学生募集案内

平成25年度専攻科学生募集要項は、下記のとおりです。
出願希望者は、学生課入学試験係窓口配布の冊子を必ずご利用ください。

平成25年度専攻科学生募集要項 (4.3MB)

Get Adobe Reader　PDFファイルをご覧いただくためには「Adobe Reader」が必要です。
左のボタンよりダウンロードして下さい。

入学試験担当窓口

学生課入学試験係
入学試験の実施、入学試験説明会情報、募集要項の請求などお気軽にお問合わせください。
TEL:0778-62-8290　E-mail:nyushi@fukui-nct.ac.jp

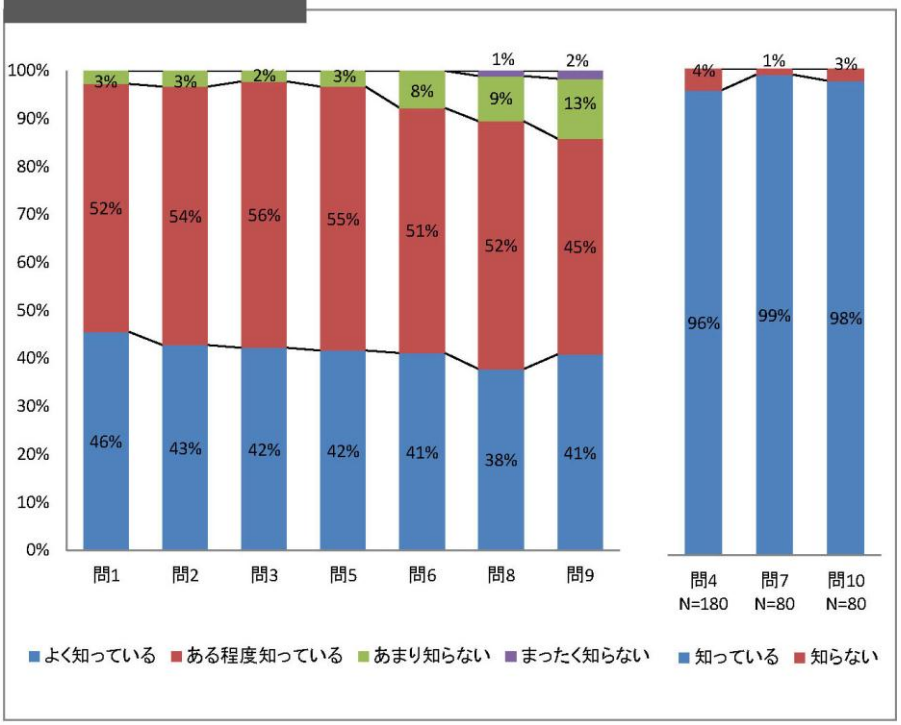
（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~nyusi/）

資料４－１－①－９

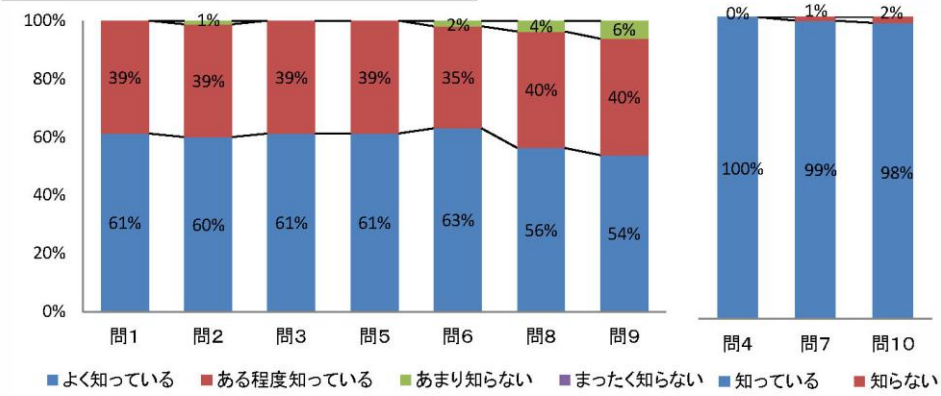
「アドミッション・ポリシー等の周知状況」

本校の学習・教育目標に関するアンケート集計結果

全教職員　１８０名



常勤教員(再雇用者含む)　80名



問１．本校の基本理念を知っていますか。
問２．本校の教育方針を知っていますか。
問３．本校の養成すべき人材像を知っていますか。
問４．本校の養成すべき人材像を念頭に，各学科が育成する技術者像及び専攻科が育成する技術者像（=環境生産システム工学育プログラム（JABEE）が目指す技術者像）が定められていることを知っていますか。
問５．本科（準学士課程；１～５年）の学習・教育目標を知っていますか。
問６．本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
問７．本科における推薦入学者の選抜では、各学科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。
問８．本校専攻科の学習・教育目標(=環境生産システム工学プログラム（JABEE）の学習・教育到達目標)を知っていますか。
問９．本校専攻科のアドミッションポリシーを知っていますか。
問１０．本校専攻科における入学者の選抜(推薦・学力)では、専攻科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を行っていることを知っていますか。

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，本科及び専攻科課程ともにアドミッション・ポリシーを明確に定め，ホームページに掲載するとともに，教員会議や学科会議において学校の教職員に周知している。教職員に対してアドミッション・ポリシーの周知状況を把握するためにアンケート調査を実施しており，アンケート結果から周知されていることが確認されている。また，学生募集要項等の配布，学校説明会等での口頭のプレゼンテーションを通じて，将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で公表している。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校の入学者選抜は，本科の入学者選抜，本科４年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜を行っており，国立高等専門学校入学者選抜実施要項（資料４－２－①－１）に基づいて実施している。いずれの選抜方法においてもアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を関連付けて，入学者選抜を実施している。

本科の学力選抜では，独立行政法人国立高専機構で作成された国立高等専門学校入学者選抜学力検査問題を使用し，国語，社会，数学，理科及び英語の５教科で実施しており，基礎学力を重視した選抜を行っている（資料４－２－①－２）。また，調査書の中に本校のアドミッション・ポリシーへの適合について記入する欄を設けている（資料４－２－①－３）。これは記載責任者の観点で入学志願者の適性を判断しているもので（資料４－２－①－４），入試合否に関する資料の１つとなっている。

本校の入学者選抜では，これらの結果を入学者選抜試験判定票に取りまとめているが，実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

資料４－２－①－１

「国立高等専門学校入学者選抜実施要項」

国立高等専門学校入学者選抜実施要項

平成１６年４月１日
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定
一部改正　平成１７年５月１７日

第一　入学者選抜の基本方針

国立高等専門学校の入学者の選抜は，この実施要項に基づき，各国立高等専門学校の校長が行うものとし，能力・適性において高等専門学校教育を受けるにふさわしい資質を有する者を，公正かつ妥当な方法で選抜するものとする。

第二　入学者選抜の方法

１　入学者の選抜は，中学校長（中等教育学校長を含む。以下同じ。）から送付された調査書の内容，学力検査の成績その他面接，作文等必要と認める資料により総合的に判定する方法（以下「学力検査による選抜」という。）により，実施するものとする。

２　入学者の選抜は，前記１の選抜方法によるほか，校長の定めるところにより，入学定員の一部について，中学校長の推薦に基づき，学力検査を免除し，中学校長から送付された調査書を主な資料として，総合的に判定する方法（以下「推薦による選抜」という。）によることもできる。

この場合には，校長は，推薦の要件及び方法を具体的に定め，これを中学校長に提出して推薦を求めるとともに，入学志願者について面接を課すものとする。

第三　入学者選抜における留意事項

１　中学校長から送付された調査書は，能力・適性を判定するための基礎資料として活用しなければならない。この場合，入学志願者ごとに，その在学した学年の全生徒の学習成績一覧表を添付させる等，調査書の公正を期することに努めるとともに，合格者発表後，調査書に虚偽の記載を発見した場合は，当該学生の合格を取り消す等の適切な措置を講じるものとする。

（出典　独立行政法人国立高等専門学校規則）

資料４－２－①－２

「学力検査による選抜方法」

2 選 抜 方 法

(1) 学力検査による選抜は，学力検査の結果を主とし，これに調査書を加え，総合して判定します。

第1志望から第3志望を考慮し，最初に工学基礎コース（各学科8名程度）を選抜し，その後，工学基礎コースが合格とならなかった者も含めて，各学科の選抜を行います。

(2) 学力検査の期日

期　　日	平成24年2月19日(日)

(3) 学力検査科目及び検査時間

理　科	英　語	数　学	国　語	社　会
9:30～10:20	10:40～11:30	11:50～12:40	13:30～14:20	14:40～15:30

（出典　平成２４年度学生募集要項, p. 8）

資料４－２－①－３

「アドミッション・ポリシーへの適合について」

総合所見			
		アドミッションポリシーへの適合	(1)　(2)　(3)　(4)　(5)

上記の記載事項に相違ありません。

平成　　年　　月　　日

記載責任者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞

学　校　名

校 長 氏 名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 職印

（注）調査書を作成するにあたっては，裏面「調査書の作成について」を参照してください。

（出典　平成２４年度学生募集要項, 調査書）

資料４－２－①－４

「調査書の作成について」

6　「総合所見」欄は，本人を総合的にとらえた特徴とし，入学者受入方針（学校としてのアドミッションポリシー，P1参照）に適合するかもふまえて，簡潔に記入してください。

なお，アドミッションポリシーへの適合の欄には，当該生徒にあてはまる番号に○印を記入してください（複数可）。

（出典　平成２４年度学生募集要項, 調査書）

本科における推薦選抜では，出身中学校の校長により推薦された者について選抜しており，推薦選抜には推薦要件アとイがある。アの要件では，調査書，作文及び面接の結果を総合して判定する。イの要件では，これに科学や技術の分野における優秀な成果の口頭発表に対する評価及び推薦書が加わる（資料４－２－①－５）。作文（資料４－２－①－６）及び面接内容は学科毎にアドミッション・ポリシーに沿った選抜方針に従い課題を指定している。作文，面接の評定は選抜方針に沿って行い，各学科で評定結果について検討した後，入学試験委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。本校の入学者選抜では，これらの結果を入学者選抜試験判定票に取りまとめているが，面接内容を含めた実際の資料は，訪問調査時の確認資料とする。

資料４－２－①－５

「推薦要件ア及びイによる選抜方法」

３　選　抜　方　法

(1)　推薦要件の（4）のアによる選抜は，調査書を主とし，これに作文，面接の結果を加え，総合して判定します。

(2)　推薦要件の（4）のイによる選抜は，調査書を主とし，これに作文，面接，口頭発表の結果及び推薦書を考慮し，総合して判定します。

注：「口頭発表」では,科学や技術の分野に関して収めた成果についての発表と質疑を行う(発表は10分以内)。
発表機材として本校において,ＯＨＰ,プロジェクターを準備します。

(3)　選抜の期日及び場所

期　　日	平成24年1月22日(日)
場　　所	福井工業高等専門学校　鯖江市下司町（「Ⅷ学力検査場案内図」参照）

(4)　作文，面接及び口頭発表

ア　実施時間

作　　文	面接（口頭発表）
11:00 ～11:50	13:00 ～

イ　作文は課題により，面接は個人面接により実施します。

（出典　平成２４年度学生募集要項, p. 5）

資料４－２－①－６

「本科推薦選抜作文課題」

福井工業高等専門学校入学者選抜（推薦選抜）作文課題

【平成２４年度入試】

機械工学科	私が興味を持ったものづくり
電気電子工学科	これからのエネルギーについて
電子情報工学科	災害と電子情報技術
物質工学科	持続的社会を達成するために化学とバイオの技術ができること
環境都市工学科	災害から暮らしを守る構造物の設計の考え方とは

【平成２３年度入試】

機械工学科	機械に興味がわいた私の経験
電気電子工学科	温暖化防止における電気電子技術
電子情報工学科	環境問題に役立つ電子情報技術とは
物質工学科	環境・エネルギー問題に化学や生物が挑戦できること
環境都市工学科	川はだれのものか、どうつき合うか

【平成２２年度入試】

機械工学科	私が思う環境にやさしい機械
電気電子工学科	どんな電気電子技術者になりたいか
電子情報工学科	科学（技術）分野で、あなたがもっとも感動したこと
物質工学科	10 年後に必要とされる化学や生物の未来技術
環境都市工学科	「私が望む」まちづくり

（出典　学生課）

本科４年次への編入学生選抜は，学科毎の学力検査（作文を含む），調査書，面接の結果を総合して判定し（資料４－２－①－７），編入学生選抜実施要綱に従って行われる。面接の内容及び評定はアドミッション・ポリシーに沿って行い，各学科で評定結果について検討後，入学試験委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。

資料４－２－①－７

「編入学生選抜方法」

５　選抜方法等

(1) 選抜方法

編入学生の選抜は，学力検査（作文を含む。），調査書及び面接の結果を総合して判定します。

(2) 学力検査等の期日及び場所

期　　日	平成24年８月28日（火）
場　　所	福井工業高等専門学校　　鯖江市下司町 （裏表紙の「本校の位置と利用交通機関等」参照）

(3) 学力検査等の時間

専門科目	数　学	英　語	作　文	面　接
9:00～10:40	11:00～12:20	13:10～14:00	14:15～14:55	15:25～

（出典　平成２５年度編入学生募集要項, p. 4）

専攻科課程入学者選抜は，推薦による選抜，学力による選抜，社会人特別選抜の３種類の選抜を行っている（資料４－２－①－８）。推薦による選抜は年１回行われ，推薦書，調査書，小論文，面接の総合判定により行い，アドミッション・ポリシーに沿った内容となっている（資料４－２－①－９）。学力による選抜は年に２回行われ，調査書，英語と数学及び専門科目の筆記試験と面接の総合判定により行い（資料４－２－①－１０），得意とする工学分野の基礎能力を重視した選抜を行っている。社会人選抜は社会人技術者の再教育を目的とし，所属企業等の長の推薦書，出身学校長の調査書及び小論文，面接の総合判定により行う。総合判定は福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領に従って行われ，各選抜試験の面接の内容及び評定はアドミッション・ポリシーに沿って行い，各専攻で評定結果について検討した後，専攻科委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。

資料４－２－①－８

「専攻科入学者選抜方法」

Ⅲ 選抜方法

入学者の選抜は，**推薦による選抜，学力検査による選抜（前期・後期）及び社会人特別選抜**とし，次のとおり行います。

区　分	選抜方法・日程		
	推薦選抜	学力選抜（前期）	学力選抜（後期） 社会人特別選抜
出願期間	平成24年5月14日(月) ～17日(木)	平成24年6月11日(月) ～14日(木)	平成24年11月5日(月) ～7日(水)
選抜期日	平成24年5月26日(土)	平成24年6月23日(土)	平成24年11月23日(金)
合格者発表	平成24年6月1日(金)	平成24年6月29日(金)	平成24年11月30日(金)
入学確約書提出期限	平成24年6月15日(金)	平成24年7月27日(金)	平成24年12月21日(金)

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項, p. 1）

資料４－２－①－９

「専攻科推薦選抜の方法」

3. 選抜の方法

入学者の選抜は，以下のとおりとします。

(1) 検査期日　**平成２４年５月２６日（土）**
　　当日は，午前９時までに集合してください。
(2) 検査内容　**面接**
(3) 検査会場　福井工業高等専門学校

なお，小論文の課題は，「入学の動機，研究計画及び将来の抱負（８００字程度）」です。

※　推薦による選抜における選抜基準は次のとおりです。

(1) 出願時に提出された小論文等提出用紙の内容及び在籍学校長からの提出書類に基づいた面接（小論文に関する口頭試問を含む）において，本校専攻科のアドミッションポリシーにあった人材であると判定されること。
(2) 上記(1)を満たした者に対して，次の３項目の総得点により合否を判定する。
　1. 出願時に提出された小論文の内容及び面接における評価点（10点満点）
　2. 在籍学校長からの提出書類における席次に対する評価点（20点満点）
　3. 在籍学校長からの提出書類における成績に対する評価点（20点満点）

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項, p. 3）

資料４－２－①－１０

「専攻科学力選抜の方法」

(2) 学力検査科目及び出題範囲

科　目	出　題　範　囲	
英　語	一般英語	
数　学	線形代数，微分積分（１変数及び２変数，微分方程式を含む。）	
専　門	A群	熱流体力学，材料力学，工作法，工業力学，材料（５分野）
	B群	電気回路，電磁気学，電子回路，電子工学，論理回路（５分野）
	C群	電気電子工学，計算機工学，計算機システム，計算機科学，ソフトウェア（５分野）
	D群	有機化学･生物化学，　無機化学･分析化学，　物理化学，　化学工学（４分野）
	E群	構造力学，水理学，地盤工学，測量学（４分野）

専門については，Ａ～Ｅ群の中から一つを選び，群の中の問題から３分野の問題を選択し解答してもらいます。選んだ群及び分野以外の問題に解答しても採点されません。
また，専門の筆記試験時間中は，本校から電子式卓上型計算機（CASIO fx-260A）を貸与します。貸与したものを使用してください。

(3) 検査会場　福井工業高等専門学校

※　学力検査による選抜における選抜基準は次のとおりです。

(1) 出願時に提出された小論文等提出用紙の内容及び在籍（又は出身）学校長からの提出書類に基づいた面接（小論文に関する口頭試問を含む）において，本校専攻科のアドミッションポリシーにあった人材であると判定されること。
(2) 学力検査における各科目の得点が，原則としてそれぞれ満点の40%を超えること。
(3) 上記(1)及び(2)を満たした者に対して，次の４項目の総得点により合否を判定する。
1. 出願時に提出された小論文の内容及び面接における評価点（10点満点）
2. 在籍（又は出身）学校長からの提出書類における席次に対する評価点（20点満点）
3. 在籍（又は出身）学校長からの提出書類における成績に対する評価点（20点満点）
4. 学力検査各科目の得点の合計（350点満点）

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項, p. 7）

（分析結果とその根拠理由）

本校の入学者選抜では，本科への入学者選抜，本科４年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜において，学力試験又は調査書に基づいて学力を判定するとともに，小論文，面接及び調査書より，アドミッション・ポリシーに関わる５つの観点に基づき評価選抜しており，アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され，実際の入学者選抜が適切に実施されている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

本科及び編入学生選抜についての学生募集，入学者選抜の実施，入学者選抜の合格候補の選考に関する事項を審議する入学試験委員会が置かれ，教務主事，教務主事補，学科長，一般科目教室主任，事務部長によって組織されている（資料４－２－②－１）。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかについて，学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が，入学後の学生については教務委員会が管轄であるが（資料４－２－②－２），両委員会が連携して入学後の学生に対する基礎学力の検証，入学者選抜の改善を行っている。さらに，入学者選抜に関する１年生へのアンケート調査を実施し，入試に関する方針を決定するための基礎資料としており（資料４－２－②－３），継続的な入学者選抜の改善を行っている（資料４－２－②－４）。

資料４－２－②－１

「福井工業高等専門学校入学試験委員会規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校入学試験委員会規則

昭和41年2月1日規程第12号

改正　昭和44年 3月14日規程第 3号　昭和47年 4月26日規程第 2号
昭和52年11月 1日規程第 5号　昭和54年 3月24日規程第 5号
平成 3年 2月21日規程第 1号　平成 7年 3月30日規則第 1号
平成17年 3月10日規則第 1号　平成21年 3月30日規則第 2号

（設置）

第１条　本校に、入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1) 学生募集に関する事項

(2) 入学者選抜の実施に関する事項

(3) 入学者選抜の合格候補者の選考に関する事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号を掲げる委員をもって組織する。

(1) 教務主事

(2) 教務主事補

(3) 学科長及び教室主任

(4) 事務部長

２　委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

３　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第４条　委員会の庶務は、学生課が処理する。

（出典　本校規則集）

資料４－２－②－２

「福井工業高等専門学校教務委員会規則（抜粋）」

福井工業高等専門学校教務委員会規則

昭和41年4月1日規程第9号

改正　昭和42年 4月 1日規程第 6号　昭和44年 3月14日規程第 3号
昭和47年 4月26日規程第 2号　昭和54年 3月24日規程第 4号
平成 3年 2月21日規程第 1号　平成 7年 3月30日規則第 1号
平成17年 3月10日規則第 1号　平成21年 3月30日規則第 2号
平成22年 9月27日規則第11号

（設置）

第１条　本校に教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　教育課程及び授業時間割の編成等授業実施に関する事項

(2)　特別活動、学校行事等に関する事項

(3)　退学、休学、進級及び卒業の認定等に関する事項

(4)　その他教務に関する重要な事項

（出典　本校規則集）

資料４－２－②－３

「新入生アンケート結果について(抜粋)」

議　事　録

会議の名称	入学試験委員会　平成２３年度（第3回）
日　時	平成２３年6月１４日（火）　１５時３０分～１６時２０分
出 席 者	会議構成員 １５名（定員１５名）　その他の職員3名　計１８名
会　場	大会議室

議題等

（１）高専キャンパスウォークアンケート結果について

委員長から、資料Ｎｏ.１に基づき、参加者数及びアンケート集計結果について、昨年の同行事と比較し、参加者が約１００名増加しているが、今年度は、６月にオープンキャンパスを行わないこともあり、入試に結びつくかは未知数との説明があった。また、８月のキャンパスツアーの参加者数を含め出願者数の動向についても検討したいと付言があった。

（２）新入生アンケート結果について

■■委員から、資料Ｎｏ.２基づき、アンケート集計結果について説明があった。全体としては、昨年度と入学者の傾向は変わっていない、今年度より質問項目に加えた「２２．学力診断テストの点数」に見る限り、９割以上の学生が３３０点以上の得点層にいる旨の報告があった。また委員長から、一定の学力の学生を確保できたと思われるとの補足説明があった。

（出典　平成２３年度入学試験委員会）

資料４－２－②－４

「本科推薦制度および学力検査の改正について（抜粋）」

議　事　録

会議の名称	入学試験委員会　　平成２１年度（第3回）
日　　時	平成２１年6月３日（水）　　１６時２０分～１９時００分
出 席 者	会議構成員　１５名（定員１５名）　その他の職員４名　　計１９名
会　　場	校長会議室

議題等

（１）　入試対策（推薦要件、入試会場）について

委員長から前回委員会から継続審議の下記事項について、資料Ｎｏ．１に基づき説明があり、委員から下記の意見が出された。

１．推薦制度の改正

(a)推薦枠の増加

委員長からの他高専の推薦枠増の現状及び、推薦による優秀な学生の確保という説明に対し、賛成の意見が複数あったが、推薦枠増は学力枠の減少であり、学力志願者が減るのではとの慎重な意見もあり、教務主事団で再度検討することになった。

(b)推薦要件の改正

委員から、推薦ア要件（１）及び（２）の序列について、どちらを上位とするのか、中学校教員に序列について説明してもよいのかといった質問があった。

また、改正により一時的に倍率は上がるが、改正を実施するとこれ以上は下げることができない水準となるため、２年前に実施したことから、今年度は見送るべきとの意見があった。環境都市工学科からはぜひ実施してほしいとの意見があったが、今年度は、イ要件（推薦該当分野の増加）のみの改正で了承された。

２．学力検査の改正

(a)学力入試会場の改善

委員から福井ＡＯＳＳＡ会場での業務実施に対し、各教室の収容可能人数、志望者が増えた場合の対応等確認の意見があった。このことに対し、委員長及び学生課から事前の下見作業を入念に行い、資料のとおり前年度の問題対策は充分実施している、会場毎の志望者の増減については柔軟に対応するとの説明があった。

また、事務部長より、前年度入試時の問題点は、本部会場との連絡を密にすることにより、改善できるとの意見があった。以上から、会場改善の確認、了承を得た。

(b)学力入試；５会場の継続

委員より、福井ＡＯＳＳＡ会場とあわら会場の距離関係、受検者数、会場分散に伴う教職員負担の増加の観点から、５会場継続の必要性を疑問視する意見があった。このことについては、委員長から、今年度は、坂井市、敦賀市にて生徒数の増加があり、また昨日締切のあじさいオープンキャンパス申込み状況からも、あわら、敦賀地域の志願者が増えているため、５会場で実施したいとの強い意見があり、審議の結果了承された。

（出典　平成２１年度入学試験委員会）

また実際に本科に入学した１年次及び入学１年後の２年次に，基礎的な学力及び学力の定着を確認するため，１年次には数学と英語，２年次については数学の課題確認テストを前期授業が開始する前に実施するとともに（資料４－２－②－５），入試制度を定期的に検証するためのデータとしている。

資料４－２－②－５

「課題確認テストの実施日程」

４月の行事日程

月　日	曜	行　事　日　程
４月３日	火	・入寮式（10:30 ～） ・平成２４年度留学生チューター委嘱式（15:00～15:15，於：大会議室） ・外国人留学生（３年）オリエンテーション（15:15～，於：大会議室）
４日	水	・平成２４年度入学式(10:00 ～於:第１体育館）終了後ホームルーム（１年） ・ホームルーム（２～５年）（11:00～） ・教科書販売（２～５年）（ホームルーム終了後，於：第２体育館） ・教育後援会総会（12:00 ～，於：第１体育館） ・１～５年前期保護者懇談会(13:30～，於：教室）（教育後援会総会終了後） ・編入学生（４年）オリエンテーション(14:00～，於：小会議室１） ・専攻科１年オリエンテーション（入学式終了後，於：専攻科棟） ・専攻科２年オリエンテーション（14:00～　於：専攻科講義室２）
５日	木	・一斉健康診断（本科・専攻科） ・１年入学前の課題確認テスト 数　学　10:00～10:50 英　語　11:00～11:50 ・１年キャリアガイダンス（13:00～13:40，　於：大講義室） ・２年課題確認テスト 数　学　13:30～14:20
６日	金	前期授業開始

（出典　平成２４年度行事日程）

その結果，平成１９年度に推薦及び学力の各選抜で本科に入学した学生について，５年次までの創成系科目を含む，実験・実習系専門科目の成績を追跡調査したところ，いずれの選抜においても遜色なく高い平均点であった。このことから，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が各選抜でバランスよくできていることが確認された（資料４－２－②－６）。

資料４－２－②－６

「平成１９年度本科入学生の実験・実習科目における選抜別平均点」

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学した学生の平均点	推薦選抜で入学した学生の平均点
機械工学科	機械工作実習	83	80	88
	創造工学演習	78	78	79
	知能機械演習	83	82	83
	機械工学実験I	83	81	86
	機械工学実験II	82	82	82
	アイデア設計工学	80	80	80
電気電子工学科	電気電子工学実験 I	83	82	85
	電気電子工学実験 II	82	81	83
	電子創造工学	81	80	82
	電気電子工学実験 III	84	85	86
	電気電子工学実験 IV	83	82	85
電子情報工学科	情報基礎演習	74	73	74
	電子情報工学実験 I	81	79	85
	電子情報工学実験 II	80	78	83
	電子情報工学実験 III	79	77	82
	創造工学演習	80	78	83
	電子情報工学実験 IV	81	81	81
物質工学科	物質工学実験 I	88	88	88
	物質工学実験 II	85	84	87
	物質工学実験 III	88	87	89
	材料工学実験	79	78	81
	生物工学実験	91	91	93
環境都市工学科	環境都市工学実験実習 I	89	88	89
	環境都市工学実験実習 II	88	87	89
	環境都市工学実験実習 III	86	86	85
	環境都市工学設計製図 I	83	83	83
	環境都市工学設計製図 II	79	79	80

（出典　学生課）

また，専攻科課程の入学者選抜では，専攻科委員会が選抜方法の改善を検討しており，平成２２年度入試からは学力試験に専門科目の筆記試験を取り入れ，入学動機レポート（小論文）の提出を課す等（資料４－２－②－７），よりアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるよう継続的な改訂を行っている。その結果，専攻科課程の修了率は高い値で推移している（資料４－２－②－８）。

資料４－２－②－７

「入学試験制度の見直しについて（抜粋）」

第１５回専攻科委員会議事録

日　時：平成２１年1月１４日（水）　１３：３０～１６：５５
場　所：専攻科棟ゼミナール室３
出席者：■■委員長、■■、■■、■■、■■、■■、■■、■、■■各委員

議　題
１．入学試験関係の見直しについて
委員長から、今回の委員会をもって専攻科入試の見直しの最終案を策定したい旨の説明があった後、各委員から、前回委員会（１２月８日開催）以降、各学科等での入学試験関係の話し合いの状況報告があった。
この報告に基づき審議した結果、各学科等の話し合いの結果を考慮し、次のような専攻科委員会見直し案とすることで了承された。
①推薦選抜
面接を行わない案を改め面接を行うこととした。
入学動機レポート(仮称)は、出願時提出とし，試験日当日はその内容に基づく面接を実施することとした。

推薦要件：席次は３，４年次の学級順位の１／２以上
選抜方法：調査書（４０点）・入学動機等レポート及びレポート内容に基づく面接（１０点）
実施時期：５月土曜日（平成２２年度専攻科入試は、平成２１年５月２３日実施）

②学力選抜
筆記試験の専門は、各学科をＡ～Ｅ群に割り振り、各受検者がその中で一つの群を選択することとした。更に、各群の問題は、４から５問出題し、その中から３問を選択解答することとした。学力選抜の場合も出願時に入学動機レポート(仮称)の提出を課すこととした.

選抜方法：調査書（４０点）・英語（１００点）・専門（１５０点）・数学（１００点）・入学動機等レポート(仮称)及びレポート内容に基づく面接（１０点）
筆記試験等の実施順：午前　英語（６０分）・専門（９０分）
午後　数学（６０分）・入学動機等レポート(仮称)に基づく面接
実施時期：平成２２年度専攻科入試は、前期及び後期学力選抜を実施（６月２２日と１１月１４日）
筆記試験免除科目:英語
免除資格の取扱い：ＴＯＥＩＣのスコア３００点以上及び英検２級以上を免除とし、その資格に応じ筆記試験英語の評価を行う。評価方法は、英語科の原案のとおり。これに伴い、免除資格者も、筆記試験英語の受検機会を与え、高得点採用とした。

（出典　平成２０年度専攻科委員会）

資料４－２－②－８

「専攻科課程の専攻別修了率」

専攻	入学年度	入学者数		修了者数		修了率(%)	
		学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦
生産システム工学専攻	平成18年度	6	6	6	6	100	100
	平成19年度	3	13	3	13	100	100
	平成20年度	6	10	6	9	100	90
	平成21年度	3	11	3	11	100	100
	平成22年度	3	11	3	11	100	100
環境システム工学専攻	平成18年度	2	12	2	12	100	100
	平成19年度	5	9	3	9	60	100
	平成20年度	4	12	4	12	100	100
	平成21年度	3	13	2	13	67	100
	平成22年度	4	9	4	9	100	100

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかについて，本科及び編入学生選抜では，学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が，入学後の学生については教務委員会が検証を行い，両委員会が連携して入学者選抜の改善を行っている。また，専攻科生選抜では，専攻科委員会が選抜方法の検証と改善を継続的に行っている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

本科入学者選抜における定員は，各学科４０名である。推薦選抜ではそのうち１５名程度とし，学力選抜を含めて定員を満たすよう合格判定を行っている。さらに学力選抜においては，２年進級時に転科が可能な工学基礎コースを設置し，中学時点での学科選択という高専希望者にとっての敷居を低くし，受験者増及び本校に適合した学生の受け入れへの取組みを行っている（資料４－３－①－１）。本校の合格辞退者は極めて少数であることから，定員の４０名を合格とし，辞退者がある場合には追加合格により定員を満たすようにしている（資料４－３－①－２）。入学試験委員会では，中学生の減少を受け，優秀な学生の確保のための方策を検討している。平成２０年度に推薦要件を緩和し，募集人員を３０％程度から３５％程度に増加させ，平成２２年度には募集人員を３５％程度から１５名程度に増加させるとともに，イ要件の「科学の分野」について技術者を養成する本校の使命の観点から「科学や技術の分野」とした（資料４－３－①－３）。

資料４－３－①－１

「工学基礎コースについて」

（出典　本校ホームページ http://www.fukuinct.ac.jp/junior/course/kougakukiso.html）

資料４－３－①－２

「本科合格者数と実入学者数」

３ 合格者数，辞退者数，入学者数等一覧（年度別）

学　　科	募集人員	平成20年度		平成21年度		平成22年度				平成23年度		平成24年度	
		合格者	入学者	合格者	入学者	合格者	辞退者	追 加	入学者	合格者	入学者	合格者	入学者
機械工学科	40	40(1)	40(1)	40	40	41(1)			41(1)	40(1)	40(1)	40(2)	40(2)
電気電子工学科	40	41(2)	41(2)	40(3)	40(3)	40(3)	1	1	40(3)	40(5)	40(5)	40(2)	40(2)
電子情報工学科	40	41(6)	41(6)	40(4)	40(4)	40(5)			40(5)	40(8)	40(8)	40(8)	40(8)
物質工学科	40	40(14)	40(14)	40(14)	40(14)	40(12)			40(12)	41(20)	41(20)	41(17)	41(17)
環境都市工学科	40	41(10)	41(10)	40(10)	40(10)	40(9)			40(9)	40(12)	40(12)	40(17)	40(17)
合　　計	200	203(33)	203(33)	200(31)	200(31)	201(30)	1	1	201(30)	201(46)	201(46)	201(46)	201(46)

（備考）（ ）内の数字は内数で女子を示す。

（出典　学生課）

資料４－３－①－３

「本科推薦選抜における推薦基準の改訂」

２０年度に改訂した内容は以下の通りである。

(a) 推薦要件の緩和（対象学年を２、３年とし、基準点数を６８点以上に低減）

(b) 募集人員を３０％程度から３５％程度に５％（各科２名）増加

次に、２２年度に改訂した内容は以下の通りである。

(a) 募集人員を３５％程度から１５名程度に増加（２．５％（各科１名）増加）

(b) イ要件の「科学の分野」を「科学や技術の分野」に改正

この改定案は、過去の入試データおよび入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出しており、入学後の１年生の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績は問題がなく適性であることを確認している。今年度の推薦要件についてもいくつか改正案を提案し検討したが、最終的に基準は変更せずに、広報活動を充実することで対応することにした。

(3)　入試会場の５会場体制の継続と整備

福井高専会場と滋賀県彦根市会場以外に、１９年度に嶺北北部のあわら市、２０年度に嶺南の敦賀市、そして２１年度は人口の多い福井市に学力検査会場を新設し、学力検査は５会場体制になった。２１年度の福井市会場は、ＪＲ福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ７階の放送大学福井学習センターで実施した。２２年度から福井市会場の収容人員を増加し、受験生

（出典　平成２２年度自己点検・評価報告書）

編入学生選抜における定員は，各学科若干名である（前出資料４－１－①－７）。受入予定学科の４年生の人数が教育に支障をきたさないよう合格者数を検討し，合否判定を行っている。編入学選抜における出願者数・合格者数は（資料４－３－①－４）に示す。

資料４－３－①－４

「編入学選抜における出願者数及び合格者数」

		機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合　計
H24年度	出願者数		2				2
	合格者数		2				2
H23年度	出願者数	3		1	1		5
	合格者数			1			1
H22年度	出願者数	4	1	2	2	2	11
	合格者数	1	1	1	1	2	6
H21年度	出願者数	1	1	1	1		4
	合格者数	1	1	1			3
H20年度	出願者数	3	1		2	1	7
	合格者数		1		2		3

（出典　学生課）

専攻科生選抜における定員は，生産システム工学専攻１２名，環境システム工学専攻８名の計２０名である（前出資料４－１－①－６）のに対して，実入学者数は３０名程度である（前出資料４－２－②－８）。専攻科では，定員２５名の講義室１，定員４０名の講義室２，定員１６名のゼミ室３，及び１０名程度収容できるゼミ室１とゼミ室２を利用して講義を行っている。システム工学実験では専攻科生を少人数のグループに分けて，複数の教員がそれぞれの実験室等を利用して実施している。また，特別研究では指導教員１名に対して専攻科生１，２名程度であり，それぞれの設備において定員を超過している影響は少ないと考えられる。

（分析結果とその根拠理由）

過去５年間の入試実績より，本科の実入学者数は定員どおりで適正になっている。また，受検者数増に向けた取組みがなされている。編入学生選抜では，入学後のクラスの人数が教育に支障のない事を確認した上で合否判定を行っており適正である。専攻科生選抜では，実入学者数は定員を上回っているが，教育・研究に支障のない体制と，講義室，実験室等の設備が備わっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育の目的に沿って，本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーがそれぞれに定められており，社会に対し理解しやすい表現で説明を行って本校の教育目的に共感する優秀な学生の確保に努めている。本科における選抜では，科学や技術の分野における優秀な成果に関する口頭発表を評価に加える出願要件，及び２年次に転科が可能な工学基礎コースを設けており，多様な学生を受け入れている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準４の自己評価の概要

本校の教育の目的に沿って，本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーがそれぞれに定められており，学校案内，ホームページ，学生募集要項や学生便覧等に記載するとともに，中学校訪問時や学校説明会，体験入学，各種イベントなどで説明を行い，広く社会に発信し，本校の教育目標に共感する学生の募集に努めている。また，社会に対し理解しやすい表現に努め，具体例を示してわかりやすく口頭で説明を行っている。

全教職員を対象としたアドミッション・ポリシーの周知度調査により，実際の教育を行う教員に対して本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーが広く周知されていることが確認できた。また，入学者選抜がアドミッション・ポリシーに基づいて実施されていることに対しては，本科及び専攻科課程ともにほぼ全員に周知されているという結果であった。

本科及び本科４年次編入学生の選抜は入学試験委員会で，専攻科課程の選抜は専攻科委員会で，それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜を実施している。特に，小論文と面接においては，アドミッション・ポリシーに深く関わる観点に基づいて評価選抜しており，適切な学生の受入方法が採用されている。本科の推薦による選抜では，科学や技術の分野における優秀な成果についての口頭発表を評価に加える出願要件を設けており，また学力による選抜では２年次に転科が可能な工学基礎コースを設置し，多様な学生を受け入れている。実際に入学した学生の基礎学力について課題確認テストを実施し，入試制度を定期的に検証している。

過去５年間の入試実績より，本科については定員どおり，本科４年次編入学生においては定員以内が入学している。専攻科課程では入学者が定員を上回っているが，教育・研究に支障のない体制と，講義室，実験室等の設備が備わっている。

基準５　教育内容及び方法

（３）基準５の自己評価の概要

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程の編成について，各学科共に，低学年時において一般科目を多く配置し，学年が進むにつれて専門科目の比重が高まるくさび形の科目配置となっている（資料５－１－①－１～６）。

教育課程については，各学科とも原則として，基礎となる一般科目（数理系科目等）を低学年に，専門基礎科目，専門科目を高学年に配置しており，卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして体系的に編成している（資料５－１－①－７～12）。授業科目の内容は，学科ごとに定めた教育目標を最終的な到達点として，それぞれ準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目のいずれかに沿うものとなっている。

本校の教育目標「RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。」に沿って，英語教育に関しては，目的に沿った英語教育全般の目標を具体的に定め，これらに対応する内容を設定している（資料５－１－①－13，14）。

機械工学科では，学科の目的である「豊かな創造力をもつ機械技術者の育成」に沿って，各学年における達成目標を設定し，それぞれの科目における到達目標をシラバスに記載している（資料５－１－①－15，16）。

電気電子工学科では，学科の目的である「電力・電子・情報通信・計測制御などの基本を身につけた電気電子技術者の育成」に沿って，各学年における達成目標を設定し，それぞれの科目における到達目標をシラバスに記載している（資料５－１－①－17，18）。

電子情報工学科では，学科の目的である「現代社会を支えるICT技術者の育成」に沿って，各学年における達成目標を設定し，それぞれの科目における到達目標をシラバスに記載している（資料５－１－①－19，20）。

物質工学科では，学科の目的である「材料工学あるいは生物工学に通じた化学技術者の育成」に沿って，各学年における達成目標を設定し，それぞれの科目における到達目標をシラバスに記載している（資料５－１－①－21，22）。

環境都市工学科では，学科の目的である「住みよいまちを創り出す建設技術者の育成」に沿って，各学年における達成目標を設定し，それぞれの科目における到達目標をシラバスに記載している（資料５－１－①－23～24）。

高等専門学校設置基準に従い，授業を行う期間は35週にわたっている（資料５－１－①－25）。

資料５－１－①－１

「各学科共通科目の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

各学科共通

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
	国語	国語	6	2	2	2			
		国語表現	2				2		
	社会	倫理社会	2		2				
		政治経済	2			2			
		法学	1					1	
		歴史	4	2	2				
		地理	2	2					
		基礎解析Ａ	4	4					

（出典 平成24年度学生便覧，p.13）

資料５－１－①－２

「機械工学科の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

機械工学科

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
製図	1	1					
C言語基礎	1		1				
C言語応用	1			1			
機械計算力学	1				1		
材料学Ⅰ	1		1				

（出典 平成24年度学生便覧，p.14）

資料５－１－①－３

「電気電子工学科の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

電気電子工学科 （第1･2･3学年）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
製図	1	1					
電気磁気学Ⅰ	2		2				
電気磁気学Ⅱ	2			2			

（出典 平成24年度学生便覧，p.15）

資料５－１－①－４

「電子情報工学科の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

電子情報工学科

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
製図	1	1					
機械工学概論	2				2		
電子工学基礎	2		2				

（出典 平成24年度学生便覧，p.16）

資料５－１－①－５

「物質工学科の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

物質工学科 （第1･2･3･4学年）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	1				1		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
製図	1	1					
基礎工学概論	2				2		
工業英語	2				2		
分析化学	1			1			
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎	2		2				

（出典 平成24年度学生便覧，p.17）

資料５－１－①－６

「環境都市学科の授業科目一覧」

平成24年度教育課程表

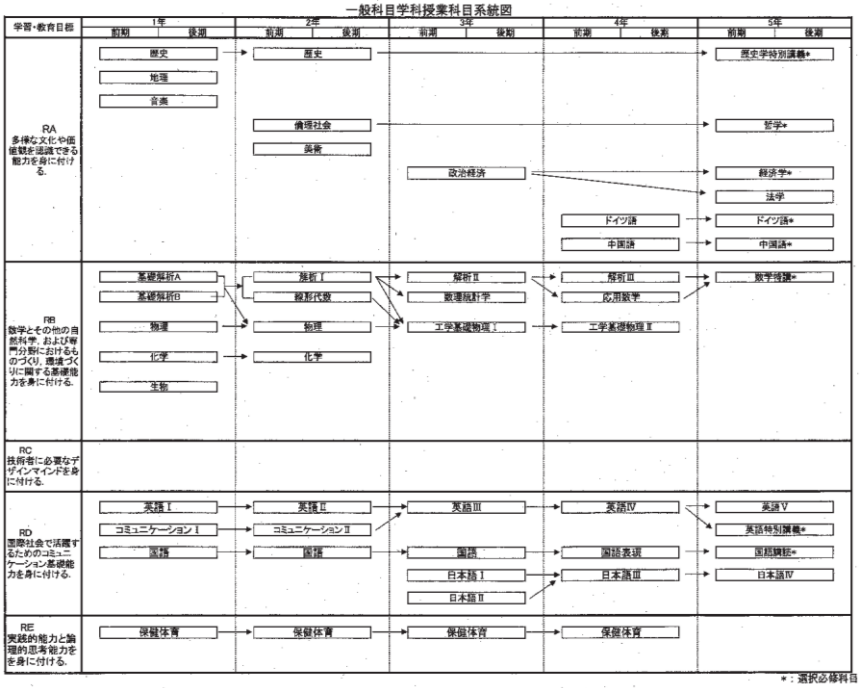
環境都市工学科 （第1･2･3･4学年）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
製図	1	1					
数値解析	2					2	
構造力学Ⅰ	2		2				
構造力学Ⅱ	2			2			

（出典 平成24年度学生便覧，p.18）

資料５－１－①－７

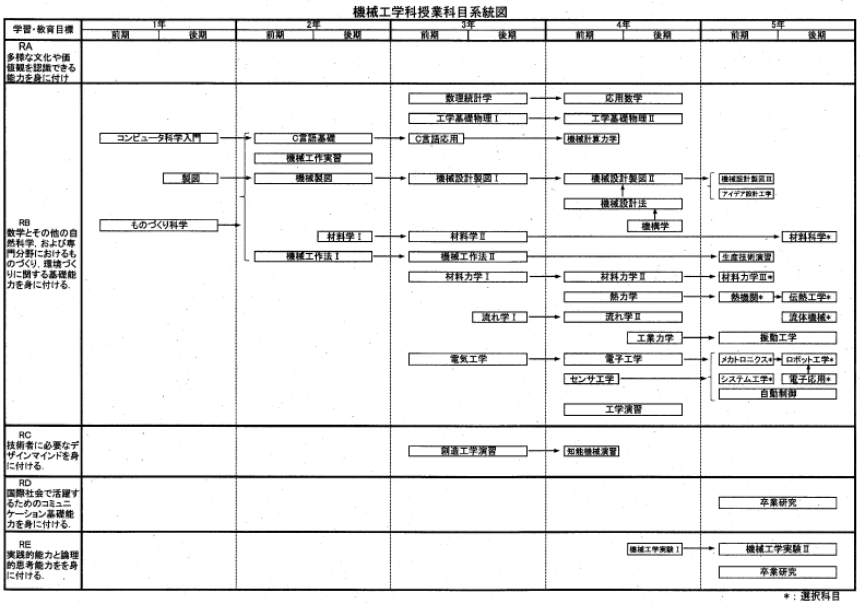
「一般科目の教育課程の体系性と科目系統図」



（出典 平成24年度シラバス，p.G-12）

資料５－１－①－８

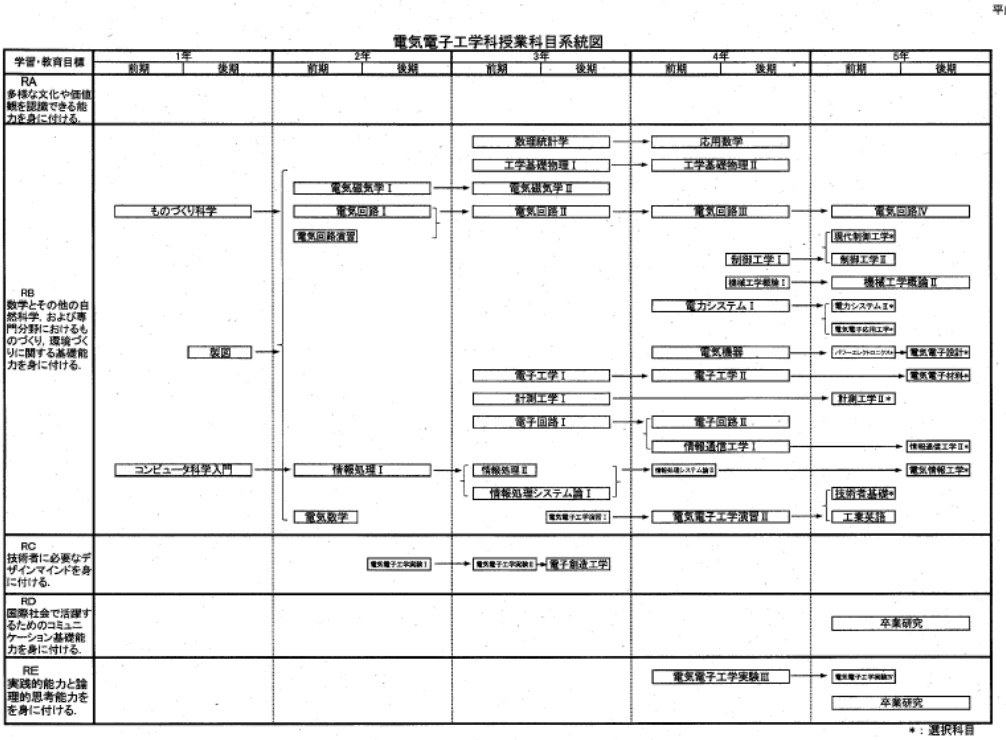
「機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図」



（出典 平成24年度シラバス，p.M-04）

資料５－１－①－９

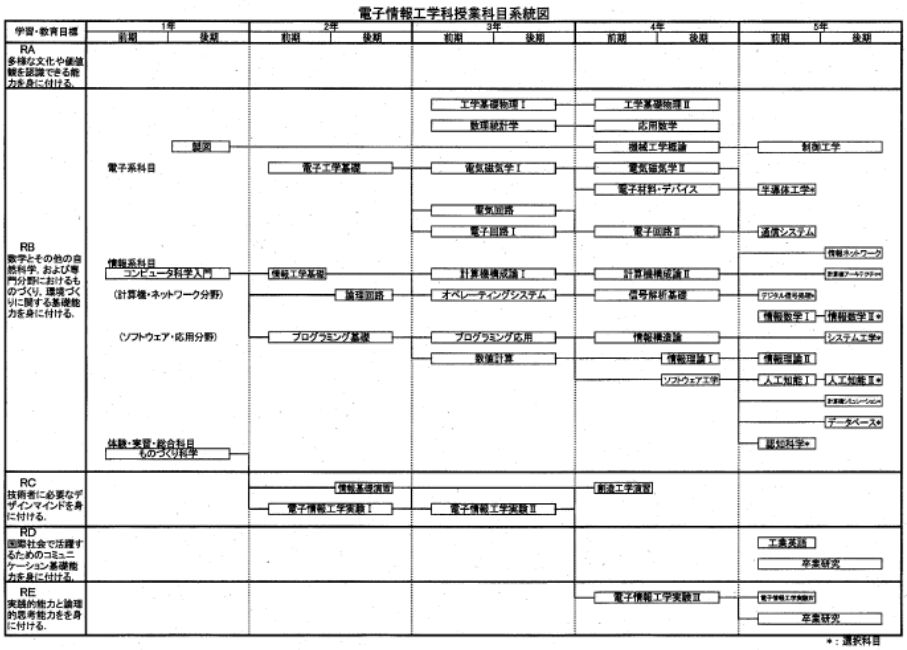
「電気電子工学科の教育課程の体系性と科目系統図」



（出典 平成24年度シラバス，p.E-04）

資料５－１－①－10

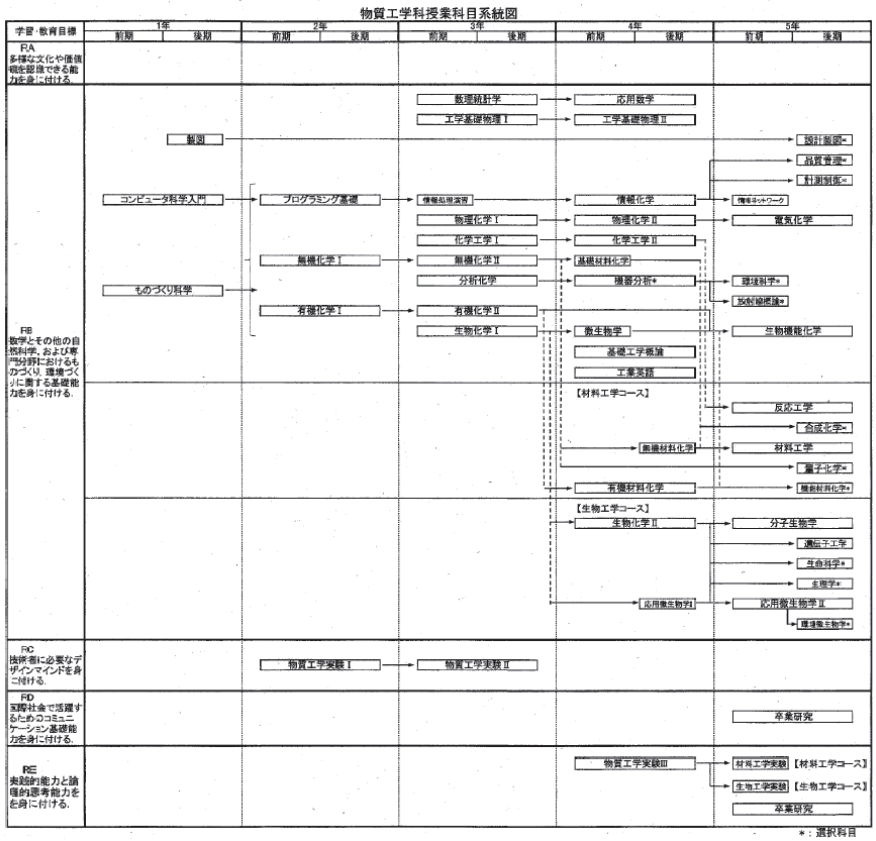
「電子情報工学科の教育課程の体系性と科目系統図」



（出典 平成24年度シラバス，p.Ei-04）

資料５－１－①－11

「物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図」

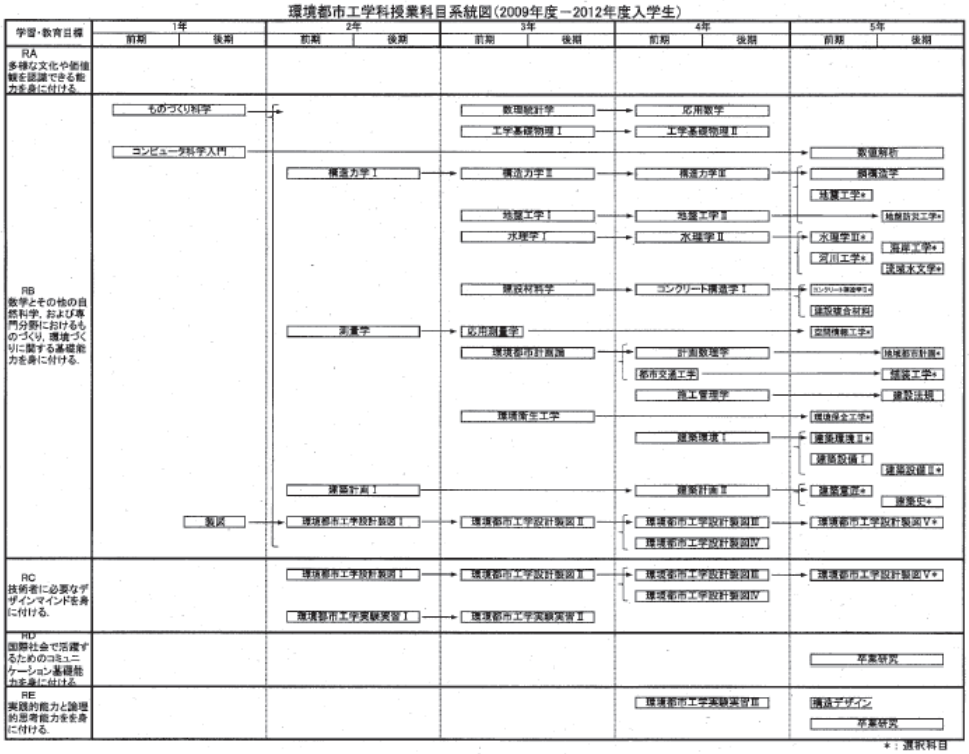


（出典 平成24年度シラバス，p.C-04）

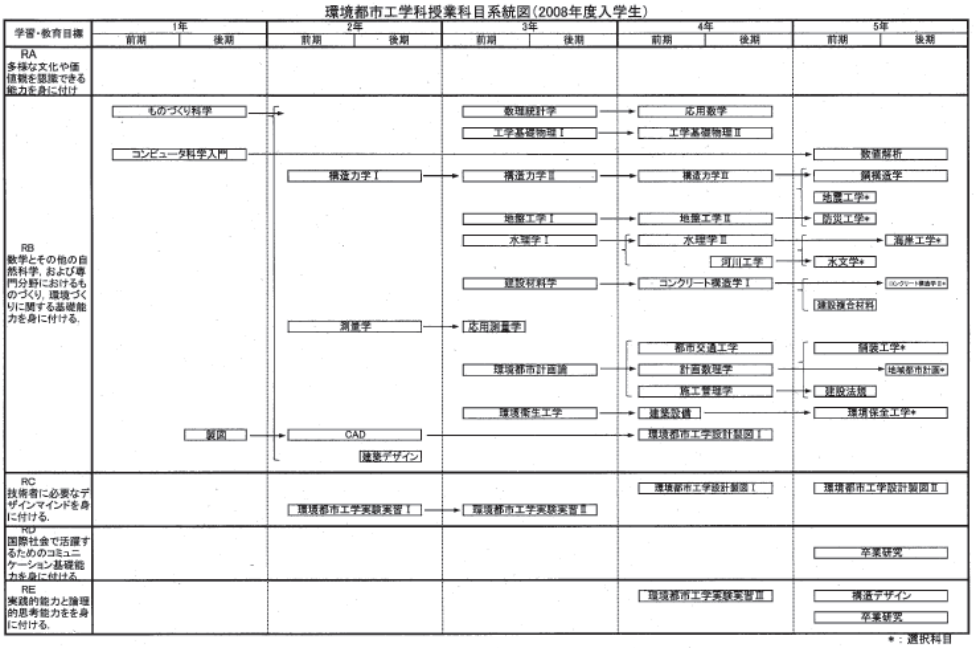
資料５－１－①－12

「環境都市工学科の教育課程の体系性と科目系統図」

環境都市工学科授業科目系統図(2009年度－2012年度入学生)



環境都市工学科授業科目系統図(2008年度入学生)



（出典 平成24年度シラバス，p.B-07～08）

資料５－１－①－13

「英語教育の達成目標」

平成24年度

英　語
英語理解・表現能力およびコミュニケーション能力の育成

【使命・基本方針・達成目標】英語は5年間の一貫したカリキュラムを通じ、英語を理解し、英語で表現する能力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。これと並行して、国際文化の理解を深め、工学系技術者にふさわしい英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
５年	国際社会で通用する英語運用力の基礎となるコミュニケーション能力	・１～４年で学習したことを踏まえ、TOEICテストにも対応できるような読解力、聴解力の養成を図りながら、国際社会で通用する総合的なコミュニケーション能力を養成すること。	・4500語レベルの語彙力習得を確実なものとし、TOEICテストに対応できる文法・構文力の習熟を目指すこと。 ・TOEICのリスニングテストに対応できるように、その狙いや形式を理解しながら聴解力を高めること。
４年	国際社会で通用する英語運用力の基礎となるコミュニケーション能力	・１～３年で学習したことを踏まえ、TOEICテストにも対応できるような読解力、聴解力の養成を図ること。また総合的なコミュニケーション能力を養成すること。	・4500語レベルの語彙力習得を目指すこと。 ・英語の基礎的な文法・構文力の再確認をおこない、その習得を目指すこと。 ・TOEICのリスニングテストに対応できるように、その狙いや形式を理解しながら聴解力を高めること。
３年	より深く、正確な読解能力・聴解力を持った総合的コミュニケーション能力	・１～２年で学習したことを踏まえ、主として読解力・聴解力の養成を図りながら、さらに高度な総合的コミュニケーション能力の養成をすること。	・日常的な内容の対話や説明に関する英語を聞いて理解できること。 ・幅広い話題についての英語の文章を読み、その中の情報・考えや、書き手の意図などを理解できること。 ・基礎的な語彙力・文法力を習得し、比較的易しい英文を用いた対話や作文ができること。
２年	４技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力	・１年で学習した事項の上にさらに進んだ言語材料を用いて、英語の４技能の調和のとれた発達に留意しながら、実践的なコミュニケーション能力の基本的能力を発展させること。	・日常的な内容の対話や説明に関する英語を聞いて理解できること。 ・幅広い話題についての英語の文章を読み、その中の情報・考えや、書き手の意図などを理解できること。 ・基礎的な語彙力・文法力を習得し、比較的易しい英文を用いた対話や作文ができること。
１年	４技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力	・中学校での既習事項を踏まえ、英語の４技能の調和のとれた発達に留意しながら、実践的なコミュニケーションの基本的能力を養成すること。	・通常的なレベルの簡単な英語を聞いて理解ができること。 ・自然な英語で書かれた文章を読んで理解ができること。 ・通常的なレベルで、簡単な対話ができ、英文を書くことができること。

（出典 平成24年度シラバス，p.G-09）

資料５－１－①－14

「英語教育に関する授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所」

履修	学修単位				
学科等	一般科目	科目コード	11807	総授業時間数	50時間
科目名	英語Ⅳ	科目名(英語)	English Ⅳ	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	全学科共通	学年	4年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	小寺光雄	他 担当教員	吉田三郎		
授業目標	１～３年で学習したことを踏まえ、主として読解力・聴解力を養成する。また、国際社会で通用する総合的なコミュニケーション能力を養成する。				
授業の概要と方法	(1)4500語レベルの語彙力習得を目指し、毎時、単語・熟語の小テストを行う。また、5週毎に100問テストを行う。(2)TOEIC に対応できるように、その狙い・形式を理解しながら、リスニング力とリーディング力の養成を図る。(3)重要構文の定着を図るため、練習問題を行いながら、その定着をはかる。(4)eラーニングを活用して、授業時外や家庭での学習を促す。(5)本科目は学修単位科目で、授業外学修のための課題を課す。				
授業項目(1週目)	授業概要説明、TOEIC演習	授業内容(1週目)	授業ガイダンス、TOIEC演習1		
授業項目(2週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(2週目)	単語小テスト、TOEIC演習2、構文練習		
授業項目(3週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(3週目)	単語小テスト、TOEIC演習3、構文練習		
授業項目(4週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(4週目)	単語小テスト、TOEIC演習4、構文練習		
授業項目(5週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(5週目)	単語小テスト、TOEIC演習5、構文練習		
授業項目(6週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(6週目)	単語小テスト、TOEIC演習6、構文練習		
授業項目(7週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(7週目)	単語１００問テスト、TOEIC演習7、構文練習		
授業項目(8週目)	語彙・文法演習、TOEIC演習	授業内容(8週目)	単語テスト、TOEIC演習8、構文練習		

学習・教育目標	本科（準学士課程）：RD1(1.0)(◎) 環境生産システム工学プログラム：JD1(1.0)(◎)
到達目標	(1) 日常的な内容の対話や説明の英語を聞いて理解できること。 (2) 比較的易しい英文による説明文などを読んで理解できること。 (3) 基本的な語彙力と文法を習得し、やや高度な英文を用いた対話や作文ができること。
評価方法	前期・後期の中間試験と期末試験(70%)、単語試験(20%)、および課題(10%)で評価する。学年末の成績において60点未満の場合は、各評価要素のおいてそれぞれ４割以上を獲得している場合にのみ追試を行い、合否を判定する。
評価基準	学年成績60点以上で合格とする。
関連科目	英語Ⅲ(本科3年)
オフィスアワー	各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典 平成24年度シラバス，p.G-89）

資料５－１－①－15

「機械工学科の達成目標」

平成24年度

機械工学科
豊かな創造力をもつ機械技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】機械工学科の使命は、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を育成することである。基本方針として、(1)機械技術者として必要な基礎学力の育成、(2)技術革新・高度情報化社会に対応できる能力の育成、(3)創造性・実践的能力の育成および人間形成の育成、を掲げており、機械工学に関する知識・技術を習得することを達成目標としている。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
５年	機械工学の専門的な知識を身に付けて、それらの問題を解決する能力	・「自動制御」「振動工学」を修得すること。 ・「生産技術演習」「アイデア設計工学」「機械設計製図Ⅲ」「機械工学実験Ⅱ」を修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・ラプラス変換やマトリクス演算を理解し制御工学の演算に応用できること。 ・機械構造物における振動問題について理解できること。 ・生産技術における問題点と改善案についてプレゼンテーションできること。 ・自ら立案したプロジェクト計画案に基づいてものづくりができること。 ・研究を通して得られたデータの解析を行い、適切な論述による報告書の作成および口頭発表において、研究内容を正確に示すことができること。
４年		・「材料力学Ⅱ」「流れ学Ⅱ」「熱力学」「工業力学」「機械設計法」「機構学」を修得すること。 ・「センサ工学」「電子工学」「機械計算力学」を修得すること。 ・「機械設計製図Ⅱ」「知能機械演習」「機械工学実験Ⅰ」を修得すること。	・流体の連続の式、ベルヌーイの式、運動量の法則に関連する基本的な問題が解けること。 ・熱効率の定義や熱力学第１・第２法則について説明できること。 ・機械要素や構造物に作用する力やモーメントについて理解できること。 ・機械要素（ねじ、軸、軸受、歯車など）の種類を理解し、安全設計に必要な計算ができること。また、リンク機構やカム機構について説明できること。 ・機械工学実験の結果を解析し、報告書を期限までに作成できること。
３年	機械工学の基礎的な内容について理解し説明できる能力	・「材料力学Ⅰ」「流れ学Ⅰ」「機械工作法Ⅱ」「材料学Ⅱ」「電気工学」を修得すること。 ・「機械設計製図Ⅰ」「創造工学演習」「C言語応用」を修得すること。	・簡単な機械や構造物の応力や変形の解析力を習得すること。 ・流体の物性値、静力学に関連する基本的な問題が解けること。 ・溶接、切削・研削、特殊加工の各種加工法を説明できること。また、炭素鋼の状態図・熱処理・材料記号の知識を身につけること。 ・簡単な機械・器具の設計製図手法およびスケッチ製図手法を理解すること。 ・実際のハードウェアの動作を考慮したプログラミングができること。また、アイデア創出から製作品性能評価までの一連の過程を体験すること。
２年		・「機械工作法Ⅰ」「材料学Ⅰ」を修得すること。 ・「機械工作実習」「機械製図」「C言語基礎」を修得すること。	・鋳造や塑性加工などの工作法の種類や特徴を説明できること。 ・金属の結晶構造や、基本状態図を説明できること。 ・旋盤・フライス盤などの工作機械の基本的操作法を習得すること。 ・ＪＩＳ機械製図法を理解し、ボルト・ナット、立ジャッキ、軸、歯車、Ｖベルトなどの機械要素を正しく製図できること。 ・C言語による簡単なプログラミングができること。
１年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典 平成24年度シラバス，p.M-03）

資料５－１－①－16

「機械工学科の授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所」

履修	学修単位				
学科等	機械工学科	科目コード	31482	総授業時間数	50時間
科目名	自動制御	科目名(英語)	Automatic Control	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	機械工学科	学年	5年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	亀山建太郎	他 担当教員			
授業目標	古典制御理論と現代制御理論の両手法による現象のモデル化と解析，および制御器の設計手順の学習を通して，問題を抽象化し，数理的手段により解決するという視点を持てるようにすること．				
授業の概要と方法	本科目は学修単位科目である．よって，授業では制御工学全体をフォローするように選んだトピックに関する講義と演習を行い，それを補足し，身に付けるための授業外学修（予習および授業内容に関する調査・考察）を課す．講義及び課題では，教科書の他に必要に応じてプリントによる補足を行う．				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明及び自動制御の全体像に関する講義		
授業項目(2週目)	制御系の表現	授業内容(2週目)	システムの微分方程式による表現		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	システムの伝達関数表現，Laplace変換		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	Laplace変換の性質と具体例（含む演習）		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	基本的要素と伝達関数		
授業項目(6週目)	モデルの応答	授業内容(6週目)	時間領域，周波数領域における表現		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	ブロック線図とモデルの応答に関する演習		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)			

学習・教育目標	本科（準学士課程）：RB2(◎) 環境生産システム工学プログラム：JB3(◎)
到達目標	(1) ラプラス変換及びマトリクス演算を理解し，制御工学の演算に応用できること (2) 身近なシステムの特性を数学的のモデル化し，その特性を説明できること．また，古典・現代の両理論に基づくモデル化，解析，制御系設計の手法が理解できること (3) 身近な問題と制御工学との関連が説明できること (4) 演習課題の工学的意義が理解でき，期限内に結果を提出できること
評価方法	学習・教育目標(B5)の達成および科目習得の方法：それぞれ2回の中間試験と期末試験を(40%)，学習課題を(20%)の100点満点で評価する．ただし，追加の課題を与え，その評価が60点を超えた点を用いて最大10点の加点を行う場合がある．
評価基準	学習・教育目標(B5)の達成および科目習得の評価基準：学年末成績60点以上
関連科目	ロボット工学（本科5年），システム工学（本科5年），計測・制御工学（専攻科生産システム系1年）
オフィスアワー	各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典 平成24年度シラバス，p.M-37）

資料５－１－①－17

「電気電子工学科の達成目標」

平成24年度

電気電子工学科
電力・電子・情報通信・計測制御などの基本を身につけた電気電子技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】電気電子工学科の使命は、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者を育成することである。基本方針として、(1)電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成、(2)幅広い専門分野に適応できる応用力の育成、(3)独創力およびコミュニケーション能力の育成、を掲げており、電気電子工学に関する知識・技術を習得することを達成目標としている。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
５年	電気電子工学を応用する能力	・「電気回路Ⅳ」「制御工学Ⅱ」「機械工学概論Ⅱ」「工業英語」を修得すること。 ・「電気電子工学実験Ⅳ」を修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・電気回路において、数式が表現している現象を理解できること。 ・提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導けること。 ・口頭発表にあたって、聴衆の反応に適切に対応し、質疑に対しても的確に応答できること。
４年	電気電子工学の基礎的な能力	・「電気回路Ⅲ」「電子工学Ⅱ」「電子回路Ⅱ」「情報通信工学Ⅰ」「制御工学Ⅰ」「電力システムⅠ」「電気機器」「機械工学概論Ⅰ」「情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅱ」を修得すること。 ・「電気電子工学実験Ⅲ」を修得すること。	・電力増幅回路・帰還増幅回路・演算増幅回路・電源回路の基本回路の構成と動作原理が理解できること。 ・情報通信分野に関する工学的現象を理解できること。 ・原子力発電、新エネルギーについて原理、特徴、課題が説明できること。 ・提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導けること。
３年		・「電気磁気学Ⅱ」「電気回路Ⅱ」「電子工学Ⅰ」「電子回路Ⅰ」「計測工学Ⅰ」「情報処理Ⅱ」「ディジタル技術」「情報処理ｼｽﾃﾑ論Ⅰ」を修得すること ・「電気電子工学実験Ⅱ」「電子創造工学」を修得すること。。	・基本回路における交流電力の計算方法が理解できること。 ・電磁気学に関する基礎知識について理解できること。 ・アナログ電子回路の基本回路の構成と動作原理が理解できること。 ・目的および手順を理解して実験をおこない、得られた結果に対する評価を含む報告書が作成できること。
２年	電気電子工学の導入基礎的な能力	・「電気回路Ⅰ」「電気回路演習」「電気磁気学Ⅰ」「電気数学」「情報処理Ⅰ」を修得すること。 ・「電気電子工学実験Ⅰ」を修得すること。	・正弦波交流の性質が理解でき、三角関数を用いて数式表現ができること。 ・直流回路において、電圧、電流の関係を理解できること。 ・基本的な構成のプログラムをC言語により記述できること。 ・基本的なレポートの書き方を修得する
１年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典 平成24年度シラバス，p.E-03）

資料５－１－①－18

「電気電子工学科の授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所（抜粋）」

履修	履修単位				
学科等	電気電子工学科	科目コード	41115	総授業時間数	50時間
科目名	電気磁気学Ⅱ	科目名(英語)	Electromagnetism 2	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	電気電子工学科	学年	3年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	佐藤匡	他 担当教員			
授業目標	数個の基礎的法則をもとに，完成した学問体系になっている電気磁気学の適用範囲の広さを認識し，基礎的法則とその適用について習得する．				
授業の概要と方法	電気系諸科目の基礎としての「電気磁気」の重要性の理解および基礎的法則を用いて電磁気学の問題を解く実力の養成を目指す．演習問題を通じて自らの理解度を把握させる．更に理論を実践により体得することを目的に，ものづくり演習を行う．				
授業項目(1週目)	電気磁気学Ⅱガイダンス	授業内容(1週目)	授業目標・シラバス説明，電気磁気学Ⅰ復習，数学的基礎		
授業項目(2週目)	定常電流	授業内容(2週目)	定常電流，回路網解析，例題演習		
授業項目(3週目)	ビオ・サバールの法則	授業内容(3週目)	ビオ・サバールの法則Ⅰ		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	ビオ・サバールの法則Ⅱ（例題演習）		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	ビオ・サバールの法則Ⅲ（例題演習）		
授業項目(6週目)	アンペア周回積分の法則	授業内容(6週目)	アンペア周回積分の法則Ⅰ		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	アンペア周回積分の法則Ⅱ（例題演習）		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	アンペア周回積分の法則Ⅲ（例題演習）		

学習・教育目標	本科（準学士過程）：RB2(◎)
到達目標	(1)電磁気学に関する基礎知識について理解できること． (2)ものづくり演習において目標を定め，これを達成するために計画を立て，それに沿って作品を仕上げること．
評価方法	授業内容に関する試験（中間・期末）を60%，ものづくり演習の評価を30%，主要な例題演習を10%で評価する．必要に応じて課題の追加提出および再試験を実施することがある．前期と後期の成績を総合的に判断し，学年成績とする．
評価基準	学年成績60点以上
関連科目	電気磁気学Ⅰ
オフィスアワー	各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典 平成23年度シラバス，p.E-17）

資料５－１－①－19

「電子情報工学科の達成目標」

平成24年度

電子情報工学科
現代社会を支えるICT技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】電子情報工学科の使命は、情報化社会の基盤となるソフトウェア技術、コンピュータネットワーク技術及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者を養成することである。基本方針として、(1)基礎的な学力と能力の育成、(2)変化するＩＴ社会に対応できる応用力の育成、(3)実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力の育成、を掲げており、卒業研究を通じて電子情報工学の深い洞察力や創造力を養うことを達成目標とする。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
５年	電子情報工学に携わる技術者としての実践的能力及び創造能力	・電子通信、計算機・ネットワーク、情報応用の各分野の科目を修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・社会インフラとしての情報ネットワークを説明できること。 ・制御系の構成要素を理解し、最適制御系を構成できること。 ・習得した専門科目の応用能力を養うこと。 ・研究テーマの内容を実社会での活用と結びつけて理解できること。研究を通して得られたデータの解析を行い、適切な論述による卒業研究報告書の作成が出来ること。
４年	ソフトウェアやハードウェアなどの専門教育としての電子情報工学の知識を理解する能力	・「信号解析基礎」「電子回路Ⅱ」「電気磁気学Ⅱ」「電子材料・デバイス」「計算機構成論Ⅱ」「ソフトウェア工学」「情報構造論」「情報理論Ⅰ」を修得すること。 ・「機械工学概論」を修得すること。 ・「創造工学演習」「電子情報工学実験Ⅲ」を修得すること。	・マクスウェル方程式の数学的、物理的意味を理解すること。 ・ソフトウェア開発やプロセスを説明でき、製品としてのソフトウェアの品質を保証する手法が挙げられること。 ・情報量とエントロピーが理解できること。 ・電子機器等における機械工学の役割を意識できること。 ・グループ内討議において提案説明力と討論能力を養うこと。
３年	基礎的な電子情報工学の知識を理解する能力	・「電気回路」「電子回路Ⅰ」「電気磁気学Ⅰ」「プログラミング応用」「数値計算」「計算機構成論Ⅰ」「オペレーティングシステム」を修得すること。 ・「電子情報工学実験Ⅱ」を修得すること。	・基本増幅回路の構成、特性の表し方が理解できること。 ・プログラミング言語での基本的なデータやファイルを扱う基本的なプログラムが記述できること。 ・数値計算アルゴリズムを実装できること。 ・回路仕様に基づき、論理回路の設計ができること。 ・オペレーティングシステムの動作原理と基本機能、実現技法が理解できること。
２年	高等教育導入レベルの電子情報工学の基礎を理解する能力	・「電子工学基礎」「情報工学基礎」「プログラミング基礎」「論理回路」を修得すること。 ・「情報基礎演習」「電子情報工学実験Ⅰ」を修得すること。	・電気回路を見たとき、その動作を正しく理解できること。 ・プログラミング言語の文法及び基本的なプログラムが理解できた上で、問題解決のためのプログラムが作成できること。 ・実験を行う手順を自らの判断でスムーズに実行でき、提出期限までに指示された内容を含むレポートを提出できること。
１年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典 平成24年度シラバス，p.Ei-03）

資料５－１－①－20

「電子情報工学科の授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所」

履修	履修単位				
学科等	電子情報工学科	科目コード	51342	総授業時間数	25時間
科目名	情報理論Ⅰ	科目名(英語)	InformationTheory Ⅰ	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	電子情報工学科	学年	4年
開設期	通年	単位	1単位	授業形態	講義
担当教員	下條雅史	他 担当教員			
授業目標	情報理論は、情報の伝達・蓄積・処理の効率化、高信頼性に関する基礎理論である。情報理論は、確率過程と密接に結びついており、符号理論などの数学的な側面を、効率の良い情報源符号化や通信路の信頼性と言った工学的要求に合致した形で実現化する基本的な考え方を理解させる。情報理論Ⅰでは、特に、確率論、符号化論に絞って、情報理論の基礎を理解する。「環境生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標JB2「情報処理に関する基礎知識を理解できる」に対応する。				
授業の概要と方法	本科目は、融合複合型の「環境生産システム工学」教育プログラムの基礎工学である「情報・論理系」科目群の科目です。座学を中心とし、 教科書に沿って講義を行なう。適宜演習としてプリントを配布し、理解度を深める。				
授業項目(1週目)	授業概要、情報理論総論	授業内容(1週目)	シラバスの説明，ガイダンス、情報理論とは		
授業項目(2週目)		授業内容(2週目)	シャノンの情報理論		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	通信システムのモデル		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	情報源符号化、通信路符号化		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	標本化定理、量子化		
授業項目(6週目)	確率論の基礎	授業内容(6週目)	集合、試行		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	確率の定義		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)			

学習・教育目標	本科（準学士課程）：RB2(◎) 環境生産システム工学プログラム：JB2(◎)
到達目標	(1)平均符号長の限界を知り、情報源符号化の効率を理解出来ること。 (2)情報量とエントロピーが理解出来ること。 (3)情報理論の基礎となる確率・統計が理解できること。
評価方法	４回の定期試験で評価する。ただし、各定期試験100点満点で60点未満の者に対しては、各々10点満点のレポート・再試験を課する。
評価基準	学年成績100点満点で60点以上を合格とする。
関連科目	数理統計学（本科3年）、計算機構成論Ⅱ(本科4年)、情報理論Ⅱ(本科5年)、システム工学（本科5年）。
オフィスアワー	各学科教室の掲示板、ホームページに掲載

（出典 平成24年度シラバス，p.Ei-34）

資料５－１－①－21

「物質工学科の達成目標」

平成24年度

物質工学科
材料工学あるいは生物工学に通じた化学技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】物質工学科の使命は、化学を人の為に活かせる技術者を育成することである。基本方針として、(1)物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成、(2)材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成、(3)実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成、を掲げており、材料工学あるいは生物工学に通じた化学技術者を育成することを達成目標とする。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
5年	材料工学(コース)あるいは生物工学(コース)を得意とする専門能力、実践的能力及びプレゼンテーション能力	・「情報ネットワーク」「生物機能化学」「電気化学」および、(生物工学コース)においては「応用微生物学Ⅱ」「分子生物学」「遺伝子工学」「生物工学実験」あるいは、(材料工学コース)においては「材料工学」「反応工学」「材料工学実験」を修得すること。 ・コースあるいは共通の選択科目を修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・生体高分子、遺伝子の機能に関して化学的視点で基礎知識を理解できること。 ・化学プロセス中のエネルギー収支・物質収支を理解でき、操作・設計の基礎的な問題を解くことができること。 ・実験または数値シミュレーションの結果を評価し、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できること。
4年		・「基礎工学概論」「工業英語」「物理化学Ⅱ」「化学工学Ⅱ」「微生物学」「基礎材料化学」「情報化学」「物質工学実験Ⅲ」および、(生物工学コース)においては「生物化学Ⅱ」「応用微生物学Ⅰ」あるいは、(材料工学コース)においては「無機材料化学」「有機材料化学」を修得すること。	・微生物の定義、各生物の構造的な特徴や特性などを理解出来ること。 ・固体化学に関する基礎的知識の習得とその応用としての無機材料の展開を理解できること。 ・固体の電気的、磁気的、熱的性質など固体物理に関する基礎知識を理解できること。 ・高分子材料の化学構造を設計することにより様々な機能性が発現されていることが理解できること。
3年	基礎科学及び幅広い専門基礎能力	・「分析化学」「無機化学Ⅱ」「有機化学Ⅱ」「物理化学Ⅰ」「情報処理演習」「化学工学Ⅰ」「生物化学Ⅰ」「物質工学実験Ⅱ」を修得すること。	・溶液内のイオン平衡を理解できること。 ・化学・生体反応に対する熱力学的考察ができること。 ・化学プロセス中のエネルギー収支・物質収支を理解でき、操作・設計の基礎的な問題を解くことができること。 ・生命現象を支える生体物質の構造と性質、その生物学的役割を理解し、説明できること。
2年		・「プログラミング基礎」「無機化学Ⅰ」「有機化学Ⅰ」「物質工学実験Ⅰ」を修得すること。	・プログラミングにおける基本的な構成のプログラムをC言語により記述できること。 ・固体化学（結晶化学）の基本的概念を理解し、結晶の構造および構造の安定性がどの様な因子によって支配されるかについて説明できること。 ・原子間の結合様式が理解でき、有機化合物の分類、異性体の記述が出来ること。
1年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典 平成24年度シラバス，p.C-03）

資料５－１－①－22

「物質工学科の授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所」

履修	履修単位				
学科等	物質工学科	科目コード	61215	総授業時間数	25時間
科目名	分析化学	科目名(英語)	Analytical Chemistry	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	物質工学科	学年	3年
開設期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
担当教員	小泉貞之	他 担当教員			
授業目標	化学の諸問題を検討する場合、必ず化学分析の結果から判断を下すこととなる。従って、分析化学は科学技術者にとっては必須の知識である。溶液内イオン平衡の考え方に基づき、各化学種の挙動を定量的に記述する方法、および反応を予測する方法を理解させる。更に、実際の化学分析への応用についても修得させる。分析化学Ⅰで、酸塩基平衡、錯体生成平衡を行い、本授業では、その続きである酸化還元平衡、沈殿平衡を理解させることを目標とする。				
授業の概要と方法	教科書と自作プリントを中心として行う。演習問題を数多く取り入れ、分析化学の計算および応用力を養う。ほぼ毎回、課題レポートを課す。				
授業項目(1週目)	酸化還元反応	授業内容(1週目)	シラバス説明、酸化還元反応、ネルンストの式		
授業項目(2週目)		授業内容(2週目)	酸化還元平衡、酸化剤、還元剤、電極電位		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	半電池、電池、起電力		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	電池反応、極性		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	沈殿反応を伴う酸化還元反応		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	酸化還元滴定		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	実際の酸化還元滴定、演習		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)			

学習・教育目標	本科（準学士課程）RB2（◎）
到達目標	(1) 工学的諸問題に対処する際に必要な 化学に関する基礎知識を理解できること. (2) 習得した分析化学の分野における 専門基礎知識・技術とに基づいて，その分野に関する工学的現象を正しく理解できること. (3) 溶液内のイオン平衡を理解できること。化学反応式から定量方法を理解することができること。 (4) 定量操作の結果から目的物の濃度、含有率などを計算することができること。
評価方法	定期試験の成績７割、課題レポート（学修）の内容２割、授業態度１割で評価する。
評価基準	学年成績６０点以上を合格とする。
関連科目	化学（本科1，2年），物質工学実験Ⅰ（本科２年），機器分析（本科４年），放射線概論（本科５年）
オフィスアワー	物質工学科の掲示板、ホームページに記載。

（出典 平成24年度シラバス，p.C-14）

資料５－１－①－23

「環境都市工学科の達成目標」

平成24年度(第1･2･3･4学年)

環境都市工学科
住みよいまちを創り出す建設技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】　環境都市工学科の使命は、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を育成することである。基本方針として、(1)建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成、(2)幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成、(3)実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成、を掲げており、環境都市工学に関する知識・技術を修得することを達成目標としている。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
5年	建設技術者として必要な実践的な能力	・「鋼構造学」「建設複合材料」「建築設備Ⅰ」「建設法規」「構造デザイン」を修得すること。 ・土木、建築分野の科目を選択し修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・建設の関連法規に即し、建築や社会資本整備の全体的な構想が立てられること。 ・問題解決の手続きを計画するにあたり、適切な実験・解析方法を選択できること。 ・口頭発表において、聴衆の反応に適切に対応し、質疑に対して的確に応答できること。
4年	建設技術の基礎的知識を理解し、応用する能力	・「構造力学Ⅲ」「コンクリート構造学Ⅰ」「水理学Ⅱ」「建築環境Ⅰ」「地盤工学Ⅱ」「計画数理学」「都市交通工学」「施工管理学」「建築計画Ⅱ」を修得すること。 ・「環境都市工学設計製図Ⅲ」「環境都市工学設計製図Ⅳ」「環境都市工学実験実習Ⅲ」を修得すること。 ・「応用数学」「工学基礎物理Ⅱ」を修得すること。	・曲げとせん断が作用するRC部材について，安全性と使用性の検討が行えること。 ・社会資本や環境都市のデザインに際し、機能性、安全性及び経済性、資源・環境問題や人々の快適性を考慮できること。 ・法規制等の遵守を基本に、必要な品質・原価・工程・安全・環境の各管理及び積算の基礎を理解すること。 ・室内環境の各要素について関連する規定と環境評価の方法を理解していること。 ・集合住宅や複合施設の基本概念を理解し、建物全体の計画ができること。
3年	建設技術の基礎的知識を理解する能力	・「構造力学Ⅱ」「建設材料学」「水理学Ⅰ」「地盤工学Ⅰ」「環境衛生工学」「応用測量学」「環境都市計画論」を修得すること。 ・「環境都市工学設計製図Ⅱ」「環境都市工学実験実習Ⅱ」を修得すること。 ・「数理統計学」「工学基礎物理Ⅰ」を修得すること。	・構造物を直接的あるいは間接的に支える基礎地盤の性質を理解すること。 ・水理学の基本原理である静止流体の力学および流れの基礎理論について理解すること。 ・上水道施設及び下水道施設の役割を理解し、水循環のシステムとして認識できること。 ・歴史的な環境都市の概念や変遷、環境都市計画の過程や手続き、方法論などを理解すること。 ・各種材料の原料、製造工程、性質および用途を説明できること。 ・RC造の基本的な構造を理解した上で、小中規模の建物全体の計画ができること。
2年	高等教育導入レベルの建設技術に関する基礎的な能力	・「構造力学Ⅰ」「測量学」「建築計画Ⅰ」を修得すること。 ・「環境都市工学設計製図Ⅰ」「環境都市工学実験実習Ⅰ」を修得すること。	・物理学における静力学の一般原理を応用して、橋梁や建物など各種構造物が外力の作用を受けた場合の内部応力や変形を求められること。 ・距離測量、角測量、基準点測量、平板測量、応用測量及び写真測量の各測量の特徴や理論を説明でき、得られた結果を計算等によってデータ整理できること。 ・木造住宅の基本的な概念を理解し、与条件のもとに動線・採光・通風等を考慮した設計が行えること。
1年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

平成24年度(第5学年)

環境都市工学科
住みよいまちを創り出す建設技術者の育成

【使命・基本方針・達成目標】　環境都市工学科の使命は、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を育成することである。基本方針として、(1)建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成、(2)幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成、(3)実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成、を掲げており、環境都市工学に関する知識・技術を修得することを達成目標としている。

学年	目指す能力	達成目標	到達目標例
5年	建設技術者として必要な実践的な能力	・「鋼構造学」「建設複合材料」「構造デザイン」「建設法規」「環境都市工学設計製図Ⅱ」「数値解析」を修得すること。 ・土木分野の科目について選択し修得すること。 ・「卒業研究」に取り組むこと。	・建設の関連法規に即し、建築や社会資本整備の全体的な構想が立てられること。 ・問題解決の手続きを計画するにあたり、適切な実験・解析方法を選択できること。 ・口頭発表において、聴衆の反応に適切に対応し、質疑に対して的確に応答できること。
4年	建設技術の基礎的知識を理解し、応用する能力	・「構造力学Ⅲ」「コンクリート構造学Ⅰ」「水理学Ⅱ」「地盤工学Ⅱ」「河川工学」「計画数理学」「都市交通工学」「施工管理学」「建築設備」を修得すること。 ・「環境都市工学設計製図Ⅰ」「環境都市工学実験実習Ⅲ」を修得すること。 ・「応用数学」「工学基礎物理Ⅱ」を修得すること。	・曲げとせん断が作用するRC部材について，安全性と使用性の検討が行えること。 ・社会資本や環境都市のデザインに際し、機能性、安全性及び経済性、資源・環境問題や人々の快適性を考慮できること。 ・法規制等の遵守を基本に、必要な品質・原価・工程・安全・環境の各管理及び積算の基礎を理解すること。 ・建築物に機能をもたらし必要不可欠な設備に関する基本概念を理解すること。
3年	建設技術の基礎的知識を理解する能力	・「構造力学Ⅱ」「建設材料学」「水理学Ⅰ」「地盤工学Ⅰ」「環境衛生工学」「応用測量学」「環境都市計画論」を修得すること。 「環境都市工学実験実習Ⅱ」を修得すること。 ・「数理統計学」「工学基礎物理Ⅰ」を修得すること。	・構造物を直接的あるいは間接的に支える基礎地盤の性質を理解すること。 ・水理学の基本原理である静止流体の力学および流れの基礎理論について理解すること。 ・上水道施設及び下水道施設の役割を理解し、水循環のシステムとして認識できること。 ・歴史的な環境都市の概念や変遷、環境都市計画の過程や手続き、方法論などを理解すること。 ・各種材料の原料、製造工程、性質および用途を説明できること。
2年	高等教育導入レベルの建設技術に関する基礎的な能力	・「構造力学Ⅰ」「測量学」「CAD」「建築デザイン」を修得すること。 ・「環境都市工学実験実習Ⅰ」を修得すること。	・物理学における静力学の一般原理を応用して、橋梁や建物など各種構造物が外力の作用を受けた場合の内部応力や変形を求められること。 ・距離測量、角測量、基準点測量、平板測量、応用測量及び写真測量の各測量の特徴や理論を説明でき、得られた結果を計算等によってデータ整理できること。 ・木造住宅の基本的な概念を理解し、与条件のもとに動線・採光・通風等を考慮した設計が行えること。 ・CADの基本操作や用語を理解し、締切までに図面を仕上げることができること。
1年	ものづくり、情報処理の基礎的な能力	・「ものづくり科学」「コンピュータ科学入門」「製図」を修得すること。	・各実験テーマについて、科学的に説明する報告書を作成できること。研究結果をプレゼンテーション発表し、研究内容を説明できること。 ・コンピュータのハードウェア、ソフトウェア及びネットワークの基本的な構成及び動作の概要が理解できること。 ・図面の役割や、図面の基礎的な知識・技術が習得されること。

（出典 平成24年度シラバス，p.B-05～06）

資料５－１－①－24

「環境都市工学科の授業科目のシラバスの具体的目標に対応している箇所」

履修	履修単位				
学科等	環境都市工学科	科目コード	71702	総授業時間数	50時間
科目名	環境衛生工学	科目名(英語)	Environmental and Sanitary Engineering	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	環境都市工学科	学年	3年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	奥村充司	他 担当教員			
授業目標	環境施設の役割は、本来の物質循環が滞ることによって引き起こされる健康被害、生活環境の悪化を物理・化学的、生物学的処理により効率よく改善する事である．環境悪化の原因物質の特性やそれらによる人体影響について学習し、その処理のメカニズムを学習し、環境改善のための効率的な処理施設の計画・設計の基礎について工学的にアプローチする				
授業の概要と方法	上下水道を中心に、環境施設の必要性、工学的基礎知識を演習を行いながら学習させる．講義内容の要点はパワーポイントを用いてプレゼンテーション形式で行う。また、種々の環境問題をテーマにしたビデオ教材も駆使して、より理解を深める．また、グループによるテーマ別ディスカッションを行う．				
授業項目(1週目)	概論	授業内容(1週目)	シラバスの説明・概論・環境衛生工学とは（上下水道・公害の歴史）		
授業項目(2週目)		授業内容(2週目)	水環境の現状		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	大気環境・音環境の現状		

学習・教育目標	本科　（準学士課程）：RB2（◎）
到達目標	(1)　浄水場や下水処理場の計画・設計において，環境負荷の低減や快適性さらに経済性などを考慮できること。上水道施設および下水道施設の役割を理解し、これらを水循環のシステムとして認識できること． (2)　浄水処理や下水処理の物理、化学、生物学的なメカニズムに関する基礎知識を理解し、地域における環境施設の役割を十分理解し、計画、設計に生かすことができること． (3)　この講義を通じて、技術士一次試験（上下水道部門）あるいは公害防止管理者試験（水質・大気・騒音）の受験に取り組めること
評価方法	上記について，前期中間・期末および後期中間・期末試験を４回実施し、その算術平均点（80%）および学習・教育目標A5に関するレポート課題を与え、そのレポート評価(20%）を合計して評価する．
評価基準	学年成績60点以上
関連科目	河川環境工学(本科4年)、環境保全工学(本科5年)、環境工学(専攻科1年)、環境施設設計（専攻科２年）
オフィスアワー	各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典 平成24年度シラバス，p.B-23）

資料５－１－①－25

「平成24年度行事予定表（抜粋）」

2012年度年間行事予定

4月				5月				6月			
1	日			1	火		Tue-4	1	金	高校春季総体県予選　休業	
2	月	春季休業(～3日)		2	水		Wed-3	2	土	高校春季総体県予選	
3	火	入寮式(10:30)　新入寮生オリエンテーション(11:00) 開寮(14:00)		3	木	憲法記念日		3	日	高校春季総体県予選	
4	水	入学式(10:00)　専攻科オリエンテーション　2～5年HR(11:00) 教育後援会総会(12:00)　保護者懇談会(13:30)		4	金	みどりの日		4	月	午前:授業　午後:休講　　授業予備日	Mon-7.5
5	木	一斉健康診断(本科・専攻科) 模擬確認テスト		5	土	こどもの日		5	火	前期中間まとめ　授業予備日　専攻科休業	
6	金	前期授業開始	Fri-1	6	日			6	水	前期中間試験	Wed-8
7	土			7	月		Mon-4	7	木	前期中間試験	Thu-8
8	日			8	火	木曜日又は金曜日の授業(体育祭振替)		8	金	前期中間試験	Fri-8
9	月		Mon-1	9	水		Wed-4	9	土		
10	火		Tue-1	10	木		Thu-4	10	日		
11	水	午前休講　新入生歓迎会，クラブ紹介	Wed-0.5	11	金	短縮授業　大掃除　キャンパスウォーク準備	Fri-5	11	月	前期中間試験	Mon-8.5
12	木	新入生オリエンテーション合宿(奥越高原青少年自然の家)	Thu-1	12	土	キャンパスウォーク		12	火	前期中間試験	Tue-8
13	金	新入生オリエンテーション合宿(奥越高原青少年自然の家)	Fri-2	13	日			13	水		Wed-9
14	土			14	月		Mon-5	14	木		Thu-9
15	日			15	火		Tue-5	15	金		Fri-9
16	月		Mon-2	16	水		Wed-5	16	土		
17	火		Tue-2	17	木		Thu-5	17	日		
18	水	学生総会	Wed-1.5	18	金		Fri-6	18	月		Mon-9.5
19	木	短縮授業　専攻科特別研究中間発表会	Thu-2	19	土	寮祭		19	火		Tue-9
20	金		Fri-3	20	日	寮祭 舞鶴高専交歓試合		20	水		Wed-10
21	土			21	月		Mon-6	21	木		Thu-10
22	日			22	火		Tue-6	22	金	前期中間試験成績〆切(16:00)	Fri-10
23	月		Mon-3	23	水		Wed-6	23	土	専攻科学力選抜(前期)	
24	火	開校記念日	Tue-3	24	木		Thu-6	24	日		
25	水	午後:休講　体育祭準備	Wed-2	25	金		Fri-7	25	月	公開授業週間	Mon-10.5
26	木	休講　体育祭(延期の場合は木曜日の短縮授業)	Thu-3	26	土	専攻科推薦選抜		26	火	公開授業週間	Tue-10
27	金	体育祭予備日(金曜日の授業)	Fri-4	27	日			27	水	社行会　公開授業週間	Wed-11
28	土			28	月		Mon-7	28	木	公開授業週間 専攻科学力選抜(前期)合格者判定会議(16:15)	Thu-11
29	日	昭和の日		29	火		Tue-7	29	金	公開授業週間	Fri-11
30	月	振替休日		30	水		Wed-7	30	土	北陸地区高専体育大会(陸上・ラグビー　富山高専)	
				31	木	専攻科推薦選抜合格者判定会議(16:15)	Thu-7				

※2年～5年生は、4月9日の週に達成度評価シートを記入する。

（出典 学生課）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成については，各学科とも，くさび形の科目配置としており，本校の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らした卒業時の到達目標及び各学年の修了時の到達目標の下に，各授業科目を各学年に適切に配置している。また，目標に到達するために段階的な履修が可能となるよう授業科目の内容を決定している。以上のことから，教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

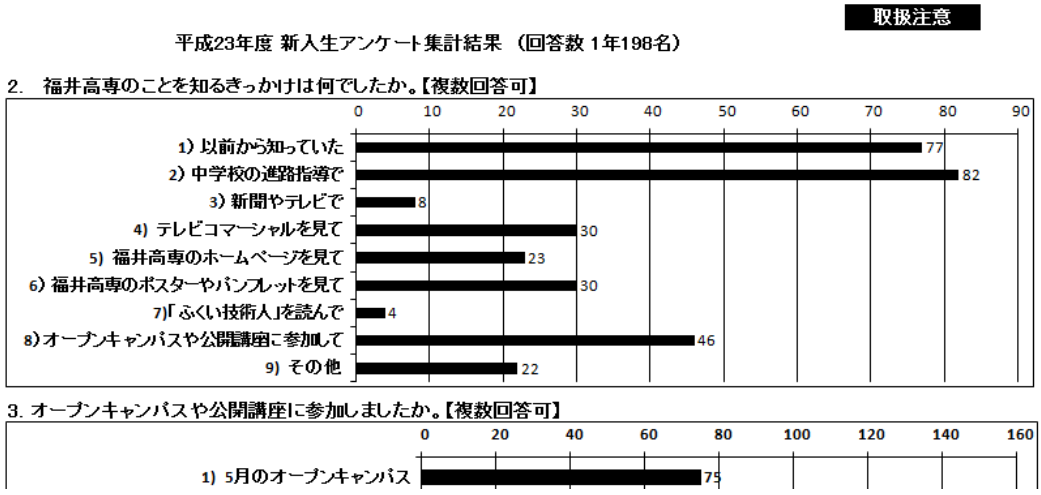
学生の多様なニーズ，社会からの要請に配慮するために，授業アンケートなど各種アンケートを実施し，教育システム推進委員会にてその結果について検討している（資料５－１－②－１～４）。また，学生の多様なニーズに応えるため，入学時に工学基礎コースを設置し，２年時進級時に希望学科への転科を認める仕組みがある（資料５－１－②－５）。第４学年への編入学生に対しては，各学科において補充教育が行われている（資料５－１－②－６）。

第４学年で「インターンシップ」を実施し，企業での研修，報告書の作成，インターンシップ報告会での発表を行っている（資料５－１－②－７～９）。その他，学生の多様なニーズに応える制度として，海外インターンシップ制度（資料５－１－②－10，11），単位修得認定制度（資料５－１－②－12，13）がある。

本校の基本理念と学習・教育目標に掲げられている英語コミュニケーション能力の養成及び外部有識者会議における講評における英語コミュニケーション能力の向上に向けた提言などに対応するために，外国語の伝達と読解の基礎能力育成に関する緊急会議を開催し，英語教育のマスタープランを作成した（資料５－１－②－14，15）。TOEIC@IP試験の結果から，本校の英語教育に対する具体的な目標設定を設定し，その実現に向けた教育改善を行っている（資料５－１－②－16）。

資料５－１－②－１

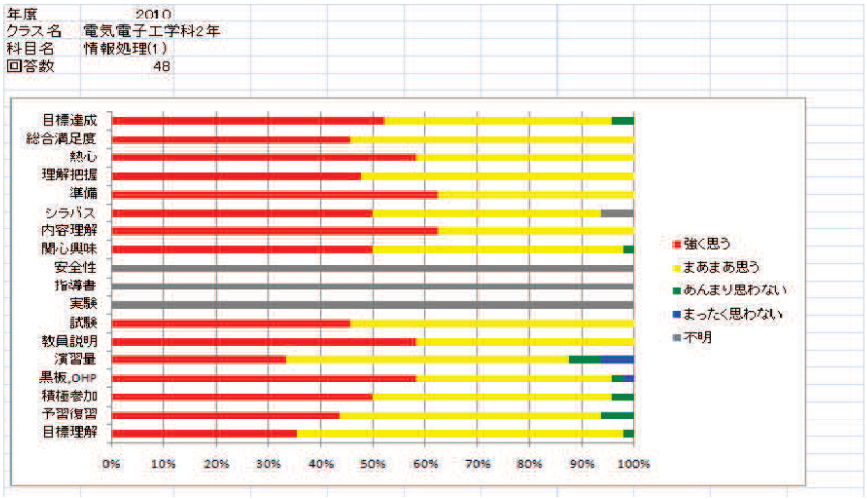
「新入生アンケート結果（抜粋）」



（出典 平成23年度教員会議）

資料５－１－②－２

「授業アンケート結果（抜粋）」



（出典 平成23年度授業アンケート）

資料５－１－②－３

「平成23年度就職・進学先アンケート結果（抜粋）」

平成 23 年度就職・進学先　アンケートの概要、結果及び考察

創造教育開発センターでは，本校の教育改善を目的として，平成 20 年度に引き続き同 23 年度にも進路先（大学・大学院・企業等）アンケートを行った．平成 20 年度は同 17，18 年度の卒業生・修了生（295 名分）の進路先に対し，郵送による回答が 154 名分（回答率 52%），同 23 年度は同様に同 19～21 年度の 510 名に対して回答が 281 名分（回答率 55%）であった．アンケート結果は，平成 20 年度と同 23 年度を比較して添付の棒グラフにまとめた．また，4 段階評価の上位 2 項目が 75～100%の場合を無印(良好)，50～75%を△印（普通），50%以下を×印（改善を要する）とした添付の総括表を作成し平成 20 年度と 23 年度

（出典 創造教育開発センター）

資料５－１－②－４

「平成23年度卒業生アンケート結果（抜粋）」

平成 23 年度卒業生・修了生　アンケート結果及び考察

創造教育開発センターでは，本校の教育改善を目的として，平成 20 年 10 月に平成 14～18 年度，同 23 年 10 月に同 19～21 年度の本科卒業生・専攻科修了生に対して，それぞれアンケートを行った．平成 20 年度はアンケート送付数 854 名に対し，郵送及びネットでの回答が 87 名（回答率 10.2%），同 23 年度は 591 名に対して 82 名（回答率 14%）であった．平成 20 年度のアンケート結果は既に報告済みであるが，同 20 年度と同 23 年度を比較するために 2 回のアンケートをまとめて添付の棒グラフにまとめた．また，4 段階評価の上位 2

（出典　創造教育開発センター）

資料５－１－②－５

「工学基礎コースからの転科学生」

平成２４年度　転学科後の第２学年予定人数

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	計
転学科前学生数	38 (1)	40 (5)	38 (7)	41 (20)	40 (12)	197 (45)
転出希望者数	2			3		5
転入希望者数	1	1	1		2	5
第２学年原級留置者数	4	3 (1)	4	3	6 (2)	20 (3)
第２学年復学者数					1	1
転学科数	1	1	1	1 ＊	1	5
集計結果数	41 (1)	44 (6)	43 (7)	42 (20)	48 (14)	218 (48)

（出典 平成23年度教務委員会）

資料５－１－②－６

「編入学生に対する補充教育の実施に関する依頼文」

平成２３年９月９日

電気電子工学科長
英 語 科 主 任　　殿
数 学 科 主 任

教　務　主　事

平成２４年度編入学生に対する補習の実施等について（依頼）

標記のことについて、平成２４年度編入学生が入学後、円滑かつ効果的に学習できるよう、事前補習を計画・実施されたくよろしくお願いいたします。
ついては、該当者を下記のとおり登校させ、説明会を開催しますので、補習の説明・指導方併せてお願いいたします。

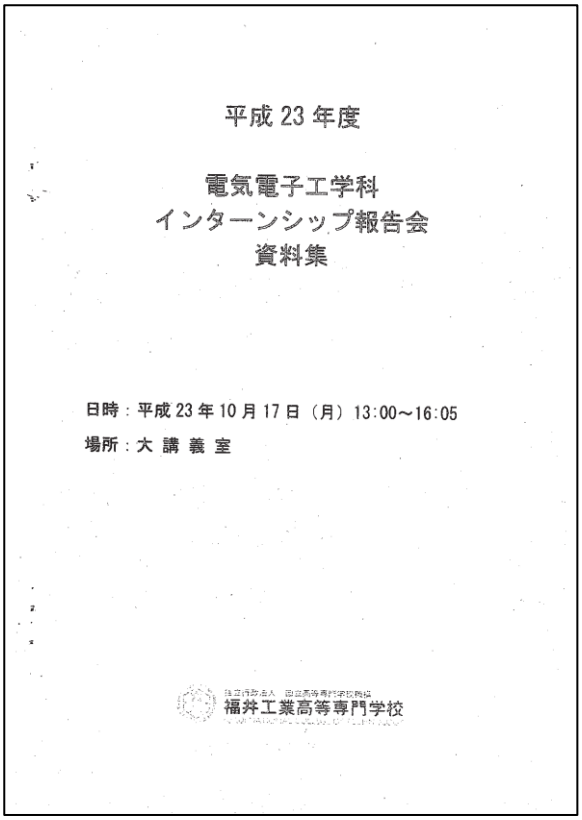
記

１．編入学生氏名
電気電子工学科 [redacted]
電気電子工学科 [redacted]

（出典 学生課）

資料５－１－②－７

「夏季校外実習（インターンシップ）報告会資料集 表紙例」



平成 23 年度

電気電子工学科
インターンシップ報告会
資料集

日時：平成 23 年 10 月 17 日（月）13:00～16:05
場所：大 講 義 室

福井工業高等専門学校

（出典 学生課）

資料５－１－②－８

「夏季校外実習（インターンシップ）報告会資料集 内容例（氏名欄は消去済）」

インターンシップ報告会プログラム

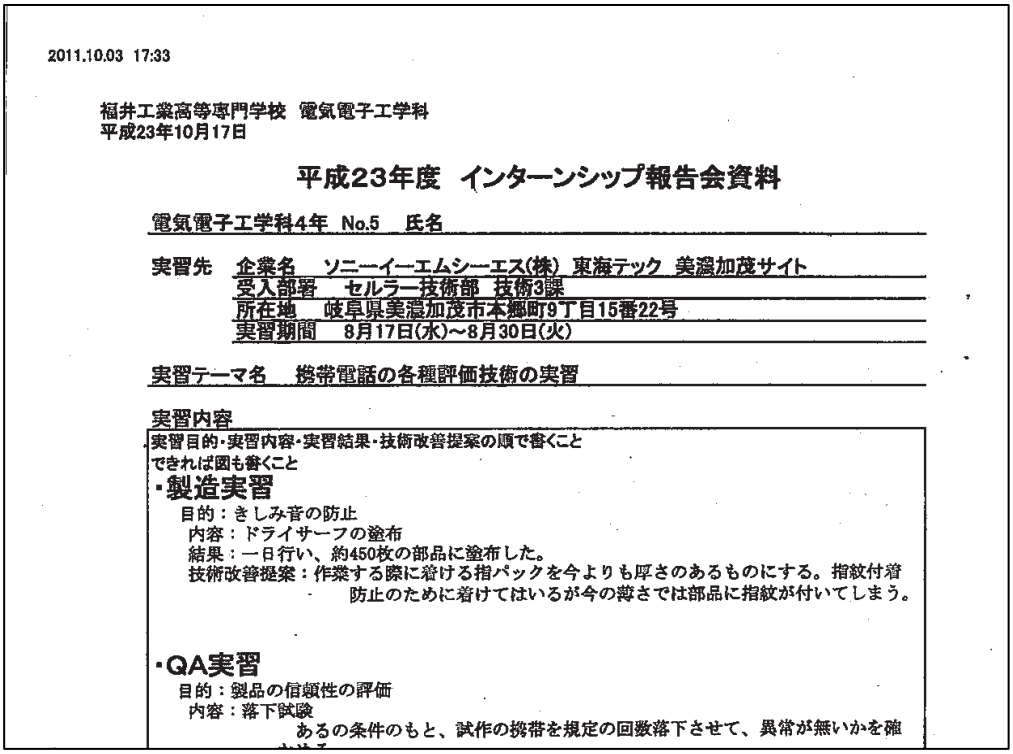
電気電子工学科　学科長挨拶　13:00

出席番号	研修生名	研修企業・大学名	開始	終了	
1		関西電力株式会社	8月22日	8月26日	13:05
2		大阪ガス株式会社	8月31日	9月8日	
3		アボット ジャパン株式会社 勝山事業所	9月5日	9月9日	
4		産業技術総合研究所/筑波大学	9月12日	9月27日	
5		ソニーイーエムシーエス株式会社 東海テック　美濃加茂サイト	8月17日	8月30日	
6		株式会社明電舎	8月22日	9月2日	13:25
8		独立行政法人　日本原子力研究開発機構 敦賀本部　国際原子力情報・研修センター	8月22日	8月26日	
9		有限会社 znug design	9月5日	9月16日	
10		福井テレビジョン放送株式会社	8月5日	8月11日	
11		倉茂電工株式会社	9月12日	9月22日	
12		アボット ジャパン株式会社 勝山事業所	9月5日	9月9日	13:45
13		KBセーレン株式会社	9月5日	9月16日	
14		三菱電機ビルテクノサービス株式会社	8月1日	8月6日	
15		レンゴー株式会社武生工場	8月22日	8月26日	
16		ダイキン工業株式会社	8月22日	9月2日	
17		オムロン株式会社	8月8日	8月12日	14:05
18		北陸電力株式会社	8月22日	8月26日	
19		株式会社ユーエヌアイ研究所	9月5日	9月16日	
20		株式会社リコー　福井事業所	9月12日	9月22日	
21		武田薬品工業株式会社	7月28日	8月3日	15分間休憩
22		株式会社鎮江村田製作所	8月23日	9月2日	14:40

（出典 学生課）

資料５－１－②－９

「校外実習評価報告書 例（氏名欄は消去済）」



2011.10.03 17:33

福井工業高等専門学校 電気電子工学科
平成23年10月17日

平成23年度 インターンシップ報告会資料

電気電子工学科4年 No.5 氏名

実習先 企業名 ソニーイーエムシーエス(株) 東海テック 美濃加茂サイト
受入部署 セルラー技術部 技術3課
所在地 岐阜県美濃加茂市本郷町9丁目15番22号
実習期間 8月17日(水)～8月30日(火)

実習テーマ名 携帯電話の各種評価技術の実習

実習内容

実習目的・実習内容・実習結果・技術改善提案の順で書くこと
できれば図も書くこと

・製造実習

目的：きしみ音の防止
内容：ドライサーフの塗布
結果：一日行い、約450枚の部品に塗布した。
技術改善提案：作業する際に着ける指パックを今よりも厚さのあるものにする。指紋付着防止のために着けてはいるが今の薄さでは部品に指紋が付いてしまう。

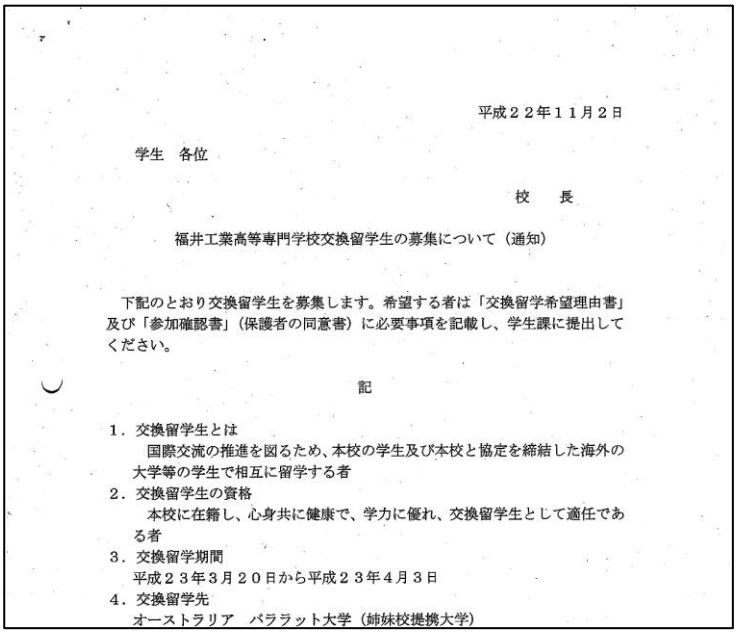
・QA実習

目的：製品の信頼性の評価
内容：落下試験
あるの条件のもと、試作の携帯を規定の回数落下させて、異常が無いかを確

（出典 学生課）

資料５－１－②－10

「平成22年度 学生海外派遣制度の案内文」



平成２２年１１月２日

学生　各位

校　長

福井工業高等専門学校交換留学生の募集について（通知）

下記のとおり交換留学生を募集します。希望する者は「交換留学希望理由書」及び「参加確認書」（保護者の同意書）に必要事項を記載し、学生課に提出してください。

記

１．交換留学生とは
　国際交流の推進を図るため、本校の学生及び本校と協定を締結した海外の大学等の学生で相互に留学する者
２．交換留学生の資格
　本校に在籍し、心身共に健康で、学力に優れ、交換留学生として適任である者
３．交換留学期間
　平成２３年３月２０日から平成２３年４月３日
４．交換留学先
　オーストラリア　パララット大学（姉妹校提携大学）

（出典 学生課）

資料５－１－②－11

「在学生の海外留学・海外派遣の状況」

交換留学完了報告

実施日　平成23年3月20日(日)～4月3日(日) 15日間

参加者　別紙のとおり

留学先　パララット大学(オーストラリア)

支出額　50,000円×9名(学生)＝450,000円(奨学金として)

上記の交換留学が完了しましたことを確認しましたので報告します。
ついては、学生たちへの奨学金の支給をよろしくお願いします。

福井工業高等専門学校
出納命令役　殿

平成23年4月18日

学生課長 橋 田 良 一

参加者名簿

1．引率教員
・吉田三郎教員
・原口　治教員

2．交換留学生（学年は3Q現在）

学年	学科	氏　名	性別
2	機械工学科		男
3	電気電子工学科		男
3	電気電子工学科		男
3	電気電子工学科		男
3	電気電子工学科		男
◎ 3	物質工学科		男
3	環境都市工学科		男
3	環境都市工学科		女
3	環境都市工学科		女

計9名　男子　7名　女子　2名

（出典 学生課）

資料５－１－②－12

「単位修得認定制度の学生向け説明文」

英語検定の資格をとろう

今や英語力は学校の授業だけのものというものではありません。多くの企業においても英語力が問われ、昇進や昇給に関係したり、海外派遣の条件として要求されています。

英語検定の中には、実用英語技能検定（実用英検）や工業英語能力検定(工業英検)というものがあり、卒業までにはこのような検定試験に合格しておくことが望まれます。

また、本校における優遇措置として、上記の検定に合格すると本校の英語科の科目として単位が認定されるという特典もあります。

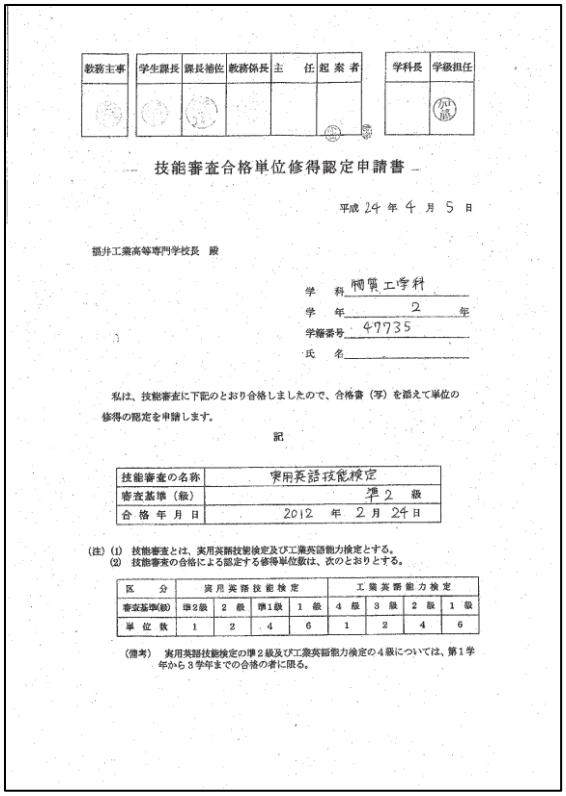
英語検定の合格による単位認定について

英語検定の合格により認定される単位数は次の表のとおりです。ただし、一度単位の修得を認定された後、さらに上位の審査基準に合格した場合は、当該上位単位数と既に認められた単位数との差が修得単位として認定されます。

（出典　平成24年度シラバス，p.G-10）

資料５－１－②－13

「技能審査合格単位修得認定申請書 申請例（申請書式と認定証）」



技能審査合格単位修得認定申請書

平成24年4月5日

福井工業高等専門学校長 殿

学　科　機械工学科
学　年　2　年
学籍番号　47735
氏　名

私は、技能審査に下記のとおり合格しましたので、合格書（写）を添えて単位の修得の認定を申請します。

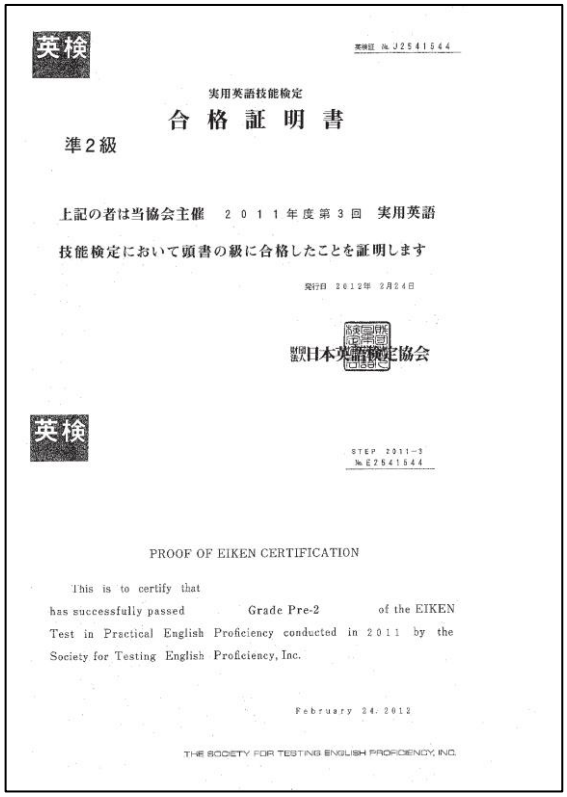
記

技能審査の名称	実用英語技能検定
審査基準（級）	準2　級
合格年月日	2012　年　2月　24日

（注）(1) 技能審査とは、実用英語技能検定及び工業英語能力検定とする。
(2) 技能審査の合格による認定する修得単位数は、次のとおりとする。

区　分	実用英語技能検定				工業英語能力検定			
審査基準(級)	準2級	2　級	準1級	1　級	4　級	3　級	2　級	1　級
単位数	1	2	4	6	1	2	4	6

（備考）　実用英語技能検定の準２級及び工業英語能力検定の４級については、第１学年から３学年までの合格の者に限る。



英検

実用英語技能検定

合格証明書

準2級

上記の者は当協会主催　２０１１年度第３回　実用英語技能検定において頭書の級に合格したことを証明します

発行日　2012年　2月24日

財団法人日本英語検定協会

英検

STEP　2011-3
No.E2541544

PROOF OF EIKEN CERTIFICATION

This is to certify that
has successfully passed　Grade Pre-2　of the EIKEN Test in Practical English Proficiency conducted in 2011 by the Society for Testing English Proficiency, Inc.

February 24, 2012

THE SOCIETY FOR TESTING ENGLISH PROFICIENCY, INC.

（出典 学生課）

資料５－１－②－14

「外国語の伝達と読解の基礎能力育成に関する緊急会議に関するメール（抜粋）」

教務主事殿

お世話になっております。下記のメールを頂戴しました。

>>
英語の基礎力向上に向けたスキーム構築について（打ち合わせ）

標記の件、基本理念や学習教育目標（RD,JD）に掲げられているとおり、国際社会への対応としてコミュニケーション能力の育成が重要になって来ている中、高専生の英語能力の底上げが迫られる状況となって来ております。
また、外部有識者会議でも指摘を受けており、認証評価を控えた本校としても、この事について明確な方針を打ち出す必要が出て参りました。
そこで、急なお願いで申し訳ございませんが、英語科の先生方にお集まりいただき、標題の件につきましてスキーム構築の打ち合わせを行いたくご案内申し上げます。
ご多用中のところ申し訳ございませんがご参集いただきますようお願い申し上げます。

打ち合わせ日時：
５月２６日（木）　教員会議終了後　小会議室１にて、
（初回ですので短時間で終わるつもりです）

（出典 学内メール）

資料５－１－②－15

「英語教育のマスタープラン」

「本校英語教育における現状の分析と改善点について」

福井高専英語科

アブストラクト

前回の認証評価及び、JABEE 受審の結果及び外部有識者会議の提言等を受け、本校の英語教育においてこれまでどのような教育改善を実施したか、現状を中心に分析した。

その結果、以下の教育改善を主軸に据えることが必要とされよう。

①科目成績と外部評価（TOEIC®等の検定試験）との相関性の調査分析（グラフ分布図等の作成）により、教育目標等となるアウトカムズを再定義する。

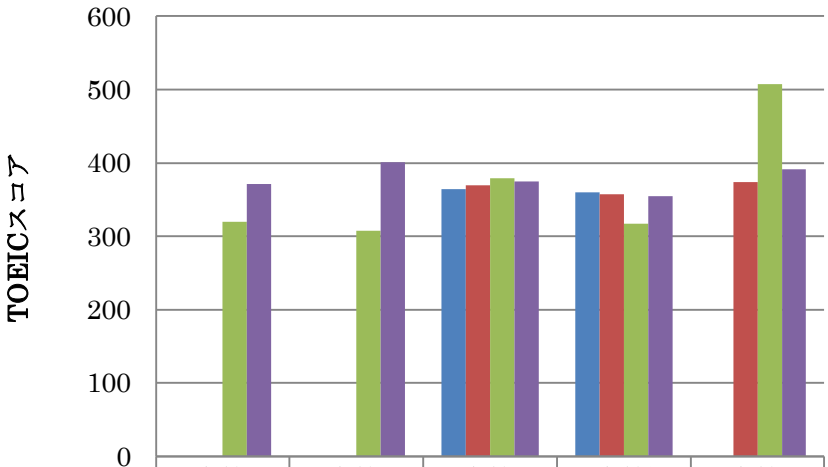
②①の主軸となる調査資料として、外部評価を重視する観点から、全クラスより抽出した学生１００名（各クラス１０％４名程度を基準）に TOEIC®及び TOEIC® BRIDGE を受験させ、この結果を分析し、具体的な教育目標を設定する。これを校長裁量経費申請による、学内教育改善プロジェクトと位置付ける。

③TOEIC®を中心とした検定試験の受験を奨励し、外部評価への意識を高める。特に TOEIC®については、学校会員権利取得を検討する（校長裁量経費）。これにより強力な受験支援が可能となる。

（出典　英語科）

資料５－１－②－16

「TOEIC@IP試験結果」



	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
3学年			364	360	
4学年			370	357	374
5学年	320	308	379	317	507
専攻科生	371	401	375	355	391

（出典 教務委員会）

（分析結果とその根拠理由）

工学基礎コースの導入に伴う2年時進級時での転学科制度や各学年におけるインターンシップ等のキャリア教育の充実，英語で教育の充実などを行い，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

各学科では，専門的な知識から高いレベルの実践力までを幅広くカバーするために，授業形態として講義，演習，実験・実習の科目を配置している。低学年では，基礎的な知識を中心に教育する講義科目を配置し，高学年では，より専門的な高いレベルの技術を教育する講義科目及び実践力等の育成を図る演習科目，実験・実習科目の単位数を高めた構成としている（資料５－２－①－１）。

優れた実践力と豊かな創造性を備えた技術者を育成する目的で，PBL型授業を多く実施している（資料５－２－①－２，３）。５学年では，教員一人当たり４～５名の学生を担当し少人数教育で卒業研究の指導をしている。卒業研究は本校教育目標の全てを包括する総合的科目と位置付けている（資料５－２－①－４）。

それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の改善や情報共有のために，授業アンケート（資料５－２－①－５），公開授業（資料５－２－①－６），学生アンケートでの優秀教員による講演（資料５－２－①－７）などを実施している。

資料５－２－①－１

「専門科目の講義・実験実習の割合構成」

学年		機械		電気電子		電子情報		物質		環境都市		全体	
		講義	実験実習	講義	実験実習	講義	実験実習	講義	実験実習	講義	実験実習	講義	実験実習
1	合計単位数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	15	15
	割合%	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
2	合計単位数	7	4	8	2	6	5	6	5	6	5	33	21
	割合%	63.6	36.4	80.0	20.0	54.5	45.5	54.5	45.5	54.5	45.5	61.1	38.9
3	合計単位数	17	3	17	5	16	4	15	6	17	5	82	23
	割合%	85.0	15.0	77.3	22.7	80.0	20.0	71.4	28.6	77.3	22.7	78.1	21.9
4	合計単位数	20	5	24	5	19	6	18	5	19	7	100	28
	割合%	80.0	20.0	82.8	17.2	76.0	24.0	78.3	21.7	73.1	26.9	78.1	21.9
5	合計単位数	12	12	11	13	13	11	14	11	11	10	61	57
	割合%	50.0	50.0	45.8	54.2	54.2	45.8	56.0	44.0	52.4	47.6	51.7	48.3
全体	合計単位数	59	27	63	28	57	29	56	30	56	30	291	144
	割合%	68.6	31.4	69.2	30.8	66.3	33.7	65.1	34.9	65.1	34.9	66.9	33.1

（出典 平成24年度学生便覧からデータ作成）

資料５－２－①－２

「知能機械演習のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	機械工学科	科目コード	31616	総授業時間数	50時間
科目名	知能機械演習	科目名(英語)	Exercise Program for Intelligent Machine	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	機械工学科	学年	4年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	村中貴幸	他 担当教員	村中貴幸，亀山建太郎		
授業目標	機械は年々複雑化しており，機械技術者に求められる能力も機械・電気・情報と多岐に渡る．本授業では本科3年次C言語応用のプログラミング能力，創造工学演習の機械製作能力に加え，新たに電子回路の製作を学ぶ．これにより，機械をトータルシステムとして捉えることのできる広い視野の獲得と，自然科学・専門の基礎知識を用いた問題解決能力の育成を目指す．				
授業の概要と方法	4人1班のプロジェクトチームを組み，半年間かけて自立ロボットの製作を行う．授業の最後に競技大会を開催し，ロボットの能力を競う．				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバス・授業の説明，プロジェクト編成，電子工作ツール講習		
授業項目(2週目)	電子回路基礎講習	授業内容(2週目)	(講義) 電子回路に関する基礎的な講習		
授業項目(3週目)	担当別講習	授業内容(3週目)	(講義) 担当分野単位での講習		
授業項目(4週目)	担当別講習	授業内容(4週目)	(講義) 担当分野単位での講習		
授業項目(5週目)	マシン製作	授業内容(5週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(6週目)	マシン製作	授業内容(6週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(7週目)	マシン製作	授業内容(7週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(8週目)	中間確認	授業内容(8週目)	中間確認，マシンコンセプト提出		
授業項目(9週目)	マシン製作	授業内容(9週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(10週目)	マシン製作	授業内容(10週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(11週目)	マシン製作	授業内容(11週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(12週目)	マシン製作	授業内容(12週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(13週目)	大会	授業内容(13週目)	(演習) ロボットコンテスト		
授業項目(14週目)	資料作成	授業内容(14週目)	(演習) レポート		
授業項目(15週目)	学習のまとめ	授業内容(15週目)	マシンレポート提出，後片付け		

（出典 シラバス，p.M-35）

資料５－２－①－３

「電子創造工学のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	電気電子工学科	科目コード	41657	総授業時間数	50時間
科目名	電子創造工学	科目名(英語)	Creative Engineering in Electronics	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	電気電子工学科	学年	3年
開設期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	米田知晃	他 担当教員	荒川正和、河原林友美、竹本泰敏		
授業目標	テスタ作製、電子回路によるライントレースマシンの製作、PICマイコンの学習、PICマイコンを用いたライントレースマシンの製作を行い、「ものづくり」の実践的な素養を身につけると共に、電気工学の様々な分野がものづくりの中でどのように関連しているかを理解する。				
授業の概要と方法	簡単な電子回路により動作するライントレースマシンの製作の中で、回路図の読み方、電子回路の動作、問題点の解決方法について学ぶ。続いて、PICマイコンの基本的な動作と特徴を学習し、電子回路により動作させたライントレースマシンを、複数のセンサを用いてPICマイコンにより制御されたライントレースマシンを製作する。				
授業項目(1週目)	ガイダンス，電子回路のライントレースマシンの製作	授業内容(1週目)	シラバスの説明、ライントレースマシンの説明，電子回路の製作１		
授業項目(2週目)	電子回路のライントレースマシンの製作	授業内容(2週目)	電子回路の製作２		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	ライントレースマシンの調整		
授業項目(4週目)	製作マシンのプレゼンテーション	授業内容(4週目)	製作したマシンによるタイムトライアルとマシンについての発表		
授業項目(5週目)	PICマイコンによる入出力の実験	授業内容(5週目)	PICマイコンを用いた制御の実験１		
授業項目(6週目)	半田付け講習	授業内容(6週目)	はんだ付け講習		
授業項目(7週目)	PICマイコンによる入出力の実験	授業内容(7週目)	PICマイコンを用いた出力制御の実験２		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	PICマイコンを用いた出力制御の実験２、レポート作成		
授業項目(9週目)	PICマイコン制御のライントレースマシンの製作	授業内容(9週目)	電子回路の製作とPICマイコンのプログラミング１		
授業項目(10週目)		授業内容(10週目)	電子回路の製作とPICマイコンのプログラミング２		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	電子回路の製作とPICマイコンのプログラミング３		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	電子回路の製作とPICマイコンのプログラミング４		

（出典 シラバス，p.E-25）

資料５－２－①－４

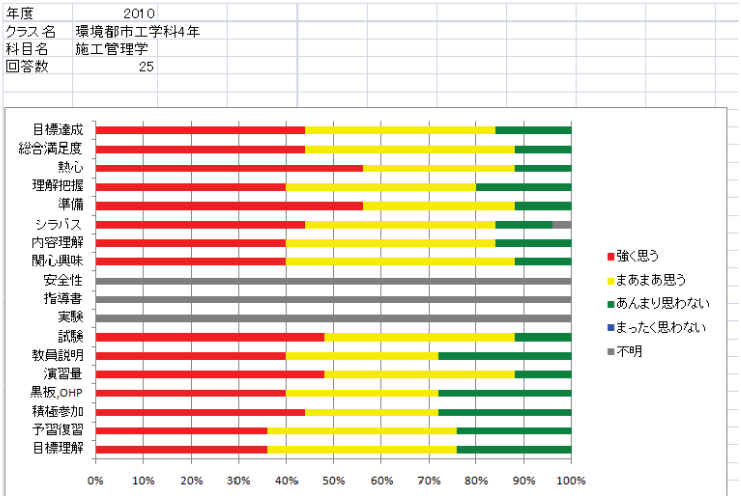
「機械工学科の卒業研究のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	機械工学科	科目コード	31791	総授業時間数	225時間
科目名	卒業研究	科目名(英語)	Graduation Research	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	機械工学科	学年	5年
開設期	通年	単位	9単位	授業形態	その他
担当教員	加藤寛敬	他 担当教員	機械工学科全教員		
授業目標	これまでの講義・学生実験・実習で学んだ知識を生かし，与えられたテーマについて，実験，文献調査，解析を通してテーマの内容を把握・理解しながら問題点の発見，解決能力を高め，研究の計画，実施，成果のまとめといった研究の一連の流れを修得する．				
授業の概要と方法	各指導教員の下で，単独あるいは２，３人の小グループに別れ，指導教員のアドバイスに従って１年間を通じて実験および解析的研究を行う．得られた結果について考察し，指導教員との検討を行い，卒業論文を作成し，口頭発表を行う．				
授業項目(1週目)	４月　研究室配属	授業内容(1週目)	フェムト秒レーザーによる硬質薄膜のナノ加工と評価		
授業項目(2週目)	ガイダンス（評価方法等の説明）	授業内容(2週目)	ロボコン用ロボットの3DCG化に関する研究		

（出典 シラバス，p.M-43）

資料５－２－①－５

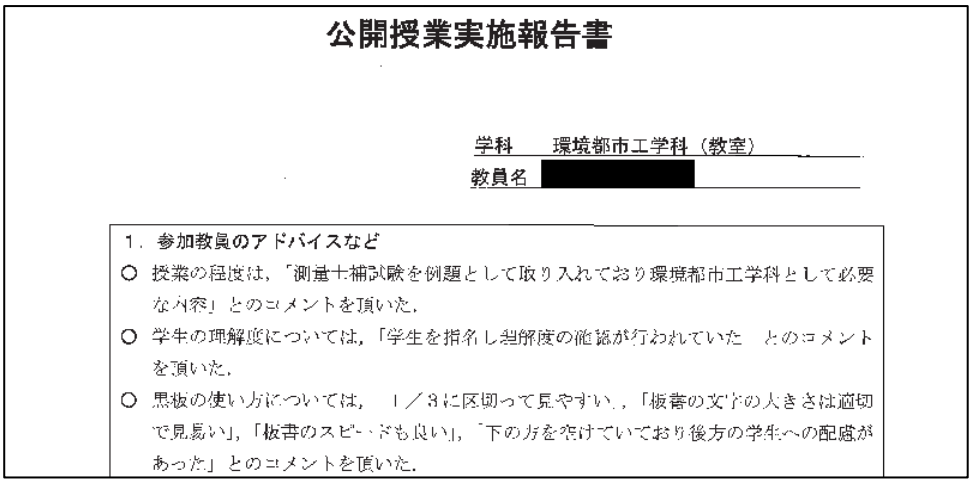
「授業アンケートの回答ページ及び結果・分析 例」



（出典　平成22年度授業アンケート結果報告書）

資料５－２－①－６

「公開授業の報告書」



公開授業実施報告書

学科　環境都市工学科（教室）

教員名 [redacted]

1．参加教員のアドバイスなど

○ 授業の程度は，「測量士補試験を例題として取り入れており環境都市工学科として必要な内容」とのコメントを頂いた．

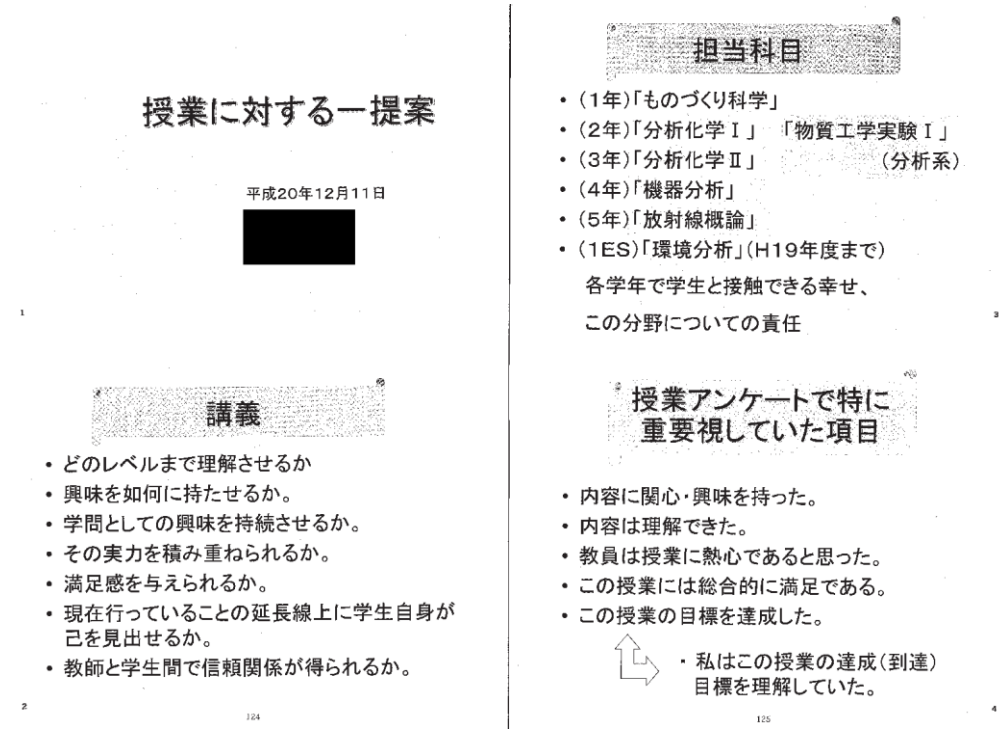
○ 学生の理解度については，「学生を指名し理解度の確認が行われていた」とのコメントを頂いた．

○ 黒板の使い方については，「１／３に区切って見やすい」，「板書の文字の大きさは適切で見易い」，「板書のスピードも良い」，「下の方を空けていており後方の学生への配慮があった」とのコメントを頂いた．

（出典　平成22年度創造教育センター報告書）

資料５－２－①－７

「優秀教員による講演資料」



授業に対する一提案

平成20年12月11日

[redacted]

担当科目

- (1年)「ものづくり科学」
- (2年)「分析化学Ⅰ」「物質工学実験Ⅰ」
- (3年)「分析化学Ⅱ」　(分析系)
- (4年)「機器分析」
- (5年)「放射線概論」
- (1ES)「環境分析」(H19年度まで)

各学年で学生と接触できる幸せ、
この分野についての責任

講義

- どのレベルまで理解させるか
- 興味を如何に持たせるか。
- 学問としての興味を持続させるか。
- その実力を積み重ねられるか。
- 満足感を与えられるか。
- 現在行っていることの延長線上に学生自身が己を見出せるか。
- 教師と学生間で信頼関係が得られるか。

授業アンケートで特に重要視していた項目

- 内容に関心・興味を持った。
- 内容は理解できた。
- 教員は授業に熱心であると思った。
- この授業には総合的に満足である。
- この授業の目標を達成した。
- 私はこの授業の達成(到達)目標を理解していた。

(出典　FD講演会資料)

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして，専門的な知識から高いレベルの実践力までを幅広くカバーするために，講義，演習，実験・実習をバランスよく組み合わせている。また，学習指導法の情報共有のために公開授業等を実施している。以上のことから，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，教育課程に編成の趣旨に沿って，授業目標，授業の概要と方法，授業内容，教科書，参考書，学習・教育目標，到達目標，評価方法，関連科目の明示など内容が適切に整備されたものを，教務主事からのシラバスの作成依頼（資料５－２－②－１）に従って担当教員が作成する（資料５－２－①－２）。新任教員や非常勤講師については学科長や連絡担当教員が作成し，新年度に新任教員に対する説明会（資料５－２－②－２）や非常勤講師との懇談会（資料５－２－②－３）においてシラバスの運用や成績評価についての説明を行っている。授業の開始時には担当教員が科目のガイダンスを実施しているが，印刷したシラバスを配布し，授業内容や成績評価方法について説明している。授業内容等が変さらになった場合は，学生に対して修正したシラバスの再配布及び説明を行っている。学生は，授業の進捗や評価方法を参照し受講に役立てると共に，自己評価のた

めに用いている。授業アンケートの結果から，ほとんどの科目においてシラバスに従って授業を進めている（資料５－２－②－４）。

資料５－２－②－１

「シラバスの作成依頼メール（抜粋）」

平成24年3月27日

教員各位

平成24年度シラバス記入に関する留意事項について

教務主事
専攻科長

平成24年度シラバスの記入を皆様にご依頼しましたが、入力がまだの方については、早急にご記入をお願いします。
既にご記入を済まされている方におかれましては、下記の事項に留意してご記入されているかどうか、ご確認をお願いします。

平成24年度のシラバスでは、次の点にご留意ください。
・平成23年度より、環境生産システム工学プログラムの学習・教育目標が改定（Jで始まります）されており、既に、本科4・5年及び専攻科1年の科目に

（出典 学内メール）

資料５－２－②－２

「新任教員に対する説明会の案内」

題名　非常勤講師との教育課程に関する意見交換会の開催について
差出人　[redacted]

X-ALMail-Signature: (無し)
X-ALMail-ForwardInfo: Account2¥Inbox.box¥AWVZ0014
Message-Id: <201204170538.AA00000@EPSON092014344.fukui-nct.ac.jp>
From: [redacted]
Date: Tue, 17 Apr 2012 14:38:26 +0900
To: [redacted]
Cc:
Subject: 非常勤講師との教育課程に関する意見交換会の開催について
MIME-Version: 1.0
X-Mailer: AL-Mail32 Version 1.13
Content-Type: text/plain; charset=iso-2022-jp

新採用教員　各位

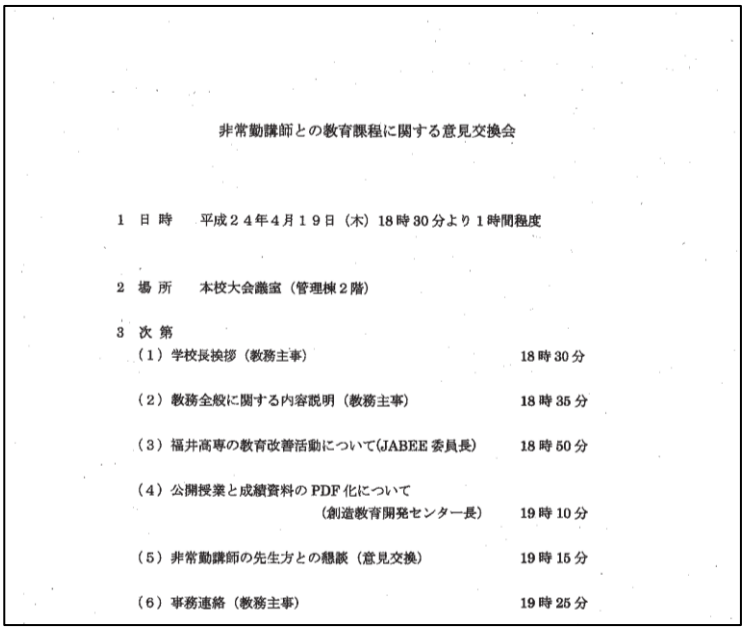
「非常勤講師との教育課程に関する意見交換会」を下記のとおり開催する予定です。
本校の教育理念・教育方針や成績評価資料の提出方法等、今年度、新採用の先生方に参考となる説明がありますので、ご参加くださいますよう、ご案内します。

学生課教務係

（出典　学内メール）

資料５－２－②－３

「非常勤講師との懇談会資料（抜粋）」



非常勤講師との教育課程に関する意見交換会

1 日 時　平成２４年４月１９日（木）18時30分より１時間程度

2 場 所　本校大会議室（管理棟２階）

3 次 第

（1）学校長挨拶（教務主事）　18時30分

（2）教務全般に関する内容説明（教務主事）　18時35分

（3）福井高専の教育改善活動について(JABEE 委員長)　18時50分

（4）公開授業と成績資料の PDF 化について
（創造教育開発センター長）　19時10分

（5）非常勤講師の先生方との懇談（意見交換）　19時15分

（6）事務連絡（教務主事）　19時25分

（出典 非常勤講師との懇談会資料）

資料５－２－②－４

「授業アンケート結果（抜粋）」

2010 年度のまとめ

各項目に関する得点平均(8 実験、9 指導書、10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%

（出典 平成22年度授業アンケート結果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成の主旨に沿って全教科目についてシラバスが作成され，準備学習，学習・教育目標，教育方法や内容，達成目標と評価方法等が明示されている。アンケート調査結果によれば，教員はシラバスを活用している。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

機械工学科３年生の創造工学演習（資料５－２－③－１）では，前期に機械工作実習を後期に与えられた課題のロボットのアイデア出しと製作を行い，４年生の知能機械演習（資料５－２－③－２）では，機構部品の製作・電子回路の製作・マイコン制御プログラムの作成をプロジェクトチームで行い，創成型教育を実施している。この成果は，論文集「高専教育」に報告されている（資料５－２－③－３）。電気電子工学科３年生の電子創造工学（資料５－２－③－４）には，グループ作業により電気回路の設計・製作を行い，創成型教育を行っている。この成果は論文集「高専教育」に報告されている（資料５－２－③－５）。電子情報工学科３年生の創造工学演習（資料５－２－③－６）では，学生同士でのミーティングにおいてアイデアを出し，計画書の作成，グループで協力しながら課題に取り組み，問題点を理解し解決する能力を育むための創成型教育を行っている。物資工学科１年生のものづくり科学では，化学電池の製作（資料５－２－③－７）など３つのテーマを実施している。環境都市工学科５年生の構造デザイン（資料５－２－③－８）では，グループで橋の設計・製作を行うことにより，様々な知識と技術を活用し，グループ内でコミュニケーションを取りながら問題解決を図る創成型教育を実施している。以上のように全ての学科でものづくりの授業により創造力を育む教育方法が工夫されている。

各学科は校外実習の科目を４年生に設けてインターンシップを実施している。校外実習規程（資料５－２－③－９）とインターンシップ・ガイダンス（資料５－２－③－10）に基づいた指導の下に，積極的にインターンシップに参加している（資料５－２－③－11）。学生はインターンシップ終了後に，受け入れ企業での実習日誌（資料５－２－③－12）を本校に提出するとともに，報告書を作成し，実習内容を学内報告会にて発表する。受け入れ企業及び学生を対象にしてインターンシップの内容等に関する満足度をアンケート調査し，次年度実施に向けての改善策を検討するために，その結果がまとめられている（資料５－２－③－13）。

資料５－２－③－１

「創造工学演習のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	機械工学科	科目コード	31611	総授業時間数	75時間
科目名	創造工学演習	科目名(英語)	Exercise Program for Creative Engineering	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	機械工学科	学年	3年
開設期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
担当教員	加藤寛敬	他 担当教員	松尾光恭、亀山建太郎、千徳英介、五味伸之		
授業目標	前期：機械機器を製作するのに必要な加工技術や機械工学に関連する基礎知識の習得を目的として、機械工作法と関連させて各種工作機械の操作方法や加工方法などを身に付けることを目標に機械実習を行う。3年生では、2年生で学んだ機械工作実習をベースにしてさらに高度な内容の工作実習を行う。 後期：日常使う機械において，便利さや使いやすさと引き換えにブラックボックスの部分がどんどん増えて技術の理解と言う点では人間と機械との距離は広がって来ている。このような状況の中で，与えられた課題を解決できる「もの」を実際に作り上げるという体験を持つこと。				
授業の概要と方法	前期：１クラスを６班に分けて、旋盤、機械、溶接鍛造、マシニングセンタ、シーケンス制御、実験の６つのテーマについて、１テーマ２週ずつのローテーションで実習を行う。 後期：まず課題が与えられ、それを解決するロボットのアイディアを提案する。続いて、アイディアを実現するために、モータと変速機以外は全て手作りの部品でロボットを製作する。				
授業項目(1週目)	講義（ガイダンス）	授業内容(1週目)	ガイダンス、スケジュール、安全教育、マシニングセンタ講義		
授業項目(2週目)	旋盤	授業内容(2週目)	旋盤１（ＣＮＣ旋盤、中ぐり）		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	旋盤２（段付切削、ネジ切り）		
授業項目(4週目)	機械	授業内容(4週目)	機械１（ホブ盤、平面研削）		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	機械２（ドリル研削とボール盤）		
授業項目(6週目)	溶接・鍛造	授業内容(6週目)	すみ肉溶接		

（出典 シラバス，p.M-21）

資料５－２－③－２

「知能機械演習のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	機械工学科	科目コード	31616	総授業時間数	50時間
科目名	知能機械演習	科目名(英語)	Exercise Program for Intelligent Machine	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	機械工学科	学年	4年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	村中貴幸	他 担当教員	村中貴幸，亀山建太郎		
授業目標	機械は年々複雑化しており，機械技術者に求められる能力も機械・電気・情報と多岐に渡る．本授業では本科3年次C言語応用のプログラミング能力，創造工学演習の機械製作能力に加え，新たに電子回路の製作を学ぶ．これにより，機械をトータルシステムとして捉えることのできる広い視野の獲得と，自然科学・専門の基礎知識を用いた問題解決能力の育成を目指す．				
授業の概要と方法	4人1班のプロジェクトチームを組み，半年間かけて自立ロボットの製作を行う．授業の最後に競技大会を開催し，ロボットの能力を競う．				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバス・授業の説明，プロジェクト編成，電子工作ツール講習		
授業項目(2週目)	電子回路基礎講習	授業内容(2週目)	(講義) 電子回路に関する基礎的な講習		
授業項目(3週目)	担当別講習	授業内容(3週目)	(講義) 担当分野単位での講習		
授業項目(4週目)	担当別講習	授業内容(4週目)	(講義) 担当分野単位での講習		
授業項目(5週目)	マシン製作	授業内容(5週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(6週目)	マシン製作	授業内容(6週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(7週目)	マシン製作	授業内容(7週目)	(演習) 製作・調整		
授業項目(8週目)	中間確認	授業内容(8週目)	中間確認，マシンコンセプト提出		
授業項目(9週目)	マシン製作	授業内容(9週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(10週目)	マシン製作	授業内容(10週目)	(演習) 製作・調整・試走		
授業項目(11週目)	マシン製作	授業内容(11週目)	(演習) 製作・調整・試走		

（出典 シラバス，p.M-35）

資料５－２－③－３

「機械工学科の授業成果報告（抜粋）」

論 文

多分野融合型 PBL の実践と分担制導入による教育効果

Practice of Project-based Learning on Fused Multiple Department and Educational Effect by Assignment System

岡田将人[*1]　村中貴幸[*1]　亀山建太郎[*1]
Masato OKADA　Takayuki MURANAKA　Kentaro KAMEYAMA
北川浩和[*1]　鈴木秀和[*2]
Hirokazu KITAGAWA　Hidekazu SUZUKI

In this paper, a new subject based on PBL (Project Based Learning) and its educational effects are discussed. The feature in this subject is that problems are solved based on the division of labor. In this subject, students break into four-member groups, and develop a line trace robot together cooperatively. Then, they share their responsibility for mechanism, electric circuit and programming, and learn basic knowledge of assigned area from teachers. After that, they develop

（出典　日本工学教育協会誌（工学教育），Vol.58（2010）p.76）

資料５－２－③－４

「電子創造工学のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	電気電子工学科	科目コード	41657	総授業時間数	50時間
科目名	電子創造工学	科目名(英語)	Creative Engineering in Electronics	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	電気電子工学科	学年	3年
開設期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	米田知晃	他 担当教員	荒川正和、河原林友美、竹本泰敏		
授業目標	テスタ作製、電子回路によるライントレースマシンの製作、PICマイコンの学習、PICマイコンを用いたライントレースマシンの製作を行い、「ものづくり」の実践的な素養を身につけると共に、電気工学の様々な分野がものづくりの中でどのように関連しているかを理解する。				
授業の概要と方法	簡単な電子回路により動作するライントレースマシンの製作の中で、回路図の読み方、電子回路の動作、問題点の解決方法について学ぶ。続いて、PICマイコンの基本的な動作と特徴を学習し、電子回路により動作させたライントレースマシンを、複数のセンサを用いてPICマイコンにより制御されたライントレースマシンを製作する。				
授業項目(1週目)	ガイダンス、電子回路のライントレースマシンの製作	授業内容(1週目)	シラバスの説明、ライントレースマシンの説明，電子回路の製作１		
授業項目(2週目)	電子回路のライントレースマシンの製作	授業内容(2週目)	電子回路の製作２		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	ライントレースマシンの調整		

（出典 シラバス，p.E-25）

資料５－２－③－５

「電気電子工学科の授業成果報告（抜粋）」

論文集「高専教育」　第 31 号　2008.3

PIC マイコンで動作するライントレースマシン製作による「ものづくり」教育

米田知晃*1 荒川正和*1 丸山晃生*1 三好正行*2 斎藤弘一*2
（福井工業高等専門学校）

Creative Manufacturing Education by making Line Tracer Controlled by PIC microprocessor

（出典　論文集「高専教育」，31（2008）p.319）

資料５－２－③－６

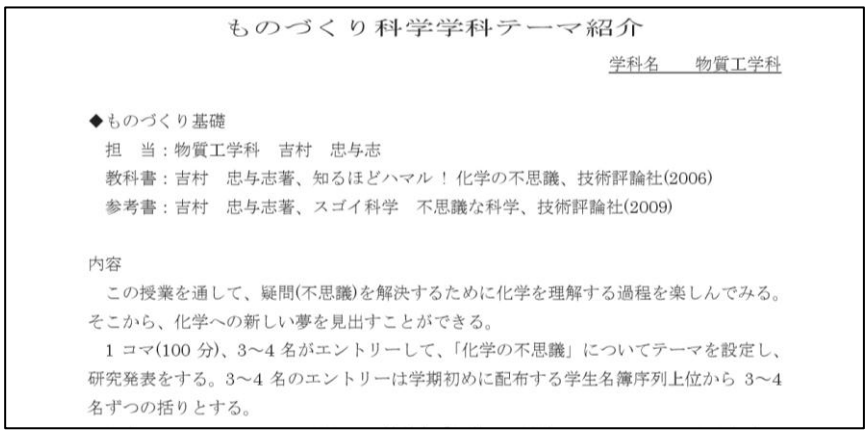
「創造工学演習のシラバス」

履修	履修単位				
学科等	電子情報工学科	科目コード	51241	総授業時間数	50時間
科目名	創造工学演習	科目名(英語)	Practical Creative Engineering	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	電子情報工学科	学年	4年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	高久有一	他 担当教員			
授業目標	(1)循環型社会を認識して生産活動に参画できる資質を育てる。 (2)自ら問題点発見しようとする意識を持てること。 (3)課題について多様な観点から検討考察し、解決策を提案できる。 (4)グループでの協議および共同作業を通して解決法を見出すことが出来る。 (5)他者の意見に耳を傾け、的確に理解したうえで、問題点を指摘できる。 (6)与えられた課題を理解し、計画実行することにより期限までに妥当な結果を導くことが出来る。				
授業の概要と方法	5名程度のグループをつくり、アイデアを出し合い、計画書をつくり、ものづくりを行う。 これらをプログラミングコンテストなどに参加することにより学ぶ。				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明　プロコン・ロボコンなどの説明　グループ分け		
授業項目(2週目)	アイデア・企画立案	授業内容(2週目)	グループ別行動　アイデア・計画書作成		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	アイデア・計画書の提出		
授業項目(4週目)	作品作成(1)	授業内容(4週目)	グループ別に作品作り		

（出典 シラバス，p.Ei-31）

資料５－２－③－７

「物質工学科「ものづくり科学」の講義資料（抜粋）」



ものづくり科学学科テーマ紹介

学科名　　物質工学科

◆ものづくり基礎

担　当：物質工学科　吉村　忠与志

教科書：吉村　忠与志著、知るほどハマル！化学の不思議、技術評論社(2006)

参考書：吉村　忠与志著、スゴイ科学　不思議な科学、技術評論社(2009)

内容

この授業を通して、疑問(不思議)を解決するために化学を理解する過程を楽しんでみる。そこから、化学への新しい夢を見出すことができる。

1 コマ(100 分)、3～4 名がエントリーして、「化学の不思議」についてテーマを設定し、研究発表をする。3～4 名のエントリーは学期初めに配布する学生名簿序列上位から 3～4 名ずつの括りとする。

（出典 物質工学科「ものづくり科学」の成績資料）

資料５－２－③－８

「構造デザインのシラバス」

履修	履修単位				
学科等	環境都市工学科	科目コード	71425	総授業時間数	50時間
科目名	構造デザイン	科目名(英語)	Structural Design	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	環境都市工学科	学年	5年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	吉田雅穂	他 担当教員			
授業目標	橋の計画から施工に至る建設プロセスを理解するため２つのコンテストを実施する．１つは「West Point Bridge Designer (WPBD)」という橋の設計ソフトウエアを利用したコンテストであり，より経済的で安全な橋を設計する創造力を育成することを目的としている．もう１つは，鋼材を用いて橋長約4mの橋を設計し，橋の美しさ，耐久性，経済性，施工性を競い合うスチールブリッジコンテストである．ここでは，与えられた荷重条件や立地条件を満足する橋を設計する「知力」，実際に部材を加工し組み立てる「体力」，そして，グループ作業によりプロジェクトを進めていく「チーム力」が要求されるため，これまでに身につけた能力の総合力を発揮させることを目的としている．				
授業の概要と方法	WPBDを用いたコンテストは個人，スチールブリッジコンテストはチームで活動を行う．講義は教室または演習室，設計はものづくりアトリエ，制作と組立は構造材料実験室または機械実習工場で行う．実験室で作業を行う場合には作業着の着用など安全に十分配慮すること．				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明，構造デザインの意義と概要		
授業項目(2週目)	WPBDを用いたブリッジコンテスト	授業内容(2週目)	ソフトウエアの説明		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	コンテスト		
授業項目(4週目)	スチールブリッジコンテスト	授業内容(4週目)	構造解析ソフトの説明		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	チーム分けと材料の確認		
授業項目(6週目)	Ⅰ設計の準備	授業内容(6週目)	ルールの説明		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	設計コンセプトの検討		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	設計コンセプトの発表		
授業項目(9週目)	Ⅱ橋の設計	授業内容(9週目)	設計①		
授業項目(10週目)		授業内容(10週目)	設計②		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	設計③		
授業項目(12週目)	Ⅲ橋の製作	授業内容(12週目)	製作①		
授業項目(13週目)		授業内容(13週目)	製作②		
授業項目(14週目)		授業内容(14週目)	製作③		
授業項目(15週目)		授業内容(15週目)	作業進捗状況の発表		
授業項目(16週目)		授業内容(16週目)	製作④		
授業項目(17週目)		授業内容(17週目)	製作⑤		
授業項目(18週目)		授業内容(18週目)	製作⑥		
授業項目(19週目)		授業内容(19週目)	製作⑦		

（出典 シラバス，p.B-42）

資料５－２－③－９

「校外実習に関する事項（抜粋）」

第15　校外実習に関する事項(平成6．12．15)

1　校外実習は，企業等における実習によって，自己研鑽することを目的とする。
（平成６．12．15）

2　対象は，第４学年とし，全員参加を原則とする。

3　企業等における実習は，休業期間中の２～３週間とする。

4　受入れ企業等の都合により，３の休業期間の範囲を超える次の日は，公欠とする。

(1)　実習日

(2)　旅行日にあっては，１日を限度とする日

5　校外実習は，学校管理下の行事に準ずるものとし，参加者は保険に加入するものとする。
（平成６．２．10）

6　校外実習日誌の表紙は別紙様式第１号，出席表は別紙様式第２号，及び実習日誌用紙は別紙様式第３号のとおりとする。

7　校外実習に関する成績の評価は，次のとおりとする。　（平成６．12．15）

(1)　「校外実習」とは，企業等における実習，実習報告書の提出及び実習報告の発表をもって終了するまでをいう。

(2)　校外実習の成績は，企業等における実習，実習報告書の提出及び実習報告の発表により，学科において総合的に判断し，評価する。

(3)　(2)の評価は，合格又は不合格とする。

(4)　(2)において，評価を行った場合は，学科長は，校外実習評価報告書（別紙様式第４号）により校長へ報告しなければならない。

(5)　評価が合格の場合は，校外実習の修得単位として２単位を認定する。ただし，この単

（出典 教務に関する申合事項集）

資料５－２－③－10

「インターンシップ・ガイダンス資料（抜粋）」

様式－　（本科）

福井工業高等専門学校

インターンシップガイダンス（本科第4学年）

1. **配布資料**
   - 履歴書（様式−3）
   - インターンシップ誓約書（様式−4）
   - インターンシップに関する覚書（様式−6）※必要な場合のみ
   - インターンシップ日誌
   - インターンシップ出勤(出席)表

2. **インターンシップの心構え**
   - インターンシップを通して、技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せることを体験学習する。
   - インターンシップ先企業・機関には、厳しい状況の中で受け入れ頂いていることを忘れないこと。
   - インターンシップ期間中は、正社員と同様である。従業員規則、及び企業・機関担当者の指示を守ること。
   - 言葉遣い、服装などに気を配ること。
   - 研修生の研修態度を通して、企業・機関側から見た本校のレベル、位置付けが評価される。自分一人の問題だけではすまないことを常に意識し、節度ある行動を取ること。
   - 企業・機関に提出している インターンシップの「誓約書」の内容をよく確認する。誓約している事柄は文字通り「遵守」すべきことであり、それに違反した場合はインターンシップを強制終了、場合によっては損害賠償請求もなされる可能性があることを肝に銘じること。

3. **事前の確認事項**

（出典 学生課）

資料５－２－③－11

「平成23年度のインターンシップ実績」

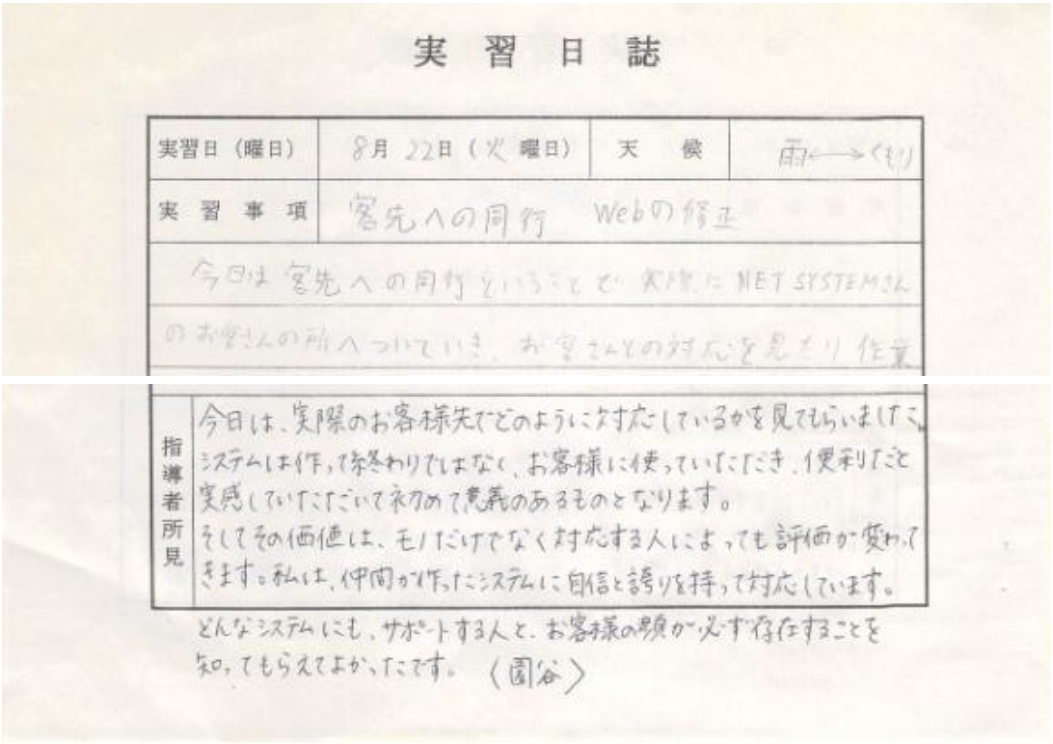
平成23年度インターンシップ実績

機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
株式会社高木製作所	株式会社サカイエルコム	東京エレクトロンFE株式会社	森永乳業株式会社	㈱高野組
株式会社新来島豊橋造船	オムロン株式会社	株式会社ファイ・マイクロテック	日華化学株式会社	㈱田中地質コンサルタント
小島プレス工業株式会社	ジョーイエルシーエス株式会社　業務アシスタント派遣サイト	日新電機株式会社	ユニチカ株式会社	福井県土木部
鎌江精機株式会社	株式会社明電舎	株式会社日立アイイーシステム	信越化学工業株式会社	丹南土木事務所
株式会社ナカサク	コニカミノルタビジネスソリューションズ（株）	株式会社プログラミングシステム社	帝人化学工業株式会社	国土交通省　近畿地方整備局
京セラ㈱滋賀蒲生工場・八日市工場	（有）znug design	福井エフエム放送株式会社	宇部興産株式会社	足羽川ダム工事事務所
高丸工業株式会社	倉茂電工株式会社	ＮＨＫ福井放送局	ＪＸ金属敦賀リサイクル株式会社	嶺福井県建設技術公社
京都機械工具株式会社	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン（株）回路部品ディビジョン	日本ユニカー株式会社川崎工業所	鯖江市役所
小倉クラッチ株式会社	株式会社ネットシステム	関西電力株式会社原子力事業本部	フクビ化学工業株式会社	
福井県工業技術センター	武田薬品工業株式会社	山田技研株式会社	日東電工株式会社	福井市役所
カワムラサイクル株式会社	財団法人北陸電気保安協会	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン株式会社 回路部品事業ディビジョン	サカイオーベックス株式会社	敦賀市役所
長岡技術科学大学（アドバンストコース）	長岡技術科学大学　大学院工学研究科機械創造系専攻　電気電子工学講座　研究センター	株式会社エムディエス	レンゴー株式会社金津事業所	（独）港湾空港技術研究所
ムラテックCCS株式会社	レンゴー株式会社武生工場	丹南ケーブルテレビ株式会社	ダイキン工業株式会社	坂川建設㈱
高菱エンジニアリング株式会社	サントリープロダクツ株式会社	株式会社アイジュピタ	ＫＢセーレン株式会社	東日本旅客鉄道㈱
東レエンジニアリング株式会社	アボット ジャパン株式会社 勝山事業所	株式会社jig. jp	日本ガス開発株式会社	㈱走坂建築設計事務所
島津メクテム株式会社	ソニーイーエムシーエス株式会社業務テック 関西サイト	株式会社国府印刷社	福井テレビジョン株式会社	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
出光興産株式会社愛知精油所	東邦電気株式会社	株式会社ユーエヌアイ研究所	旭化成株式会社	エコネットさばえ（㈱エコプラザさばえ）
三菱重工業株式会社長崎造船所	北陸電力株式会社	株式会社メディカルジャパン	清川メッキ工業株式会社	中部電力株式会社
株式会社日立建機ティエラ	旭電設株式会社	株式会社プログラミングファースト	福井県食品化工研究所	㈱連合設計社市谷建築事務所
豊橋技術科学大学	株式会社リコー　福井事業所	福井ケーブルテレビ株式会社	セーレン株式会社	㈱丸栄建築設計事務所
長岡技術科学大学	株式会社鯖江村田製作所	タイヨー電子株式会社	福井県工業技術センター	越前市役所
共栄樹脂株式会社福井工場	産業技術総合研究所	チームラボ株式会社	京セラ株式会社滋賀蒲生工場	ジビル調査設計㈱
日本車輌製造株式会社	中部電力株式会社	福井大学機械工学科谷口秀次研究室	出光興産株式会社愛知製油所	㈱木村建築事務所
日陽エンジニアリング株式会社	福井テレビジョン放送株式会社	福井県庁	共栄樹脂株式会社	オークヴィレッジ㈱
オムロン株式会社　草津工場	長岡技術科学大学	ＮＰＯ法人"たんなん夢ｉｎディオ"	武田薬品工業株式会社	株式会社 関組
川崎重工業株式会社	大阪ガス株式会社	鉄鋼会科学研究所	福井大学機械工学科谷口秀次研究室　長岡技術科学大学　大学院工学研究科機械創造系専攻　電気電子工学講座　研究センター	株式会社 関組越前営業所
株式会社四島製作所	ダイキン工業株式会社	株式会社サーフボード	サントリープロダクツ株式会社	福井県雪対策・建設技術研究所
セイコーエプソン株式会社	旭化成株式会社	京セラ株式会社滋賀蒲生工場	鎌江村田製作所	東京コンサルタンツ㈱福井支店
株式会社森精機製作所　伊賀事業所	KBセーレン株式会社	北陸電力（株）	パナソニックエレクトロニックデバイス（株）回路部品ディビジョン	㈱橋本製材所
株式会社ツムラ　静岡工場	関西電力株式会社	中部電力株式会社	関西電力株式会社原子力事業本部	㈱エコ・プランナー
パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社 回路部品ディビジョン	ＮＨＫ福井放送局	東邦電気株式会社	特定非営利活動法人エコプラザさばえ	株式会社辻広組
パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社 電源ディビジョン	パナソニックデバイス株式会社回路部品ディビジョン 事業推進部	株式会社鯖江村田製作所	豊橋技術科学大学	株式会社日本ピーエス
信越化学工業㈱武生工場	福井エフエム放送株式会社	ダイキン工業株式会社		
アボットジャパン株式会社　勝山事業所	株式会社ユーエヌアイ研究所			
日東電工株式会社　豊橋事業所	株式会社　jig. jp			
株式会社リコー福井事業所	京セラ株式会社　滋賀蒲生工場・八日市工場			

（出典 学生課）

資料５－２－③－12

「インターンシップ実習日誌（抜粋）」



実　習　日　誌

実習日（曜日）	8月 22日（火 曜日）	天　候	雨→くもり
実習事項	客先への同行　Webの修正		

今日は客先への同行ということで実際にNET SYSTEMさんのお客さんの所へついていき、お客さんとの対応を見たり作業

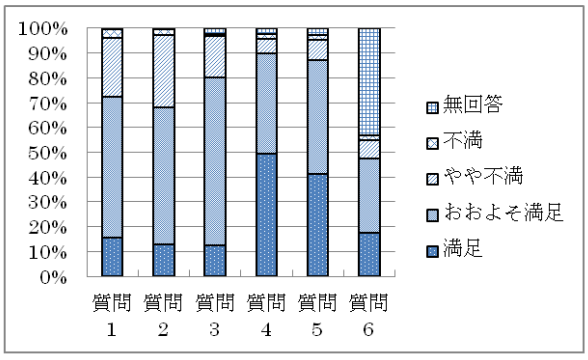
指導者所見	今日は、実際のお客様先でどのように対応しているかを見てもらいました。システムは作って終わりではなく、お客様に使っていただき、便利だと実感していただいて初めて意義のあるものとなります。 そしてその価値は、モノだけでなく対応する人によっても評価が変わってきます。私は、仲間が作ったシステムに自信と誇りを持って対応しています。 どんなシステムにも、サポートする人と、お客様の顔が必ず存在することを知ってもらえてよかったです。〈園谷〉

（出典 学生課）

資料５－２－③－13

「平成23年度インターンシップ・アンケート（抜粋）」

各質問項目（質問 1~10）に対する学年ごと、及び全体の集計結果を以下に示す。



（出典 進路指導委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

全学科で学生の創造性を育む教育方法（PBLなど）やインターンシップの活用によって，学生の自発的な学習活動を支援し，教育効果を上げる体制が整備されている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

教育課程表の一般科目（資料５－１－①－１）に示すように，多くの一般科目を配置し，幅広い教養と人間性の育成に配慮している。１～３学年に対しては，特別活動の時間を時間割に組み込み（資料５－３－①－１），学級担任が中心となって計画的に運用している（資料５－３－①－２）。校外研修等の種々の学校行事を通じて，豊かな人間性の涵養が図られている。

学生便覧の最初に「基本理念」「教育方針」「養成すべき人材像」を明記し（資料５－３－①－３），豊かな人間性を養う学生に示し，学校行事，クラブ活動，寮生会活動及び学生会活動等を通じて豊かな人間性の涵養を図るように考慮している。

1年生から5年生では学級担任と副担任が各1名付き（資料５－３－①－４），学級の運営と指導にあたっている。学級担任は担任の手引き（資料５－３－①－５）によりその業務に従事している。さらに各学級には，日直が教室内の清掃や授業報告を学級日誌（資料５－３－①－６）に記し担任に報告している。また，学校全体において，学生主事を中心にして学生主事補と学級担任で構成されている補導委員会にて，校門指導等の役割を分担して学生指導を行っている。

平成23年度の学校行事の一覧（資料５－３－①－７）を示す。学生会が体育祭を企画・立案・実施（資料５－３－①－８）する。平成23年度の体育祭について体育長が青武台だよりに報告（資料５－３－①－９）している。同様に学生会が高専祭（資料５－３－①－10）を実施し，平成23年度の高専祭について高専祭実行委員長が報告（資料５－３－①－11）している。

クラブ顧問の一覧（資料５－３－①－12）を示す。クラブの指導には，新年度の最初に実施している顧問会議で「体育系クラブ活動における指導マニュアル」を配布し，ルールの徹底と安全とを配慮して１クラブに1名以上の顧問を配置している（資料５－３－①－12）。クラブ活動の課外活動届・活動報告書を提出，指導教員の指導時間を書面に記入して報告している。

各クラブは平成23年度北陸地区国立高等専門学校体育大会（資料５－３－①－13）に参加し，競技成績は青武台だよりに報告されている（資料５－３－①－15）。

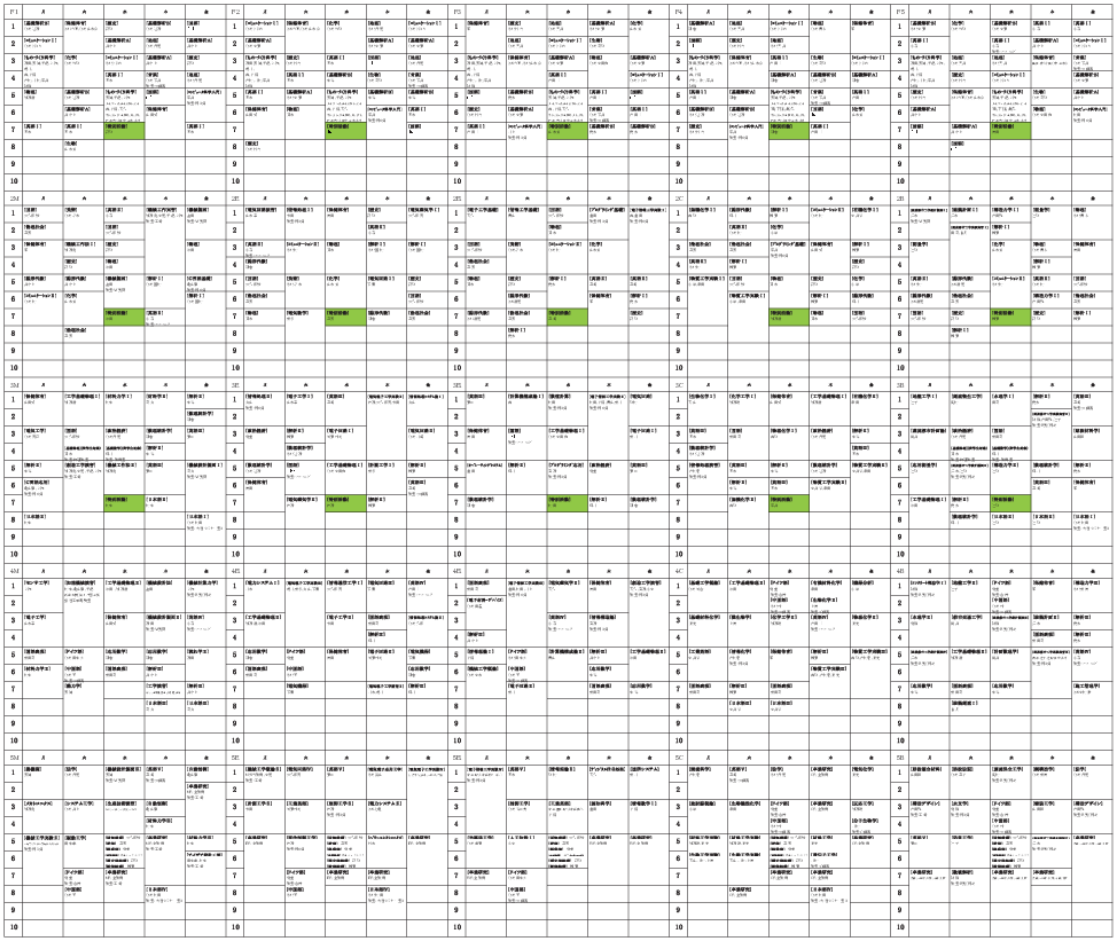
高専ロボコン2011東海北陸地区大会（資料５－３－①－16），第22回プログラミングコンテスト（資料５－３－①－17），デザコン2011（資料５－３－①－18）に出場し，ものづくりの良い活動の場に参画し，学生間の交流が図られている。

学生会は学生会規則（資料５－３－①－19）に従い組織され，組織的に活動が行われている（資料５－３－①－20）。学生会には，学生主事及び学生主事補が指導にあたり，運営に関わる諸問題への相談に応じると同時に安全と倫理面からの指導にもあたっている。

寮生は，学生寮規則と寮生心得（資料５－３－①－21）に基づき，学生寮での共同生活をする。寮生には寮生会が設けられ，寮生会規約（資料５－３－①－22）に従い寮生会が組織されている。寮の活動（資料５－３－①－23）を通じて，豊かな人間性の涵養が図られている。

資料５－３－①－１

「平成24年度前期時間割（抜粋）」



（出典 学生課）

資料５－３－①－２

「平成24年度前期特別活動計画表（抜粋）」

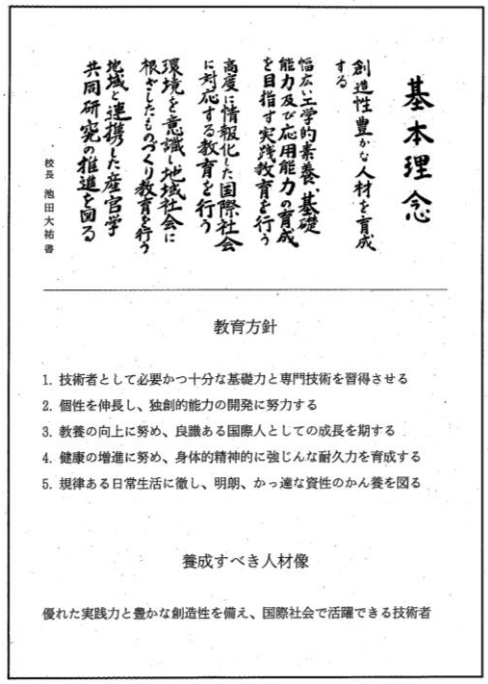
平 成 24 年 度 前 期 特 別 活 動 計 画 表

学級 / 月日	F1	F2	F3	F4	F5	2M	2E	2EI	2C	2B	3M	3E	3EI	3C	3B	備　考
	荻野	中村	山本裕	朝倉	島田	池田	森　周	森　貞	加藤清	柳原	村中	佐藤	村田	平井	辻野	
4月11日	オリエンテーションについて	新入生オリエンテーション合宿準備	担任の話	オリエンテーション説明会	オリエンテーションの説明他	達成度評価シートの記入	体育祭の種目決め	担任の話	学習達成度評価シート記入	役員・係り決め他	（スポーツ）	役員選出達成度評価その他	踏連絡	学習達成度評価シート記入	学習達成度評価シートの記入	午前新入生歓迎会 クラブ紹介
4月18日	Ｑ　Ｕ　テ　ス　ト					体育祭関係	体育祭について	担任の話	踏連絡、配布物配布、体育祭について	体育祭について	ポートフォリオ	ポートフォリオについて	お花見	体育祭に向けて	体育祭に向けて	学生総会
4月25日	午後休講　（体育祭準備）															
5月2日	今月の予定他	担任の話	担任の話	副担任とともに	メンタルヘルスについて	放射線に関する話	作文(体育祭について)	担任の話	体育祭についての作文	自己紹介シート作成	見学旅行の企画・立案(1)	資格取得について	（スポーツ）	工場見学旅行について	見学旅行について	
5月9日	面接1	席替え	担任の話	メンタルヘルスについて	副担任の話	著作権に関する話	担任の話、個人面談	担任の話	レクリエーション	面談　他	見学旅行の企画・立案(2)	進路について	工場見学旅行について	（スポーツ）	学習記録簿(ポートフォリオ)の説明	
5月16日	面接2	担任の話	メンタルヘルスについて	個人面談	DVD	レクレーションの準備	担任の話、個人面談	担任の話	担任の話	面談　他	スポーツ	工場見学旅行について	工場見学旅行について	工場見学旅行について	（スポーツ）	
5月23日	中間試験について	メンタルヘルスについて	担任の話	個人面談	作文	（スポーツ）	担任の話、個人面談	担任の話	中間試験に向けて;中間試験計画表作成	進路発見ゲーム	キャリア教育講演:大講義室					3年生講演会:大講義室
5月30日	メンタルヘルスについて	定期試験に関する注意	テスト前注意	中間試験対策	試験の話	中間試験対策	（スポーツ）	担任の話	中間試験諸注意	中間試験について	中間試験に向けて	中間試験について	中間試験について	中間試験に向けて	前期中間試験に向けて	
6月6日	前　期　中　間　試　験															

（出典　学生課）

資料５－３－①－３

「基本理念」「教育方針」「養成すべき人材像」



基本理念

創造性豊かな人材を育成する

幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う

高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う

環境を意識し地域社会に根ざしたものづくり教育を行う

地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

校長　池田大祐書

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、かっ達な資性のかん養を図る

養成すべき人材像

優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者

（出典 平成24年度学生便覧）

資料５－３－①－４

「学級担任一覧」

学級担任（補佐）一覧

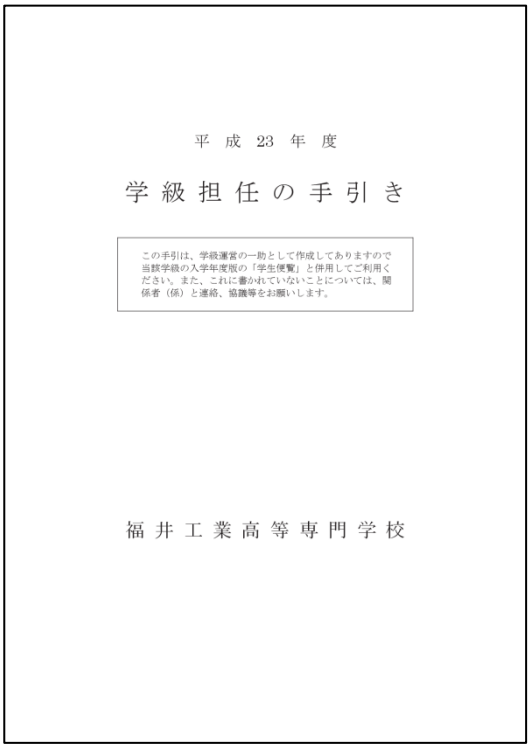
学年＼クラス		F１	F２	F３	F４	F５
1	担任	荻野　繁春	中村　吉秀	山本　裕之	朝倉　相一	島田　　茂
	補佐	香月　壮亮	髙山　勝己	山本　幸男	川上　由紀	芳賀　正和

学年＼学科		M	E	Ei	C	B
2	担任	池田　昌弘	森　　芳周	森　　貞	加藤　清考	柳原　祐治
	補佐	五味　伸之	石栗　慎一	西　　仁司	平井　恵子	奥村　充司
3	担任	村中　貴幸	佐藤　　匡	村田　知也	川村　敏之	辻野　和彦
	補佐	大久保　弦	山田　孝禎	岡本　拓夫	宮本　友紀	小寺　光雄
4	担任	安丸　尚樹	米田　知晃	高久　有一	松井　栄樹	辻子　裕二
	補佐	松尾　光恭	大久保　茂	蘆田　　昇	常光　幸美	山田　幹雄
5	担任	金田　直人	河原林友美	青山　義弘	小泉　貞之	江本　晃美
	補佐	藤田　克志	丸山　晃生	野村　保之	西野　純一	武井　幸久

（出典　平成24年度学生便覧，p. 62）

資料５－３－①－５

「学級担任の手引き 表紙」



平 成 23 年 度

学 級 担 任 の 手 引 き

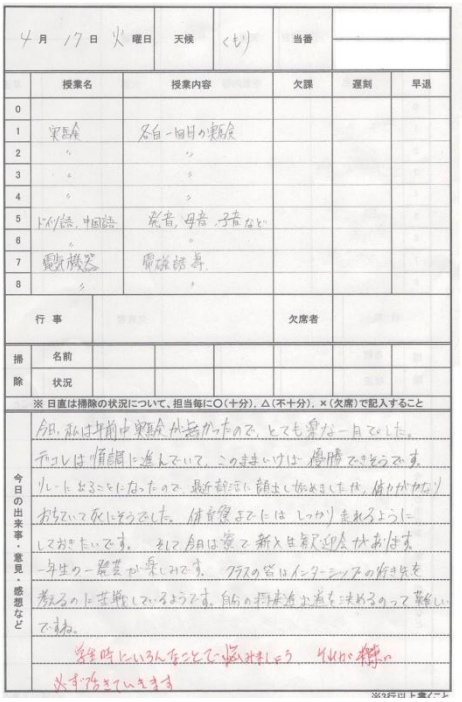
この手引は、学級運営の一助として作成してありますので当該学級の入学年度版の「学生便覧」と併用してご利用ください。また、これに書かれていないことについては、関係者（係）と連絡、協議等をお願いします。

福 井 工 業 高 等 専 門 学 校

（出典 学級担任の手引き）

資料５－３－①－６

「学級日誌の例」



4月 17日 火 曜日　天候 くもり　当番

	授業名	授業内容	欠課	遅刻	早退
0					
1	実験	各自一個目の実験			
2	〃	〃			
3	〃	〃			
4	〃	〃			
5	ドイツ語、中国語	祝者、母者、子者など			
6	〃	〃			
7	製図概念	電磁誘導			
8	〃	〃			

行事　欠席者

掃除　名前　状況

※ 日直は掃除の状況について、担当毎に○(十分)、△(不十分)、×(欠席)で記入すること

今日の出来事・意見・感想など

今日、私は午前中実験が長かったので、とても疲れた一日でした。
テストは順調に進んでいて、このままいけば優勝できそうです。
ルートをとることになったので、最新部活に顔をしめました。体力がかなりおちていて恥にそうでした。体育祭までにはしっかりもれるようにしておきたいです。来月は楽で新入生勧誘祭お出す
一年生の一発芸が見れます。クラスの皆はインターンシップの行き先を考えるのに苦戦しているようです。自分の将来進む道を決めるのって難しいですね。
発達時というんなことで悩みましょう。Yuuの将来の
必ず応援していきます

（出典 学生課）

資料５－３－①－７

「平成24年度 学校行事一覧（抜粋）」

2011年度年間行事予定

4月

1	金	春季休業(～4日)	
2	土		
3	日		
4	月	入寮式(10:30) 新入寮生オリエンテーション(11:00) 開寮(14:00)	
5	火	入学式10:00　専攻科オリエンテーション/2～5年H・R 11:00 教育後援会総会12:00 保護者懇談会13:30	
6	水	一斉健康診断(本科・専攻科)	
7	木	前期授業開始	Thu-1
8	金		Fri-1
9	土		
10	日		
11	月		Mon-1
12	火		Tue-1
13	水	新入生オリエンテーション合宿(奥越高原青少年自然の家)	Wed-1
14	木	新入生オリエンテーション合宿(奥越高原青少年自然の家)	Thu-2
15	金	午前休講:新入生歓迎会, クラブ紹介 午後:水曜日の授業	Wed-1.5
16	土		
17	日		
18	月		Mon-2
19	火		Tue-2
20	水	学生総会	Wed-2.5
21	木	短縮授業　専攻科特別研究中間発表会	Thu-3
22	金		Fri-2
23	土		
24	日	(開校記念日)	
25	月		Mon-3
26	火		Tue-3
27	水	午前:水曜日の授業　午後休講:体育祭準備	Wed-3
28	木	休講 体育祭(延期の場合は金曜日の授業)	
29	金	「昭和の日」金曜日の授業 (体育祭予備日:中止の場合は休業)	Fri-3
30	土		

5月

1	日		
2	月	木曜日の授業	Thu-4
3	火	憲法記念日	
4	水	みどりの日	
5	木	こどもの日	
6	金	短縮授業　特別清掃	Fri-4
7	土	キャンパスウォーク	
8	日		
9	月		Mon-4
10	火		Tue-4
11	水		Wed-4
12	木		Thu-5
13	金		Fri-5
14	土	寮祭	
15	日	寮祭	
16	月		Mon-5
17	火		Tue-5
18	水		Wed-5
19	木		Thu-6
20	金		Fri-6
21	土	専攻科推薦選抜	
22	日	舞鶴高専交歓試合	
23	月		Mon-6
24	火		Tue-6
25	水		Wed-6
26	木	専攻科推薦選抜合格者判定会議(16:15)	Thu-7
27	金		Fri-7
28	土		
29	日		
30	月		Mon-7
31	火		Tue-7

6月

1	水		Wed-7
2	木		Thu-8
3	金	高校春季総体県予選	Fri-8
4	土	高校春季総体県予選	
5	日	高校春季総体県予選	
6	月		Mon-8
7	火		Tue-8
8	水		Wed-8
9	木	前期中間試験	Thu-9
10	金	前期中間試験	Fri-9
11	土	前期中間試験　専攻科休業	Wed-9
12	日		
13	月	前期中間試験	Mon-9
14	火	前期中間試験	Tue-9
15	水	前期中間試験　専攻科:水曜日の授業	(Wed-9)
16	木		Thu-10
17	金		Fri-10
18	土		
19	日		
20	月		Mon-10
21	火		Tue-10
22	水	壮行会	Wed-10
23	木		Thu-11
24	金	前期中間試験成績〆切(16:00)	Fri-11
25	土	北陸地区高専体育大会(ラグビー:本校主管)	
26	日	専攻科学力選抜(前期)	
27	月	公開授業週間(～7/1)	Mon-11
28	火		Tue-11
29	水		Wed-11
30	木	専攻科学力選抜(前期)合格者判定会議(16:15)	Thu-12

※2年～5年生は、4月11日の週に達成度評価シートを記入する。

7月

1	金		Fri-12
2	土	北陸地区高専体育大会(陸上・野球:本校主管)	
3	日		
4	月		Mon-12
5	火		Tue-12
6	水		Wed-12
7	木		Thu-13
8	金	休業 北陸地区高専体育大会準備	
9	土	北陸地区高専体育大会(本校主管) 北信越高専サッカー(長岡高専)	
10	日	北陸地区高専体育大会(本校主管) 北信越高専サッカー(長岡高専)	
11	月		Mon-13
12	火		Tue-13
13	水		Wed-13
14	木		Thu-14
15	金		Fri-13
16	土	保護者懇談会(学生寮)	
17	日		
18	月	海の日　月曜日の授業	Mon-14
19	火		Tue-14
20	水		Wed-14
21	木	金曜日の授業	Fri-14
22	金	本科期末試験　専攻科期末試験	
23	土	本科期末試験　専攻科期末試験	
24	日		
25	月	本科期末試験　専攻科期末試験	
26	火	本科期末試験　専攻科期末試験	
27	水	本科期末試験　専攻科期末試験	
28	木	本科期末試験　専攻科休業	
29	金		Fri-15
30	土		
31	日		

8月

1	月		Mon-15
2	火		Tue-15
3	水	授業終了後H.R　大掃除	Wed-15
4	木		Thu-15
5	金	夏季休業(～9/28)	
6	土	キャンパスツアー	
7	日		
8	月	開寮(14:00)	
9	火		
10	水		
11	木		
12	金		
13	土		
14	日		
15	月		
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		
20	土	全国高等専門学校体育大会	
21	日	全国高等専門学校体育大会	
22	月	全国高等専門学校体育大会	
23	火	全国高等専門学校体育大会	
24	水	全国高等専門学校体育大会	
25	木	全国高等専門学校体育大会	
26	金	全国高等専門学校体育大会	
27	土	全国高等専門学校体育大会	
28	日	全国高等専門学校体育大会	
29	月	編入学試験 本科・専攻科前期成績〆切(16:00)	
30	火		
31	水		

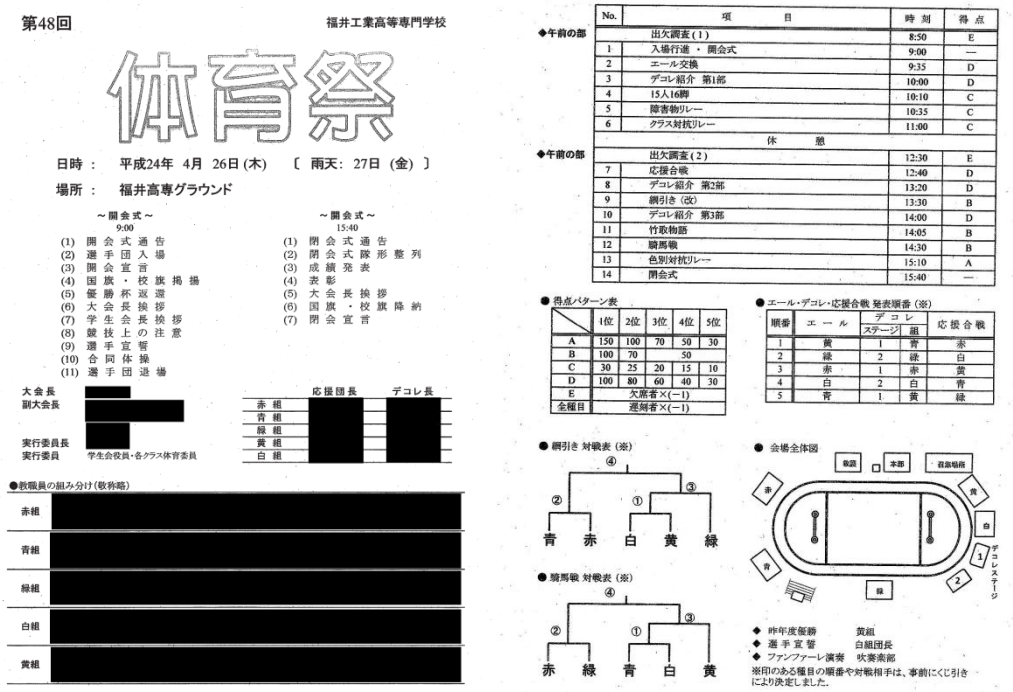
9月

1	木	編入学合格者判定会議(13:30)	
2	金		
3	土	全国高等専門学校体育大会	
4	日	全国高等専門学校体育大会	
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		
13	火		
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月	敬老の日	
20	火		
21	水	学力強化週間	
22	木	学力強化週間	
23	金	秋分の日	
24	土		
25	日		
26	月	学力強化週間	
27	火	学力強化週間	
28	水	学力強化週間 開寮(10:00)	
29	木	本　科:後期授業開始　0限目HR 専攻科:後期授業開始　0限目オリエンテーション	Thu-1
30	金		Fri-1

（出典　学生課）

資料５－３－①－８

「平成24年度 体育祭プログラム」



第48回　福井工業高等専門学校

体育祭

日時：　平成24年 4月 26日(木)　〔 雨天：27日 (金) 〕

場所：　福井高専グラウンド

～開会式～ 9:00

(1) 開会式通告
(2) 選手団入場
(3) 開会宣言
(4) 国旗・校旗掲揚
(5) 優勝杯返還
(6) 大会長挨拶
(7) 学生会長挨拶
(8) 競技上の注意
(9) 選手宣誓
(10) 合同体操
(11) 選手団退場

～閉会式～ 15:40

(1) 閉会式通告
(2) 閉会式隊形整列
(3) 成績発表
(4) 表彰
(5) 大会長挨拶
(6) 国旗・校旗降納
(7) 閉会宣言

大会長 [redacted]
副大会長 [redacted]
実行委員長 [redacted]
実行委員　学生会役員・各クラス体育委員

	応援団長	デコレ長
赤組	[redacted]	[redacted]
青組		
緑組		
黄組		
白組		

●教職員の組み分け(敬称略)

赤組	[redacted]
青組	
緑組	
白組	
黄組	

No.	項目	時刻	得点
◆午前の部	出欠調査(1)	8:50	E
1	入場行進・開会式	9:00	—
2	エール交換	9:35	D
3	デコレ紹介 第1部	10:00	D
4	15人16脚	10:10	C
5	障害物リレー	10:35	C
6	クラス対抗リレー	11:00	C
	休憩		
◆午前の部	出欠調査(2)	12:30	E
7	応援合戦	12:40	D
8	デコレ紹介 第2部	13:20	D
9	綱引き(改)	13:30	B
10	デコレ紹介 第3部	14:00	D
11	竹取物語	14:05	B
12	騎馬戦	14:30	B
13	色別対抗リレー	15:10	A
14	閉会式	15:40	—

●得点パターン表

	1位	2位	3位	4位	5位
A	150	100	70	50	30
B	100	70		50	
C	30	25	20	15	10
D	100	80	60	40	30
E	欠席者×(−1)				
全種目	遅刻者×(−1)				

●エール・デコレ・応援合戦 発表順番(※)

順番	エール	デコレ ステージ	デコレ 組	応援合戦
1	黄	1	青	赤
2	緑	2	緑	白
3	赤	1	赤	黄
4	白	2	白	青
5	青	1	黄	緑

●綱引き 対戦表(※)

●騎馬戦 対戦表(※)

●会場全体図

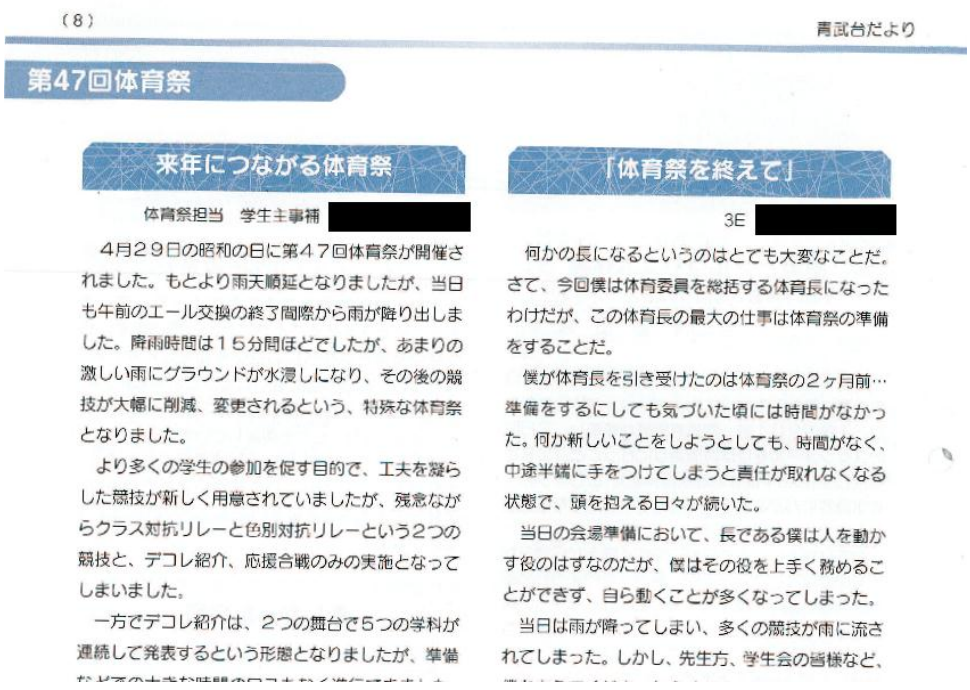
◆昨年度優勝　黄組
◆選手宣誓　白組団長
◆ファンファーレ演奏　吹奏楽部

※印のある種目の順番や対戦相手は、事前にくじ引きにより決定しました。

（出典 学生課）

資料５－３－①－９

「平成23年度 体育祭の報告」



(8)　青武台だより

第47回体育祭

来年につながる体育祭

体育祭担当　学生主事補 [redacted]

4月29日の昭和の日に第47回体育祭が開催されました。もとより雨天順延となりましたが、当日も午前のエール交換の終了間際から雨が降り出しました。降雨時間は15分間ほどでしたが、あまりの激しい雨にグラウンドが水浸しになり、その後の競技が大幅に削減、変更されるという、特殊な体育祭となりました。

より多くの学生の参加を促す目的で、工夫を凝らした競技が新しく用意されていましたが、残念ながらクラス対抗リレーと色別対抗リレーという2つの競技と、デコレ紹介、応援合戦のみの実施となってしまいました。

一方でデコレ紹介は、2つの舞台で5つの学科が連続して発表するという形態となりましたが、準備

「体育祭を終えて」

3E [redacted]

何かの長になるというのはとても大変なことだ。さて、今回僕は体育委員を総括する体育長になったわけだが、この体育長の最大の仕事は体育祭の準備をすることだ。

僕が体育長を引き受けたのは体育祭の2ヶ月前…準備をするにしても気づいた頃には時間がなかった。何か新しいことをしようとしても、時間がなく、中途半端に手をつけてしまうと責任が取れなくなる状態で、頭を抱える日々が続いた。

当日の会場準備において、長である僕は人を動かす役のはずなのだが、僕はその役を上手く務めることができず、自ら動くことが多くなってしまった。

当日は雨が降ってしまい、多くの競技が雨に流されてしまった。しかし、先生方、学生会の皆様など、

（出典 青武台だより）

資料５－３－①－10

「平成23年度 高専祭のしおり」

（出典 学生課）

資料５－３－①－11

「平成23年度 高専祭の報告」

活躍する仲間

第４７回高専祭

高専祭について

学生主事補 [redacted]

高専祭を企画運営していた学生も、参加して楽しんでいた学生もお疲れ様でした。特に企画運営だけではなく、準備から片づけまで全般にわたって精力的に活動していた学生会のメンバーたちには、高専祭の（大）成功もあり忘れられないものになったのではないでしょうか。

忘れられないといえば、さてここで、私から皆さんに質問があります。

どうでしたか、高専祭は楽しかったですか？

この質問に対して、笑顔で楽しかったと答える人もいれば、つらそうな顔で疲れましたと答える人も

無題～俺ら次第～

高専祭実行委員長　4E [redacted]

まず始めに、高専祭を一緒になって準備して下さった先生方、そして、約半年間、共に高専祭を創ってきた実行委員の仲間に感謝したいと思います。ありがとうございました。

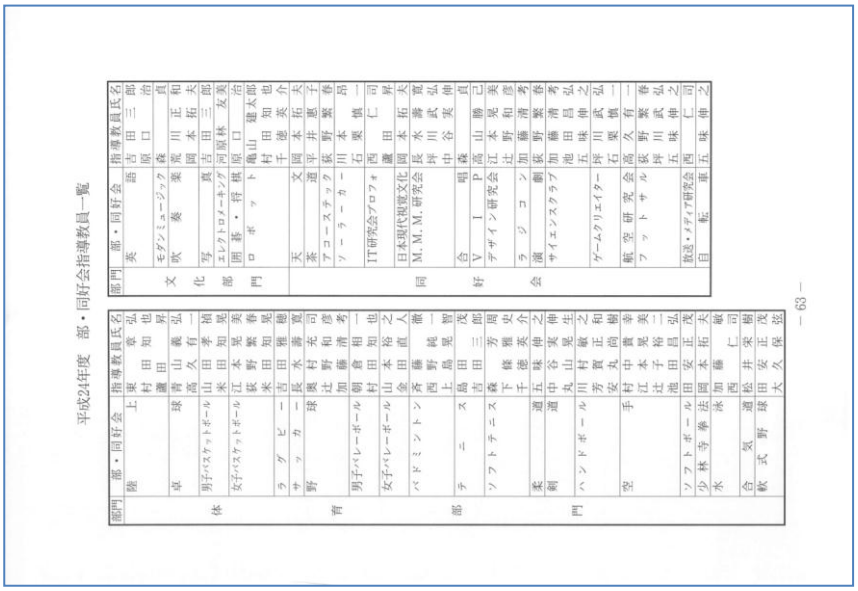
今年の高専祭の感想を一言で言うと、「雨がなぁ。」という感じです。体育祭では豪雨に見舞われ、高専祭でも降るのではないかという噂はいろいろ耳にしましたが、まさか本当に降るとは僕は思っていませんでした。

しかしそんな雨をも吹き飛ばすくらいの、露店の活気だったり、企画での盛り上がりを感じることが出来、本当にうれしかったです。今年は、"無題～

（出典 青武台だより）

資料５－３－①－12

「平成24年度 クラブ顧問一覧」



平成24年度　部・同好会指導教員一覧

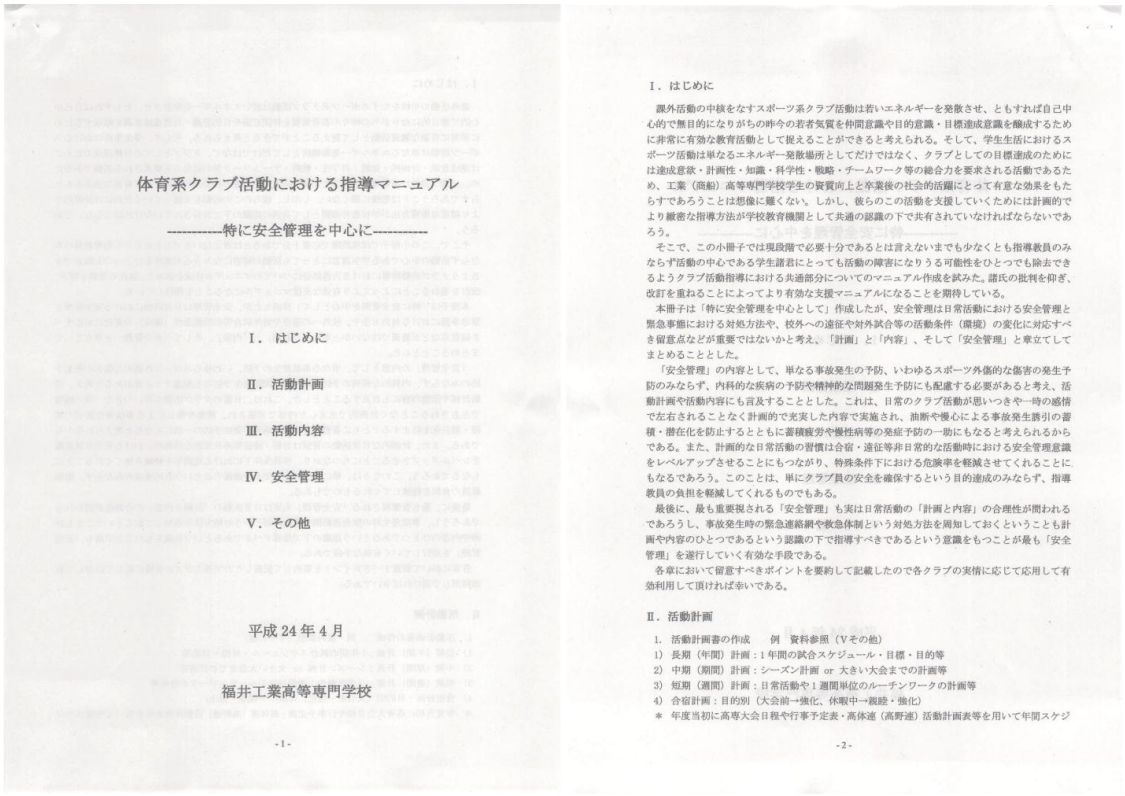
部門	部・同好会	指導教員氏名
文化部門	茶道	吉田三郎
	華道	原口治
	吹奏楽	森貞
	写真	荒川正和
	エレクトロニクス	栗本拓三
	囲碁・将棋	河尾林友寛
	ロボット	亀山建太郎
		村田知也
同好会	天文	千葉英介
	茶道	岡本拓夫
	アコースティック	平井恵子
	ソーラーカー	狭間繁春
	IT研究会プロフォ	川本慎一
	日本現代物質文化	西田仁
	M.M.M.研究会	國本拓司
	合唱	長水武晃
	VI デザイン研究会	阪川谷宏伸
	ラジコン	中森貞
	演劇	辻野勝己
	サイエンスクラブ	加藤和江
	ゲームクリエイター	池野清彦
	航空研究会	五味清考
	フットサル	宮崎弘之
	放送・メディア研究会	西原武一
	自転車	五味伸之

部門	部・同好会	指導教員氏名
体育部門	陸上	里見弘昇
	卓球	村瀬知
	男子バスケットボール	青山義昭
	女子バスケットボール	高久有一
	ラグビーフットボール	吉田孝
	サッカー	奥村友和
	野球	辻野光
		加藤清
	男子バレーボール	朝倉純
	女子バレーボール	村田知
	バドミントン	金本裕
		齊田直
	テニス	齊藤純
		西上智
		吉島田
	ソフトテニス	森田三
		下條芳
	柔道	五味雅
	剣道	丸山徳
	ハンドボール	川村英
		芳賀伸
	空手	村江生
		辻池昌
	ソフトボール	中谷宏
	少林寺拳法	中本弘
	水泳	子田安
	合気道	丸田正
	軟式野球	中本拓
		加藤仁
		松井栄
		田安正
		大久保

（出典 学生便覧，p. 63）

資料５－３－①－13

「体育クラブ活動における指導マニュアル」



体育系クラブ活動における指導マニュアル

----------特に安全管理を中心に----------

Ⅰ．はじめに

Ⅱ．活動計画

Ⅲ．活動内容

Ⅳ．安全管理

Ⅴ．その他

平成 24 年 4 月

福井工業高等専門学校

-1-

Ⅰ．はじめに

課外活動の中核をなすスポーツ系クラブ活動は若いエネルギーを発散させ、ともすれば自己中心的で無目的になりがちの昨今の若者気質を仲間意識や目的意識・目標達成意識を醸成するために非常に有効な教育活動として捉えることができると考えられる。そして、学生生活におけるスポーツ活動は単なるエネルギー発散場所としてだけではなく、クラブとしての目標達成のためには達成意欲・計画性・知識・科学性・戦略・チームワーク等の総合力を要求される活動であるため、工業（商船）高等専門学校学生の資質向上と卒業後の社会的活躍にとって有意な効果をもたらすであろうことは想像に難くない。しかし、彼らのこの活動を支援していくためには計画的でより厳密な指導方法が学校教育機関として共通の認識の下で共有されていなければならないであろう。

そこで、この小冊子では現段階で必要十分であるとは言えないまでも少なくとも指導教員のみならず活動の中心である学生諸君にとっても活動の障害になりうる可能性をひとつでも除去できるようクラブ活動指導における共通部分についてのマニュアル作成を試みた。諸氏の批判を仰ぎ、改訂を重ねることによってより有効な支援マニュアルになることを期待している。

本冊子は「特に安全管理を中心として」作成したが、安全管理は日常活動における安全管理と緊急事態における対処方法や、校外への遠征や対外試合等の活動条件（環境）の変化に対応すべき留意点などが重要ではないかと考え、「計画」と「内容」、そして「安全管理」と章立てしてまとめることとした。

「安全管理」の内容として、単なる事故発生の予防、いわゆるスポーツ外傷の発生予防のみならず、内科的な疾病の予防や精神的な問題発生予防にも配慮する必要があると考え、活動計画や活動内容にも言及することとした。これは、日常のクラブ活動が思いつきや一時の感情で左右されることなく計画的で充実した内容で実施され、油断や慢心による事故発生誘引の蓄積・潜在化を防止するとともに蓄積疲労や慢性病等の発症予防の一助にもなると考えられるからである。また、計画的な日常活動の習慣は合宿・遠征等非日常的な活動時における安全管理意識をレベルアップさせることにもつながり、特殊条件下における危険率を軽減させてくれることにもなるであろう。このことは、単にクラブ員の安全を確保するという目的達成のみならず、指導教員の負担を軽減してくれるものでもある。

最後に、最も重要視される「安全管理」も実は日常活動の「計画と内容」の合理性が問われるであろうし、事故発生時の緊急連絡網や救急体制という対処方法を周知しておくということも計画や内容のひとつであるという認識の下で指導すべきであるという意識をもつことが最も「安全管理」を遂行していく有効な手段である。

各章において留意すべきポイントを要約して記載したので各クラブの実情に応じて応用して有効利用して頂ければ幸いである。

Ⅱ．活動計画

1. 活動計画書の作成　　例　資料参照（Ⅴその他）
1) 長期（年間）計画：1 年間の試合スケジュール・目標・目的等
2) 中期（期間）計画：シーズン計画 or 大きい大会までの計画等
3) 短期（週間）計画：日常活動や 1 週間単位のルーチンワークの計画等
4) 合宿計画：目的別（大会前→強化、休暇中→親睦・強化）
＊ 年度当初に高専大会日程や行事予定表・高体連（高野連）活動計画表等を用いて年間スケジ

-2-

（出典 平成24年度顧問会議資料）

資料５－３－①－14

「平成23年度北陸地区国立高等専門学校体育大会の計画表」

第46回北陸地区高等専門学校体育大会担当役割一覧

※ ◎印の先生は、開会式にて担当競技のレプリカ返還業務をお願いします。
その後、各競技会場へ競技別優勝杯を持って移動願います。
陸上は鷹田教員、ラグビーは吉田（雅）教員。

7月　9日（土）

競技種目	会場	競技開始時刻	競技主任	会場主任	運営委員		運営委員集合時間
					教員	事務職員	
バレーボール（男女）	スポーツ交流館	12:00	朝倉相一 山本裕之	坪川(武)・金田・村田	◎原口・大久保（弦）	○入沢・三好	11:30
バスケットボール（男）	神明健康スポーツセンター	10:30	山田孝禎	米田・阿部	◎津田・柳原・千徳	○藤沢・前川	9:00
バスケットボール（女）	福井高専第２体育館	12:00	江本晃美	荻野	◎常光・宮本	○山根・内藤	9:30
ソフトテニス（男女）	きららパークテニスコート	12:30	森　芳周	下條	◎廣重・小寺・高山	○大原・亀江	9:30
テニス（男女）	鯖江広域西番スポーツセンター	11:00	島田　茂	奥田、吉田	◎森（貞）・松井・五味	○藤田(浩)・藤田(祐)・近藤	8:30
野球	福井高専野球場	12:00	加藤清考	奥村・辻野	◎前田・廣部・野村	○木村・野村	10:30
卓球（男女）	福井高専第１体育館	12:00	青山義弘	坪川(茂)	◎武井・松尾・川本	○田中・坂井・大久保	9:00
バドミントン（男女）	鯖江市総合体育館	11:00	斉藤　徹	西野	◎加藤（寛）・山本（幸）・田安	○起橋・大矢	10:00
水泳（男女）	鯖江市民プール	13:00	加藤　敏	西	◎平井・石栗	○片岡・吉田	11:00
剣道（男女）	越前市武道館	13:00	中谷実伸	丸山	◎前多・小泉	○三上・両保	10:00
柔道（男女）	福井県立武道館	13:00	宮田一郎		◎大久保（茂）・佐藤・辻子	○中村・北川	10:00
ハンドボール	北陸電力福井体育館	13:00	川村敏之	芳賀・安丸	◎前川・村中・山田	○武藤・清水	12:30

7月10日（日）

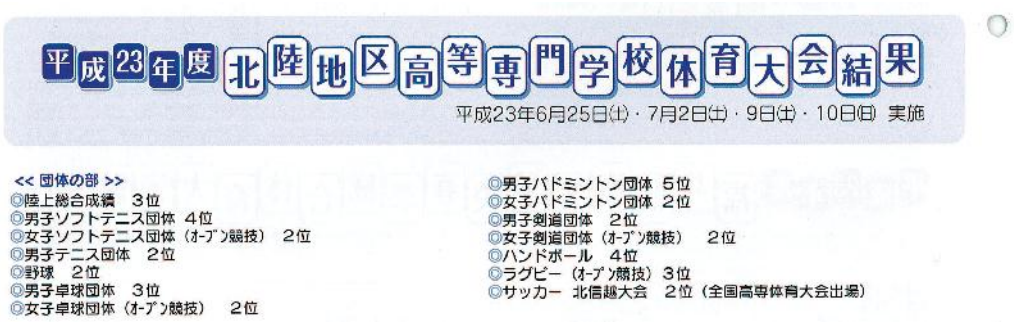
バレーボール（男）	スポーツ交流館	9:30	朝倉相一	村田	原口・大久保（弦）・亀山	○入沢・三好	9:00
バスケットボール（男）	神明健康スポーツセンター	8:30	山田孝禎	米田・阿部	津田・柳原・千徳	○藤沢・前川・山根	8:00
ソフトテニス（男女）	きららパークテニスコート	9:30	森　芳周	下條	廣重・小寺・高山	○大原・亀江	8:15
テニス（男女）	鯖江広域西番スポーツセンター	8:30	島田　茂	奥田・吉田	森（貞）・松井・五味	○藤田(浩)・藤田(祐)・近藤	8:00
卓球（男女）	福井高専第１体育館	9:00	青山義弘	坪川(茂)	武井・松尾・石栗	○田中・坂井・大久保・木村	8:00
バドミントン（男女）	鯖江市総合体育館	8:30	斉藤　徹	西野	加藤（寛）・山本（幸）・田安	○起橋・大矢	8:00
剣道（男女）	越前市武道館	9:30	中谷実伸	丸山	前多・小泉	○三上・片岡・内藤	8:30
柔道（男女）	福井県立武道館	9:30	宮田一郎		大久保（茂）・佐藤・辻子	○中村・北川	8:00
ハンドボール	北陸電力福井体育館	10:00	川村敏之	芳賀・安丸	前川・村中・山田	○武藤・清水	9:30
閉会式	福井高専第２体育館	16:30	—	—			

ソフトテニス（男女）、テニス（男女）、野球競技の雨天時については、翌日以降に順延。

（出典 学生課）

資料５－３－①－15

「平成23年度北陸地区国立高等専門学校体育大会の報告（抜粋）」



（出典 青武台だより）

資料５－３－①－16

「高専ロボコン2011の報告」

アイデア対決ロボットコンテスト

ロボコンで学んだこと

4M [redacted]

ロボコンでは何が一番大事なんでしょう。私は何事でも結果を残さないと意味は無いと思っていたので、全国大会へ出場することが一番大事だと思っていました。特に今年のロボコンには、全国大会12回連続出場の記録がかかっているのでなおさら思っていました。しかし、今回のロボコンを通して考え方が変わりました。

話が変わりますが、各高専はルールに沿って様々なコンセプトを持ってロボットを作ると思います。今回のルールでは試合が始まってからレシーバーがボールを取るまでの時間を用いて勝敗を決めます。このルールから最短のタイムで決めようとして一番良い手段がキャッチゾーンという領域からレシーバーまでボールを飛ばすことでした。妨害用ロボットがいても対処法はあったので大多数の高専がそのやり方を取ってきました。そこで、私達は相手の妨害ロボットを押し返しつつ、レシーバーにパスをする比較的アメフトに近いやり方を選ぶことで他の高専との違いを見せつけ、NHKに注目されやすくなると思いました。

そして大会は1回戦、相手の様子から何とか勝てるのではないかと思い、相手ロボットを押し返していくやり方からキャッチゾーンからボールを飛ばすやり方に変えて試合に挑みました。結果は私の操作ミスで負けてしまい、1回戦敗退。本来の私達のやり方も見せれないままロボコンを終えてしまいました。

今回のロボコンで、もしも私達のやり方で試合を行ったら悔いは無かったかもしれません。ロボコンは結果を残すことに執着することではなく、己のやり方で精一杯試合に挑むことが大事だと学びました。

（出典 青武台だより）

資料５－３－①－17

「第22回プログラミングコンテストの報告」

活躍する仲間

全国高専プログラミングコンテスト

プログラミングのコンテスト

4E I [redacted]

6月半ば、私たちは”砂であそぼう!!”という作品でプロコンの自由部門に出場することが決まりました。”砂であそぼう!!”はWiiリモコンと風力センサなどを用いて、キャンバスに見立てたディスプレイに仮想的に砂を落とし、文字や絵を描いて遊ぶことができる画期的なシステムです。毎日のようにプログラム作りにあけくれた夏休みも、まだ最近のことのように思います。

プロコン前日、高知県のホテルに着いてゆっくりくつろげるかと思ったのですが、明け方までプログラムの修正やプレゼン資料の作成をする徹夜コースとなりました。

発表寸前に資料が出来上がり、いざプレゼン。私いていけるか不安でしたが、システムの細かい機能やデザインは私も頑張りました。1番何もしていないのも私ですが、1番プロコンを楽しんだのも私です。自信を持って言えます。あと、私たちの担任であるＳ先生のことを沢山のお偉いさん達が知っていたことに驚きました。ツイッターを見るとそれは明らかです。また、独特な世界感で不思議なオーラ(たぶん電磁波)を放ちまくりのＴ先生は意外にも紳士的で、女を失いかけていた私達を最後まで女の子扱いしてくれて本当に嬉しかったです。(寝坊してすみませんでした。)

今回のプロコンではお絵描きや防犯システムなどｉｐｈｏｎｅやｉｐａｄをコントローラとした

（出典 青武台だより）

資料５－３－①－18

「デザコン2011の報告」

活躍する仲間

デザコン2010

1ES [redacted]

私達は昨年の11月13日から14日までの2日間、教育後援会奨励研究の支援を受けて八戸市において開催されたデザコン2010に参加しました。デザコンは、決められたレギュレーションのもとで知恵を出し合い、そのアイデアをかたちにし、公の場で披露するものです。毎年、全国からたくさんの高専生たちが参加しています。

4つある部門の中で、私達は構造部門に参加しました。構造部門のテーマは，仮設の橋「どこでもブリッジ」。模型をステージ上で組み立て、耐荷力を競うブリッジコンテストが行われました。決められたルールのなかで模型を作製しなければならないのですが、とても自分たちだけでは想像もできないようなアイデアをたくさん見る事ができました。

創意工夫を凝らして橋を製作し、結果が出たとき

（出典 青武台だより）

資料５－３－①－19

「学生会規約」

福井工業高等専門学校学生会規約

第１章　総則

第１条　本会は、福井工業高等専門学校学生会と称する。

第２条　本会は、学校の指導のもとに学生会の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し高等専門教育に資することを目的とする。

第２章　会員の権利と義務

第３条　本会は、福井工業高等専門学校の学生全員を会員とする。

２　全学生は、会員としての権利を持つとともにその義務と責任を持たなければならない。

第４条　会員は、規約で定められた会費を納入する義務を負う。

第５条　会員が本会員として有する権利義務は、全く平等であり、学年、思想、性別、その他いかなる条件によっても差別をうけない。

第３章　機　関

第６条　本会に次の機関を置く。

一　総　会
二　評議会
三　役員会
四　運営委員会
五　体育委員会
六　文化委員会
七　厚生委員会

（出典 平成24年度学生便覧，p. 132）

資料５－３－①－20

「学生会組織概要と組織図」

3．学　生　会

本校には、学生全員によって構成される学生会があります。その議決機関として学生総会と評議会が、また、執行機関として会長、副会長等からなる役員会があり、これらの基盤として学級会やクラブ活動（部・同好会）があります。

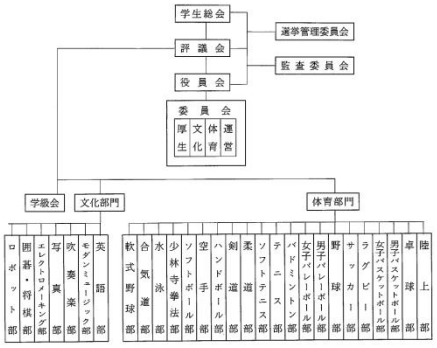
学生のみなさんは、これらの部・同好会に加入して活動し、多くの友人や先輩とともに汗を流し、喜びや苦しみを分かち合い、自己の研さんに役立ててください。

これらの活動によって培われた経験は、学生のみなさんが社会人となったとき、必ず役立つものであると確信します。

－ 45 －

学生会の組織を図式にすると、次のとおりです。

学生会組織図



なお、同好会として次のものがあります。

天文、茶道、アコースティック、ソーラーカー、ＩＴ研究会プロフォ、日本現代視覚文化、M. M. M. 研究会、合唱、ＶＩＰ、デザイン研究会、ラジコン、演劇、サイエンスクラブ、ゲームクリエイター、航空研究会、フットサル、放送・メディア研究会、自転車

－ 46 －

（出典 平成24年度学生便覧，p. 45～46）

福井工業高等専門学校学寮規則

（目　的）
第１条　学生の修学に便宜を供与し、かつ、人間形成を助長して教育目的の達成に資するために、本校に学寮を設ける。
（学寮生活の基本）
第２条　学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規則を守り、相互に敬愛啓発して自己及び共同の生活の向上充実に努めなければならない。
（所　管）
第３条　学寮の管理運営に関する事項は、校長の命を受けて寮務主事が処理する。
（運営委員会）
第４条　学寮の管理運営に関する事項を調査審議するため、学寮運営委員会を置く。
２　学寮運営委員会の組織及び運営に必要な事項は、別に定める。
（入寮及び退寮）
第５条　入寮の時期は、学年の初めを原則とする。
２　入寮を希望する者は、学級担任、寮務主事を経て校長に願い出て、その許可を受けなければならない。退寮しようとするときも同様である。
３　疾病その他の事由により共同生活に適さないと認めた者は、入寮を許可しない。
４　学則及び学生準則並びにこの規則に違反した者及び前項に該当する者は退寮させることがある。
（寄宿料等）
第６条　寄宿寮の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則35号）に定める額とする。
２　寄宿料は、学寮に入寮した日の属する月から退寮する日の属する月まで、毎月20日までにその月の分を納付しなければならない。ただし、月の中途入退寮月分及び休業期間中の分は、次の各号により納付するものとする。
一　月の中途入寮月分は、その月の末日まで
二　月の中途退寮月分は、その月の退寮の前日まで
三　休業期間中の分は、休業開始の前日まで
３　前項の規定にかかわらず、寄宿料は当該年度の総額の範囲内で、前納することができる。
４　寮生の生活上必要な経費で各人の負担すべきものは、別に定めるところにより納付するものとする。
５　寮生又は寮生の学資を主として負担している者が災害を受け、納付困難と認められる場合は、別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。
６　寄宿料及び第４項の経費を納付しない者は、退寮させることがある。

（出典 寮生手帳）

Ⅱ　寮 生 心 得

１．日　　課

日　課	時　刻（月曜～金曜）	時　刻（土・日曜及び祝日・休業日）	備　　考
起　床	7:30		
風呂掃除	7:20～8:00		
朝　食	8:00～8:30		
登　校	8:45		戸締り、電気器具（ドライヤー、ポット等）をコンセントから外す。
昼　食	12:35～13:20		
下　校			
夕　食	17:00～20:00		
入　浴	17:00～23:30	17:00～23:30	
自習時間	21:00～23:00	21:00～23:00	居室で静粛に学習する。
清　掃	21:30～22:00		月・木曜日に各棟の清掃当番全員で実施
点　呼	20:15(低学年)＊ 22:00(高学年)＊	22:00(全学年)	＊金曜日の点呼・門限は低学年・高学年共に22:00とする。
門　限	20:00(低学年)＊ 22:00(高学年)	22:00(全学年)	
消　灯（施錠）	23:30	23:30	玄関等共用の場所及び低学年居室の消灯
就　寝	24:00	24:00	完全消灯

注）１．21時になったら各自机に向かい学習に専念すること。
２．点呼後は、みだりに他人の部屋を訪れることなく静かに学習すること。また、テレビ、ステレオ等を使う時は他の学習者の迷惑にならないよう気を配ること。
３．登校時間中は原則として寮内へ入らないこと。
４．中間・期末試験時及びその前一週間は就寝を午前１時とする。
５．寮生は門限後は寮内から出ないこと。

２．寮生活の心構え

⑴　寮生活の意義と心構え

学寮は、単なる宿泊施設ではなく、人間形成を目指す教育の場である。そのため色々な規範や当番が設けられている。寮生は、諸規則等を守り、より高い理念の上に立った自主的な生活を心掛け、向上の意欲と努力の姿勢を常に保持すべきである。我ままな考えや自己中心的な振舞いは絶対に許されないと心得るべきである。

また、寮には、中学校を卒業したばかりの１年生から成人に達する５年生まで、精

資料５－３－①－22

「寮生会規約」

福井工業高等専門学校寮生会規約

平成11年４月１日
制　　定

第１章　総　　則

第１条　福井工業高等専門学校学寮（以下「学寮」という。）における学生（以下「寮生」という。）の共同生活を自律的に運営するため、福井工業高等専門学校寮生会（以下「本会」という。）を設ける。

第２条　本会は、学寮規則の趣旨に基づき、学校の指導のもとに、寮生の共同生活を自律的に運営し、寮生活全般の便宜と調和をはかることを目的とする。

第２章　会員の権利と義務

第３条　本会は、寮生全員をもって構成する。

第４条　全寮生は、会員としての権利をもつとともにその義務と責任を負う。

第５条　会員は、規約で定められた会費を納入する義務を負う。

第３章　機　　関

第６条　本会に次の機関を置く。
(1)　総会
(2)　区長会
(3)　役員会
(4)　文化報道部
(5)　企画部
(6)　監査委員会
(7)　選挙管理委員会

第４章　総　　会

第７条　総会は、本会の最高議決機関であり、全寮生をもって構成し、議長がこれを招集する。

第８条　定期総会は、前期、後期に各１回開催する。ただし、次の各号の一に該当する場合、議長は、５日以内に臨時総会を開かなければならない。
(1)　会長が特に必要と認めたとき
(2)　区長会の２分の１以上の要求があったとき
(3)　全寮生の４分の１以上の連署による要求があったとき

第９条　総会に議長１名、副議長１名、書記１名を置く。議長、副議長の選出は会員の直接選挙による。書記は、役員会の役員が兼任する。

第10条　議長、副議長の任期は４月１日から翌年の３月31日までとする。

第11条　書記は、議長の名による寮生総会の招集及び議題を７日前までに告示しなければ

（出典 寮生手帳）

資料５－３－①－23

「寮生会行事一覧」

（学寮年間行事予定）

４　月　入寮式（３日10時30分、閉寮３日14時）
　　新入寮生歓迎夕食会
　　寮生総会
５　月　寮祭
６　月　早朝球技大会
７　月　保護者懇談会、大掃除
８　月　閉寮（11日14時）
９　月　開寮（23日10時）
10　月　防災訓練
　　寮生総会
11　月　早朝球技大会
12　月　特別講演会、クリスマス会、大掃除、閉寮（22日14時）
１　月　開寮（６日10時）、テーブルマナー講習会、
　　次年度入寮生募集、次期寮生会役員選挙
２　月　寮生総会、５年生を送る会
３　月　部屋替え、閉寮（９日14時）
その他　寮生会役員と寮関係教職員との「懇談会」、
　　寮関係教職員の「打合せ会」、役員会

（出典 寮生手帳）

（分析結果とその根拠理由）

幅広い教養と人間性の育成に配慮して，１～３学年には特別活動を実施している。学生は特別活動，学級担任による学生指導，学校行事，クラブ活動，学生会活動及び寮生会活動などの多角的な活動を通して多くのことを体験し，自ら行動し行事等の企画・立案・実行を経験する機会を得ている。従って，本校は人間性を涵養するように教育課程が編成されており，さらに課外活動等をもって豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

教育課程等に関する規則（資料５－４－①－１）と学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則（資料５－４－①－２）が定められ，学生便覧に示され，成績評価基準，単位認定基準，進級・卒業認定基準が策定され，周知されている。

また，45 時間の学修をもって１単位とする学修単位の科目は，学修単位科目の一覧を学生便覧に示すと共に，シラバスに学修単位科目と記載している（資料５－４－①－３，４）。１単位の履修時間は，授業時間以外の学修を合わせて 45 時間であることを担当教員がシラバスを用いて学生に知らせている。定期試験を受けられなかった場合，追試験を行うことができ（資料５－４－①－５），また仮進級者の不合格科目については解除することができる（資料５－４－①－６）ことを規定している。定期試験については採点後に学生に返却すると共に試験問題の解説を行っている。また，学生から成績評価などに対する意見申し立てがあった場合は，当該授業科目担当教員による対応が行われている。

各科目担当教員がスキャナ等を用いて試験の答案等の電子化により作成し（資料５－４－①－７），学校に提出・保管している（訪問調査時，閲覧可）。非常勤講師の担当科目については，連絡担当教員が協力して作成している。年度末に進級判定会議と卒業判定会議が開催され（資料５－４－①－８，９），会議資料（資料５－４－①－10，11）に記載した卒業・進級判定基準（資料５－４－①－12，13）を確認した後，それに照合して判定する。

資料５－４－①－１

「教育課程等に関する規則（抜粋）」

第４章　教育課程等

第12条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

第13条　教育課程は、授業科目及び特別活動により編成するものとする。

2　授業科目並びにその開設単位数及び履修単位数は、一般科目にあっては別表第１、専門科目にあっては別表第２のとおりとする。

3　各授業科目の単位数は、30 単位時間（１単位時間は、標準 50 分とする。第５項において同じ。）の履修を１単位として計算するものとする。

4　前項の規定にかかわらず、別表第３に掲げる授業科目については、１単

（出典 平成24年度学生便覧，p. 83）

資料５－４－①－２

「学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則（抜粋）」

第7　進級及び卒業の認定に関する事項

1　福井工業高等専門学校成績考査・成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則（昭和41年規則第４号。この事項において「規則」という。）第10条及び第12条第２項の規定の解釈について　（平成８．９．１９）

第10条　成績評定が不可の科目及び欠課時数が年間授業総時数（※１）の３分の１を超える科目は，不合格とする。

2　特別活動の欠課時数が年間総時数（※２）の３分の１を超える場合は，不合格とする。

（１）　※１の解釈

「年間授業総時数」とは，各科目の実際に実施した授業時数ではなく，30週（前期15週，後期15週）授業を行ったものとして算出した時数とする。

（２）　※２の解釈

上記（１）の解釈を摘要する。　（平成８．９．１９）

《参考》

第12条　略

2　次の各号の一に該当する者は，原則として進級及び卒業を認めない。

（出典 教務に関する申合事項集）

資料５－４－①－３

「学修単位科目の一覧表」

2 学修単位

各学科共通

授業科目			単位数	学年別配当		備考
				4年	5年	
必修科目	数学	解析Ⅲ	2	2		
	外国語	英語Ⅳ	2	2		
		英語Ⅴ	2		2	
計			6	4	2	

機械工学科

授業科目		単位数	学年別配当		備考
			4年	5年	
必修科目	応用数学	2	2		
	工学基礎物理Ⅱ	2	2		
	材料力学Ⅱ	2	2		
	熱力学	2	2		
	流れ学Ⅱ	2	2		
	自動制御	2		2	
	振動工学	2		2	
計		14	10	4	

（出典　平成24年度学生便覧，p. 19）

資料５－４－①－４

「学修単位科目のシラバス記載例」

履修	履修単位				
学科等	電子情報工学科選択	科目コード	52352	総授業時間数	25時間
科目名	計算機ｱｰｷﾃｸﾁｬ	科目名(英語)	Computer Architecture	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	電子情報工学科	学年	5年
開設期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
担当教員	青山義弘	他 担当教員			
授業目標	計算機、特にディジタル電子計算機について、その構成法と動作をアーキテクチャの観点から理解するとともに、計算機を構成する要素を回路のレベルから動作を理解し、目的に適した構成方法を自ら選択し設計する方法を修得する。				
授業の概要と方法	本科目は学修単位科目である。従って、授業においては、座学を中心とし、計算機アーキテクチャに関する講義と演習を行ない、さらに、授業外学修のための課題(予習復習、授業内容に関する調査・考察)を課す。				
授業項目(1週目)	ガイダンス・汎用CPUとASIP	授業内容(1週目)	シラバスの説明。計算機の構成に関する基礎知識		
授業項目(2週目)		授業内容(2週目)	プロセッサの基本動作復習		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	計算性能と入出力装置		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	パイプライン処理方式の特徴と設計方法		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	パイプライン処理方式の特徴と設計方法		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	パイプライン処理方式の特徴と設計方法		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	パイプライン処理方式の特徴と設計方法		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)	中間試験		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	スーパスカラ処理		
授業項目(10週目)		授業内容(10週目)	スーパスカラ処理		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	スーパスカラ処理		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	並列処理の現象		

（出典　シラバス，p. Ei-48）

資料５－４－①－５

「追試験に関する事項（抜粋）」

第2　追試験に関する事項

1　手続き

(1) 追試験願の提出

追試験は，次に掲げる事由の場合に証明書等を添付して願い出ることができる。これ以外は受理しない。

なお，追試験願は受験出来なかった科目の担当教官の承認を受けた後，学級担任を経て校長に願い出るものとする。　（平成 8. 4.18）

事　　由	添付証明書
①　病気等の加療による場合	医師の診断書
②　通学手段に係る事故による場合	これを証明できる書類
③　忌引による場合（福井工業高等専門学校学生準則第１５条に定めるものをいう。）	忌引願の写
④　就職試験による場合	学級担任及び学科主任の連名の証明書
⑤　大学編入学試験（高等専門学校専攻科の入学試験を含む。）による場合	試験日を確認できる書類

（出典　教務に関する申合事項集）

資料５－４－①－６

「仮進級の仮進級の解除及び仮進級に関する事項（抜粋）」

第8　仮進級者の仮進級の解除及び進級認定に関する事項

1　教務に関する申合事項「第７　進級及び卒業に関する事項」第２項（1)ア（ｱ)に定める仮進級については，次のとおり取扱うものとする。（平成 8．9.19）

(1) 仮進級者の不合格科目は，適切な指導により１年未満で合格させることができる。（平成 8．9.19）

(2) (1) において，学年末成績締切日までに合格とならなかった科目は，その年度の不合格科目の一つとして算入する。（平成 8．9.19）

(3) 仮進級のまま年度途中で退学願を出した者は，前年度の学年を修了したものとみなすことができる。（平成 8．9.19）

2　教務委員会で判定し，校長の決裁を経たものについては，その都度学科主任及び学級担任に通知する。（昭和55．4.17）

3　教官会議への報告は，卒業認定会議（教官会議）及び進級認定会議（教官会議）の資料をもって代える。（昭和55．4.17）

（出典 教務に関する申合事項集）

資料５－４－①－７

「成績評価資料について（抜粋）」

平成 23 年 7 月 28 日

平成 23 年度成績評価資料について

教務主事

今年度よりすべての学年で（準学士課程，専攻科ともに）成績評価資料を電子データで作成してください．PDF ファイルを標準としますが，場合によっては Office ファイルでもかまいません．次に示す資料を作成してください．

1 シラバス（1 シラバス）
- □4 月に学生に配布したシラバス．
- □シラバスを修正した場合は，修正したシラバス．

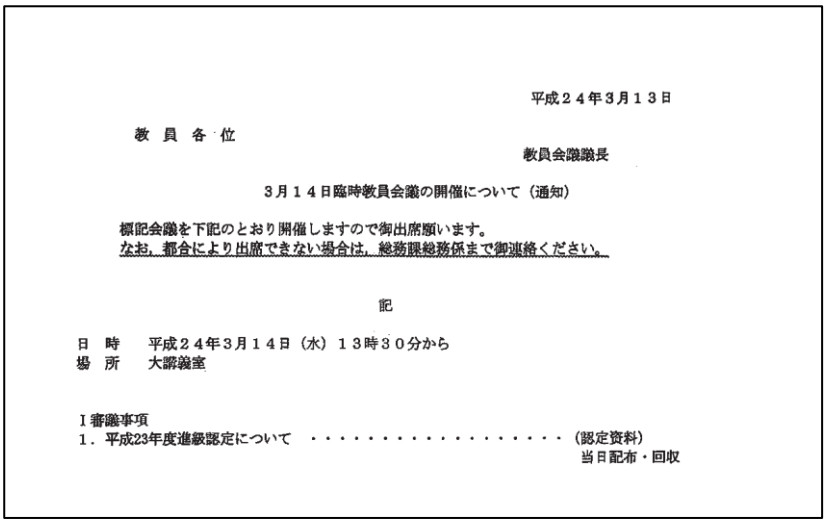
2 教科書等（2 教科書等）
- □授業に使用した教科書の表紙および目次．
- □教科書と同程度の重要性をもって配布したプリント（含む実験指導書）．
- □講義ノートのコピー（教科書を使用せず，プリントも配布しなかった場合）．

3 成績評価表（3 成績評価表）
- □最終成績を算出する評価式（シラバスの記載と一致していること）．
- ・例　0.4*中間試験得点+0.4*期末試験得点+0.2*レポート得点
- □成績評価式に基づく成績一覧表（クラス全員分の，定期試験成績，レポート点など成績評価に用いる得点が表となっていて，最終成績へたどりつけることが必要です．）
- □得点化し成績評価に用いたすべての成績一覧表（成績評価表に付けてもよい）．
- ・試験を実施しない科目（実験や製図を含む）でも，第 1 回目のレポート点，第 2 回目のレポート点，実技点などで学生全員分の成績評価表，評価式を作成する．
- ・評価式以外の項目（追試や追レポート）を用いて最終成績をつけた場合は，そのことを成績

（出典 学生課）

資料５－４－①－８

「平成23年度 進級判定会議の開催通知」



平成２４年３月１３日

教 員 各 位

教員会議議長

３月１４日臨時教員会議の開催について（通知）

標記会議を下記のとおり開催しますので御出席願います。
なお，都合により出席できない場合は，総務課総務係まで御連絡ください。

記

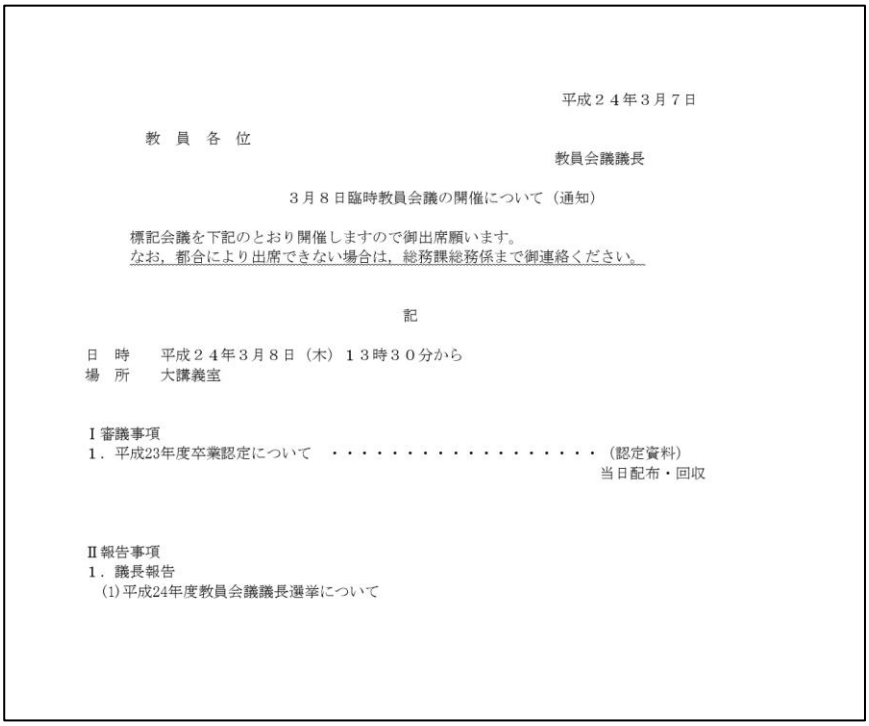
日 時　平成２４年３月１４日（水）１３時３０分から
場 所　大講義室

Ⅰ審議事項
１．平成23年度進級認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・（認定資料）
当日配布・回収

（出典 総務課）

資料５－４－①－９

「平成23年度 卒業判定会議の開催通知」



平成２４年３月７日

教 員 各 位

教員会議議長

３月８日臨時教員会議の開催について（通知）

標記会議を下記のとおり開催しますので御出席願います。
なお，都合により出席できない場合は，総務課総務係まで御連絡ください。

記

日 時　平成２４年３月８日（木）１３時３０分から
場 所　大講義室

Ⅰ審議事項
１．平成23年度卒業認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・（認定資料）
当日配布・回収

Ⅱ報告事項
１．議長報告
(1)平成24年度教員会議議長選挙について

（出典　平成23年度教員会議開催通知）

資料５－４－①－10

「平成23年度 進級判定会議（抜粋）」

学科名	学籍番号	学年	NO	氏名	2009年度 必修科目 不合格科目	評点	単位	2010年度 必修科目 不合格科目	評点	単位	2011年度 必修科目 不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	不合格科目	評点	単位	特別活動	認定
機械工学科		2	2								線形代数	50	2	解析Ⅰ	54	4							合格	仮進級
機械工学科		2	6								線形代数	56	2	機械製図	54	4							合格	仮進級
機械工学科		2	7								国語	50	2	歴史	42	2	線形代数	33	2	解析Ⅰ	56	4	合格	原級留置
											物理	55	3	化学	45	2	英語Ⅱ	53	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	54	2		
											Ｃ言語基礎	51	1											
機械工学科		2	10								線形代数	56	2	化学	50	2							合格	仮進級
機械工学科		2	14								ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	55	2										合格	仮進級
機械工学科		2	19					物理	50	2	国語	41	2	歴史	37	2	線形代数	30	2	解析Ⅰ	50	4	合格	原級留置
											物理	52	3	化学	43	2	英語Ⅱ	41	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	54	2		
											材料学Ⅰ	58	1	機械工作法Ⅰ	50	1	機械製図	42	4	Ｃ言語基礎	51	1		
機械工学科		2	21					地理	50	2	国語	36	2	歴史	21	2	線形代数	33	2	解析Ⅰ	50	4	合格	原級留置
								物理	51	2	物理	50	3	化学	36	2	英語Ⅱ	43	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	50	2		
											材料学Ⅰ	50	1	機械工作法Ⅰ	58	1	機械製図	53	4					
機械工学科		2	25								ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	57	2										合格	仮進級
機械工学科		2	27								国語	53	2	線形代数	51	2	化学	43	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	50	2	合格	原級留置
											機械工作法Ⅰ	59	1	機械製図	58	4								
機械工学科		2	32								化学	58	2										合格	仮進級
機械工学科		2	34								化学	50	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	55	2							合格	仮進級
機械工学科		2	36								歴史	59	2										合格	仮進級
機械工学科		2	38								化学	57	2										合格	仮進級
電気電子工学科		2	2								電気回路演習	50	1										合格	仮進級
電気電子工学科		2	4								電気回路演習	54	1										合格	仮進級
電気電子工学科		2	11								英語Ⅱ	54	2										合格	仮進級
電気電子工学科		2	19								歴史	42	2	物理	59	3	化学	44	2	英語Ⅱ	56	2	合格	原級留置
											ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	50	2	電気磁気学Ⅰ	41	2	電気回路演習	51	1	電気回路Ⅰ	52	2		
											情報処理Ⅰ	45	2											
電気電子工学科		2	21								電気磁気学Ⅰ	57	2										合格	仮進級
電気電子工学科		2	24								国語	35	2	倫理社会	52	2	歴史	53	2	線形代数	55	2	合格	原級留置
											物理	51	3	化学	x	2	英語Ⅱ	53	2	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	x	2		
											電気磁気学Ⅰ	55	2	電気回路Ⅰ	40	2	情報処理Ⅰ	50	2	電気電子工学実験Ⅰ	35	2		
電気電子工学科		2	27								国語	44	2	歴史	42	2	化学	50	2	英語Ⅱ	50	2	合格	原級留置
											ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	50	2	電気磁気学Ⅰ	50	2	電気回路Ⅰ	51	2					
電気電子工学科		2	30								ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	57	2	情報処理Ⅰ	52	2							合格	仮進級
電気電子工学科		2	31								ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	55	2										合格	仮進級
電気電子工学科		2	33								電気回路演習	53	1										合格	仮進級
電気電子工学科		2	38								情報処理Ⅰ	58	2										合格	仮進級
電子情報工学科		2	11								論理回路	53	1										合格	仮進級
電子情報工学科		2	16								物理	58	3	化学	56	2	電子工学基礎	53	2	情報基礎演習	46	1	合格	原級留置

（出典 平成23年度進級判定会議資料）

資料５－４－①－11

「平成23年度 卒業判定会議（抜粋）」

学科名〔機械工学科〕　注：氏名欄の＊印は編入学生を、◇印は外国人留学生を示す。

学籍番号	NO	氏名	第1学年～第4学年 必修科目 一般	専門	選択科目	小計	第5学年 必修科目 一般	専門	選択科目	小計	修得単位合計	認定
	1		76	62	0	138	7	19	8	34	172	
	2		76	62	0	138	7	19	6	32	170	
	3		76	62	0	138	7	19	7	33	171	
	4		76	62	0	138	7	19	5	31	169	
	5		76	62	0	138	7	19	9	35	173	
	6		76	62	0	138	7	19	6	32	170	
	7		76	62	0	138	7	19	9	35	173	
	8		76	62	0	138	7	19	9	35	173	
	9		76	62	0	138	7	19	6	32	170	
	10		76	62	0	138	7	19	5	31	169	
	11		76	62	0	138	7	19	9	35	173	
	12		76	62	0	138	7	19	7	33	171	
	13		76	62	0	138	7	19	9	35	173	
	14		76	62	0	138	7	19	9	35	173	

（出典 平成23年度卒業判定会議資料）

資料５－４－①－12

「平成23年度 進級判定会議の判定基準」

福井工業高等専門学校成績考査・成績評価
並びに進級及び卒業の認定に関する規則

（不合格の基準）

第１０条　成績評定が不可の科目及び欠課時数が年間授業総時数の3分の1を超える科目は、不合格とする。

２　特別活動の欠課時数が年間総時数の3分の1を超える場合は、不合格とする。

第４章　進級及び卒業の認定

第１２条　進級及び卒業は、認定会議に付し、校長が認定する。

２　次の各号の一に該当する者は、原則として進級及び卒業を認めない。

(1) 福井工業高等専門学校学則別表第1及び第2並びに福井工業高等専門学校学則の一部を改正する学則附則第2項の取扱規則第2条に規定する学年別履修単位数に満たない者

(2) 福井工業高等専門学校学則別表第3に規定する特別活動が不合格である者

福井工業高等専門学校学則

第１５条　前条の認定の結果，原学年にとどめられた者は，当該学年にかかる全授業科目を再履修するものとする。ただし，同一学年に在学できる期間は休学の場合を除き2年を限度とする。

（出典 平成23年度進級判定会議資料）

資料５－４－①－13

「平成23年度 卒業判定会議の判定基準（抜粋）」

平成23年度卒業認定について

1.卒業認定について

教務に関する申合事項　第7「進級及び卒業の認定に関する事項」（抜粋）

2　規則の運用について

進級及び卒業等に関し、規則第12条2項の規定にかかわらず次のとおり取扱うものとする。

(2)編入学生について　（平成7.3.16）

規則第12条第2項にかかわらず、高等学校卒業後、編入学した者の進級及び卒業は、学則別表第1及び別表第2並びに取扱規則第2条に規定する学年別履修単位数のうち、第1学年から第3学年までの単位数は修得したものと、学則別表第3に規定する特別活動は合格 したものとみなす。ただし、外国人留学生については、別に定める。

（出典 平成23年度卒業判定会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定は，学則及び成績考査・成績評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則に定められ，学生便覧への掲載などにより学生に周知されている。各授業科目の成績評価・単位認定は，シラバス記載の評価方法により行われており，学生から成績評価などに対する意見申し立てがあった場合は，当該授業科目担当教員による対応が行われている。また，進級認定・卒業認定は，教員会議において審議の上，校長が認定しており，規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に行われている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

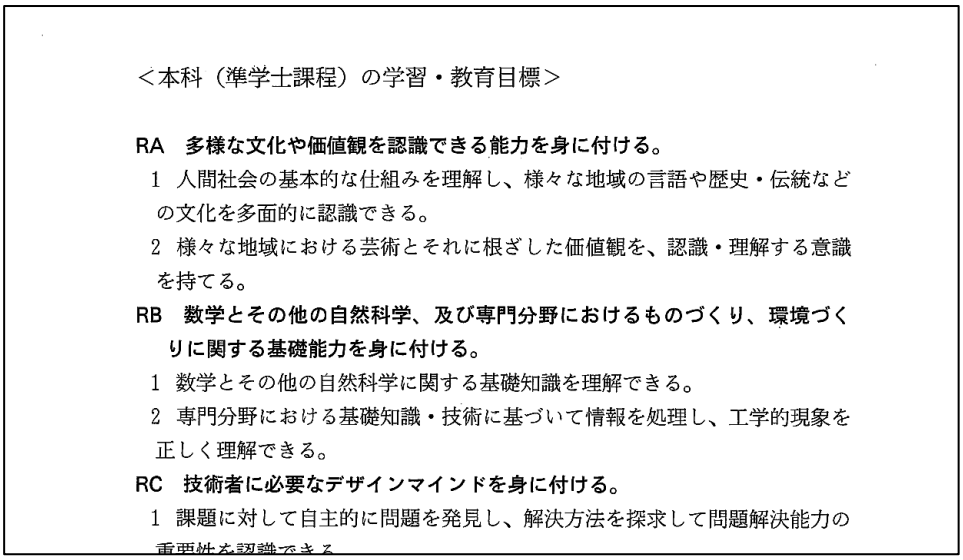
本校の専攻科課程は，準学士課程である４・５年次部分を基礎としてJABEE認定を受けた技術者教育プログラム「環境生産システム工学」を構成している。生産システム工学専攻は機械工学科と電気電子工学科と電子情報工学科を，環境システム工学専攻は物質工学科と環境都市工学科を基礎としており，準学士課程の学習・教育目標と専攻科課程の教育目標は強く関連し（資料５－５－①－１～３），それぞれの教育の目的を達成するよう授業科目が設計されている（資料５－５－①－４～９）。

履修に関連する規則や規程が定められており（資料５－５－①－10～11），教育の目的を達成するために適切なものとなっている。また，専攻科課程のシラバスには，準学士課程の教育内容との関連性が分かるよう本科の関連科目を明記するようにしている（資料５－５－①－12，13）。

本校専攻科では，目指すエンジニア像として「得意とする専門技術分野を持つことに加え，他の技術分野を積極的に吸収して，自然環境との調和を図りながら，持続可能な社会を有機的にデザインすることができる知識と能力（「ものづくり・環境づくり」に関する能力）を身に付けた国際社会で活躍できる実践的技術者」を掲げている。この「ものづくり・環境づくり」に関する能力に加えて，技術者倫理，自然科学，デザイン能力，コミュニケーション能力などの達成目標を，５つの大項目と２０の小項目からなる学習・教育目標として掲げている。これらの学習・教育目標を達成するために，専攻科修了時に身に付けるべき学力や資質・能力に照らして体系的に科目を編成している。授業科目の内容は，定めた教育目標を最終的な到達点として，専攻科課程の修了時に身に付けるべき学力や資質・能力の各項目のいずれかに沿うものとなっている。

資料５－５－①－１

「本科(準学士課程)の学習・教育目標（抜粋）」



＜本科（準学士課程）の学習・教育目標＞

RA　多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1 人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる。

2 様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持てる。

RB　数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

1 数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる。

2 専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し、工学的現象を正しく理解できる。

RC　技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

1 課題に対して自主的に問題を発見し、解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる

（出典　平成24年度学生便覧）

資料５－５－①－２

「専攻科の目的（抜粋）」

専攻科の目的

生産システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連及び情報・通信関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

環境システム工学専攻

本専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連及び防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

なお、本校専攻科では、これからの多様化した社会で活躍できる実践的な技術者を養成するために、専門共通科目を多く配し、さらに他専攻の科目を修得できるなど、複数の技術分野にまたがる学習ができるようになっている。また、専攻科２専攻と本科５学科の４、５年次の教育課程からなる教育プログラムを「環境生産システム工学」と位置付けている。この教育プログラム

（出典　平成24年度学生便覧）

資料５－５－①－３

「専攻科の学習・教育目標（抜粋）」

＜専攻科の学習・教育目標＞

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。

2 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。

3 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。

2 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。

3 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

1 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しな

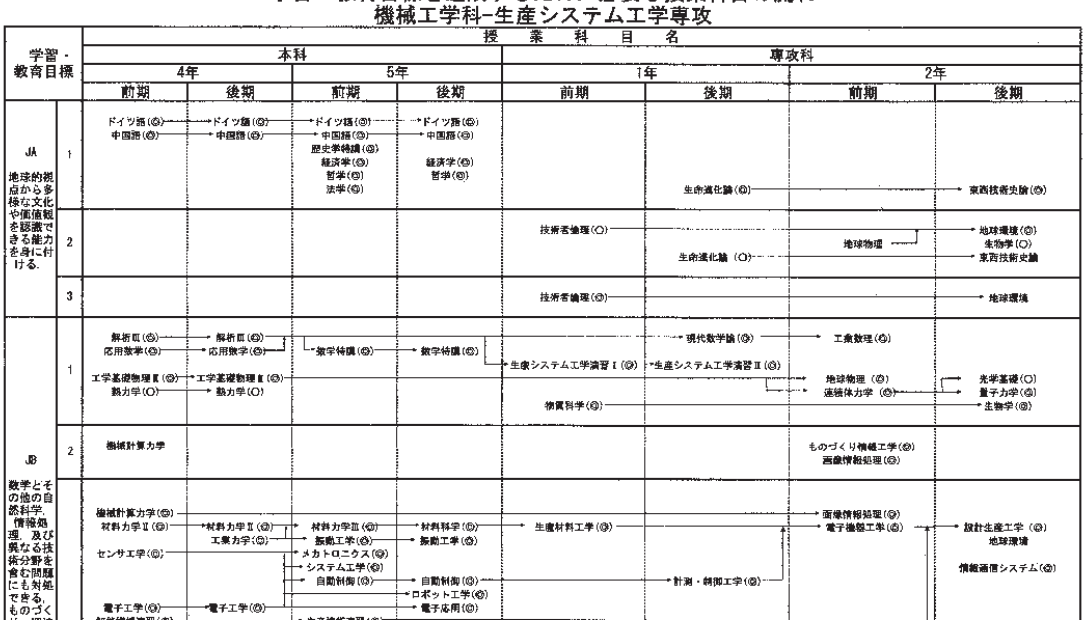
（出典　平成24年度学生便覧）

資料５－５－①－４

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

13. 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
機械工学科-生産システム工学専攻

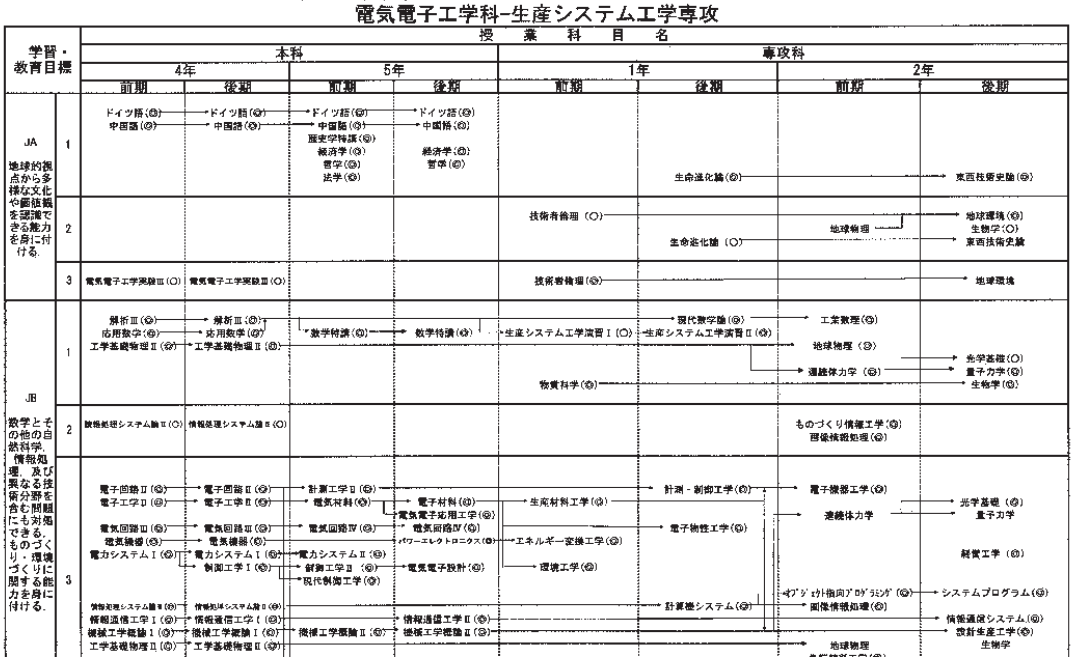


（出典　専攻科シラバス，p. 19）

資料５－５－①－５

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
電気電子工学科-生産システム工学専攻

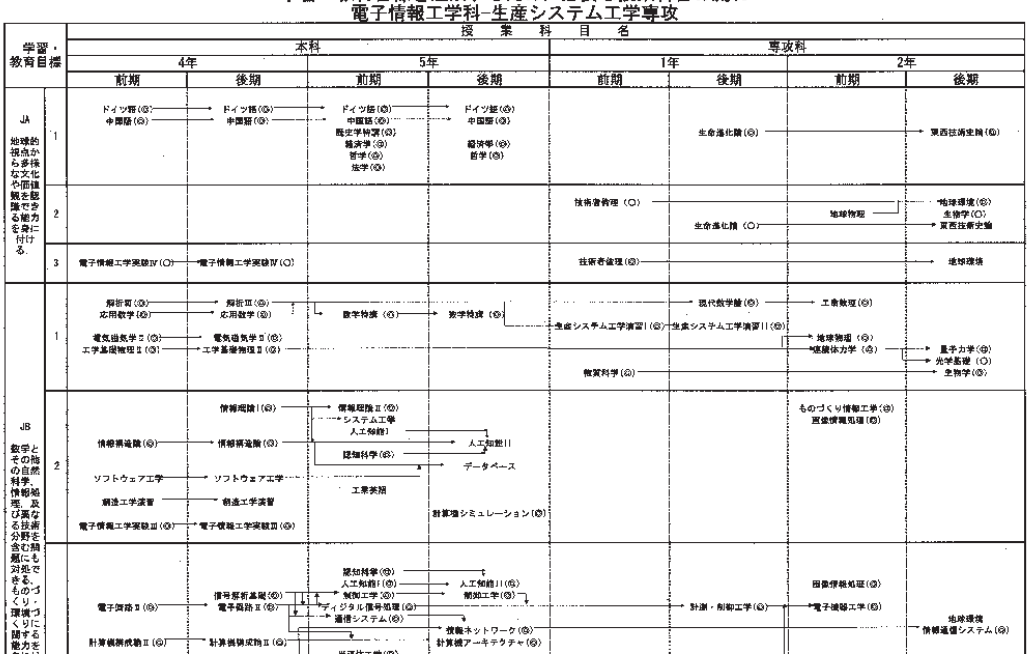


（出典　専攻科シラバス，p. 20）

資料５－５－①－６

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
電子情報工学科-生産システム工学専攻

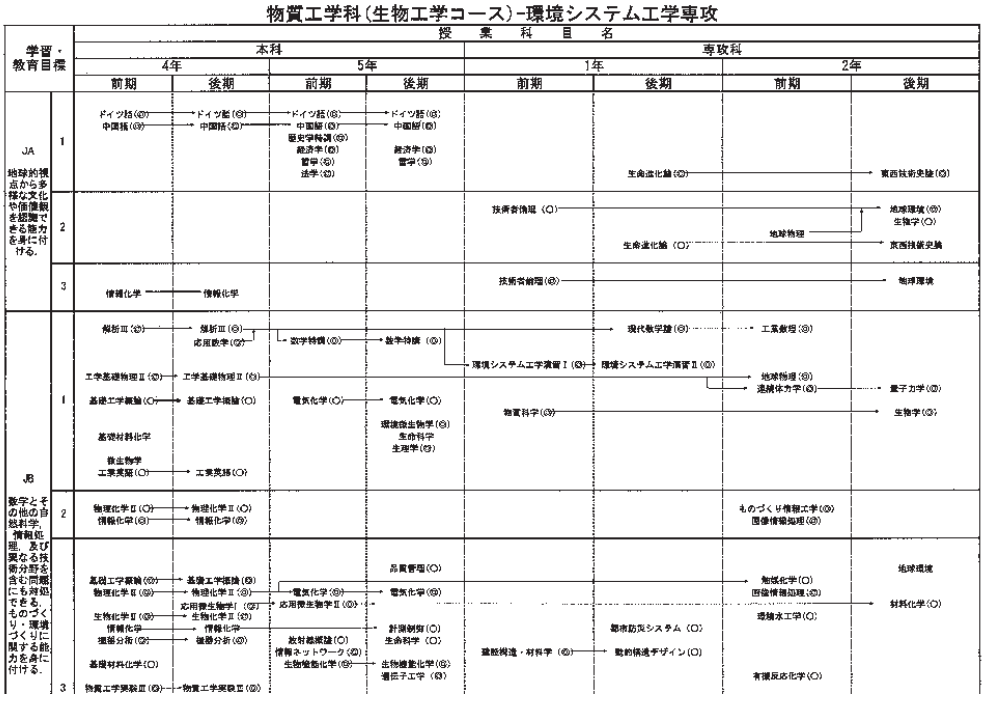


（出典　専攻科シラバス，p. 21）

資料５－５－①－７

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
物質工学科(生物工学コース)-環境システム工学専攻

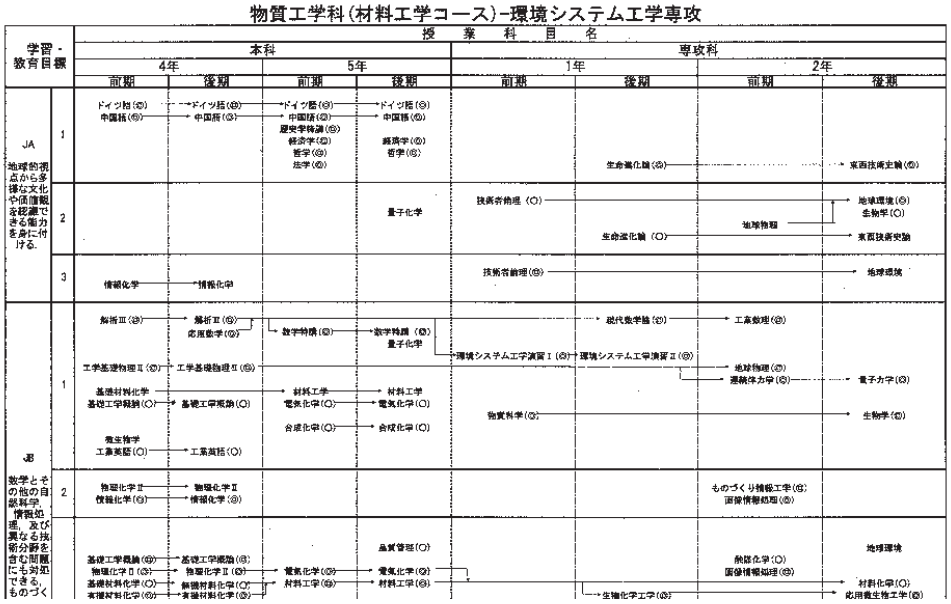


（出典　専攻科シラバス，p. 22）

資料５－５－①－８

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
物質工学科(材料工学コース)-環境システム工学専攻

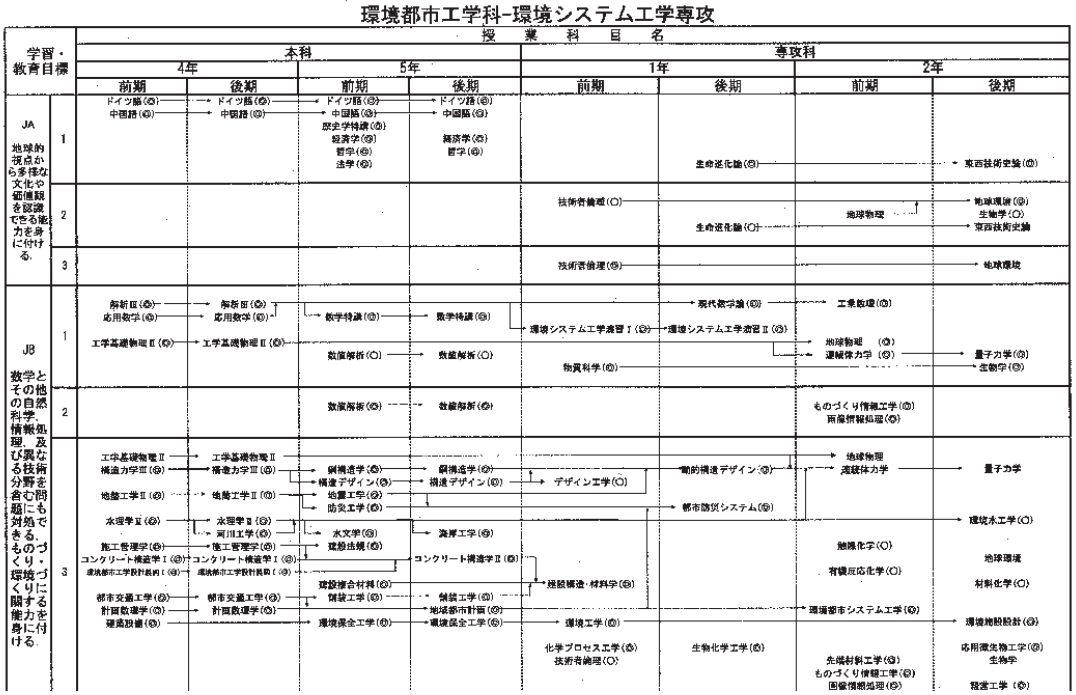


（出典　専攻科シラバス，p. 23）

資料５－５－①－９

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

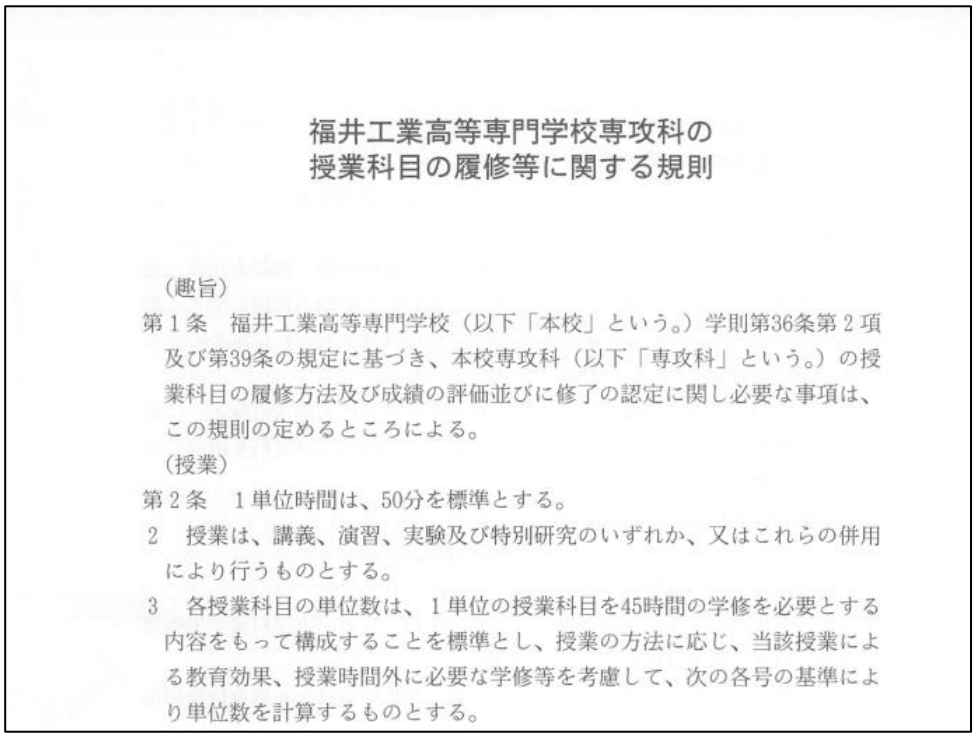
学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
環境都市工学科-環境システム工学専攻



（出典　専攻科シラバス，p. 24）

資料５－５－①－10

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」



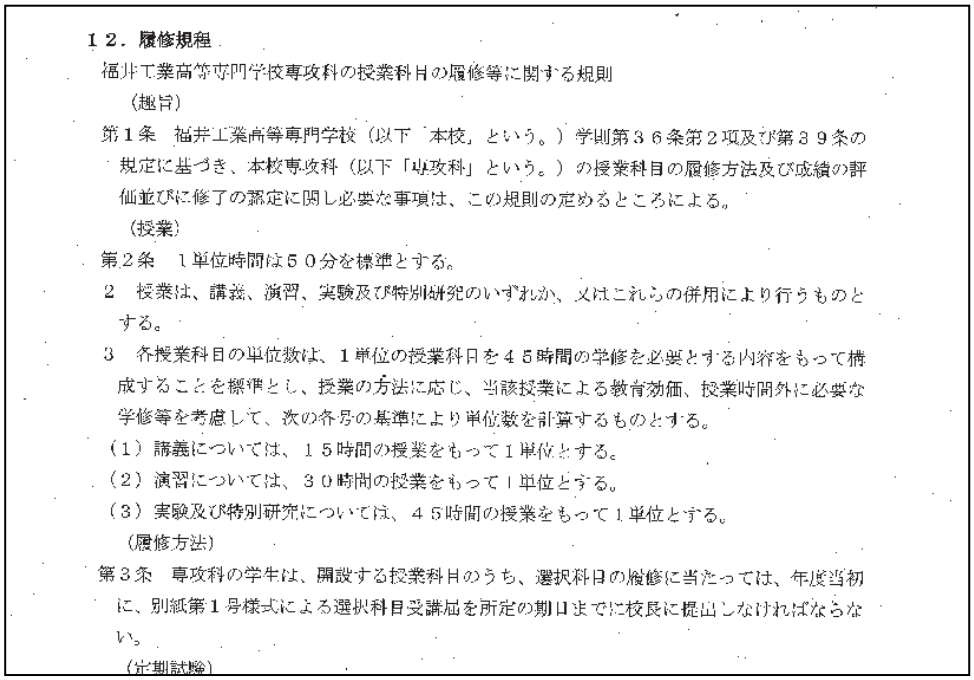
福井工業高等専門学校専攻科の
授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）
第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第36条第２項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。
（授業）
第２条　１単位時間は、50分を標準とする。
２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。
３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

（出典　平成24年度学生便覧，p. 106）

資料５－５－①－11

「専攻科の授業科目の履修規程」



１２．履修規程
福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則
（趣旨）
第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第３６条第２項及び第３９条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。
（授業）
第２条　１単位時間は５０分を標準とする。
２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。
３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。
（１）講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。
（２）演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。
（３）実験及び特別研究については、４５時間の授業をもって１単位とする。
（履修方法）
第３条　専攻科の学生は、開設する授業科目のうち、選択科目の履修に当たっては、年度当初に、別紙第１号様式による選択科目受講届を所定の期日までに校長に提出しなければならない。
（定期試験）

（出典　平成24年度専攻科履修の手引き，p. 14）

資料５－５－①－12

「電子物性工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門PS展開選択	科目コード	85106	総授業時間数	25時間
科目名	電子物性工学	科目名(英語)	Solid State Electronics	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	生産システム工学専攻	学年	1年
開設期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	山本幸男	他 担当教員			
授業目標	半導体など各種電子材料やデバイスの分類と特性について理解する。さらにそれらが省資源やリサイクルといった地球環境保全にいかに配慮されて製造・応用されているかを十分に把握する。				
授業の概要と方法	現在利用されている主要な電子デバイスの概要について基礎的事項も適宜復習しながら講義する。学習内容に関連する課題のレポートを課すとともにプレゼンテーションの機会を設ける。その場でお互い討論しながら理解を深める。				
授業項目(1週目)	授業概要	授業内容(1週目)	シラバスの説明		
授業項目(2週目)	量子力学の基礎	授業内容(2週目)	量子の二重性、波動方程式、トンネル効果		
授業項目(3週目)	固体のエネルギーバンド	授業内容(3週目)	原子内の電子配置、自由電子モデル、結晶格子		
授業項目(4週目)	確認テスト①	授業内容(4週目)	確認テスト①		

学習・教育目標	環境生産システム工学プログラム： JB3(◎)
到達目標	(1) 電子材料を製造したりデバイスとして応用したりする際、省資源や再利用、および循環型社会といった事柄に十分配慮している現状を学習者が正しく理解できるようになること。 (2) 幅広い応用分野における電子工学的側面に興味を持ち、積極的に周囲にアピールできるようになること。
評価方法	A5：学習内容を勘案した課題に関するプレゼンテーションの状況およびその場での討論内容により評価する（８０点）。 C1：２回実施する確認テストの平均により評価する（２０点）。 以上２項目の合計を学年成績とする。ただし学年成績が合格点に満たない場合には、追加課題および再試験を実施した上で最終的に学年成績とする。
評価基準	到達目標と科目合格は６０点以上を合格とする。
関連科目	電子応用工学(機械系本科5年)、電子材料(電気系本科5年)、電子物性(電情系本科5年)、量子力学(専攻科共通2年)
オフィスアワー	各学科教室のホームページおよび掲示板に掲載

（出典　専攻科シラバス，p. 62）

資料５－５－①－13

「シラバス（連続体力学）」

履修					
学科等	専攻科専門共通選択B	科目コード	82009	総授業時間数	25時間
科目名	連続体力学	科目名(英語)	Continuum Mechanics	開講年度	2012
必修・選択		学科	専攻科共通	学年	2年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	藤田克志	他 担当教員	村中貴幸		
授業目標	固体力学、流体力学などそれぞれに体系化された各分野に共通する基礎法則を連続体力学という立場から取り上げる。つまり、固体の運動も液体・気体の運動も同じ数学、物理の考え方を道具に使って説明する。固体力学の範囲では変形の数学的な取り扱い方に加え、具体的な変形問題について演習を行い、構造設計の基本を理解することが目的である。流体力学の範囲では工学的な問題に加え「飛行機が空を飛ぶ理由」や「野球のピッチャーの投げたカーブがなぜ曲がるか」など、生活に身近な流れについても数式を使って説明出来るようにすることが目標である。これまでにあなたが学んだ「数学」と「物理」（および各科専門関連科目）を使って、固体や流体の基本的な流動について数式と物理現象がどのように結びついているのか解説・講義する。				
授業の概要と方法	授業は、講義形式で行う。講義は、教科書に沿いながら行う。教科書の例題や演習問題についてその都度解説を加える。演習や課題は、その都度問題を配布し、提出する必要があるときにはその都度指示する。				
授業項目(1週目)	授業概要、連続体とその変形	授業内容(1週目)	連続体、連続体の変形、運動の記述法		
授業項目(2週目)	弾性体の変形と応力	授業内容(2週目)	伸縮ひずみ、圧縮・膨張		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	ずれ、棒のねじれ、棒の曲げ		

到達目標	(1)フックの法則を使った基本的な問題が解けること。 (2)弾性体のエネルギー方程式の導出とこれに関連した簡単な問題が解けること。 (3)片持ち梁や両端支持梁の基本的な問題が解けること。 (4)圧力やベルヌーイの式に関連した基本的な問題が解けること。 (5)流体の基礎方程式を使った基本的な問題が解けること。 (6)ポテンシャル流れに関連する基本的な問題が解けること。 (7)ナビエ・ストークス方程式を利用した基本的な問題が解けること。
評価方法	固体力学の分野は、５週目（弾性テンソル）以降、小グループごとの調査とプレゼンを行う。成績はグループプレゼン４割、個人の発表、調査、チームへの貢献度２割、課題等の提出物４割で評価を行う。 流体力学の分野は、定期試験の成績（70%）、課題の提出物の評価（30%）で評価を行うが、追加課題を課して最大10点まで加点する場合がある。 流体力学の分野の評価と固体力学の分野の評価を平均し、６０%以上を獲得した場合に合格とする。
評価基準	学年成績60点以上
関連科目	応用数学または解析Ⅲ（全学科）、材料力学Ⅱ、流れ学Ⅱ(機械系)、機械工学概論(電気、電情系)、化学工学Ⅱ(物質系)、構造力学、水理学Ⅱ(環境都市系)

（出典　専攻科シラバス，p. 41）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程においては，準学士課程における専門技術の基礎の上に，専門技術の応用と幅広い工学的素養を学ぶことができるように授業科目が設定されており，準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の目的は，「高等専門学校等における教育の基礎の上に，清深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し，その研究を指導すること」であり，その目的を実現するために，５つの教育目標を掲げている（資料５－５－②－１）。

専攻科課程の授業科目は，一般科目，専門共通科目，専門展開科目に分類される（資料５－５－②－２～４）。また，各科目は学習・教育目標の各項目を充足するよう配慮され設計されている（資料５－５－②－５～10）。一般科目，専門共通科目，専門展開科目には必修科目と選択科目が用意されており，選択科目の履修については，授業科目履修規程に定める方法に則っている（資料５－５－②－11）。

資料５－５－②－１

「専攻科の学習・教育目標」

＜専攻科の学習・教育目標＞

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。

2 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。

3 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。

2 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。

3 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

JC　技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

1 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識な

（出典　平成24年度学生便覧）

資料５－５－②－２

「専攻科授業科目表」

平成２４年度開講科目・各専攻共通
専門共通科目

区分		授業科目	単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
専門共通科目	必修	技術者倫理	2	2		
		創造デザイン演習	1	1		
		デザイン工学	2	2		
		先端材料工学	2		2	
		環境工学	2	2		
		地球環境	2		2	
		経営工学	2		2	インターンシップは
		インターンシップ	2	2		原則研修日 20 日以上
	選択必	ものづくり情報工学	2		2	２単位以上修得のこと
		画像情報処理	2		2	
		連続体力学	2		2	４単位以上修得のこと
		量子力学	2		2	
		地球物理	2		2	

（出典　度専攻科シラバス，p. 30）

資料５－５－②－３

「専攻科授業科目表」

平成２４年度開講科目・生産システム工学専攻
専門展開科目

区分		授業科目	単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
専門展開	必修	生産システム工学実験Ⅰ	2	2		
		生産システム工学実験Ⅱ	2	2		
		生産システム工学演習Ⅰ	1	1		
		生産システム工学演習Ⅱ	2	2		
		生産システム工学特別研究	１４	6	8	
	選	設計生産工学	2		2	
		生産材料工学	2	2		
		エネルギー変換工学	2	2		
		人間－機械システム	2		2	
		計測・制御工学	2	2		
		電子物性工学	2	2		

（出典　専攻科シラバス，p. 48）

資料５－５－②－４

「専攻科授業科目表」

平成２４年度開講科目・環境システム工学専攻
専門展開科目

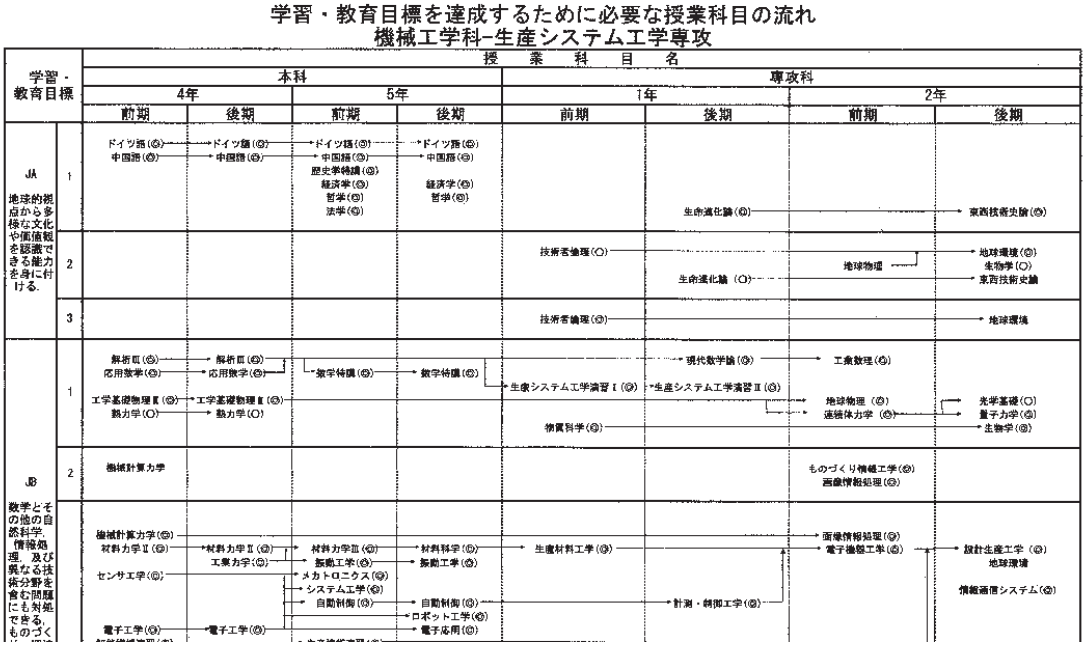
区分		授業科目	単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
専門展開科	必修	環境システム工学実験Ⅰ	2	2		
		環境システム工学実験Ⅱ	2	2		
		環境システム工学演習Ⅰ	1	1		
		環境システム工学演習Ⅱ	2	2		
		環境システム工学特別研究	14	6	8	
	選択	有機反応化学	2		2	
		生物化学工学	2	2		
		触媒化学	2		2	
		材料化学	2		2	
		動的構造デザイン	2	2		
		化学プロセス工学	2	2		
		応用微生物工学	2		2	

（出典　専攻科シラバス，p. 69）

資料５－５－②－５

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

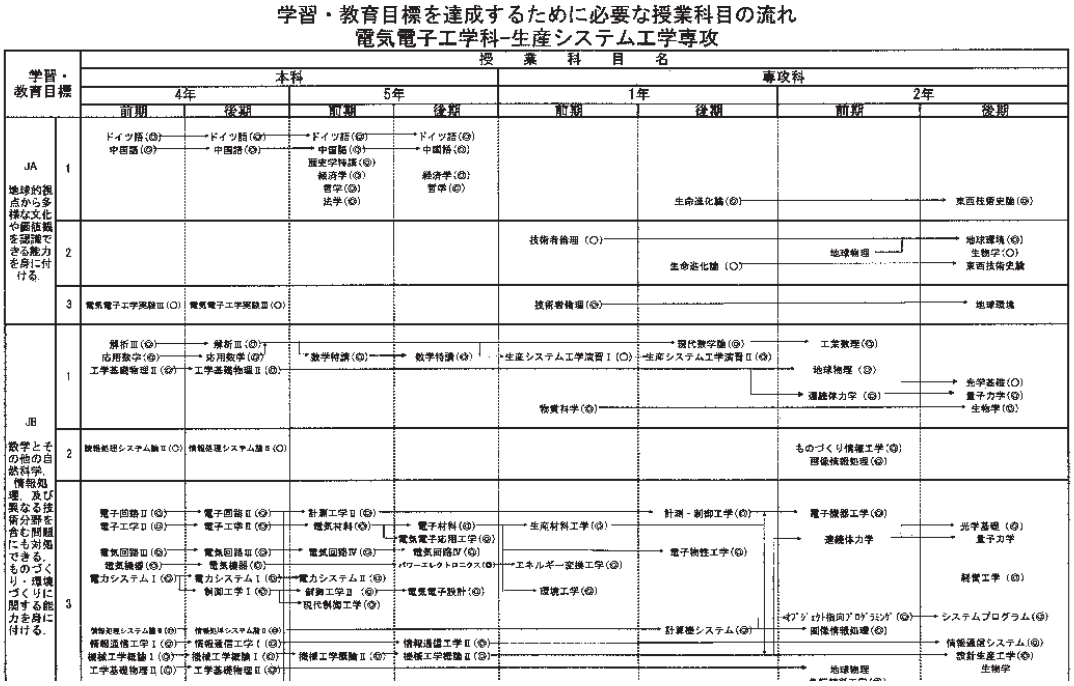
13. 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ



（出典　専攻科シラバス，p. 19）

資料５－５－②－６

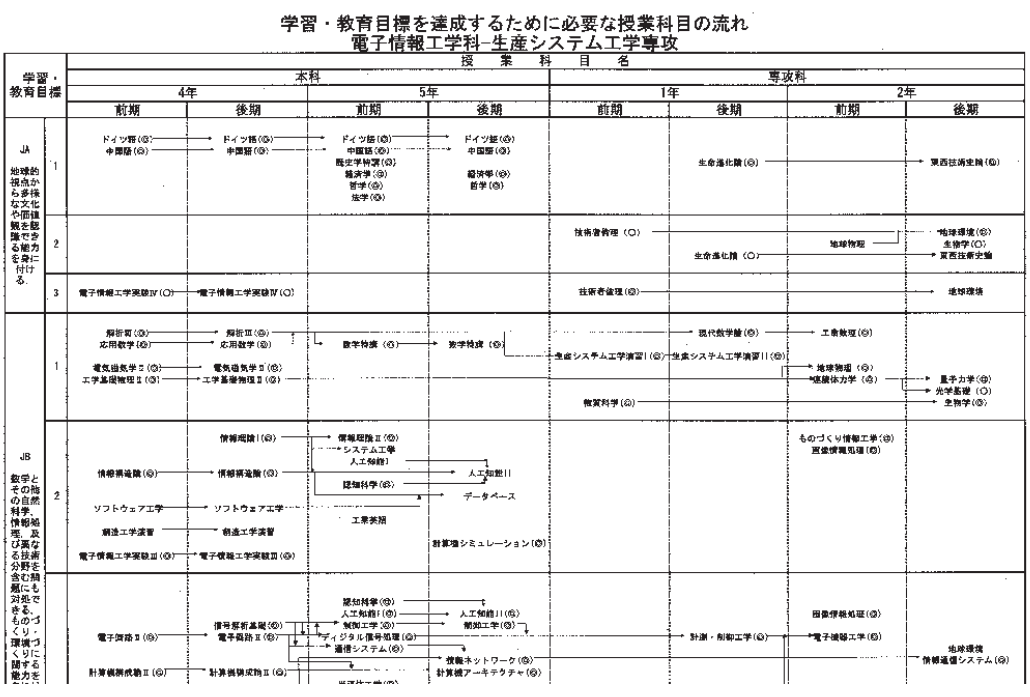
「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」



（出典　専攻科シラバス，p. 20）

資料５－５－②－７

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

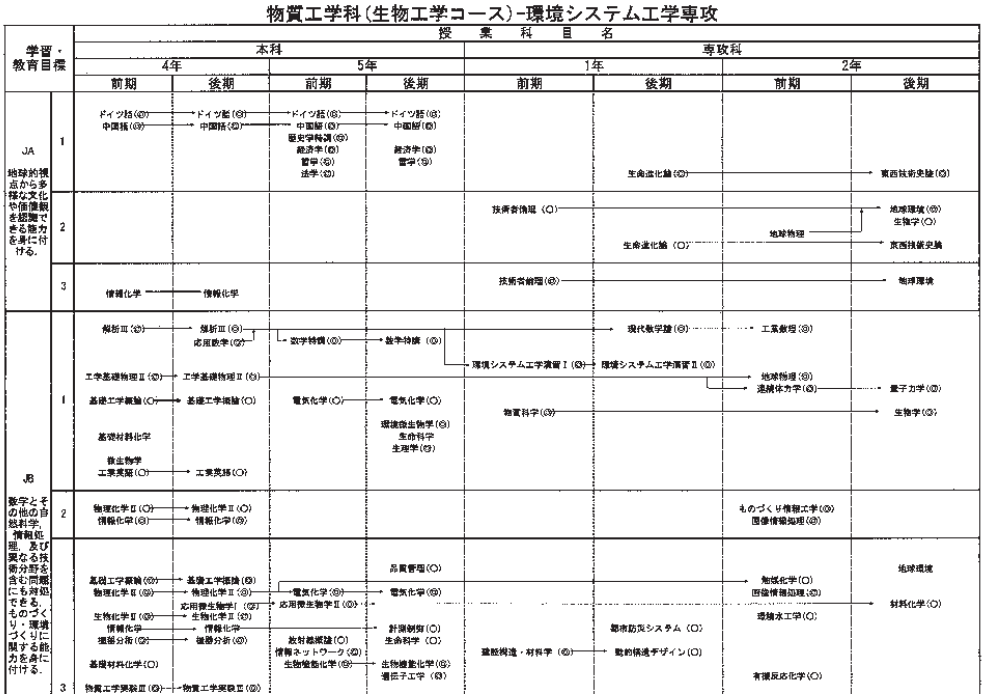


（出典　専攻科シラバス，p. 21）

資料５－５－②－８

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
物質工学科(生物工学コース)-環境システム工学専攻

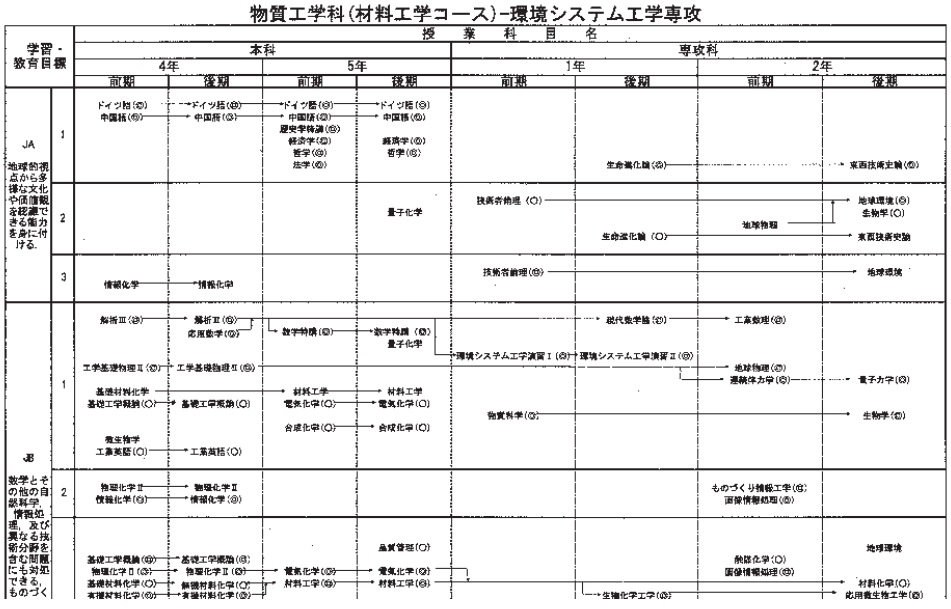


（出典　専攻科シラバス，p. 22）

資料５－５－②－９

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
物質工学科(材料工学コース)-環境システム工学専攻

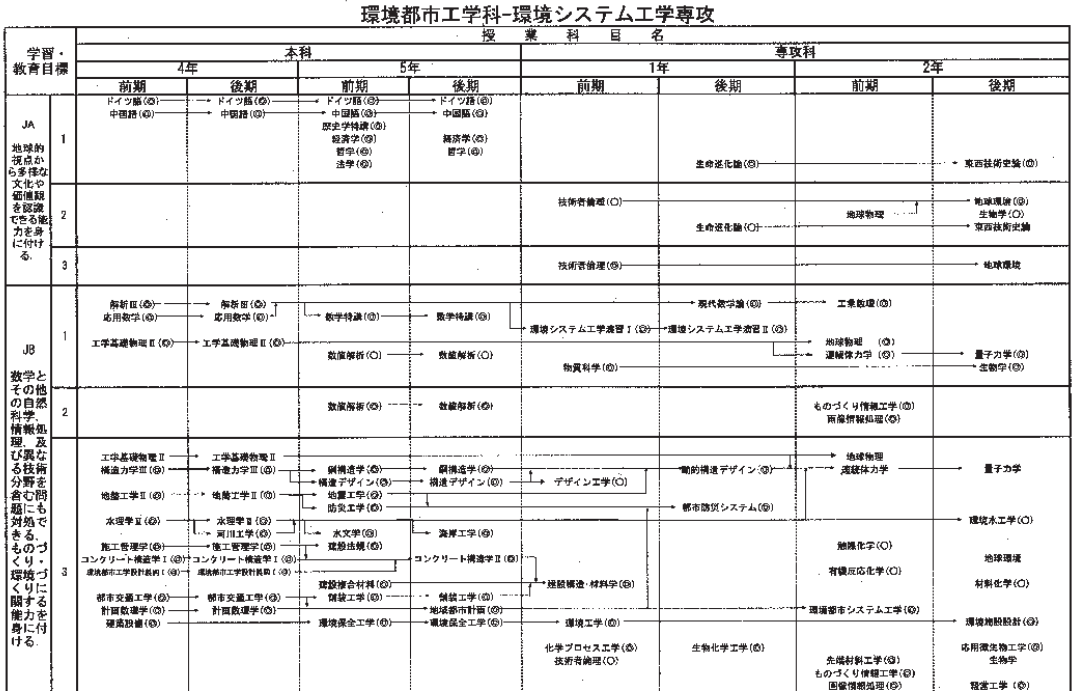


（出典　専攻科シラバス，p. 23）

資料５－５－②－10

「各学科における学科・専攻科授業科目の関連図」

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ
環境都市工学科-環境システム工学専攻



（出典　専攻科シラバス，p. 24）

資料５－５－②－11

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」

福井工業高等専門学校専攻科の
授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第36条第２項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（授業）

第２条　１単位時間は、50分を標準とする。

２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準によ

（出典　平成24年度学生便覧，p. 106）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程に編成については，基本理念，教育方針，教育目標及び専攻ごとの教育の目的に照らして，一般科目，専門共通科目，専門展開科目が適切に配置され，教育課程の体系性が確保されている。また，授業の内容が，全体として教育課程に編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

教育課程の編成方針において，自分の専攻科研究に必要な科目を専門展開科目から履修できるようにしている。これは，自動的に学生の多様なニーズに対応した教育課程になっている（資料５－５－③－１）。さらに，学生の多様なニーズに対応するため，他大学等における修得単位認定に関する規程を定め，大学等において修得した単位を本校において修得したものとして認定している。（資料５－５－③－２）。

専攻科1年生では全員参加のインターンシップ（資料５－５－③－３）を実施しており，実社会における技術者の業務を体験させ，コミュニケーション能力を含め社会からの要請に柔軟に対応できる能力を養成している。インターンシップ報告会（資料５－５－③－４）を経て単位として認定している。

専攻科の現代英語において，学生全員によるプレゼンテーション教育を導入している。これは学生が主体的に自らの研究分野からテーマを選択し，それを英語でプレゼンテーションするもので，外部講師２名（いずれもネイティヴスピーカー）を採用し，コンテスト形式で実施する。これにより国際的技術者に必要とされる英語読解及び伝達能力の養成が可能となる。また，eラーニングによる自習システム導入により，学生はTOEIC®の準備学習をオンラインでeラーニングにより学習でき，学生の主体的な英語学習が進んだ。さらに，TOEIC®の受験を奨励し，現代英語の到達目標を同試験の４００点程度に設定しており，講義内においても受験指導を実施している。（資料５－５－③－５～７）

専攻科の教育課程には，社会的な動向に伴う授業科目として技術者倫理，デザイン工学，環境工学，地球環境等が開講されている（資料５－５－③－８）。

資料５－５－③－１

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」

福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第36条第２項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（授業）

第２条　１単位時間は、50分を標準とする。

２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

（出典　平成24年度学生便覧，p. 106）

資料５－５－③－２

「特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則」

福井工業高等専門学校特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校学則第53条第４項の規定に基づき、大学（短期大学及び他の高等専門学校を含む。以下「大学等」という。間単位互換協定により大学等の授業科目を履修する者（以下「特別聴講派遣学生」という。）及び本校が開設する授業科目を履修する者（以下「特別聴講学生」という。）の取扱いに関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第２章　特別聴講派遣学生

（大学等への出願手続き）

第２条　特別聴講派遣学生を志願する者は、志願する大学等の入学願書を、専攻科長を経て校長に願い出なければならない。

（派遣の許可）

第３条　特別聴講派遣学生の派遣許可は校長が行う。

（派遣の期間）

第４条　特別聴講派遣学生の派遣期間は、１年以内とする。

（単位修得証明書）

（出典　平成24年度学学生便覧，p. 100）

資料５－５－③－３

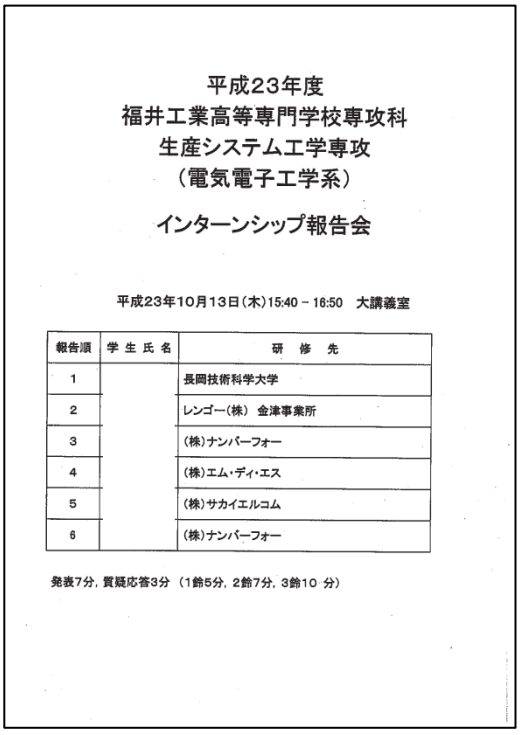
「インターンシップのシラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82901	総授業時間数	
科目名	インターンシップ	科目名(英語)	Internship	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	その他
担当教員	阿部孝弘	他 担当教員	特別研究指導教員		
授業目標	社会への関心をもつとともに、自己と社会の関係を考えるきっかけとしてもらう。そのため、企業、官公庁の研究所などの現場における就業体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観的評価を図り、将来の進路決定に役立てる。 また、ペーパーテストでは評価できない、情報発信型能力などの新たな能力の開拓、およびインターンシップを通じて知り合ったヒトとの情報ネットワークの構築することを目的とする。				
授業の概要と方法	約一ヶ月間の社会実習を行う。実習形態は企業現場に参加する方法と研究請負する方法とどちらでもよい。				
授業項目(1週目)	インターンシップ	授業内容(1週目)	各受入れ先において、予め設定されたテーマとスケジュールに従い、指導者の指示のもとに実習を行う。		
授業項目(2週目)		授業内容(2週目)	1．4～5月：インターンシップのガイダンスを受ける（インターンシップの流れ）		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	2．5～7月：担当教員と相談の上インターンシップ受け入れ先の決定とスケジュール調整を行う。		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	3．必要書類等を提出		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	4．7月：インターンシップのガイダンスを受ける（マナー研修など企業での注意点）		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	5．8～9月：インターンシップ（期間中指導教員が巡回する）		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	インターンシップ中は日誌を書き、受入れ先担当者にチェックしてもらう。		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	6．9月：帰校後、報告書の作成		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	7．10月：インターンシップ報告会を行い評価を受ける。		

（出典　専攻科シラバス，p. 38）

資料５－５－③－４

「平成23年度インターンシップ報告会」



平成23年度
福井工業高等専門学校専攻科
生産システム工学専攻
（電気電子工学系）

インターンシップ報告会

平成23年10月13日(木)15:40－16:50　大講義室

報告順	学生氏名	研修先
1		長岡技術科学大学
2		レンゴー(株) 金津事業所
3		(株)ナンバーフォー
4		(株)エム・ディ・エス
5		(株)サカイエルコム
6		(株)ナンバーフォー

発表7分，質疑応答3分（1飾5分，2飾7分，3飾10 分）

（出典　平成23年度インターンシップ報告集）

資料５－５－③－５

「現代英語シラバス」

履修					
学科等	専攻科一般科目必修	科目コード	81011	総授業時間数	50時間
科目名	現代英語	科目名(英語)	Current English	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	原口治	他担当教員			
授業目標	国際社会で活躍する技術者に必要とされる，英語コミュニケーション基礎能力の習得を目標とする．				
授業の概要と方法	講義内容の主要骨子は次の(1)から(6)，いずれも紙媒体によるテクストを主に使用．(1)テクニカルターム習得演習(工業英検受験対策，音声教材併用)．(2)リーディングスキルの習得(プレゼンテーション用テクニカルイングリッシュ精読によるTOEIC®や工業英検の受験対策)．(3)グラマースキル習得 演習による，各種検定試験(TOEIC®や実用英検)受験対策．(4)リスニングスキルとプレゼンテーションスキルの習得によるTOEIC®受験対策，音声教材併用．(5) eラーニング利用による自主学習 (6)各種課題．				
授業項目(1週目)	Unit 1, Lesson 1.	授業内容(1週目)	プレゼンテーション用テクニカルイングリッシュ精読(リーディングスキル習得)，各種演習(テクニカルターム及びグラマー，リスニング，発話の各スキル習得)．		
授業項目(2週目)	Unit 2, Lesson 1.	授業内容(2週目)	プレゼンテーション用テクニカルイングリッシュ精読(リーディングスキル習得)，各種演習(テクニカルターム及びグラマー，リスニング，発話の各スキル習得)，課題として，英語プレゼンテーションテーマ提出．		
授業項目(3週目)	Unit 3, Lesson 2.	授業内容(3週目)	プレゼンテーション用テクニカルイングリッシュ精読(リーディングスキル習得)，各種演習(テクニカルターム及びグラマー，リスニング，発話の各スキル習得)．		
			プレゼンテーション用テクニカルイングリッシュ精読		

（出典　専攻科シラバス，p. 26）

資料５－５－③－６

「英語プレゼンテーション・プログラム（現代英語）」

平成23年度現代英語研究発表(英語プレゼンテーション)会　プログラム
2012(平成24)年01月27日金曜日13:20～16:10
eラーニング室

●開会宣言　　１３：２０　～　１３：２５

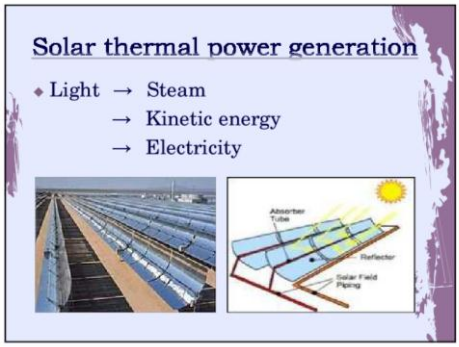
●プレゼンテーション　タイムスケジュール

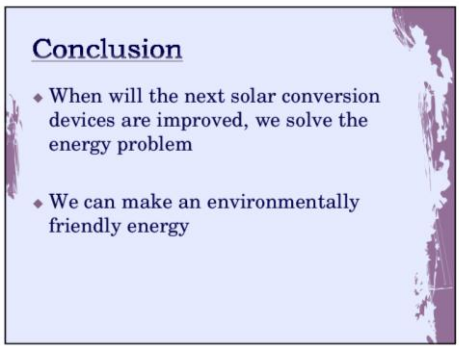
番号	氏名	ふりがな	性別	時間
1	[redacted]		男	１３：３０　～　１３：３５
2			男	１３：３５　～　１３：４０
3			男	１３：４０　～　１３：４５
4			男	１３：４５　～　１３：５０
5			男	１３：５０　～　１３：５５
6			男	１３：５５　～　１４：００
7			男	１４：００　～　１４：０５
8			男	１４：０５　～　１４：１０
9			男	１４：１０　～　１４：１５
休憩				１４：１５　～　１４：２５
10	[redacted]		男	１４：２５　～　１４：３０
11			男	１４：３０　～　１４：３５
12			男	１４：３５　～　１４：４０
13			男	１４：４０　～　１４：４５
14			男	１４：４５　～　１４：５０
15			男	１４：５０　～　１４：５５
16			男	１４：５５　～　１５：００

（出典　現代英語 成績資料）

資料５－５－③－７

「プレゼンテーション資料（現代英語）」





生産システム専攻　1番 [redacted]

～　solar energy　～
・Hello .I'm [redacted]. Are you interested in energy?
・Due to the accident of Tokyo Electric Power Company,
other energy alternated to nuclear energy is focused in Japan now.
・One of energy is solar energy,
so I'll explain what is solar energy
and how we do to extract energy from solar energy today.
・Solar energy is clean, and can reduce carbon dioxide.
・Amount of solar energy in the earth for 40 minutes equals global energy consumption for one year,
and we can solve the energy problem if we can use the most of its energy.
・The use of solar energy has two forms: solar heat and sunlight.
・They convert solar energy into a simple to use energy through conversion devices.
・If　the sunlight was used, the conversion device converts electrical energy directly
from sunlight.
・If　we use a solar thermal, the conversion device converts solar energy into thermal energy as
steam.
・With it, it is converted into kinetic energy, and finally we obtaine electrical energy.
・When the solar conversion devices are improved, we solve the energy problem.
・In other words,　We can make an environmentally friendly energy.

（日本語訳）
こんにちは。[redacted]です。エネルギーに興味はありますか？
現在、日本では東京電力の事故のおかげで、原子力に代わる別のエネルギーに注目されています
そのうちの一つは太陽エネルギーであり、太陽エネルギーとは何なのか、どうやって太陽エネルギーからエネルギーを取り出しているのか説明します。太陽エネルギーはクリーンで、二酸化炭素を減らすことができます。40 分間、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの合計は、世界中で一年間消費されるエネルギーと等しく、我々はそのエネルギーを最大限に利用することができれば、エネルギー問題を解決することができます。太陽エネルギーの使用形態には太陽光と太陽熱がある。それらの形態は変換装置を通して太陽エネルギーを使用しやすいエネルギーに変換される。使用形態が太陽光の場合、変換装置は太陽光から電気エネルギーに直接変換する。太陽の熱を使用する場合、変換装置は蒸気として太陽エネルギーを熱エネルギーに変換する。それをつかって、それが運動エネルギーに変換され、最終的に我々は、電気エネルギーを得ています。太陽光変換装置が改良されるとき、我々はエネルギー問題を解決できる。言いかえれば我々は環境に優しいエネルギーを作ることができます。

（出典　現代英語 成績資料）

資料５－５－③－８

「専攻科授業科目表」

平成24年度入学生教育課程表

各専攻共通

区分		授業科目	単位数	学年別配当		備考
				1年	2年	
一般科目	必修	現代英語	2	2		
	選択	生命進化論	2	2		
		東西技術史論	2		2	
		一般科目開設単位数計	6	4	2	
		一般科目修得単位数	4以上			
	必修	技術者倫理	2	2		
		創造デザイン演習	1	1		
		デザイン工学	2	2		
		先端材料工学	2		2	
		環境工学	2	2		
		地球環境	2		2	
		経営工学	2		2	
		インターンシップ	2	2		インターンシップは原則研修日20日以上

（出典 専攻科シラバス，　p. 7）

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程を編成するために，他高等教育機関との単位互換に関する規則の制定，インターンシップによる単位認定，社会的な動向に伴う授業科目（技術者倫理，環境工学，地球環境等）が開講され，様々な配慮がなされている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

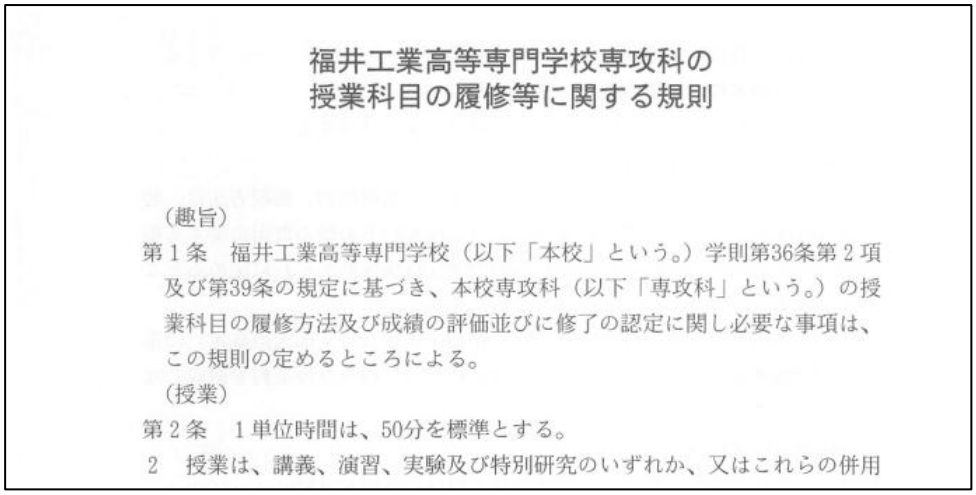
（観点に係る状況）

開講科目84単位に対する講義，演習，実験・実習等の授業形態の割合については，必修科目と定めている演習，実験・実習（研究）が24単位で約29%，講義が60単位で約71%となっている。修了要件を考慮した授業形態のバランスは，演習，実験・実習等が約35%，講義が約65%となり，適切なバランスとなっている。

本校専攻科では，これからの多様化した社会で活躍できる実践的な技術者を養成するために，専門共通科目を多く配し，さらに他専攻の科目を修得できるなど，複数の技術分野にまたがる学習ができるようになっている（資料５－６－①－１）。優れた実践力と豊かな創造性を備えた技術者を育成する目的で，エンジニアリング・デザイン能力育成のための授業である「創造デザイン演習」や「デザイン工学」を実施している（資料５－６－①－２，３）。専攻科では，本科５年生の学生と共に少人数教育で特別研究の指導をしている。特別研究は本校教育目標の全てを包括する総合的科目と位置付けている（資料５－６－①－４）。特別研究では，学外研究発表や論文投稿も多く，教育の目的を達成するために適切な教養教育と研究指導が行われている。それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の改善や情報共有のために，授業アンケート（資料５－６－①－５）などを実施している。

資料５－６－①－１

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」



福井工業高等専門学校専攻科の
授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）
第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第36条第２項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。
（授業）
第２条　１単位時間は、50分を標準とする。
２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用

（出典　平成24年度学生便覧，p.106）

資料５－６－①－２

「創造デザイン演習シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82202	総授業時間数	25時間
科目名	創造デザイン演習	科目名(英語)	Exercise in creative design	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
担当教員	阿部孝弘	他 担当教員	亀山、丸山、下條、加藤、田安		
授業目標	現代社会が抱える必ずしも正解のない諸問題について認識し，工学的分野からのアプローチを通じて，①自ら問題点を発見しようとする意識を持ち，②課題について多様な観点から創造性を発揮して検討考察し、解決策を提案し，③グループでの協議および共同作業を通して解決法を見出すために，④他者の意見に耳を傾け、的確に理解したうえで、問題点を指摘する。⑤期限までに妥当な結果を導き，その結果を試作品やポスターによって表し，他者に対してわかりやすくプレゼンテーションが出来る。このような課程をとおして現代社会において技術者として必要なエンジニアリング・デザイン能力の重要性を認識するとともに，その基礎能力を身につける.				
授業の概要と方法	期間を３つに分ける. 最初の５週：個人ごとに現代社会の問題点を調査し，５週目に発表する. 中間の５週：発表されたテーマの中から，興味あるテーマを見つけ，出身学科の異なる３名から５名のグループで調査検討を行い解決策を検討する．グループの数は6する．また，テーマの選別の際は出身学科に特化するような内容とならないテーマとする. １０週目にグループごとに中間発表を行い，他のグループからの意見を求める. 最後までの４週：解決策を検討し最後の週に最終的な解決案（試作品を含む）を発表する.				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明，現代社会の諸問題の提示		
授業項目(2週目)	現代社会の諸問題の調査	授業内容(2週目)	個人ごとの調査内容の申告		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	調査		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	調査		
授業項目(5週目)	個人の調査発表	授業内容(5週目)	個人ごとの調査内容の発表,		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	グループ決定		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(10週目)	グループとしての中間発表	授業内容(10週目)	グループごとの問題認識と解決策のプレゼンテーションと質疑応答		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		

（出典　専攻科シラバス，p. 32）

資料５－６－①－３

「デザイン工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通選択A	科目コード	82006	総授業時間数	25時間
科目名	デザイン工学	科目名(英語)	Engineering design	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	藤田克志	他 担当教員	江本晃美、高屋敏行		
授業目標	本科目は、技術者(エンジニア)として求められるものづくりに関するデザイン能力を身につけるために、融合複合型の「環境生産システム工学」教育プログラムとして機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学工学、土木工学、環境工学といった複数の分野に跨ったもの・環境・システムのデザインについて学び、新しい課題・分野に挑戦するために必要とされる創造的なデザイン力に関する知識と能力を修得することを目的としている。このため、心理的・対人間的側面等までも含めて、まず統合した視点と思考を持つことを目指している。				
授業の概要と方法	身近なツールや製品を例に、デザインを構成する基礎的な要素や知識を、講義形式で学びながら、課題を通して、機能・形態・経済性等の多面的な視点からの既成のデザインへの理解と検証を行い、実践的なデザイン提案に取り組む。				
授業項目(1週目)	授業概要、デザインとは	授業内容(1週目)	シラバスの説明、ガイダンス、意匠と図案の意味から		
授業項目(2週目)	デザイン工学の基礎	授業内容(2週目)	デザインの重要性・デザインプロセス		
授業項目(3週目)	デザイン工学の基礎	授業内容(3週目)	機能・形・質感・効果・色等		
授業項目(4週目)	プレゼン１、基礎の補足	授業内容(4週目)	プレゼン、形態と表現		
授業項目(5週目)	身近なデザイン	授業内容(5週目)	インダストリアルデザインとは、身近なデザイン例		
授業項目(6週目)	現在のデザインを取り巻く状況	授業内容(6週目)	インダストリアルデザインと川崎和男氏		
授業項目(7週目)	プレゼン２、現在のデザインを取り巻く状況の補足	授業内容(7週目)	プレゼン２、現在のデザインの傾向		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)			
授業項目(9週目)	ユニバーサルデザイン(1)	授業内容(9週目)	デザインは誰のために１		
授業項目(10週目)	ユニバーサルデザイン(2)	授業内容(10週目)	デザインは誰のために２		
授業項目(11週目)	デザインコンペ提案課題	授業内容(11週目)	デザインコンペ提案課題の説明・グループ分け・リサーチ		
授業項目(12週目)	プレゼン３	授業内容(12週目)	機能・形態・オリジナリティ、プレゼンテーション		
授業項目(13週目)	デザイン提案のまとめ	授業内容(13週目)	KJ法を用いたディスカッション		
授業項目(14週目)	デザイン提案のまとめ	授業内容(14週目)	KJ法を用いたディスカッション		
授業項目(15週目)	プレゼン４（デザインコンペ）	授業内容(15週目)	プレゼン４（デザインコンペ）、作品提出		

（出典　専攻科シラバス，p. 33）

資料５－６－①－４

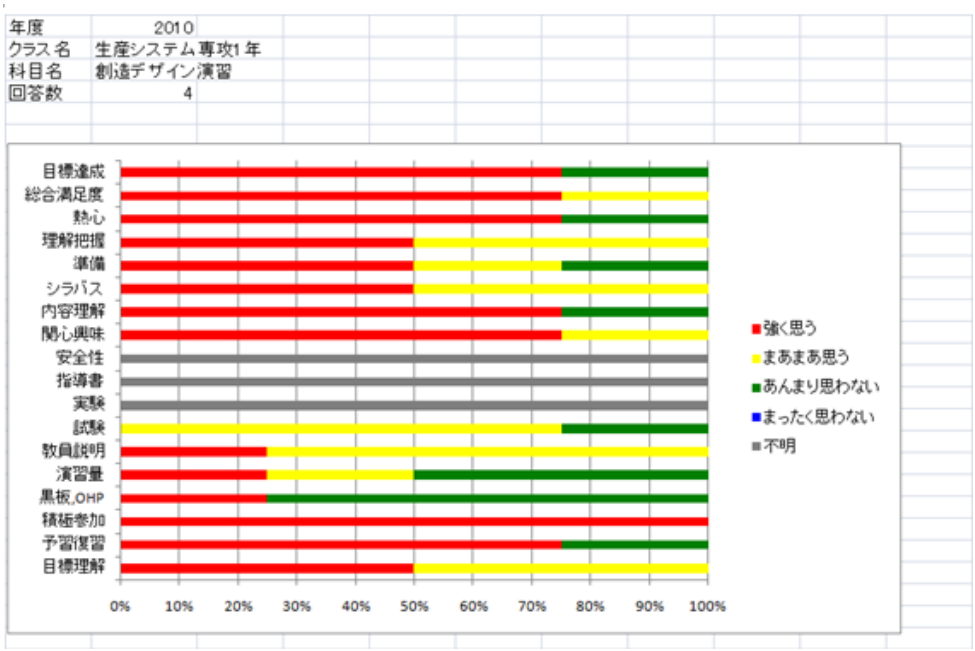
「生産システム工学特別研究シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門PS展開必修	科目コード	85022	総授業時間数	300時間
科目名	生産ｼｽﾃﾑ工学特別研究	科目名(英語)	Special studies of production system engineering	開講年度	2012
必修･選択	必修	学科	生産システム工学専攻	学年	2年
開設期	通年	単位	8単位	授業形態	研究
担当教員	阿部孝弘	他 担当教員	各特別研究指導教員		
授業目標	指導教員のもとで、出身学科に関する研究テーマについて、文献調査、実験、理論解析、数値解析、データ整理を行いそれらを考察してテーマに関する新しい知見を得ることに努める。また、得られた結果を論文にまとめるとともに、口頭発表を行う能力を養成する。				
授業の概要と方法	一人一テーマを原則として指導教員の助言のもとでテーマに関する文献調査、実験、理論解析、数値解析、データ整理を行い、成果を論文にまとめるとともに2年年度末に研究発表を行う。				
授業項目(1週目)		授業内容(1週目)	平成23年度修了生の研究テーマ		
授業項目(2週目)	1年次(6単位)　4月　特別研究配属	授業内容(2週目)			
授業項目(3週目)	ガイダンス(評価方法等の説明)	授業内容(3週目)	機械工学系の研究テーマ		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	・ＨＰＴ加工した極低炭素鋼の摩耗特性と金属同士の凝着力測定の試み		
授業項目(5週目)	2年次（8単位）　4月　特別研究中間発表会	授業内容(5週目)	・工業用純チタンの耐焼付きプレス法の開発		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	・斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	・粘弾性流体のダクト内流れの３次元数値シミュレーション		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)			
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	電気電子工学系の研究テーマ		

（出典　専攻科シラバス，p. 55）

資料５－６－①－５

「授業アンケートの回答ページ及び結果・分析　例」



（出典　平成22年度授業アンケート結果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

各専攻においては，講義の授業形態を採る科目がほとんどを占めており，次いで実験，演習の順に科目が開設されているなど，教育の目的に照らして，講義，演習，実験等の授業形態のバランスは適切である。また，「創造デザイン演習」などの少人数授業や対話・討論型授業や「ものづくり

情報工学」などの情報機器を活用した授業など，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

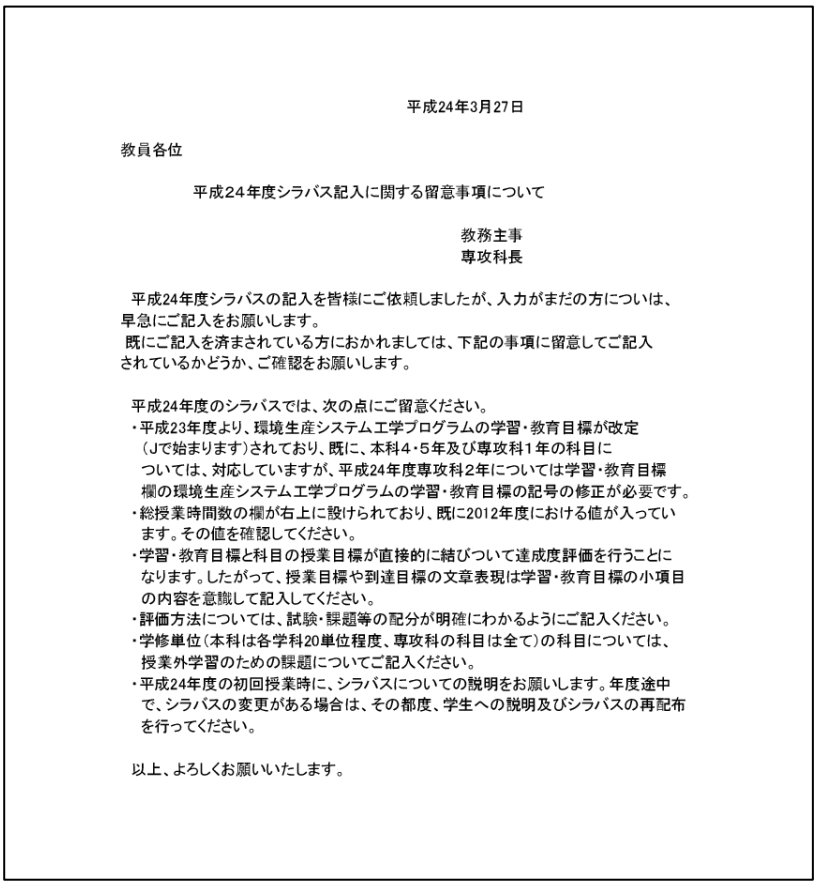
観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，教育課程に編成の趣旨に沿って，授業目標，授業の概要と方法，授業内容，教科書，参考書，学習・教育目標，到達目標，評価方法，関連科目の明示など内容が適切に整備されたものが，専攻科長からのシラバスの作成依頼（資料５－６－②－１）に従って担当教員が作成する（資料５－６－②－２）。授業の開始時には担当教員が科目のガイダンスを実施しているが，印刷したシラバスを配布し，授業内容や成績評価方法について説明している。授業内容等が変更になった場合は，学生に対して修正したシラバスの再配布及び説明を行っている。学生は，授業の進捗や評価方法を参照し受講に役立てると共に，自己評価のために用いている。授業アンケートの結果から，ほとんどの科目においてシラバスに従って授業を進めている（資料５－６－②－３）。

資料５－６－②－１

「シラバスの作成依頼メール」



平成24年3月27日

教員各位

平成24年度シラバス記入に関する留意事項について

教務主事
専攻科長

平成24年度シラバスの記入を皆様にご依頼しましたが、入力がまだの方については、早急にご記入をお願いします。
既にご記入を済まされている方におかれましては、下記の事項に留意してご記入されているかどうか、ご確認をお願いします。

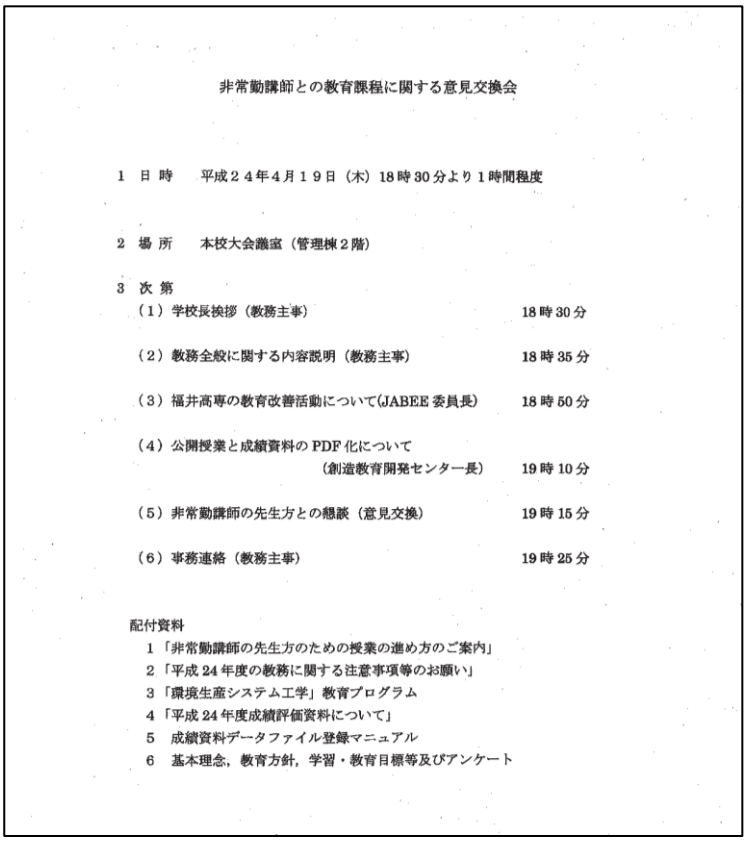
平成24年度のシラバスでは、次の点にご留意ください。
・平成23年度より、環境生産システム工学プログラムの学習・教育目標が改定（Jで始まります）されており、既に、本科4・5年及び専攻科1年の科目については、対応していますが、平成24年度専攻科2年については学習・教育目標欄の環境生産システム工学プログラムの学習・教育目標の記号の修正が必要です。
・総授業時間数の欄が右上に設けられており、既に2012年度における値が入っています。その値を確認してください。
・学習・教育目標と科目の授業目標が直接的に結びついて達成度評価を行うことになります。したがって、授業目標や到達目標の文章表現は学習・教育目標の小項目の内容を意識して記入してください。
・評価方法については、試験・課題等の配分が明確にわかるようにご記入ください。
・学修単位（本科は各学科20単位程度、専攻科の科目は全て）の科目については、授業外学習のための課題についてご記入ください。
・平成24年度の初回授業時に、シラバスについての説明をお願いします。年度途中で、シラバスの変更がある場合は、その都度、学生への説明及びシラバスの再配布を行ってください。

以上、よろしくお願いいたします。

（出典 学内メール）

資料５－６－②－２

「非常勤講師との懇談会資料」



非常勤講師との教育課程に関する意見交換会

1 日 時　平成２４年４月１９日（木）18時30分より１時間程度

2 場 所　本校大会議室（管理棟２階）

3 次 第

（1）学校長挨拶（教務主事）　18時30分

（2）教務全般に関する内容説明（教務主事）　18時35分

（3）福井高専の教育改善活動について(JABEE 委員長)　18時50分

（4）公開授業と成績資料の PDF 化について
（創造教育開発センター長）　19時10分

（5）非常勤講師の先生方との懇談（意見交換）　19時15分

（6）事務連絡（教務主事）　19時25分

配付資料
1「非常勤講師の先生方のための授業の進め方のご案内」
2「平成 24 年度の教務に関する注意事項等のお願い」
3「環境生産システム工学」教育プログラム
4「平成 24 年度成績評価資料について」
5　成績資料データファイル登録マニュアル
6　基本理念，教育方針，学習・教育目標等及びアンケート

（出典 非常勤講師との懇談会資料）

資料５－６－②－３

「授業アンケート結果（抜粋）」

2010 年度のまとめ

各項目に関する得点平均(8 実験、9 指導書、10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%

（出典 平成22年度授業アンケート結果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスは，教育課程の編成の趣旨に沿って，事前に行う準備学習，授業目標，授業の概要と方法，授業内容，到達目標，関連科目，評価方法など内容が適切に整備されたものが作成され，授業初日に行われる授業内容の説明や学生の事前学習などの際に活用されている。また，シラバスをウェブサイトに掲載し，学生がいつでも閲覧できるように整備されている。以上により，学生が受講計画を立てる上で必要な情報がシラバスとして作成され，適切に活用されている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

必修科目としてインターンシップを設けている（資料５－６－③－１）。主に夏期休業中に実施されているが，産業の現場における就労体験を通して，学習した専門知識の創造的な活用方法について主体的に体験する場として活用されている。昨年度は，高専機構主催第４回「海外インターンシップ・プログラム」へも１名が参加するなど，様々な機会を生かして積極的に海外経験を積んでいる（資料５－６－③－２，３）。

専攻科教育プログラムでは，創造性を育むために「創造デザイン演習」「ものづくり情報工学」を専門共通の必修科目としている。また，専門共通科目の選択科目として「デザイン工学」を開講している。「創造デザイン演習」では，数人のグループに分かれて与えられたテーマの解決方法を討論や実験を通して，自ら問題解決する意識作り・多様な視点での検討考察を行う演習を行っている（資料５－６－③－４）。「ものづくり情報工学」では情報技術をベースとしてものづくり・環境づくり・融合・複合分野で活躍できる学生の育成を目指した開発型実践技術者の育成を目指した講義を，グループ討議や情報機器を用いたシミュレーションなど行いながら，複数の教員により実施している（資料５－６－③－５）。「デザイン工学」では，個人での課題及び他専攻で構成されるグループでの課題があり，学生同士のピアレビューを行っている（資料５－６－③－６）。

資料５－６－③－１

「特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則」

福井工業高等専門学校特別聴講派遣学生及び特別聴講学生規則

第１章　総則

（趣旨）

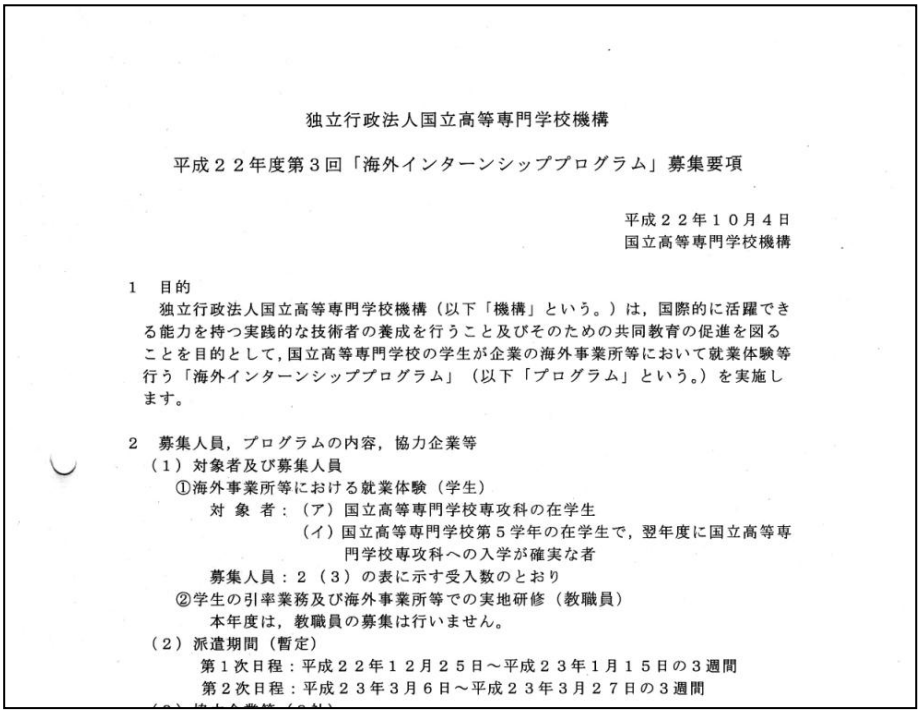
第１条　福井工業高等専門学校学則第53条第４項の規定に基づき、大学（短期大学及び他の高等専門学校を含む。以下「大学等」という。間単位互換協定により大学等の授業科目を履修する者（以下「特別聴講派遣学生」という。）及び本校が開設する授業科目を履修する者（以下「特別聴講学生」という。）の取扱いに関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第２章　特別聴講派遣学生

（出典　平成24年度学学生便覧，p. 100）

資料５－６－③－２

「海外インターンシップ・プログラム募集要項（抜粋）」



独立行政法人国立高等専門学校機構

平成２２年度第３回「海外インターンシッププログラム」募集要項

平成２２年１０月４日
国立高等専門学校機構

１　目的
独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）は，国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者の養成を行うこと及びそのための共同教育の促進を図ることを目的として，国立高等専門学校の学生が企業の海外事業所等において就業体験等行う「海外インターンシッププログラム」（以下「プログラム」という。）を実施します。

２　募集人員，プログラムの内容，協力企業等
（１）対象者及び募集人員
①海外事業所等における就業体験（学生）
対 象 者：（ア）国立高等専門学校専攻科の在学生
（イ）国立高等専門学校第５学年の在学生で，翌年度に国立高等専門学校専攻科への入学が確実な者
募集人員：２（３）の表に示す受入数のとおり
②学生の引率業務及び海外事業所等での実地研修（教職員）
本年度は，教職員の募集は行いません。
（２）派遣期間（暫定）
第１次日程：平成２２年１２月２５日～平成２３年１月１５日の３週間
第２次日程：平成２３年３月６日～平成２３年３月２７日の３週間

（出典　国立高等専門学校機構）

資料５－６－③－３

「海外インターンシップ報告」

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=374）

資料５－６－③－４

「創造デザイン演習シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82202	総授業時間数	25時間
科目名	創造デザイン演習	科目名(英語)	Exercise in creative design	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
担当教員	阿部孝弘	他 担当教員	亀山、丸山、下條、加藤、田安		
授業目標	現代社会が抱える必ずしも正解のない諸問題について認識し，工学的分野からのアプローチを通じて，①自ら問題点を発見しようとする意識を持ち，②課題について多様な観点から創造性を発揮して検討考察し、解決策を提案し，③グループでの協議および共同作業を通して解決法を見出すために，④他者の意見に耳を傾け、的確に理解したうえで、問題点を指摘する。⑤期限までに妥当な結果を導き，その結果を試作品やポスターによって表し，他者に対してわかりやすくプレゼンテーションが出来る。このような課程をとおして現代社会において技術者として必要なエンジニアリング・デザイン能力の重要性を認識するとともに，その基礎能力を身につける．				
授業の概要と方法	期間を３つに分ける． 最初の５週：個人ごとに現代社会の問題点を調査し，５週目に発表する． 中間の５週：発表されたテーマの中から，興味あるテーマを見つけ，出身学科の異なる３名から５名のグループで調査検討を行い解決策を検討する．グループの数は６する．また，テーマの選別の際は出身学科に特化するような内容とならないテーマとする． １０週目にグループごとに中間発表を行い，他のグループからの意見を求める． 最後までの４週：解決策を検討し最後の週に最終的な解決案（試作品を含む）を発表する．				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明，現代社会の諸問題の提示		
授業項目(2週目)	現代社会の諸問題の調査	授業内容(2週目)	個人ごとの調査内容の申告		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	調査		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	調査		
授業項目(5週目)	個人の調査発表	授業内容(5週目)	個人ごとの調査内容の発表，		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	グループ決定		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(10週目)	グループとしての中間発表	授業内容(10週目)	グループごとの問題認識と解決策のプレゼンテーションと質疑応答		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(13週目)		授業内容(13週目)	グループごとに解決策の検討とプレゼンテーション準備		
授業項目(14週目)	グループとしての最終成果発	授業内容(14週目)	グループごとの問題認識と解決策の最終プレゼンテーション		

（出典　専攻科シラバス，p. 32）

資料５－６－③－５

「ものづくり情報工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82204	総授業時間数	25時間
科目名	ものづくり情報工学	科目名(英語)	Information engineering for creativity	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	2年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	青山義弘	他 担当教員	亀山、石栗、薗田、吉村、辻野、川岸(非)		
授業目標	本科目は融合複合型の「環境生産システム工学」教育プログラムの専門工学の中の「数学とその他の自然科学，情報処理，および異なる技術分野を含む問題にも対処できる，ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける」分野における「工学的諸問題に対処する際に必要な，情報処理に関する基礎知識を理解できる」科目である。そして、情報工学を基盤とする、ものづくり・環境づくり、融合・複合分野で活躍できる素養をもった学生を育成する。 人間社会に役立つ科学技術は、これまでに無かったシステムや人工物、新しい生活環境、これまでの自然と融和する環境を開発すると同時に、すぐれた技能や思考を有効に活用し、それらを具現化する情報化技術をもって豊かなものづくり、環境づくりを創出できるように教授する。本科5学科(専門分野で学んだ知識)を基盤として、個性ある開発型実践技術者の育成を目指す。				
授業の概要と方法	「創造デザイン演習」を受講した学生を対象とするもので、工学の融合・複合分野での創造デザインを履修した学習成果を受けて、メカトロニクス等によるものづくりの情報化技術を教授する。				
授業項目(1週目)	授業概要、ものづくりの情報化技術とは	授業内容(1週目)	シラバスの説明、ものづくり情報工学の定義、人間の五感と電子工学の融合・複合、センシング技術		
授業項目(2週目)	ソフトウェア設計	授業内容(2週目)	ソフトウェアの仕様設計から開発、テスト		
授業項目(3週目)	ソフトウェア設計	授業内容(3週目)	ソフトウェアの仕様設計から開発、テスト		
授業項目(4週目)	ロボティクスⅠ	授業内容(4週目)	機械の知能化、情報の統合		
授業項目(5週目)	ロボティクスⅡ	授業内容(5週目)	人間機能とメカトロニクス、マンマシンインタフェース		
授業項目(6週目)	シミュレーションⅠ	授業内容(6週目)	シミュレーション概論		
授業項目(7週目)	シミュレーションⅡ	授業内容(7週目)	材料物性シミュレーション		
授業項目(8週目)	ジオマティクスⅠ	授業内容(8週目)	空間情報分析技術		
授業項目(9週目)	ジオマティクスⅡ	授業内容(9週目)	空間情報分析事例		
授業項目(10週目)	セキュア（安全）なシステムづくり	授業内容(10週目)	情報漏えいを防ぐセキュリティ対策		
授業項目(11週目)	セキュア（安全）なシステムづくり	授業内容(11週目)	ウィルス犯罪から身を守るセキュリティ対策		
授業項目(12週目)	計算機による設計支援	授業内容(12週目)	EXCELを用いた統計処理		
授業項目(13週目)	数値処理Ⅰ	授業内容(13週目)	EXCELを用いた実践的な数値処理		

（出典　専攻科シラバス，p. 39）

資料５－６－③－６

「デザイン工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通選択A	科目コード	82006	総授業時間数	25時間
科目名	デザイン工学	科目名(英語)	Engineering design	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	藤田克志	他 担当教員	江本晃美、高屋敏行		
授業目標	本科目は、技術者(エンジニア)として求められるものづくりに関するデザイン能力を身につけるために、融合複合型の「環境生産システム工学」教育プログラムとして機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学工学、土木工学、環境工学といった複数の分野に跨ったもの・環境・システムのデザインについて学び、新しい課題・分野に挑戦するために必要とされる創造的なデザイン力に関する知識と能力を修得することを目的としている。このため、心理的・対人間的側面等までも含めて、まず統合した視点と思考を持つことを目指している。				
授業の概要と方法	身近なツールや製品を例に、デザインを構成する基礎的な要素や知識を、講義形式で学びながら、課題を通して、機能・形態・経済性等の多面的な視点からの既成のデザインへの理解と検証を行い、実践的なデザイン提案に取り組む。				
授業項目(1週目)	授業概要、デザインとは	授業内容(1週目)	シラバスの説明、ガイダンス、意匠と図案の意味から		
授業項目(2週目)	デザイン工学の基礎	授業内容(2週目)	デザインの重要性・デザインプロセス		
授業項目(3週目)	デザイン工学の基礎	授業内容(3週目)	機能・形・質感・効果・色等		
授業項目(4週目)	プレゼン1、基礎の補足	授業内容(4週目)	プレゼン、形態と表現		
授業項目(5週目)	身近なデザイン	授業内容(5週目)	インダストリアルデザインとは、身近なデザイン例		
授業項目(6週目)	現在のデザインを取り巻く状況	授業内容(6週目)	インダストリアルデザインと川崎和男氏		
授業項目(7週目)	プレゼン2、現在のデザインを取り巻く状況の補足	授業内容(7週目)	プレゼン2、現在のデザインの傾向		
授業項目(8週目)	中間試験	授業内容(8週目)			
授業項目(9週目)	ユニバーサルデザイン(1)	授業内容(9週目)	デザインは誰のために1		
授業項目(10週目)	ユニバーサルデザイン(2)	授業内容(10週目)	デザインは誰のために2		
授業項目(11週目)	デザインコンペ提案課題	授業内容(11週目)	デザインコンペ提案課題の説明・グループ分け・リサーチ		

（出典　専攻科シラバス，p. 33）

（分析結果とその根拠理由）

創造性を育む教育方法として，「創造デザイン演習」「ものづくり情報工学」などのPBL科目が設定され，その授業の中で学生が主体的に行うテーマ選定，調査研究，結果の発表などを通じて創造性を育むことができるように工夫がなされている。また，1年次の学生全員に1カ月程度のインターンシップが行われており，生産技術の現場に適応できる資質の素養のために活用されている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程では，一般科目において現代英語を必修，生命進化論と東西技術史論を選択し，合計４単位以上を課している（資料５－７－①－１）。また，専門共通科目の必修科目では融合・複合分野の科目として，技術者倫理，環境工学，地球環境，経営工学などを開講している（資料５－７－①－２～５）。

専攻科における研究指導においては，当該学生ごとに研究指導教員を決め，専攻科研究論文の作成，教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行っている（資料５－７－①－６）。また，特別研究の中間報告会（２年次４月）（資料５－７－①－７）及び特別研究発表会（２年次２月）（資料５－７－①－８）が実施され，特に特別研究発表会では近い分野の教員による主査・副査制をとっている。

北陸技術交流テクノフェア2011（資料５－７－①－９）におけるシーズ研究発表会（資料５－７－①－10）または専攻科学生による国際シンポジウム（ISTS2011）（資料５－７－①－11，12）に全ての専攻科生が参加し，ポスターによる研究発表を行っている。実際に，企業の技術者や他大学の教員との質疑応答や情報交換を通じて，自らの研究テーマを客観的に見つめ，その後の展望を検

討するという意味でも非常に意義深い取り組みである。その他にも，学協会主催の研究発表会にも多くの専攻科生が参加しており，２年間の研究活動を通じて，複数回の学会発表を行う学生が多く，日常の研究活動だけでなく成果発表にも積極的に臨んでいる。

資料５－７－①－１

「専攻科の学習・教育目標」

＜専攻科の学習・教育目標＞

JA　地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

1 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。

2 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。

3 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB　数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

1 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。

2 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。

3 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸

（出典　平成24年度学生便覧）

資料５－７－①－２

「技術者倫理シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82201	総授業時間数	25時間
科目名	技術者倫理	科目名(英語)	Engineering Ethics	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	森芳周	他 担当教員	吉村忠与志、吉川　博		
授業目標	科学技術は人間社会に豊かさと快適さを与えた反面、無知とずさんな運用で地球環境を破壊･汚染してきた。あと50億年間は寿命のある地球に持続して人間が生存できるために、地球にやさしい科学技術の開発を目指さなければならない。科学技術の真理を探求する上で、それぞれの専門分野で倫理やモラルといった技術者の個の自律・自立に関する教育を施し、人類の幸福と福祉に貢献する科学技術者の倫理教育を目標とする。				
授業の概要と方法	本科目は学修単位科目である。従って、授業においては、技術者倫理に関する講義と演習を行い、さらに、授業外学修のための課題(予習復習、授業内容に関する調査・考察)を課す。 技術者教育での倫理教育を想定したとき、地球の環境倫理を踏まえた教育カリキュラムを明確化して、地球に生きる技術者教育に環境倫理、情報倫理、生命倫理を教授する。				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明、失敗学のビデオ学習		
授業項目(2週目)	過ちから学ぶこと	授業内容(2週目)	事故から学ぶ技術者倫理、技術者の職務に関する講義		
授業項目(3週目)	地球を知ること	授業内容(3週目)	公害問題・地球環境問題・環境倫理に関する講義および演習		
授業項目(4週目)	遺伝子操作と倫理	授業内容(4週目)	遺伝子組換え技術と生命科学の倫理に関する講義		
授業項目(5週目)	２１世紀を担う技術者とは	授業内容(5週目)	地球環境技術に関する講義および演習		
授業項目(6週目)	産業安全学	授業内容(6週目)	労働安全に関する講義		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	産業安全と技術者の責務に関する講義		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)	リスクアセスメントに関する講義および演習		
授業項目(9週目)	モラルと倫理	授業内容(9週目)	他律と自律に関する講義および演習		
授業項目(10週目)		授業内容(10週目)	モラルと常識に関する講義および演習		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	倫理規定に関する講義および演習		

（出典　専攻科シラバス，p. 31）

資料５－７－①－３

「環境工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82205	総授業時間数	25時間
科目名	環境工学	科目名(英語)	Environmental engineering	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	専攻科共通	学年	1年
開設期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	奥村充司	他 担当教員	桶谷治寛、相川勝則、長谷川巌		
授業目標	生物多様性国家戦略について理解し、地球規模のあるいは地域レベルでの種の保存、そのための生態系の保全について理解する。さらに、地球環境問題がそれらの生態系に与える影響を理解した上で、環境保全活動における企業の役割や環境マネジメントに付いて理解する。さらに、身近な事例によりそれらの事柄を自ら考え行動できるようにする。				
授業の概要と方法	座学を中心に行う。問題・課題の抽出、その解決法について各自の学習レベルを点検するためにワークショップ形式で問題抽出を行う。また，地球規模の環境問題について，サミットにおける解決の取り組みや国際情勢について学習させ，アジェンダ２１による行動計画や環境マネージメントについて，ＩＳＯ１４００１やライフサイクルアセスメントの観点から学習させる．さらに，物質の循環型社会を構築するために行政，企業，住民，ＮＰＯおよび研究機関がどのような取り組みを実施しているかについて講義する．また，生命の循環を意識した生態系保全について，最近の取り組みを紹介する．				
授業項目(1週目)	授業概要	授業内容(1週目)	シラバスの説明/環境倫理		
授業項目(2週目)	地球および地域における環境問題	授業内容(2週目)	上水道		
授業項目(3週目)		授業内容(3週目)	下水道		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	廃棄物		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	土壌・地下水汚染		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	環境保全（自然環境，自然生態系）・環境の評価・環境アセスメントの手法		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	自然再生のための応用生態工学		
授業項目(8週目)	自然生態系の保全	授業内容(8週目)	自然生態系の現状		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	コウノトリ自然再生への取り組み		
授業項目(10週目)	環境自治体への参画	授業内容(10週目)	環境まちづくりへの参加とコンサルタントの役割（桶谷）		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	環境保全計画（桶谷）		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	環境計測の事例（騒音測定）（桶谷）		

（出典　専攻科シラバス，p. 35）

資料５－７－①－４

「地球環境シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82206	総授業時間数	25時間
科目名	地球環境	科目名(英語)	Global environment	開講年度	2012
必修・選択	選択	学科	専攻科共通	学年	2年
開設期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	吉村忠與志	他 担当教員			
授業目標	人間社会に豊かさと快適さを与えた反面、無知とずさんな運用で地球環境を破壊･汚染してきた現状を学習する。あと50億年間は寿命のある地球に持続して人間が生存できるために、地球にやさしい科学技術の開発を目指す中で、地球環境の保全における技術者教育を施し、人類の幸福と福祉に貢献する多面的思考ができることを目標とする。				
授業の概要と方法	地球環境の保全教育を想定する。環境汚染の現状、大気汚染、土壌汚染、水質汚濁、大量廃棄、環境ホルモン等を明確化して、地球に生きる技術者教育に環境倫理を教授し、地球環境に対する循環型社会への取り組みを教授する。さらに、産業安全学の基礎について教授する。				
授業項目(1週目)	ガイダンス	授業内容(1週目)	シラバスの説明		
授業項目(2週目)	地球という惑星	授業内容(2週目)	地球という惑星に関する講義および演習		
授業項目(3週目)	生物共生に適した地球環境	授業内容(3週目)	生物共生に適した地球環境に関する講義および演習		
授業項目(4週目)	科学技術の功罪	授業内容(4週目)	科学技術の功罪に関する講義1および演習		
授業項目(5週目)		授業内容(5週目)	科学技術の功罪に関する講義2および演習		
授業項目(6週目)	世界人口の増大	授業内容(6週目)	世界人口の増大に関する講義1および演習		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	世界人口の増大に関する講義2および演習		
授業項目(8週目)	地球温暖化	授業内容(8週目)	地球温暖化に関する講義1および演習		
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	地球温暖化に関する講義2および演習		
授業項目(10週目)	生物体系から学ぶ	授業内容(10週目)	生物体系から学ぶに関する講義および演習		
授業項目(11週目)	食糧との競合	授業内容(11週目)	食糧との競合に関する講義および演習		
授業項目(12週目)	人間は生き残れるか	授業内容(12週目)	人間は生き残れるかに関する講義および演習		
授業項目(13週目)	地球環境は誰のためのものか	授業内容(13週目)	循環型社会への取り組みに関する講義および演習		
授業項目(14週目)		授業内容(14週目)	人類の幸福と福祉に関する講義および演習		
授業項目(15週目)	履修内容の復習	授業内容(15週目)	履修内容の復習		
授業項目(16週目)		授業内容(16週目)			
授業項目(17週目)		授業内容(17週目)			
授業項目(18週目)		授業内容(18週目)			

（出典　専攻科シラバス．p. 36）

資料５－７－①－５

「経営工学シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門共通必修	科目コード	82207	総授業時間数	25時間
科目名	経営工学	科目名(英語)	Industrial management	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	専攻科共通	学年	2年
開設期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
担当教員	中西登志夫	他 担当教員			
授業目標	21世紀は情報技術の時代であり、高性能化したコンピュータと情報通信技術が結びつくことにより、社会経済や企業経営など至るところで構造的な改革や変革が進められている。こうした中、業務全般を見渡した経営の効率化を推進していくためには、総合的な判断によりマネジメントしていく技術や工学的アプローチが必要である。ここでは、主として生産管理、品質管理、人事・労務管理、財務管理、経営情報システムを取り上げて解説することにより、人、物、金、情報といった４つの重要な要素を中心に企業経営の効率化について学ぶ。				
授業の概要と方法	教科書に準拠して、生産管理、品質管理、人事・労務管理、財務管理、経営情報システムについて講義するとともに、課題演習を課し経営工学の基本的な考え方の理解度を高める。				
授業項目(1週目)	授業概要、序論	授業内容(1週目)	シラバス説明、経営科学と経営工学、ＩＴ革命		
授業項目(2週目)	経営工学	授業内容(2週目)	経営工学の史的展開、定義とアプローチ		
授業項目(3週目)	生産管理	授業内容(3週目)	生産管理、生産活動、工程管理		
授業項目(4週目)	〃	授業内容(4週目)	ＭＲＰ、課題演習		
授業項目(5週目)	品質管理	授業内容(5週目)	品質管理の変遷、品質管理の定義、品質と管理		
授業項目(6週目)	〃	授業内容(6週目)	品質と経済性、ＱＣ七つ道具		
授業項目(7週目)	〃	授業内容(7週目)	ＱＣ七つ道具		
授業項目(8週目)	〃	授業内容(8週目)	管理図、課題演習		
授業項目(9週目)	〃	授業内容(9週目)	検査、全社的品質管理		
授業項目(10週目)	人事・労務管理	授業内容(10週目)	人事管理と労務管理、日本の人事・労務管理の特徴、経営革新による制度改革		
授業項目(11週目)	財務管理	授業内容(11週目)	財務管理と会計制度、原価計算		
授業項目(12週目)	〃	授業内容(12週目)	原価計算、課題演習		
授業項目(13週目)	経営情報システム	授業内容(13週目)	経営情報の定義・分類、経営情報システム、情報ネットワーク		
授業項目(14週目)	〃	授業内容(14週目)	講演「ＩＴ業界のビジネス構造の紹介」		
授業項目(15週目)	まとめ	授業内容(15週目)	経営工学のまとめ		

（出典　専攻科シラバス，p.37）

資料５－７－①－６

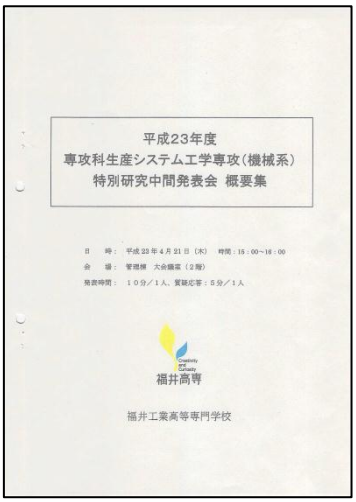
「生産システム工学特別研究シラバス」

履修					
学科等	専攻科専門PS展開必修	科目コード	85022	総授業時間数	300時間
科目名	生産ｼｽﾃﾑ工学特別研究	科目名(英語)	Special studies of production system engineering	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	生産システム工学専攻	学年	2年
開設期	通年	単位	8単位	授業形態	研究
担当教員	阿部孝弘	他 担当教員	各特別研究指導教員		
授業目標	指導教員のもとで、出身学科に関する研究テーマについて、文献調査、実験、理論解析、数値解析、データ整理を行いそれらを考察してテーマに関する新しい知見を得ることに努める。また、得られた結果を論文にまとめるとともに、口頭発表を行う能力を養成する。				
授業の概要と方法	一人一テーマを原則として指導教員の助言のもとでテーマに関する文献調査、実験、理論解析、数値解析、データ整理を行い、成果を論文にまとめるとともに2年年度末に研究発表を行う。				
授業項目(1週目)		授業内容(1週目)	平成23年度修了生の研究テーマ		
授業項目(2週目)	1年次(6単位)　4月　特別研究配属	授業内容(2週目)			
授業項目(3週目)	ガイダンス(評価方法等の説明)	授業内容(3週目)	機械工学系の研究テーマ		
授業項目(4週目)		授業内容(4週目)	・ＨＰＴ加工した極低炭素鋼の摩耗特性と金属同士の凝着力測定の試み		
授業項目(5週目)	2年次（8単位）　4月　特別研究中間発表会	授業内容(5週目)	・工業用純チタンの耐焼付きプレス法の開発		
授業項目(6週目)		授業内容(6週目)	・斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性		
授業項目(7週目)		授業内容(7週目)	・粘弾性流体のダクト内流れの３次元数値シミュレーション		
授業項目(8週目)		授業内容(8週目)			
授業項目(9週目)		授業内容(9週目)	電気電子工学系の研究テーマ		
授業項目(10週目)		授業内容(10週目)	・多層カーボンナノチューブを用いた水素センサ		
授業項目(11週目)		授業内容(11週目)	・共鳴トンネル現象を利用したスイッチングデバイスの創成		
授業項目(12週目)		授業内容(12週目)	・携帯電話のGPS機能を利用した災害情報収集システム		
授業項目(13週目)		授業内容(13週目)	・遺伝的アルゴリズムを用いた顔検出と顔照合		

（出典　専攻科シラバス，p.55）

資料５－７－①－７

「特別研究中間発表会資料」



平成23年度
専攻科生産システム工学専攻（機械系）
特別研究中間発表会 概要集

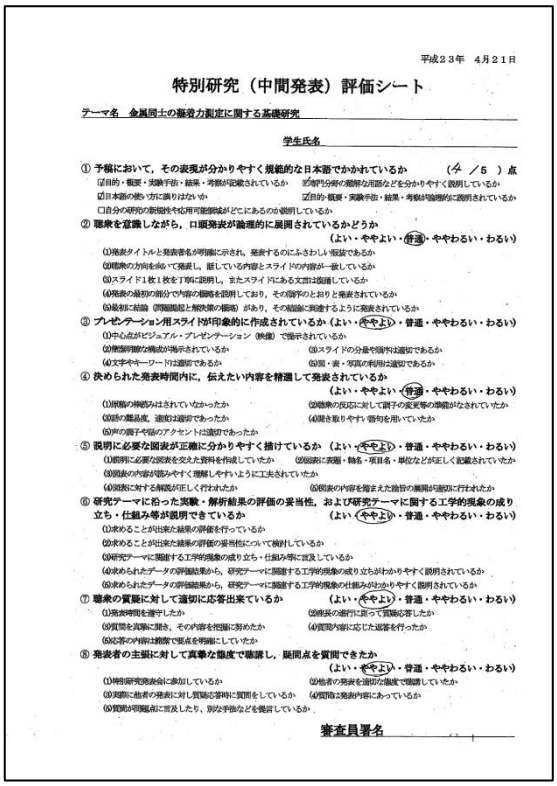
日　時：　平成23年4月21日（木）　時間：15：00～16：00
会　場：　管理棟　大会議室（2階）
発表時間：　10分／1人，質疑応答：5分／1人

福井高専
福井工業高等専門学校

・ 発表会

司会：芳賀 正和

No.	特　別　研　究　題　目	発表学生
1	金属同士の凝着力測定に関する基礎研究	
2	工業用純チタンの耐焼付きプレス法の開発	
3	斜板式ピストンポンプにおけるしゅう動部の摩擦の評価	
4	粘弾性流体のダクト内流れの３次元数値シミュレーション	



平成２３年　４月２１日

特別研究（中間発表）評価シート

テーマ名　金属同士の凝着力測定に関する基礎研究

学生氏名

① 予稿において，その表現が分かりやすく規範的な日本語でかかれているか　（4／5）点
☑目的・概要・実験手法・結果・考察が記載されているか　☑専門分野の期待な用語などを分かりやすく説明しているか
☑日本語の使い方に誤りはないか　☑目的・概要・実験手法・結果・考察が論理的に説明されているか
□自分の研究の新規性や応用可能領域がどこにあるのか説明しているか

② 聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)発表タイトルと発表者名が明瞭に示され，発表するのにふさわしい表現であるか
(2)聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか
(3)スライド1枚1枚を丁寧に説明し，またスライドにある文言は復唱しているか
(4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その説明のとおりと発表されているか
(5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

③ プレゼンテーション用スライドが印象的に作成されているか（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)中心点がビジュアル・プレゼンテーション（映像）で提示されているか
(2)聴衆明瞭な構成が提示されているか　(3)スライドの分量や説明は適切であるか
(4)文字やキーワードは適切であるか　(5)図・表・写真の利用は適切であるか

④ 決められた発表時間内に，伝えたい内容を精選して発表されているか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)原稿の棒読みは言っていなかったか　(2)聴衆の反応に対して調子の変更等の聴能がなされていたか
(3)話の難易度，速度は適切であったか　(4)聞き取りやすい言句を用いていたか
(5)声の調子や話のアクセントは適切であったか

⑤ 説明に必要な図表が正確に分かりやすく描けているか（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)説明に必要な図表を交えた資料を作成していたか　(2)図表に表題・軸名・項目名・単位などが正しく記載されていたか
(3)図表の内容が聞みやすく理解しやすいように工夫されていたか
(4)図表に対する解説が正しく行われたか　(5)図表の内容を踏まえた論旨の展開が適切に行われたか

⑥ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)求めることが出来た結果の評価を行っているか
(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討しているか
(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及しているか
(4)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されているか
(5)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されているか

⑦ 聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)発表時間を遵守したか　(2)座長の進行に従って質疑応答したか
(3)質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか　(4)質問内容に応じた返答を行ったか
(5)応答の内容は簡潔で要点を明瞭にしていたか

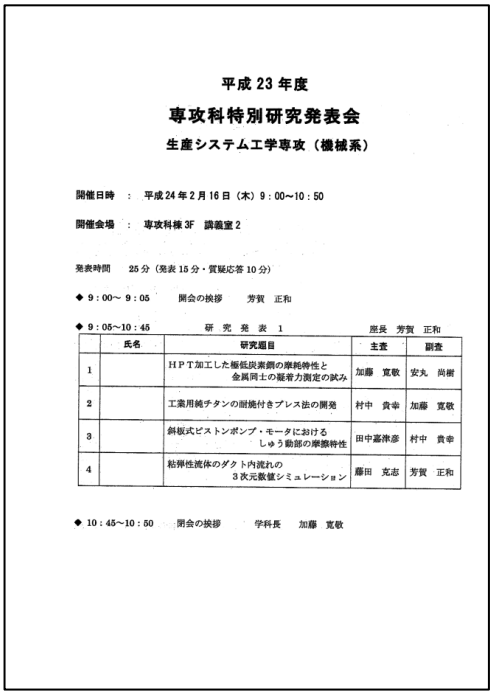
⑧ 発表者の主要に対して真摯な態度で聴講し，疑問点を質問できたか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)特別研究発表会に参加しているか　(2)他者の発表を謙虚な態度で聴講していたか
(3)質問に他者の発表に対し質疑応答時に質問をしているか　(4)質問は発表内容にあっているか
(5)質問が明瞭点に言及したり，別な手法などを提言しているか

審査員署名

（出典　平成23年度特別研究中間発表資料）

資料５－７－①－８

「特別研究発表資料（評価シート）」



平成 23 年度
専攻科特別研究発表会
生産システム工学専攻（機械系）

開催日時　：　平成 24 年 2 月 16 日（木）9：00～10：50

開催会場　：　専攻科棟 3F　講義室 2

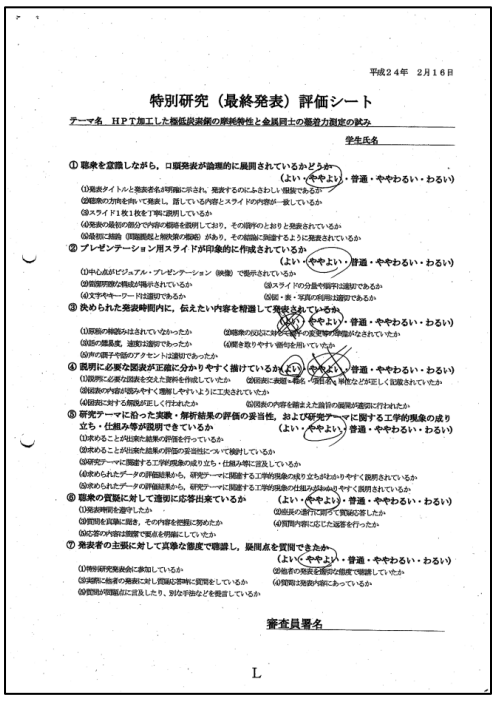
発表時間　25 分（発表 15 分・質疑応答 10 分）

◆ 9：00～ 9：05　開会の挨拶　芳賀　正和

◆ 9：05～10：45　研　究　発　表　1　座長　芳賀　正和

	氏名	研究題目	主査	副査
1		ＨＰＴ加工した極低炭素鋼の摩耗特性と金属同士の凝着力測定の試み	加藤　寛敏	安丸　尚樹
2		工業用純チタンの耐焼付き プレス法の開発	村中　貴幸	加藤　寛敏
3		斜板式ピストンポンプ・モータにおけるしゅう動部の摩擦特性	田中嘉津彦	村中　貴幸
4		粘弾性流体のダクト内流れの３次元数値シミュレーション	藤田　克志	芳賀　正和

◆ 10：45～10：50　閉会の挨拶　学科長　加藤　寛敏



平成２４年　２月１６日

特別研究（最終発表）評価シート

テーマ名　ＨＰＴ加工した極低炭素鋼の摩耗特性と金属同士の凝着力測定の試み

学生氏名

① 聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)発表タイトルと発表者名が明瞭に示され，発表するのにふさわしい表現であるか
(2)聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか
(3)スライド1枚1枚を丁寧に説明しているか
(4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その説明のとおりと発表されているか
(5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

② プレゼンテーション用スライドが印象的に作成されているか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)中心点がビジュアル・プレゼンテーション（映像）で提示されているか
(2)聴衆明瞭な構成が提示されているか　(3)スライドの分量や説明は適切であるか
(4)文字やキーワードは適切であるか　(5)図・表・写真の利用は適切であるか

③ 決められた発表時間内に，伝えたい内容を精選して発表されているか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)原稿の棒読みは言っていなかったか　(2)聴衆の反応に対して調子の変更等の聴能がなされていたか
(3)話の難易度，速度は適切であったか　(4)聞き取りやすい言句を用いていたか
(5)声の調子や話のアクセントは適切であったか

④ 説明に必要な図表が正確に分かりやすく描けているか（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)説明に必要な図表を交えた資料を作成していたか　(2)図表に表題・軸名・項目名・単位などが正しく記載されていたか
(3)図表の内容が聞みやすく理解しやすいように工夫されていたか
(4)図表に対する解説が正しく行われたか　(5)図表の内容を踏まえた論旨の展開が適切に行われたか

⑤ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)求めることが出来た結果の評価を行っているか
(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討しているか
(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及しているか
(4)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されているか
(5)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されているか

⑥ 聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)発表時間を遵守したか　(2)座長の進行に従って質疑応答したか
(3)質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか　(4)質問内容に応じた返答を行ったか
(5)応答の内容は簡潔で要点を明瞭にしていたか

⑦ 発表者の主要に対して真摯な態度で聴講し，疑問点を質問できたか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）
(1)特別研究発表会に参加しているか　(2)他者の発表を謙虚な態度で聴講していたか
(3)質問に他者の発表に対し質疑応答時に質問をしているか　(4)質問は発表内容にあっているか
(5)質問が明瞭点に言及したり，別な手法などを提言しているか

審査員署名

L

（出典　平成23年度特別研究発表資料）

資料５－７－①－９

「北陸技術交流テクノフェア」

（出典　北陸技術交流テクノフェア2011ホームページ）

資料５－７－①－10

「シーズ研究発表会プログラム（抜粋）」

平成 23 年福井工業高等専門学校専攻科技術シーズ発表会プログラム

発表日	時間	番号	発表者	タイトル
20 日（木）	10 時	1	M	超強加工した純鉄の摩耗特性
		2	E	多層カーボンナノチューブを用いた水素センサー温度特性―
		3	E	画像処理を用いて画像中から顔領域を検出する技術
	―	4	E	マイクロロボットを用いた教育用教材開発
	13 時	5	C	ウェットプロセスによるシリコンの表面形態制御―シリコンインターポーザ形成技術の開発―
	30 分	6	C	カルシウム無添加コンニャク
		7	C	遺伝子組換え酵母を用いた環境浄化への取組―重金属(Cu)を対象として―
	13 時	8	M	工業用純チタン焼付き防止策の開発
	30 分	9	E	共鳴トンネル現象を利用したスイッチング素子
	―	10	E	圧力センサと慣性センサを用いたバスケットボールのシュート動作計測システムの開発
	17 時	11	B	福井県三里浜海岸における高須川の河口変動と河口周辺の汀線変化について
		12	B	上水道管路を耐震化するメリットについて
		13	B	地方都市中心市街地の街路空間の安全性と景観に関する研究

（出典　平成23年度シーズ研究発表会資料集）

資料５－７－①－11

「専攻科学生による国際シンポジウムISTS2011」

1st International Symposium on Technology for Sustainability
(ISTS2011)
23-26 November 2011, KMITL, Bangkok Thailand

Honorary chair
1. Prof. Dr. Yujiro Hayashi
   President of INCT, Japan
2. Assoc. Prof. Dr. Kitti Tirasesth
   President of KMITL, Thailand

Advisory Board
1. Prof. Dr. Jun Kyokane, Executive Director of INCT, President of Akashi NCT
2. Mr. Masato Kitani, Executive Director, INCT
3. Prof. Dr. Masaaki Yoneda, President, TNCT
4. Assoc. Prof. Dr. Ruttikorn Varakulsiripunth Vice President of KMITL
5. Prof. Dr. Yasushi Kato, President, TNCT
6. Prof. Dr. Toshihiko Akiyama, President, TNCT
7. Prof. Dr. Tatsuo Uchida, President, SNCT
8. Prof. Dr. Kazutada Watanabe, President, NNCT
9. Prof. Dr. Yasuo Oota, President, MNCT
10. Prof Dr. Hideo Inaba, President, TNCT
11. Prof. Dr. Masashi Kamon, President, KNCT
12. Prof. Dr. Shigeru Ito, President, ONCT

Call for Papers

Objective of Symposium

The year 2011 marks a special occasion for Thailand, as the country will commemorate *"The Celebrations on the Auspicious Occasion of His Majesty the King's 84th Birthday Anniversary"* on December 5th, 2011.His Majesty the King Bhumipol Adulyadej is known as the founder of "the philosophy of sufficient economy for sustainability". In regarding to H.M. the King's philosophy, the technology for sustaining human life, welfare and prosperity will be very important role. In tribute to this special occasion, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL), Thailand and the Institute of National Colleges of Technology (INCT), Japan, have mutual agreement to launch the symposium on technology for sustainability. The symposium aims to provide a general forum for enhancing interdisciplinary interactions, dialogue, and collaborations among students, researchers and faculty members. All the participants will get together at one place to present and exchange their research, development and innovative knowledge. The outcomes of this symposium should be the foundation of dissemination of researches on technology for sustainability of the nations. Students are strongly recommended to submit papers.

（出典　専攻科学生による国際シンポジウムISTS2011ホームページ）

資料５－７－①－12

「ISTS2011 予稿（抜粋）」

Study of bio-ethanol production from cellulosic waste (rice straw)

Tadayosi YOSHIMURA[1], Marie HATAKAWA[2], Fumio TAKAHASHI[3] and Takatoshi KAWASHIMA[4]

[1]Department of Chemistry and Biology Engineering and [2]Advanced Engineering Course,
Fukui National College of Technology, Geshi-cho, Sabae, Fukui 916-8507, Japan
[3]Global Environment Group, Environment Department, The General Environment Technos Co. Ltd.,
1-3-5 Azuchimachi, Chuo-ku, Osaka 541-0052, Japan
[4]The Kansai Electric Power Co.,Inc., Research and Development Division,
3-6-16 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-8270, Japan

Summary

This basic research was carried out on bio-ethanol derived from cellulosic waste (rice straw). In view of the fact that rice straw is incorporated into the soil after harvesting the grains to increase mineral soil content, we examined the option of using high pressure pretreatment which does not involve chemical treatment, thus allowing residues from bio-ethanol production to be returned to the soil as a liquid fertilizer. Results from this study showed that i) high-pressure treatment enhanced the saccharification of rice straw and ii) soil containing residues from bio-ethanol production did not inhibit the growth of Japanese mustard spinach planted from seed.

Key words: cellulosic waste (rice straw), high-pressure treatment, soil containing residues, bio-ethanol production

（出典　ISTS2011）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，一般科目や複合・融合分野の科目を開講し，教養教育が行われている。一方，専攻科研究論文の作成，教育目標を達成するために必要な指導や学会活動への支援は指導教員が行い，学内における研究発表や学位授与機構への学習成果発表などの指導では，近い分野の教員による複数指導体制が整えられている。さらに，学外研究発表や論文投稿数も多く，教育の目的を達成するために適切な教養教育と研究指導が行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

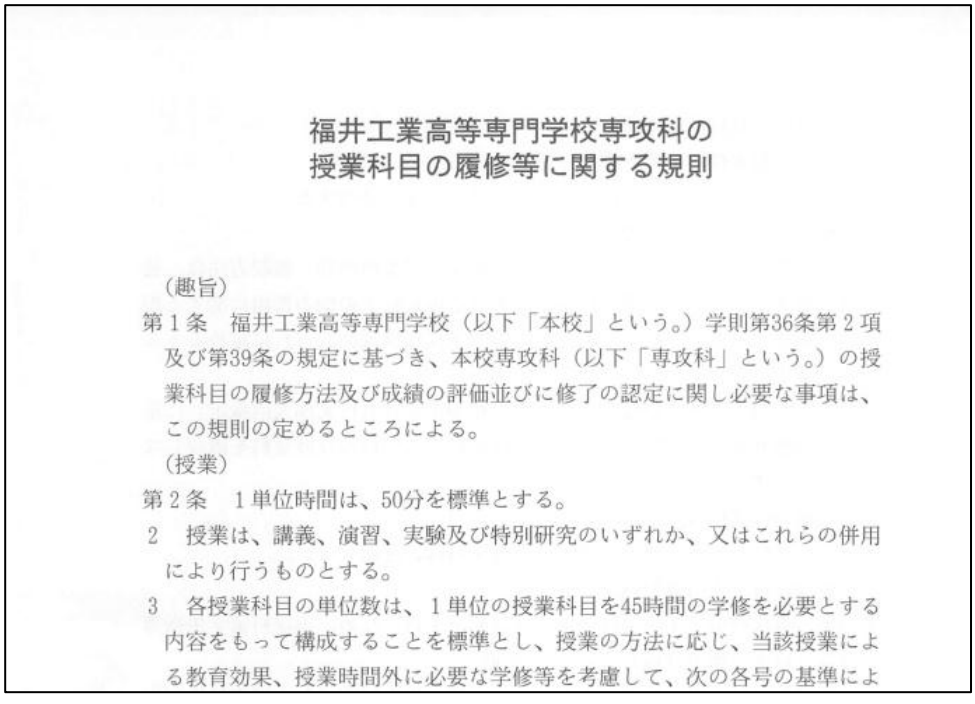
（観点に係る状況）

成績評価，単位認定規定，修了認定規定については，学則ならびに「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」及び「専攻科の授業科目の履修規程」（資料５－８－①－１，２）として定められており，専攻科生に対しては年度始めのオリエンテーションの際に，専攻科履修の手引き（資料５－８－①－３）を配布し周知され，成績評価はシラバスに記載された評価方法と基準に則り実施されている。また、学生から成績評価などに対する意見申し立てがあった場合は，当該授業科目担当教員による対応が行われている。

年度末に専攻科において修了判定会議（資料５－８－①－４）が開催され，会議資料（資料５－８－①－５）に記載した修了判定基準（資料５－８－①－６）を確認した後，それに照合して判定する。

資料５－８－①－１

「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」



福井工業高等専門学校専攻科の
授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第36条第２項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（授業）

第２条　１単位時間は、50分を標準とする。

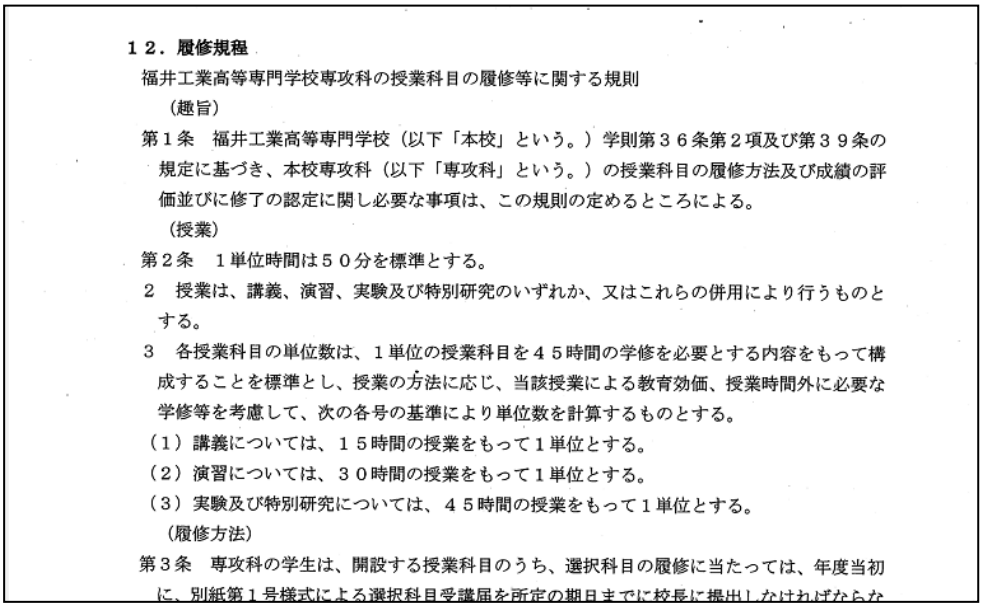
２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準によ

（出典　平成24年度学生便覧，p. 106）

資料５－８－①－２

「専攻科の授業科目の履修規程」



１２．履修規程

福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

（趣旨）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第３６条第２項及び第３９条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

（授業）

第２条　１単位時間は５０分を標準とする。

２　授業は、講義、演習、実験及び特別研究のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

３　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効価、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

（１）講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。

（２）演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。

（３）実験及び特別研究については、４５時間の授業をもって１単位とする。

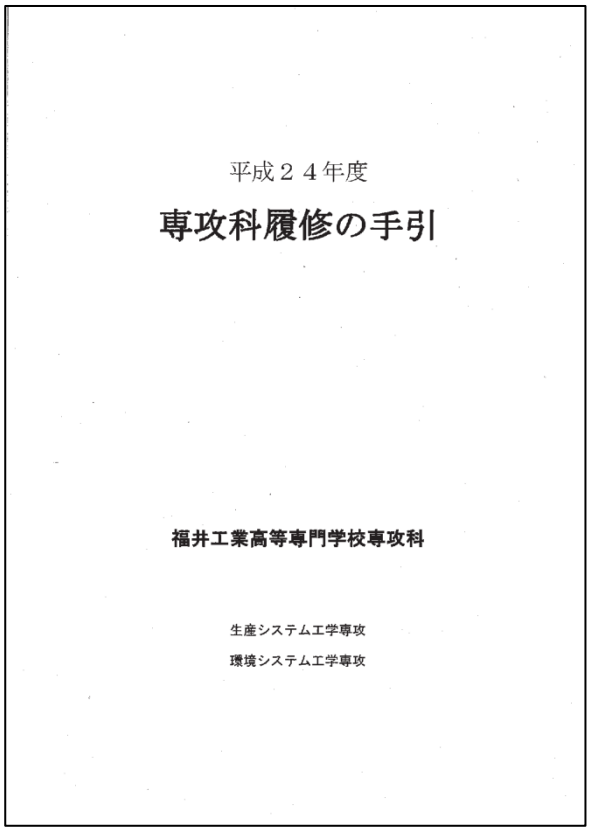
（履修方法）

第３条　専攻科の学生は、開設する授業科目のうち、選択科目の履修に当たっては、年度当初に、別紙第１号様式による選択科目受講届を所定の期日までに校長に提出しなければならな

（出典　平成24年専攻科履修の手引き，p.14）

資料５－８－①－３

「専攻科履修の手引き」



平成２４年度

専攻科履修の手引

福井工業高等専門学校専攻科

生産システム工学専攻

環境システム工学専攻

（出典　平成24年度専攻科履修の手引きの表紙）

資料５－８－①－４

「修了判定会議の開催通知」

平成２４年２月２０日

教　員　各　位

教員会議議長

２月２１日臨時教員会議の開催について（通知）

標記会議を下記のとおり開催しますので御出席願います。
なお，都合により出席できない場合は，総務課総務係まで御連絡ください。

記

日　時　　平成２４年２月２１日（火）１６時００分から
場　所　　大講義室

Ⅰ審議事項
１．平成24年度入学者選抜合格者の判定について　・・・・・・・・・・・・（判定資料）
当日配布・回収

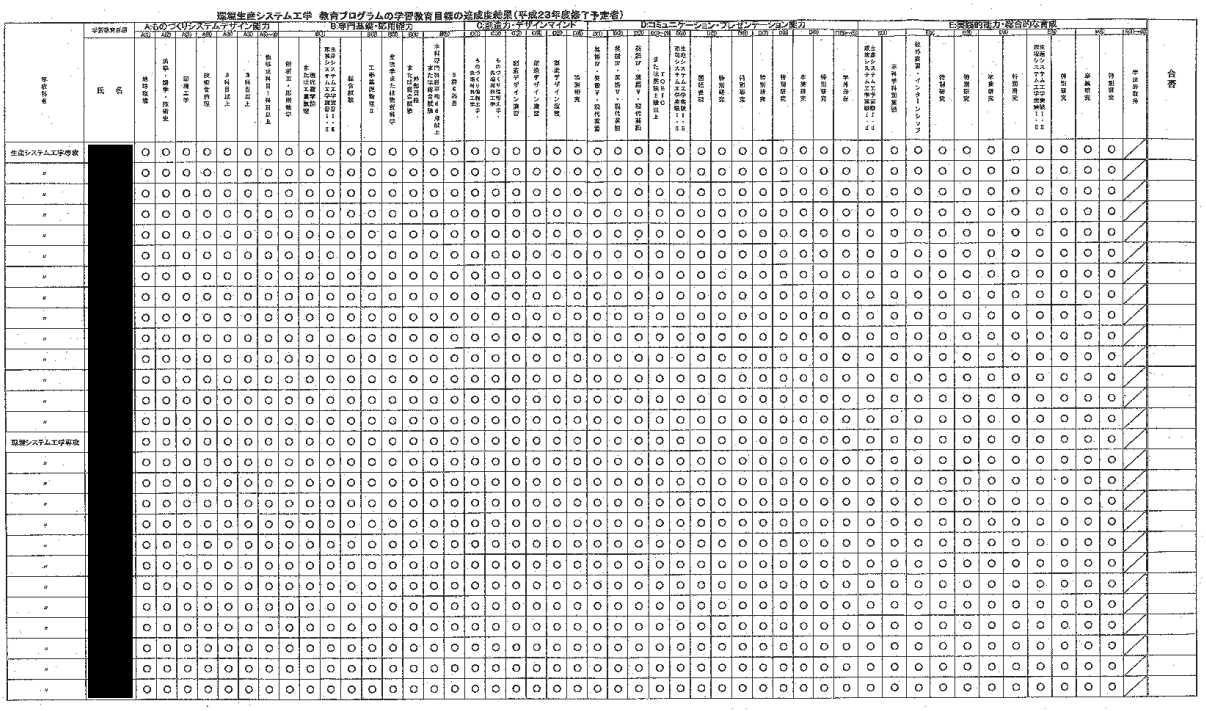
２．平成23年度専攻科修了認定について　・・・・・・・・・・・・・・・・（資料№２）
当日配布・回収

Ⅱ報告事項
１．事務報告
(1)公的研究費等の適正な執行等のための取組の徹底について【事務部長】

（出典　教員会議資料）

資料５－８－①－５

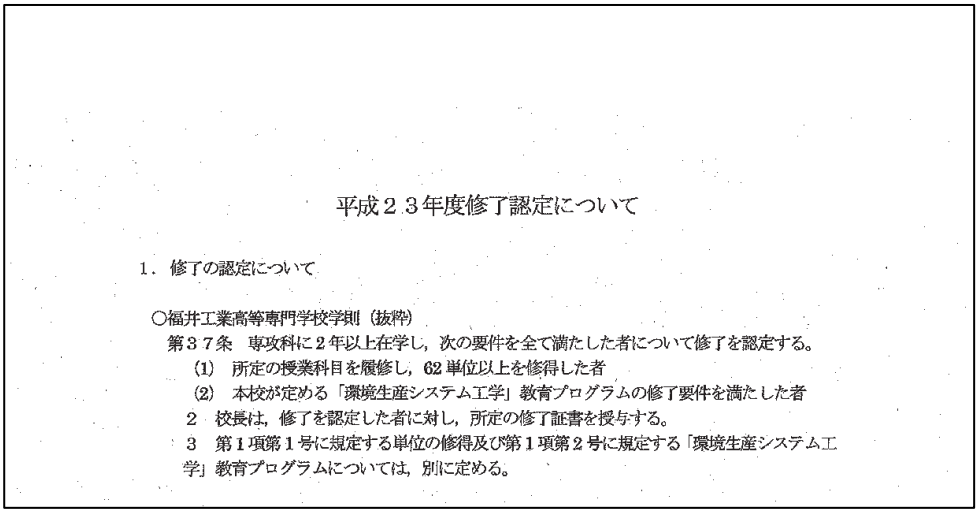
「平成23年度修了認定会議（抜粋）」



（出典　平成23年度修了認定会議資料）

資料５－８－①－６

「修了判定基準（抜粋）」



平成２３年度修了認定について

１．修了の認定について

○福井工業高等専門学校学則（抜粋）

第３７条　専攻科に２年以上在学し，次の要件を全て満たした者について修了を認定する。

(1)　所定の授業科目を履修し，62単位以上を修得した者

(2)　本校が定める「環境生産システム工学」教育プログラムの修了要件を満たした者

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３　第１項第１号に規定する単位の修得及び第１項第２号に規定する「環境生産システム工学」教育プログラムについては，別に定める。

（出典　平成23年度修了認定会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価や修了認定規定は，学則及び専攻科の授業科目の履修等に関する規則に定められ，学生便覧への掲載などにより学生に周知されている。各授業科目の成績評価・単位認定は，シラバス記載の評価方法により行われており，学生から成績評価などに対する意見申し立てがあった場合は，当該授業科目担当教員による対応が行われている。また，修了認定は，教員会議において行われており，規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程では，科目系統図により５つの教育目標に配分されている科目を修得でき，教育目標が達成できるように授業内容を構成すると共にシラバスが作成され学生に活用されている。講義，演習，実験及び実習により得た知識をPBL型授業において総合的に活用できる学習指導が行われ，創造性を育む教育が実施され，成果が得られている。

専攻科課程では，技術者倫理，地球環境，経営工学など，多様なニーズに対応する教育課程が展開されている。また，創造デザイン演習やデザイン工学など創造性を育む教育が充実している。インターンシップでは，高専機構のプログラムなどを生かして積極的に海外就労経験を積んでいる。学生による学会発表や論文投稿も多く，高い水準の研究指導が行われている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準５の自己評価の概要

準学士課程では教育目標に照らして，一般科目と専門科目をくさび形配置し，前者により基礎学力と幅広い教養を養い，また後者により工学技術の専門的知識とそれらを創造的に活用する能力を育成する体系的な教育課程となっている。科目系統図により５つの教育目標をバランスよく修得で

き，教育目標が達成できるように授業内容を構成すると共にシラバスが作成され学生に示され活用されている。講義，演習，実験及び実習により得た知識をPBL型授業において総合的に活用できる学習指導が行われ，創造性を育む教育やインターンシップが実施され，成果が得られている。学級担任の指導の下で特別活動，学校行事等を実施することにより，クラス運営を活発にすると共に，人間性の涵養が図られている。学校行事，クラブ活動，寮生会，学生会の活動の過程で，学生が教職員と多く触れ合い，豊かな人間性を育んでいる。

成績評価・単位認定，進級・卒業判定規則が規定され，これらは学生便覧に明記され，科目担当教員と学級担任の指導により学生に周知されている。教員会議において進級・卒業の判定が各基準に基づき適切に行われている。

専攻科課程は，社会の養成に応じた技術者倫理や経営工学などを専門共通科目の必修科目として開講し，学生の多様なニーズに対応し柔軟に履修計画を立てられるよう，専門展開科目では実験・演習・研究以外の科目を全て選択としている。さらに，英語によるプレゼンテーション能力の育成など，学習指導法の工夫もなされている。

また，創造デザイン演習やデザイン工学などの創造性を育む教育において，創造的・実践的問題解決能力の涵養を図っている。インターンシップは，学習した専門知識の創造的な活用方法について主体的に体験する場として活用され，高専機構のインターンシップ・プログラムなどを生かして積極的に海外就労経験を積んでいる。

専攻科研究では，学協会主催の研究発表への専攻科生の参加や論文投稿も多く，高い水準の研究指導が行われている。成績評価，単位認定・修了認定が規定され学生に周知されている。また，教員会議において単位認定・修了認定が適切に実施されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①:　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

＜本科（準学士課程）＞

学習教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成（資料６－１－①－１）がなされており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（一般科目９１単位，専門科目９３単位（共に最大））のうち，卒業に必要な単位数は一般科目８３単位以上，専門科目８６単位以上を修得することが卒業要件の一つとなっている。また，本校では１年から４年までの開講科目は，ほぼ全て必修科目となっており（物質工学科はコース制により４年次に選択単位を含む），５年次の必修科目に加え学生自らが必要と考える選択科目の単位を修得する必要がある。なお，選択科目については，卒業要件を満たすための必要単位数が教育課程表に明記されている。

本校の教育課程は，基本理念，教育方針，養成すべき人材像，学習教育目標に対応づけて体系化されており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）の大多数が必修科目となっている。学習教育目標のRB（専門科目）については，学年が上がることにより増加するが，その他の学習教育目標（RA，RC,RDおよびRE）については各学年で１から数科目としており，学習教育が達成できるよう配置されている。従って，最終的に卒業要件を満たすことが，学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像について目標を達成することを保証するものとなっている。これについて本校では，各学級担任の指導により学習達成度評価シート（資料６－１－①－２）を記入させることにより，学校として達成状況を把握している。この学習達成度評価は，教務主事・主事補，各学科長，一般科目教室主任で構成される教務委員会の審議を経て実施している（６－１－①－３）。また，５年次の卒業研究においては，教員によるレジュメ及び最終発表の評価が実施されており，目的の達成度を把握・評価している（６－１－①－４，５）。

〈専攻科課程〉

専攻科課程においては，専攻科委員会メンバー（専攻科長，各学科・一般科目教室の専攻科委員）が主体となり，学生に学習教育目標達成度自己点検シートを記入させ，専攻科委員に定期的（入学時，各前期・後期末及び修了時）に提出することにより学習教育目標の達成度をチェックしている（６－１－①－６）。また，専攻科の特別研究においては，主査と副査による論文の評価，ならびに教員による中間及び最終発表の評価が実施されており，目的の達成度を把握・評価している（６－１－①－７～10）。

資料６－１－①－１

「教育課程表の一例（機械工学科の場合）」

平成24年度教育課程表

機械工学科

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	数理統計学	2			2			
	応用数学	2				2		
	工学基礎物理Ⅰ	2			2			
	工学基礎物理Ⅱ	2				2		
	ものづくり科学	3	3					
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門	2	2					
	製図	1	1					
	C言語基礎	1		1				
	C言語応用	1			1			
	機械計算力学	1				1		
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			
	機械工作法Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		
	熱力学	2				2		
	流れ学Ⅰ	1			1			
	流れ学Ⅱ	2				2		
	工業力学	1				1		
	機構学	1				1		
	機械設計法	2				2		
	自動制御	2					2	
	振動工学	2					2	
	センサ工学	1				1		
	アイデア設計工学	1					1	
	電気工学	2			2			
	電子工学	2				2		
	工学演習	1				1		
	生産技術演習	1					1	
	機械製図	4		4				
	機械設計製図Ⅰ	3			3			
	機械設計製図Ⅱ	2				2		
	機械設計製図Ⅲ	1					1	
	機械工作実習	4		4				
	創造工学演習	3			3			
	知能機械演習	2				2		
	機械工学実験Ⅰ	2				2		
	機械工学実験Ⅱ	3					3	
	卒業研究	9					9	
	修得単位計	81	6	11	20	25	19	
選択科目	材料力学Ⅲ	1					1	9単位中5単位以上修得
	熱機関	1					1	
	流体機械	1					1	
	伝熱工学	1					1	
	システム工学	1					1	
	メカトロニクス	1					1	
	ロボット工学	1					1	
	電子応用	1					1	
	材料科学	1					1	
	修得単位計	5以上					5以上	
修得単位合計		86以上	6	11	20	25	24以上	

（出典 平成２３年度学生便覧 .p14）

資料６－１－①－２

「本科における学習達成度評価シートの一例（環境都市工学科の場合）」

環境都市工学科　学習達成度評価シート

大項目		小項目	1年			2年			3年			4年			5年			全学年
			科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	科目	点数	平均点	平均点
RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける.	1	人間社会の基本的な仕組みを理解し，様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる.	□ 歴史 □ 地理	( ) ( )		□ 歴史 □ 倫理社会	( ) ( )		□ 政治経済	( )		□ ドイツ語* □ 中国語*	( ) ( )		□ 法学 □ 哲学* □ 経済学* □ 歴史学特講* □ ドイツ語* □ 中国語*	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		
	2	様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を，認識・理解する意識を持てる.	□ 音楽	( )		□ 美術	( )											
RB 数学とその他の自然科学，および専門分野におけるものづくり，環境づくりに関する基礎能力を身に付ける.	1	数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる.	□ 基礎解析A □ 基礎解析B □ 物理 □ 化学 □ 生物	( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅰ □ 線形代数 □ 物理 □ 化学	( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅱ □ 数理統計学 □ 工学基礎物理Ⅰ □ 基礎数学 □ 基礎物理	( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 解析Ⅲ □ 応用数学 □ 工学基礎物理Ⅱ	( ) ( ) ( )		□ 数学特講*	( )		
	2	専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し，工学的現象を正しく理解できる.	□ コンピュータ科学入門 □ 製図 □ ものづくり科学	( ) ( ) ( )		□ 構造力学Ⅰ □ 測量学 □ 建築計画Ⅰ	( ) ( ) ( )		□ 構造力学Ⅱ □ 建設材料学 □ 水理学Ⅰ □ 環境衛生工学 □ 地盤工学Ⅰ □ 応用測量学 □ 環境都市計画論	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 構造力学Ⅲ □ コンクリート構造学Ⅰ □ 水理学Ⅱ □ 建築環境Ⅰ □ 地盤工学Ⅱ □ 計画数理学 □ 都市交通工学 □ 施工管理学 □ 建築計画Ⅱ	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		□ 鋼構造学 □ コンクリート構造学Ⅱ** □ 舗装工学** □ 建設複合材料 □ 水理学Ⅲ** □ 海岸工学** □ 河川工学** □ 流域水文学** □ 環境保全工学** □ 建築環境Ⅱ** □ 建築設備Ⅰ □ 建築設備Ⅱ** □ 地盤防災工学** □ 地震工学** □ 空間情報工学** □ 地域都市計画** □ 建設法規 □ 建築意匠** □ 建築史**	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )		
RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける.	1	課題に対して自主的に問題を発見し，解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる.				□ 環境都市工学設計製図Ⅰ □ 環境都市工学実験実習Ⅰ	( ) ( )		□ 環境都市工学設計製図Ⅱ □ 環境都市工学実験実習Ⅱ	( ) ( )		□ 環境都市工学設計製図Ⅲ □ 環境都市工学設計製図Ⅳ	( ) ( )		□ 環境都市工学設計製図Ⅴ	( )		
RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける.	1	英語による基礎的な対話や文章が理解でき，自分の意見を表現できる.	□ 英語Ⅰ □ コミュニケーションⅠ	( ) ( )		□ 英語Ⅱ □ コミュニケーションⅡ	( ) ( )		□ 英語Ⅲ	( )		□ 英語Ⅳ	( )		□ 英語Ⅴ □ 英語特講*	( ) ( )		
	2	日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき，自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できる.	□ 国語	( )		□ 国語	( )		□ 国語 □ 日本語Ⅰ □ 日本語Ⅱ	( ) ( ) ( )		□ 国語表現 □ 日本語Ⅲ	( ) ( )		□ 国語講読* □ 日本語Ⅳ □ 卒業研究	( ) ( ) ( )		
	3	わかりやすい図表等を作成し，それを用いて日本語により効果的な説明ができる.													□ 卒業研究	( )		
RE 実践的能力と論理的思考能力をを身に付ける.	1	実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び，理論との比較や考察などができる.										□ 環境都市工学実験実習Ⅲ	( )		□ 構造デザイン	( )		
	2	課題の背景を理解し，習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し，データを解析・考察することにより，結果を客観的に説明できる.													□ 卒業研究	( )		
	3	身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し，個人あるいはグループで課題を達成できる.	□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )		□ 保健体育	( )					
科目数		合計点																
平均点																		

注意：点数欄の（ ）内に、優＝3点，良＝2点，可＝1点，仮進＝0点として点数を記入

*：選択必修科目，　**：選択科目

（出典　学生課）

資料６－１－①－３

「学生による学習達成度評価シート記載に関する担任への依頼文書」

2011年2月24日

教員　各位

教務主事

学習達成度評価シート記入のための５年成績早期提出のお願い

５年生の学習達成度評価シート記入に関し，教務委員会にて以下のようになりましたので，ご協力をお願いいたします。

５年生に学習達成度評価シートを記入させるにあたり，５年生の通年及び後期科目の学年末成績が必要となります。

記入は，卒研発表会の３月４日（金）頃を予定しているため，５年生の教科を担当している教員におかれましては大変お手数ですが，先に学生課教務係から配布されている成績入力用のＵＳＢメモリーに点数を入力し，紙に出力したものを２月２８日（月）午前中までに学生課教務係に提出していただくようお願いします。

成績（１００点満点）で記入できない場合は，優（３点）・良（２点）・可（１点）・不可（０点）でも結構です。

なお，正確な成績は，予定どおり３月４日（金）１６時までに，ＵＳＢメモリーと成績を打ち出し押印した用紙で提出していただくことになります。

間に合わない科目はその科目の欄を空欄として対応いたします。

何卒ご協力の程お願いいたします。

（出典　学生課）

資料６－１－①－４

「卒業研究（論文）評価シート」

平成　　年　　月　　日

卒業研究（論文）評価シート

テーマ名：

学生氏名：

－報告会前における主査及び副査による個別審査

（卒業研究論文において以下の項目について理解しているか）－

①　論文の章立て内容を自分の言葉で正しく記述・表現できたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

②　論文の説明に必要な図表等の取り扱いができたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

③　考察を論理的に構築し，問題解決を展開することができたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

④　問題解決のプロセスを計画するにあたり，得られる情報を活用して，適切な実験・解析方法を選択できたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

⑤　実験・解析結果において統計・数式処理の取り扱いができたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

⑥　実験・解析結果を評価し，現象の成り立ち・仕組み等を理解し，説明できたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

①～⑥の合計：　　点

以下は指導教員（主査）のみ記入ください

⑦　学生は年間を通して計画的に研究を遂行できたか。

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

⑧　学生は卒業研究に意欲的に取り組んでいたか

（5:よい　4:ややよい 3:普通　2:ややわるい　1:わるい）

⑦～⑧の合計：　　点

審査員署名

（出典　本校環境都市工学科）

資料６－１－①－５

「卒業研究発表会評価シート」

平成　　年　　月　　日

卒業研究発表会評価シート

①　聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか

(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)発表タイトルと発表者名が明確に示され，発表するのにふさわしい服装であるか
(2)聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか
(3)スライド１枚１枚を丁寧に説明しているか
(4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その順序のとおりと発表されているか
(5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

②　研究目的に対する研究手法を計画するにあたり，適切な実験・解析方法が選択できているか

(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)研究目的を理解しているか
(2)複数の実験・解析方法から選択しているか
(3)選択した実験・解析方法の長所を理解しているか
(4)選択した実験・解析方法の短所を理解しているか
(5)選択した実験・解析方法が適切であるか

③ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，及び研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか

(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)求めることが出来た結果の評価を行っている口頭発表であるか
(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討している口頭発表であるか
(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及している口頭発表であるか
(4)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されている口頭発表であるか
(5)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されている口頭発表であるか

④ 聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか

(よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい)

(1)発表時間を遵守したか
(2)座長の進行に則って質疑応答したか
(3)質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか
(4)質問内容に応じた返答を行ったか
(5)応答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか

（出典　本校環境都市工学科）

資料６－１－①－６

「専攻科課程における学習・教育目標に関する達成度評価シートの一例（生産システム工学機械系）」

専攻科の学習・教育目標に関する達成度評価シート

学習・教育目標			関連する基準1(1)(a)～(h)の項目	評価方法	備考	本科4・5年生	点数	専攻科1・2年生	点数	単位数	評価（達成した項目に○を記入）
JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける	1	異なる地域に属する人々がもつ文化や，それに根ざした価値観などを，多面的に認識できる．	(a) (b) (e)	1) 本科における「法学」「経済学」「哲学」「歴史学特講」「第二外国語」などの人文社会系の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．	専攻科の単位を含む3単位以上の修得が必要．	□ 法学*[1] □ 経済学*[1] □ 哲学*[1] □ 歴史学特講*[1] □ 第二外国語[4](　　) □ □ □ □ □	(　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　)				
				2) 専攻科「生命進化論」または「東西技術史論」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 生命進化論**[2] □ 東西技術史論**[2]	(　) (　)		
	2	持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと，種々の分野における人間の活動が地球環境に与える影響について理解できる．	(b) (a) (e)	専攻科「地球環境」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 地球環境[2]	(　)		
	3	技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで，工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し，説明できる．	(b) (e)	専攻科「技術者倫理」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 技術者倫理[2]	(　)		
JB 数学とその他の自然科学，情報処理，および異なる技術分野を含む問題にも対処できる，ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける．	1	工学的諸問題に対処する際に必要な，数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる．	(c) (e)	1) 本科の数学に関する授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．	専攻科の科目を含んで5単位以上修得が必要．	□ 解析Ⅲ[2] □ 応用数学[2] □ 数学特講*[1] □ □ □	(　) (　) (　) (　) (　) (　)				
				2) 専攻科「現代数学論」または専攻科「工業数理」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 現代数学論*[2] □ 工業数理*[2]	(　) (　)		
				3) 専攻科「生産システム工学演習Ⅰ，Ⅱ」あるいは「環境システム工学演習Ⅰ，Ⅱ」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 生産システム工学演習Ⅰ[1] □ 生産システム工学演習Ⅱ[2]	(　) (　)		
				4) 数学に関する技術士一次共通試験程度の総合試験を行い，学習・教育目標の達成度を評価する．60点以上を合格とする．				□ 総合試験（数学）	（合・否）		
				5) 本科の物理に関する授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．	専攻科の科目を含んで物理に関する単位を6単位以上の修得が必要．	□ 工学基礎物理Ⅱ[2] □	(　) (　)				
				6) 専攻科「連続体力学」，または「量子力学」，または「地球物理」の授業で関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 連続体力学*[2] □ 量子力学*[2] □ 地球物理*[2]	(　) (　) (　)		
				7) 専攻科「物質科学」または「生物学」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．				□ 物質科学*[2] □ 生物学*[2]	(　) (　)		
	2	工学的諸問題に対処する際に必要な情報処理に関する基礎知識を理解できる．	(c) (e)	専攻科「ものづくり情報工学」または「画像情報処理」の授業で，関連事項について理解させ定期試験またはレポート等で評価する．				□ ものづくり情報工学*[2] □ 画像情報処理*[2]	(　) (　)		
JB 数学とその他の自然科学，情報処理，および異なる技術分野を含む問題にも対処できる，ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける．	3	得意とする専門技術分野を持つことに加え，他の技術分野を積極的に吸収して，持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる．	(d)(1) (d)(2)a) (d)(2)d) (e)	1) 基礎工学科目群の修得を含んで，学士の申請分野に必要な高専本科4，5年の専門科目に相当する科目を修得することにより評価する．	工学分野で学士申請ができること．	学位申請分野（機械工学） □ 機械計算力学[1] □ 機械設計製図Ⅱ[2] □ 知能機械演習[2] □ 機構学[1] □ 機械設計法[2] □ 材料力学Ⅱ[2] □ 熱力学[2] □ 流れ学Ⅱ[2] □ 工業力学[1] □ 電子工学[2] □ センサ工学[1] □ 工学演習[1] □ 生産技術演習[1] □ 機械設計製図Ⅲ[1] □ アイデア設計工学[1] □ 振動工学[2] □ 自動制御[2] □ 材料科学**[1] □ 材料力学Ⅲ**[1] □ 伝熱工学**[1] □ 熱機関**[1] □ 流体機械**[1] □ ロボット工学**[1] □ 電子応用**[1] □ メカトロニクス**[1] □ システム工学**[1]	(　) (　)				
				2) 学士の申請分野に関連する，専攻科専門展開科目を修得することにより評価する．				□ 設計生産工学**[2] □ 生産材料工学**[2] □ エネルギー変換工学**[2] □ 人間―機械システム**[2] □ 計測・制御工学**[2] □ 電子物性工学**[2] □ システムプログラム**[2] □ 光学基礎**[2] □ 電子機器工学**[2] □ 情報通信システム**[2] □ 計算機システム**[2] □ オブジェクト指向プログラミング**[2]	(　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　)		
				3) 専攻科他専攻の科目を修得することにより評価する．	他専攻科目2単位以上の修得が必要．			□ 有機反応化学**[2] □ 生物化学工学**[2] □ 触媒化学**[2] □ 材料化学**[2] □ 動的構造デザイン**[2] □ 化学プロセス工学**[2] □ 応用微生物工学**[2] □ 環境水工学**[2] □ 建設構造・材料学**[2] □ 環境都市システム工学**[2] □ 都市防災システム**[2] □ 環境施設設計**[2]	(　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　) (　)		
				4) 専攻科「環境工学」「先端材料工学」「経営工学」「ものづくり情報工学」の授業で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する．	「ものづくり情報工学」の修得が必要．			□ 環境工学[2] □ 先端材料工学[2] □ 経営工学[2] □ ものづくり情報工学**[2]	(　) (　) (　) (　)		

JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける.	1	構造物または製品を設計する際に，複数の技術分野についても意識しながら，つくる目的を理解し，機能性・安全性および経済性に加えて，環境負荷の低減・快適性などを考慮できる.	(e) (d)(2)a) (d)(2)c)	専攻科「デザイン工学」の授業において，関連事項について理解させ定期試験またはレポート等で評価する.				□ デザイン工学[2]	(　　)			
	2	新しく出会った課題について，自ら問題点を発見しようとする意識を持ち，既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで，それらを蓄積・整理できる.	(e) (d)(2)c) (d)(2)a) (h)	専攻科「創造デザイン演習」の授業で，必ずしも正解のない数分野の課題を複数与え，それらの課題における問題点を，工学の基礎的な知識・技術を統合しながらレポートとしてまとめさせ，評価する.				□ 創造デザイン演習[1]	(　　)			
	3	既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと，自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について，多様な観点から検討・考察し，その結果を具体的に示せる.	(e) (d)(2)c) (d)(2)a) (h)	専攻科「創造デザイン演習」の授業で，必ずしも正解のない課題を与え，その課題について創造性を発揮させた解決案を提案させる．その中から具体化可能な案に対して，成果物を作成させる．その成果物の性能を評価する．また，全体の構成力が問われる課題や問題設定力の問われる課題も与え，レポートで性能，経済性などをまとめさせ，評価する.				□ 創造デザイン演習[1]	(　　)			
	4	異なる分野の人を含んだグループでの協議および共同作業を通して，解決方法について複数の候補を見いだし，その中から最も適切なものを選択できる.	(e) (d)(2)c) (d)(2)a) (h)	専攻科「創造デザイン演習」の授業で，必ずしも正解のない課題に取り組む際に工学の基礎的な知識・技術を統合させるため，3～5名程度のグループを異なる専門学科出身の学生と作らせる．課題に対しては，必ず期限を決め，レポート提出あるいはプレゼンテーションをさせる．それぞれの課題について，個々の解決案からグループの討議を経てグループとして1つの案に絞込み，グループの共同作業として1つの解決案・解決デバイスを作成させる．グループ内での討議内容を含めたレポートあるいはプレゼンテーションの内容で評価する.				□ 創造デザイン演習[1]	(　　)			
JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける.	1	英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき，英語により自分の意見・考えを適切に表現できる.	(f) (e) (g)	1)本科の英語に関する授業で，関連事項について理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する.	専攻科の単位を含めて，英語に関する授業（工学演習を除く）6単位以上の修得が必要.	□ 英語Ⅳ[2] □ 英語Ⅴ[2] □ □ □	(　　) (　　) (　　) (　　) (　　)					
				2)専攻科「現代英語」の授業で，関連事項について理解させ，理解度をプレゼンテーションおよび，定期試験またはレポート等で評価する.				□ 現代英語[2]	(　　)			
	2	得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明できる.	(f) (e)	専攻科「生産システム工学演習Ⅰ，Ⅱ」あるいは「環境システム工学演習Ⅰ，Ⅱ」の授業で，各専門分野の文献・雑誌論文等を通読させ，技術的な内容について理解させ，定期試験またはレポート等で評価する.				□ 生産システム工学演習Ⅰ[1] □ 生産システム工学演習Ⅱ[2]	(　　) (　　)			
	3	自分の意見・主張などを，相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現できる.	(f) (e)	1)本科の日本語に関する授業（国語表現など）で，関連事項を理解させ，理解度を定期試験またはレポート等で評価する.	日本語に関する科目2単位以上の修得が必要.	□ 国語表現[2] □ 国語特講*[1] □ □	(　　) (　　) (　　) (　　)					
				2) 専攻科「特別研究」で，特別研究論文において，その内容を自分の言葉で正しく記述・表現出来ているかどうかを，主査および副査による口頭試問によって評価する.				□ 生産システム工学特別研究[14]	(合・否)			
	4	日本語による口頭発表や討議において，自らの報告・聴衆への対応，他者への質疑などを行える.	(f) (e)	1) 学外の技術者または研究者を交えた発表会においてプレゼンテーションできることで評価する.		発表日： 発表会名称： 発表題目：						
			(f)	2) 専攻科「特別研究」で，特別研究発表会において，次の2つの討議のコミュニケーション能力に関して，発表会参加教員全員が5段階で評価する. 1.聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているかどうか. 2.発表者の主張に対して真摯な態度で聴講し，疑問点を質問しているかどうか				□ 生産システム工学特別研究[14]	(合・否)			
	5	正確で分かりやすいグラフや図表を必要に応じて用意できる.	(e)	専攻科「特別研究」で，特別研究論文におけるグラフや図表の表わし方について，主査および副査が評価する.				□ 生産システム工学特別研究[14]	(合・否)			
JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける.	1	得意とする専門技術分野を含む複数の工学分野において，与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し，提示された方法を計画・実行することにより，定められた期限までに妥当な結果を導ける.	(d)(2)b) (c) (d)(2)d) (e)	1) 本科4または5年における「工学実験」に関する授業で実験の工学的意味を理解し，提示された方法を計画・実行させ，その結果が既存のものと一致することを確認させる．これらの内容をレポートとして期日までにまとめ提出させる．実技の様子とレポートの内容で評価する．評価の割合は実験テーマによって異なる.		□ 機械工学実験Ⅰ[2] □ 機械工学実験Ⅱ[3]	(　　) (　　)					
				2) 専攻科「生産システム工学実験Ⅰ，Ⅱ」あるいは「環境システム工学実験Ⅰ，Ⅱ」の授業で，いくつかの工学分野に関する実験内容を正しく理解・実行し，実験方法及び得られたデータの処理・解析の妥当性を報告書として期日までにまとめ，提出させる．実技の様子とレポートの内容で評価する．評価の割合は実験テーマによって異なる.				□ 生産システム工学実験Ⅰ[2] □ 生産システム工学実験Ⅱ[2]	(　　) (　　)			
	2	数学や情報処理の知識・技術を用いて，実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理し，その結果を評価して，対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し，説明できる.	(d)(2)d) (e)	専攻科「生産システム工学実験Ⅰ，Ⅱ」あるいは「環境システム工学実験Ⅰ，Ⅱ」の授業で，与えられた課題を解決するために必要な数学や情報処理に関する知識と技術を理解させ，それにしたがって実験・解析結果を統計的に処理させる．これらを報告書にまとめさせ，評価する.				□ 生産システム工学実験Ⅰ[2] □ 生産システム工学実験Ⅱ[2]	(　　) (　　)			
	3	技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し，それらを具体的に示せる.	(d)(2)d) (e)	専攻科「インターンシップ」において，長期間実際の企業等においての実務を経験させ，その体験を通して認識した実務上の工学的問題および社会のニーズについて報告書にまとめさせ，報告会を実施する．それらの内容を評価する.				□ インターンシップ[2]	(合・否)			
	4	自ら明確に設定した目標を達成するため，詳細な計画を立て，それに沿って継続して努力できる.	(g) (h) (e)	インターンシップ報告書，学修成果報告書，特別研究論文を期限まで提出することで評価する.				□ インターンシップ[2]	(合・否)			
	5	考察対象に関する見解を論理的に構築し，それに基づいた問題解決のための仮説を立て，適切な実験・解析方法を選択できる.	(d)(2)d) (d)(2)c) (e)	専攻科「特別研究」で，特別研究論文において，研究テーマに沿った考察対象に関する見解をまとめさせ，その内容が論理的に構築され，問題解決のための仮説が適切に立てられているかどうかを主査および副査が評価する．5段階で評価する.				□ 生産システム工学特別研究[14]	(合・否)			
				各科目における関連事項および評価基準については，シラバスを参照すること		*：選択必修科目，**：選択科目						

（出典　専攻科委員会）

6－1－①－7

「特別研究（中間発表）評価シート」

平成　　年　　月　　日

特別研究（中間発表）評価シート

テーマ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

① **予稿において，その表現が分かりやすく規範的な日本語でかかれているか**　　（　／5　）点

□目的・概要・実験手法・結果・考察が記載されているか　□専門分野の難解な用語などを分かりやすく説明しているか

□日本語の使い方に誤りはないか　□目的･概要・実験手法・結果・考察が論理的に説明されているか

□自分の研究の新規性や応用可能領域がどこにあるのか説明しているか

② **聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか**

（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

(1)発表タイトルと発表者名が明確に示され，発表するのにふさわしい服装であるか

(2)聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか

(3)スライド１枚１枚を丁寧に説明し，またスライドにある文言は復誦しているか

(4)発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その順序のとおりと発表されているか

(5)最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

③ **プレゼンテーション用スライドが印象的に作成されているか（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）**

(1)中心点がビジュアル・プレゼンテーション（映像）で提示されているか

(2)簡潔明瞭な構成が掲示されているか　(3)スライドの分量や順序は適切であるか

(4)文字やキーワードは適切であるか　(5)図・表・写真の利用は適切であるか

④ **決められた発表時間内に，伝えたい内容を精選して発表されているか**

（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

(1)原稿の棒読みはされていなかったか　(2)聴衆の反応に対して調子の変更等の準備がなされていたか

(3)話の難易度，速度は適切であったか　(4)聞き取りやすい語句を用いていたか

(5)声の調子や話のアクセントは適切であったか

⑤ **説明に必要な図表が正確に分かりやすく描けているか**　**（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）**

(1)説明に必要な図表を交えた資料を作成していたか　(2)図表に表題・軸名・項目名・単位などが正しく記載されていたか

(3)図表の内容が読みやすく理解しやすいように工夫されていたか

(4)図表に対する解説が正しく行われたか　(5)図表の内容を踏まえた論旨の展開が適切に行われたか

⑥ **研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか**　**（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）**

(1)求めることが出来た結果の評価を行っているか

(2)求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討しているか

(3)研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及しているか

(4)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されているか

(5)求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されているか

⑦ **聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか**　**（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）**

(1)発表時間を遵守したか　(2)座長の進行に則って質疑応答したか

(3)質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか　(4)質問内容に応じた返答を行ったか

(5)応答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか

⑧ **発表者の主張に対して真摯な態度で聴講し，疑問点を質問できたか**

（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

(1)特別研究発表会に参加しているか　(2)他者の発表を適切な態度で聴講していたか

(3)実際に他者の発表に対し質疑応答時に質問をしているか　(4)質問は発表内容にあっているか

(5)質問が問題点に言及したり、別な手法などを提言しているか

審査員署名＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　専攻科履修の手引）

6－1－①－8

「特別研究（口頭試問・特別研究ノート評価シート）」

平成　年　月　日

特別研究（口頭試問・特別研究ノート）評価シート

テーマ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

① **特別研究ノートに，研究テーマとその周辺の事柄に関して，自ら目標を定め，研究を計画，遂行しているか，ということをまとめているか**　**（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）**

(1) 特別研究ノートを作成しているか
(2) 特別研究ノートに自ら目標を定めた記録が残されているか
(3) 特別研究ノートに目標，計画，遂行の流れにそって継続的な記録が残されているか
(4) 特別研究ノートに，指導教員との討論した記録が残されているか
(5) 研究内容への討議を通じて理解が深まっているか

② **特別研究論文の内容が自分の言葉で正しく記述・表現できるかどうか**　（　／5）点

□ 目的・概要・実験手法・結果・考察が記載されているか
□ 専門分野の難解な用語などを分かりやすく説明しているか
□ 日本語の使い方に誤りはないか
□ 目的･概要･実験手法･結果･考察が論理的に説明されているか
□ 自分の研究の新規性や応用可能領域がどこにあるのか説明しているか

③ **研究テーマに関する実務上の工学的問題および社会のニーズをまとめることができているか**　（　／5）点

□ 工学的問題および社会のニーズが研究テーマに関連しているか
□ 工学的問題および社会のニーズと判断したプロセスが論理的に正しいか
□ 工学的問題および社会のニーズが具体的に示されているか
□ 工学的問題および社会のニーズの原因を把握しているか
□ 工学的問題および社会のニーズとして適切であるか

④ **研究遂行のために必要な情報ソースとその活用方法が理解できているか**　（　／5）点

□ 情報ソースの収集能力があるか
□ 多様な情報ソースを用いているか
□ 情報の分析能力はあるか
□ 情報の応用能力があるか
□ 研究遂行のための情報ソースの活用方法は適切であるか

⑤ **研究遂行のために有効な実験方法または解析方法を理解しているか**　（　／5）点

□ 有効な実験・解析方法について熟知しているか
□ 他の実験・解析方法を知っているか
□ 有効な実験・解析方法と判断するプロセスが論理的か
□ 有効な実験・解析方法に独自性が含まれているか
□ 研究遂行のための有効な実験・解析方法であるか

⑥ **実験・解析結果を導出する際に統計・数式処理の取り扱いが正確に行なわれているか**　（　／5）点

□ 数学の知識・技術を用いてデータ等を取り扱っているか
□ 情報処理の知識・技術を用いてデータ等を取り扱っているか
□ データを取り扱う際，統計的処理あるいは数式処理の取り扱いが正確に行われているか
□ データ等の取り扱いの結果が図表でまとめられているか
□ データ等の取り扱いの結果が図表でまとめられており，その結果に論理的矛盾がないか

審査員署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　／15）点

J

（出典　専攻科履修の手引）

6－1－①－9

「特別研究（論文）評価シート」

平成　　年　　月　　日

特別研究（論文）評価シート

テーマ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

① 論文の章立てなどの構成が研究内容を正しく表現しているか　（　／5）点

□ 研究論文は適切な章立てに従って構成されているか
□ タイトルと要旨は適切であるか　□ 緒言は適切であるか
□ 実験方法，結果，考察，結論は適切であるか　□ 引用文献，図・表は適切に引用されているか

② 論文の説明に必要な図表等の取り扱いができているか　（　／5）点

□ 説明に必要な図表を交えた資料を作成しているか
□ 図表に表題・軸名・項目名・単位などが正しく記載されているか
□ 図表の内容が読みやすく理解しやすいように工夫されているか
□ 図表に対する解説が正しく行われているか
□ 図表の内容を踏まえた論旨の展開が適切に行われているか

③ 研究テーマに関する実務上の工学的問題および社会のニーズをまとめることができているか　（　／5）点

□ 工学的問題および社会のニーズが研究テーマに関連しているか
□ 工学的問題および社会のニーズと判断したプロセスが論理的に正しいか
□ 工学的問題および社会のニーズが具体的に示されているか
□ 工学的問題および社会のニーズの原因を把握しているか
□ 工学的問題および社会のニーズとして適切であるか

④ 研究テーマに沿った工学上の考察対象に関する見解を示され，その内容が論理的に構築され，問題解決のための仮説が適切にたてることができているか　（　／5）点

□ 考察対象の見解が示されているか　□ 見解には独自性が含まれているか
□ 論理的に矛盾なく構築されているか　□ 仮説が明確に示されているか
□ 仮説が適切であるか

⑤ 問題提起から問題解決のプロセスがまとめてあり，その中に，得られた情報をどのように活用したか，および研究遂行のために選択した実験・解析方法が適切に選択しているか　（　／5）点

□ 問題提起から問題解決のプロセスが示されているか　□ 情報を活用しているか
□ 複数の実験・解析方法から選択しているか
□ 選択した実験・解析方法が論理的に選択されているか
□ 選択した実験・解析方法の特徴を理解しているか

⑥ 実験・解析結果を導出する際に統計・数式処理の取り扱いが正確に行なわれているか　（　／5）点

□ 数学の知識・技術を用いてデータ等を取り扱っているか
□ 情報処理の知識・技術を用いてデータ等を取り扱っているか
□ データを取り扱う際，統計的処理あるいは数式処理の取り扱いが正確に行われているか
□ データ等の取り扱いの結果が図表でまとめられているか
□ データ等の取り扱いの結果が図表でまとめられており，その結果に論理的矛盾がないか

⑦ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等を詳しく説明しているか　（　／5）点

□ 求めることが出来た結果の評価を行っているか
□ 求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討しているか
□ 研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及しているか
□ 求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されているか
□ 求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されているか

審査員署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　（　／40）点

K

（出典　専攻科履修の手引）

6－1－①－10

「特別研究（最終発表）評価シート」

平成　　年　　月　　日

特別研究（最終発表）評価シート

テーマ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学生氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

① 聴衆を意識しながら，口頭発表が論理的に展開されているかどうか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴発表タイトルと発表者名が明確に示され，発表するのにふさわしい服装であるか
⑵聴衆の方向を向いて発表し，話している内容とスライドの内容が一致しているか
⑶スライド１枚１枚を丁寧に説明しているか
⑷発表の最初の部分で内容の概略を説明しており，その順序のとおりと発表されているか
⑸最初に結論（問題提起と解決策の概略）があり，その結論に到達するように発表されているか

② プレゼンテーション用スライドが印象的に作成されているか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴中心点がビジュアル・プレゼンテーション（映像）で提示されているか
⑵簡潔明瞭な構成が掲示されているか　⑶スライドの分量や順序は適切であるか
⑷文字やキーワードは適切であるか　⑸図・表・写真の利用は適切であるか

③ 決められた発表時間内に，伝えたい内容を精選して発表されているか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴原稿の棒読みはされていなかったか　⑵聴衆の反応に対して調子の変更等の準備がなされていたか
⑶話の難易度，速度は適切であったか　⑷聞き取りやすい語句を用いていたか
⑸声の調子や話のアクセントは適切であったか

④ 説明に必要な図表が正確に分かりやすく描けているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴説明に必要な図表を交えた資料を作成していたか　⑵図表に表題・軸名・項目名・単位などが正しく記載されていたか
⑶図表の内容が読みやすく理解しやすいように工夫されていたか
⑷図表に対する解説が正しく行われたか　⑸図表の内容を踏まえた論旨の展開が適切に行われたか

⑤ 研究テーマに沿った実験・解析結果の評価の妥当性，および研究テーマに関する工学的現象の成り立ち・仕組み等が説明できているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴求めることが出来た結果の評価を行っているか
⑵求めることが出来た結果の評価の妥当性について検討しているか
⑶研究テーマに関連する工学的現象の成り立ち・仕組み等に言及しているか
⑷求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の成り立ちがわかりやすく説明されているか
⑸求められたデータの評価結果から，研究テーマに関連する工学的現象の仕組みがわかりやすく説明されているか

⑥ 聴衆の質疑に対して適切に応答出来ているか　（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴発表時間を遵守したか　⑵座長の進行に則って質疑応答したか
⑶質問を真摯に聞き，その内容を把握に努めたか　⑷質問内容に応じた返答を行ったか
⑸応答の内容は簡潔で要点を明確にしていたか

⑦ 発表者の主張に対して真摯な態度で聴講し，疑問点を質問できたか
（よい・ややよい・普通・ややわるい・わるい）

⑴特別研究発表会に参加しているか　⑵他者の発表を適切な態度で聴講していたか
⑶実際に他者の発表に対し質疑応答時に質問をしているか　⑷質問は発表内容にあっているか
⑸質問が問題点に言及したり、別な手法などを提言しているか

審査員署名＿＿＿＿＿＿＿＿（／35）点

L

（出典　専攻科履修の手引）

（分析結果とその根拠理由）
＜本科課程＞
本校の教育課程は，基本理念，教育方針，養成すべき人材像，学習教育目標に対応づけて体系化されており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）の大多数が必修科目となっている。以上のことから，本科においては，学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像について，その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われていると判断できる。
＜専攻科課程＞
学生の学習教育目標の達成度は，学生自らが自己点検で行い，定期的に各学科の専攻科委員に報告している。従って本校専攻科課程においては，学生が修了時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像について，その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われていると判断できる。

６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）
単位修得に関わる成績評価ならびに進級・卒業（修了）認定基準は適切に設定されており，その基準に即して単位認定，進級・卒業（修了）判定は厳格に行われている。
１．単位取得状況
本校では本科において，年度内に４回の定期試験（前期中間試験，前期期末試験，後期中間試験，学年末試験）を実施し，学生の学業成績を評価し単位認定を行っている。不認定科目を残して進級した場合（仮進級）は，次年度に再度学習を促して学力の向上を図り，その後，再評価を行っている。不認定単位数の累計を（資料６－１－②－１）に示す。平成２３年度の不認定単位数の累計は1,007単位に上った。とくに２年生の不認定単位が多いことが判る。ゆとり教育による基礎学力の低下が原因と考えられ毎年変動はしているものの，急激な増加が見られたため学校全体で補習等を実施していく必要がある。
２．原級留置者及び退学者・休学者数
仮進級については，５０点から５９点の評価が２科目まで認められ，原則４９点以下が１科目以上ある場合，５０点から５９点の評価が３科目以上の場合，欠課時数が年間授業総時間数の３分の１を超える場合は原級留置となる。学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の年度推移を（資料６－１－②－２）に示す。原級留置者は，年度によるバラツキはあるものの過去７年の平均において，第１学年で１．７人，第２学年で９．６人，第３学年で１１．６人，第４学年で９．７人，第５学年で１．４人となっている。また，進級率の平均は約９５．５％となっており，高い水準を維持されていることが判る。退学者は，平成１９年度に３８人（退学率：約３．８％）と多かったが，それ以外の年度は，１３人（平成２１年度の退学率：約１．３％）から２８人（平成２３年度の退学率：約２．８％）の間で推移している。
休学者については，語学留学のために休学する事例もあれば，心身の病気等の理由による休学者も見られる。本校では，学級担任が中心となって保護者あるいは学生相談室との連携を図りながら慎重に議論を重ねて休学を決定している。なお，休学者については（資料６－１－②－３）に示すとおり，減少傾向にある。

３．学業成績状況

学年末成績の平均値の推移（資料６－１－②－４）によると，本科では７７点から７８点台と高い水準が維持されている。不認定単位数の累計が増加する中で平均値の推移は変動が少ないことから，成績上位と下位の学生の差が開いていると考えられる。

また，基準６－１－①で述べたように本校では学習達成度評価について，本科では学習達成度評価シートを，また専攻科では学習教育目標達成度自己点検シートを用いて達成状況を把握・評価している。なお，本科における学習達成度評価シートに関する取り組みは平成２２年度卒業生から始めたものであるが，平成２４年度在学中の学生は，在校生全員が学習達成度評価シートを記入している。専攻科の学習・教育目標達成度自己点検シートは，平成２２年度以前の入学生は達成できた項目をチェック（○をつける形式）で達成度を確認し平成２３年度入学生からは点数を記入している。本科の平成２２，２３年度卒業生の評価結果の平均を（資料６－１－②－５）に示す。３点満点中，２．５点以上と高い水準が維持されていることより，本校の教育の成果や効果が維持されていると判断できる。

４．資格等取得状況

英語能力が問われるTOEIC IP試験や，製図及びコンピュータの知識が問われるCAD利用技術者試験は，本校を会場として受験できるよう団体受験を申請し，学生への便宜を図っている。また，資格取得者は，本校の広報誌（青武台だより（年４回発行））の３月発行分に資格名・学級・氏名を掲載し，学生の意欲向上を図るだけでなく，学外に対しても広く広報している（６－１－②－６，７）。

５．各種コンテスト・コンペティション

本校では，各種コンテスト・コンペティションとして，毎年，ロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，デザインコンペティション等に出場している。

高専ロボットコンテストには，機械工学科が中心となり取り組んでいる（資料６－１－②－８）。本校は1990年から地区大会に出場し好成績を収めて全国大会に進んだ結果，初出場ながらベスト８の成績を収めた。また，1993年及び1997年には，ロボコン大賞を受賞している。さらに，2000年から2010年まで１１年連続で全国大会に出場し2000年及び2005年には特別賞，2001年及び2006年にはベスト４の成績を収めている。

全国高専プログラミングコンテストには，電子情報工学科が中心となり，第一回の大会から作品の応募を行っている（資料６－１－②－９）。2010年度（第２１回）及び2011年度（第２２回）の大会では，敢闘賞を受賞するなど，優秀な成果を収めている。

全国高専デザインコンペティションには，環境都市工学科が中心となり，構造部門には第一回（2004年）のデザコンのから毎年出場している（資料６－１－②－10）。４年前には構造部門で全国１位を獲得するなどの成果を上げている。また，建築系カリキュラムが導入されたことをきっかけに，環境部門，空間部門，ものづくり部門にもエントリーし，主管校が実施する予選を突破して全国大会に出場するチームも出てきている。

６－１－②－１

「不認定単位数の推移」

	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
１年	54	96	23	33	28
２年	419	212	101	266	162
３年	234	197	113	134	194
４年	250	133	166	187	119
５年	50	62	41	52	48
合計	1007	700	444	672	551

（ただし，欠席超過を除く）

（出典　学生課）

6－1－②－2

「学年別の仮進級者数・原級留置者数・進級率等の年度推移」

年度	第1学年				第2学年				第3学年			
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率
平成17(2005)	8	4.0%	0	0.0%	12	5.9%	5	2.5%	16	7.8%	16	7.8%
平成18(2006)	15	7.4%	4	2.0%	20	9.9%	7	3.4%	21	10.3%	14	6.9%
平成19(2007)	10	4.9%	0	0.0%	15	7.4%	7	3.5%	23	11.1%	17	8.2%
平成20(2008)	13(2)	6.4%	0	0.0%	25(3)	12.0%	12	5.8%	22(3)	11.1%	4(1)	2.0%
平成21(2009)	6	3.0%	2	1.0%	22(3)	10.4%	2	0.9%	24(5)	12.2%	5	2.5%
平成22(2010)	10(1)	4.9%	3	1.5%	27(1)	13.5%	11	5.5%	32(6)	14.9%	12	5.6%
平成23(2011)	4(1)	2.0%	3	1.5%	38(3)	18.4%	23(3)	11.2%	34(4)	17.3%	13(2)	6.6%
年平均	9.4	4.7%	1.7	0.9%	22.7	11.1%	9.6	4.7%	24.6	12.1%	11.6	5.7%

年度	第4学年				第5学年				第1~4学年(合計・率は平均)				
	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	原級留置率	卒業率	仮進級者数	仮進級率	原級留置者数	進級率
平成17(2005)	16	8.0%	6	3.0%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	52	6.4%	27	96.7%
平成18(2006)	18	9.1%	8	4.1%	0	0.0%	4	2.1%	97.9%	74	9.2%	33	95.9%
平成19(2007)	24	12.3%	8	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	72	8.9%	32	96.0%
平成20(2008)	20(5)	10.8%	14	7.5%	0	0.0%	1	0.5%	98.9%	80(13)	10.1%	30(1)	96.2%
平成21(2009)	19(2)	9.3%	2(1)	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	100.0%	71(10)	8.7%	30(1)	96.3%
平成22(2010)	18(4)	9.1%	15(1)	7.6%	0	0.0%	1	0.5%	99.5%	87(12)	10.7%	41(1)	95.0%
平成23(2011)	29(6)	13.7%	15	7.1%	0	0.0%	3(1)	1.7%	98.3%	105(14)	12.9%	54(5)	92.6%
年平均	20.6	10.3%	9.7	4.9%	0	0.0%	1.4	0.8%	99.2%	77.3	9.6%	35.3	95.5%

学年別の退学者数・退学率の経年変化

年度	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		全学年	
	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率	退学者数	退学率
平成17(2005)	1	0.5%	1	0.5%	14	6.8%	7	3.5%	0	0.0%	23	2.3%
平成18(2006)	0	0.0%	5	2.5%	6	2.9%	3	1.5%	0	0.0%	14	1.4%
平成19(2007)	2	1.0%	5	2.5%	24	11.6%	5	2.6%	2	1.0%	38	3.8%
平成20(2008)	1(1)	0.5%	5(2)	2.4%	4(1)	2.0%	7	3.8%	1	0.5%	18(4)	1.8%
平成21(2009)	0	0.0%	2	0.9%	3(1)	1.5%	8(2)	3.9%	0	0.0%	13(3)	1.3%
平成22(2010)	2	1.0%	7(1)	3.5%	5	2.3%	8(1)	4.1%	0	0.0%	22(2)	2.2%
平成23(2011)	4(2)	2.0%	6(1)	2.9%	7(1)	3.6%	9(2)	4.2%	2(1)	1.1%	28(7)	2.8%
年平均	1.4	0.7%	4.4	2.2%	9.0	4.4%	6.7	3.4%	0.7	0.4%	22.3	2.2%

除籍は含めない　　（ ）内は女子で内数

退学者数＝年度途中退学者数＋学年末退学者数

退学率＝(退学者数／学生数)×100

（出典　学生課）

６－１－②－３

「休学者の推移」

	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
１年		２	２		２	
２年	４				１	３
３年					２	３
４年	２		１	１	１	３
５年	１			１	１	４
合計	７人	２人	３人	２人	７人	13人

（出典　学生課）

６－１－②－４

「学年末成績の平均値」

	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
学年末成績の平均値	77.28	77.18	78.41	78.74	78.20

（出典　学生課）

６－１－②－５

「本科の学習達成度評価の平均値」

	平成 23 年度	平成 22 年度
達成度の平均値	2.52	2.58

（出典　学生課）

６－１－②－６

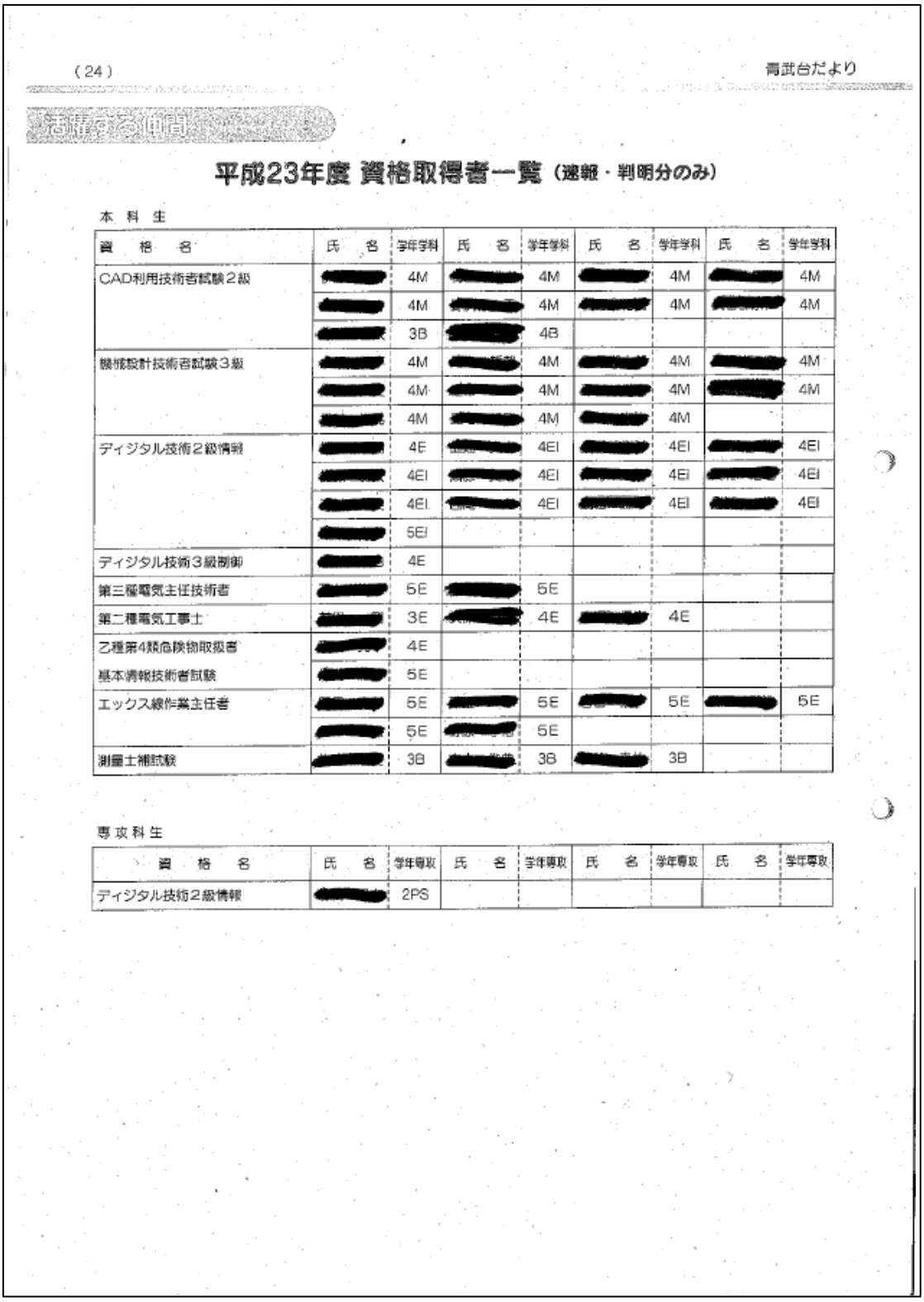
「学生の資格取得数」

	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
資格取得数	56	133	77	75	121

（出典　学生課）

6－1－②－7

「青武台だよりに掲載された学生の資格取得者一覧（抜粋）」



（24）　青武台だより

活躍する仲間

平成23年度 資格取得者一覧（速報・判明分のみ）

本科生

資格名	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科
CAD利用技術者試験２級	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	3B	[redacted]	4B				
機械設計技術者試験３級	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M		
ディジタル技術２級情報	[redacted]	4E	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	5EI						
ディジタル技術３級制御	[redacted]	4E						
第三種電気主任技術者	[redacted]	5E	[redacted]	5E				
第二種電気工事士	[redacted]	3E	[redacted]	4E	[redacted]	4E		
乙種第4類危険物取扱者	[redacted]	4E						
基本情報技術者試験	[redacted]	5E						
エックス線作業主任者	[redacted]	5E	[redacted]	5E	[redacted]	5E	[redacted]	5E
	[redacted]	5E	[redacted]	5E				
測量士補試験	[redacted]	3B	[redacted]	3B	[redacted]	3B		

専攻科生

資格名	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻
ディジタル技術２級情報	[redacted]	2PS						

（出典　青武台だより）

6－1－②－8

「ロボコンの成績」

福井高専@ロボコン

過去の戦歴　パネル　ロボットデモ　3DCG　QTVR

過去の戦歴

福井高専のロボコンチームは、「NHKアイデア対決ロボットコンテスト」に出場して、数々の優秀な成績を収めてきました。ここでは、その戦歴を皆さんにチョッピリ自慢させていただきます。
（テーマをクリックすると解説ページへ飛びます。）

年度	テーマ名	マシン名	地区大会成績	全国大会成績
2007	風林火山 ロボット騎馬戦	鯖竜	アイデア賞	－
		塔迅坊	優勝	3回戦敗退
2008	ROBO-EVOLUTION 生命大進化	タマごん	ベスト4、技術賞	1回戦敗退
		ジュエリーフィッシュ	ベスト4	－
2009	DANCIN' COUPLE	ヤチマタ	優勝	1回戦敗退
		フクリュウ親子	ベスト4	－
2010	激走！ロボ力車	Air Walker	デザイン賞、特別賞	2回戦敗退
		もんじゅの知恵	一回戦敗退	－
2011	ロボ・ボウル	パラボラQ	1回戦敗退	－
		投迅防	デザイン賞	－

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/robocon/past.html）

6－1－②－9

「プロコンの成績」

電子情報工学科

学科や卒業研究などの活動の紹介

●福井高専　●電子情報　●学科紹介　●スタッフ　●オフィスアワー　●卒研　●プロコン

カテゴリ

プロコン (12)
公開講座 (1)
出前授業 (4)
卒業研究 (2)
研究 (1)
電子情報 (12)

月別アーカイブ

2012年5月 (2)
2012年3月 (3)
2012年2月 (1)
2012年1月 (2)
2011年12月 (2)
2011年11月 (1)
2011年9月 (1)
2011年8月 (2)
2010年10月 (1)
2010年9月 (1)
2010年8月 (1)

全国高専プログラミングコンテスト

全国高専プロコン　その他のコンテスト

全国高専プログラミングコンテスト

第22回

1. 課題(敢闘賞):「TRGP～Travelers Road Playing Game～」(4EI:多田,3EI:青山,玉木,山腰)
2. 競技:「あのころの面影を求めて」(4EI:和田,矢納)

第21回

学内審査結果 予選応募資料

- 今年度のプロコンのテーマが発表され、創造工学およびIT研究会より応募があり、学内審査の結果、5チームを書類審査に望み、最終的に2チームが参加することになりました。

1. 自由(敢闘賞):「砂であそぼう！！～砂で描くメッセージ～」(4EI:本山、久世、小林成、森、ツェンデ)
2. 競技敢者復活戦敗退:「4セルくれ～2セルで十分ですよ～」(4EI:戸嶋、直江、八田、原、山田)

第20回

学内審査結果 予選応募資料

検索

検索

最近のブログ記事

キャンパスウォーク(5/12)
松江Webアプリコンテスト 4I4山勝君 最優秀賞
永年勤続表彰・校長表彰
電子情報工学科・卒業式・謝恩会
平成23年度北陸地区学生による研究発表会
H23年度卒研発表資料
講演会案内:Webデザインのセオリーを学ぼう
講演会案内:進化する人類とゲーム
第22回高専プロコン-惜しくも敢闘賞
電情OBの中西氏が、Mashup Award 7で最優秀賞

（出典　本校ホームページ　http://www.ei.fukui-nct.ac.jp/procon/）

6－1－②－10

デザコンの成績（構造部門）

回 年度	主管校 （開催地）	参加チーム数	本校の 順位	表彰の結果
第一回 2004	石川高専 （石川県）	21	5	佳作
第二回 2005	明石高専 （兵庫県）	45	16	
第三回 2006	都城高専 （宮崎県）	50	5	佳作
第四回 2007	徳山高専 （山口県）	29	14	
第五回 2008	高松高専 （香川県）	30	1	優秀賞 審査員特別賞
第六回 2009	豊田高専 （愛知県）	53	15	
第七回 2010	八戸高専 （青森県）	52	21	
第八回 2011	釧路高専 （北海道）	53	29	

デザコンの成績（構造部門以外）

回 年度	主管校 （開催地）	環境	空間	ものづくり
第五回 2008	高松高専 （香川県）	０／０	０／１	０／２
第六回 2009	豊田高専 （愛知県）	１／１	０／２	０／１
第七回 2010	八戸高専 （青森県）	１／２	０／２	０／２
第八回 2011	釧路高専 （北海道）	０／１	０／１	１／２

本戦出場チーム数／エントリーチーム数

（出典　本校環境都市工学科）

（分析結果とその根拠理由）

学生の学業成績の平均点，進級，卒業（修了）時の状況は，年度による変動はあるものの，ほぼ毎年度高い水準を保っており基本的に教育活動は健全に機能しているといえる。また，学習の成果は，各種コンテスト・コンペティションへの参加や資格取得に向けられている。以上のことから，本校では各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や資質，能力を，学校の立場からその達成状況を評価した結果から，教育の成果や効果が維持されていると判断できる。

６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

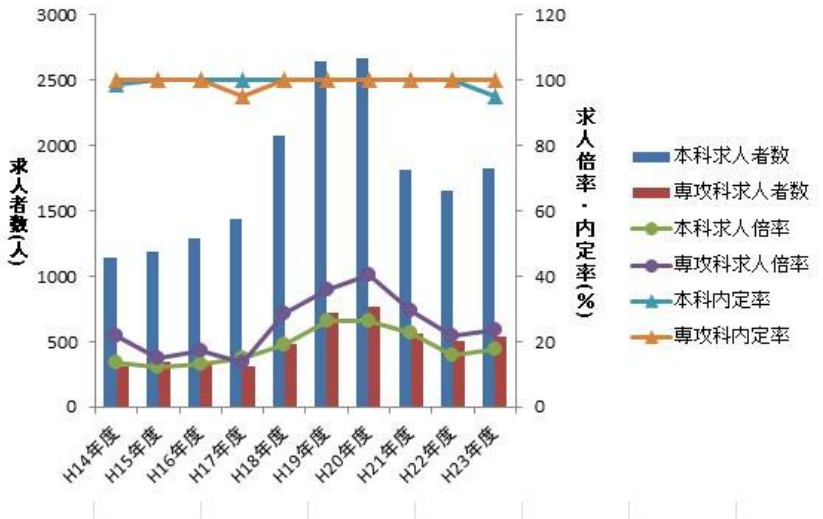
（観点に係る状況）

就職に対する求人については，昨今の景気状況の悪化にかかわらず，非常に多くの求人を頂いている（資料６－１－③―１）。また就職及び進学の状況に関しては，毎年度の学校要覧に記載し，学外へ公表している（資料６－１－③－２，３）。この状況の下で就職率（就職者数を就職希望者で除した値）及び進学率（進学者を進学希望者で除した値）は，本科及び専攻科のいずれにおいても極めて高い水準を維持している（６－１－③―４～７）。平成２３年度の学科毎の本科卒業生及び専攻科修了生の業種別就職者数から判断すると，ほとんどの卒業生・修了生が当該分野の技術系へ進んでいることから，教育の成果や効果が維持されているといえる。また進学についても，平成２３年度の本科卒業生の進学先大学・学部等及び専攻科修了生の進学先大学院は，その大半が国公立の理工系であることから，この観点からも教育の成果や効果が維持されていると判断できる。

６－１－③－１

「求人数，求人倍率と内定率」

		H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
求人者数	本科	1143	1184	1285	1438	2075	2641	2668	1813	1649	1820
	専攻科	308	341	326	311	486	719	770	565	503	538
求人倍率	本科	13.6	12	13	15.1	19.2	26.4	26.4	22.9	16	17.5
	専攻科	22	14.8	17.2	13.5	28.6	36	40.5	29.7	21.9	23.4
内定率	本科	98.8	100	100	100	100	100	100	100	100	95.2
	専攻科	100	100	100	95.2	100	100	100	100	100	100



（出典　学生課）

6－1－③－2

「就職の状況」

■就職状況　Situation of Employment

学　科 Dept　　(平成23年度卒業者)

区　分 Classification			機械工学科 Department of Mechanical Engineering	電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering	電子情報工学科 Department of Electronics and Information Engineering	物質工学科 Department of Chemistry and Biology	環境都市工学科 Department of Civil Engineering	専攻科 Advanced Engineering Course	合計 Total
卒業者数		Number of Graduates	35	41 (3)	33(3)	39 (18)	31 (5)	27 (9)	206 (38)
就職者数		Number of Employed	22	25 (3)	17 (3)	19 (8)	18 (1)	23 (9)	124 (24)
その他		Others	1		1	3 (1)	1	1	7 (1)
進学者数		Number of Entrants into Universities	12	16	15	17 (9)	12 (4)	3	75 (13)
求人会社数		Job Offered Companies	462	472	391	290	260	556	2,431
求人数		Job Offers	462	472	391	290	260	556	2,431
就職者数 Number of Employed	規模別 Scales	500人以上の事業所 Companies More than 500 Employees	16	21 (3)	7	14 (4)	6 (1)	5	69 (8)
		499～101人の事業所 Companies 499～101 Employees	3	3	7 (2)	2 (2)	3	7 (4)	25 (8)
		100人以下の事業所 Companies Less Than 100 Employees	3	1	3 (1)	3 (2)	3	5 (3)	18 (6)
		官公庁 Public Offices					6	6 (2)	12 (2)
		計 Sub Total	22	25 (3)	17 (3)	19 (8)	18 (1)	23 (9)	124 (24)
	産業別 Industries	林業・鉱業 Mining Industry							
		建設業 Construction Industry					7		7
		製造業 Manufacturing Industry　食料品・たばこ Food, Tobacco	1			1			2
		繊維工業・その他繊維製品 Textile Industry, Textile Goods				2 (1)		1 (1)	3 (2)
		木製品・家具・装飾品 Wood Products, Furniture							
		パルプ・紙・紙加工品 Pulp and Paper	1						1
		印刷・同関連 Printings							
		化学工業 Chemical Industry				2		5 (4)	7 (4)
		石油・石炭製品 Petroleum,coal Products	1			2			3
		プラスチック製品 Plastic	1	1		1 (1)			3 (1)
		ゴム製品 Rubber							
		革・毛皮製品 Leather, Fur Products							
		窯業・土石製品 Pottery Industry, Soil and Stone products							
		鉄鋼業 Iron and Steel							
		非鉄金属・金属製品 Nonferrous Metals	2					2 (1)	4 (1)
		一般機械器具 Machinery	2		3 (1)				5 (1)
		電気機械器具 Electronic Machines	1	3 (2)		2		3	9 (2)
		情報通信機械器具 Information, Communication		1				1	2
		電子部品・デバイス Electronic Parts, Devices	7	5	6 (1)	1 (1)			19 (2)
		輸送用機械器具 Transportation Machines	3				1		4
		精密機械器具 Precision Instruments	1					1	2
		その他製造業 Miscellaneous Production	1	1		2 (2)			4 (2)
		自営業 Self-management							
		電気・ガス・水道 Electricity, Gas, Waterworks	1	12 (1)	2	2 (1)	2 (1)	1	20 (3)
		情報通信業（情報サービス業含む） Information, Communication			6 (1)			1 (1)	7 (2)
		運輸業 Transportation		2		1	1		4
		卸売・小売業 Wholesale Retail				1 (1)			1 (1)
		金融・保険業 Finance Insurance							
		不動産業 Real Estate Business							
		医療・福祉 Medical Treatment, Welfare					1		1
		教育・学習支援業 Education, Learning Support				1 (1)			1 (1)
		サービス業（自動車整備業、機械設計業、建築設計業、測量業、土木建築サービス業、エンジニアリング業、その他の専門サービス業） Service Industry				1		2	3
		公務員 Public Service					6	6 (2)	12 (2)
		計 Sub Total	22	25 (3)	17 (3)	19 (8)	18 (1)	23 (9)	124 (24)

（　）内は女子で内数　Female

（出典　国立福井高専要覧２０１２，p.50）

6－1－③－3

「進学の状況（抜粋）」

大学編入学・高専専攻科(過去5年)入学状況

大学等名	学部等	19年までの累計	平成20年						平成21年						平成22年							
			M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E
北海道大学	工学部	1						0						0						0	1	
	農学部	2						0						0						0		
北見工業大学	工学部	1						0						0						0		
岩手大学	工学部	1						0						0						0		
	農学部	2						0						0						0		
東北大学	工学部	1						0						0						0		
秋田大学	鉱山学部	3						0						0						0		
	工学資源学部	0						0	1					1						0	1	
茨城大学	工学部	1						0						0						0		
	教育学部	1						0						0						0		
	理学部	0						0						0			1			1		
宇都宮大学	工学部	1						0						0						0		
筑波大学	第二学群	1				1		1						0						0		
	第三学群	6		2				2						0						0		
	情報学群	0						0			1			1			1			1		
	理工学群	0						0						0	1		1	1		3		
	生命環境学群	0						0						0				1		1		
図書館情報大学	図書館情報学部	4						0						0						0		
群馬大学	工学部	3						0						0						0		
埼玉大学	工学部	2						0						0						0		
千葉大学	工学部	8						0						0						0		
東京大学	工学部	3						0						0	1					1		
東京農工大学	工学部	10						0						0						0		
東京工業大学	工学部	5				1		1						0						0		
	生命理工学部	2						0				1		1						0		
東京海洋大学	商船学部	1						0						0						0		
お茶の水女子大学	理学部	5						0						0			1			1		
電気通信大学	電気通信学部	7	1					1						0						0		
防衛大学校	システム工学群	0						0						0	1					1		
新潟大学	理学部	2						0						0						0		
	工学部	3			1			1						0						0		
長岡技術科学大学	工学部	180	2	2		2	5	11	1	1		4		6		6		3	2	11	2	
富山大学	工学部	3						0						0		1				1	2	
金沢大学	工学部	82	1		1	1		3						0						0		
	理学部	0			1			1						0						0		
	理工学域	0						0	2	2	2		1	7	1		3		1	5	1	
福井大学	工学部	162	1		6		2	9	2	1	2	2		7	1		1	1	2	5	2	
山梨大学	工学部	11						0						0						0		
信州大学	経済学部	6						0						0						0		
	工学部	7						0						0					1	1		
	繊維学部	2						0						0						0		
	農学部	1						0						0						0		
岐阜大学	工学部	39	1				2	3	1				2	3			1		1	2	1	
	農学部	2						0						0						0		
	地域科学部	1						0						0						0		
静岡大学	工学部	1						0						0		1				1		
	情報工学部	1						0						0						0		
名古屋大学	工学部	1		1				1			1			1						0		
名古屋工業大学	工学部	4						0						0						0		
豊橋技術科学大学	工学部	227	2	2	3	3	1	11	4	2	2	2		10	4	1	2	5	2	14	2	
三重大学	工学部	17		1				1						0						0		
	生物資源学部	3						0						0						0		
京都大学	工学部	4						0			1			1						0		
京都工芸繊維大学	工芸学部	4						0						0						0		
	工芸科学部	0						0			1			1						0		
	繊維学部	1						0						0						0		
大阪大学	基礎工学部	0			1			1						0						0		
	工学部	0						0						0						0		
神戸大学	工学部	6	1		1			2						0						0		
	理学部	4				1		1						0			1			1		
	農学部	1						0						0						0		
奈良女子大学	理学部	1						0						0						0		
和歌山大学	システム工学部	5			1			1						0			2			2		
鳥取大学	工学部	2						0						0						0		
島根大学	総合理工学部	1						0						0						0		
岡山大学	工学部	19						0						0						0		
	理学部	4						0						0						0		
	経済学部	2						0						0						0		
	環境理工学部	1						0						0						0		
広島大学	工学部	6						0					1	1						0		
	経済学部	1						0						0						0		
	理学部	1						0						0						0		
	生物生産学部	0				1		1						0				1		1		
山口大学	工学部	3						0						0						0		
徳島大学	工学部	8						0						0						0		
九州大学	工学部	2						0						0						0		
	理学部	0						0						0			1			1		

（出典　学生課）

６－１－③－４

「本科の就職率（就職内定者／就職希望者）の推移」

学科	平成23年度[%]	平成22年度[%]	平成21年度[%]	平成20年度[%]	平成19年度[%]
M科	100	100	100	100	100
E科	100	100	100	100	100
EI科	94.4	100	100	100	100
C科	95.2	100	100	100	100
B科	100	100	100	96.2	100
平均	98.1	100	100	99.0	100

（出典　学生課）

６－１－③－５

「専攻科課程の就職率（就職内定者／就職希望者）の推移」

専攻	平成23年度[%]	平成22年度[%]	平成21年度[%]	平成20年度[%]	平成19年度[%]
PS	100	100	100	100	100
ES	100	100	100	100	90.9
全体	100	100	100	100	94.7

（出典　学生課）

６－１－③－６

「本科の進学率（進学内定者／進学希望者）の推移」

学科	平成23年度[%]	平成22年度[%]	平成21年度[%]	平成20年度[%]	平成19年度[%]
M科	100	100	100	100	100
E科	100	100	100	100	100
EI科	100	100	94.7	100	94.4
C科	100	100	95.7	100	100
B科	100	100	100	93.3	94.4
平均	100	100	97.7	98.7	97.8

（出典　学生課）

６－１－③－７

「専攻科課程の進学率（進学内定者／進学希望者）の推移」

専攻	平成23年度[%]	平成22年度[%]	平成21年度[%]	平成20年度[%]	平成19年度[%]
PS	100	100	100	100	100
ES	100	100	100	100	100
平均	100	100	100	100	100

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

本科生及び専攻科生の就職率，進学率はともに極めて高い水準を維持している。卒業（修了）後の就職先及び進学先も大半の者が本校の目的に沿った方面に進んでおり，本校の教育の成果や効果は維持されていると判断できる。

６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

基準６－１－①で述べたように本校では学習達成度評価について，本科では学習達成度評価シートを，また専攻科では学習教育目標達成度自己点検シートを用いて達成状況を把握・評価している。卒業時に身に付ける学力や資質，能力について，本校では学習教育目標の達成度を基にして評価している（資料６－１－④－１）。平成２２年度卒業生と比較して，平成２３年度卒業生は，RA（多様な文化や価値観の認識）のポイントが減っているものの，RC（デザインマインド）やRD（コミュニケーション能力）については向上が見られた。達成度評価による分析の取り組みは２年目であり，今後も継続して達成度評価を継続していく必要がある。

また，各科目における達成度の評価について，本校では創造教育開発センターが主体となって，授業アンケート（資料６－１－④－２）を実施して学生の理解度の把握だけでなく意見聴取を行うことを通して授業改善に取り組んでいる。１５週あるいは３０週の授業が終了した後に，学生は学内専用のウェブから授業アンケートを回答する。その後，科目担当教員がグラフ化されたアンケート結果を閲覧してコメントを記載（資料６－１－④－３，４）することで，次年度の授業方法や内容等の改善に資されている。授業アンケートは，各学級分として抜粋されたファイル（資料６－１－④－５）を教室の掲示板に掲示し，学生へも閲覧している。

６－１－④－１

「達成度評価シートにおける学習教育目標毎の達成度」

学習教育目標	平成 23 年度卒業生	平成 22 年度卒業生
RA	2.01	2.38
RB	2.41	2.42
RC	2.69	2.63
RD	2.55	2.46
RE	2.85	2.91

（出典　学生課）

6－1－④－2

「授業アンケートの項目」

1　アンケート調査について

平成 22 年度の学生による授業アンケート（達成度評価）を平成 22 年の前期期末試験終了後及び 23 年の期末試験終了後に行った。

特別指導期間から特別学習期間のテスト返却後，以下に示す授業アンケートを web 上で実施した。アンケート項目は一昨年に引き続き，得点の推移を観察するため，同じ内容で行った。項目の評定も昨年度と同様，４段階（「強くそう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」）であった。

アンケート項目は以下のとおりである。

（1）　自己評価のカテゴリ

1　私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた。

2　私はこの授業の予習，復習を十分に行った。

3　私はこの授業に積極的に取り組んだ。

（2）　講義（製図を含む）の評価のカテゴリ

4　黒板，OHP は見やすかった。

5　演習問題や課題の量，内容は適切だった。

6　教員の説明は良く聞き取れた。

7　試験の内容，レベル（難易度）は適切である。

（3）　実験・実習の評価のカテゴリ

8　実験の内容，レベル（難易度）は適切である。

9　指導書は役に立った。

10　安全性は確保されていた。

（4）　講義，実験・実習共通の評価のカテゴリ

11　内容に関心，興味を持った。

12　内容は理解できた。

13　内容はシラバスと一致していた。

14　教員の準備は良くなされていた。

15　教員は学生の理解度を把握していた。

16　教員は授業に熱心であると思った。

17　この授業には総合的に満足である。

18　この授業の目標を達成した。

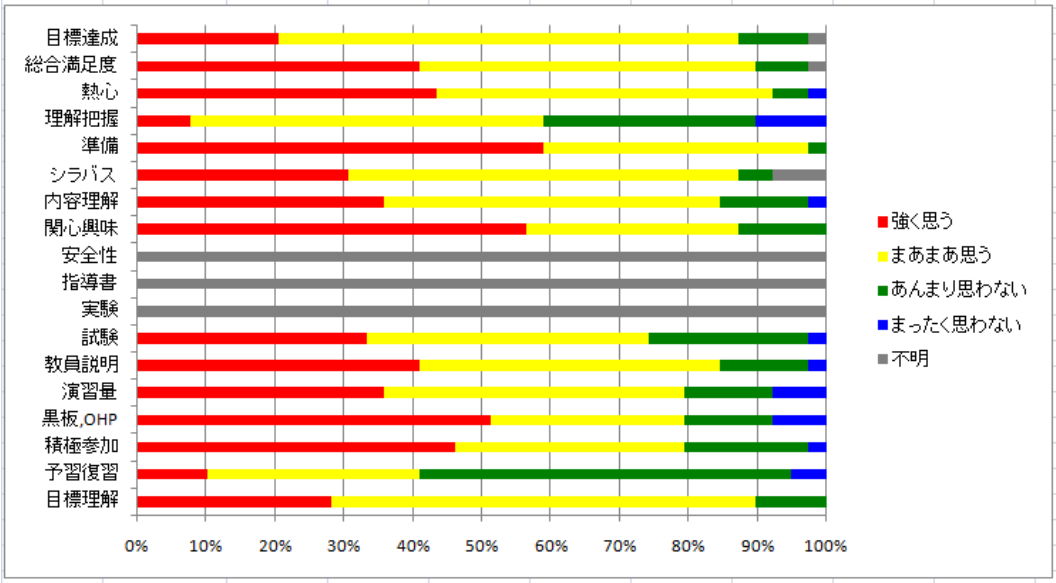
（5）　自由記述

（出典　創造教育開発センター）

6－1－④－3

「授業アンケート結果と科目担当教員のコメント」

年度	2010
クラス名	環境都市工学科2年
科目名	測量学(前期)
回答数	39



		100.0	66.7	33.3	0.0			
番号	項目	強く思う	まあまあ思う	あんまり思わない	まったく思わない	不明	合計	ポイント
1	目標理解	11	24	4	0	0	39	72.6
2	予習復習	4	12	21	2	0	39	48.7
3	積極参加	18	13	7	1	0	39	74.4
4	黒板,OHP	20	11	5	3	0	39	74.4
5	演習量	14	17	5	3	0	39	69.2
6	教員説明	16	17	5	1	0	39	74.4
7	試験	13	16	9	1	0	39	68.4
8	実験	0	0	0	0	39	39	0.0
9	指導書	0	0	0	0	39	39	0.0
10	安全性	0	0	0	0	39	39	0.0
11	関心興味	22	12	5	0	0	39	81.2
12	内容理解	14	19	5	1	0	39	72.6
13	シラバス	12	22	2	0	3	39	70.1
14	準備	23	15	1	0	0	39	85.5
15	理解把握	3	20	12	4	0	39	52.1
16	熱心	17	19	2	1	0	39	77.8
17	総合満足度	16	19	3	0	1	39	76.1
18	目標達成	8	26	4	0	1	39	68.4
	ポイント平均	(教員への評価項目のQ4～Q18の平均)						72.5

学生のコメントには「授業が判りやすかった」,「演習の量が適切だった」,「測量士補の問題を多く解くことができてためになった」等があった。毎年，出題された国家資格の問題（測量士補試験）を取り入れて演習を行っているが，非常に好評であるためこれを継続していきたいと考えている。

コメント中には，「板書した図が判りづらかった」,「難しい問題についてさらに詳しく説明して欲しい」という意見があった。次年度以降，さらに丁寧に説明するよう心がけたい。

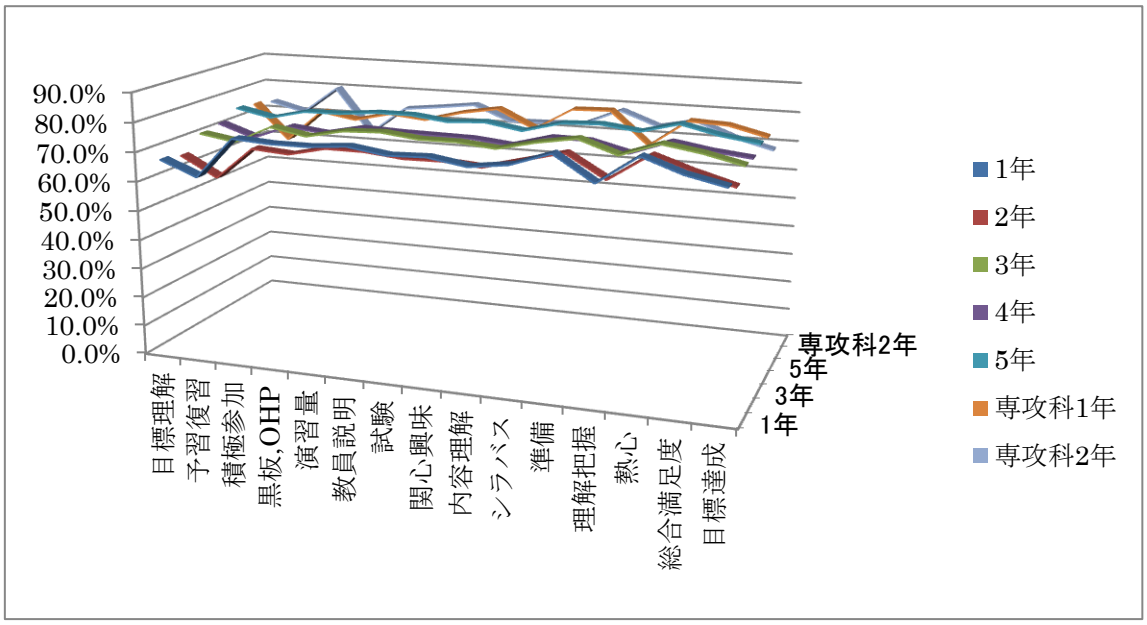
（出典　創造教育開発センター）

6－1－④－4

「授業アンケートのまとめ（2010 年度)」

各項目に関する得点平均(8 実験，9 指導書，10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%



授業アンケートは「強く思う(100%)」，「まあまあ思う(66.7%)」，「あんまり思わない(33.3%)」，「全く思わない(0%)」の4段階評価である。各学年，各項目の平均は，ほぼ4段階評価の上位から2番目の「まあまあ思う(66.7%)」以上であった。

（出典　創造教育開発センター）

６－１－④－５

「平成２２年度授業アンケート報告書【学級分抜粋】の学生への閲覧について」

事　務　連　絡
平成２３年１１月

学級担任及び専攻科主任　殿

創造教育開発センター長

平成２２年度授業アンケート報告書【学級分抜粋】
の学生への閲覧について（依頼）

平成２２年度に実施した学生による授業アンケートをまとめて報告書にいたしましたので，各学級等で学生が閲覧できるようにご配慮願います。

この報告書ファイルは，学生がアンケートに回答したデータを集計し，その結果を学生にフィードバックするためのものです。

配布した報告書ファイルは，平成２２年度それぞれの学級の学生がアンケートに答えた授業科目を選び出し作成したものです。

２年生については，１年生の学級（F1～F5）でのアンケートになっていますので，Ｆ１学級からＦ５学級までの全学級の授業科目を掲載しています。また，専攻科１年生については，５年生で実施した授業科目を掲載しています。

なお，このファイルは回収しますので，学級で必要がなくなった場合は，学生課へ返してください。よろしくお願いします。

（出典　学内メール）

（分析結果とその根拠理由）

本科では学習達成度評価シート，専攻科では学習・教育目標達成度自己点検シートを用いて達成状況を把握・評価している。本科における学習達成度評価シートに関する取り組みは平成２２年度の卒業生から始めたものであるが，概ね高い水準が維持されているため，本校の教育の成果や効果が維持されていると判断できる。専攻科においては，平成２４年度修了生から点数化した学習・教育目標達成度自己点検シートを記録しているため，本年度から集計を行っていく必要がある。

また，１５週あるいは３０週の授業が終了した後，学生は学内専用のウェブから授業アンケートを回答する。その結果について科目担当教員がグラフ化されたアンケート結果を閲覧し，コメントを記載することで次年度の授業に反映させている。また，授業アンケートは各学級分として抜粋されたファイルを教室の掲示板に掲示し，学生へも閲覧している。以上の取り組みがルーチン化されており，学生からの意見聴取結果を反映した授業が展開されていることから教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，創造教育開発センターが主体となって，卒業（修了）生や進路先（大学，大学院，企業等）を対象として，教育改善を目的としたアンケートを実施している。このアンケートは３年に１度実施しており，平成２０年度及び平成２３年度に実施した結果を（資料６－１－⑤－１～５）に示す。また，そのまとめを（資料６－１－⑤－６）に示す。

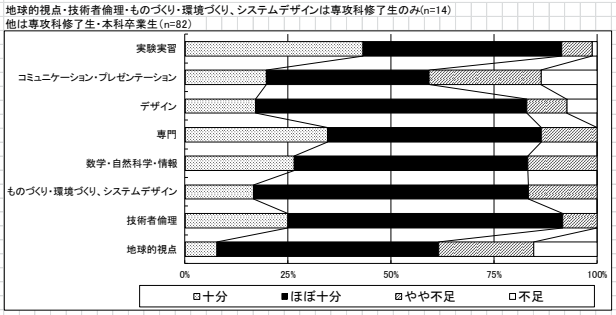
また，本校は国立高専機構による特別教育研究軽費の「高専の情報発信戦略に関する改革推進経費事業」に採択され，この事業の総まとめとして「ふくい技術人」（資料６－１－⑤－７）という書物を平成２２年度に刊行している。この書物には，福井県内で活躍する本校の卒業生・修了生へのインタビューを通して，これまでに携わった仕事内容等がまとめられている。また，在学時に身に付けた学力や能力に関する意見聴取結果も併せて記載されている。

6－1－⑤－1

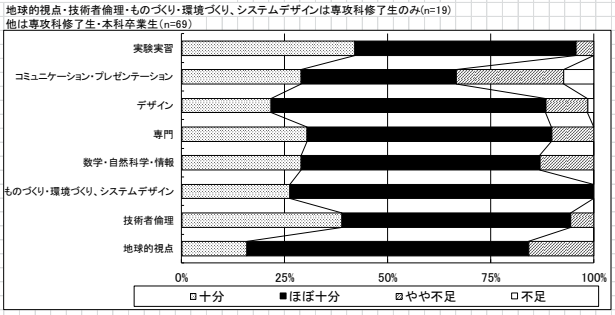
「卒業生・修了生アンケート結果（平成２０年度と平成２３年度の比較）」

平成20年度

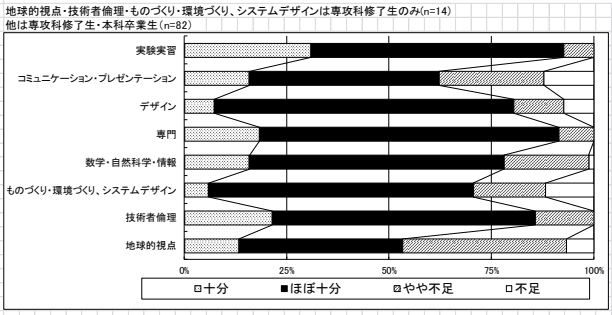
1. 福井高専で受けた授業カリキュラムの中で,次の項目に関連する科目が十分な内容と時間数を確保されていたと思いますか.(教育内容と教育時間について)

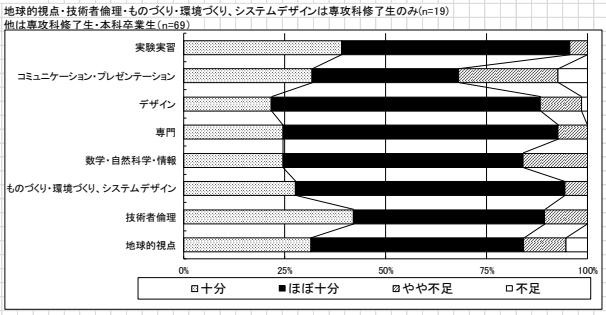


平成23年度

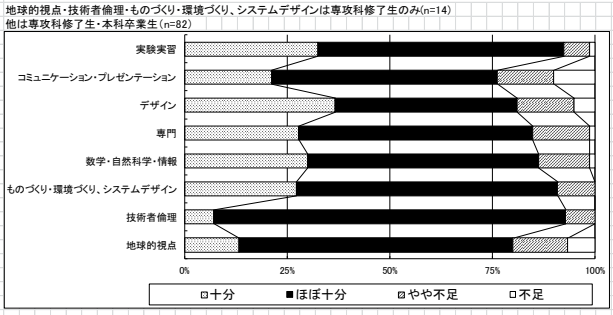


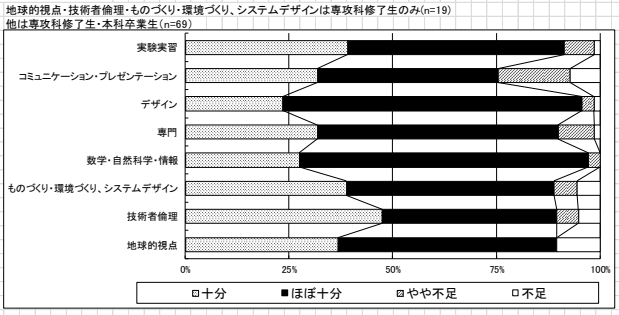
2. あなたが福井高専を卒業・修了するとき，能力が実際に身に付いていたと思われますか.(ご自身の達成度評価について)



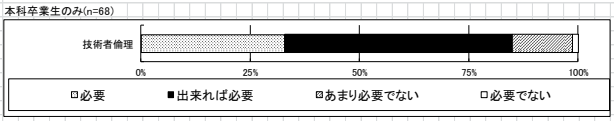


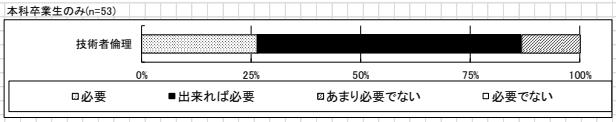
3. 福井高専を卒業・修了してから能力がどのくらい役に立ちましたか.(教育内容の社会的な重要性(学習・教育目標の設定)について)



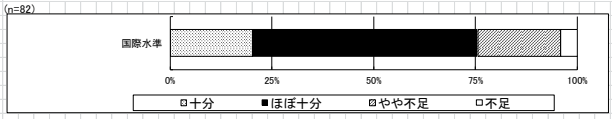


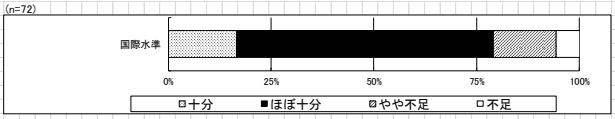
4. 技術者倫理は本科においては科目としては教育を行っていませんが,技術者倫理は本科においても教育が必要でしょうか.





5. 福井高専の教育内容を，国際的水準と照らして，準学士(本科卒業)や学士(専攻科修了)として十分だったと思われますか.

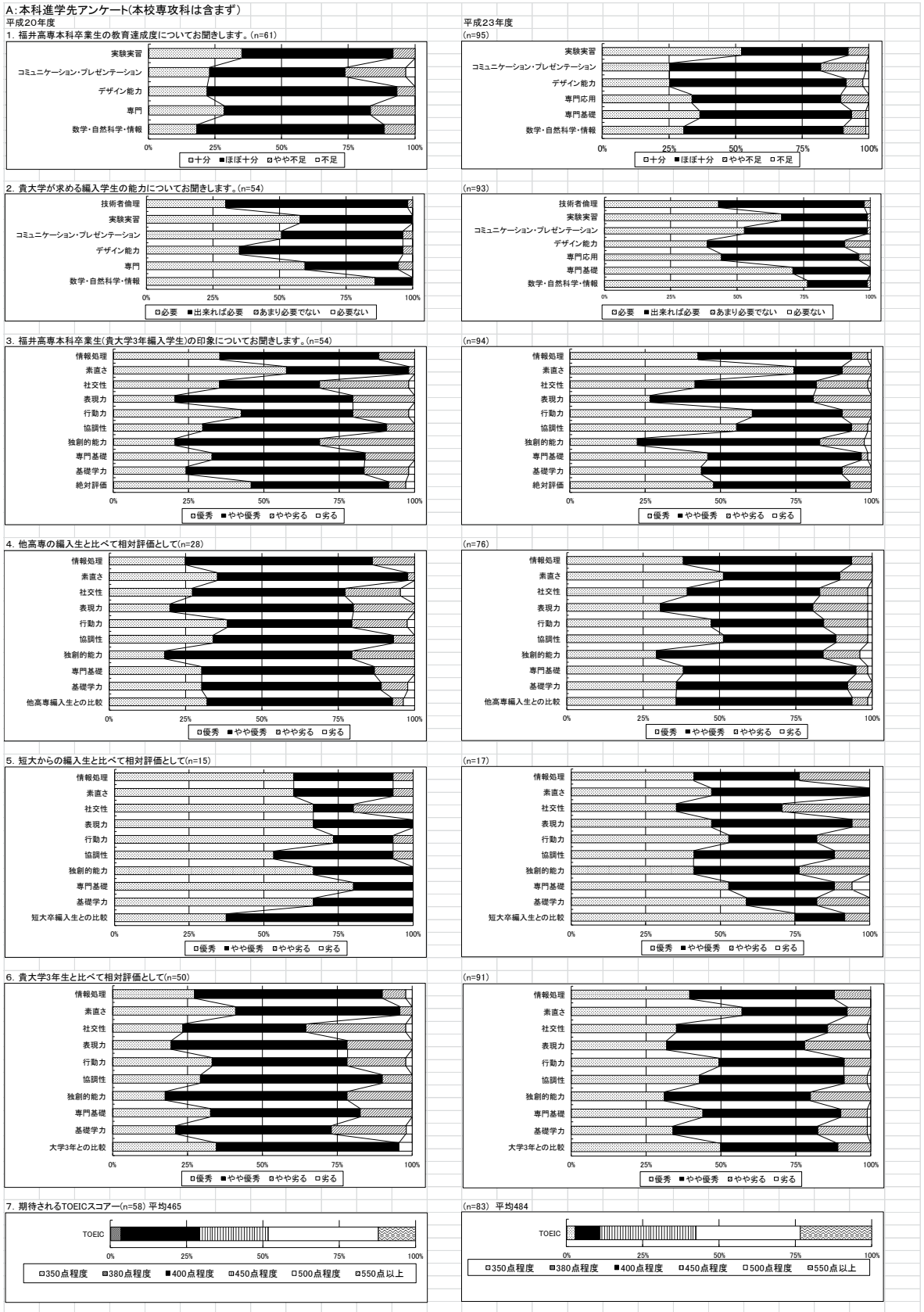




（出典　創造教育開発センター）

6－1－⑤－2

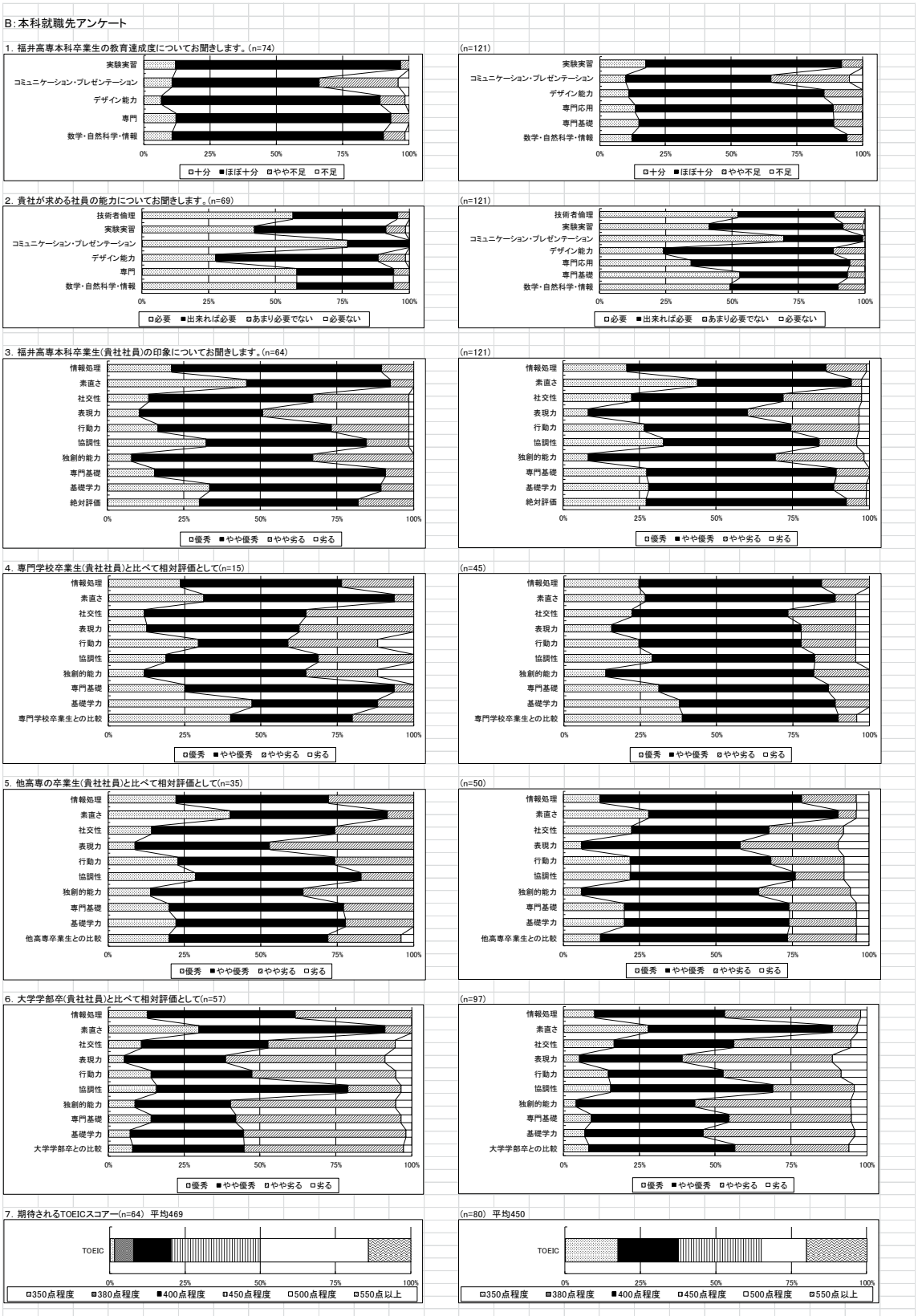
「本科進学先アンケート結果（平成20年度と平成23年度の比較）」



（出典　創造教育センター作成資料）

６－１－⑤－３

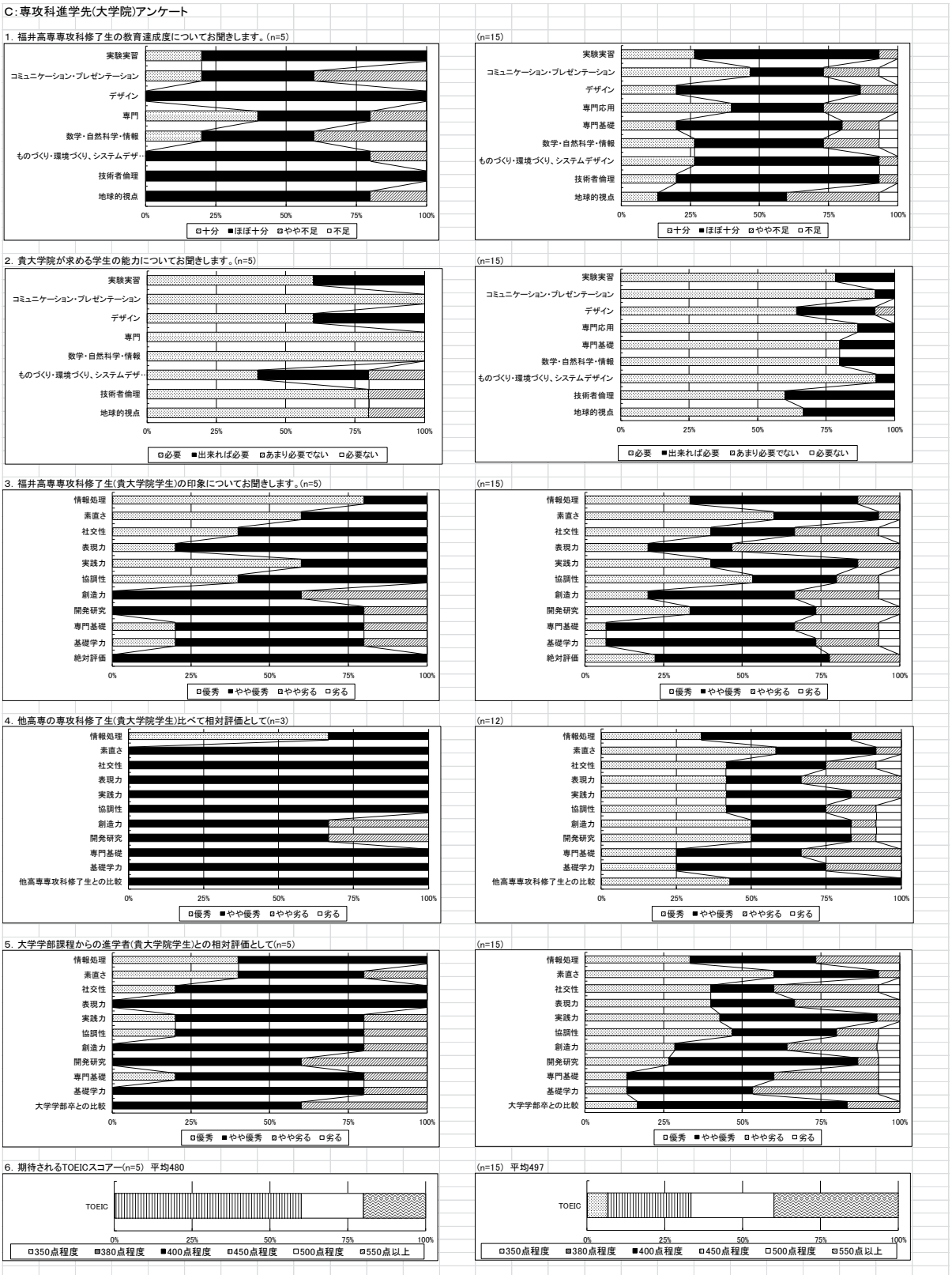
「本科就職先アンケート結果（平成２０年度と平成２３年度の比較）」



（出典　創造教育開発センター）

6－1－⑤－4

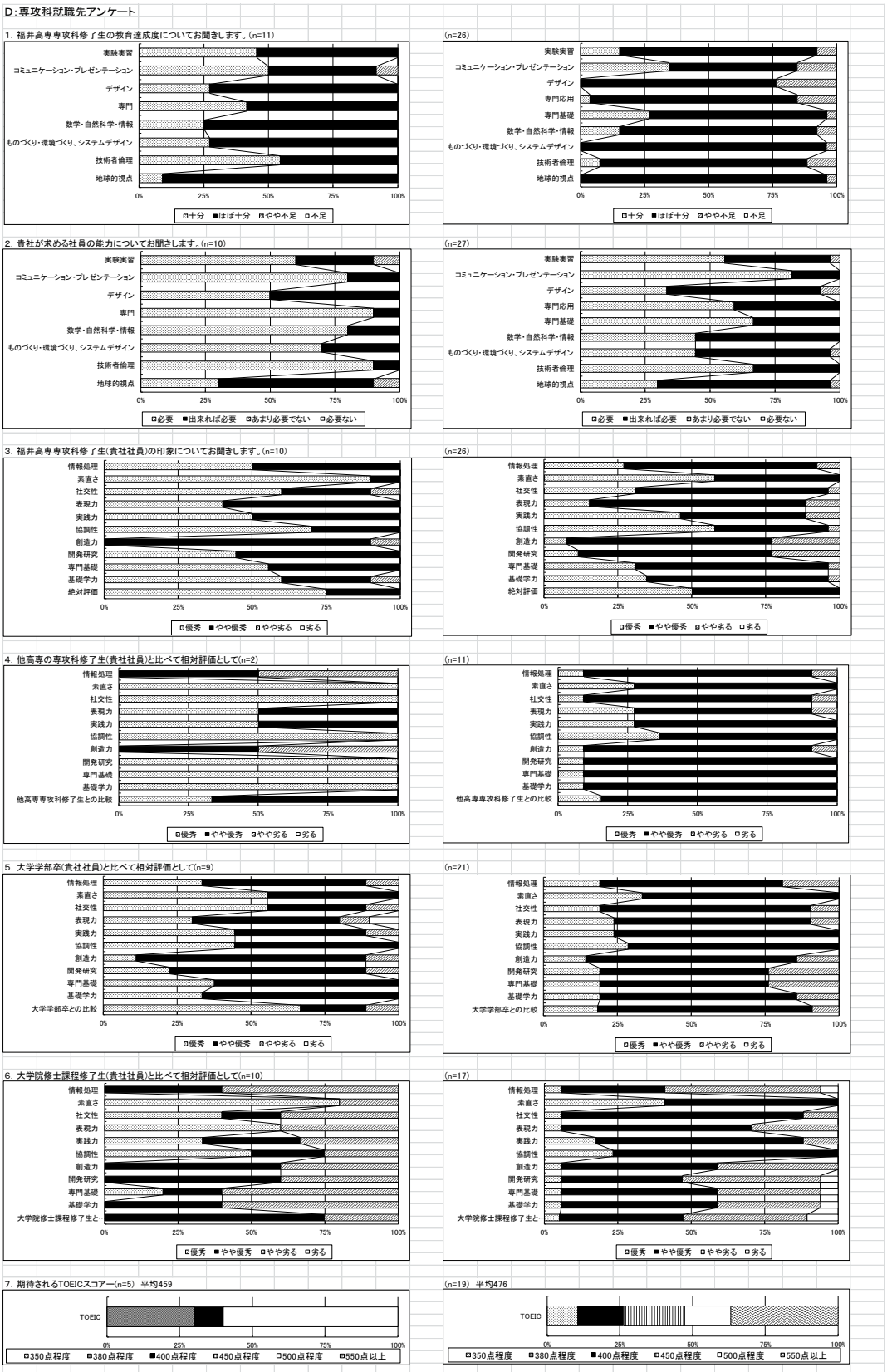
「専攻科進学先（大学院）アンケート結果（平成２０年度と平成２３年度の比較）」



（出典　創造教育開発センター）

６－１－⑤－５

「専攻科就職先アンケート結果（平成２０年度と平成２３年度の比較）」



（出典　創造教育開発センター）

6－1－⑤－6

「平成２３年度卒業生・修了生　アンケート結果及び考察」

創造教育開発センターでは，本校の教育改善を目的として，平成 20 年 10 月に平成 14～18 年度,同 23 年 10 月に同 19～21 年度の本科卒業生・専攻科修了生に対して，それぞれアンケートを行った。平成 20 年度はアンケート送付数 854 名に対し，郵送及びネットでの回答が 87 名（回答率 10。2%）,同 23 年度は 591 名に対して 82 名（回答率 14%）であった。平成 20 年度のアンケート結果は既に報告済みであるが,同 20 年度と同 23 年度を比較するために 2 回のアンケートをまとめて添付の棒グラフにまとめた。また，4 段階評価の上位 2 項目が 75～100%で良好，50～75%で普通，50%以下で改善を要するとし以下のように考察した。

１「福井高専で受けた授業カリキュラムの中で，項目に関連する科目が十分な内容と時間数を確保されていたと思いますか」，といった教育内容と教育時間については，コミュニケーション・プレゼンテーションに関しての評価項目のみ普通といった評価となり,他の評価項目は良好であった。また,平成 20 年度には専攻科修了生対象の地球的視点についての評価項目が普通の評価であったが,同 23 年度では良好となっている。平成 20 年度のアンケートは同 16 年度に認定された「環境生産システム工学」教育プログラムの認定前後の修了生からのアンケート結果によるものであり,認定後の修了生からの評価は良好である。

２「あなたが福井高専を卒業・修了するとき，能力が実際に身に付いていたと思われますか」，といった自身の達成度評価についても，１同様にコミュニケーション・プレゼンテーションに関しての評価項目のみ普通といった評価となり,地球的視点についても平成 20 年度に比べ評価は良好となった。

３「福井高専を卒業・修了してから能力がどのくらい役に立ちましたか」,といった学習・教育目標の設定に関する教育内容の社会的な重要性については，全項目で良好であり，１や２において評価の低かったコミュニケーション・プレゼンテーションに関しても十分な時間や内容ではない,また身に付いていないと感じている割合が他の項目より大きいが，役には立っていることが判る。しかしながら,コミュニケーション・プレゼンテーションに関しては他の評価項目より評価は低いものとなった。

４「技術者倫理は本科においては科目としては教育を行っていませんが，本科においても教育が必要でしょうか」,といった点については，80%が必要・出来れば必要と感じている。専攻科においては「技術者倫理」といった科目があるが,本科においても科目としての教育はなされていないものの何らかの科目の中で対応はしており継続する必要がある。

５福井高専の教育内容を，国際的水準と照らして，準学士(本科卒業)や学士(専攻科修了)として十分だったと思われますかについては，75%が十分・ほぼ十分であり，福井高専の教育が社会の要求水準をほぼ満たしていることが平成 20 年度同様に卒業生・修了生からも支持された。

全体として,「環境生産システム工学」教育プログラムにより,「地球的視点」「技術者倫理」「ものづくり・環境づくり,システムデザイン」といった専攻科での教育内容がアンケートに反映されている。しかしながら,コミュニケーション・プレゼンテーションに関しては他の評価項目より今回も評価は低いものとなった。コメントなどからは,英語や日本語によるコミュニケーション能力不足が主であるが,技術系を志望して入学してくる学生に対する英語や日本語によるコミュニケーション能力向上に対する動機づけが今後必要である。さらに,本科の２年生から５年生まで,専攻科の２年間に亘って,殆ど同じ人間関係の学生生活であることもコミュニケーション能力不足の一因かもしれない。

また,次回のアンケートではコミュニケーションとプレゼンテーションの項目を別項目とする。

以上

（出典　創造教育開発センター）

６－１－⑤－７

「ふくい技術人（表紙）」

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力及び卒業（修了）後の成果に関して卒業（修了）生及び進路先企業からアンケートにより意見を聴取する取り組みを３年に１度実施しており，その結果から本校として期待する教育の成果や効果が概ね得られている。また，国立高専機構による特別教育研究軽費の「高専の情報発信戦略に関する改革推進経費事業」に採択され，この事業の総まとめとして「ふくい技術人」（資料６－１－⑤－７）という書物を平成２２年度に刊行し，マスコミからも高い評価を得ている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本科及び専攻科における学習・教育目標の達成は，全学年の学生自ら学習達成度評価シートを記入することで学習・教育目標を意識しながら科目の履修及び単位の修得を行っている。これまでの学習達成度評価シートの集計結果は，３点満点中２．５点以上と高い水準が維持されているため，本校の教育の成果や効果が維持されていると判断できる。

進学率及び就職率は，本科及び専攻科においてともに極めて高い水準を維持している。また，就職先については，ほとんどが当該分野の技術系に進んでいること，進学先についてもほとんどが国公立大学の理工系に進んでいることから，教育の成果や効果が維持されている。

授業アンケートについては，全学生を対象とし，１５週あるいは３０週の授業が終了した後に学内の専用ウェブページにおいて回答を行っている。また，この結果は自動集計され科目担当者は直ぐに結果

を閲覧し，コメントを記入することで翌年度の授業への改善に反映できる仕組みができている。

（改善を要する点）

平成２３年度の不認定単位数が累計で1007単位に上った。科目担当教員だけでなく，学校全体として不認定単位数を少なくするための改善（補習等）を検討する必要がある。

（３）基準６の自己評価概要

本校は学習・教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成がなされており，それに従って開講されている科目（単位）を修得することが卒業要件の一つとなっている。学習・教育目標の達成については，本科の担任及び専攻科委員会委員が主体となって，本科・専攻科課程の学生に学習達成度評価シートを記入させることでその状況を確認できていることから，その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われている。

また，資格取得や各種コンテスト・コンペティションへの参加を促しており，優秀な成績を収めている。これらの結果は本校の広報誌（青武台だより）に掲載することで，学内外への広報を行っており，学生のモチベーション向上にも寄与している。

進学率及び就職率は，本科及び専攻科課程において極めて高い水準を維持している。また，就職先については，ほとんどが当該分野の技術系に進んでいること，進学先についてもほとんどが国公立大学の理工系に進んでいることから教育の成果や効果が維持されている。また，卒業（修了）生及び進路先からのアンケート結果からも高い評価を得ており，このことから本校の教育の成果や効果は上がっていると判断できる。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

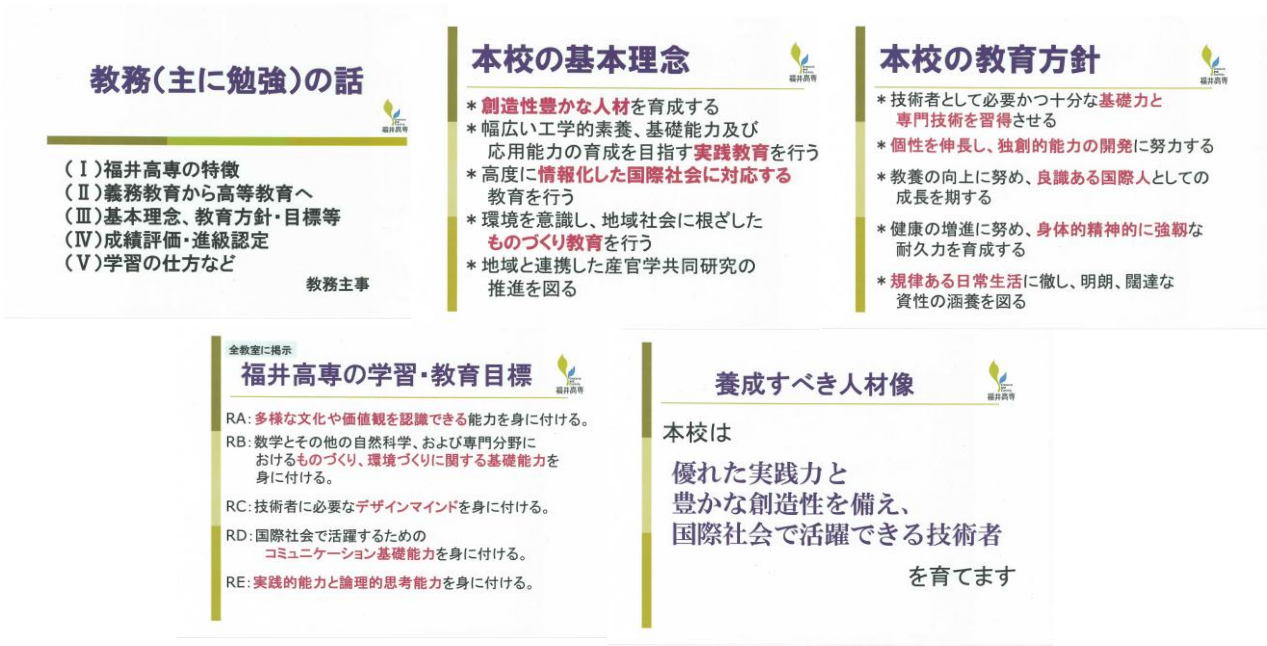
観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本科(準学士課程)入学生に対して，１泊２日の「新入生オリエンテーション」を開催して各学科や授業内容のガイダンスを行う（資料７－ １－ ①－ １）とともに，学生相互及び教職員の親睦を図っている。本科３年生までの低学年では毎週「特別活動」の１単位があり，必要に応じて担任による学習のアドバイスが行われている。

資料７－ １－ ①－ １

「新入生オリエンテーション時の説明資料（抜粋）」



（出典　学生課）

新学期のすべての最初の授業では，その科目のシラバスを用いてガイダンスを実施している。これにより，学生は科目の学習目的・学習方法・スケジュールが確認できる。これらの情報はホームページからも検索閲覧が可能となっている（資料７－ １－ ①－ ２）。

資料７－ １－ ①－ ２

「授業内容（シラバス）」

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/student/syllabus.html）

学生からの質問などに答えるために，各教員はオフィスアワーを設け，各学科・教室のホームページに電子メールアドレスなどと共に記載している（資料７－ １－ ①－ ３）。

資料７－ １－ ①－ ３

「電子情報工学科・２０１２年度 前期オフィスアワー」

斉藤 徹　t-saitoh@ei.fukui-nct.ac.jp

		月	火	水	木	金
	～8:55					
1	8:55～9:45	実験	講義			演習
2	9:50～10:40	実験	講義			演習
3	10:50～11:40	実験		講義	講義	演習
4	11:45～12:35	実験		講義	講義	演習
	12:35～13:20					
5	13:20～14:10			講義	卒研	卒研
6	14:15～15:05			講義	卒研	卒研
7	15:10～16:00	卒研			卒研	卒研
8	16:05～16:55	OH			会議	
	16:55～17:30	OH			会議	

オフィスアワー

月曜日

8限目(16:00-17:00)

電子情報棟3F

担当科目

プログラミング応用、情報構造論、創造工学演習(前期)、データベース、5年実験(前期)、2年実験(後期)

担当専攻科

計算機システム(後期)、オブジェクト指向プログラミング(前期)、1PS実験(後期)

最終更新:2012/03/28

（出典 本校ホームページ http://www.ei.fukui-nct.ac.jp/officehour.php）

（分析結果とその根拠理由）

各授業の最初にはシラバスを示しながら，各授業の目的・学習法を説明している。学生の自主的学習に対応するために，教員はオフィスアワーを設定し，多くの学生が質問や相談に訪れている。これらの成果により，最近５ヶ年間の本科卒業生の内，進学者は約５割を維持するとともに，就職の求人倍率及び就職内定率も好調である。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

学生の自主的学習環境としては，「総合情報処理センター」，「図書館」等があげられる。

総合情報処理センターには，演習室が４室あり，そのうち３室は１クラスの学生数を超える台数のパソコンが設置されている。パソコンはすべてネットワークに接続されており，教材資料の閲覧や学生の達成状況も把握できる学習支援システムが利用でき、多くの学生に利用されている（資料７－１－②－１～３）。

資料７－１－②－１

「演習室の利用時間・利用手続き」

演習室の利用時間

- 第1、第2、第3、及び第4演習室（環境都市工学科棟3階ものづくりアトリエ）の利用時間は
  月～金　８：５５～１７：００　(休日は除く)
  です。
- 授業で利用していない時（使用可能時間）は、一般利用できます。
- 授業の都合で使用していないときは使用して構いません。
- 定期保守、センター作業、長期休業、学校行事等で閉室とすることがあります。
- 第1と第2演習室については、上記の時間を超えて利用することが出来ます。「演習室の時間外利用手続き」を参照してください。

利用手続き

- 本校の学生・教職員はセンターを利用できます。センターで運用しているサーバ、パーソナルコンピュータ等を利用するには 利用申請書に必要事項を記入して、センター管理室に提出して下さい。利用登録終了後、教職員の場合は本人宛に、学生の場合は指導教員宛に「利用者登録通知書」にてお知らせします。
- **学生の利用期間は年度末まで**です。次年度も利用する場合は、再度利用申請を行って下さい。同じ利用者IDで利用できます。

学生・教職員		利用申請手続き	利用期間
学生	授業での利用	クラス毎に利用登録をします。個人での利用申請は必要ありません。利用登録が終了すると授業担当教員にお知らせします。	年度末まで
	卒業研究での利用	利用者が 利用申請書 を管理室に提出して下さい。利用登録が終了すると管理室から指導教員にお知らせします。	
	その他	個人利用がこれに含まれます。利用者が 利用申請書 を管理室に提出して下さい。利用登録が終了すると、管理室から指導教員にお知らせします。	
教職員		利用者が 利用申請書 を管理室に提出して下さい。利用登録が終了すると管理室から本人宛にお知らせします。 利用しなくなった場合は、利用解除届を提出して下さい。	

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~ip/riyou.html）

資料７－ １－ ②－ ２

「総合情報処理センターの時間割」

□演習室の時間割

平成24年度【前期】

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3E 情報処理Ⅱ		5EI 電子情報工学実験Ⅳ	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				
	3	1ALL ものづくり科学			5B 構造デザイン
	4				
	5		5M 機械工学実験Ⅱ	3C 情報処理演習	4B 環境都市工学設計製図Ⅳ
	6	3M C言語応用			
	7			使用可能	使用可能
	8	使用可能	使用可能		
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
火	1	4EI　電子情報工学実験Ⅲ	使用可能	2E 情報処理Ⅰ	4M 知能機械演習
	2				
	3			5B 水文学	
	4				
	5	5E　現代制御工学	3M 創造工学演習	4C 情報科学	3B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6				
	7	1F4 コンピュータ科学入門		1F3 コンピュータ科学入門	5B 数値解析
	8		使用可能		

（出典　総合情報処理センターホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~ip/riyou2.html）

資料７－ １－ ②－ ３

「平成23年度総合情報処理センター 時間外利用状況」

表３　時間外利用状況（平成２３年１月～１２月）※１２月１４日現在

月	人数（人）	利用日数	利用時間（各演習室の合計）
1	１９６人	１５日	６６時間００分
2	１４０人	１２日	５９時間００分
3	１９人	８日	３８時間００分
4	２７人	６日	１５時間００分
5	３６９人	２１日	９５時間３０分
6	２２３人	２２日	８９時間００分
7	２３５人	１９日	９９時間００分
8	９４人	５日	３７時間００分
9	８人	２日	７時間３０分
１０	２２３人	１８日	８４時間２０分
１１	３７２人	２０日	１０７時間３０分
１２	１３９人	９日	４９時間００分
合　計	２０４７人	１５７日	７４６時間４０分
月平均	１７０人	１３日	６２時間２０分

（出典　総合情報処理センター）

図書館は，学習に必要な専門図書をはじめ，一般教養図書及び新聞・雑誌を多数備えている。平日は２０時まで，土曜日は１６時３０分まで開館しており，静かな学習環境として広く利用されている。（資料７－ １－ ②－ ４， ５）

資料７－ １－ ②－ ４

「図書館利用案内2012（抜粋）」

２．開館時間

平　日	8:30	～	20:00	（学寮閉寮期間については、平日8:30～17:00）
土曜日	9:00	～	16:30	（学寮閉寮期間は、休館）

３．休館日

日曜日、国民の祝日（その日が日曜日にあたるときは、その翌日）、高専祭行事期間中、年末年始（12月28日から翌年1月4日まで）、その他館長が必要と認めた日

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~tosyo/guide/guide2012.pdf）

資料７－ １－ ②－ ５

「平成23年度入館者及び貸出冊数統計」

入館者及び貸出冊数 統計

月	平成22年度			平成23年度		
	開館日数	入館者数	貸出冊数	開館日数	入館者数	貸出冊数
4	23	4,729	1,083	25	4,772	1,013
5	23	5,410	956	23	5,827	990
6	26	6,990	1,127	26	6,770	974
7	26	6,588	1,059	26	6,957	862
8	18	2,916	598	17	2,474	493
9	17	1,784	339	16	1,556	343
10	23	4,770	813	23	4,350	852
11	24	5,283	885	24	5,617	566
12	20	4,231	882	20	4,200	759
1	20	3,919	656	20	4,088	612
2	23	5,497	627	23	5,721	633
3	20	2,259	339	20	2,243	241
計	263	54,376	9,364	263	54,575	8,338

（出典　図書館）

平成２２年度の全学生を対象にした「教育環境アンケートのまとめ」（資料７－ １－ ②－ ６）によれば，先に示した自主的学習環境はどれも，満足度が６５％を超えている。教育環境アンケートは毎年度実施され，教務委員会，補導委員会，図書委員会などの関係委員会によって審議し対策を講じている。平成２１年１月からの校舎改修工事の終了により教育環境については大きく改善され，要望の高かった教室の空調設備も整えられた。

資料７－　１－　②－　６

「平成２２年度・教育環境アンケート　集計結果（抜粋）」

平成22年度・教育環境アンケート 集計結果

アンケート実施状況

H22年度12月に実施された、教育改善アンケートの集計結果を以下に示す。

・回答率 92.2%（回答数979名,学生総数 1,062 名）　数値チェック

・各項目における度数は、以下の通り。

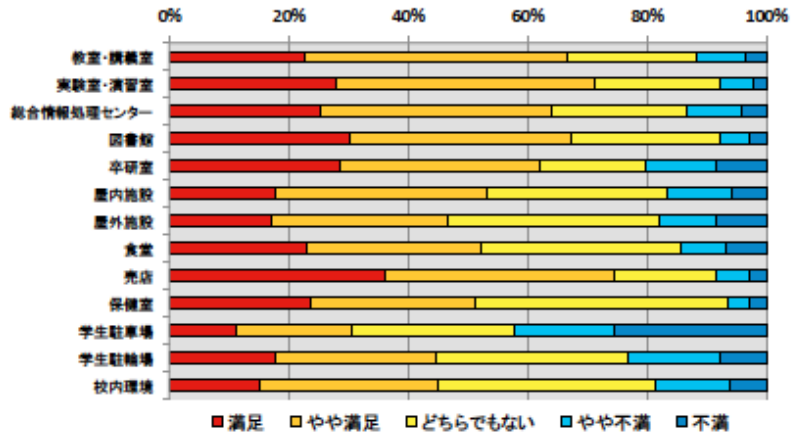
・回答の満足:5,不満:1の回答に対する度数に応じて満足:100点,不満:0点として集計した。

回答結果

	満足 5	4	3	2	不満 1	未記入	満足度※	H21年度比 満足度増減
2. 教育施設およびその利用に関して								
2.1 教室・講義室	23%	44%	22%	8%	3%	0%	69%	-1%
2.2 実験室・演習室	28%	43%	21%	6%	2%	0%	72%	1%
2.3 総合情報処理センター	25%	39%	22%	9%	4%	0%	68%	3%
2.4 図書館	30%	37%	25%	5%	3%	1%	72%	-0%
2.5 卒研室	6%	7%	4%	3%	2%	79%	65%	-2%
2.6 屋内施設	18%	35%	30%	11%	6%	0%	62%	0%
2.7 屋外施設	17%	30%	35%	10%	8%	0%	59%	1%
3. 福利厚生施設およびその利用に関して								
3.1 食堂	23%	29%	33%	8%	7%	0%	64%	-2%
3.2 売店	36%	38%	17%	5%	3%	0%	75%	2%
3.3 保健室	23%	28%	42%	4%	3%	0%	66%	-1%
4. その他の施設および利用に関して								
4.1 学生駐車場	3%	4%	6%	4%	6%	78%	44%	-5%
4.2 学生駐輪場	8%	11%	14%	6%	3%	58%	58%	-2%
4.3 校内環境	15%	29%	35%	12%	6%	3%	59%	-2%

※満足を100%,不満を0%として集計

各項目別の回答



（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

情報処理施設，図書館は毎日多くの授業に使用され，さらにこれらは放課後の自主学習にも毎日多くの学生が利用している。特に平成２１年度からの校舎改修により，教育環境も大きく改善された。

学生の生活を支援する学寮・食堂・売店なども設置されている。学生を対象とした教育環境アンケート調査も毎年行なっており，できる箇所等から学生の要望に応じた設備の充実を行なっている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，学科の専門科目や一般科目において，将来の進路を見据えたキャリア教育と連携をとりながら，将来必要となる知識分野や資格などの重要性や有用性を学生に啓発している。そして関連した資格試験の受講案内や講習会の情報を学生向け掲示板に示し，受験希望者には補講・講習会・アドバイスといった支援を行ない，数多くの学生が資格を取得している。

（資料７－ １－ ③－ １～３）

資料７－ １－ ③－ １

「平成23年度資格取得者一覧(速報・判明分のみ)」

（24）　　青武台だより

活躍する仲間

平成23年度 資格取得者一覧（速報・判明分のみ）

本 科 生

資格名	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科
CAD利用技術者試験２級	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	3B	[redacted]	4B				
機械設計技術者試験３級	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M
	[redacted]	4M	[redacted]	4M	[redacted]	4M		
ディジタル技術２級情報	[redacted]	4E	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI	[redacted]	4EI
	[redacted]	5EI						
ディジタル技術３級制御	[redacted]	4E						
第三種電気主任技術者	[redacted]	5E	[redacted]	5E				
第二種電気工事士	[redacted]	3E	[redacted]	4E	[redacted]	4E		
乙種第4類危険物取扱者	[redacted]	4E						
基本情報技術者試験	[redacted]	5E						
エックス線作業主任者	[redacted]	5E	[redacted]	5E	[redacted]	5E	[redacted]	5E
	[redacted]	5E	[redacted]	5E				
測量士補試験	[redacted]	3B	[redacted]	3B	[redacted]	3B		

専 攻 科 生

資格名	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻	氏名	学年専攻
ディジタル技術２級情報	[redacted]	2PS						

（出典 学生課）

資料７－ １－ ③－ ２

「2011年度第3回STEP英検合格者数(2012年1月21日実施)」

2011年度第3回STEP英検合格者数(2012年1月21日実施)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
準 2 級	10	9	13		
2 級			1	2	

（出典　英語科）

資料７－ １－ ③－ ３

「乙種全類取得者表彰者数内訳」

乙種全類取得者表彰者数内訳

（ 年度・学校別 ）
平成23年10月現在

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	計
福井工業高等専門学校	26	16	8	37	14	14	7	12	6	10	12	15	9	24	8	7	5	1	231
若狭東高等学校				6	5	4	5	7	3	1	1		2	2	2	1	1		40

（出典　物質工学科）

資格取得などを支援するために，専門科目では学科を中心に担任などから，試験開催を周知している。掲示は，本校正規の掲示板に加え校内４ヶ所のインフォメーションパネル，教室内掲示によって行なっている。（資料７－ １－ ③－ ４）

資料７－ １－ ③－ ４

「電子情報工学科掲示板」

（出典　電子情報工学科）

さらに専門の資格試験では各学科で必要に応じて補講を行い，本校が試験会場とするなど利便性を向上させて支援を行なっている。例えば物質工学科では，１年より危険物取扱主任者の資格試験を奨励し、正規授業の中に一部を取り込む形で対策を行い，不足分は放課後の補習や試験直前の対策補講にて補っている。（資料７－ １－ ③－ ５，６）

資料７－ １－ ③－ ５

「物質工学科での危険物資格試験の取り組み」

危険物資格試験

試験実施

6 月、10 月、2 月に各 1 回受験

講義

ものづくり科学の 1 部分として行われている。

スケジュール 24 年度

4 月 9 日　試験ガイダンス

4 月 11 日　講義(危険物の性質・第 1 類～第 6 類危険物)

4 月 16 日　講義(危険物の性質・第 4 類危険物)

4 月 18 日　講義(消火)

4 月 23 日　講義(法令)と性質・消火まとめの小テスト、合格点に満たない学生はその日の放課後補習・

5 月　2 日　講義(法令)と前回講義の小テスト

5 月 7 日　講義(法令)と前回講義の小テスト

5 月 9 日　講義(物理と化学の基礎)と前回講義の小テスト、合格点に満たない学生はその日の放課後補習・

5 月 14 日　講義(物理と化学の基礎)と前回講義の小テスト、合格点に満たない学生はその日の放課後補習・

5 月 21 日　講義(法令)

5 月 28 日　前回講義の小テスト、合格点に満たない学生はその日の放課後補習・

6 月 4 日　模擬試験(著しく点数低い学生補習)。

6 月 12 日　模擬試験(著しく点数低い学生補習)。

6 月 13 日　模擬試験(著しく点数低い学生補習)。

6 月 16 日(土) 10 時～　勉強会・

6 月 17 日　危険物資格試験

（出典　物質工学科）

資料７－ １－ ③－ ６

「平成24年度危険物取扱者試験実施予定表」

平成24年度
危険物取扱者・消防設備士 試験 実施予定表(案)

【資料 5】

◎ ＜危険物取扱者＞

(財)消防試験研究センター 福井県支部

	試験日	会場コード	試験会場	開始時間	種類	受付期間
第1回	6月17日(日)	003	サンドーム福井管理会議棟	10:00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	平成24年 5月 2日(水) ～5月11日(金)
				14:00	乙種4類 ・ 丙種	
		004	若狭消防本部	10 00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
		561	福井工業高等専門学校	10:00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
		562	科学技術高等学校			
		563	坂井農業高等学校			
		564	春江工業高等学校			
		565	大野東・奥越明成高等学校			
		566	武生工業高等学校			
		567	敦賀工業高等学校			
		568	若狭東高等学校			
		573	福井高等学校			
	6月24日(日)	001	福井工業大学	10 00	甲種・乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
		002	敦賀美方消防本部	10 00	乙種4類	
		572	福井県消防学校	10:00	乙種4類	
第2回	10月21日(日)	001	福井商工会議所	10:00	甲種・乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	平成24年 9月 7日(金) ～ 9月13日(木)
				14:00	乙種4類 ・ 丙種	
		004	若狭消防本部	10 00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
		005	大野市消防本部	10 00	乙種4類 ・ 丙種	
		561	福井工業高等専門学校	10:00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
	10月28日(日)	001	福井商工会議所	10:00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
				14:00	乙種4類 ・ 丙種	
		002	敦賀短期大学	10 00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
				14 00	乙種4類 ・ 丙種	
		003	サンドーム福井管理会議棟	10:00	乙種1・2・3・4・5・6類・丙種	
				14:00	乙種4類 ・ 丙種	

（出典　物質工学科）

英語検定関係については，実用英検・工業英検・TOEIC・TOEIC-IPなどの説明を行い，希望学生の把握及びガイダンスを行い，資格取得の支援にあたっている。特に，TOEIC-IP試験は本校内で実施している。資格を取得した学生については，本校の内規である「教務に関する申し合わせ事項」第24（資料７－ １－ ③－ ７）のように単位認定が明記され，正規の単位への振替制度がある。

資料７－ １－ ③－ ７

「第24 技能審査の合格による単位の修得認定に関する事項」

第24　技能審査の合格による単位の修得認定に関する事項

（平成６年 12 月 15 日制定）

1　技能審査の定義

「技能審査」とは，福井工業高等専門学校学則（昭和 40 年規則第１号）第 15 条の３第１項に定める学修に基づくもので，文部省告示第 85 号（平成３年６月 28 日）第４項に規定する学修のうち，本校において次のものをいう。

ア　実用英語技能検定（以下「実用英検」という。）

イ　工業英語能力検定（以下「工業英検」という。）

2　技能審査の合格による認定単位数

(1) 技能審査に係る次の審査基準（級）に合格した者には，単位の修得を認定し，修得を認定する単位（以下「修得認定単位」という。）は，審査基準（級）に対応するそれぞれの単位数とする。

ア　実用英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	準２級	２　級	準１級	１　級
単　位　数	1	2	4	6

イ　工業英検の合格による認定単位数

審査基準（級）	４　級	３　級	２　級	１　級
単　位　数	1	2	4	6

(2) (1)において，実用英検にあっては審査基準（級）の準２級，工業英検にあっては審査基準（級）の４級については，第３学年までに合格した者に限るものとする。

(3) 技能審査に合格し，単位の修得を認定されている者が当該技能審査に係る上位の審査基準（級）に合格した場合は，当該審査基準（級）に対応する単位数と既に認定されている修得単位数との差を修得単位数として認定する。

(4) 修得認定単位は，認定された日に在籍する学年の修得単位とする。

(5) 修得認定単位は，卒業要件の修得単位数に含めないものとする。

（平成１８．５．２５）

3　修得認定単位に係る科目名

修得認定単位に係る科目名は，実用英検にあっては一般科目の「実用英語技能検定○級」と，工業英検にあっては専門科目の「工業英語能力検定○級」とする。ただし，両科目とも選択科目とする。

（出典　学生課）

本校では，学則第２６条の２において学生の外国留学のため規則を定めている（資料７－ １－ ③－８）。本科生の外国留学はその目的に関して，国外の学校における教養・専門分野の学習と，特に語学研修に特化したものの2種類がある。前者においては，学則２６条の２において扱いが規定され，外国での修得単位のうち30単位を限度として本校卒業単位として認めることができる。

資料７－ １－ ③－ ８

「学則 第２６条の２」

略

第２６条の２　校長は，教育上有益と認めるときは，学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

２　校長は，前項の規定により留学することを許可された者について，外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし，30単位を超えない範囲で単位を認定することができる。

３　校長は，前項の規定により単位の修得を認定された者について，学年の途中においても，各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

４　前3項に関し必要な事項は，別に定める。

略

（出典　学生課）

語学研修を目的とした留学では，主に英語科の教員が授業の中で各種制度を紹介し，興味を示した学生に対して詳しい内容を説明すると共に，実際の手続きに関して支援を行なっている。留学中の連絡や、復帰後のフォローも担任・英語科教員が連携を取りながら実施をしている。平成１７年度からは，オーストラリア・メルボルンの総合大学であるBallarat大学と相互交換留学生制度を締結し，隔年で実施しており，毎回数名の学生が参加している（資料７－ １－ ③－ ９）。

資料７－ １－ ③―９

「バララット大学交換留学生の報告会を実施しました」

（出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=347）

（分析結果とその根拠理由）

専門の科目及び一般科目において教員が様々な資格について啓蒙し，その情報は学生向け掲示板より具体的な情報を提供している。興味を持った学生は，希望に応じて補講などのサポートを受けながら資格取得に励んでいる。海外学生交換留学生の支援制度もあり，留学を希望する学生の海外への視野拡大の手助けとなっている。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では「特別支援室規則」（資料７－ １－ ④－ １）に基づき，心身に障害を有し，支援が必要と認められる学生に対して，副室長（学生相談室長），当該学生の学級担任及び学生所属の学科長等をメンバーとした支援体制を，該当者毎に個別に設け，対応を行なっている。平成24年度には身体障害の学生についても特別支援室にて対応をとるべく規則の改正を行なっている。（資料７－ １－ ④－ ２）。また，特別支援室からの要請を受け学校設備のバリアフリー化工事を実施している。（資料７－ １－ ④－ ３）

資料７－ １－ ④－ １

「福井工業高等専門学校特別支援室規則（抜粋）」

略

（設置）

第１条　本校に特別支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（目的）

第２条　支援室は、心身に障害がある学生（それと同等と認められる者を含む。）の教育及び学生生活の支援について審議し、その結果、支援が必要と認められる学生（以下「要支援学生」という。）の修学環境の向上を図ることを目的とする。

（業務）

第３条　支援室は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 要支援学生の支援のための基本的事項に関すること
(2) 要支援学生の支援に関する関係委員会等との連絡調整に関すること
(3) 要支援学生の自立に向けての支援に関すること
(4) 要支援学生の支援体制構築及び運用に関すること
(5) 教員の要支援学生に対応する指導力の向上に関すること
(6) その他要支援学生の支援に関し必要と認められること

略

（出典　総務課）

資料７－ １－ ④－２

「特別支援室会議議事録」

平成２３年度第１回特別支援室会議議事録

４、　日　時　：　平成２３年４月４日　午後３時３０分～４時３０分
５、　会　場　：　保健室
６、　出席者　：特別支援室員
[redacted]（教務主事）、[redacted]（学生相談室長）
[redacted]（看護師）、[redacted]（カンセラー）、[redacted]（担任）

議　事
１、気がかりな学生（[redacted]）が入学した。
保護者と面談時（３月３１日）に作成したサポートシートを慎重に審議した結果、本校の特別支援室の支援を必要とすると判断した。
（２）学習支援
（３）生活支援
について話し合いを行なった。
３、　支援チームの立ち上げについて
（１）支援チームの会議
日時：平成２３年４月６日　15：30～16：00
会場：大会議室

平成２３年度第２回特別支援室会議 議事要旨

日　時　：　平成２４年３月２２日（木）１３：０５～１３：２５
場　所　：　保健室
出席者　：　[redacted]特別支援室長、[redacted]学生相談室長、[redacted]看護師
陪席　[redacted]准教授（次期学生相談室長）、[redacted]教務係長

審議事項

１．福井工業高等専門学校特別支援室規則の改正について　（資料1）
特別支援室長から、平成24年度に車椅子の学生を受け入れることになり、発達障害を持つ学生について支援することになっている現行の規則を、肢体不自由の学生への支援も可能になるように拡大し、学習環境を適切に保つための規則としたい旨の説明があり、主旨について承認された。
規則の改正案については、事務方で文言を検討し、作成することとなった。

２．その他
なし

平成２４年度第１回特別支援室会議 議事要旨（案）

日　時　：　平成２４年4月９日（月）１４：３０～１５：００
場　所　：　保健室
出席者　：　[redacted]特別支援室長、[redacted]学生相談室長、[redacted]看護師、[redacted]カウンセラー
　　陪席　[redacted]教務係長

審議事項

１．特別支援学生について　（資料1）
　特別支援室長から、平成24年４月から肢体不自由で車椅子を使用する学生を受け入れたが、この学生の支援について検討したい旨の説明があった。看護師よりこの学生の状況について説明があり、検討した結果、特別支援室として支援チームにより支援することとなった。

２．その他
　特別支援室長から、福井高専特別支援室規則を改正した報告があった。

（出典　特別支援室）

資料７－ １－ ④－ ３

「身障者対策について」

身障者対策について

緊急度	棟名称	階・場所	工事内容	工事金額	納期	工事期間
対応済	一般教育棟	１階南側出入口	段差解消		－	－
対応済	福利施設	渡り廊下	排水目皿交換		－	－
対応済	福利施設	渡り廊下	段差解消（溝埋め）		－	－
対応済	本館棟	１階教室等（２ＥＩ）	室名札取替		－	－
対応済	電子情報工学科棟	２階教室（Ｆ５）	室名札取替			
対応済	構内舗装	避難経路	段差解消		－	－
対応済	一般教育棟	南側１階通路	照明器具増設、人感センサー		－	－
対応済	機械工学科棟	１階女子便所	ペット		－	－
対応済	機械工学科棟	１階女子便所	便器撤去等		－	－
			トイレブース取替		－	－
小　計					７件	

（出典 総務課）

外国人留学生に対しては外国人留学生委員会を設置（資料７－１－④－４）し，一人に対し指導教員・チュータをそれぞれ配置し，きめ細かい対応を行なっている。チュータは外国人留学生が所属する同一学級の寮生より選出し，「留学生チュータのしおり」（資料７－１－④－５～８）に基づいて５年次に進級するまでの間，学校生活・学寮生活にわたって支援を行っている。

外国人留学生に対しては，本科３学年編入学から５学年までは「外国人留学生特設科目」として，日本語・数学・物理・各学科専門科目の基礎を開設し，（資料７－１－④－９）に示すような単位の振替を行なっている。

資料７－ １－ ④－ ４

「福井工業高等専門学校外国人留学生委員会規則（抜粋）」

略

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　外国人留学生（以下「留学生」という。）の学習指導に関すること

(2)　留学生の生活指導に関すること

(3)　その他留学生に関すること

２　専攻科留学生について必要な事項は、専攻科委員会において審議する。

略

（出典　本校規則集）

資料７－ １－ ④－ ５

「平成23年度留学生名簿」

平 成 23 年 度 留 学 生 名 簿

学籍番号	受入年度	学科・学年	氏名	生年月日	性別	区分	留学期間	国籍	指導教員	チューター	携帯番号	寮室	チューター寮室	チューター携帯番号
43161	21	機械工学科 5年	[redacted]	1989.8.7	男	マレーシア政府派遣留学生	H21.4～24.3	マレーシア	[redacted]		[redacted]	南111		
43561	21	電子情報工学科 5年	[redacted]	1988.6.4	男	国費留学生	H21.4～24.3	モンゴル	[redacted]		[redacted]	南104		
43761	23 (21)	物質工学科 5年	[redacted]	1989.1.21	女	マレーシア政府派遣留学生	H23.5～24.3	マレーシア	[redacted]	[redacted]	[redacted]	北219	北205	
44161	22	機械工学科 4年	[redacted]	1990.3.15	男	マレーシア政府派遣留学生	H22.4～25.3	マレーシア	[redacted]	[redacted]	[redacted]	南112	南102	[redacted]
44861	22	電気電子工学科 4年	[redacted]	1990.5.24	男	国費留学生	H22.4～25.3	バングラデシュ	[redacted]	[redacted]	[redacted]	南110	南203	[redacted]
44761	22	物質工学科 4年	[redacted]	1988.1.23	男	国費留学生	H22.4～25.3	モンゴル	[redacted]	[redacted]	[redacted]	南105	南115	[redacted]
45161	23	機械工学科　3年	[redacted]	1991.1.31	男	マレーシア政府派遣留学生	H23.4～26.3	マレーシア	[redacted]	[redacted]	[redacted]	南109	南114	[redacted]
45761	23	物質工学科 3年	[redacted]	1990.6.4	男	国費留学生	H23.4～26.3	モンゴル	[redacted]	[redacted]	[redacted]	南106	南103	[redacted]
A14117	23	専攻科 生産システム工学専攻1年	[redacted]	1985.11.09	男	私費留学生	H23.4～25.3	モンゴル			[redacted]			
予定	24	環境都市工学科　年	[redacted]	1990.6.16	男	国費留学生	H244～27.3	モンゴル						

（出典　学生課）

資料７－ １－ ④－ ６

「留学生チュータのしおり」

留学生チューターをするにあたって

１．目的について

留学生の学習効果の向上を図るために、授業内容及び生活全般について課外指導を行い、また、日本文化の理解を援助することを目的とする。

２．心構え

（１） お互いに人格を尊重し合い、友愛と信頼関係を築くよう努めてください。

（２） 誠意をもって留学生に接し、留学生のよき理解者であると共に、良き助言者になるように努めてください。

３．役割

（１） 学校生活

ア．留学生がクラスの中で孤立することなく、級友と仲良くやっていくことができるように配慮してください。

イ．講義や実験等に必要な準備物の指示や確認をしてください。

ウ．講義や実験等における留学生の疑問や質問に適切に助言をしてください。

エ．課題や宿題等の確認をしてください。

オ．試験勉強の方法を助言してください。

カ．日本語が上達するよう援助してください。

（２） 寮生活

ア．寮の規則及び生活時間について助言してください。

イ．寮生と留学生との交流が深まるように配慮してください。

ウ．留学生の安全、健康状態に留意し、異常があれば宿直教員、寮務主事、学生生活係（学寮事務室）、教務係（留学生担当）に連絡してください。

エ．学校内外の地理、文化、スポーツ行事についての情報を教えたり、買い物等で困ったことがあったら手助けしてください。

４．指導報告書について

指導助言を行った場合は、指導した内容・時間等を業務実施確認表（チューターのしおり巻末）に詳しく記入して、指導教員を経て翌月の５日までに学生課教務係に提出してください。

（出典　学生課）

資料７－ １－ ④－ ７

「留学生指導のためのマニュアル（学生寮関係）・英語版（抜粋）」

Rules and Regulations at Fukui Kosen Dormitory (Seibu-Ryo)

1. Outline

Fukui Kosen school dormitory, named "Seibu-Ryo," is made up of four buildings. Three of them are only for boys and the other is only for girls. The capacity for the boys is 193, whereas 53 girls can take lodgings. Students who are in the second year or older, including foreign students, have their solo rooms in which a desk, a chair, a bed and a locker are furnished. Students can share a dining room, chatting rooms, bathrooms, wash rooms, toilets, laundry rooms and the library in the dormitory building.

The following commodities are expected to be brought by individual students.

(1) School supplies and stationery
(2) Toiletries, change of clothes, and medicines
(3) Electric appliances such as clocks, electric stands and hair dryers as well as computers
(4) Bedding things such as *futon*, blankets and pillows (Rental service is available.)

Only in the rooms for foreign students internet connection is available.

2. Necessary expenses for lodging

The dormitory students need to pay the following expenses twice in a year, namely, in April and October.

(1) Lodging fee: 800 yen per month
(2) Utilities: 4.500 yen per month
(3) Board: 23,000 yen per month (You don't have to pay the board if you don't use the school dining.)

（出典　学生課）

資料７－ １－ ④－ ８

「チューター日誌例」

チューター日誌

チューター氏名 [redacted]　留学生氏名 [redacted]　指導教員印

平成 23 年 4 月 12 日（火）　指導時間（16：00～17：00）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：[redacted]市役所への外国人登録、年金の支払免除の申請への同行

平成 23 年 4 月 12 日（火）　指導時間（20：00～22：00）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：市役所及び学校の手続書類等の書き方の説明と手伝い

平成 23 年 4 月 13 日（水）　指導時間（16：30～17：30）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：学校の先生の研究室、学生課、トイレ、大講義室、体育館などの場所や利用目的の説明、売店への必要物品の注文

備考

チューター日誌

チューター氏名 [redacted]　留学生氏名 [redacted]　指導教員印

平成 23 年 4 月 14 日（木）　指導時間（16：00～16：30）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：図書館の場所、利用方法、時間の説明、授業ノートのとり方、クラスメイトについて

平成 23 年 4 月 20 日（水）　指導時間（21：30～23：30）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：熱処理レポート作成の手伝い、レポートの書き方の説明及び実験内容、原理についての解説
寮のきまりについての説明

平成 23 年 4 月 25 日（月）　指導時間（20：30～23：30）
1. 授業指導　2. 生活指導　3. その他
指導内容：レポート手伝い、考察等の考え方の解説、文献の参考の仕方と引用の仕方の説明

備考

（出典　学生課）

資料７－　１－　④－　９

「平成２３年度入学 留学生の修得単位」

1. 平成23年度入学 留学生の修得単位

			M	C
2年までのみなし修得単位a			70	70
3年次	振替単位(特設科目)		8	8
	履修猶予単位	一 般	0	0
		専 門	0	0
	実質履修単位	一 般	9	9
		専 門	20	21
	計 b		37	38
4年次	振替単位(特設科目)		2	2
	履修猶予単位	一 般	0	0
		専 門	0	0
	実質履修単位	一 般	6	6
		専 門	25	25
	計 c		33	33
5年次	振替単位(特設科目)		1	1
	履修猶予単位	一 般	0	0
		専 門	0	0
	実質履修単位	一 般	4	4
		専 門	24	23
	計 d		29	28
合 計 a+b+c+d			169	169

2. 振替単位(特設科目)

授 業 科 目		振替年次	単位	振替科目
3年次	日本語Ⅰ	3	2	国語
	日本語Ⅱ	3	2	政治経済
	基礎数学	4	2	国語表現
	基礎物理	4	2	第2外国語
4年次	日本語Ⅲ	5	2	第2外国語
5年次	日本語Ⅳ	5	1	法学

3. 3年次 履修猶予単位

学 科	授業科目	単位
機 械 工 学 科	無	
電気電子工学科	無	
物 資 工 学 科	無	

4. 4年次 履修猶予単位

学 科	授業科目	単位
機 械 工 学 科	無	
電気電子工学科	無	
物 資 工 学 科	無	

5. 一般学生の修得単位

		M	C
2年次まで	一 般	53	53
	専 門	17	17
	計 a	70	70
3年次	一 般	13	13
	専 門	20	21
	計 b	33	34
4年次	一 般	10	10
	専 門	25	25
	計 c	35	35
5年次	一 般	7	7
	専 門	24	23
	計 d	31	30
合計 a+b+c+d		169	169

※必要最小限の単位数

物質工学科4. 5年専門科目あわせて48単位以上

（出典　学生課）

一般高校からの本科４年編入学生に対しては，編入試験合格発表（８月）後，本校の学習・生活に関する資料を送付し，３月と４月に学習・生活に関するオリエンテーションを実施している。さらに数学や専門科目などを中心に，担当教員から必要に応じて個別指導を行なっている。

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生に対して，チュータの配置や留学生特設科目の設定により，学習支援体制は十分にとられている。編入生に対しても入学前の各学科の指導やオリエンテーションが十分に取られ，編入学後にも担任を中心に学習に対する支援を十分行なっている。心身に障害を有し，支援が必要と認められる学生についても，特別支援室を中心に支援が十分にとられている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生会は，学生会規約（資料７－ １－ ⑤－ １）沿って組織されている。学校では学生主事を中心に学生会をサポートする一方，すべてのクラブ活動に指導教員を１名以上配置している。現在クラブ活動を行なっている，部・同好会を記載したホームページの一部を（資料７－ １－ ⑤－ ２）に示す。

資料７－ １－ ⑤－ １

「福井工業高等専門学校学生会規約（抜粋）」

第２章　会員の権利と義務

第３条　本会は、福井工業高等専門学校の学生全員を会員とする。

２　全学生は、会員としての権利を持つとともにその義務と責任を持たなければならない。

第４条　会員は、規約で定められた会費を納入する義務を負う。

第５条　会員が本会員として有する権利義務は、全く平等であり、学年、思想、性別、その他いかなる条件によっても差別をうけない。

第３章　機関

第６条　本会に次の機関を置く。

一　総会
二　評議会
三　役員会
四　運営委員会
五　体育委員会
六　文化委員会
七　厚生委員全
八　選挙管理委員会
九　監査委員会
十　学級会
十一　部門会

（出典　平成24年度学生便覧，ｐ.132）

資料７－ １－ ⑤－ ２

「部活動の紹介」

（出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/junior/enjoy/club.html）

このようなクラブ活動の運営金は学生会活動として行われ，これらの部活動補助の学生会活動全体における状況を（資料７－ １－ ⑤－ ３）に示す。

資料７－ １－ ⑤－ ３

「平成２３年度・学生会修正決算」

平成23年度　学生会修正決算

平成24年 3月 31日現在

収入の部

科目	予算額	収入済額	備考
学生会費	[redacted]	[redacted]	[redacted]円×993名 [redacted]円(3名追加)
教育後援会費	[redacted]	[redacted]	支出の部　課外活動補助費に使用
利息	[redacted]	[redacted]	[redacted]円追加
繰越金	[redacted]	[redacted]	平成23年度体育祭の学科補助の余り[redacted]円を追加
合計	[redacted]	[redacted]	

支出の部

科目	予算額	支出済額	備考
部活動補助	[redacted]	[redacted]	内訳は別紙
体育委員会補助	[redacted]	[redacted]	平成23年度体育祭 [redacted] 平成24年度体育祭前払い金 [redacted] 球技大会 [redacted]
文化委員会補助	[redacted]	[redacted]	内訳は別紙
高専祭補助	[redacted]	[redacted]	
厚生委員会補助	[redacted]	[redacted]	高専祭の厚生費も支出（内訳は別紙）
青塔作成費	[redacted]	[redacted]	青塔1,050部作製費 [redacted]追加
広報活動補助	[redacted]	[redacted]	高専祭ポスター作成費
ボランティア活動費	[redacted]	[redacted]	クリーン大作戦の費用（内訳は別紙）
学生会活動費	[redacted]	[redacted]	学生会室ウッドカーペット代[redacted] 学生会室テーブル代[redacted] 用紙・インク代[redacted] プリンター代[redacted] ラミネーター代 [redacted] 電話代 28,264円 手数料 14,070円 電話代[redacted]円追加 手数料[redacted]円追加 インク代[redacted]円追加 時計代 [redacted]円追加 学生会室テーブル・いす代[redacted]追加 イヤホンマイク代[redacted]円追加
課外活動補助	[redacted]	[redacted]	課外活動遠征・宿泊費等 [redacted]追加
緊急用補助	[redacted]	[redacted]	
予備費	[redacted]	[redacted]	
合計	[redacted]	[redacted]	

※次年度繰越金　　（収入）－（支出）＝[redacted]

よって，[redacted]を次年度に繰り越す．（緊急用補助[redacted]含む）

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

学生のクラブ活動や学生会の課外活動に対する支援は整備され，機能しているといえる。その根拠理由として，学生の課外活動に学校全体として取り組み，全教員のほとんどが何らかの形で学生の課外活動を支援している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活，経済面での指導・相談・助言は，直接は各学級担任が担当し，必要に応じて学生主事を中心とした補導委員会全体で支援を行う（資料７－ ２－ ①－ １）。専攻科では，各専攻の２名の専攻科主任が学生の指導や助言にあたっている。奨学金や授業料に関する情報（資料７－ ２－ ①－ ２）は，担任経由もしくは学内掲示板・ホームページなどを用いて学生に伝えられ，学生課学生生活係で対応を行なっている。

資料７－ ２－ ①－ １

「福井工業高等専門学校補導委員会規則（抜粋）」

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　学生の保健管理に関する事項

(2)　学生の福利厚生に関する事項

(3)　学生の規律及び風紀に関する事項

(4)　学生の育英奨学に関する事項

(5)　学生会に関する事項

(6)　その他学生の補導に関する重要な事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　学生主事

(2)　寮務主事

(3)　学生主事補

(4)　学級担任

(5)　学生課長

２　委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

３　校長は、第2条第6号のうち、専攻科生と関連する事項を審議する場合は、委員会に専攻科委員会委員を加えるものとする。

４　委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（出典　本校規則集）

資料７－ ２－ ①－ ２

「就学支援金・授業料に関する情報」

就学支援金・授業料に関する情報

福井高専

ホーム |

○平成２４年度前期分授業料免除について(2012.1.13)
○家計が急変した学生に対する授業料免除について(2011.11.7)
○保護者が失職した学生に対する授業料免除について(2011.11.7)
○本科３年に対する授業料免除について(2011.11.7)
○高等学校等就学支援金加算支給申請に関する手続きについて(2011.6.3)
【第１学年　第２・第３学年】

●Poster

○就学支援金（文部科学省）チラシ（pdf）

（出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/support/index.htm）

近年の経済状況の悪化や自然災害に伴う保護者の失職等により，就学が困難となる事例も増え，様々な緊急的事由に対応した入学料免除・入学料徴収猶予・授業料免除などの制度がとられている。

（分析結果とその根拠理由）

学生の生活に関する指導・助言は，教職員が一丸となって対応をしており，特に学級担任を中心としたきめ細かい指導が行われている。経済的な支援でも，様々な事由に対応した授業料免除などの制度が実施されている。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

観点７－ １－ ④で既に示したように，身体に障害を持つ学生への支援として，傷害者用トイレ施設の充実や段差解消スロープなどのバリアフリー化がとられている。これらの対応の結果，平成２４年度には車椅子学生の入学者も受け入れている。

外国人留学生については観点７－ １－ ④で既に示したように，外国人留学生委員会を設置し，各外国人留学生１人にチュータを任命することで，学習面に加え学寮生活についても支援にあたっている。学寮でも食習慣の違いに対応するために留学生のための捕食談話室を設け，冷蔵庫・システムキッチン・食器棚・コンロを設置している。生活習慣の違いにも対応するために，留学生専用のシャワー室などを設けている。

私費留学生については，一般学生と同様な入学料免除・授業料免除に加え，様々な奨学金取得に向け指導を行なっている。さらに，学寮以外の住居を利用する場合は，外国人留学生機関保証制度により支援を行なっている。（資料７－ ２－ ②－ １，２）

さらに日本での文化や生活を理解するために，見学旅行やスキー体験といった研修も実施している。（資料７－ ２－ ②－ ３）

資料７－ ２－ ②－ １

「私費留学生に対する財政支援について」

私費留学生に対する財政支援について

該当者：[redacted]

・平成２３年度　入学料徴収猶予申請（専攻科）･･･学業基準が基準に達しないため不許可

・平成２３年度　授業料免除（前期分）申請･･･学業基準が基準に達しないため不許可

・平成２４年度　授業料免除（前期分）申請中

・平成２３年度公益財団法人ウシオ財団奨学金採用（給付型）
月額 60,000 円　　年額 720,000 円
受給期間　平成２３年４月～平成２５年３月

（出典　学生課）

資料７－ ２－ ②－ ２

「外国人留学生機関保証制度利用申請書」

（別紙様式1）

福井工業高等専門学校外国人留学生機関保証制度利用申請書

平成 23 年 4 月 6 日

福井工業高等専門学校　　殿

所　属 [redacted] 年次

氏　名 [redacted]

サイン [redacted]

私は、下記のとおり福井工業高等専門学校外国人留学生機関保証制度を利用したいので、別紙誓約書を添えて申請いたします。

記

利用目的	☑ (1) 住宅の賃貸借契約 ☐ (2) その他 (　　)
利用期間	平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 25 年 3 月 31 日
契約先	契約先名 [redacted] 代表者名 [redacted] 住　所 [redacted] ＴＥＬ [redacted] FAX [redacted]
添付書類	☑ (1) 賃貸借契約書 留学生住宅総合補償加入者証（写） ☐ (2) その他 (　　)
現在の住居	住　所 [redacted] ＴＥＬ [redacted]

（出典　学生課）

資料７－ ２－ ②－ ３

「外国人留学生がスキー・スノーボード体験ツアーを行いました」

外国人留学生がスキー・スノーボード体験ツアーを行いました

平成24年2月25日（土）に、本校の外国人留学生に、本国では見ることができない沢山の雪を体感してもらい、スキーやスノーボードの体験及び本校留学生関係者との親睦を図るため、ＳＫＩＪＡＭ勝山で「留学生スキー・スノーボード体験ツアー」を行いました。留学生の中には初スキーの学生もいましたが、初リフトも経験し、天気が悪いにもかかわらず楽しい１日を過ごしました。

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=416）

（分析結果とその根拠理由）

障がい者のためのバリアフリー化も主要施設では完備され，学内の生活支援は充実している。外国人留学生などの生活面でも，担当の学生チュータを任命することで十分な生活支援を行なっている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

自宅が遠方で通学が困難な学生のために，２４５名を収容可能な学生寮を設置している（資料７－２－③－１，２）。

資料７－２－③－１

「学寮(青武寮)」

○学寮(青武寮)

高専構内に学寮4棟があります。収容定員は245名で、東寮、西寮、南寮、北寮となっています。東寮、南寮（1人部屋及び2人部屋）と西寮（4人部屋）は男子寮で、北寮（1人部屋及び2人部屋)は女子寮です。
日野山が一望でき、すぐ横を日野川が流れていて、明るい環境で快適な生活が送れるよう配慮してあります。高専の寮は、寮生の自主性を重んじつつ、規律ある生活が送れるように、全教員が交替で寮監として泊まります。

■学寮の諸経費のおおよその内訳

寄宿費	800円(月額)
食事費	23,000円(月額)
寮費	4,500円(月額) (冬季は暖房費も必要です)

南寮

東寮

寮室内

（出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/junior/course/support.html）

資料７－２－③－２

「平成24年度 在籍寮生数」

平成24年度在籍寮生数

平成24年4月1日現在

学年 / 学科	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合 計
機 械 工学科	14 (1)	11	9 (1)	12	13	59 (2)
電気電子工学科	12	10 (2)	9 (1)	10 (2)	8	49 (5)
電子情報工学科	10 (2)	9 (2)	6	6 (1)	3 (1)	34 (6)
物 質 工学科	7 (2)	12 (7)	8 (3)	9 (4)	8 (1)	44 (17)
環境都市工学科	10 (4)	10 (2)	6 (1)	7	6 (2)	39 (9)
合 計	53 (9)	52 (13)	38 (6)	44 (7)	38 (4)	225 (39)

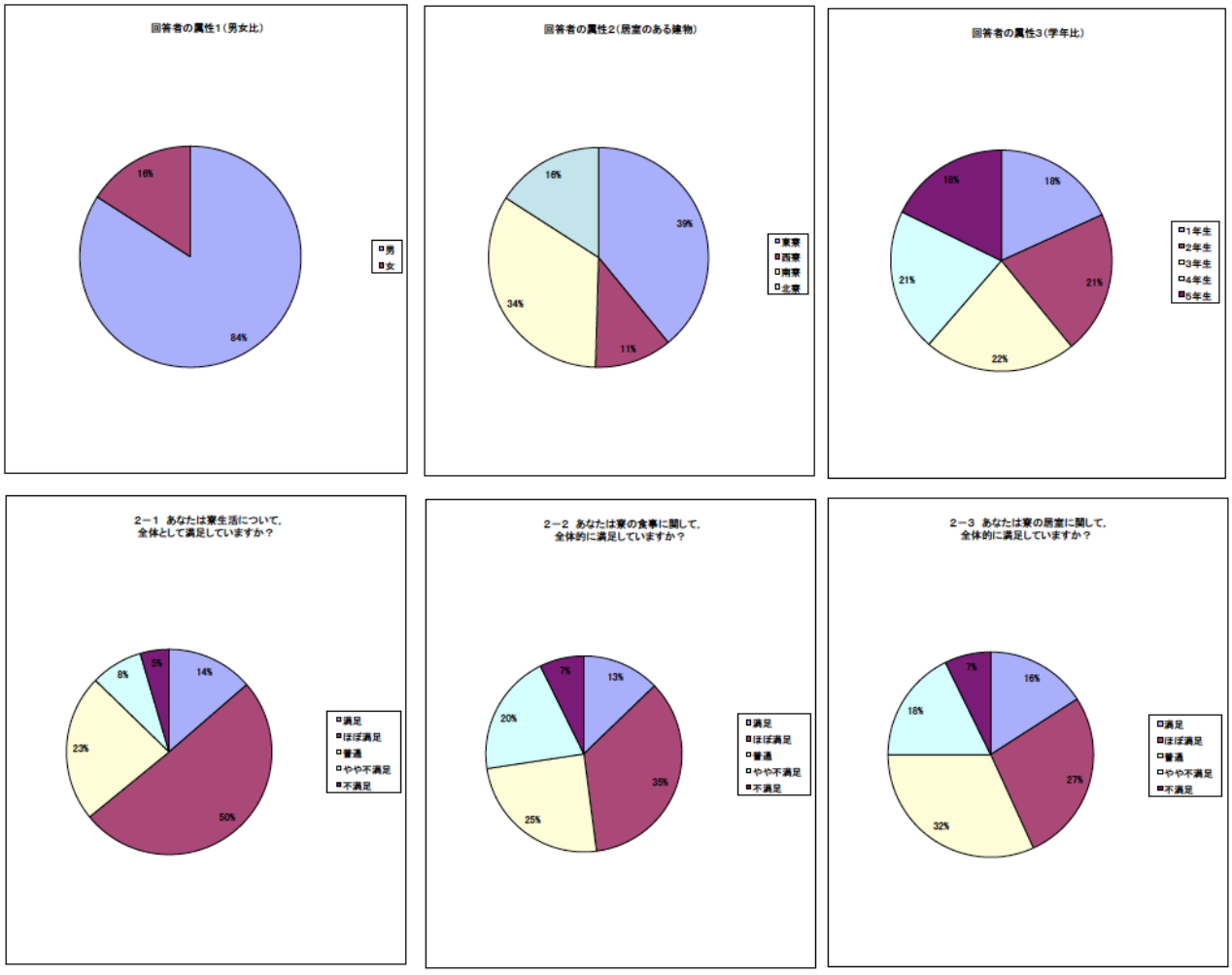
( )は女子で内数

（出典　学生課）

学寮については，寮務主事が中心となり，学寮運営委員会，寮務主事団，学生課学生生活係がその運営にあたっている。学寮は学校敷地内にあることから，学習・部活動に対する利便性に富む。居室についても学寮内での友人関係を構築するための本科１年を除き個室となっている。平成２２年度からは北寮棟を女子専用棟としたことから女子入寮希望者も増え，例年入寮希望者が多い状態が続いている。平日は全教員交代による２名宿直体制をとり，生活面での指導など支援体制も充実している。学習環境としても，学寮図書室に学習環境及びインターネット端末を提供している。これらの生活環境については，教育環境アンケート内に寮生活の回答を設けて，生活環境改善に取り組んでいる。（資料７－ ２－ ③－ ３）

資料７－ ２－ ③－ ３

「平成２２年度学寮運営委員会資料・学寮のアンケート結果」



（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

寮務主事を中心とした教職員の支援に加え，全教員交代による宿日直により，寮学生の生活や勉学の支援・指導が十分に行われている。学寮生活についても教育環境アンケートの意見要望を踏まえ，学寮生による自治会である寮生会と情報交換をとりながら，生活改善に取り組んでいる。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の就職・進学を支援するために進路指導委員会を設置し（資料７－ ２－ ④－ １），教務主事・学生主事・学科長・学級担任や専攻科委員などを交え，進学・就職に関する情報意見交換をとりながら，学級担任が中心となって進路指導を行なっている。学級担任は，保護者を交えた進路相談，応募資料の添削，面接の練習など進路の選択から応募まできめ細かな指導（資料７－ ２－ ④－ ２）を行なっている。進路指導委員会では，本科４年及び専攻科１年を対象とした校外研修・インターンシップでの情報交換や，キャリア教育セミナー等の企画運営を行なっている（資料７－ ２－ ④－ ３，４）。就職・進学の事務手続きの一本化のために進路指導室を設け，求人企業との対応や，学生の求人・進学の対応を行なっている。

資料７－ ２－ ④－ １

「福井工業高等専門学校進路指導委員会規則（抜粋）」

（審議事項）

第２条　委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

(1)　学生の進学に関する事項

(2)　学生の就職に関する事項

(3)　学生のキャリア教育・職業教育に関する事項

(4)　その他校長が特に諮問した事項

（組織）

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　教務主事

(2)　学生主事

(3)　専攻科長

(4)　学科長及び教室主任

(5)　専攻科委員会委員

(6)　第1学年から第5学年の学級担任

(7)　学生課長

(8)　その他校長が特に必要と認めた者

２　前項第８号の委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

（出典 総務課）

資料７－　２－　④－　２

「オフィスアワーの実施例」

5月 †

630分、19件

- 5EI: 就職の面接練習(15分) -- t-saitoh 2011-05-31 (火) 15:09:33
- 4EI: 創造工学の相談対応(10分) -- t-saitoh 2011-05-30 (月) 17:46:08
- 5EI: 就職について保護者と面談(60分) -- t-saitoh 2011-05-30 (月) 13:32:44
- 4EI: 創造工学レポートのダメだし(120分) -- t-saitoh 2011-05-27 (金) 17:51:39
- 5EI: 卒研室内の中間発表(90分) -- t-saitoh 2011-05-27 (金) 15:22:29
  - H:JavaScript?+クラウド+Javaオブジェクト指向
  - M:JavaScript?+クロージャ
- 5EI: 大学編入面接練習(15分) -- t-saitoh 2011-05-27 (金) 15:21:52
- 5EI: 就職2次募集状況の確認3件(30分) -- t-saitoh 2011-05-26 (木) 18:10:41
- 5EI: 大学面接の練習(90分) -- t-saitoh 2011-05-25 (水) 16:13:20
- 5EI: 就職結果の連絡(5分) -- t-saitoh 2011-05-25 (水) 08:47:20
- 5EI: 内定書の受け渡し(5分) -- t-saitoh 2011-05-18 (水) 17:47:25
- 4EI: 実験レポートの受け取り(5分) -- t-saitoh 2011-05-18 (水) 17:46:49
- 5EI: 単位振替の確認(10分) -- t-saitoh 2011-05-18 (水) 17:46:19
- 4EI: 実験レポートの受取り5分×4人＝20分 -- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:39:50
- 3EI: proxyサーバの導入に関する質問(30分) -- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:36:08
- 5EI: レポート印刷(5分) -- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:35:36
- 5EI: 英語単位振替のトラブル対応(5分) -- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:35:09
- 5EI: 就職情報の説明(20分) -- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:34:49
- 5EI: TKG面接練習(40分)　-- t-saitoh 2011-05-17 (火) 21:34:14
- 5EI: MTY面接練習(60分) -- t-saitoh 2011-05-1?

4月 †

90分、2件

- 5EI: 就職面接の練習(60分) -- t-saitoh 2011-04-13 (水) 17:08:43
- 5EI: 応募書類の作成(30分) -- t-saitoh 2011-04-13 (水) 17:08:21

（出典 電子情報工学科）

資料７－ ２－ ④－ ３

「平成２３年度進路指導委員会幹事会（第３回） 議事要旨（抜粋）」

議　題

１．キャリア教育セミナー（合同企業説明会）について　（資料）

委員長から、資料に基づき 225 社へ案内を送付したところ、165 社から回答があり、現在のところ 62 社が参加予定であるとの報告があった。

昨年度実施の合同企業説明会より企業の参加が少なくなった理由としては、同日に行われる校外研修の企業担当者がキャリア教育セミナーの担当でもあること、「キャリア教育セミナー」に名称を変更したことで、理解しにくかったことが挙げられるとの説明があった。

２．平成 23 年度大学・大学院合同説明会について　（資料）

委員長から、参加大学数、幹事会委員の役割について検討したい旨の説明があり、山本委員からの資料（席上配付）説明により検討した。

９大学に対して案内を送付し、説明の順番は本校の学生を受け入れている実績の多い順とすることとし、業務分担は資料のとおりとすることとなった。

３．来年度の行事日程について（特にキャリア教育セミナーが２年生の企業訪問と重複）

委員長から、平成 24 年度の行事日程について決めたい旨の説明があり、「キャリア教育セミナー」については、12 月初めの後期中間試験終了後の最初の土曜日に実施すること、「大学・大学院合同説明会」については、今年度と同時期に実施することで了承された。

（出典　進路指導委員会）

資料７－ ２－ ④－ ４

「第6回キャリア教育セミナーを開催しました」

第６回キャリア教育セミナーを開催しました

２月１３日、福井県求職者支援センター滝尾敏顕氏を講師にお招きし、本科４年生及び専攻科１年生を対象に、「面接の心構えについて」と題してキャリア教育セミナーを開催しました。進路決定を間近に控えた学生は、昨今の就職事情を考えてか、会場は静まりかえって講演に聴きいっていました。

講演では、「仕事の目的を何に求めるか」、「自分が好きなことは何か」、「自分として得意なことは何か」を自己分析し、「求職目標をいくつか立てること。第一目標でなくとも、内定を受けた会社が適職となる職場であり、適職とは、自分で作り上げていかなければならないこと」を切実に伝えられ、さらに、就職面接の際の極意や心得についても伝授していただき、面接における基本動作やマナーなど心構えを学ぶ貴重な経験となりました。

（出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=413）

（分析結果とその根拠理由）

学生の就職や進学では進路指導委員会が中心となり，早期の就学就業意識付けのためのインターンシップや進路指導セミナーなどを実施している。さらに，求人企業との対応や進学就職希望学生の対応を行うために進路指導室を設け，教員及び事務職員のきめ細かな対応を行うための体制が整備され，就職進学学生は，進路指導室を積極的に利用し様々な情報を活用している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生の学習活動・生活に対する支援は優れていると言える。また，留学生などの特別な支援が必要な学生についても，様々な支援体制が十分に整っている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準７の自己評価の概要

学生に対する学習支援として，シラバスの公開などホームページを中心に必要な情報が得られるようになっている。学生の学習指導面でも，約40人のクラスに対し学級担任を配置し，学習・生活の両面できめ細かな対応ができている。自主的な学習環境として，図書館や総合情報処理センターなどの施設も充実している。これらの改善のために毎年度，教育環境アンケートを実施し，要望を把握して対応するための体制も充実している。

近年は，資格取得や留学経験のための支援として様々な取り組みが行われている。資格では学生の資格取得状況を把握や受験の支援なども積極的に行われている。留学については交換留学制度による派遣制度にも取り組んでいる。外国人留学生の受入にあたっても，学習と生活の両面から支援するためのチューター制度によりきめ細かな指導が行われている。

遠隔地出身の学生への支援として学生寮を設置し，寮務委員会に加え全教員交代による宿日直が実施されている。学生の進路指導でも，進路指導委員会と担任の協力の下，学生の状況を把握したきめ細かな指導が行われている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点にかかる状況）

本校の施設概要は，（資料８－１－①－１～２）に示すように，高等専門学校設置基準により必須とされる校地・校舎や施設・設備を有し，また管理されている。

大規模教室として，大講義室(面積２１８㎡)，メディアホール(面積２５２㎡)，合併教室(面積１３０㎡)があり，複数クラス同時講義や各種講演会に対応できるようになっている。また，語学教育にも対応可能なe-ラーニング室(面積９５㎡)にはパソコン端末機を備えている。さらに，主として機械工学科における工作実習に使用される機械実習工場は，同授業以外には教員の研究はもちろんのこと，本科(準学士課程)卒業研究や専攻科特別研究を遂行するのに必要な実験装置や器具の製作等にも対応できるようになっている。

一般教育棟，各学科棟及び専攻科棟内の全教室と上記の大規模教室には，スクリーンと天井吊り下げ型プロジェクターを設置し，プレゼンテーションを伴う授業にも対応できるとともに，空調設備も完備されており，１年を通して快適な学習環境を提供している。

また，教室を含むこれらの施設設備は，教育課程のなかで有効に活用されている(資料８－１－①－３～４)。

また，地域連携テクノセンターには，超高分解能電子顕微鏡システム，電解放射型走査電子顕微鏡システムなどの大型機器が備えられており，これらの機器は，学生の卒業研究・特別研究や工学実験等の教育研究活動のみならず，地域貢献として学外からの使用依頼や測定依頼にも応えている。

本校では，施設整備委員会による施設整備に関する年次計画に基づき，教室や実験室を有する主要な校舎，図書館，体育館及び福利施設等の玄関に車椅子用のスロープの設置や，トイレのバリアフリー化対策も行っている。

環境面への配慮としては，廊下やトイレの電灯には人感システムを導入するとともに，図書館閲覧室，食堂(福利施設)や第１体育館ステージ等においては，ＬＥＤ化への変更も逐次進めている。

情報関連施設としては，総合情報処理センター内に，1 クラスの学生数以上の台数のパソコンを設置した演習室が３室と少人数用の演習室が１室の，計４室(パソコン台数１５１台)があり，同時に３クラスの授業が行えるシステムが整備されている。これらの演習室にも，スクリーン及び天井吊り下げ型プロジェクターが備えられており，情報処理教育，ＣＡＤシステムを用いた製図教育のみならず高度な専門教育まで十分に対応できる体制になっている。

図書館には，学習に必要な専門図書をはじめ，一般教養図書，新聞，雑誌を多数そろえており，学習の援助はもとより，学生の教養を涵養できるようにもなっている。また，技術士資格取得や技術者倫理のコーナーを設け，技術者教育の一端を担っている。さらに，映画や音楽に興味を持つ学生のために，ＣＤ，ＬＤ，ＤＶＤ，ブルーレイディスクなどの各種ソフトウェア及びそれらを視聴できるオーディオルームが設けられている。

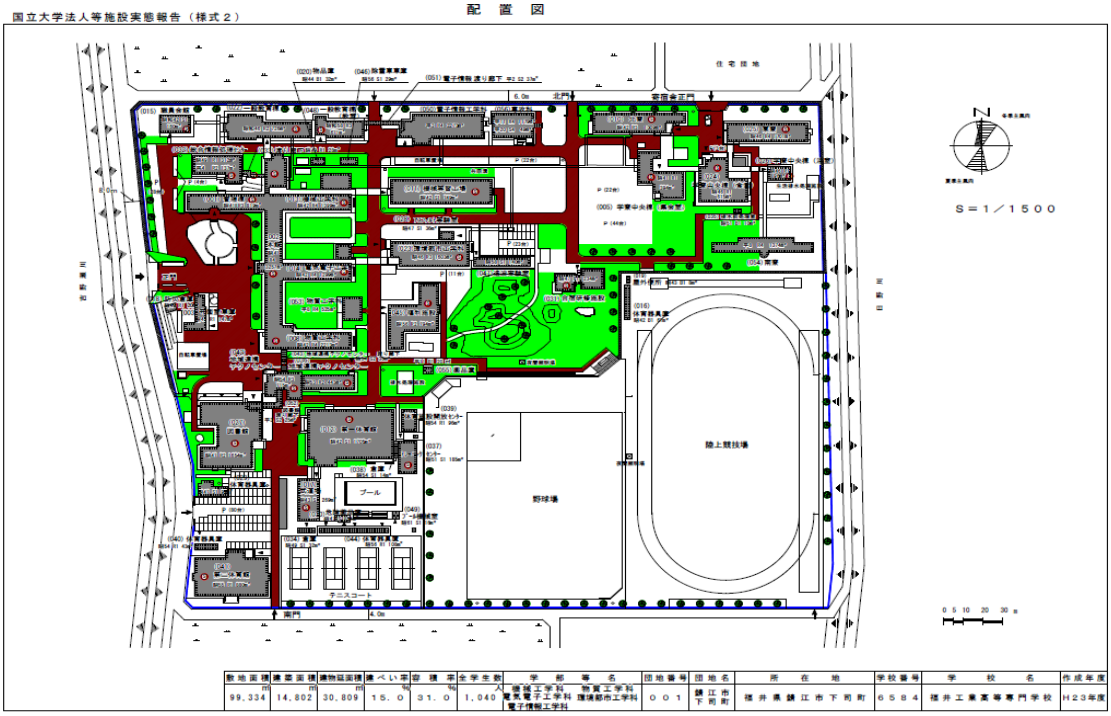
学校全般の安全衛生面に関しては，安全衛生委員会を中心として毎年校内を巡視し，点検や評価を行い，必要に応じた改善提案を施設設備管理者に行っており，適切な学校環境の整備に努めている(資料８－１－①―５)。

資料８－１－①－１

「施設配置図」

国立大学法人等施設実態報告（様式２）

配　置　図



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
㎡	㎡	㎡	%	%	人							
99,334	14,802	30,809	15.0	31.0	1,040	機械工学科 物質工学科 電気電子工学科 環境都市工学科 電子情報工学科	００１	鯖江市下司町	福井県鯖江市下司町	６５８４	福井工業高等専門学校	Ｈ23年度

（出典　総務課）

資料８－１－①－２

「施設実態調査(団地概要)」

国立大学法人等施設実態報告（様式１－１）

団　地　概　要

作成年度	学校番号	学校名	団地番号	団地名
2012	6584	福井工業高等専門学校	1	鯖江市下司町

〈1〉敷地の位置

所在地	鯖江市下司町	設置年度	昭和 41 年
学部等名	工業高専校舎 高専管理部 高専一般管理施設 高専図書館 高専屋内運動場 高専屋外運動場付属施設 高専福利厚生施設 高専寄宿舎 高専設備室 高専渡り廊下 高専電算機施設	設置以前の状況	農地
		本部団地からの距離	0 Km
		標高	25.0 m　高低差 0.0 m
		緯度	35 度 56 分 0 秒
		経度	136 度 10 分 32 秒

〈2〉敷地・建物面積等

区分		前年度	当年度	増減	敷地面積に対する比
土地	所有	99,334	99,334	0	建ぺい率（法令等に規定する値 60 %）
	借用	0	0	0	
	計	99,334	99,334	0	150 %
建物	建築面積	14,802	14,802	0	容積率（法令等に規定する値 200 %）
	延べ面積 現有	30,809	30,809	0	
	延べ面積 未完成等	0	0	0	310 %
	計	30,809	30,809	0	

〈3〉構造別保有面積

区分	R	S	W	B	計
面積	㎡ 26,973	㎡ 3,705	㎡	㎡ 131	㎡ 30,809
構造比率	% 87.5	% 12.0	% 0.0	% 0.4	% 99.9

〈4〉用途別保有面積

校舎	16,134 ㎡	研究所	㎡
図書館	1,597 ㎡	附属教育研究施設	㎡
体育館	3,470 ㎡	病院	㎡
福利施設	1,008 ㎡	寄宿舎	5,387 ㎡
管理部	1,998 ㎡		
その他	665 ㎡		
職員宿舎	㎡		
設備室	550 ㎡		

〈5〉棟数等

団地内で最も高い建物の概要	棟番号	2	棟名称	本館	団地内の総棟数	51 棟
	地盤面からの最高の高さ	24.6 m	構造・階数	R4		

〈6〉人口

学生生徒等	教員	その他職員	計
1,040 人	80 人	49 人	1,169 人

〈7〉一人当たり

区分	学生当たり	学生＋教官当たり	全人口当たり
敷地	95.5 ㎡	88.7 ㎡	85.0 ㎡
建物	29.6 ㎡	27.5 ㎡	26.4 ㎡

〈8〉設備概要

給水	水源の区分	市水・井水	引込管経及び箇所数	100 mm 1 箇所	
ガス	供給方式	都市ガス・ボンベガス	都市ガスの引込管経及び箇所数	mm 箇所	
契約電力	種別	高圧B	電力	550 KW	
受電変圧器容量	特高 KVA		高圧以下	1,200 KVA	
自家発電装置	目的		台数・能力	台 KVA	
電話交換機	機種	IP交換機	回線数	253 / 380 回線	
排水	排水方式	合流・分流	処理方式	公共下水道・合併処理・し尿浄化槽・その他	特定事業場 有 / 無

〈9〉備考

整理番号	1

（出典　総務課）

資料８－１－①－３

「平成２４年度前期授業時間割表(特別教室用)(抜粋)」

平成２４年度　前期　授業時間割表　【特別教室】

		027	028	029	030	031	032	036	033	034
		合併教室	大講義室	ｅ-ラーニング室	情報センター第1演習室	情報センター第2演習室	情報センター第3演習室	情報センター第4演習室	機械工学科製図室	実習工場
月	1				情報処理Ⅱ 3E 丸山	電子情報工学実験Ⅳ 5Ei 青山	電子情報工学実験Ⅳ 5Ei 青山	ｼﾝﾌﾄｰﾄ構造学Ⅰ 4B 阿部	機械設計工学設計製図Ⅰ 2B 江本	機械工学概論Ⅱ 5E 担当教員
	2									
	3			英語Ⅱ 2E 小寺	ものづくり科学 1ALL			構造デザイン 5B 吉田雅		構造デザイン 5B 吉田雅
	4									
	5					機械工学実験Ⅱ 5M 加藤寛	情報処理演習 3C 吉村忠	機械設計工学設計製図Ⅳ 4B 江本		
	6				C言語応用 3M 亀山建					
	7									
	8									
	9									
	10									
火	1		英語Ⅴ 5C 森貞		電子情報工学実験Ⅲ 4Ei 重田		情報処理Ⅰ 2E 米田	知能機械演習 4M 村中		知能機械演習 4M 村中
	2									
	3	物質科学 1PS/ES 西野		国語 3Ei 中村・			水文学 5B 廣部			
	4									
	5		中国語 4M/Ei/E （非）王	国語 3E 中村・	現代制御工学 5E 佐藤	創造工学演習 3M 加藤寛	情報化学 4C 吉村忠	機械設計工学設計製図Ⅲ 3B 江本		創造工学演習 3M 加藤寛
	6									
	7	ドイツ語 5M/E 廣重	中国語 5Ei （非）王		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門 1F4 平井		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門 1F3 川上	数値解析 5B 阿部		
	8									
	9									
	10									
水	1	ドイツ語 4C/B 廣重	中国語 4C/B （非）林				数値計算 3Ei 村田	環境保全工学 5B 奥村	機械設計製図Ⅲ 5M 芳賀	
	2			英語Ⅰ 1F5 小寺						
	3	ドイツ語 5C/B 廣重	中国語 5C/B （非）林	英語Ⅳ 4Ei 小寺	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎 2C 平井		制御工学Ⅱ 5E 佐藤	機械設計工学設計製図Ⅱ 4B 阿部		
	4									
	5	数学特講 5ALL 柳原	歴史学特講 5ALL 依野	英語特講 5ALL 吉田三	ものづくり科学 1ALL		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ応用 3Ei 斉藤	ものづくり科学 1ALL	機械製図 2M 金田	
	6									
	7									卒業研究 5M 加藤寛
	8									
	9									
	10									
木	1		英語Ⅴ 5M 森貞	現代英語 1PS/ES 原口	電子情報工学実験Ⅲ 3Ei 村田	機械工作実習 2M 加藤寛	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ基礎 2Ei 重田			機械工作実習 2M 加藤寛
	2							機械設計工学実験実習Ⅱ 5B 阿部		
	3			英語Ⅳ 4C 吉田三			情報構造論 4Ei 斉藤		機械設計製図Ⅱ 4M 藤田	
	4		音楽 1F1 （非）石井							
	5		音楽 1F4 （非）石井				機械設計工学実験実習Ⅲ 4B 廣部	機械設計工学設計製図Ⅲ 4B 江本		卒業研究 5M 加藤寛
	6		音楽 1F3 （非）石井		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門 1F2 平井					
	7			英語Ⅱ 2M 小寺						
	8									
	9									
	10									
金	1		英語Ⅲ 3B 森貞	英語Ⅳ 4E 吉田三	電子情報工学実験Ⅰ 2Ei 西	画像情報処理 2PS/ES 平井	創造工学演習 4Ei 高久	機械計算力学 4M 玉味	機械製図 2M 金田	
	2									卒業研究 5M 加藤寛
	3		音楽 1F5 （非）石井	英語Ⅳ 4M 小寺				構造デザイン 5B 吉田雅		
	4		音楽 1F2 （非）石井							
	5			英語Ⅳ 4B 小寺	C言語基礎 2M 亀山建		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門 1F1 平井		機械設計製図Ⅰ 3M 安丸	
	6		英語Ⅲ 3E 森貞		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学入門 1F5 村田			ｱｲﾃﾞｱ設計工学 5M 田中嘉		ｱｲﾃﾞｱ設計工学 5M 田中嘉
	7									
	8									
	9									
	10									

（出典　学生課）

資料８－１－①－４

「スペースの有効活用に関する取り組み状況(抜粋)」

スペースの有効活用に関する取組状況（報告様式②）

法 人 番 号101
法　人　名 国立高等専門学校機構(福井工業高専)

1．施設利用状況調査の状況						
(1) 施設利用状況調査の対象面積						16,534 ㎡
(2) 施設利用状況調査の実施周期						3年 周期
(3) 施設利用状況調査の対象施設（(1)の内訳）						
区分	調査対象範囲	区分	調査対象範囲	区分	調査対象範囲	
教育・研究施設	全面積を対象	支援施設	全面積を対象外	附属病院	保有無し	
図書館	全面積を対象外	宿泊施設	全面積を対象外	管理施設	全面積を対象外	
体育施設	全面積を対象外	附属学校	保有無し	設備室等	全面積を対象外	
(4) 平成２３年度の施設利用状況調査実施面積						16,534 ㎡
(5) 施設利用状況調査の具体的方法	各室の施設の管理者、狭隘化状況、利用実態等を調査。					
2．共同利用スペースの状況						
(1) 共同利用スペースの面積						803 ㎡
(2) (1)の内訳						

	共通的スペース			競争的スペース			
区分	全学的に運営しているスペース	複数の部局等で運営しているスペース	特定の部局等で運営しているス	利用目的	全学的に運営しているスペース	複数の部局等で運営しているスペース	特定の部局等で運営してい
教育・研究施設	482			教育・研究施設	207		
教育・研究施設以外	114			教育・研究施設以外			

(出典　総務課)

資料８－１－①－５

「営繕要求事業案(抜粋)」

平成24年度営繕事業一覧表

別 紙 1

学 校 名　福井工業高専

学校番号	学校名	要求順位	整備方針 ①	事業内容の区分 ②	事業名称 ③	事業の概要 ④	構造階 ⑤	面積(㎡) ⑤	棟番号 ⑤	棟名称 ⑤	工事金額(千円) ⑥	工事発注予定 ⑦	工事完了予定 ⑧	技術支援の要望 建 ⑨	技術支援の要望 電 ⑨	技術支援の要望 管 ⑨	特配事項 ⑨	Is値 ⑪	緊急度ランク ⑪	防災地域の指定 ⑪	避難所指定 ⑪	施設整備費要求基準との関連 ⑫
19	福井工業高専	1	1 安全・安心な教育研究施設の確保	④ 老朽改善事業	学生寮空調電源等改修	セメスター制の導入により、夏季の寄宿期間が長くなること、防寒期間中に留学生が滞在することおよび熱中症対策から、空調機両電源を取得する。（空調機及び屋外機はリースで予定）また、そのことに伴い電気容量増加に対応するため、電気室の改修及び既存碍子器具の撤去を行う。	R3 R4 R4 R1	1,309 1,701 1,374 394	010 025 054 005	北寮 東寮 南寮 学寮中央棟（集会室）		H24.7.3	H24.10.5									
19	福井工業高専	2	7 ユニバーサルデザイン導入によるバリアフリー化の推進	⑤ ユニバーサルデザイン事業	電子情報工学科棟等身障者対策	電子情報工学科棟等身障者対策として、平成２３年度に、本校の経費で支援スロープの設置を行ったが、上層階への移動手段や便所などの整備が未だ未整備となっている。平成２０年度に関連である電波科棟にエレベーターを設置していることを考慮し、各階への連絡を考えた場合、各階の外部扉を自動ドアとし、スロープによる段差解消を行うことで移動手段の確保が行える。また、各階の男子・女子便所のスペース検討を行い、身障者便所スペースを設ける。今後、身障者が入学してきても不便なく教育を受けられる環境や、体験学習・公開講座時に身障者の方でも気軽に参加できる体制を構築したい。	R4 R4	2,273 1,228	050 056	電子情報工学科棟 考成科棟		H24.6.18	H24.9.28									
19	福井工業高専	3	1 安全・安心な教育研究施設の確保	④ 老朽改善事業	一般教育棟その他防水改修	現在一般教育棟を始め、屋上をシート防水で施工してあるが経年による材質の低下で剥れ・伸縮による割れ等で雨漏れが多発生している。屋下の教育環境である教室等の雨漏れを早急に対処するとともに、雨漏れによる内部断熱材の劣化、家具材の落下など、安全面で問題があり早急に全体の防水改修を行いたい。この改修により、断熱効果の強化も行え、教育環境の改善や省エネにも貢献できる。	R2 R3 R2	726 671 1,654	022 048 027	一般教育棟 一般教育棟（校室） 図書館		H24.6.11	H24.8.31									
19	福井工業高専	4	6 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上	⑤ その他事業	アメニティ空間創出	本校キャンパス内には学生がカレッジライフをおくるとで必要な、学生同士が自由に集い、憩える場に利用するアメニティ空間が不足している。そこで、本校施設整備計画に基づき学生支援環境等の充実を図る為に、キャンパスアメニティ空間創出計画を作成した。まず第一段階として、学校の第一印象であり本館棟南改修も済んでいる正面の空間を改修し環境に配慮したい。	–	605	–	管理棟南側築山		H24.7.30	H24.9.28									
19	福井工業高専	5	1 安全・安心な教育研究施設の確保	④ 老朽改善事業	第二体育館改修	第二体育館は、昭和５５年に建設されて以来、保護管等行っておらず、強力性・耐久性が低下している状態で、体育の授業時踊んだり跳ねたりした場合学生の足への負担が大きく怪我をしてしまう恐れがある。また、照明が暗く視認等の確認・試合で見にくい状態であり、怪我の確率が高く、また屋外実施している教育環境アンケート（学生アンケート）においても、体育館の照明及び保改修の要望が多数寄せられている。これらを解消するための安全面・健康面を考え、改修を行いたい。	S1	880	041	第二体育館		H24.8.6	H24.9.28									

(出典　施設整備委員会)

（分析結果とその根拠理由）

本校の施設・設備については，（資料８－１－①－１～２）に示すとおり，高等専門学校設置基準において必要とされる校地・校舎・運動場等の施設，及び教育環境を考慮した各教室，教育用器具等の設備が全て適切に整備され，有効に活用されている。また，毎年定期的な校内安全巡視点検がなされ，常に適切かつ安全な状態を保つように配慮されている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティのもとに適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校は校内 LAN を構築（資料８－１－②－１）し，全ての教室がインターネットにつながる環境となっている。また，基幹であるコアスイッチは冗長化され，各学科棟スイッチとそれぞれ光ケーブルで接続することにより耐障害性を高めている。基幹は 1Gbps×2 の 2Gbps，支線は 1Gbps に高速化されている。

学外ネットワーク網へは，インターネット（SINET）への対外接続を行い，校内 LAN の整備とともに順次高速化を進め 30Mbps に増強した。さらに，安定的な外部接続を確保するために，以下の３種類の形態での回線接続を行っている。

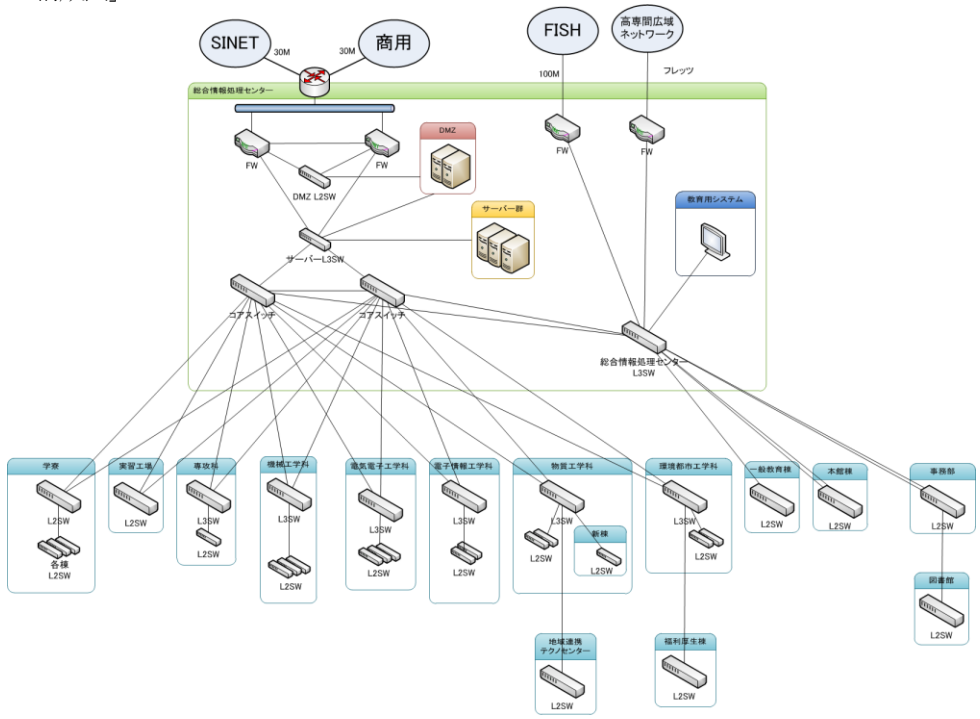
① SINET：接続先ノードを福井データセンターとし，回線速度は 30Mbps である。
② 商用：SINET の負荷分散及び SINET 障害時のバックアップ（非常回線）を目的にマルチホーム化が実現されている。回線速度は 30Mbps である。
③ FISH（福井情報スーパハイウェイ）：FISH に接続し，福井県内の６つの高等教育機関が参加する F レックス活動(互いの ICT 学習資源に容易にアクセスを可能とするプロジェクト)に活用している。回線速度は 100Mbps である。

総合情報処理センターは，校内 LAN 管理体制（資料８－１－②－２）の基に，情報教育から高度な専門教育まで幅広い ICT 教育の中心を担っている。同センターの教育用電子計算機システムの構成（資料８－１－②－３）は，サーバ室に認証サーバ３台，ファイルサーバ１台，ネットワークブートサーバ５台の計９台の各種サーバを設置し，さらにクライアント端末として，第１演習室に４８台，第２演習室に７台，第３演習室に５０台，第４演習室に４６台のパソコンを設置し，３学級が同時に利用可能となっている（資料８－１－②－４）。これらのクライアント端末は，ネットブートシステムによりサーバ管理されており，利用者は，いつでもどの端末でも同じ環境で利用できる。これらとは別に，学生用のウェブメールシステムを運用している。また，ネットワーク利用時のモラルとマナー教育を重視し，学生の情報活用における倫理観を育成する実践も行っている。

情報セキュリティに関しては，平成２３年度に情報セキュリティ実施規程（管理規程（資料８－１－②－５），推進規程，教職員規程，利用者規程）を整備し，それに基づいての運用を行っており，ファイアウォールの強化と二重化による信頼性の向上や，学内向けサーバの負荷分散システムの構築を行っている。また，コンピュータウィルス対策として，安全な電子メールの送受信を行うための電子メールウィルス除去サーバが設置されている。さらに端末におけるウィルス対策ソフトとして，校内に設置されたウィルス情報サーバから最新のパターンファイルが自動更新されることによる効果的なウィルス駆除等，全校的な対策が施されている。

資料８－１－②－１

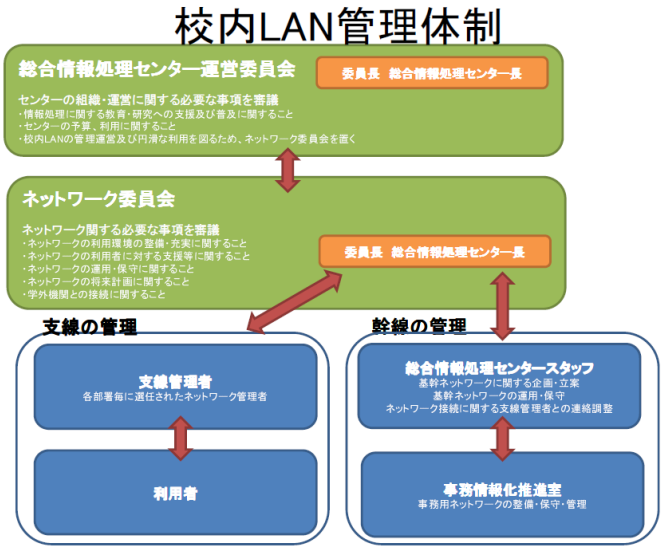
「ネットワーク構成図」



（出典　総合情報処理センター）

資料８－１－②－２

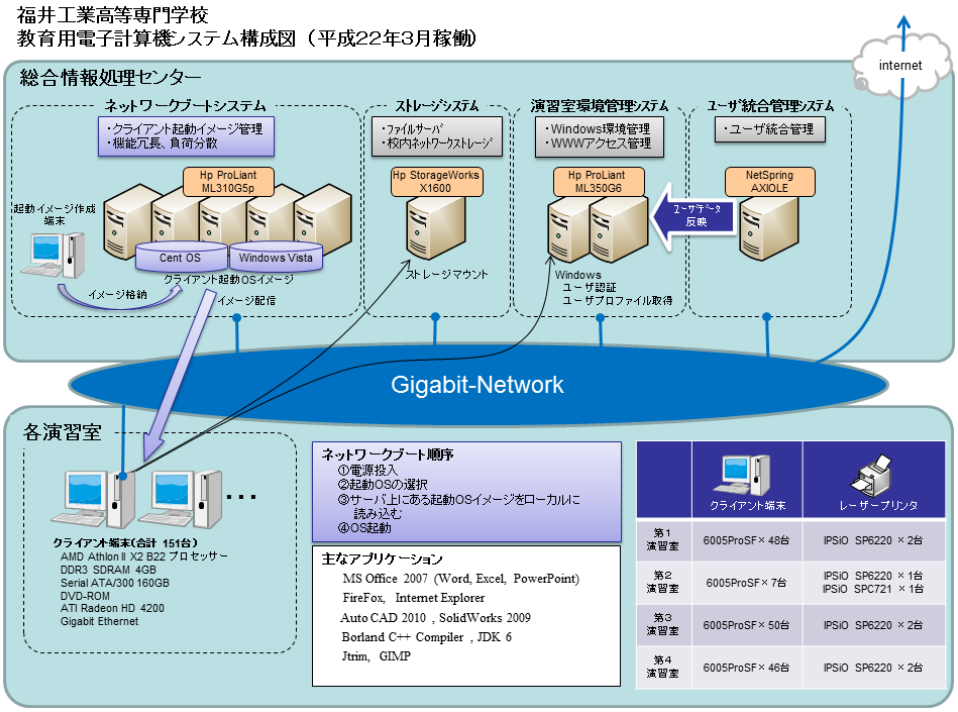
「校内 LAN 管理体制」



（出典　総合情報処理センター）

資料８－１－②－３

「教育用システム構成図」



（出典　総合情報処理センター）

資料８－１－②－４

「総合情報処理センター演習室の時間割（抜粋）」

平成24年度【前期】

曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
月	1	3E 情報処理Ⅱ		5EI 電子情報工学実験Ⅳ	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				
	3	1ALL ものづくり科学			5B 構造デザイン
	4				
	5		5M 機械工学実験Ⅱ	3C 情報処理演習	4B 環境都市工学設計製図Ⅳ
	6	3M C言語応用			
	7			使用可能	使用可能
	8	使用可能	使用可能		
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
火	1	4EI 電子情報工学実験Ⅲ	使用可能	2E 情報処理Ⅰ	4M 知能機械演習
	2				
	3			5B 水文学	
	4				
	5	5E 現代制御工学	3M 創造工学演習	4C 情報科学	3B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6				
	7	1F4 コンピュータ科学入門		1F3 コンピュータ科学入門	5B 数値解析
	8		使用可能		
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
水	1	使用可能	使用可能	3EI 数値解析	5B 環境保全工学
	2				
	3	2C プログラミング基礎		5E 制御工学	4B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	4				
	5	1ALL ものづくり科学		3EIプログラミング応用	1ALL ものづくり科学
	6				
	7	使用可能		使用可能	使用可能
	8				
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
木	1	3EI 電子情報工学実験Ⅱ	2M 機械工作実習	2EI プログラミング基礎	使用可能
	2				3B 環境都市工学実験実習Ⅱ
	3			4EI 情報構造論	
	4				
	5	使用可能	使用可能	4B 環境都市工学実験実習Ⅲ	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6	1F2 コンピュータ科学入門			
	7				使用可能
	8	使用可能		使用可能	
曜日	時限	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室
	1	2EI 電子情報工学実験Ⅰ	2PS/ES 画像情報処理	4EI 創造工学演習	4M 機械計算力学
	2				
	3		使用可能		5B 構造デザイン

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~jp/jikanwari.html）

資料８－１－②－５

「情報セキュリティ管理規定(抜粋)」

福井工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

平成23年 4月18日規則第 6号

目次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　情報システムの利用（第８条－第１０条）
第３章　情報の取扱い（第１１条－第１４条）
第４章　物理的及び環境的セキュリティ対策（第１５条－第２１条）
第５章　教育（第２２条・第２３条）
第６章　情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第２４条－第２８条）
第７章　調達，ソフトウェア開発及び外部委託（第２９条－第４０条）
第８章　違反と例外措置（第４１条・第４２条）
第９章　評価，見直し及び監査協力（第４３条－第４７条）
第１０章　その他（第４８条－第５０条）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項および管理的事項を定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

２　情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については，別に定める情報セキュリティ推進規程（以下「推進規程」という。）による。

（定義）

第２条　この規程における用語の定義は，この規程で定めるものを除き，独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号）の定めるところによる。

（適用範囲）

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

本校の十分なセキュリティ管理の下，インターネット及び電子メール等の利用を含め，学生のネットワーク利用環境が整備されている。特に，総合情報処理センター演習室では１５１台の端末を整備し，学生の ICT 教育支援，インターネットを利用した教育・学習環境の充実を図っている。さらに， 総合情報処理センターでは，有害なサイトを排除できるコンテンツフィルタを導入し，教育的な配慮を行っている。電子メールの利用に関しては，

全ての学生にメールアカウントを交付し，利便性の高いウェブメールで運用している。現状ではこれらの環境設備が有効に活用されており，教育及び学生のニーズを十分満たしている。

今後，校内ネットワーク関係設備更新の予定があり，基幹サーバ，基幹・支線ネットワーク及び外部接続の高速化，増強化の実現を目指している。

観点８－２－①：　図書，雑誌，視聴覚資料，電子ジャーナル，学術文献データベース等，教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

（観点にかかる状況）

本校の図書館では，蔵書約９４,５００冊の図書（内洋書９,０００冊，教育後援会文庫１１,１００冊），１,８００種の雑誌（内洋雑誌３２０種）及びネットワークにより閲覧可能な約２,０００タイトルの電子ジャーナル等が整備され，学科の種類，教員数及び学生数に応じた図書，雑誌，視聴覚資料，電子ジャーナル等，教育研究上必要な資料（資料８－２－①－１，資料８－２－①－２）が利用可能になっており，高等専門学校設置基準に基づく整備がなされている。

平面図（資料８－２－①－３）に示すとおり，学生及び教員のニーズに対応した教科書コーナー・洋書コーナーのほか，ものづくり教育やＪＡＢＥＥ関連資料も独立コーナーとして整備し，有効に活用されている。

閲覧室には，各種情報検索及びインターネットが利用できるパソコンを１４台設置し，図書館ホームページ（資料８－２－①－４）からは，ScienceDirect・ACS 等の電子ジャーナルや JDream2・MathSciNet の学術文献データベースも自由に利用が可能となり、有効に活用されている(資料８－２－①－５)。

また，資料を容易に探すことができる蔵書検索システム（ＯＰＡＣ）（資料８－２－①－６）を提供し，ネットワークによる学内外からの検索も可能にしている。

オーディオルームには４０インチテレビモニター及びブルーレイディスクプレイヤーをそれぞれ２台設置し，利用者ニーズに即した視聴覚資料の有効活用を図っている。

また，本校の約１０万冊の蔵書を含む福井県内図書館の蔵書約６００万冊を一括で検索ができる「福井県内図書館総合目録」（横断検索システム）も，利用者に提供している。

実際の業務については，図書館業務機能及び蔵書検索機能をトータル的に備えた図書館システムを導入し，図書館資料の発注・受入，貸出・返却・予約，蔵書点検，学外文献複写等の業務を効率よく行うことが可能となっている。また，図書館出入口には，ブックディテクションシステム（図書無断持出防止装置）を設置しており，図書の紛失防止に効果を上げている。

図書館利用促進の観点からは，図書館の開館時間を，月曜日から金曜日までは午前８時半から午後８時まで，土曜日は午前９時から午後４時３０分まで利用可能にし，学生及び教職員の教育研究活動の利便を図っている（図書館利用統計（資料８－２－①－７））。

設備面からは，閲覧室が図書館の２階にあるため，階段にオートリフター（電動昇降装置）を設置して，身障者利用に効果を上げている。

また，閲覧室の全照明を節電効果の高いＬＥＤ蛍光灯に交換し，また冷暖房効率を高める効果のあるシーリングファンを５台設置して，省エネルギー化及び環境面への配慮を図っている。

また，電動式集密書架の設置により，図書収容能力冊数は約１２万冊となっており，年々増える蔵書にも対応可能となっている。

資料８－２－①－１

「図書館の蔵書数（平成２３年３月３１日現在）」

	図書(冊)	教育後援会文庫(冊) (文庫･新書本)	雑誌(種類)	視聴覚資料(点)
和 書	74,266	11,122	1,485	―
洋 書	9,077	8	316	―
合 計	83,343	11,130	1,801	5,373

（出典　学生課）

資料８－２－①－２

「受入図書数内訳及び蔵書構成」

平成22年度受入図書数

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	計
和書	69	22	30	64	324	264	73	60	46	192	1,144
洋書	0	0	0	5	33	0	0	1	12	0	51
合計	69	22	30	69	357	264	73	61	58	192	1,195

蔵書構成　（平成２３年３月３１日現在）

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	計
和書	7,030	2,850	5,137	5,412	16,411	18,972	893	3,243	3,784	10,534	74,266
洋書	469	358	202	248	3,926	1,557	11	56	1,331	919	9,077
合計	7,499	3,208	5,339	5,660	20,337	20,529	904	3,299	5,115	11,453	83,343

教育後援会文庫
11,130

蔵書合計
94,473

（出典　学生課）

資料８－２－①－３

「図書館平面図」

（出典　学生課）

資料８－２－①－４

「図書館ホームページ」

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~tosyo/libindex.html）

資料８－２－①－５

「電子ジャーナル統計（論文閲覧件数）」

月	平成22年度			平成23年度		
	Elsevier	ACS	合計	Elsevier	ACS	合計
4	108	53	161	293	130	423
5	261	81	342	382	212	594
6	265	50	315	209	88	297
7	113	43	156	81	43	124
8	51	42	93	84	35	119
9	166	83	249	106	48	154
10	78	56	134	100	69	169
11	167	65	232	205	73	278
12	141	49	190	55	48	103
1	129	62	191	78	65	143
2	114	20	134	76	55	131
3	52	48	100	105	51	156
計	1,645	652	2,297	1,774	917	2,691

（出典　学生課）

資料８－２－①－６

「蔵書検索システム」

（出典　本校ホームページ

http://libopac-c.nagaokaut.ac.jp/opac/opac_search.cgi?kslist=021&kscode=021&selfcode=021&smode=1）

資料８－２－①－７

「入館者及び貸出冊数　統計」

月	平成22年度			平成23年度		
	開館日数	入館者数	貸出冊数	開館日数	入館者数	貸出冊数
4	23	4,729	1,083	25	4,772	1,013
5	23	5,410	956	23	5,827	990
6	26	6,990	1,127	26	6,770	974
7	26	6,588	1,059	26	6,957	862
8	18	2,916	598	17	2,474	493
9	17	1,784	339	16	1,556	343
10	23	4,770	813	23	4,350	852
11	24	5,283	885	24	5,617	566
12	20	4,231	882	20	4,200	759
1	20	3,919	656	20	4,088	612
2	23	5,497	627	23	5,721	633
3	20	2,259	339	20	2,243	241
計	263	54,376	9,364	263	54,575	8,338

（出典　学生課）

（分析結果とその根拠理由）

図書館では，約１０万点の資料を分別・配架し，利用者の便を図っている。図書館資料に貼付したバーコードにより，図書の貸出・返却・予約，館内利用のみ許可している視聴覚資料の閲覧・返却を迅速に処理でき，利用状況も瞬時に把握でき，新着資料案内・貸出資料の延滞者への督促や利用状況等の統計処理等も遅滞なく実施されている。学術文献データベースである蔵書検索システム，ScienceDirect・ACS 等の電子ジャーナル，JDream2・MathSciNet は，図書館ホームページからアクセス可能となっており，図書館利用者の学習・教育研究に効果的なツールとなっている。また，教員研究室のパソコン等から資料の発注・文献複写の依頼が可能であり，文献の入手が円滑かつ迅速にできるようになっている。さらに，ブックディテクションシステム（図書無断持出防止装置）の導入により，所在不明となる図書が減少している。

以上のように，学生及び教員が，学習教育のため適切に利用できるよう整備され，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の施設・設備は毎年施設整備委員会を中心に自己点検が行われ，常に適切な学習環境を整備し続けている。また，既存施設・設備は有効に活用されている。

学内情報ネットワークに関しても，情報処理センターを中心として十分なセキュリティ管理のもと，高速かつ安全な最先端のICT環境を維持するよう，常に努めている。

図書館に関しても，学習に必要な図書が適切に備えられ，また利用しやすい環境を提供している。

（改善を要する点）

老朽化の進んだ建物のさらなる改善が求められる。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の校地，各種施設（実験・実習室，教室，演習室，図書館棟，体育館，運動場など）は，高等専門学校設置基準の第６章「施設および設備等」の条件を満足しており，また本校の教育目標および教育課程に対応している。また，バリアフリーおよび環境にも配慮された構成になっている。また，高速な校内LANが整備され，校内全域から教育及び各種業務のために快適に利用することが可能となっており，ウィルス対応ソフトやネットワーク管理体制の整備により，必要な情報セキュリティの確保も十分に行われている。

図書館については，教育研究に必要な図書，学術雑誌が十分に整備され，平成２４年３月末現在の蔵書数は約１０万冊となっている。図書以外にも，充実した電子ジャーナルや視聴覚資料なども備えられ，教育研究に必要な資料も十分に整備されている。また，開館時間の延長(土，日の開館)や蔵書検索サービスの提供など，常に利用しやすい環境整備がなされている。

このように，本校の教育課程に対応した施設・設備が十分に整備され，有効に利用されている。また，情報ネットワークも，適切なセキュリティ管理のもとで運営され，適切なICT環境を提供している。また，図書館を中心として，教育研究に必要な図書，学術雑誌，資料の整備が十分に行われている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育課程一覧は，本科（準学士課程）・専攻科課程とも毎年４月に発行される学生便覧に記載されており（資料９－１－①－１），科目毎の教育内容の詳細（シラバス）は冊子形態で学生に配布（資料９－１－①－２）されているとともに，ホームページにも掲載して周知されている。授業の実施日と学生の出欠は出席簿に記録された上，週単位で学生課に提出される。なお，出席簿は紙媒体により保存されている（資料９－１－①－３）。

試験答案や課題レポートなどの成績評価の根拠資料は，本科，専攻科ともに科目担当教員が保管と管理を行ない，成績確定後にそれらの抜粋を電子データ形式で学生課が統括保管している（資料９－１－①－４）。

教育活動における全般的な自己点検・評価は，創造教育開発センターが中心となって達成状況等を検証し，フィードバックを行うことで実施している。

年度計画については，教育改善システムに基づいたアクションプランの策定を毎年度当初に行なっている（資料９－１－①－５）。

また，毎年度末には自己点検・評価報告書を作成し，冊子形態及びホームページで公開している（資料９－１－①－６）。

資料９－１－①－１

「教育課程表（抜粋)」

教育課程表

1　平成24年度入学生(本科)

各学科共通　　(1) 一般科目

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語	6	2	2	2			
		国語表現	2				2		
	社会	倫理社会	2		2				
		政治経済	2			2			
		法学	1					1	
		歴史	4	2	2				
		地理	2	2					
	数学	基礎解析A	4	4					
		基礎解析B	3	3					
		解析Ⅰ	4		4				
		線形代数	2		2				
		解析Ⅱ	3			3			
		解析Ⅲ	2				2		
	理科	物理	5	2	3				
		化学	4	2	2				
		生物	1	1					
	保健体育		10	4	2	2	2		
	芸術	美術	1		1				
		音楽	1	1					
	外国語	英語Ⅰ	4	4					
		コミュニケーションⅠ	2	2					
		英語Ⅱ	2		2				
		コミュニケーションⅡ	2		2				
		英語Ⅲ	4			4			
		英語Ⅳ	2				2		
		英語Ⅴ	2					2	
	修得単位計		77	29	24	13	8	3	
選択必修科目	ドイツ語		4				2	2	4,5年を通して1科目選択
	中国語		4				2	2	
	国語講読		1					1	各科目前期、後期各1単位開講6単位中前期1単位、後期1単位の2単位(2科目)取得
	哲学		1					1	
	経済学		1					1	
	歴史学特講		1					1	
	数学特講		1					1	
	英語特講		1					1	
	修得単位計		6				2	4	
修得単位合計			83	29	24	13	10	7	

（出典　平成２４年度学生便覧 p. 13）

資料９―１―①―２

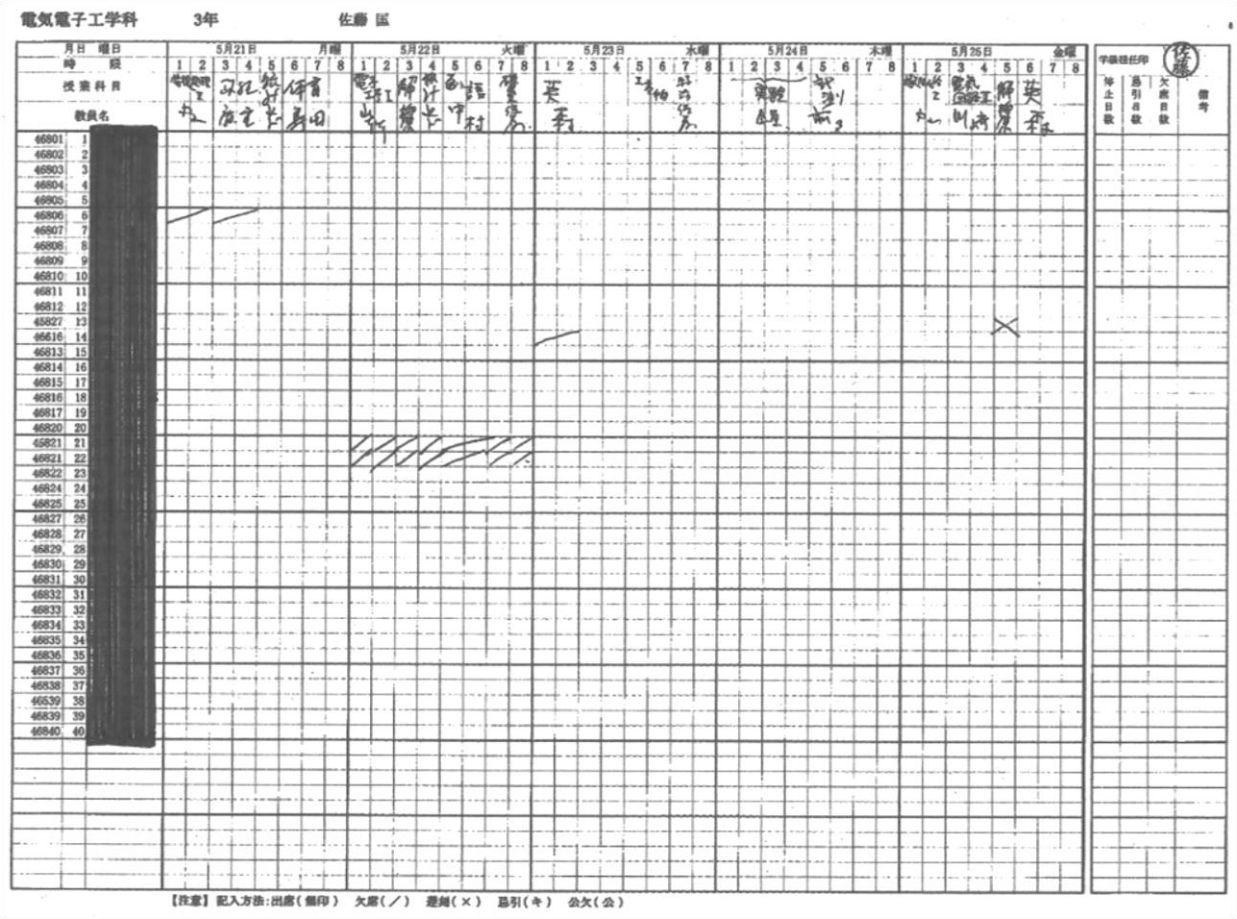
「シラバス例」

履修	履修単位				
学科等	一般科目	科目コード	11101	総授業時間数	90時間
科目名	国語	科目名(英語)	Japanese	開講年度	2012
必修・選択	必修	学科	全学科共通	学年	1年
開設期	通年	単位	2単位	授業形態	その他
担当教員	中村吉秀	執 担当教員			
授業目標	総合的な日本語力の入門期に位置づけられる物語・小説などの文章の読解力・表現力を，叙述・構成・主題のミレベルにわたって理解・実践させること。また，そのために必要となる，古文読解の基礎をなす文法・語法を確実に身につけさせること。さらに，日本語に関する文化に関心をもたせること。				
授業の概要と方法	現代文と古文（古典・漢文）の授業を原則として週一時間ずつ交互に進める。また，読解と表現とが相互に関連し合うよう授業を展開し，特に表現に関しては，実際に文章を書く作業を重視する。古典の文法事項については，理解・暗記するべき課題を限定して徹底する。				
授業項目(1週目)	オリエンテーション	授業内容(1週目)	国語科カリキュラムと授業概要の説明／自己紹介の文章		
授業項目(2週目)	辞書と書籍検索／古典入門	授業内容(2週目)	図書館の利用法／現代仮名遣いと旧仮名遣い		
授業項目(3週目)	物語的文章の基本／古典入門	授業内容(3週目)	体育祭の描写１　内容の整理・描写と説明１／「能仏師良秀」１		
授業項目(4週目)	物語的文章の基本／古典入門	授業内容(4週目)	体育祭の描写２　執筆／「能仏師良秀」２		
授業項目(5週目)	文集の文章１／用言の活用と用法	授業内容(5週目)	高専に入学して１　過去の作品と構想／動詞の活用表		
授業項目(6週目)	文集の文章１／用言の活用と用法	授業内容(6週目)	高専に入学して２　構想／動詞の活用の種類の見分け方		
授業項目(7週目)	文集の文章１物語的文章の叙述１／用言の活用と用法	授業内容(7週目)	高専に入学して３　執筆／形容詞・形容動詞の活用		
授業項目(8週目)	物語的文章の叙述１／用言の活用と用法	授業内容(8週目)	「ひとつのドア」叙述時間測定／特殊な用言		
授業項目(9週目)	（中間確認）用言の活用と用法	授業内容(9週目)	用言の活用問題演習		
授業項目(10週目)	物語的文章の叙述２／用言の活用と用法	授業内容(10週目)	「ひとつのドア」測定結果集計・描写と説明２・通学の一分　構想／用言テスト		
授業項目(11週目)	物語的文章の叙述２／文法事項１	授業内容(11週目)	通学の一分　執筆／係り結びの法則		
授業項目(12週目)	物語的文章の構成／漢文入門	授業内容(12週目)	「マッチ」暗号解読／訓点の基本		
授業項目(13週目)	物語的文章の構成／漢文入門	授業内容(13週目)	「マッチ」作業結果／複雑な訓点		
授業項目(14週目)	文集の文章／漢文入門	授業内容(14週目)	「高専に入学して」相互批評（『青嶺』掲載作品選出）／訓点問題演習		
授業項目(15週目)	漢文入門／学期末まとめ	授業内容(15週目)	再読文字と置き字		
授業項目(16週目)	学校行事対応／漢文読解１	授業内容(16週目)	弁論大会レポート１　準備プリント／「蛇足」		
授業項目(17週目)	学校行事対応／助動詞と読解	授業内容(17週目)	弁論大会レポート２　執筆／「能弁論」１		
授業項目(18週目)	物語的文章の構成１／助動詞と読解	授業内容(18週目)	文集「私のビフォー・アフター」１　構想／「能弁論」２		
授業項目(19週目)	物語的文章の構成１／助動詞の活用と用法１	授業内容(19週目)	文集「私のビフォー・アフター」２　執筆・しあげ／打消の助動詞		
授業項目(20週目)	助動詞の活用と用法１	授業内容(20週目)	過去の助動詞		
授業項目(21週目)	物語的文章の主題／助動詞の活用と用法１	授業内容(21週目)	四コマ漫画の文章化１　一コマめの情報／推量の助動詞１		
授業項目(22週目)	物語的文章の主題／物語的文章の構成２	授業内容(22週目)	四コマ漫画の文章化２　執筆／推量の助動詞２		
授業項目(23週目)	中間試験	授業内容(23週目)	中間試験		
授業項目(24週目)	助動詞の活用と用法１／中間試験	授業内容(24週目)	推量の助動詞３／中間試験返却・解説		
授業項目(25週目)	物語的文章のまとめ／助動詞の活用と用法１	授業内容(25週目)	リレー小説１　グループ編成／推量の助動詞４		
授業項目(26週目)	物語的文章のまとめ／助動詞の活用と用法１	授業内容(26週目)	リレー小説２　企画書作成／打消推量の助動詞		
授業項目(27週目)	物語的文章のまとめ／助動詞の活用と用法	授業内容(27週目)	リレー小説３　執筆・中間指導／助動詞テスト１		
授業項目(28週目)	物語的文章のまとめ	授業内容(28週目)	リレー小説４　執筆・中間指導		
授業項目(29週目)	物語的文章の構成２／物語的文章のまとめ／	授業内容(29週目)	文集「私のビフォー・アフター」３ 配布・製本／リレー小説５　執筆		
授業項目(30週目)	物語的文章のまとめ／学年末まとめ	授業内容(30週目)	リレー小説６　しあげ		
教科書	『国語総合 改訂版』（大修館書店）				
参考書等	『クリアカラー 国語便覧』（数研出版） 『読解をたいせつにする 体系古典文法 七訂版』（数研出版）				
学習・教育目標	本科（準学士課程） JD(3)				
到達目標	(1) 創造性豊かな発想にもとづいて物語的文章を構想するとともに，日本語ならびに言語文化およびそれらに関わる学校行事に関心をもち，主体的に学習できること． (2) 古典・漢文の読解に必要な基本事項を確実に理解し，現代の日本語へのつながりを意識できること． (3) 物語的文章を，その主題や表現意図を的確に把握して読解・鑑賞できること．				
評価方法	試験（定期試験・文法テスト）50%・提出物(作文・レポート)50%とする．				
評価基準	学年成績60点以上で合格とする．				
関連科目	国語（２年）				
オフィスアワー	一般科目教室ホームページおよび掲示により示す．				

（出典　平成２４年度本科シラバス, p. G-15）

資料９―１―①―３

「出席簿の例」



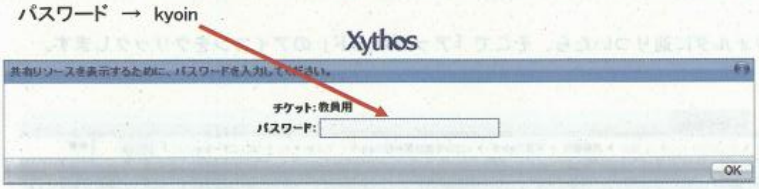
（出典　学生課）

資料９―１―①―４

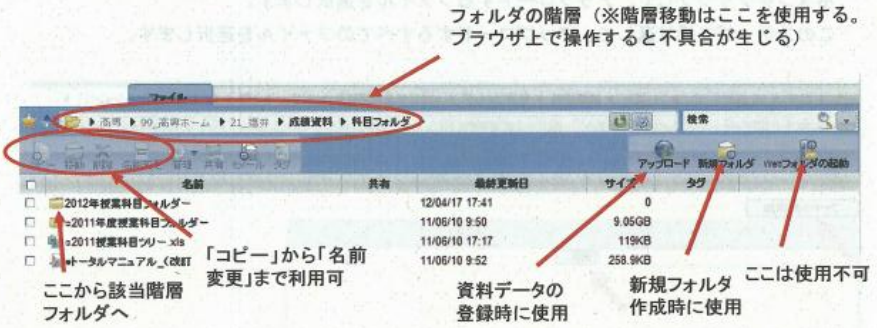
「成績資料保存方法の周知（抜粋）」

成績資料データファイル登録マニュアル

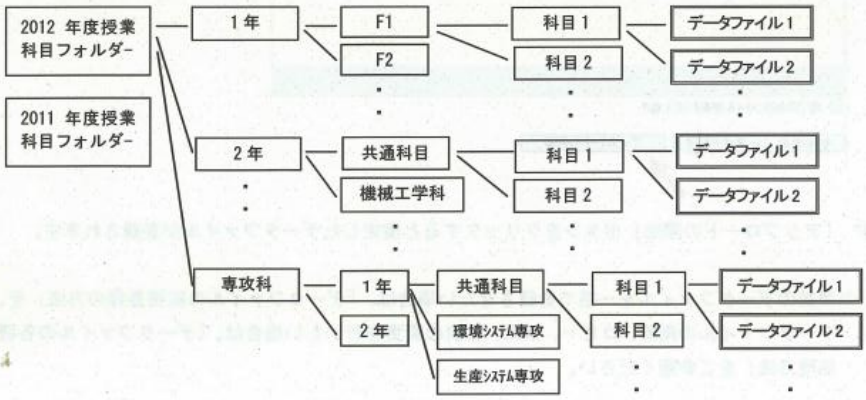
1. 成績資料データ登録サイトにアクセスして、パスワードを入力します。
（高専機構のシステム（ザイトス）による福井高専専用で利用できるサイト）
アクセス先 → https://koala.kosen-k.go.jp/xythoswfs/webui/_xy-8714913_1-t_RM4PTZXD
パスワード → kyoin



2. 「2012 年度授業科目フォルダ」から該当フォルダまで階層を辿り資料データファイルを登録します。
また、必要な場合は事前に新規フォルダを作成します。（登録したファイル及びフォルダは、削除が可能で、削除したファイル等は一時保存され復元することが可能です。（保存期間は 30 日間）
ただし、ユーザ権限では復元できませんので、担当までご連絡ください。）



フォルダ構成（階層）



（出典　学生課）

資料９―１―①―５

「本校の平成２４年度年度計画（抜粋）」

平成24年度 年度計画（高専機構本部）	平成24年度年度計画の 具体的な課題・取組等（高専機構本部）	福井高専における平成24年度　年度計画 （アクションプラン）
独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条の規定により、平成21年3月31日付け20文科高第8039号で認可を受けた独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という）の中期目標を達成するための計画（中期計画）に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。		
Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 １ 教育に関する事項		
(1) 入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、国立高等専門学校（以下「高専」という）への理解を促進するとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて高専のPR活動を行う。 また、高専制度創設50周年記念事業に際して、公私立の高等専門学校協会と連携し、各種広報活動を行う。	○全日本中学校長会、連絡指導担当指導主事会議にてパンフレットを配布する。 ○朝日中学生ウィークリーに広告を掲載する。 ○日本産業機械工業会機関誌のシリーズ「エンジニアの卵たち」に各高専の取組を掲載する。 ○高専制度創設50周年記念事業を開催する。	○ HPのトピックスを頻繁に更新し、最新の情報を発信できるように努める。 ○ 昨年度に引き続き、入学志願者確保のためにインターネットやコミュニティーラジオその他のメディアを通して積極的に情報発信を行い、高専の認知度向上を図るとともに、中学校のみならず小学校や子供会を通しての出前授業を行い、広い世代へ直接触れ合う機会を増やし、高専のブランド力向上と親しみやすいイメージの醸成に努める。また、ICTを活用した学生主体での情報発信室をアントレプレナーサポートセンターと連携を取りながら学内に設置し、より近い世代から中学生にアピールを図る。さらに、県主催の企画と連携を図り、科学教育啓発の取り組みの中で高専のPRを行う。
② 各高専における入学説明会、体験入学（オープンキャンパス）、学校説明会等の取組について調査し、その事例を各高専に周知するとともにその成果を分析する。 また、高専を卒業し産業界等で活躍する女性の情報等を盛り込んだ女子中学生向けのパンフレットの利活用を行うとともに、女子中学生対象の各高専における取組状況を調査し、事例を各高専と共有することで女子学生の志願者確保を推進する。	○入学説明会・体験入学・学校説明会等の各高専の取組について調査・分析を行い、KOALAに掲載する。 ○女子中学生向けパンフレットを作成する。 ○きらきら高専ガール（23年度作成分）の利活用状況調査を実施する。 ○女子中学生対象の取組状況を調査し、各高専の取組についてKOALAに掲載する。	○ 本校のオープンキャンパスは二十数年の歴史を持ち、その時々の状況に応じ内容を変更させてきたが、さらに中学低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるきっかけを作る段階から、徐々に進学意志を固めてもらえるような工夫をした三つの企画を段階的に配置し、生徒や保護者の意識向上を図る。 ○ 公共のイベントを利用して小学生や地域住民への認知度を向上させる取り組みを行う。 ○ 中学校の求めに応じ学校単位での説明会を積極的に行う。さらに、女子学生を確保するために、女子中学生と保護者を対象にした体験学習会を開催するのに加えて、パンフレットや広報誌などを発行し、積極的にPRを行う。また、文化的イベントを通して、高専の新たな側面を積極的にアピールする。 ○ 中部日本地5高専共同PRサイトを活用して更なる情報発信を行うとともに、現役学生による編集委員会を活用して、時勢に見合ったサイト運営を行う。
③ 中学生及びその保護者を対象としたパンフレットについて、各高専での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。 また、全国の中学生や保護者をはじめ、広く一般が閲覧できるWebコンテ	○機構ホームページ（入試情報コンテンツ）の利便性を高めることにより、一層の充実を進める。 ○中学生及び保護者を対象とした広報誌「高専ナビ」を作成・配布する。	○ 各種広報資料は、毎年広報対象者の反応を見ながらフィードバックをかけ作り直しており、今後ともより利用価値の高いものにするように努める。 ○ Webの充実にも引き続き取り組み、より分かりやすく、興味のある内容にブラッ

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/info/pdf/2012Action.pdf）

資料９―１―①―６

「ホームページ上での自己点検・評価報告書」

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/shiryo.html）

（分析結果とその根拠理由）

授業の実施内容を示すシラバスは冊子形態で学生に配布し，ホームページにも掲載して周知されており，授業の実施記録も紙媒体で保管されている。また，成績評価資料と評価結果も電子媒体により管理されている。従って，教育活動の全般的な状況については自己点検・評価の実施できる体制に問題ないと判断できる。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

福井高専では，PDCAサイクルに基づいた教育改善システムが構築・整備されており，各種の自己点検・評価を実施している（資料９－１－②－１）。自己点検・評価の実施に当たっては，以下に述べるような，多方面からの意見聴取を行うことで，教育研究等の改善を行っている。

まず，教員からの意見聴取の手段として，毎年実施される校長面談（資料９－１－②－２）や年度末に作成される教育達成度等に関する報告書が挙げられる（資料９－１－②－３）。　本校では，毎年１回定期的に全教員を対象とした校長面談を実施している。校長面談は，全教員から校長へ事前に提出される「教職員面談シート（教員用)」に基づいて実施されている。校長は，当該年度における校務分掌及び教育研究活動等並びに前年度における自己点検・評価等の状況を個別に把握して，各教員に助言を与えている。校長面談の結果は，校長表彰や校務分掌の編成等に活用されている。また，教育達成度等に関する報告書は，学生による授業アンケート（資料９－１－②－４）を教員自身が分析し，次年度への授業内容改善に資するためのものであり，これは教員の自己点検を兼ねたものともなっている。さらに，個々の学生による授業アンケート結果に基づいて，本科生及び専攻科生の評価をまとめ（資料９－１－②－５），本校全体の授業内容の改善に資している。

また，創造教育開発センターが中心となり，公開授業週間等を設けることで教員相互の授業参観制度を実施している。公開授業の懇話会開催と報告書作成を通して，各教員は自己点検及び授業改善が図れるようになっている（資料９－１－②－６）。

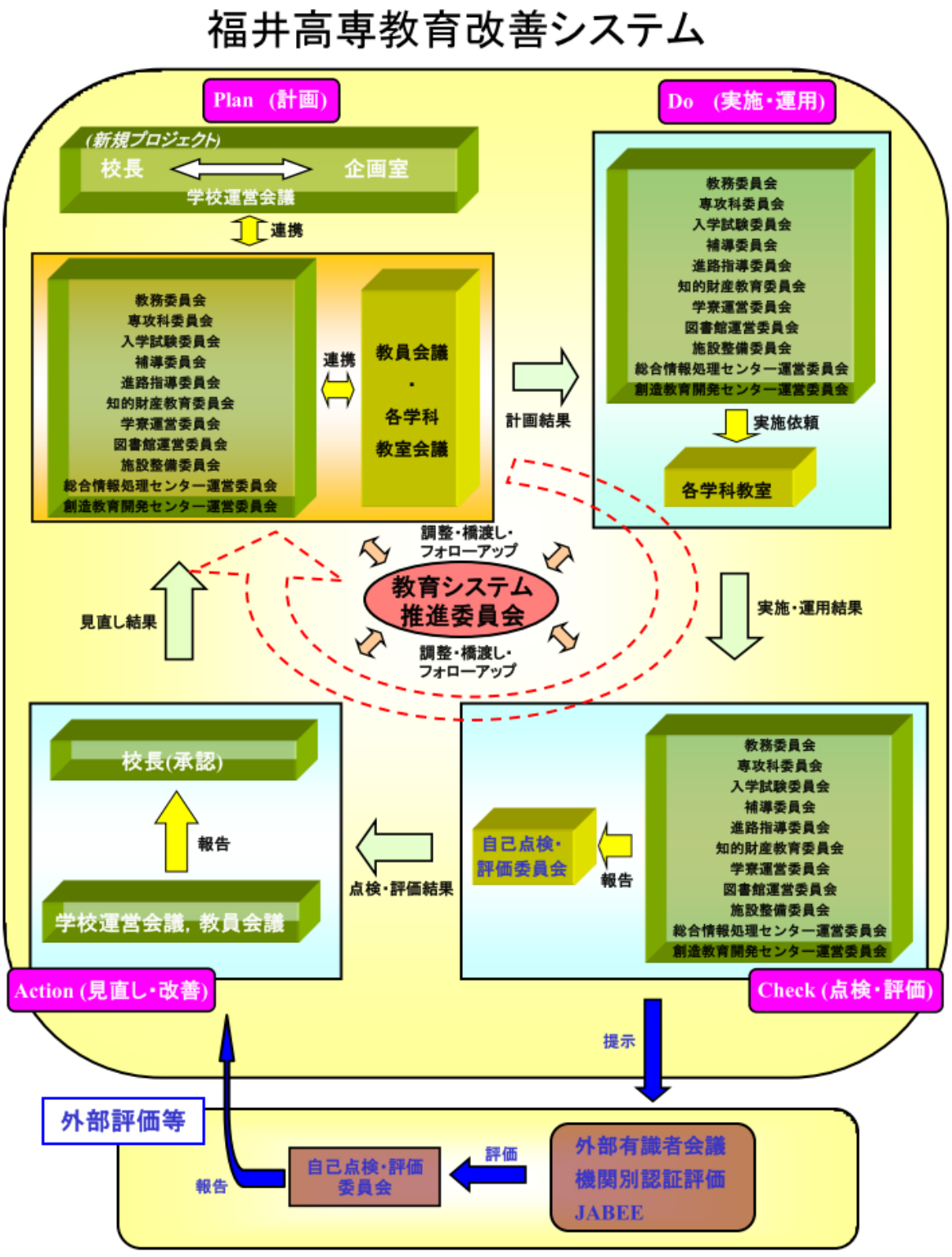
本校本科卒業生及び専攻科修了生に対しても，３年ごとのアンケートを実施することにより意見聴取を行っている（資料９－１－②－７）。その結果は創造教育開発センターにより詳細に分析され，全教職員にフィードバックされている（資料９－１－②－８）。

さらに，毎年１回福井県内，技術科学大学の大学関係者，地元の中学校関係者，福井県・地元の産業界，報道関係及び商工会議所関係者を招聘した外部有識者会議を開催し，同会議において本校の教育研究の現状や取組み方針等を外部に対して報告・公開するとともに，外部有識者からの意見・提言を聴取し，聴取された意見等は当該委員会で検討され，PDCAサイクルに沿って教育の質の向上と改善を行っている（資料９－１－②－９，１０）。

この他，毎年度４月～５月，本校校長並びに副校長（教務主事）が県内及び近県の大規模中学校に前年度実施の入試状況等の説明のために訪問しており，この際にも中学校校長を始めとする関係者から意見や要望を聴収し，本校における教育等に反映させている。本校が全国高専の中で初めて導入した「工学基礎コース」（観点３―１―①で前述）は，このような中学校訪問時に寄せられた意見や要望によるものである。

資料９―１―②―１

「福井工業高等専門学校教育改善システム」



（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/image/PDCAcycle.png）

資料９―１―②―２

「校長面談用教職員面談シート」

（別紙様式）

平成２４年度　教職員面談シート（教員用）

所　属

氏　名

１．勤務状況

本人の今年度の職務の概要について	**校務分掌**	
	授業等	
	課外活動，研究活動，社会貢献活動等	
今年度の抱負・目標等について		
昨年度の状況（自己点検・評価）について		
職務に関する希望事項		

２．健康状況

健康状態について	□　健康　　□　やや不健康　　□　不健康 （健康状態に係る特記事項）

３．その他

特記事項があれば記入してください	

校長所見	

（出典　総務課）

資料９―１―②―３

「教員側からの達成度等についてのコメント」

教員側からの達成度等についてのコメント
（対象期間：平成 21 年度）

創造教育開発センター長

■次の(ア)，(イ)、(ウ)に回答いただき，terakawa@fukui-nct.ac.jp へEメールの添付ファイルで送信ください。4 月 15 日頃までにお願いいたします。

（ア）次表の記入欄（黄色で塗りつぶされた部分）にご記入ください。教員氏名および科目名以外は，備考にしたがって数字（半角）でご記入ください。

項目		記入欄	備考
教員氏名		原口 治	科目担当教官（複数の場合は代表者１名）氏名をご記入ください
科目名		英語III	科目名をご記入ください
必修・選択の別		1	必修：1，選択：2，選択必修：3
学科		2	本科 M：1，E：2，EI：3，C：4，B：5，本科共通：6， 本科１年 FI：1・・・F5：5 専攻科 PS：11，ES：12，専攻科共通：13
学年		3	本科１年：1・・・本科５年：5，専攻科１年：6，専攻科２年：7
開講期		3	前期：1、 後期：2、 通年：3
単位数		4	単位数をご記入ください
コマ数		4	一週あたりの時限（コマ）数をご記入ください
達成度評価	学習教育目標 A		【達成度評価方法】福井高専の学習・教育目標（AからE）について，当該科目の達成度を次の 3 段階で評価し，数値でご回答ください。授業内容に含まれない項目については評価する必要はありません。 目標を達成した：1 目標をほぼ達成した：2 目標達成が不十分だった：3
	学習教育目標 B		
	学習教育目標 C		
	学習教育目標 D	2	
	学習教育目標 E		

（イ）もし，上記達成度評価で３（目標達成が不十分だった）と自己評価された場合、特別に実施された対応等（補講や特別な課題）があればお書きください。また、次年度以降の目標や進度についての改善すべき点があればご指摘ください。

（対応）

（今後の改善点）

【福井高専の学習・教育目標】

A．地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
B．幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
C．豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
D．高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
E．体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

（ウ）学生の授業評価アンケートについてのコメントを下欄にお書きください．

（コメント）

他講義担当クラス及び過年度の授業評価アンケート結果との比較、考察等を踏まえ、本年度の授業評価結果の分析を慎重に実施した。主要な改善点のみ以下に記し、平成２２年度の講義内容改善への重要な指針とする。

（1）多読重視の読解力養成を主眼とした講義を引き続き実施する。正確な英文読解と思考力養成を主眼にしたテクスト（新聞記事）を採用し、主軸の講義内容としたい。また、講義中に具体的な学習方法の教授も行なう。

（2）新年度も引き続き、各種検定試験（英検、工業英語検定や *TOEIC* 等）の説明や模擬試験等を実施することで、外部評価の重要性と受験の意義を強調する。これにより、英語学習の動機付けの一助となるようにしたい。

（3）板書内容の精選と配布する資料プリントに新年度も留意する。評価の 部として、英作文課題を設定する。

（4）学生の受講態度全般に関して、著しく不適な場合には教育的指導を一層行うことを講義で再確認したい。

（出典　創造教育開発センター）

資料９―１―②―４

「授業アンケート実施案内通知（学生用）」

授業アンケートの実施のお願いと回答方法について

創造教育開発センター

例年授業アンケートを学生の皆さんにお願いしています。このアンケートは成績評価等には用いません。アンケート内容は、各授業担当者に返却されて、教育改善に利用しますので、各質問事項を確認後一項目毎ていねいに回答してください。授業アンケートは Web 入力で行います。旧特別指導期間中(8/2(木)から 8/9(金))の間に情報処理センターまたは e-Learning 室にて入力してください。

◇ 総合情報処理センターの場合は自分の**ユーザ ID(例 i41301ts), パスワード**にてログインし、ブラウザにて下記の**回答ページ**をアクセスしてください。

＊情報処理センターログインユーザ ID　i41301ts（学科記号+学籍番号+イニシャル）　パスワード　不明の場合はセンターにて再設定してもらってください

◇ e-Learning 室の場合は、ブラウザにて下記の**回答ページ**をアクセスしてください。

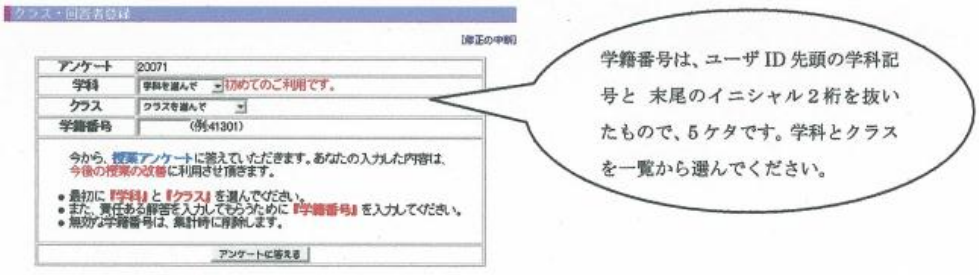
回答ページ：http://erd.jp.fukui-nct.ac.jp/

「授業評価アンケート」をクリックすると、以下のように表示される場合がありますが、

1）「この Web サイトのセキュリティー証明書には問題があります。」とでますが、下の「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)。」をクリックして、授業アンケート/クラス登録画面に行ってください。

2）「接続の安全性を確認できませんと」でますが、下の「危険性を理解した上で接続するには」をクリック。「例外を追加...」ボタンをクリック。「セキュリティ例外を承認」ボタンをクリックして、授業アンケート/クラス登録画面に行ってください。

下記の画面に切り替わります。



自分の受講した科目などが一覧で表示されるので、「回答する」を選んで、各科目のアンケート回答画面で、各アンケート項目に４段階で評価をして下さい。この作業を、後期受講科目すべてについて回答してください。

回答内容は、担当教員にフィードバックされ授業改善に利用されますので、誠意のある回答をお願いします。

（出典　学生課）

資料９―１―②―５

「公開授業チェックシート例」

公開授業チェックシート

開催日時　21 年　12 月　14 日
授業名　基礎解析 B
学科学年　1 年 F3
授業担当者　中谷実伸

参加者氏名（所属）　坪川武弘　（ 一般科目（教室））

（1） 授業の程度 三角関数の利用という点で，月間平均気温の年変化の教材は適当であった．また，振り子の実験データは三角関数の具体例として目に見える形で収集と分析ができるもので，学習のまとめとしてふさわしいと考えられる．
（2） 学生の理解度 学生が行なった気温の三角関数近似の例を用いた復習は，各学生が履修事項を思い出し確認するのに効果的であった，復習の場面での，周期，振幅，平行移動と係数の関係が．その後の実験データの理解に役立っていた．
（3） 黒板 OHP の使い方 黒板は見易かった．プロジェクターは，画面が小さいため後ろでは数字が読みにくかった． 1 年生の教室には固定したプロジェクターがないため準備等大変と思われる．
（4） シラバスとの一致性 シラバスでは適宜，復習と練習ということを協調しているので一致していた．
（5） 学生の参加意欲の向上のさせ方 適宜学生に質問しながら進めていて興味関心を持続させるのに工夫していた．
全体的に 2 時間連続の数学の授業は途中何回か学生の集中がきれるが，今回の授業では，三角関数の復習から実験データの解析まで 2 時間を大半の学生がついてきていた．途中で学生の能動的な活動時間をうまく作ることが重要であるということを認識させられた．実験データの三角関数近似では，グループによってうまく議論できていたところと個々の学生がばらばらに考えていたところとがあった．時間に余裕があれば進んだグループに発表させるのも効果的と思われる．

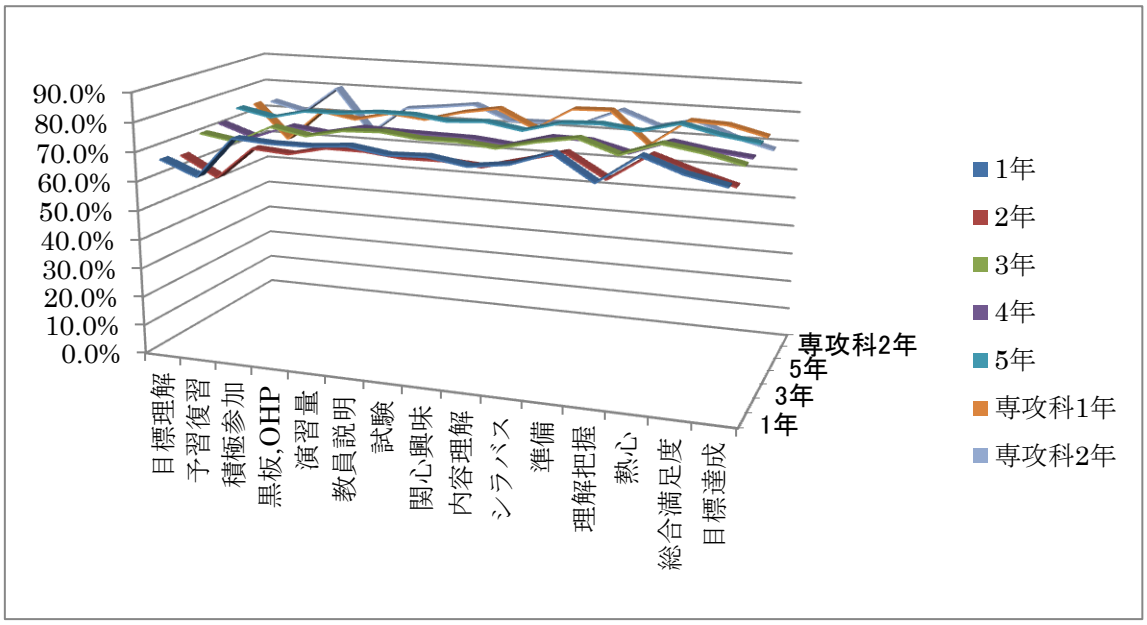
（出典　創造教育開発センター）

資料９―１―②―６

「授業アンケートのまとめ（2010 年度)」

各項目に関する得点平均(8 実験，9 指導書，10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%



授業アンケートは「強く思う(100%)」，「まあまあ思う(66.7%)」，「あんまり思わない(33.3%)」，「全く思わない(0%)」の4段階評価である。各学年，各項目の平均は，ほぼ4段階評価の上位から2番目の「まあまあ思う(66.7%)」以上であった。

（出典　創造教育開発センター）

資料９―１―②―７

「卒業生・修了生アンケート依頼文」

平成 23 年 10 月

福井工業高等専門学校　卒業生・修了生各位

「卒業生・修了生アンケート」について（依頼）

福井工業高等専門学校
創造教育開発センター

拝啓

卒業生・修了生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます．さて，わが福井高専が第１回卒業生を輩出してから，既に４５年以上が経過しております．この間，多数の卒業生・修了生を輩出し，社会におけるご活躍はめざましいものがあります．また一方，高等教育機関においては改革の気運が高まり，福井高専も教育と研究の両面で厳しい評価を受けています．このような時代の要請に応えるために，福井高専は自らの技術者教育の質をたえず向上させるべく，懸命の努力をいたしております．その一環として，本科４年生から専攻科２年生までを対象とした「環境生産システム工学」教育プログラムが平成17年５月に教育プログラムの国際的な認証である日本技術者教育認定機構(JABEE)から県内の高等教育機関では初の認定を受け，さらに本科・専攻科を含めて，平成18年３月には大学評価・学位授与機構から機関別認証評価の基準を全て満たしていると認められました．福井高専の「環境生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標は下記の５つで，各教員は授業科目において修得させる知識・能力の設定，教育方法，評価方法を開発し，達成度を厳密に評価できる教育システムで教育にあたっています．

(A) 地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり・環境づくり，システムデザイン能力の育成
(B) 幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
(C) 豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
(D) 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
(E) 体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

２１世紀の高等教育は外部評価・グローバル化に対応できなければなりませんが，福井高専もそのような教育機関としての責務を果たす所存であります．そこで，福井高専の教育をいっそう改善するために，このたび卒業生・修了生の皆様にアンケートのお願いを申し上げることになりました．皆様の声に厳粛に耳を傾けることは，教育を改善するための指針として必要不可欠だからです．皆様には，ご多忙の折とは存じますが，短時間でお答えいただくことも可能な設問といたしましたので，どうぞご協力を宜しくお願い申し上げます．回答方法としては，

１．別紙の卒業生・修了生アンケートにご記入のうえ，同封の返信用封筒によりご回答いただく．
２．アンケートのホームページアドレス(http://erd.ip.fukui-nct.ac.jp/obenq/)からの web 入力によりご回答いただく．

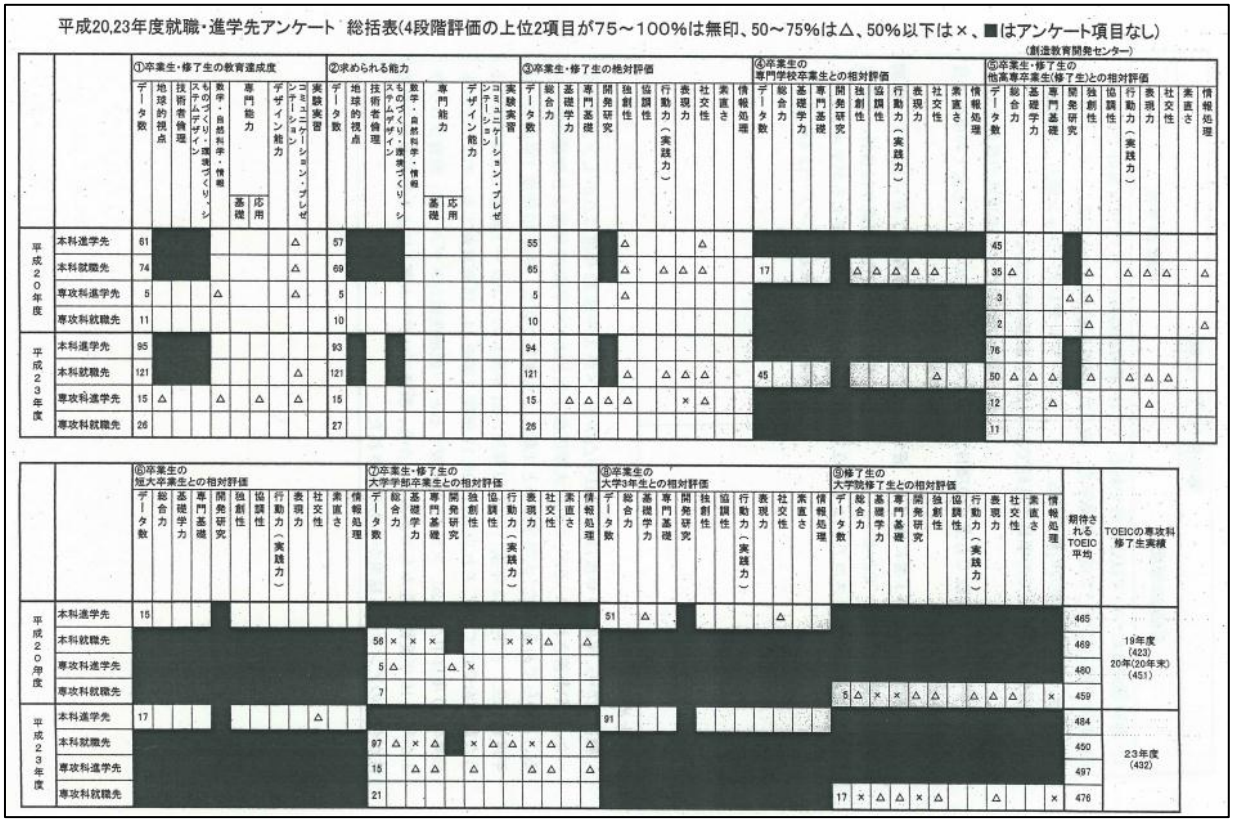
のどちらかでお願いいたします．回答の締め切りを平成 24 年１月末日とさせていただきますが，どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください．なお，本アンケートの内容は，創造教育開発センターが集計し，貴重な外部評価資料の一つとして利用させていただきます．どうかご趣旨に賛同いただき，アンケートにご協力ください．今後とも，福井高専のためにご指導ご鞭撻たまわりますよう，宜しくお願い申し上げます．

敬具

（出典　創造教育開発センター）

資料９―１―②―８

「卒業生・修了生アンケートの分析（抜粋）」



平成20,23年度就職・進学先アンケート　総括表(4段階評価の上位2項目が75～100%は無印、50～75%は△、50%以下は×、■はアンケート項目なし)

（創造教育開発センター）

（出典　創造教育開発センター）

資料９－１－②－９

「平成 22 年度外部有識者会議における各委員からの意見･提言･その対応委員会およびその後の検討結果」

委　　員	提言・意見	対応委員会等	検討結果など(時期や内容)
長岡技術科学大学 新原皓一　学長	外部資金の獲得努力	企画室・研究改善委員会	・科研費獲得のための講演会 ・平成24年度は科研費がＶ字回復
	学寮の良い面の活用	学寮運営委員会	・検討中(清掃活動のボランティア)
	将来求められる技術を予測し，自ら伸びていく，チャレンジしていく意識の教育	教務委員会・専攻科委員会	・ロボコン・プロコへの積極的参加 ・ＡＳＥＴや海外研修への積極的参加 ・キャリア教育の充実 ・専攻科として学習・教育目標に掲げていることであり，専攻科教育のカリキュラムを通して実践していることである．ただし，本校教員だけではなく，外部講師の話を聞くことも，技術の予測には必要であるので，講演会の実施や大学・企業への訪問を継続的に企画する．（専攻科委員会）
鯖江市小中学校校長会 岸松茂　会長	地域から愛される，関心を持たれる学校にしていく努力(広報・情報発信)	広報委員会・企画室	・おもしろフェスタinサンドームでの地域に対する情報発信(企画室)
鯖江商工会議所 野村一榮　会頭	ものづくりを通しての起業家精神の育成	企画室・教務委員会・専攻科委員会・地域連携テクノセンター	・高専機構特別教育研究経費「アントレプレナー醸成・キャリア教育の進展」の採択を受けての，舞鶴高専・明石高専・呉高専・本校での連携事業(企画室) ・知財教育に関する講演会を実施しており，その内容を通して起業に対しての意識啓発を図っている．また，デザイン工学や創造デザイン演習の授業内容に起業家精神の育成を盛り込んでいくことを検討する．（専攻科委員会）
	高専生への地元中小企業の紹介・周知(丹南産業フェアへの積極的参加)	進路指導委員会へ	・就職説明会での地元企業の紹介
信越化学工業（株） 磁性材料研究所 美濃輪武久　所長	英語によるコミュニケーション能力の向上	教務委員会・専攻科委員会	・Ｈ２３年度の教員間ネットワーク会議において活発な議論がなされている。 ・平成23年度「現代英語」において，英語におけるポスタープレゼンテーションスキルの向上を内容に取り入れ，非常勤外国人講師による指導を実施することになっている ・積極的に高専機構による海外インターンシップやISTSへの学生派遣を奨励する．その結果，今年度夏季海外インターンシップに専攻科2年生がマレーシアに派遣されることとなった．今後，さらに，学生自らが海外に目を向けるような指導を行っていくこととする．そのためにも，TOEICスコアの向上がモチベーション向上に繋がることから，TOEIC受験を奨励する．（専攻科委員会）．
福井新聞社 山下裕己　論説主幹	工業や技術には関係のない教養的な部分の育成	教務委員会・専攻科委員会	・青樹などの校友会誌編集 ・学生会主体の体育祭や高専祭 ・文化部発表会（文月祭）が復活の話はない。 ・文化（紫式部）に関する公開講座の開講 ・放送大学との単位互換を検討し，本校では修得できない自分社会系の科目の履修を進めることを検討する．（専攻科委員会） ・弁論大会（ディベート）
	コミュニケーション能力の向上，デザインマインドの育成	教務委員会・専攻科委員会	・　後期1年に開講する「創造デザイン演習」によって，エンジニアリング・デザイン能力の向上を図る．内容については，他の教育機関における実施例を検討し準備を行っていく．この授業では，日本語における討論から１つの妥当な解決策を導き出すことやグループワークの重要性の涵養を主とする．（専攻科委員会）
福井大学　小倉久和 工学部長・工学研究科長	学校としての課題や問題点を整理・明確化した上での方向性	企画室	・高度化再編，国際交流，外部資金獲得など現状として最も重い課題と考えられる項目を最優先に各種委員会で検討を行っている

（出典　学校運営会議）

資料９―１―②―１０

「平成２３年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言と検討委員会」

委　　員	意見・提言	内容（平成23年度外部有識者会議の録音テープ起こし原稿（校正前）の抜粋）	検討委員会（案）
長岡技術科学大学 新原　晧一　学長	学生が夢を育むことができる教育への取組	企業が持っている、政府が持っている、世界が持っている、いろいろな所が持っている未来に対する思考と未来に対する議論みたいなものを、どこもあまり大きな声で言えなくなっています。若者を育てる教育機関においては、私は堂々と、20年先の夢を話すべきだと思います。それが正しいかどうかは関係なく、そういう雰囲気を学生に与えるべきだと私は思っています。。いわゆる普通の教育論はいっぱいありますが、なぜここに大学があるのか、なぜ高専があるのだ、高校や中学校があるのかと考えてきますと、教育者とはそもそも何だ。結論に達したのは教育というのはある面では未来を創るのだということです。我々は学生を教えることによって学生が創る未来、20年先、30年先に創るその時に彼らが自分たちが持っている能力を最大に引き出して、未来社会に参加するのだという気に。彼らがいろいろな事をやって未来社会を創るのだと思うのですが、それに我々もある面で教育するという立場から参加していく。だから教育チームは高尚な、ある意味一般とは違うのだというのはそこにあると私は感じました。そういう意味では、今、出た後、今後何をするかではなくて、今後伸びるチャレンジする学生が今後20年、30年、自分の最高のレベルに達するためにチャレンジしていかないといけない。その手助けをやっているのがある意味大学の教育なのではないかという気がします。そういう意味で考えると、専攻科がなぜ必要か、高専を出た人がなぜ大学に編入していかなければいけないのか、論理的にできそうな気がしています。その流れが一番大事だと思います。未来を見る事と、未来を見られない学生、若い人たちに先生方が、我々が、社会が若い人たちに向かって夢を語ってやるべきだと。それが今日本の社会に無くなったから、その結果として学生が内向きになる、学生が未来を見られなくなる、俯いて、学生が今いろいろな事を社会から言われているのは、あれは元々我々がその原因を作っているだけの話なのだと。そういう意味では、少なくとも夢を語れるのは、教育機関ではそれができるはずです。	企画室 進路指導委員会 （講演会・単なる就職指導でないキャリア教育）
鯖江市小中学校校長会 島嵜　徹夫　会長	卒業後，高専でのキャリアが活かされる取組	今夢の話がありましたが、私たちは子どもを高専だけではなくて高校へ出すときに、やはり、いろいろと考えていまして、やはり５年経って、どのような世の中を子どもが見て進んでいくのかなということが一番、送る側としては気になる事です。評価表、点検、すばらしい事なのですが、私は仕事として、子どもの意見、保護者の意見、または中学校の先生方の意見、そういう声も大事にしていただいて教育を考えていただけるとありがたいと思います。女子が宣伝なさって45人とたいへん増えていますが、校内が女子がいると華やかになるというそれだけでは駄目なのではないかと思います。その女子が５年後、どこに就職するのか。女子がこの地区に残って貰えるかなという気がしますので、そういう意味では良いのですが、俗な言い方をすると潰しが効かないかなという気もするので、どうか、この子たちがすばらしい大人になって、キャリアを持って、生きていけるようによろしくお願いします。	企画室 進路指導委員会 （女子中学生の体験学習会・女子学生向けのキャリア教育）
鯖江商工会議所 野村　一榮　会頭	女子学生増への取組	今後５年10年先の事を考えると、創造性とか自主性とか活動性とか、女性のほうがあるような気がします。これから企業は女性の管理職登用とか、デザインとか発想とか、そういうものにどんどん登用されてきますので、ぜひ今後とも高専も女性の生徒の割合をこれからどんどん増やしていただけると、またその辺が変わってくるのではないかという感じがいたします。	企画室 進路指導委員会 （女子中学生の体験学習会や女子学生向けのキャリア教育）
	さばえものづくり博覧会への協力	今年の11月16日（金）～18日（日）の三日間ですが、従来の丹南産業フェアをサンドームでやっていますが、今回は鯖江商工会議所独自で鯖江ものづくり博覧会を開催しようと思っています。その目的は二つあって、一つは鯖江にはものづくりの素晴らしい 産業がいっぱいあるのですが、ところが今までの丹南産業フェアでは出店しません。ご覧になると分かりますが、めがね業界の方で楽器を作っているとか、あるいは医療器具を作っているとか、繊維業界で建築資材を作っているとか、全然違うものづくりがありますし、伝統工芸師も鯖江にはいっぱいおられますので、そういった隠れた素晴らしいものづくりの技術をぜひ見せたいということです。もう一つは、若者にその企業を見ていただこうという事から、地元の中学生や、もちろん高専の生徒さん、工大、大学の生徒さんにも見ていただいて、後継者育成の一環としても考えておりますので、ぜひその時には高専の、できればロボットの実演をやっていただけると良いと思っています。	企画室 進路指導委員会 （地元企業の紹介）
信越化学工業（株） 磁性材料研究所 美濃輪　武久　所長	部門間の連携強化	皆さんはそれぞれの分野において非常に一生懸命、手取り足取り、校外の事まで気を配られて、よくおやりになっていることがよく分かりました。ちょっと心配なのは、皆さんはそれぞれの分野で一生懸命にやられておられていますが、全体として、日本の組織には起こりがちな話ですが、部門間のつながりが悪くならないようにお願いしたいという気がしました。	教育システム推進委員会 （ＰＤＣＡサイクルの確実な実施）
(株)福井新聞社 山下　裕己　論説主幹	創造性やデザインマインドの育成	今の経済状況とか、日本の状況などを見ると、学生ひとりひとりの創造性とか、デザインマインドをどう育てるかとか、今までとは違った所に力をこれから入れていかなければいけないという気がします。やはり手取り足取り教え込むというだけでは、そういう物はなかなか身に付かないところがあるので、これは簡単にこうすればできるんだよという事が分かるのであればそれほど難しくはないでしょうが、私自身もいろいろな今の日本の状況とか福井の状況を見ると、変な話、大きな大学や公立都道府県などの教育委員会などの縛りがある学校と違って、高専さんはそういう所に挑戦するには比較的良い環境にあるのではないかという期待をしています。そういう意味では、忙しい中たいへんだと思いますが、デザインマインドとかイマジネーションとか、非常に分かりにくい部分を子どもたちに教えていく方法を努力するというか、そういうところを是非取り組んでいただきたいと思います。	教務委員会 専攻科委員会 （学習・教育目標に掲げている）
福井大学 小倉　久和 工学部長・ 工学研究科長	積極的に行動できる学生の育成	学生たち、創造性の問題がかなり大きいと思いますが、よく言われるように内向き志向を大学生についてずいぶん言われています。多分、高専の中でもあるかと思いますが、非常にたくさんの取り組みがされていてびっくりするくらいやられていると思いますが、その中で実際に学生たちの自主性、創造性、イマジネーションがどのように発展していくかについては、やっぱり内向き志向といわれるような傾向が学生それぞれの中にあると思います。私もずいぶん長いこと学生の教育に携わって来ましたが、例えば、「それは習っていません」と言う学生があいかわらずいる。例えば半年なり1年のある授業科目で教えられる事はごく僅かで、それはきっかけを与えるに過ぎないと言って宿題とか出すのですが、なかなかそういうものが出て来ない。我々の大学でも実学志向と言いますか、実践教育が盛んで、座学ではない部分が増えて来ていますが、そうすると座学が益々軽視されてきて、個人的には、いわゆる技術の体系、あるいは科学の体系に裏付けられたイマジネーションが本来あるはずだと思っていますが、それが内向き志向によって、外から与えられたものばかりやっている。自分で外へ出て、あるいは自主的にやっているのは少ないという感じがしています。同じような事が高専の中にもあるのではないかと思います。そういった課題が今日の報告の中に見えなかった。	補導委員会 教務委員会 専攻科委員会 （学生会での自主的な取り組み・仮進級を自ら解こうとしない現状・学修単位・海外留学の促進など）
	きめ細かな教育体制の継続	伸びる学生は伸ばすのは重要ですし、手間暇をかけなければいけない学生には手間暇をかける。同時に今の学生たちは大きなお店の二代目、三代目の雰囲気が無くはないのです。自分たちで分からない事、教えられない事も関心があれば、あるいは必要があれば自分でやっていってほしいといつも思っています。それが海外に出て行く傾向が少なくなっている一つの原因にもなっているのだろうと思うし、学生たちも就職活動の中で、自分の手近な所で済ましてしまうようになってしまう気がしております。そのへんについても、特に高専はある意味、縛りが少ない。大学とは違った事が取り組める環境がある。逆の意味で縛りもあるのでしょうが、ぜひいろいろな対応の取り組みをしていただきたいと思いました。	教務委員会 専攻科委員会 （進級制度・海外留学の促進、発達障害への支援など）

（出典　学校運営会議）

（分析結果とその根拠理由）

学校の構成員，卒業生・修了生や学外有識者等の学外関係者からの意見聴取の実施とデータの収集体制の整備及び分析は適切に行われており，またこれらの結果に基づいた教育状況に関する自己点検・評価体制が適切に構築・機能している。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教育改善システムについては，平成２３年度の自己点検・評価委員会の指摘によりシステムの改善案が策定され，平成２４年度より新システムによる教育改善の一層の促進を試みている（前出資料９－１－②－１）。

新しい「福井高専教育改善システム」の改善の大きなポイントは，教育システム推進委員会の新設及び同委員会を中心とした PDCA サイクルの再構築である。PDCA サイクルがより迅速な教育改善につながるように，各種委員会のグループ分けを行い，その他を再構築した。この結果，外部有識者会議等の外部評価の意見や提言をより迅速に教育改善につなげることが可能となった。新しい「福井高専教育改善システム」が機能している例として，教育システム推進委員会の議事録と学校運営会議の議事録を（資料９－１－③－１，２）に示す。

資料９－１－③－１

「教育システム推進委員会議事録」

平成 24 年度第 1 回教育システム推進委員会議事要旨

日　時　　平成 24 年 4 月 25 日（水）　13：30～14：00
場　所　　小会議室１
出席者　　津田委員長，青山委員，奥村委員，亀山委員，佐藤委員，田安委員，辻子委員，
　　中谷委員，平井委員（委員は５０音順）
欠席者　　加藤（敏）委員
陪席者　　評価・地域連携係主任

議事に先立ち，平成２４年度から教育システム評価委員会が教育システム推進委員会と名称が変わったこと，加えて，任務及びＰＤＣＡサイクルにおける役割も変更されたことについて委員長から説明があった。

議　題
１．教育システム推進委員会委員確認について
委員長から，委員名簿にもとづき委員の所属と選出元委員会の確認が行われた。

２.教育システム推進委員会の役割について
委員長から，委員会規則にもとづき任務の確認が行われた。特に本校ＰＤＣＡサイクルにおける役割について，旧委員会は「Action」に位置付けられていたが，新委員会はＰＤＣＡのいずれかに属するのではなくサイクルがきちんと回っているか調整・橋渡し・フォローアップを行うことになったとの話があった。

３．平成 24 年度の活動内容について
・平成 24 年度の各種アンケートの推進（平成 23 年度のフォローアップ）
委員長から，平成２３年度に各委員会で行ったアンケートについて，「2011 年 PDCA 表」に未記入の項目がある場合は前年度の委員に協力してもらって完成させるとともにアンケート結果を共有フォルダに随時アップロードしてほしいとの依頼があった。また，今年度のアンケートの実施項目を各委員会で検討・整理してほしい旨，重ねて依頼があった。なお，共有フォルダについては後日アクセス方法とユーザー名，パスワードを事務方から連絡することとした。

・平成 20 年度卒業生・修了生・進路先アンケートに関する対応
・平成 21，22 年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言に対する対応
・平成 23 年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言に対する対応
・平成 23 年度教育環境アンケートに対する対応（フォローアップ）
委員長から，資料にもとづきこれまでの経緯について説明があり，これらに関して本委員会が直接議論するものではなく，どの委員会等に Action してもらうか調整・橋渡し・フォローアップを行っていくとの話があった。

（出典　総務課）

資料９－１－③－２

「学校運営会議議事録（抜粋)」

平成２４年５月定例学校運営会議議事要旨

日　　時　　平成２４年５月１０日（木）１６：１５～１８：３０
場　　所　　校長会議室
出 席 者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、企画室長、専攻科長、事務部長、加藤(寛)、川本、斉藤、常光、廣部各学科長、長水、廣重各教室主任
列 席 者　　総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当、財務担当）、総務係長

始めに校長から、議題の関係から教育研究支援センター長及び自己点検・評価委員長が陪席すること、また、教務主事が校外の会議出席のため遅れることの報告があり、続いて前回(４月定例)の学校運営会議議事要旨の確認が行われ了承された。

Ⅰ　審議事項

１　規則（教育研究支援センター運営委員会規則）の改正について

始めに教育研究支援センター長から、別添の図に基づき当センターの位置付け等について説明があり、続けて資料１に基づき改正理由の説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

ここで校長から、審議事項２を発議した教務主事がまだ出席していないため、都合により報告事項の８から先に報告いただく旨の発言があった。

Ⅱ　報告事項

８　自己点検・評価委員長報告

(1)平成23年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言について

始めに、今年度から自己点検・評価委員会が新しい体制となり、本校のＰＤＣＡサイクルを確実に遂行するため、5月2日開催の当委員会において企画室長から報告があった外部有識者会議からの意見・提言について、本会議に報告するとの発言があった。

続けて資料１０に基づき報告があり、特に女子学生増に関しては、単に入試倍率を上げるために増やすだけでなく、出口の充実が大事であるとの発言があった。

なお、本来この報告は外部有識者会議終了後直ちに当委員会を開催して本会議に諮り、アクションプランに反映させるべきであるが、新体制が4月1日からということから報告が遅れたとの付言があった。

(2)卒業生・修了生等からのアンケート結果について

始めに、本件は創造教育開発センターから報告があったものであり、昨年10月に本校の卒業生及び修了生の就職先又は進学先等に本校卒業生等の能力等についてアンケートを依頼し、併せて、卒業生及び修了生自身にもアンケートを依頼したものであるとの発言があった。

（出典　総務課）

次に，本校の教育改善システムが機能した具体例を，以下に示す。

学外からの意見聴取として，創造教育開発センターにおいて３年ごとに実施されている卒業生・修了生アンケートの結果を分析したところ，基礎学力の不足が指摘された（前出資料９－１－②－７），（資料９－１－③－３）。このことを受けて，専門科目における基礎学力の不足に関して，平成２２年度の本科３学年担任団で具体的対策が協議された。その結果，それらの基礎学力定着の根幹である数学の基礎学力レヴェルの教育支援プログラムを，３学年学生全員を対象にして試行の形で実施されることとなった（資料９－１－③－４）。同年度前期に実施した教育支援プログラムについての学生からの意見聴取は，アンケート形式（資料９－１－③－５）で行われ，その結果を参考にして後期は，技術士１次試験受験を考慮に入れた内容で同様の教育支援プログラムを実施した（資料９－１－③－６）。この教育支援プログラム実施による波及効果として，同学年における CAD 資格試験受験者及び合格者の増加等の教育効果が挙げられる。なお，このような教育支援プログラムの他に，数学教育については教員間ネットワーク会議でも学力向上につながる全学的な教育改善について議論し，改善策を講じている（資料９－１－③－７）。

資料９－１－③－３

「卒業生・修了生アンケートの分析（抜粋)」

・アンケート結果と考察

本科(卒業―進学)	
平成 20 年度	平成 23 年度
1) 教育達成度については，コミュニケーション・プレゼンテーション能力が普通，残りは良好．コミュニケーション・プレゼンテーション能力が他より劣るのはコメントから英語力不足の為である． 2) 求められる能力については，数学・自然科学・情報，専門基礎の順である． 3) 卒業生の印象は，独創性，社交性は普通，他は良好． 4) 他高専の卒業生との比較では全項目で良好であり，3)の評価より上がっている． 5) 短期大学卒業生との比較では，全ての項目で良好． 6) 大学学部 3 年生との比較では，基礎学力，社交性を除いて良好． 7) 期待される TOEIC スコアー465 点程度である．	1) 教育達成度については，コミュニケーション・プレゼンテーション能力が普通，残りは良好． 2) 求められる能力については，数学・自然科学・情報，専門基礎の順である． 3) 卒業生の印象は，全項目で良好であり平成 20 年度より改善された． 4) 他高専の卒業生との比較では全項目で良好である． 5) 短期大学卒業生との比較では，社交性を除いて良好． 6) 大学学部 3 年生との比較では，全項目で良好であり平成 20 年度より改善された． 7) 期待される TOEIC スコアー486 点程度であり，平成 20 年度よりやや高くなった．
(まとめ) 総括表からは，20 年度は 50 項目中△が 5，×が 0，23 年度は△が 1，×が 0 であり，全体的には改善が見られたようである．これは卒業生の絶対的な印象の向上と大学学部 3 年生との相対評価の改善のためである．	

（出典　創造教育開発センター）

資料９－１－③－４

「数学の基礎学力レヴェルの教育支援プログラム（前期)」

平成２２年４月３０日

平成２２年度３年生対象の数学補習について

平成 22 年度第３学年担任
(M:藤田、E:河原林、EI：青山、C:小泉、B：江本)

３年生学生諸君、体育祭も終わり、インターハイ、中間試験に向けて少しだけ気持ちを切り替えて毎日を過して欲しいと思います。そこで、きみたちに学習習慣を付けてもらうことを目的に３年生の学生全員を対象に下記の予定で補習をします。

1．補習の内容は各科共通の「数学」とする。今回は微積分の基礎で「解析Ｉ」の復習とする。
2．２回同じ内容を行うのでどちらか１回を受けることでも可とする。
3．１回の補習時間は 40 分であり、補習内容は２枚のプリントを配布する（１枚 20 分程のプリントである）
4．都合により２回とも受けることが出来ない人の中で、希望者にはプリントを配布する。
5．何回受けても無料とする。
6．３年生の担任が交代で監督する。

場所：大講義室（様子を見て合併教室）
予定時間（月曜日、金曜日の P.M.4:20～5:00）

予定日	内　容	監　督	
5/10（月）、5/14（金）	関数の極限	全員	青山
5/17（月）、5/21（金）	導関数の定義、整式の導関数	藤田	河原林
5/24（月）、5/28（金）	積と商の導関数、合成関数の導関数	江本	小泉
5/30（月）、6/7（月）	指数関数と対数関数の導関数	藤田	河原林
6/21（月）、6/25（金）	三角関数の導関数	青山	小泉
6/28（月）、7/2（金）	不定積分の定義、公式	江本	藤田
7/5（月）、7/9（金）	置換積分	河原林	青山
7/12（月）、7.16（金）	部分積分	江本	小泉
7/21（水）、7/23（金）	部分積分と２次式を含む関数の積分	藤田	河原林

（出典　平成２２年度３学年担任資料）

資料９－１－③－５

「数学の教育支援プログラム学生アンケート」

平成２２年度３年生対象の数学補習について関するアンケート

３年担任　河原林友美

学習習慣を身につけることや基礎学力を強化することを目的に５月から７月にかけて、週２回（月、金）に数学の補習を行いました。今後、より良い補習のあり方を考えるためアンケートを行うことにしましたので、ご協力をお願いいたします。

1.数学の補習に何回参加しましたか。（　　回）

2.数学の補習に４回以上参加した人に質問します。

補習に参加したことをどのように評価をしますか。（５が評価が高い）

a.参加してよかった。　（1　2　3　4　5）

b.復習になった。　（1　2　3　4　5）

c.力がついた気がする。　（1　2　3　4　5）

d.勉強する習慣が出来た。　（1　2　3　4　5）

e.３年生の数学の授業に役立った。　（1　2　3　4　5）

その他評価することがあれば自由に書いてください。

3.数学の補習に余り参加しなかった人、全く参加しなかった人に質問します。

その理由に当てはまるもの全てに○を付けてください。

①会場の大講義室への移動が面倒だった。（　　）

②友達が参加しなかったから。（　　）

③内容が簡単だったから。（　　）

④内容が難しかったから。（　　）

⑤数学は得意なので必要ないと思ったから。（　　）

⑥勉強したくなかったから。（　　）

⑦部活、同好会活動などが忙しかったから。（　　）

⑧課題やレポートが忙しかったから。（　　）

⑨その他（　　）

4.今後どのような補習だったら参加しようと思いますか。

（例えば、開催時間、場所、補習の内容ややり方に関して意見を述べて下さい。）

（出典　平成２２年度３学年担任資料）

資料９－１－③－６

「数学の基礎学力レヴェルの教育支援プログラム（後期）」

平成２２年 10 月 22 日

３年生学生諸君

平成２２年度後期の３年生対象の数学補習について

平成 22 年度第３学年担任
(M:藤田、E:河原林、EI：青山、C:小泉、B：江本)

３年生学生諸君、高専祭が終わり、学校行事はこれから見学旅行、中間試験に向かいます。前期のように後期も補習をおこないます。今回は、きみたちに就職試験・進学の準備の第１段階として「技術士 1 次試験」レベル（大学卒業程度）の演習問題に取り組んでもらおうと思います。

1．補習の内容は各科共通の「数学」とする。前期の「解析Ⅲ」の部分を中心に、行列や数列などの範囲の復習とする。
2．２回同じ内容を行うのでどちらか１回を受けることでも可とする。
3．１回の補習時間は 50 分であり、教科書やノートを持参してください。(調べないとわからない問題です)
4．何回受けても無料とする。
5．３年生の担任が交代で監督する。

場所：監督者の担任する教室
予定時間（月曜日、金曜日の P.M.4:10～5:00)

予定日	場　所		監　　督	
10/29（金）、11/1（月）	3M	3E	藤田	河原林
11/5（金）、11/19（金）	3EI	3C	青山	小泉
11/22（月）、11/26（金）	3B	3M	江本	藤田
12/10（金）、12/13（月）	3E	3EI	河原林	青山
12/17（金）、12/20（月）	3C	3B	小泉	江本
1/11（火）、1/14（金）	3M	3E	藤田	河原林
1/17（月）、1/21（金）	3EI	3C	青山	小泉
1/24（月）、1/28（金）	3B	3M	江本	藤田

（出典　平成２２年度３学年担任資料）

資料９－１－③－７

「数学および自然科学に関するネットワーク会議議事録」

平成 24 年 3 月 28 日

数学および自然科学に関するネットワーク会議議事録

１．開催日時　平成 24 年 3 月 27 日（火）10:00～11：10
２．開催名所　小会議室３
３．議題　・数学応用数学と専門科目について
４．出席者　松尾、五味（機械工学科），石栗（電気電子工学科），
西（電子情報工学科），川村，佐々（物質工学科），
田安（環境都市工学科），朝倉（一般科目教室・自然）
長水（一般科目教室，司会および議事録）

数学応用数学と専門科目について

専門科目で使う数学の現状を、昨年度の議事録を基に話して頂きました。

・M科　3 年の材力、工力などの理論系科目で数学を使う。微分方程式の簡単なものを 3 年で扱う。４では数学を使う科目が集中している。学生の計算力が無くなっている印象を持っている。
・E 科　23 年度は、数学科教員と相談して、4 年の電気回路Ⅲでフーリエ級数展開を同時進行した。4 年後期では、ラプラス変換が必要。積分形式をどこまで扱うかは議論すべき内容。
・ＥＩ科　3 年の数値計算（半期）で数学を使う。今のところ、学習時期に関するミスマッチはあまりない。3 年の電磁気学でベクトル解析、4 年の信号解析でフーリエ解析が必要となる。学生の、数学のリテラシー能力の低下が気になる。
・C 科　化学反応で微分方程式を扱う。数学力（発想力）がないので、トレーニングが必要。工業高校からの編入生に対して、数学が難しい。内容を選択できるようにできないか。
・　B 科　力学系の力が弱く、計算力も落ちている。力のつり合いや、比例計算ができない、単位換算ができない学生もいる。一般的に、学生の勉強量が少ない。課題も出さなくなってきた。毎日勉強させるためにも、宿題を多めに出すのが良いのではないか。

・今回の議論において、応用数学の分野の優先順位の高いものとしては、微分方程式、ベクトル解析、フーリエ解析が挙げられた。科目によっても差があると思われるが、概ねこれらの分野は専門科目での必要性が高いことが指摘された。

（議事録：長水）

（出典　創造教育開発センター）

もう一つの教育改善の例として英語教育に関する改善例を挙げる。

卒業生・修了生アンケートにおいては，英語教育についても改善の要請が出ている。同様に，外部有識者会議においても英語教育に関する提言を受けている．ここでは，それらの評価を受けた上で実施した英語教育学習支援スキームの再構築のプロセスを述べる。

前述したように外部有識者会議では，外部有識者から教育内容の点検と改善に向けた意見を聴取し，指摘を受けた事項については，教育改善システムに基づいた各種対応を直ちにとっており，平成２２年度に開催された同会議における各委員の講評の中で，本校における英語教育に関して次のような提言があった。

［美濃輪委員］信越化学工業（株）磁性材料研究所　所長

これからの企業は中小企業も含め海外に出て行くことが益々多くなることが考えられるため，福井高専の中に世界を呼び込むというか，ここに来れば世界を感じるような仕組みを検討していただきたい。例えば，英語力を付けるために，留学生をもっと増やす，あるいは，外国人教員を採用しコミュニケーション能力を向上させるというような試みである。

この講評に見られるように，外国語の伝達と読解の基礎能力育成は，国際的技術者養成の重要な根幹である。この重要性に鑑み，教務委員会の諮問により，関係教員（企画室長，専攻科長，英語科目所属教員）を交えた，外国語の伝達と読解の基礎能力育成に関する意見交換会が教務主事主催のもとに開催された。この意見交換会を受けて，一般科目教室人文社会科学系主任の指導の下，英語科目主任より，外国語の伝達と読解の基礎能力育成への取組みを主眼に置いた，英語教育改善に関するマスタープランの提出がなされた（資料９－１－③－８）。

このマスタープランの主要項目として，校長裁量経費によるTOEIC®IP受験を具体的手段とした英語教育改革プログラムが挙げられ，その骨子は以下の①と②に要約される。

①英語科目についてもシラバスで教育目標が設定されており，これに加えて外部試験評価（TOEIC®等の検定試験）における到達目標の設定を検討することで，英語教育支援体制を強化する。

②上記①の主軸となる調査資料として，本科学生より希望する第３・４学年の学生１００名を対象に，TOEIC®IP の受験料を半額補助する英語教育支援プログラムを実施する（資料９－１－③－９）。この取組みにより，外部試験評価（TOEIC®等の検定試験）における具体的な教育目標を設定に関する研究が可能となる。また，学生の英語学習に対する強力な動機付けにもなり得る。

資料９―１―③―８

「英語教育改善マスタープラン」

２０１１（平成２３）年8月０４日（木）

平成２３年度　英語科目における学習支援システム構築のスキーム概要

英語科目主任　准教授　森　　貞

標記の件で以下にその概要の主要部分を列挙する。

１．「英語学習への強力な動機付けの一つとして、外部（検定）試験を一層活用する」

これまで英語科目では、実用英語検定試験と工業英語検定試験に単位認定及び振り替え制度を導入し、試験の校内実施を通して、学生対象に具体的な英語学習への動機付けの機会を与えてきた。
毎年の受験者数等の分析を通して、この制度は学生に有益であると判断できる。そのため、英語科目では、本年度、校長裁量経費の御援助で、ＴＯＥＩＣ®ＩＰテスト校内実施（１０月２９日〈土〉実施予定）受験学生に対して、受験料のほぼ半額を補助する学習支援システムを計画した（受験料４，０４０円の内、２，０００円の補助）。
尚、８月０４日（木）現在、受験希望者が予想以上の数に達したため、当初の予定を変更し、第３及び４学年在籍学生のみを対象とせざるをえなくなった。このため、本人の意思に反して今回受験できなかった他学年在籍の学生に同様の機会を与える等の観点からも、学校として賛助会員に入会することで、今後も継続した学習支援体制を構築することが望ましい。

２．「上記１の結果を分析し、学生の成績について分布等の現状分析を行なう」

これにより、本校の学生の成績の現状がより客観的に把握できるだけでなく、具体的にどのような分野への英語学習支援が必要か、が明確になると予想される。また、短長期的な学習支援システムのスキーム構築の強力な資料となる。
また、ＴＯＥＩＣ®ＩＰテストの単位認定及び振り替えを制度化するために不可欠な資料となる。

３．「語彙試験の発展としての文法試験導入」

ここ６年程、英語科目ではマークシート方式による語彙試験を全学的に導入している。学生の準備学習への姿勢も概ね良好である。これに着眼し、マークシートによる文法試験を語彙試験と同様のシステムでカリキュラムに導入することで、学生の英語学力の向上を目指す。本文法試験はＴＯＥＩＣ®ＩＰテスト等の各種外部（検定）試験の内容も考慮した内容である。

４．「専攻科における英語教育の改善」

専攻科第１学年必修科目「現代英語」において、英語プレゼンテーション教育の導入を図り、学生の英語学習への強力な動機付けにする。
また、昨年度校長裁量経費でご援助頂いたオンライン自習教材による、英語学習支援システムを更に強化する。このシステムを活用し、多くの学生が自主的にＴＯＥＩＣ®ＩＰテスト等に積極的に受験している現状を好例の一つとして紹介したい。

５．「その他」

（出典　英語科目）

資料９―１―③―９

「英語教育支援プログラムの案内」

平成２３年１１月１８日（金）

【平成２３年度第４回ＴＯＥＩＣ®ＩＰテスト校内実施について】

一般科目教室人文社会科学系英語科目主任

平成２３年度第４回ＴＯＥＩＣ® ＩＰテスト校内実施についてお知らせします。受験希望者は本紙末尾の「平成２３年度第４回ＴＯＥＩＣ® ＩＰテスト受験申込書」を必ず英語教員へ提出して下さい。なお、各種問い合わせは、本館３階の「原口研究室（＝人文社会科学系英語教育支援室）」にても受け付けております。

平成２３年度校長裁量経費プロジェクトの支援で、**第３、４学年の学生には学校より受験料の一部、２，０００円が補助されます**（通常受験料は４，０４０円）。ぜひこの教育チャンスを活用して下さい。

実施日時：　１２月１７日（土）　９：００　～　１２：００

実施会場：　本校一般教育棟１階「大講義室」

受験申込書提出締め切り日：　１２月１３日（火）（締め切り日厳守のこと。）

受験料：　２，０４０円　（徴収方法については後日、科目担当教員より指示があります。）

第３、４学年の受験者は、学校より受験料の一部、２，０００円が補助。（通常受験料は４，０４０円）

（参考資料）「本年度ＴＯＥＩＣ® ＩＰテスト今後の実施予定」

第５回　（明年）０１月２１日（土）

切り取り線

「平成２３年度第４回ＴＯＥＩＣ® ＩＰテスト」受験申込書

平成２３年　　月　　日　　曜日

（氏名のふりがな）		
氏　　名 該当する性別を☑		□ 男 □ 女
氏　　名 大文字ローマ字で記入	FIRST NAME・名	FAMILY NAME・姓
学科名・学年・出席番号	学科・第	学年・出席番号　　番

（出典　英語科目）

次に，平成２３年度におけるTOEIC®IP実施成績を整理した。なお，参考のため，第５学年生と専攻科生の受験生の成績も併せて示す（資料９－１－③－１０，１１）。

資料９―１―③―１０

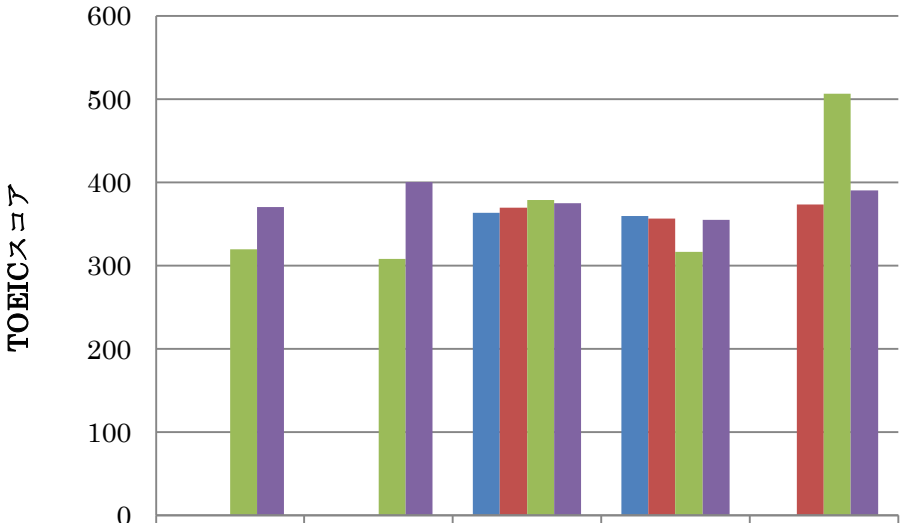
「TOEIC®IP 成績例」

テスト実施	テスト実施	団体コード	所属コード	Listeningス	Readingス	Totalスコア	項目別正	項目別正	項目別正
20111029	0	361408		240	130	370	63	48	69
20111029	0	361408		210	135	345	42	35	75
20111029	0	361408		205	130	335	46	48	69
20111029	0	361408		225	90	315	71	43	75
20111029	0	361408		165	80	245	58	35	63
20111029	0	361408		275	190	465	54	61	88
20111029	0	361408		215	110	325	67	52	75
20111029	0	361408		230	155	385	54	52	69
20111029	0	361408		180	130	310	38	43	50
20111029	0	361408		190	90	280	71	35	56
20111029	0	361408		235	150	385	58	43	75
20111029	0	361408		245	315	560	58	57	69
20111029	0	361408		255	160	415	50	48	81
20111029	0	361408		235	135	370	42	61	63
20111029	0	361408		145	135	280	50	35	38
20111029	0	361408		225	115	340	75	43	69
20111029	0	361408		180	130	310	54	30	88
20111029	0	361408		240	185	425	63	48	94
20111029	0	361408		225	165	390	54	30	88
20111029	0	361408		245	205	450	75	48	63
20111029	0	361408		125	145	270	46	26	25
20111029	0	361408		185	185	370	54	30	56
20111029	0	361408		250	230	480	58	65	69
20111029	0	361408		305	240	545	71	70	69
20111029	0	361408		215	155	370	54	43	63
20111029	0	361408		240	205	445	54	43	75
20111029	0	361408		185	115	300	54	30	50
20111029	0	361408		175	145	320	58	30	63
20111029	0	361408		220	125	345	58	43	63
20111029	0	361408		210	145	355	63	35	69
20111029	0	361408		215	175	390	71	43	75
20111029	0	361408		230	155	385	50	48	69
20111029	0	361408		175	140	315	46	48	38
20111029	0	361408		250	165	415	63	57	56
20111029	0	361408		210	135	345	54	43	63
20111029	0	361408		175	135	310	50	26	50
20111029	0	361408		185	135	320	63	35	63
20111029	0	361408		235	185	420	71	65	63
20111029	0	361408		250	210	460	71	57	69
20111029	0	361408		5	215	220	0	0	0
20111029	0	361408		185	215	400	54	39	50
20111029	0	361408		225	200	425	63	61	50
20111029	0	361408		245	145	390	71	61	63
20111029	0	361408		275	125	400	67	57	88
20111029	0	361408		250	155	405	67	48	75
20111029	0	361408		205	125	330	63	39	63
20111029	0	361408		240	190	430	67	30	88
20111029	0	361408		235	180	415	75	39	63
20111029	0	361408		185	120	305	50	65	38
20111029	0	361408		230	105	335	58	52	81
20111029	0	361408		265	165	430	71	61	75
20111029	0	361408		220	140	360	54	43	50
20111029	0	361408		250	200	450	54	57	88
20111029	0	361408		255	135	390	67	65	88
20111029	0	361408		210	160	370	54	52	69
20111029	0	361408		250	155	405	67	48	75
20111029	0	361408		150	100	250	42	39	63

（出典　英語科目）

資料９―１―③―１１

「TOEIC®IP 試験結果」



	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
3学年			364	360	
4学年			370	357	374
5学年	320	308	379	317	507
専攻科生	371	401	375	355	391

（出典　教務委員会）

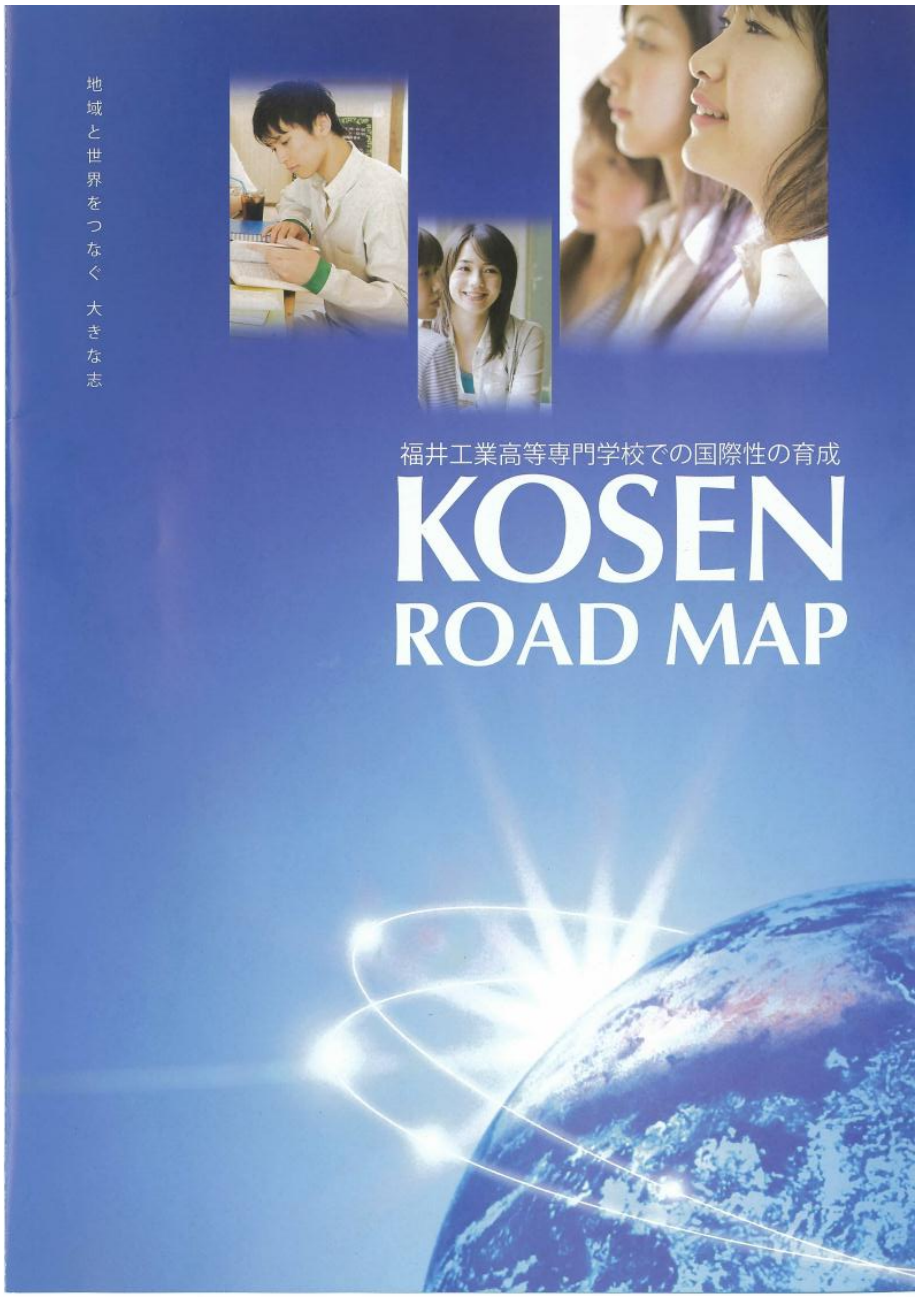
以上の結果を踏まえて，平成２４年度より，以下に示すような事項に取組み，英語の基礎力の向上と教育改善を図る方向で教務委員会を中心に英語科目で検討を行っている。

①平成２４年度より，文法分野の理解度向上を目指し，第３，５学年の授業科目（英語Ⅲ，Ⅴ）において共通テキストを１冊使用する。このテキストを基に，年間４回のTOEIC®IP試験に準じた文法試験（マークシート形式）を実施する。これにより，TOEIC®IPの得点向上が見込まれるだけでなく，各種試験結果の分析により，到達目標設定等の更なる検証が可能となる。
②新入学生を対象とした入学時課題試験を学年一斉で実施する。これにより，入学時からの学習支援の強化を図る。
③教育研究プロジェクトとして設置されている英語教育支援室（准教授１名常駐）を活用し，各種英語学習援助をさらに推し進める。
④TOEIC®IP 対策をより強化した授業を実施する。第１学年次のコミュニケーションⅠにおける外国人講師との連携を強化する。
⑤TOEIC®IP の成績結果により，TOEIC®IP 受験する学生に対し，専攻科では４００点，本科第５学年３８０点，本科第４学年３７０点，本科第３学年３６０点という一定の到達目標を設定することが現段階で妥当と判断される。

現在は国際的技術者の養成の基礎としての外国語教育を一層意識し，ロードマップの作成（資料９－１－③－１２）に始まり，短中長期目標の設定による，さらなる英語教育カリキュラムの見直し作業を教務主事主導のもと教務委員会や国際交流委員会との協力体制において強力に推進している。

資料９―１―③―１２

「英語教育と国際性の育成に関するリーフレット」



（出典　国際交流委員会）

国際交流教育としては海外学生派遣制度の他，平成１７年度からオーストラリアの Ballarat 大学と提携し，学生の相互互換留学制度を開始しているが，このプログラムを強化した。平成１８年５月には，本校学生１７名が Ballarat 大学へ１週間留学し，英会話と現地の文化歴史に関する学習を行った。帰国後の報告会はすべて英語で行なわれ，参加者の評価は高かった。平成２２年３月にも２週間，本校学生９名を留学させるとともに，平成２３年１２月には Ballarat 大学の学生９名を受け入れ，本校学生との交流を図った。

国際活動・英語能力の向上を目指し，国立高等専門学校機構主催平成２３年度第４回海外インターンシッププログラムに本校専攻科２年生が応募し，審査の結果，派遣学生に選ばれ，平成２３年９月４日から２５日まで，マレーシアにある(株)カネカ（マレーシア）に派遣された。帰国後，その成果を専攻科１年生の前で報告した。また，他の専攻科２年生はタイで開催された ISTS2011 （International Symposium on Technology for Sustainability 2011)で英語による口頭発表を行った。専攻科の英語の授業である現代英語では，TOEIC スコア向上の内容に加えて，来年度の ISTS 参加希望者を多くするためにも，平成２３年度から英語による特別研究内容の発表を前提とした外国人非常勤講師による指導を取入れている。また，英語に対するモチベーションを高めるための方策の一つとして TOEIC®IP 試験を本校で年５回実施している（前出資料９－１－③－９）。

（分析結果とその根拠理由）

各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムは整備されており，教育改善の具体的かつ継続的な対策がとられている。

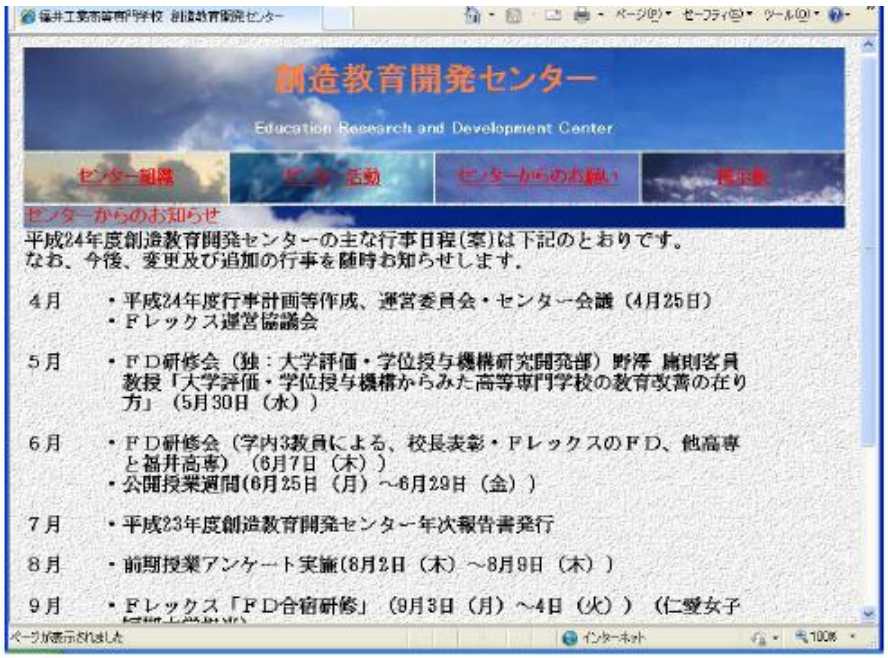
観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

ＦＤ委員会，教育改善委員会等の役割を統合し新たな位置付けを持って平成１９年度に発足した創造教育開発センターが，本校における個々の教員の教育改善と教育体制の向上を担っている活動状況は本校ホームページからも閲覧できる（資料９－１－④－１）。

資料９－１－④－１

「創造教育開発センター活動状況（抜粋)」



（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/~erd/index.html）

資料９－１－④－２

「校長裁量経費配分額一覧」

平成23年度校長裁量経費配分額一覧

No.	代表者	学科・教室等	区分	要求プロジェクト名	要求書提出者（及び主たる使用者）	査定額（千円）
1	亀山	機械工学科	プロジェクト	機械工学科・電気電子工学科における 組み込み系技術者育成教育の充実	亀山　慶太郎　准教授 五味　伸之　助教 米田　知晃　准教授 丸山　敦史　准教授	
2	石榑	電気電子工学科	プロジェクト	中学生が運転できるソーラーカーの改修	川本　昭　教授 佐藤　匡　准教授 河原林友美　講師 石榑　信一　助教 五味　伸之　助教	
3	吉山	物質工学科	プロジェクト	遺伝子工学実験におけるPCR装置 実験の充実化	上島　英貴　教授 吉山　静己　准教授	
4	森	一般科目（人文）	プロジェクト	英語学習支援システムの構築による 英語教育改革プロジェクト	小寺　光雄　教授 森　昇　准教授 原口　治　准教授 吉田　三郎　准教授 曽本　友紀　講師	
5	酒田	総合情報処理センター	プロジェクト	ウィルス対策サーバーの更新	酒田　昇　教授 平井　恵子　准教授 飯田　貴士　助教 五味　伸之　助教 荒木　幹雄　センター員 内藤　岳史　センター員	
6	小寺 吉村	図書館	プロジェクト	ブックハンティングの充実	図書館長：小寺光雄 副図書館長：吉村忠昭志 図書館課長：酒田昇	
7	河原林	電気電子工学科	実験等設備	電子回路設計・製作・評価のための設備充実	前多　信博　教授 佐藤　匡　准教授 米田　知晃　准教授 河原林友美　講師	
8	村田	電子情報工学科	実験等設備	学生実験のためのロボットアーム実習における機材	斉藤　徹　准教授 村田　知也　助教	
9	高山	物質工学科	実験等設備	クリーンベンチ、安全キャビネット保守点検	上島　英貴　教授 吉山　静己　准教授 川村　敏之　講師	
10	吉田	環境都市工学科	実験等設備	手回し携帯振動台「ぶるる」及び 小型デジタル振動計「アッコ」の整備	吉田　光雄　教授 辻子　裕二　准教授	
11	酒田	総合情報処理センター	実験等設備	統合プリント管理システム	センター員	
		要求件数	11 件		金額合計	

（出典　総務課）

平成２０年度の高等専門学校設置基準の改正に伴い，組織的なＦＤ活動が義務化され，同センターも年間計画にそれに沿った活動を行なっている。具体的な取組みとしては，公開授業や授業アンケートの実施，各種ＦＤ研修会の開催，福井県大学間連携事業への参加などが挙げられる。

さらに本校では，校長裁量経費による教育改善活動の支援制度（資料９－１－④－２）を設けている。採択者には実施結果の成果報告書の提出が求められ，特徴的な事業については全教員を対象にした成果報告会での発表を行っており，資金的裏付けを行うことで本校の教育改善に大きく貢献している。

継続的な研究かつ学科間の緊密な協力体制に基づいて教育改善した例を示す。

平成１６年度に機械工学科と電気工学科の学科横断型の教育改善計画が提出され（資料９－１－④－３），学科間で協調しながら創成型教育を進め，PBL 型の創成型教育を強力に推進している（資料９－１－④－４，５）。この学科横断型の教育改善計画は、平成２２年度の機械，電気電子，電子情報工学科共通の計測･制御実験基盤の構築（資料９－１－④－６）及び平成２３年度の機械工学科・電気電子工学科における組込み系技術者育成教育の充実（資料９－１－④－７）に発展している。これらの教育改善プログラムは、複数学科で協力して実験機材の共有化と教授方法の交換や共有を行うためのものであった（資料９－１－④－８）。

資料９－１－④－３

「平成１６年度 校長裁量経費申請書（抜粋)」

（様式１）

平成16年度プロジェクト計画経費要求書

学科等名：　機械工学科・電気工学科

要求者名：　機械：田中，吉崎，村中，鈴木，岡田

電気：新谷，荒川，米田，丸山

プロジェクトの名称	学科を超えた新しい創成科目の導入	要求金額	[redacted] 千円 (消費税込)
プロジェクトの概要	現在，機械工学科では創造的デザイン能力の育成，およびPBL（PBL : Project Based Learning）を主眼とした教育（LEGO　２M，創造工学演習　３M）を既に実践しているが，４年次における開講科目が無く，連続性を欠いている．そこで，４学年において知能ロボットを設計・製作（車体，回路，プログラム）する「知能機械演習」を新しく導入することで創成科目縦糸の補完を目指す．さらに知能ロボットの製作を通して機械のみならず，電気，情報を統合した実体験に基づく知識の習得を行なう．		
プロジェクトの実施計画・方法	・現在４学年で開講している機械工学実験Ⅰ（3単位）を知能機械演習（1.5単位，前期）＋機械工学実験（1.5単位，後期）に細分化する． ・4人1組でチームを編成し，ライントレースロボットの製作を行なう． ・ライントレースロボット製作では，具体的に以下の内容を行なう． ＜ハード製作＞車体・制御回路の設計製作を行なう． ＜ソフト製作＞マイコンを搭載しC言語によるプログラミングを行なう． ・半年間の集大成を競技大会形式で評価する． ・電気科との合同競技会を開催し，各科の到達度を客観的に評価する．		
プロジェクト担当者	氏　　名	所属官職（役職名）	担　当　分　野

（出典　総務課）

資料９－１－④－４

「機械工学科における授業成果報告（抜粋）」

論　文

多分野融合型 PBL の実践と分担制導入による教育効果

Practice of Project-based Learning on Fused Multiple Department and Educational Effect by Assignment System

岡田将人※1　村中貴幸※1　亀山建太郎※1
Masato OKADA　Takayuki MURANAKA　Kentaro KAMEYAMA
北川浩和※1　鈴木秀和※2
Hirokazu KITAGAWA　Hidekazu SUZUKI

In this paper, a new subject based on PBL (Project Based Learning) and its educational effects are discussed. The feature in this subject is that problems are solved based on the division of labor. In this subject, students break into four-member groups, and develop a line trace robot together cooperatively. Then, they share their responsibility for mechanism, electric circuit and programming, and learn basic knowledge of assigned area from teachers. After that, they develop the robot based on discussions. This procedure is like that in companies and the main objective of this subject is to get this skill. Each robot is evaluated by competition held in a public space of campus. From the questionnaire, very active posture and high attendance degree of satisfaction was gotten.

（出典　日本工学教育協会誌（工学教育），Vol. 58（2010）pp. 76）

資料９－１－④－５

「電気電子工学科における授業成果報告（抜粋）」

論文集「高専教育」　第 31 号　2008. 3

PIC マイコンで動作するライントレースマシン製作による「ものづくり」教育

米田知晃*1 荒川正和*1 丸山晃生*1 三好正行*2 斎藤弘一*2
（福井工業高等専門学校）

Creative Manufacturing Education by making Line Tracer Controlled by PIC microprocessor

Tomoaki YONEDA, Masakazu ARAKAWA, Akio MARUAYAMA,
Masayuki MIYOSHI, Koichi SAITOU
(Fukui National College of Technology)

We started a new experiment for creative education, which contained a making of a line tracer controlled by PIC microprocessor using photo-sensor, transistor and DC motor, in Department of Electrical and Electronic Engineering, Fukui National College of Technology. This experiment included some area of electrical engineering. The most important purpose of this experiment is to derive pleasure of making a machine. The minimum problem for the students is whether their produced machines are able to trace the line. The students produced line tracers with their original ideas to make them trace line more accurately and run faster. The questionnaire data of this experiment indicates that this experiment is very effective creative education for electrical engineering. Especially, the students are interested in and satisfied with this experiment.

（出典　論文集「高専教育」，31（2008）pp. 319）

資料９－１－④－６

「平成２２年度 校長裁量経費申請書（抜粋）」

（様式１）

プロジェクト計画経費要求書

学科(教室)等名　：　電気電子工学科
要 求 者 名　：　米田　知晃

プロジェクトの名称	機械，電気電子，電子情報工学科共通の計測・制御実験基盤の構築	要求金額	[redacted]千円（消費税込）
プロジェクトの概要	今回提案するプロジェクトは，**機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科の3学科共通の計測・制御実験基盤を構築する**ことであり，その目的は以下の3つである。 ・ 実験設備等の資源の有効活用 ・ 融合複合を意識した教育の充実 ・ 外部資金の獲得・地域技術者育成事業への展開		
プロジェクトの実施計画・方法	計測・制御実験については，**各学科の本科および専攻科学生実験での実施に加え，専攻科の計測制御工学において演習として実施する**ことを予定している．整備する実験として，計測・制御ソフトウェア LabVIEW を用いた計測・制御実験およびオムロン社のベーシックFA学習キットを用いたシーケンス制御実験を実施する．将来的には環境システム工学専攻の学生に対しても実験・演習等を実施可能な実験テーマを構築する予定である。 **3 学科共通利用の実験設備環境**だけでなく，購入ソフトウェアを総合情報処理センターに導入することにより，**学校全体で使用できる環境を構築**する。		

（出典　総務課）

資料９－１－④－７

「平成２３年度 校長裁量経費申請書（抜粋）」

（様式１）

プロジェクト計画経費要求書

学科(教室)等名　：　機械工学科
要 求 者 名　：　亀山　建太郎

プロジェクトの名称	機械工学科・電気電子工学科における 組み込み系技術者育成教育の充実	要求金額	[redacted]千円（消費税込）
プロジェクトの概要	組み込み系技術者の育成は，産業界からの要請の大きい分野であり，その充実は，本校にとって必要不可欠である．そのような目的に対し，機械工学科では，C 言語応用（三前）や知能機械演習（四前）での知能ロボット製作，電気電子工学科では，電子創造工学（三後）において PIC マイコンを用いた実験として実施している．しかし，機器の老朽化等の問題があり，実験内容の見直しが求められている．そこで，本プロジェクトでは，Arduino マイコンを用いたサッカーロボットを教材として開発し，制御プログラミングと回路の設計・製作を融合した，実践的な組み込み系技術者育成のための教育カリキュラムの作成を目指す．カリキュラムは M・E 両科共通のものとして開発し，授業終了時には，その成果を確認するために，学科対抗試合（ロボットサッカー）を行うものとする。		
プロジェクトの実施計画・方法	開発するカリキュラムは，M 科では三年前期の C 言語応用，E 科では三年前期の情報処理 II および後期の電子創造工学で実施する．前期授業（両学科対象）では，Arduino マイコンを用いたデジタル／アナログ入出力や，モーター制御のプログラミングなどについての学習を行う．その目的は，ハードウェアの制御方法について学習することであり，最終的には，サッカーロボットのプログラムを作		

（出典　総務課）

資料９－１－④－８

「平成２２年度 校長裁量経費報告書（抜粋)」

（様式３）

プロジェクト実施報告書

プロジェクトの名称	機械，電気電子，電子情報工学科共通の計測･制御実験基盤の構築	プロジェクト担当代表者所属･職･氏名	電気電子工学科 准教授 米田 知晃
プロジェクトの目的、内容、実施経過等の概要	今回提案するプロジェクトは，機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科の3学科共通の計測･制御実験基盤を構築することである．今回のプロジェクトにて，オムロン社製のシーケンス機材，シーケンス制御ソフトウェア，教育用設計･試作プラットフォーム NI ELVIS，計測制御ソフトウェア LabVIEW，データ集録ボードを購入した． これらの購入物品を用いて，計測･制御実験を行った．オムロン社のベーシック FA 学習キットを用いたシーケンス制御実験については，電気電子工学科，電子情報工学科の本科学生実験および専攻科計測制御工学にて実施した．機械工学科については，オムロン社が開催する制御技術者教育キャンプにインターンシップとして応募している． NI 社の教育用設計･試作プラットフォーム ELVIS および計測制御ソフトウェア LabVIEW を用いた実験を生産システム工学実験 I および専攻科計測制御工学にて実施した．		
得られた成果	シーケンス機材の購入により，シーケンス制御実験に関するハードウェアの充実と共に教材の作成も行われており，教育環境の改善につながっている．本校には計 8 台のシーケンス機材（3 学科分）があり，これらを各学科共通で利用すること		

（出典　総務課）

さらに，技術者英語教育の研究を継続して行っている英語教員の一人は，文献読解能力の養成を中心とした工学系英語教育用のテキストを出版した（資料９－１－④－９)。これは，学生の授業アンケート，卒業生・修了生アンケートの各種結果やアンケートのコメントにおいて，国際的技術者に要求される英語運用能力改善についての意見が多数あり，特に工業英語の教授に対する要望が卒業生を中心に強かったことを受けてのものであり，学生の学力レヴェルや学術的興味を的確に反映した高専学生用自主制作教材の必要性が不可欠と判断されたことによる。

資料９－１－④－９

「工学系英語教育用テキストのはしがき（抜粋)」

はしがき

本書は、自然科学系及び理工学系の話題を取り扱った英文を教材として、読解力を向上させることを主な目的とした英語教科書です。大学１，２年生を対象とした「1 セメスター（＝半年)」の講義での使用を主に想定し、15のユニットからなる教科書としました。

自然科学系、理工学系の英語教科書と聞くと、専門性が高く、一般の読者には難解なものを想像される方がいらっしゃるかもしれません。そのため、本書を編集するに当たっては、一般の読者にも十分に関心を持って読んでいただける英文を選定することに配慮しました。人文社会科学系専攻の学生にも十分学習可能な教材であると、執筆者一同は考えています。

各ユニットは、以下のように構成されています。

1　自然科学、理工学系に関する英文とその内容把握を問う練習問題
2　自然科学、理工学系に関する速読用英文とその内容把握を問う練習問題

１については、19世紀初頭の「電気の歴史」を振り返ることから始まり、「睡眠時間と肥満の相関研究」、福島第一原発事故復旧作業における「幹細胞移植」の可能性、そしてホオジロザメの生態調査から見えてくる「自然保護」のあり方など、学習者が日常生活で耳にすることもあるかもしれない科学技術の話題を取り扱った英文が満載されています。

さらに、「数」の魅力や「プレート理論と地震」といった話題も取り上げ、自然科学分野の基本的事項についても学習できるように留意されています。必要に応じて英和辞典等を使い英文を丁寧に読んでいくという、従来型の基本的な学習方法が最適であると思われます。

２については、１と関連性がある内容で短い英文を選定しました。速読演習として授業中に３～５分程度の時間で解くことで、TOEICなどの検定試験に備えることができるようにしています。課題その他として、上記１の補助教材とすることも可能でしょう。

また、理工学系技術者に要求される「専門英語（工業英語＝テクニカルイングリッシュ)」習得の入門的な教材として、「文部科学省認定工業英語検定試験（工業英検)」の対策演習を念頭に置いたユニット（Unit 15）を設定しました。さらに巻末には付録として、工業英検の過去の問題と工業英語の基本単語集を収録しています。これらを活用することで、国際的に活躍できる技術者に必要な英語能力の育成に少しでもつながることを期待しています。

なお、このユニット（Unit 15）作成に関して、工業英検試験問題等の掲載を快くご許

（出典　『自然科学を読む：工業英検対応』　朝日出版社）

（分析結果とその根拠理由）

創造教育開発センターの活動を主軸に各種の教育改善活動が継続的に実施されている。また，校長裁量経費による教育研究の支援も相乗効果として作用し，学科間連携・協力型の継続的教育改善が見られる。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

研究改善委員会が毎年実施している研究活動評価調査からも分かるように（資料９－１－⑤－１），教員は活発な研究活動を行っている。教員の研究成果の中には教育方法に関するものも多く，『福井高専研究紀要』や国立高等専門学校機構が発行する論文集『高専教育』等に発表されている。例えば，「高専教育」では，電子情報工学科教員と一般科目教室自然科学系教員の教育改善に関する研究論文が発表されており，教育の質の改善を具体的に示している（資料９－１－⑤－２，３）。前者は，本科２学年必修科目解析Ｉの授業内容改善実践につながった。関数グラフ電卓を用いたより効果的な教育プログラムの改善例であり，具体的には微分法への導入部分での授業実践が考察されている。また後者は，電子情報工学科の教員が実践した教育改善である。 PDCAとものづくりに着眼している点から，工学系学生全般に当てはまる教育改善がなされている。

教員の研究活動を通して得られた新しい知見や技術は，学生への教育研究指導や卒業研究・特別研究内容の質の向上等にも反映されており，例えば，平成２３年度は学生による年間４０件の学協会・各種研究会での発表がなされた他，国際会議においても優秀賞等を受賞(資料９―１―⑤―４)するなど，教員の研究活動は学生の工学的問題の解決能力や，プレゼンテーション能力の向上等の教育に還元されている。

資料９－１－⑤－１

「研究活動評価調査結果」

平成 24 年度研究活動評価調査結果について

研究改善委員会

1. 調査期間：平成 24 年 4 月 6 日～4 月 27 日
2. 対象者：全教員
3. 研究活動評価結果

表 1 に平成 24 年度の研究活動評価調査結果を示す。ただし、表中の（ ）内数字は昨年度の結果を表す。今回も、評価期間を 3 年間（平成 21～23 年度）で、評価の上限を 24 点とし、24 点を 4 段階のランク（A,B,C,D）に分類して評価した。24 点は、毎年 1 篇の査読有論文の成果が出ていることに相当する。表 1 より充分な研究活動をしているとみなされるランク A の教員は 57 名で昨年度と比較して 1%増加した。ランク B およびランク C の教員はそれぞれ 8 名となりランク D の教員は 1 名に減少した。この結果は、昨年度のランク D の教員が上位ランクに移動した格好になっている。また、最高評価点は 203 点であった。さらに、平成 24 年度の科学研究費補助金の申請件数は 47 件で、採択件数は 8 件（新規：4 件、継続：4 件）であった。これらの結果より、教員は精力的に研究活動を行っている。しかし、東日本大震災の復興のため運営交付金等の削減が行われるので、研究へのモチベーションを維持し、研究活動を活発に続けるには下記のことが必要である。

・科学研究費補助金等の競争的研究費と共同研究による外部資金の獲得
・研究環境の充実および研究時間の確保
・研究活動業績に応じた研究費等の配分

今後とも研究改善委員会では、各教員が研究成果をあげられるよう研究環境の改善、適正な研究業績の評価および研究の推進に鋭意努力する所存である。

表 1　平成 24 年度研究活動評価調査結果

ランク	人数	割合　%
A：24 点以上	57（58）	77（76）
B：16 点～23 点	8　（6）	11　（8）
C：8 点～15 点	8　（8）	11（11）
D：0 点～7 点	1　（4）	1　（5）

（出典　学校運営会議）

資料９－１－⑤－２

「『高専教育』掲載論文（抜粋）」

ものづくりにおけるPDCAサイクルの意識付けを目指した教育

西　仁司*1，蘆田　昇*1，下條 雅史*1，高久 有一*1，堀井 直宏*2，清水　幹郎*2

Education to Cultivate Awareness of PDCA cycle in Manufacturing

Hitoshi NISHI, Noboru ASHIDA, Masafumi SHIMOJO, Yuichi TAKAKU,
Naohiro HORII and Mikio SHIMIZU

In the progress of system design and its development, three major skills are necessary; proper selection for the system components, understanding of the design method and capability to meet problems that come up when these components are built up to the system. Especially, the third skill is practical knowledge acquired by careful observation of phenomena because, according to the combination of components, various problems take place. Usually, a system is built up gradually with the repeat of modification and improvement based on designer's knowledge. This system improvement method called PDCA cycle is used for not only the system development but also mundane problems. However, beginners for system design do not always recognize the cycle because human usually dose the cycle subconsciously. In this paper, we describe the education to cultivate the awareness of PDCA cycle and its effect. Object student recorded a sequence of own thought between problem understanding to the solving. This method is effectively as introduction of PDCA cycle.

KEYWORDS : PDCA cycle, system improvement, manufacturing, problem solving

１．はじめに

システムとしての「もの」を設計・開発するためには、どのような構成要素がシステムに必要かを判断し、構成要素とそれを設計する手法について理解し、それら構成要素を組み合わせたときに発生する問題に対処できなければならない。特に最後の「問題に対処する」段階では、構成要素の組み合わせ方によって多種多様な問題が発生するため、現象に対する観察と理解が不可欠で、実践的な知識が必要である。そして、その知識を利用して問題の改善、修正を行い、次の設計に生かしよりよいシステムを完成させていくことになる。これら一連のシステム改善は何度も繰り返されることになり、この手法はPDCAサイクルと呼ばれ、ものづくりだけでなく、制度や社会システムの改善などさまざまな分野に利用されている。しかし、人間が日ごろ生活しているうえで無意識のうちに行っていることであるため、その一連の考えを記録したり、論理的な観点で検証することは少ないと考える。同じように、ものづくりの経験が少な

*1 福井工業高等専門学校電子情報工学科
(Dept. of Electronics and Information Engineering, Fukui National College of Technology)
〒916-8507　福井県鯖江市下司町　E-mail: nishi@fukui-nct.ac.jp
*2 福井工業高等専門学校教育研究支援センター(Technical Support Center, Fukui National College of Technology)

（出典　『高専教育』２０１０年）

資料９－１－⑤－３

「『高専教育』掲載論文（抜粋）」

第２学年次における微分法の効果的な導入
－ツールを活用した「関数の増減」の学習法－

柳原祐治*1
（福井工業高等専門学校）

Effective Introduction to Differential Calculus in Second-grade
-A Tool-using Method of Learning 'Increase and Decrease of Function'-

Yuji YANAGIHARA
(Fukui National College of Technology)

Differential and integral calculus is a very important subject, because it shows us how to analyze properties of given functions. And it is also the important basis of technical fields. Therefore, it is necessary for students of college of technology to learn it firmly. However, it is likely that traditional lecture program is suitable for learning calculation, but not for understanding the substantial matter of mathematics. So, we tried to make up a more effective program of learning 'increase and decrease of function' as an introduction to differential calculus, in which we used a tool appropriately, and gave the lecture on it. In this paper, first we present the program using a graphing calculator which immediately draws graphs of given functions on the display. Secondly, we show the score of the test, and estimate the educational effect of the lecture with the score.

KEYWORDS : math education, effective program, differential calculus, graphing calculator, educational effect

１．はじめに

微分積分学および解析学は、関数がもつ様々な性質を調べる技法を与える科目であり、数学そのものの根幹をなす極めて重要な分野であるが、それと同時に、工学の専門分野においても不可欠な基礎となっている。従って、工業高専においても、学生にしっかりと理解させることが求められる。

また、高専では、第２学年次に、微積分法の初歩として微分法を学生に初めて学ばせるが、上述のように、専門科目を学ぶ準備として、理解が不十分にならないようしっかりと学習させなければならない。さらに、学生は、中学校で関数の概念を学習して以来、初めて微積分法に触れることになるので、誤解のないよう慎重に導入することも必要になる。

しかし、実際には、従来の教科書による授業方法では、計算技法の習得は概ね達成できる一方、数学的内容についての本質的な理解が得られていない場合が多い。

そこで本論では、ツールを活用した微分法についての効果的な授業方法を考案し、さらに、実際

＊１一般科目教室（自然系）　y-yanagi@fukui-nct.ac.jp

（出典　『高専教育』２００８年）

資料９―１―⑤―４

「国際会議等での受賞」

（国際会議 ICTP2008 での最高賞受賞，2008.9）

（国際シンポジウム ASET16 での
最優秀賞と優秀賞の受賞，2009.10）

（出典　本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=174 ，
http://www.fukui-nct.ac.jp/info/news/detail.php?id=228）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究活動には，教育方法の研究も多くあり，教育の質の改善が具体的に行われている。

教員の研究活動が，教育課程を通じて具体的に行われ，教育改善に結びついていることが，『高専教育』等の学術雑誌でも評価されている。また，教員の研究活動が国際会議等における学生の受賞にも結びついている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

各教員は授業アンケートに加え，創造教育開発センターが定期的に開催している各種 FD 活動への参加からも多角的な教育改善を図れるようになっている。

FD 活動が教育改善に大きく寄与した例として，専攻科を中心とした英語プレゼンテーション教育の導入が挙げられる。

３年毎に行う卒業生・修了生アンケートにおいては，学生へのプレゼンテーション能力向上が継続して求められているとの分析結果が出された（前出資料９－１－③－３）。この改善を目的として，平成２１年度の FD 活動の一環として，プレゼンテーション教授能力の向上を目的とした講演会が開催され（資料９－２－①－１），プレゼンテーションを用いた教育改善の大きな契機となった。つまり，平成２２年度には専攻科長（専攻科委員会）主導のもとに，英語科目を中心としたプレゼンテーション教育のシラバス策定作業が行われ，平成２３年度から，専攻科第１学年必修科目「現代英語」に，英語プレゼンテーション教育が導入された。さらに，平成２４年度からは，本科５学年必修科目英語特講において長岡技術科学大学との協働事業で実施される英語プレゼンテーション教育を強力に推進することとなった。同授業は公開形式で実施されており，FD 活動の一環としても位置付けられる（資料９－２－①－２）。

さらに，この英語プレゼンテーション教育を受けて，専攻科第２学年に英語関係の新科目（仮称「技術者英語コミュニケーション演習」）を増設すべく，現在各種作業中である。この新カリキュラム増設が文科省より認可されれば，平成２５年度新入学生より，新カリキュラムが適用される予定である。

以上の英語プレゼンテーション教育導入の経緯等は，平成２４年度全国高専教育フォーラムで講演発表予定である（資料９－２－①－３）。

資料９－２－①－１

「プレゼンテーション手法に関する FD 講演会資料」

FukuiCommunications, 2009.12- 福井高専

効果的なプレゼン手法を考える

株式会社ふくいコミュニケーションズ　澤崎敏文

２００９年１２月４日（金）午後４時００分～

Ⅰ　イントロダクション

■プレゼンテーションとは？

単純に人前で話をすることではない。⇒説得・納得させるための技術

Ⅱ　論理的にプレゼンテーションを組み立てる

■プレゼンテーション技法の基礎的なお話

・わかりやすく、簡潔に、印象深く

・インパクトのある出だしで

・姿勢、声、アイコンタクト

・アイコンタクト、姿勢、声

・サインポスト（標識）で聞き手をナビゲーション

・パワーポイント作成時のコツ

■内容についての構成手法 ― 起承転結でプレゼンを組み立てない

・一般的なプレゼン構成手法 ― PREP 法、SDS 法など

・３リーズンメソッド（３点法）のご紹介！

組み立ての一例

導入（Introduction） - つかみ

結論

結論を支える理由（Reasons & Examples）

・理由と具体例１～３

再び、結論の確認（Conclusion）

結び（Big Ending!）

Ⅲ　プレゼンに活かす、MBA流のビジネスアプローチ

経営戦略について（時間があれば情報戦略との関係も）

基本的な経営分析・戦略立案ツール

・ブレインストーミング

・SWOT分析、BSC、CSF（重要成功要因）の抽出

・５つのフォース、４つのP＆３つのC

・プロセスモデル構築

- DMM、DFD、フローチャート
- 特定要因図による分析
- ABC分析（サービスコストの可視化）

様々なツールをどう使う？

プレゼン準備シート

■プレゼンのタイトルは？（必要な場合）

■テーマ（伝えたい内容を具体的に一行で明確に表現）

■導入―聞き手を引きつける工夫

■結論は？

■結論サポートする強力な理由（論拠）

1.

2.

3.

■結び―聞き手を引きつける工夫

プレゼン評価シート

評価項目	評価
■主題が明確であったか	A・B・C
■構成はわかりやすかったか	A・B・C
■出だし、結びは印象的だったか	A・B・C
■その他（　　）	A・B・C
■話し方は？	
声はハッキリしていたか、間の取り方は？	A・B・C
態度は？表情は？	A・B・C
アイコンタクトは？	A・B・C
■プレゼン三原則（わかりやすさ、簡潔、印象深く）は存在した？	A・B・C
■プレゼンに納得？	

（出典　創造教育開発センター）

資料９－２－①－２

「長岡技術科学大学との協働事業の案内」

平成２４年５月８日

教職員　各位

教　務　主　事

長岡技術科学大学と高専の協働事業
「戦略的技術者育成アドバンストコース」協働科目Ⅰ「英語特講」の開講について

標記のことについて、下記のとおり長岡技術科学大学の教員が講義を行いますので、お時間がある方はぜひ聴講していただきたくご案内申し上げます。

記

日　時　　平成２４年４月１８日（水）～平成２４年５月９日（水）　計３回
　　５・６限（１３：２０～１５：０５）
会　場　　e-ラーニング室
対　象　　本校学生（英語特講　１９名）および教職員
講義者　　長岡技術科学大学　南口 誠　先生

＜ 講義予定 ＞
＊良いプレゼンテーションの基礎として重要な
「論理的な思考法」を身に付ける講義と演習を行う＊
・第１回　４月１８日（水）　「ロジカルシンキングの基礎講座」
・第２回　５月　２日（水）　「プレゼンづくりのフローチャート作成」
・第３回　５月　９日（水）　「文章書きの論理」

福井工業高等専門学校　学生課教務係
小野 恵 ono@fukui-nct.ac.jp
〒916-8507　福井県鯖江市下司町
TEL ： 0778-62-1118（内線 3232）
FAX ： 0778-62-2490

（出典　学生課）

資料９－２－①－３

「専攻科英語プレゼンテーション教育導入の経緯（抜粋）」

福井高専専攻科における英語教育システム再構築

福井工業高等専門学校　　○原口治，阿部孝弘

1．序論

本講演は，平成 23 年度より実施している，福井高専専攻科の英語教育システム再構築についての考察をその内容としている．要旨は次の(1)～(6)である．(1)従来の英語教育システムの問題点の分析．(2)TOEIC®IP 受験支援を主軸とした英語教育の再検討．(3)英語プレゼンテーション教育の導入．(4)e ラーニング利用の自主学習システムの導入．(5)学内（専攻科他）の支援体制．(6)新システムの効果と課題．

2．従来の英語教育システムの問題点分析

専攻科での英語科目としては，第 1 学年通年必修科目の「現代英語」が開講されている．専攻科設置当時は半期完結の必修科目であったが，英語科目主任他からの講義時間増の要請を経て，現在の開講形態となっている．

開講当初は担当教員の裁量で，TOEIC®IP 受験対策を始め，音楽(含歌唱)を通したリスニングスキルの教授等の幅広い講義内容が展開されていた．

その後平成 17 年度から，TOEIC®IP における 385 点(400 点相当以上)の修得が専攻科の修了要件として義務付けられ，講義内容も必然的に TOEIC®IP 受験対策中心のものとならざるを得なかった．

TOEIC®IP 受験対策を中心とした講義では，短期間で具体的な学習達成目標設定が可能という大きな利点がある．更に，学生にとり，英語運用能力の有効なエヴィデンスになることは言うまでもない．

しかし，この講義形態で看過出来ない問題も生じてきた．次の(1)から(4)が主要なものである．(1) TOEIC®IP 等の外部試験を修了要件に使用出来ない状況が近年に生じた．(2)TOEIC®IP で 400 点以上を取得すると，英語学習を継続しない学生が出てきた．(3) TOEIC®IP では，工業英語の運用能力が十分に取得出来ない可能性がある．(4) TOEIC®IP で 400 点を取得出来ず，専攻科修了が出来ない学生が出てきた．

平成 22 年度の段階でこれらの問題を解決することが専攻科英語教育において急務とされていた．

3．TOEIC®IP 受験支援中心の英語教育の再検討

筆頭著者は平成 23 年度より専攻科の現代英語科目担当教員となっているが，その前年の平成 22 年度から前述の問題点を改善すべく，新シラバスの策定作業に従事した．その結果，次の(1)から(3)を新シラバスの主軸とした．(1) TOEIC®IP の重要性を踏まえつつも，講義におけるその位置付けを再検討する．(2)国際技術者が有するべき英語コミュニケーション能力育成のため，専門分野に関連のあるテーマに限定した工業英語プレゼンテーション教育を受講生全員に導入する．同プレゼンテーションは，科目単位取得に必須の学習事項とする．(3)工学系専攻の利点を生かし，e ラーニング室や学外インターネット環境の使用による自習システムを新たに設定することで，引き続き TOEIC®IP 受験対策を実施する．以上の 3 点により学生は自らの専門分野との相関性をより意識して英語学習に取り組むことが出来ると仮定した．

4．工業英語プレゼンテーション教育の導入

4．1　シラバス策定

新シラバスは，科目担当教員と専攻科長(専攻科委員会)の協議により完成した．英語教育システムの改善は英語科目担当教員だけでなく，学科横断型の協力体制で行なうものであるとの共通認識があったためである．また，英語科目以外の教員でも担当可能なシラバスの設定が長期的目標としてあったことも協議の主要な理由となった．

シラバス作成途中では，TOEIC®IP 受験対策への懸念や JABEE 等で言われる，国際的技術者養成との整合性等の問題点が専攻科委員会から出された．これに対して，英語教育支援室での定期的協議を経て，次に説明する新シラバスが策定された．

4．2　講義内容

主要テキストは，マクミランの『理工系学生のための英語プレゼンテーション』と朝日出版社の『e ラーニング併用: 新 TOEIC®テスト』の 2 冊とした．

前者では，英語プレゼンテーションのモデルスクリプトの精読を通して，リーディングスキル及び SV 構文の受動態等の基本的なテクニカルライティングスキルの修得を主眼とした．これにより，学生はプレゼンテーションのスクリプト作成を常に意識して講義を受講することとなった．

後者のテキストでは，TOEIC®IP のリスニングとグラマーセクションの受験対策を中心に行なった．

講義(100)分の基本構成は，(1)テクニカルイングリッシュの基本的語彙の音読に 10 分．(2)プレゼンテーション関連に 60 分．(3) TOEIC®IP の受験対策に 30 分．とした．更に，語彙テスト(桐原書店の『データベース 4500』使用．マークシート形式 100 問)を年間 4 回実施し，成績評価の一部(10%)とした．

4．3　英語プレゼンテーション発表会実施

発表会については，学年末に近い 1 月末に計 6 時間分(1 時間は 50 分授業)の発表会を専攻科の特別研究の振替講義の形で実施した．学生の中から世話係(撮影や製本作業他)を 3 名募った．

審査員は外国人講師 2 名を非常勤講師として招聘した．発表会はヴィデオと写真で記録した．講義における発表会までのプロセスは，主に次の(1)-(7)で

【連絡先】〒916-8507　福井県鯖江市下司町　福井工業高等専門学校 一般科目教室人文社会科学系英語科目
原口治　TEL:0778-62-8227　FAX:0778-62-8227　e-mail：osamuh@fukui-nct.ac.jp
【キーワード】専攻科，英語教育，英語プレゼンテーション，TOEIC®IP，e ラーニング

（出典　平成 24 年度全国高専教育フォーラム講演概要集）

さらなる授業改善の例について，電子情報工学科第４学年必修科目の「創造工学演習」の教育改善が挙げられる。

本教育改善では，学生への各種アンケート等の基礎調査を経て，授業の内容を，プログラミングコンテストへの積極的応募を促すものへと大幅に改善したものである（資料９－２－①－４）。その結果，学生の学習意欲が向上し，同コンテストへの応募数も増加したことが成果として挙げられる。

資料９－２－①－４

「『創造工学演習』における教育改善の例」

プログラミング教育におけるコンテスト形式演習の導入

斉藤　徹 *1 西　仁司 *1　前川公男 *1
（福井工業高等専門学校）

Introduction of Contest Style Practice into Programming Education

Tohru SAITOH, Hitoshi NISHI, Kimio MAEGAWA
(Fukui National College of Technology)

We argue that programming contest style practice is effective for an increase of students' interest in programming and the improvement of their programming abilities. In "practical creative engineering" class for the 4^{th} graders at the first semester which started in FY 1991, students are required to create an information system. We are expecting that their application for the "Kosen programming contest" stimulate their active participation in the above class in which students are required to construct an integrated system of software and hardware. In addition "basic information practice" class for the 2^{nd} graders at the second semester started in FY 2006. We are expecting that the above students will apply for the programming section of "Pasocon Koushien".

In this paper, we analyze the results of the questionnaire to evaluate of the contest-style,problem-based learning methods.

KEYWORDS: PBL, programming introduction, programming contest

1. はじめに

最近では，少子化に伴う入試倍率低下に伴う学生の能力格差の拡大やゆとり教育の影響が問題となっている．情報系科目への影響として，従来の教科書の演習問題を中心とした演習では，プログラミングに苦手意識を持つ学生の興味を維持することが難しくなっている．また学生の身の回りには高度な情報機器が溢れ，常に高度なソフトウェアに触れている．このためプログラミングの基礎的演習で，言語の特徴理解を目標とした課題や現実のプログラムの一部の機能を抜粋した単機能のプログラム作成の課題では，演習の目的を理解できなかったり興味の持続が難しい．これらの問題の対策として，演習に取り組む意識を高め積極的な問題解決能力を養う方式として問題解決型授業（PBL）を実施している大学・高専の事例も多い．[1)]

本電子情報工学科でも平成３年度より，本科４年のシステム設計の後期テーマとして学科内プログラミングコンテストを開催し，学生が決めた仕様に基づく簡単なソフトウェア開発にてPBL方式に取り組んでいた．

しかし外部評価の要素がないため，ソフトウェアの完成度が低かったり，プログラミング能力の乏しい学生が演習に消極的になりがちなどの問題があった．

一方，平成17年度より２年進級時に学科選択を行う工学基礎コースの導入で，学科枠を取り払った混合クラスとなったため，１年では基礎的なコンピュータリテラシ中心の内容に変更となり，プログラミング等の専門教育の実施が困難となった．

このため，プログラミング学習において反復学習による経験が求められる２年生とプログラミングの応用力の開花が期待される４年生にコンテスト形式を取り入れ，２年から４年へと継続した参加意欲の高いカリキュラム構築を目標とした．

このため，情報基礎演習（2年後期1単位）を新設し，全国高等学校パソコンコンクール・プログラミ

*1 電子情報工学科 t-saitoh@ei.fukui-nct.ac.jp

（出典　『高専教育』2007 年）

また，平成２２年度の FD 講演会では，「アンケートから見る福井高専の学生の特徴」と題した講演会を開催した。内容は，平成２２年度に実施したアンケートを用いて福井県の学生と本校の学生の特徴を比較し論じたもので，活発な意見交換があった。平成２３年度の FD 講演会では，本校教職員のなかで校長表彰を受けた３名の教員から，表彰対象となった教授方法，地域との連携及びクラブ活動指導への工夫等の紹介がなされた。さらに，最近実施された FD 講演会（資料９－２－①－５）では，他高専での教育経験者が講演者となり，前任校と本校との教育内容・方法及び特徴等の差異が分かりやすく示され，各教員の授業改善に資する内容であった。

資料９－２－①－５

「ＦＤ講演会開催案内」

Subject: [allusers-ml:6540] 平成24年度FD講演会の開催について
From: terakawa@fukui-nct.ac.jp (学生課@福井高専)
Date: 2012/05/15 17:32
To: allusers-ml@fukui-nct.ac.jp (全職員)

事　務　連　絡
平成24年5月15日

教職員　各位

創造教育開発センター長

平成２４年度ＦＤ講演会の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

目　的　本校教職員の中で、普段の業務（教育・研究、課外活動、その他学校業務）において、
・顕著な活動が認められ、校長表彰や外部表彰（高専機構など）を受けられた教職員
・業務が本校の教職員の模範・参考になると考えられる活動をしている教職員
以上の教職員から、評価された活動や参考となる活動の基礎となっている工夫や努力を、ＦＤ活動等の促進を通して他の教員等にも広めることで、教職員一人ひとりの今後の業務の励みとすることを目的とする

日　時　平成２４年６月７日（木）１３：３０～１５：００

場　所　本校一般教育棟大講義室（１Ｆ）

発表者　江本　晃美　助教（環境都市工学科）
『Ｆレックス関連のFDチームの取り組み』
村田　知也　助教（電子情報工学科）
『平成23年度校長表彰』
加藤　清考　准教授（一般科目教室（工学基礎物理））
『高松高専と福井高専』

対象者　教職員

（出典　学内メール）

（分析結果とその根拠理由）

FDが適切な方法で，毎年継続的に実施されており，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると判断できる。

また，学内FD研修会の内容は多岐にわたっており，幅広い見地から教育の質の向上に寄与している。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，新任の教育支援者等を含めた新任教職員オリエンテーションを開催して（資料９－２－②－１），本校の目的を詳細に説明し，その目的達成に向けた資質の向上を求めている。

創造教育開発センター主催で実施される各種FD研修会は，全教職員を対象にした取組みであり，技術職員や学生課の事務職員などの教育支援者も参加している。

また，本校では教育研究支援センターの設置により，学生への教育，研究環境の整備を図っている。技術職員は全員が同センターに所属し，一般科目や専門学科で行っている実験・実習などの科目において教育支援を行っている。技術職員に対しては，資質の向上のために関係機関等への出張・研修（資料９－２－②－２），学協会等での発表・特許取得（資料９－２－②－３）のみならず，業務に関係する資格取得を奨励している。また，教育研究支援センターでは毎年発表会（資料９－２－②－４）を開催しており，これらのことに積極的に取組むことを通して，本校での研究と教育の改善向上を図っている。

また，事務職員に対してもその資質の向上を図るために，各機関等で行われる研修に参加させている（資料９－２－②－５）。

資料９－２－②－１

「新任教職員オリエンテーション開催案内」

Subject:【再送及び対象者追加】新任教職員オリエンテーションの開催について
From: kamee_t@fukui-nct.ac.jp (福井高専人事労務係)
Date: 2012/03/30 17:50
To: uejima@fukui-nct.ac.jp (上島　晃智), fujita@fukui-nct.ac.jp (藤田　克志), tubokawa@fukui-nct.ac.jp (坪川　武弘), katanaka@fukui-nct.ac.jp (田中　嘉津彦), abe@fukui-nct.ac.jp (阿部　孝弘), kaji@fukui-nct.ac.jp (鍛治　肇), kitta@fukui-nct.ac.jp (橘田　良一)

教務主事　　殿
学生主事　　殿
寮務主事　　殿
企画室長　　殿
専攻科長　　殿
総務課長　　殿
学生課長　　殿

人事労務係です。お世話になります。

表題の件について，対象者に総務課長及び学生課長を追加し，実施することとなりました。急な変更で申し訳ありませんが，よろしくお願いいたします。

【新任教職員オリエンテーション】

１．日　　時　　平成２４年４月２日（月）１３：３０から１６：３０
２．場　　所　　小会議室１
３．対 象 者　　教員４名，事務４名，技術１名　計９名
４．説明者及び内容等
校　　長　　１３：３０～１３：５０
総務課補佐（総務課の所掌事務について）１３：５０～１４：１０
学生課補佐（学生課の所掌事務について）１４：１０～１４：３０
（　　休　　憩　　１４：３０～１４：４０）
教務主事（教務に係る事項について）　１４：４０～１５：００
学生主事（学生に係る事項について）　１５：００～１５：２０
寮務主事（寮務に係る事項について）　１５：２０～１５：４０
（　　休　　憩　　１５：４０～１５：５０）
企画室長（企画に係る事項について）　１５：５０～１６：１０
専攻科長（専攻科に係る事項について）１６：１０～１６：３０

（出典　総務課）

資料９－２－②－２

「平成２３年度技術職員の研修・出張一覧」

平成23年度 研修参加実績一覧

氏　名	用　務	用務先	分野等	日　程
内藤 岳史 藤田 祐介	東海・北陸地区国立高専 技術職員研修	(於)石川高専	共通テーマ	8月 1日～8月 3日
片岡 裕一	独立行政法人高等専門学校 機構東日本地域高等専門 学校技術職員特別研修	(於)長岡技大 (担当校石川)	物質系	8月29日～9月1日
片岡 裕一	東海・北陸地区国立学校等 技術職員合同研修	(於)自然科学研究機構 核融合科学研究所	複合領域コース	11月9日～11月 11日

平成23年度　出張実績一覧

氏　名	用　務	用務先	費　用	日　程
内藤 岳史	国立高専機構 情報関連説明会	国立オリンピック記念 青少年総合センター	旅費(中央経費)	6月6日～6月7日
堀井 直宏	応用物理学会結晶工学 分科会第17回結晶工学 スクール	大阪大学中ノ島センター	旅費(中央経費)	8月1日～8月3日
内藤 岳史	国立高等専門学校機構 IT担当研修会	αラーニングセンター水道橋	旅費(中央経費)	8月18日～19日
齋藤 弘一	東海・北陸地区国立高専 技術職員技術長連絡会議	豊田高専	旅費(中央経費)	8月25日～26日
清水 幹郎	歯みがきロボットコンテスト 運営支援	越前大仏	旅費(中央経費)	9月24日～25日
藤沢 秀雄 北川 浩和	高専ロボコン東海・北陸地区 大会技術支援	岐阜アリーナ	旅費(中央経費)	10月29日～30日
内藤 岳史	クラウドサービスのための SINET及び学認説明会	金沢大学	旅費(中央経費)	11月15日
片岡 裕一	第29回大学等環境安全 協議会総会・研修会	岡山大学 創立五十周年記念館	旅費(中央経費)	12月8日～9日
内藤 岳史	国立高等専門学校機構 ネットワーク管理者研修会	国立オリンピック記念 青少年総合センター	旅費(中央経費)	12月26日～27日
片岡 裕一	酸素欠乏危険作業特別教育 インストラクターコース受講	東京安全衛生教育センター	旅費(中央経費)	3月20日～23日
堀井 直宏	日本セラミックス協会 2012年会出席	京都大学	旅費(支援センター分)	3月19日～3月21日

（出典　平成２３年度教育研究支援センター年次報告）

資料９－２－②－３

「平成２３年度技術職員の外部発表等一覧」

論文・発表等

番号	論文・口頭発表 等
1	山田幹雄、佐野博昭、坪川茂：材料学会論文集 Vol.61,No.1,pp.25～30 Jan.2012
2	岡田将人，細川晃，藤田祐介，浅川直紀"MQL を用いたコーテッド超硬工具による難削材のエンドミル加工"2011 年度精密工学会秋季大会講演論文集，311-312（2011.9）
3	堀井直宏，木村駿，葛生伸，前川公男，井上昭浩 第 58 回応用物理学関係連合講演会 予稿集 「シリカガラスの失透と結晶相変化の関連性」, 25p-BJ-13, (2011).
4	堀井直宏，片岡翔一，木村駿，葛生伸，前川公男，井上昭浩 日本セラミックス協会 2012 年 年会講演予稿集「シリカガラスの失透抑制と結晶相変化の関連性」,1P058, (2012).
5	西 仁司，蘆田 昇，下條 雅史，高久 有一，堀井 直宏，清水 幹郎 "ものづくりにおける PDCA サイクルの意識付けを目指した教育" 高専教育，Vol.34，pp. 149-154(2011.3)

取得特許

特許番号	名称	発明者	登録日
第 4929457 号	シリカガラス材料	堀井直宏	平成 24 年 2 月 24 日

（出典　平成２３年度教育研究支援センター年次報告）

資料９－２－②－４

「教育研究支援センター発表会案内」

教育研究支援センター発表会

日時：　平成 24 年 3 月 9 日（金）　１３：３０～１５：１５
場所：　専攻科棟　講義室２
発表時間：　15 分以内（質疑応答を含む）
　　第 1 鈴 10 分　第 2 鈴 15 分

プログラム
１３：３０～　開会の挨拶　校長　池田大祐

発表番号１　子供に夢を与えるアイデアロボットの開発
　　レスキュー四駆八駆　藤沢秀雄

平成 23 年度公開講座　（親子理科教室：作ってみょう！やってみょう！）を実施して
発表番号２　親子で作ろうポンポン蒸気船　公開講座報告
　　藤田祐介　吉田敏實

発表番号３　親子で作ろうアニメーション　公開講座報
　　清水幹郎　内藤岳史

発表番号４　親子でエコ体験　発泡スチロールスタンプ作り　公開講座報告
　　片岡裕一　堀井直宏

発表番号５　公開講座アンケート結果とＰＤＣＡサイクル化に向けて
　　堀井直宏　片岡裕一

１５：００～　閉会の挨拶　教育研究支援センター長　前川公男

（出典　教育研究支援センター）

資料９－２－②－５

「事務系職員研修等一覧（抜粋)」

職種	(研修)名称	(研修)開始年月日	(研修)終了年月日
専門職員	独立行政法人国立高等専門学校主催　平成21年度新任課長補佐･係長研修会修了	平成21年10月19日	平成21年10月21日
専門職員	独立行政法人国立高等専門学校機構主催　平成21年度学務関係職員研修会	平成21年12月10日	平成21年12月11日
職制係長	平成22年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会修了	平成22年9月8日	平成22年9月10日
主任	金沢大学主催　平成20年度東海･北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修修了	平成20年9月8日	平成20年9月10日
主任	平成22年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会修了	平成22年9月8日	平成22年9月10日
主任	独立行政法人日本学生支援機構主催　平成22年度留学生担当職員研修会修了	平成22年10月27日	平成22年10月29日
職制係長	平成20年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会修了	平成20年8月27日	平成20年8月29日
職制係長	平成20年度北陸地区国立大学法人等新任係長･専門職員研修修了	平成20年10月15日	平成20年10月16日
職制係長	独立行政法人国立高等専門学校機構主催　平成20年度新任課長補佐･係長研修会修了	平成20年11月5日	平成20年11月7日
課長補佐	独立行政法人国立高等専門学校主催　平成21年度新任課長補佐･係長研修会修了	平成21年10月19日	平成21年10月21日
課長補佐	金沢大学主催　平成21年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修修了	平成21年12月7日	平成21年12月8日
職制係長	平成20年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会修了	平成20年8月27日	平成20年8月29日
職制係長	平成20年度北陸地区国立大学法人等新任係長･専門職員研修修了	平成20年10月15日	平成20年10月16日
職制係長	平成21年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会修了	平成21年9月9日	平成21年9月11日
職制係長	独立行政法人国立高等専門学校主催　平成21年度新任課長補佐･係長研修会修了	平成21年10月19日	平成21年10月21日
職制係長	人事院中部事務局主催　第3回中部地区メンター養成研修修了	平成22年1月26日	平成22年1月26日

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

学内ＦＤ活動に加えて，教育研究支援センター発表会の開催等の機会を利用して，教育支援者は積極的に教育改善活動に参加している。すなわち，教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断できる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学内及び学外の意見聴取を基に，いわゆるPDCAサイクルが機能して各種の教育改善に結びついている。また，教育改善と研究活動の促進が両立できるように各種の支援体制が組織的に整備されている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準９の自己評価の概要

授業の実施内容を示すシラバスは学生に冊子体で配布されるとともに，ホームページにも掲載して周知されている。授業の実施記録も紙媒体で保管されている。また，成績評価資料と評価結果も電子媒体により管理されている。従って，教育活動の全般的な状況に関する自己点検・評価はいつでも実施できる体制が整備されている。

本校では，PDCAサイクルに基づいた教育改善システムを設定し，各種の自己点検・評価を定期的に実施している。

教員からの意見聴取の手段として，毎年度実施される校長面接や年度末に作成される教育達成度等に関する報告書が挙げられる。この報告書は，学生による授業アンケートを教員自身が分析し，次年度への授業内容改善を明記するため，教員の自己点検手段ともなっている。これらのFD活動は創造教育開発センター主導で実施されている

教育改善システムについては，平成２３年度にシステムの改善案が策定され，平成２４年度より，新システムによる，教育改善の一層の促進を試みている。新しい「福井高専教育改善システム」における改善の大きなポイントは，迅速かつ適切な教育改善が行えるように教育システム推進委員会を新設し，同委員会を中心とした PDCA サイクルを再構築したことにある。この結果，外部有識者会議等の外部評価による意見や提言を，より迅速に教育改善に取込むことが可能になった。従前の外部有識者会議での提言が既存の教育改善システムによって機能した例として，“国際化の育成”があった。

また，基礎学力不足の指摘に対して，英語や数学の教育改善について，カリキュラム再考等を含めて，継続した教育改善が計画されている。

創造教育開発センターによる各種FD活動を中心とした教育改善に加えて，校長裁量経費制度による，資金面でのバックアップも教育研究改善活動に大きな効果を発揮している。この制度では，学科間の協力体制による教育改善が実現したこと等がその成果として挙げられる。

個々の教員の活発な研究活動の中には，教育改善に関するものも多数あり，「福井高専研究紀要」や国立高等専門学校機構が発行する論文集「高専教育」等に多数発表されている。例えば，近年の「高専教育」では，電子情報工学科教員と一般科目教室自然科学系教員等の論文が発表されており，教育の質の改善結果を具体的に示している

FD活動は，創造教育開発センターの主催により全教職員対象に実施されているが，それに加えて教育研究支援センターの設置により，学生への教育支援，研究環境の一層の整備を図っている。

実験・実習などの科目において教育支援を行う技術職員は，全員が教育研究支援センターの所属であり，資質向上のために同センターが主催する発表会，校外での技術研修や学協会での発表に積極的に参加している。また，技術職員と同様に事務職員も校外での研修等に積極的に参加し，教育支援者としての資質向上を図っている。

基準１０　財務

（１）観点ごとの自己評価

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校の資産は，平成16年度の法人化に伴い，国から土地及び建物・立木竹，工作物の資産を継承し，教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するため高等専門学校設置基準に基づいた必要な資産を有している。平成２４年３月末現在におけるその資産現在額は，（資料１０－１－①－１）のとおりである。

資料１０－１－①－１

「資産現在額一覧表」

平成 24 年 3 月末現在　　（単位：百万円）

区　　分		数　　量	単位	金　　額	備　考
不動産	土地	101,565	㎡	2,245	
	建物	32,307	㎡	1,978	
	構築物	1	式	70	
	小　　計			4,293	
動産	車両運搬具	1	式	1	
	工具器具備品	1	式	220	
	小　　計			221	
建設仮勘定		1	式	1	
無形固定資産		1	式	1	
合　　計				4,516	

（出典　総務課）

また，債務については，資料１０－１－①－２が示すように，高専機構本部からの運営費交付金等の範囲内で健全に運営しており，実質的に未払いとなっている債務もなく，健全な運営を行っている。

資料１０－１－①－２

「貸借対照表」（抜粋）

事業年度：　23年度
支部：　19_福井工業高等専門学
会計区分：　国立高専機構
部　　署：　総括
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ：　総括
ｾｸﾞﾒﾝﾄ：　総括

貸借対照表

平成23年 4月 1日　～　平成24年 3月31日

（単位：円）

［資産の部］		
流動資産		
現金及び預金		
現金	0	
当座預金	0	
普通預金	1,585,143	
定期預金	0	
その他預金	0	1,585,143
有価証券		
有価証券	0	0
受取手形		
受取手形	0	0
未収学生納付金収入		
未収学生納付金収入（授業料）	0	
未収学生納付金収入（入学金）	676,800	676,800

（出典　財務会計システム）

（分析結果とその根拠理由）

資産現在額一覧表に示すように，教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有している。また，貸借対照表が示すように，高専機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており，実質的に未払いとなっている債務もなく，健全な運営を行っている。

以上のことから，本校の目的に沿った教育活動等を，将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有するとともに，債務においても適正である。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

経常的収入源である運営費交付金は，効率化係数対前年度１％減ではあるが，今後も継続的に交付されるため，安定的に確保されている。また，その他の経常的収入源として授業料・入学料及び検定料の他，その他の自己収入として財産貸付料等が継続的に確保されている。

さらに，これらに加え産学連携等研究収入（共同研究・受託研究），寄付金収入，科学研究費等補助金などの外部資金獲得に向け積極的に取り組み，経常的収入として継続的に確保されている。（資料１０－１－②－１）

資料１０－１－②－１

「収入の確保等の状況」

収入状況一覧　（単位：円）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
運営費交付金	1,124,500,319	1,174,745,254	1,305,922,502	1,102,621,532	101,788,749
施設整備費補助金	78,539,480	458,959,120	530,862,499	0	0
授業料	232,967,350	231,116,100	230,875,500	241,249,700	238,963,500
入学料及び検定料	26,700,900	25,595,400	26,049,000	26,148,000	24,758,400
その他自己収入	8,105,055	8,279,166	6,949,656	7,734,737	7,646,273
産学連携等研究収入	23,556,631	16,837,884	11,288,060	12,398,802	5,739,850
寄附金収入	13,331,284	10,276,500	9,500,000	7,238,815	9,463,208
科学研究費等補助金	22,720,000	25,298,000	18,980,792	13,635,000	10,569,000
その他補助金	11,669,000	18,915,430	79,836,735	16,597,878	3,213,914
収　入　計	1,542,090,019	1,970,022,854	2,220,264,744	1,427,624,464	402,142,894

（※　平成２３年度から運営費交付金に人件費相当分は含まなくなった。）

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

本校の主な経常的収入源である運営費交付金等については高専機構から継続的に交付されており，安定的に確保されている。さらに，文部科学省，高専機構等が公募する各種競争的資金及び寄付金等の外部資金獲得にも積極的に取り組み，安定した教育研究活動等が展開できるような体制を整備している。

以上のことから，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

本校における外部の財務資源は，平成22年度に大きなプロジェクトが終了したため，外部資金受入一覧（資料１０－１－③－１）を見る限り，平成23年度の獲得額は少なくなって見えるが，本校では戦略的経費として校長裁量経費を留保し，教員等からプロジェクト計画経費等の申請を受け，支援経費として配分している。また，外部資金獲得のための申請意欲向上のため，外部講師による講習会の開催（資料１０－１－③－２），外部資金の公募情報一覧（資料１０－１－③－３）をグループウェアラクーダＳＴに掲載している。

その他，企業からの受託研究，共同研究，寄附金等の受け入れにも努力しており，平成２３年度から福井高専地域連携アカデミアが技術マッチングコーディネータとして委嘱した福井県発明協会の知財専門家を活用し，会員企業と本校との技術マッチングを推進している。同知財専門家を技術マッチングコーディネータとして委嘱したことは，全ての教員に周知されている。（資料１０－１－③－４）

資料１０－１－③－１

「外部資金の確保等の状況１」

外　部　資　金　受　入　一　覧

【単位：件，千円】

区　分	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
科学研究費補助金	17	22,720	15	25,298	15	18,981	13	13,635	10	10,569
その他の補助金	2	11,669	4	18,915	5	79,837	4	16,598	3	3,214
共同研究	17	8,635	15	6,813	12	4,170	18	5,270	17	3,334
受託研究	5	4,873	5	7,602	4	4,725	3	1,900	1	1,700
受託試験	153	750	144	706	144	706	144	706	144	706
受託事業	1	9,298	1	1,717	1	1,687	1	4,524	0	0
寄附金	38	13,331	31	10,277	26	9,500	27	7,239	27	9,463
計	233	71,276	215	71,328	207	119,606	210	49,872	202	28,986

※　共同研究には準共同研究（研究費が0円であるため共同研究とはみなさないが共同研究に準じて契約を取り交わしたもの）の件数を含む

（出典　総務課）

資料１０－１－③－２

「外部資金の確保等の状況２」

（別紙１）

科学研究費補助金制度に関する講演会の実施要領

概　　要：　研究改善委員会及び企画室の主催により、本校教職員を対象とする科学研究費補助金申請件数の拡大及び採択率の向上を目指した講演会を実施する。

日　　時：　平成２３年９月１日（木）　１４：００～１６：００

場　　所：　大講義室

対　　象：　本校教職員

講　　師：　国立大学法人豊橋技術科学大学
科研費統括アドバイザー
機械工学系
教授　　梅　本　　実　氏

プログラム：14:00 ～ 14:05 本講演会の主旨説明（大久保委員長）
あいさつ及び講師紹介（校長）
14:05 ～ 15:30 科研費制度に関する講演会

講演内容
科学研究費補助金の概要（制度、審査、評価等）
及び申請書の記入ポイント等

15:30 ～ 16:00 質疑応答

（出典　総務課）

資料１０－１－③－３

「外部資金の確保等の状況３」

外部資金公募情報一覧

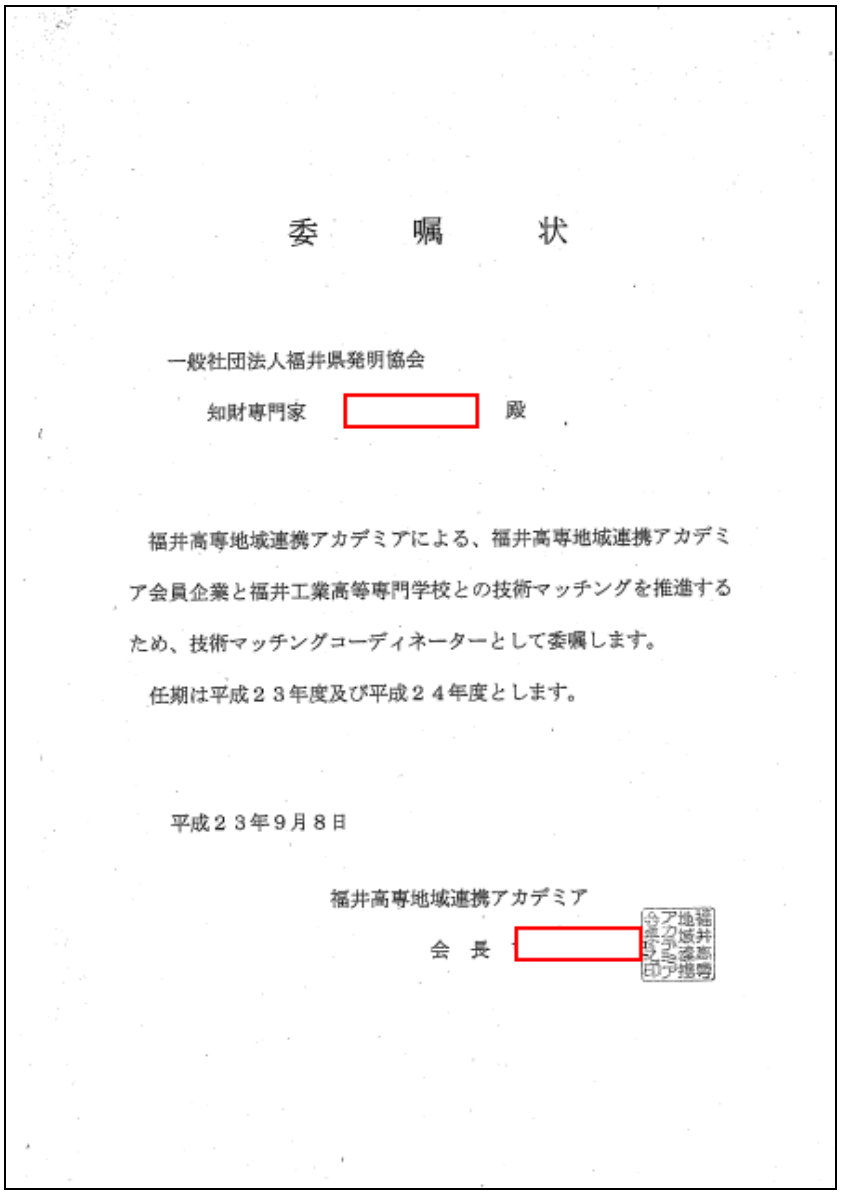
平成24年6月1日現在

応募期限	制度・事業名	応募機関名	公募要領URL	受付開始	受付終了
【NEW】 平成24年6月29日（金）	平成24年度共同利用研究（後期）の公募について	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構分子科学研究所	http://www.ims.ac.jp/use/24koki/index.html		平成24年6月29日（金）
平成24年6月30日（土）	平成24年度　研究助成公募	一般財団法人 日本建設情報総合センター	http://www.jacic.or.jp/josei/h24/index.html		平成24年6月30日（土）
平成24年7月20日（金）	平成24年度研究助成テーマ募集	公益財団法人　天田財団	http://www.amada-f.or.jp/topic/webdir/4.html	平成24年5月1日（火）	平成24年7月20日（金）
【NEW】 平成24年7月27日（金）	平成24年度研究助成の募集	公益財団法人　長岡技術科学大学 技術開発教育研究振興会	http://ntic.nagaokaut.ac.jp/fartun/information.html		平成24年7月27日（金）
平成24年7月31日（火）	平成24年度国際交流活動助成 （海外渡航）（招請） ・エネルギーリサイクル分野 ・総合防災科学分野	公益財団法人 関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	¥¥acooda.jm.fukui-nct.ac.jp¥電子書庫¥総務課¥評価・地域連携係¥資料集：評価・地域連携係¥公募関係¥【関西エネルギーリサイクル財団】H24助成事業.pdf		平成24年7月31日（火）
平成24年7月31日（火）	平成24年度研究成果の出版助成 ・エネルギーリサイクル分野 ・総合防災科学分野	公益財団法人 関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	¥¥acooda.jm.fukui-nct.ac.jp¥電子書庫¥総務課¥評価・地域連携係¥資料集：評価・地域連携係¥公募関係¥【関西エネルギーリサイクル財団】H24助成事業.pdf		平成24年7月31日（火）
平成24年7月31日（火）	平成24年度研究発表会等の開催助成 ・エネルギーリサイクル分野 ・総合防災科学分野	公益財団法人 関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	¥¥acooda.jm.fukui-nct.ac.jp¥電子書庫¥総務課¥評価・地域連携係¥資料集：評価・地域連携係¥公募関係¥【関西エネルギーリサイクル財団】H24助成事業.pdf		平成24年7月31日（火）
平成24年8月20日（月）	2012年度研究援助のご案内 【国際交流援助】援助期間11月～2月	公益財団法人 矢崎科学技術振興記念財団	http://www.yazaki-found.jp/applications/international_aid.html		平成24年8月20日（月）
平成24年8月27日（月）	平成24年度研究助成事業	公益財団法人中部電気利用基礎研究振興財団	http://www006.upp.so-net.ne.jp/refec/youryou24.pdf	平成24年4月1日（日）	平成24年5月31日（木）
平成24年8月31日（金）	平成25年度研究助成 （若手奨励）（一般） ・エネルギーリサイクル分野 ・総合防災科学分野	公益財団法人 関西エネルギーリサイクル科学研究振興財団	¥¥acooda.jm.fukui-nct.ac.jp¥電子書庫¥総務課¥評価・地域連携係¥資料集：評価・地域連携係¥公募関係¥【関西エネルギーリサイクル財団】H24助成事業.pdf		平成24年8月31日（金）
平成24年8月31日（金）	2012年度研究助成のご案内 【一般研究助成】【奨励研究助成】	公益財団法人 矢崎科学技術振興記念財団	http://www.yazaki-found.jp/applications/research_grants.html	平成24年6月1日（金）	平成24年8月31日（金）
平成24年11月5日（月）	メカトロニクス技術高度化「研究助成」 （2012年度事業分）	公益財団法人 NSKメカトロニクス技術高度化財団	http://www.nskfam.or.jp/application/develop.html		平成24年11月5日（月）
平成24年8月31日（金）	2012年度研究助成のご案内 【一般研究助成】【奨励研究助成】	公益財団法人 矢崎科学技術振興記念財団	http://www.yazaki-found.jp/applications/research_grants.html	平成24年6月1日（金）	平成24年8月31日（金）
平成24年11月5日（月）	メカトロニクス技術高度化「研究助成」 （2012年度事業分）	公益財団法人 NSKメカトロニクス技術高度化財団	http://www.nskfam.or.jp/application/develop.html		平成24年11月5日（月）

（出典　総務課）

資料１０－１－③－４

「外部資金の確保等の状況４」



委　　嘱　　状

一般社団法人福井県発明協会

知財専門家　　殿

福井高専地域連携アカデミアによる、福井高専地域連携アカデミア会員企業と福井工業高等専門学校との技術マッチングを推進するため、技術マッチングコーディネーターとして委嘱します。

任期は平成２３年度及び平成２４年度とします。

平成２３年９月８日

福井高専地域連携アカデミア

会　長

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

科学研究費補助金について，申請件数の拡大及び採択率の向上を目指した講演会の開催，校長裁量経費の留保，外部資金公募情報の提供を行い，申請意欲の向上を図っている。また，福井高専地域連携アカデミアが委嘱している技術マッチングコーディネータを活用することで，共同研究，受託研究の新規開拓について学校全体で推進している。

以上のことから，学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として予算配分計画を策定し，学校運営会議において審議を行い，予算配分方針に基づき教育研究及び管理運営に必要な経費を配分している。その審議内容，決定事項については，教員会議，事務連絡会議を通じ，教職員に明示され周知するとととともに，財務に関しては，収支予算決算額を学校要覧に掲載している。（資料１０－２－①－１～２）

資料１０－２－①－１

「平成２４年度予算配分方針（抜粋）」

1．平成24年度　予算配分方針

本校の予算は，自己収入金（授業料収入等）及び機構本部からの運営費交付金とで賄うことになっており，運営費交付金の配分額については，毎年１％（効率化係数）削減され，今年度は震災復興財源に充当予定のため減額が想定されている。

また、本校では環境都市工学科の改修工事及び学寮居室のエアコン整備を予定していることからひっ迫した予算となっている。

各学科等は，執行に当たり説明責任の観点から旅費・物件費等のバランスがとれた適正な執行となるよう留意する必要がある。

1．学科及び教室への予算配分は，平成２４年５月１日現在の教員現員及び担当授業時間数（単位数）を基準とする。なお、中途採用教員の場合は月割りとする。

2．学科及び教室への配分は物件費及び旅費相当額を含めて配分する。

3．旅費相当額は各学科（教室）等の現員に定額（[redacted]円　[redacted]円の３０％削減）を乗じて配分する。（校長除く）

4．研究経費（教員数積算分）は，教員一人当りの積算単価（[redacted]円　[redacted]円の３０％削減）に次の指数を乗じた額を，教員現員数に応じ各学科（教室）等に配分する。また，地理・芸術（音楽・美術）・中国語を担当する非常勤講師の分として，定額（[redacted]円）を一般科目に配分する。（中途採用教員の場合は月割りとする。）

【指　数】

科目等 ＼ 教員区分	専門科目	一般科目			備　考
		物理・化学・応物	数学・保体・応数	国語・倫社・歴史・英語・法政	
※教　授 准教授 講　師	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	※校長は専門科目の教授に含む
助教・助手	3.40	―――	―――	―――	

（略）

（出典　平成２４年度学校運営会議）

資料１０－２－①－２

「平成２４年度学科（教室）等配分額表」

3. 平成24年度 学科(教室)等配分額表

(単位:円)

	学科・教科等名	対象科目	24年度 当初予算	23年度 当初予算	差額(24-23) (当初予算)	23年度 決　算	備　考
一般科目	数学	実施経費(数学)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	物理	実施経費(物理)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	化学	実施経費(化学)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	保健体育	実施経費(保健体育)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	応用数学	実施経費(応用数学)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	応用物理	実施経費(応用物理)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	国語	実施経費(国語)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	倫理社会	実施経費(倫理社会)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	歴史	実施経費(歴史)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	英語	実施経費(英語)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	独語	実施経費(独語)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	法学・政治経済	実施経費(法学・政治経済)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
	地理	実施経費(地理)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	芸術	実施経費(芸術)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	中国語	実施経費(中国語)	[redacted]	[redacted]0	0	[redacted]	
専門科目	機械工学科	実施経費(機械工学科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
		附属施設経費(実習工場経費)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
		特殊装置維持費(機械工学科)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	電気電子工学科	実施経費(電気電子工学科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]7	
		特殊装置維持費(電気電子工学科)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	電子情報工学科	実施経費(電子情報工学科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]9	
		特殊装置維持費(電子情報工学科)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
	物質工学科	実施経費(物質工学科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]8	
		特殊装置維持費(物質工学科)	[redacted]	[redacted]		[redacted]	
	環境都市工学科	実施経費(環境都市工学科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]8	
		特殊装置維持費(環境都市工学科)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
専攻科		実施経費(専攻科)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
創造教育開発センター		附属施設経費(創造教育開発センター)	[redacted]	[redacted]00	0	[redacted]	
総合情報処理センター		附属施設経費(総合情報処理センター)	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
地域連携テクノセンター		附属施設経費(地域連携テクノセンター)	[redacted]	[redacted]	0	2[redacted]	
教育研究支援センター		附属施設経費(教育研究支援センター)	[redacted]	[redacted]	0	[redacted]	
計			[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	
4 共通経費配分額表の計(次頁)より			[redacted]	[redacted]5	－	3[redacted]	
合　計			[redacted]	[redacted]	－	[redacted]7	

（出典　平成２４年度学校運営会議）

（分析結果とその根拠理由）

財務に係る計画等については，本校の目的を達成するため，独立行政法人国立高等専門学校機構が掲げている中期目標，中期計画及び本校の予算配分方針（資料１０－２－①－１）に基づき，教育研究及び管理運営に必要な経費を学校運営会議において審議し策定している。

また，学科（教室）等配分額表（資料１０－２－①－２）においても学校運営会議で審議されたものを教員会議において教職員に明示し周知されるとともに，その具体的施策についても学校運営会議及び教員会議で周知を図り実施されている。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

支出については，財務会計システムで一元管理しており，損益計算書（資料１０－２－②－１）で示すように過大な支出超過はない。

資料１０－２－②－１

「福井高専損益計算書（抜粋）」

損　益　計　算　書

（平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	246,462,951		
教育研究支援経費	23,973,609		
受託研究費	1,307,69		
共同研究費	3,097,500		
受託事業費	705,600		
教員人件費	27,798,200		
職員人件費	18,735,328		
一般管理費	73,987,276		
財務費用	583,146		
経常費用合計			396,651,303
経常収益			
運営費交付金収益		48,143,414	
授業料収益		241,161,032	
入学金収益		19,458,000	
検定料収益		5,808,000	
受託研究等収益		5,034,250	
受託事業等収益		705,600	
補助金等収益		3,213,914	
寄附金収益		8,331,388	
資産見返負債戻入		54,099,256	
雑益		10,059,673	
経常収益合計			396,014,527
経常利益			-636,776
臨時損失			2,045,401
臨時利益			1
当期純利益（純損失）			-2,682,176
当期総利益（総損失）			-2,682,176

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

（資料１０－２－②－１）で示すように収支決算については，財務会計システムで一元管理されており毎月締め作業を行い確認しているため過大な支出超過になっていない。

以上のことから，収支は適正に管理されており，過大な支出超過はない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

教育研究活動に必要な予算については，予算配分方針（資料１０－２－①－１）に基づき，予算配分案を策定し，学校運営会議で審議の上，決定している。

また，校長のリーダーシップの下，教育研究活動の活性化を図るため，校長裁量経費として留保し，プロジェクト等の募集（資料１０－２－③－１）を行い，申請されたすべての事業について校長ヒアリングを実施し，必要性，有効性，継続性を審査し採否を決定し重点配分を行っている。（資料１０－２－③－２）

さらに，施設・設備については，長期的視野に立った計画的な予算配分を行うため，設備整備マスタープランを更新するための希望調査（資料１０－２－③－３）を校内で行うとともに，大型の施設・整備については，高専機構本部にマスタープランで予算要求を行っている。

資料１０－２－③－１

「校長裁量経費によるプロジェクト等の公募通知（抜粋）」

23．6．9
学校運営会議資料No.2

平成２３年６月９日

副校長・校長補佐
各学科長
各教室主任　　殿
図書館長
各センター長
各課長

校　　長

平成２３年度校長裁量経費によるプロジェクト等の
募集について（照会）

本校の教育研究活動の一層の充実発展を図るために、本年度も校長裁量経費をプロジェクト計画経費等として配分することといたしましたので下記のとおり募集します。

つきましては、当該経費を必要とする計画がある場合には、下記事項に留意のうえ要求書を作成し、平成２３年６月３０日（木）までに総務課財務係[tukasa-i@fukui-nct.ac.jp]へ提出願います。

（出典　学校運営会議）

資料１０－２－③－２

「校長裁量経費の採択及び配分状況（抜粋）」

平成23年度校長裁量経費配分額一覧

No	代表者	学科・教室等	区分	要求プロジェクト名	要求書提出者(及び主たる使用者)	査定額(千円)
1	亀山	機械工学科	プロジェクト	機械工学科・電気電子工学科における組み込み系技術者育成教育の充実	亀山　建太郎　准教授 五味　伸之　助教 米田　知晃　准教授 丸山　晃生　准教授	[redacted]
2	石栗	電気電子工学科	プロジェクト	中学生が運転できるソーラーカーの改修	川本　昌　教授 佐藤　匡　准教授 河原林友美　講師 石栗　悦一　助教 五味　伸之　助教	[redacted]
3	高山	物質工学科	プロジェクト	遺伝子工学実験における遺伝子増幅(PCR)関連実験の充実化	上島　晃智　教授 高山　勝己　准教授	[redacted]
4	森	一般科目(人文)	プロジェクト	英語学習支援システムの構築による英語教育改革プロジェクト	小寺　光雄　教授 森　卓　准教授 原口　治　准教授 吉田　三郎　准教授 宮本　友紀　講師	[redacted]
5	蘆田	総合情報処理センター	プロジェクト	ウィルス対策サーバーの更新	蘆田　昇　教授 平井　恵子　准教授 奥田　篤士　助教 五味　伸之　助教 清水　幹郎　センター員 内藤　岳史　センター員	[redacted]

（出典　総務課）

資料１０－２－③－３

「設備整備マスタープランの通知（抜粋）」

平成２４年２月２１日

各副校長
各校長補佐
各学科長
各教室主任　　殿
図書館長
各センター長
各課長

校　　長

設備整備マスタープランについて

標記のことについて、機構本部からの通知に基づき、効率的かつ効果的な教育研究設備の充実のため、平成２４年度設備整備マスタープランを作成することとなりました。
つきましては、下記の提出書類「(１) 平成２４年度設備整備マスタープラン導入希望設備記入表(昨年提出分も含む)及び(２)平成２４年度設備整備年次計画表・評価設備一覧表」を３月５日(月)１２時までに総務課へ提出願います。
なお、設備整備更新等を希望された学科等はヒアリングを実施する予定です。

記

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

学内の予算配分では，事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっており，

その内容は学校運営会議で審議し，その結果を教員会議で明示している。

また，校長のリーダーシップの下，教育研究活動の活性化を図るために校長裁量経費を留保し，申請されたすべての事業について校長ヒアリングを実施し，必要性，有効性，継続性を審査し採否を決定し重点配分を行っている。

さらに，設備整備マスタープランを更新し，長期的な視野に立って計画的な設備整備を実施するための予算配分を行っている。

以上のことから，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

学校を設置する独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表等については，官報及び機構ホームページにおいて公表している。（資料１０－３－①－１，２）

また，本校では，財務の状況を，国立福井高専要覧（資料１０－３－①－３）において適正に公表している。

資料１０－３－①－１

「独立行政法人通則法（抜粋）」

独立行政法人通則法
（平成十一年七月十六日法律第百三号）

最終改正：平成二三年六月二四日法律第七四号

略

（財務諸表等）

三十八条　独立行政法人は，毎事業年度，貸借対照表，損益計算書，利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し，当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し，その承認を受けなければならない。

２（略）

３（略）

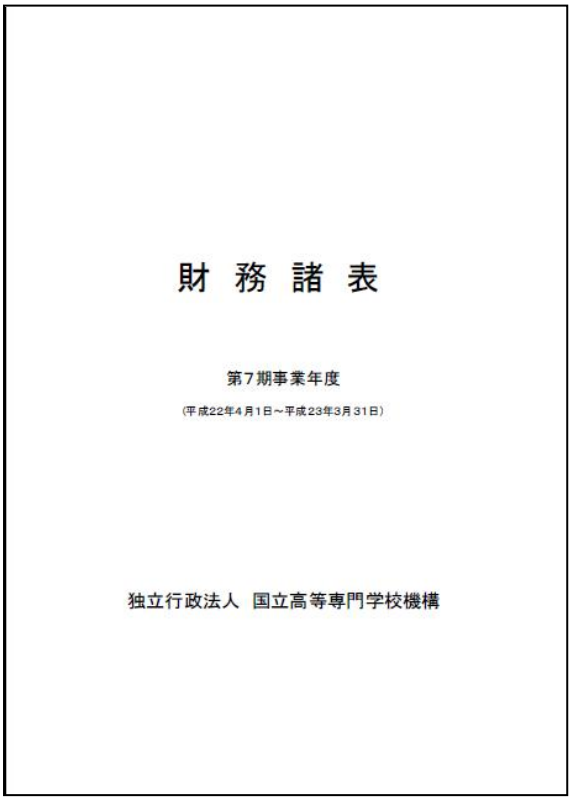
４　独立行政法人は，第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは，遅滞なく，財務諸表を官報に公告し，かつ，財務諸表並びに第二項の事業報告書，決算報告書及び監事の意見を記載した書面を，各事務所に備えて置き，主務省令で定める期間，一般の閲覧に供しなければならない。

略

（出典　機構本部ホームページ http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H11/H11HO103.html）

資料１０－３－①－２

「財務諸表（抜粋）」

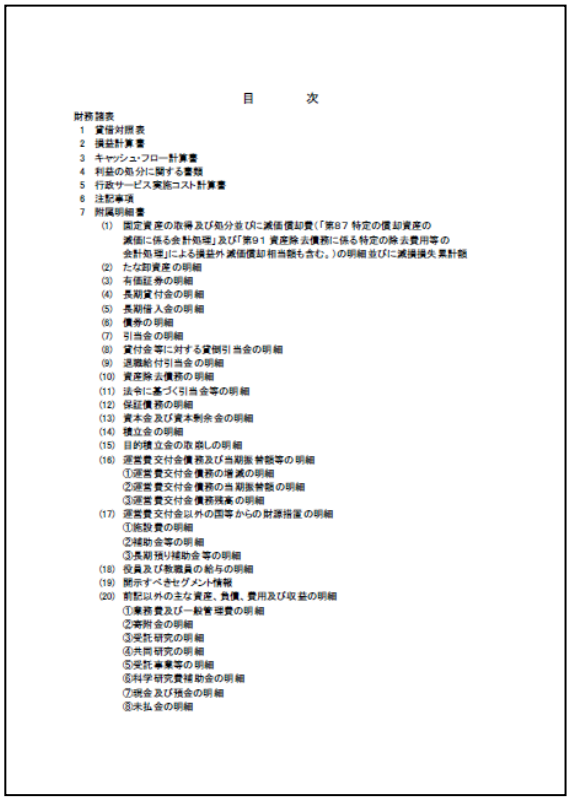


財　務　諸　表

第７期事業年度

（平成22年４月１日～平成23年３月31日）

独立行政法人　国立高等専門学校機構



目　　次

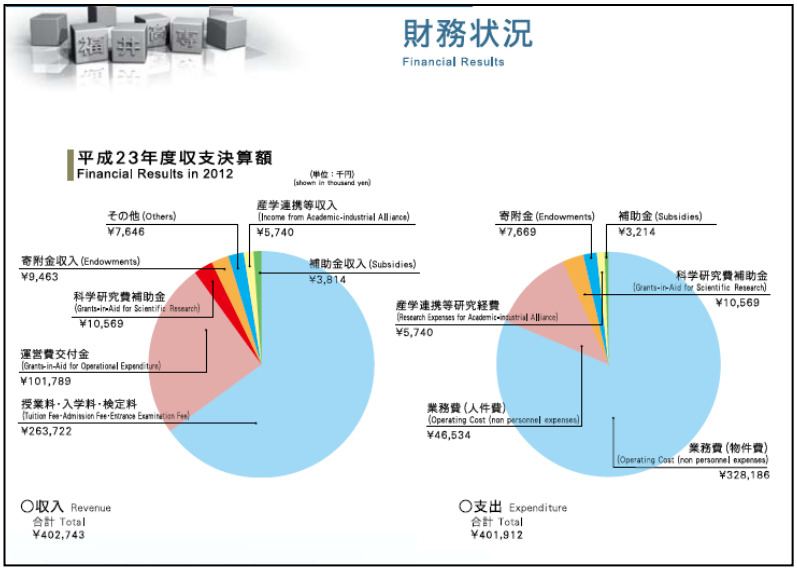
財務諸表
1　貸借対照表
2　損益計算書
3　キャッシュ・フロー計算書
4　利益の処分に関する書類
5　行政サービス実施コスト計算書
6　注記事項
7　附属明細書
(1)　固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）の明細並びに減損損失累計額
(2)　たな卸資産の明細
(3)　有価証券の明細
(4)　長期貸付金の明細
(5)　長期借入金の明細
(6)　債券の明細
(7)　引当金の明細
(8)　貸付金等に対する貸倒引当金の明細
(9)　退職給付引当金の明細
(10)　資産除去債務の明細
(11)　法令に基づく引当金等の明細
(12)　保証債務の明細
(13)　資本金及び資本剰余金の明細
(14)　積立金の明細
(15)　目的積立金の取崩しの明細
(16)　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細
①運営費交付金債務の増減の明細
②運営費交付金債務の当期振替額の明細
③運営費交付金債務残高の明細
(17)　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細
①施設費の明細
②補助金等の明細
③長期預り補助金等の明細
(18)　役員及び教職員の給与の明細
(19)　開示すべきセグメント情報
(20)　前記以外の主な資産、負債、費用及び収益の明細
①業務費及び一般管理費の明細
②寄附金の明細
③受託研究の明細
④共同研究の明細
⑤受託事業等の明細
⑥科学研究費補助金の明細
⑦講会及び雑会の明細
⑧未払金の明細

（出典　機構本部ホームページ）

http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyoH22.pdf

資料１０－３－①－３

「財務の状況」



（出典　国立福井高専要覧）

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表については，独立行政法人国立高等専門学校機構が独立行政法人通則法に基づき，官報に広告及びホームページ等で適正に公表している。また，本校においても適正に公表している。

以上のことから，適切な方法で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

本校の会計監査等については，独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条の規定（資料１０－３－②－１）及び福井工業高等専門学校会計内部監査要項（資料１０－３－②－２）に基づき，高専相互会計内部監査（資料１０－３－②－３），会計内部監査（資料１０－３－②－４），科学研究費補助金に係る通常監査（資料１０－３－②－５），提示物品検査（資料１０－３－②－６）を実施し，会計経理についてその事態を把握し，これが常に適正かつ効率的に執行されるよう指導，監督並びに改善を図っている。

資料１０－３－②－１

「会計規則（抜粋）」

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成２０年１２月２４日

略

第７章　内部監査及び責任

（内部監査）

第４５条　理事長は，予算の執行及び会計処理の適正を期するため，必要と認めるときは，特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。２　内部監査について必要な事項は，別に定めるものとする。

（会計機関の義務及び責任）

第４６条　会計機関は，機構の財務及び会計に関し，適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し，かつ，予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって，その職務を行わなければならない。

２　会計機関は，故意又は重大な過失により前項の規定に違反して，機構に損害を与えた場合は，その損害を弁償する責を負わなければならない。

略

（出典　国立高等専門学校機構ホームページ）
http://www.kosen-k.go.jp/procurement/kisoku-034.pdf

資料１０－３－②－２

「内部監査要項（抜粋）」

福井工業高等専門学校会計内部監査要項

平成17年3月10日制定

改正　平成19年 2月 1日　　平成20年3月1日

第１章　総則

（目的）

第１条　この要項は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則34号。以下「規則」という。）第45条の規定に基づき本校における会計経理についてその実態を把握し、これが常に適正かつ効率的に執行されるよう指導、監督することを目的とする。

（出典　総務課））

資料１０－３－②－３

「高専相互会計内部監査報告書」

別紙２

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	福井工業高等専門学校
監査実施日	平成２３年１２月１９日　～１２月２０日
監査担当者	石川工業高等専門学校　総務課課長補佐（財務担当）[redacted] 総務課財務係長 総務課経理係長
【監査結果の詳細】 被監査部署及び対応者名：総務課[redacted]総務課長、[redacted]課長補佐 他 ①監査部署の現状 ・福井高専の会計を担当する職員は、会計監査・規程関係・予算決算・債権管理・収入支出を担当する財務係（５名、うち２名は非常勤職員）、契約事務を担当する契約係（２名）、施設管理を担当する施設係（２名）の３係計１１名（課長、財務担当課長補佐を含む）	
②監査結果により把握された重要な問題点と所見 ・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。	
③発見事項及び指摘事項 ・特になし	
④指摘事項等（指示、考究） ・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり 指示（会計処理について改めるよう要求したもの）・・・・２件 考究（確認、検討を要求したもの）　・・・・０件	
⑤被監査部署の意見等 ・上記④について、改善策を検討し直ちに対応するとのことであった。	
⑥関係資料等（徴収資料等） ・なし	

（出典　総務課））

資料１０－３－②－４

「会計内部監査（抜粋）」

第１号様式

会計内部監査結果報告書（定時・臨時）

平成２３年１２月１５日

監　査　員
監査補助員 [redacted]

監査実施年月日	平成２３年１２月１５日 ～ 平成２３年１２月１５日	
報　　告		
監査事項及び監査実施細目	報　告　事　項	
	適・否	記　事
支出支払に関すること		特になし
科学研究費補助金に関すること		別紙のとおり

（出典　総務課）

資料１０－３－②－５

「科学研究費補助金に係る通常監査（抜粋）」

平成２３年度科学研究費補助金に係る通常監査結果報告書

【対象研究課題】学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究

【研究代表者】電子情報工学科　助教 [redacted]

【金　　額】１，１７０，０００円

【講　　評】

指　導　事　項	指導に対する措置
１．収支簿の確認 問題なし ２．証拠書（見積書・納品書）の確認 全件について確認、問題なし ３．物品検査 問題なし ４．実験補助等の実施状況の確認 問題なし ５．旅行命令書、出勤簿の確認 問題なし	

（出典　総務課）

資料１０－３－②－６

「定時物品検査」

平成２３年度定時物品検査結果報告

物品の管理及び帳簿の記載等概ね良好であった。

指　導　事　項	指導に対する措置
１．５０万円以上の資産（物品） 現物確認 ２．毒物劇物の確認 ・使用簿が作成されていな薬品があったので使用簿を作成するよう指導した。 ・薬品を保管している冷蔵庫に鍵がない箇所があったので鍵を取り付けるよう指導した。 ３．消耗品及び少額備品 抽出した部署が管理する物品を確認した。今回は設置場所・管理部門・管理責任者についても再確認した。 ・備品シールが貼付してないものがあった。 ・故障等で使用できない備品がそのままになっていた。 ・管理責任者が変更されず、そのままになっている物品があった。	良好に管理されていた。 備品シールを再発行し、貼付する。 修理又は廃棄手続きをする。 使用換の申請をしてもらい管理責任者の変更手続きをする。

（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

それぞれの内部監査結果報告書等で示すように，本校の内部監査は会計処理に熟知した事務職員により適正な監査を受けている。なお，平成２４年５月２１日～２３日に国立高等専門学校機構の会計監査法人による平成２３年度期末監査が実施された。

以上のことから，会計監査等が適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の学習・教育目標を達成するための財源確保並びに予算の重点的配分など，適正かつ効率的な予算の執行に対する努力が行われている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準１０の自己評価の概要

本校における教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有している。

経常的収入は，国立高等専門学校機構から継続的に交付されているほか，授業料・入学検定料・入学料等の諸収入についても安定的に確保されている。また，外部資金の獲得（寄付金，共同研究，受託研究，科学研究費補助金等）についても受け入れを積極的に取り組み，安定した教育研究活動等が展開できるように努力している。

収支は，適正に管理運営されており，過大な支出超過はない。

予算配分については，学校運営会議において予算配分方針に基づき配分案が示され，審議，決定の後，教員会議において公表されている。また，校長のリーダーシップの下，「校長裁量経費」として各学科，教員等から申請された事業について校長ヒアリングを実施し，必要性，有効性等を審査し採否を決定し重点配分を行うとともに，施設・設備については，長期的な視野に立って計画的な予算配分を行うため，設備整備マスタープランを毎年更新している。

これらのことにより，教育研究活動の活性化とその環境の整備を図る他，競争的資金による研究から企業との共同研究への発展が見込まれるなど，地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

なお，高専相互会計内部監査，会計内部監査等の実施及び国立高等専門学校機構の会計監査法人による会計監査が実施され適正な財務会計処理が行われている。

さらに，外部有識者会議を毎年開催し，学校の運営に関し意見・提言を受け，ＰＤＣＡサイクルに沿った改善を図っている。

基準１１　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割は，学校教育法第120条第３項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第２項で「校長は，校務をつかさどり，所属教職員を監督する。」と定められており（資料 11－１－①－１），校長が最終意思決定をするため，本校では校長のリーダーシップのもとに，副校長（教務主事，学生主事，寮務主事及び企画室長）並びに校長補佐（専攻科長）を配置し，役割については，学則（資料 11－１－①－２）及び内部組織規則（資料 11－１－①－３）で定め，校長を補佐する体制を構築している。

資料 11－１－①－１

「独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（抜粋）」

（学校）
第５条　各学校に，校長，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２ 校長は，校務をつかさどり，所属教職員を監督する。
３ 第１項に掲げるほか，仙台高等専門学校，富山高等専門学校，香川高等専門学校及び熊本高等専門学校に，副校長２人を置く。
４ 第１項及び前項に掲げるほか，各学校に，必要に応じ，副校長その他の校長を補佐する職又は校務を分担する主事等を置くことができる。
５ 前２項の職は，教員をもって，これに充てる。
６ 第１項，第３項及び第４項に掲げる主事等の任期は２年とし，欠員が生じた場合の主事等の任期は，前任者の残任期間とする。
７ 前各項及び次条に規定するほか，学校の内部組織，職制及び事務の分掌については，別に定める。

（出典　国立高等専門学校機構規則集）

資料 11－１－①－２

「福井工業高等専門学校学則（抜粋）」

第９条　本校に，企画室長，教務主事，学生主事，寮務主事及び専攻科長を置く。
２　企画室長は，校長の命を受け，本校の新規事業の立案その他企画室に関することを掌理する。
３　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
４　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
５　寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
６　専攻科長は，校長の命を受け，専攻科に関することを掌理する。
第９条の２　本校に，副校長，校長補佐を置くことができる。
２　前項の職は，本校教授の中から校長が任命する。

（出典　本校規則集）

資料 11－１－①－３

「福井工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）」

（校務分掌）
第６条　教員は校務を分掌するものとし、分掌すべき校務は次のとおりとする。
(1)　副校長
(2)　校長補佐
(3)　企画室長
(4)　主事及び主事補
(5)　専攻科長及び専攻主任
(6)　学科長、教室主任及び補佐
(7)　学級担任及び補佐
(8)　各種委員会委員
(9)　指導教員
(10) その他校長が必要と認めるもの
（副校長及び校長補佐の職務）
第６条の２　学則第９条の２に定める副校長及び校長補佐の職務は、次のとおりとする。
(1)　副校長
イ　本校の教育研究等を推進するため、校長を補佐し、業務を掌理すること。
ロ　校長に事故があるときは、その職務を代理し、校長が欠員のときはその職務を行うこと。
（校長が指名した者に限る。）
(1)　校長補佐
　　校長を補佐し、校長から指示された特定の職務に関すること。
（企画室長）
第７条　企画室に企画室長を置き、校長がこれを命ずる。
２　企画室長は、次の事項を総括する。
(1)　新規の事業の計画立案に関すること
(2)　本校の長期目標、中期目標、中期計画及び業務運営の計画策定に関すること
(3)　その他校長が必要と認める事項
（主事の業務）
第８条　学則第9条に定める主事の職務は、次のとおりとする。
(1)　教務主事
イ　教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。
ロ　入学、退学、休学、進級及び卒業の認定等に関すること。
ハ　指導要録に関すること。
ニ　教員の研修に関すること。
(2)　学生主事
イ　学生の補導、厚生及び課外教育に関すること。
ロ　学生の個人相談及び集団指導に関すること。
ハ　学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。
(3)　寮務主事
イ　寮生の指導及び厚生に関すること。
ロ　寮生の個人相談及び集団指導に関すること。
ハ　寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。
（専攻科長及び専攻主任）
第１０条　専攻科に専攻科長を置き、校長がこれを命ずる。
２　専攻科長は、次の事項を総括する。
(1)　専攻科の入学者選抜等に関すること。
(2)　専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。
(3)　専攻科の学生の進学及び就職に関すること。
(4)　専攻科の学生の厚生補導に関すること。
(5)　その他専攻科の運営に関すること。

（出典　本校規則集）

本校の運営に関する組織として運営連絡会（資料 11－１－①－４），学校運営会議（資料 11－１－①－５），教員会議（資料 11－１－①－６）及び各種委員会がある。運営連絡会は，校長，副校長，校長補佐，事務部長及び各課長を構成員とし，学校運営会議に諮る事項及管理運営の重要事項について機動的な協議をする場として，毎月定期的に開催している。学校運営会議は，校長，副校長，校長補佐，各学科長及び教室主任並びに事務部長を構成員として組織され，校長が議長を務め，管理運営の重要事項について審議し，学校の方針を決める最高意思決定機関として，毎月定期的に開催している。教員会議は，専任の教授，准教授，講師，助教及び助手で組織され，意思の統一及び情報の共有を図っている。また，各種委員会等については，各委員会規則（資料 11－１－①－７）に基づき，専門的分野での見知から効果的な運営が図られている。

なお，前回（平成１７年度）受審した機関別認証評価自己評価書の中で，「改善を要する点」として「各種委員会の数が４０を超えており，（略）今後は内容を精査し委員会を統廃合する必要がある。」と自己評価したが，これについては，一部の委員会を統廃合したことにより改善を図っている。

資料11－１－①－４

「福井工業高等専門学校運営連絡会規則（抜粋）」

（設置）
第１条　本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則（昭和54年規則第2号）第2条の2に基づき、運営連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。
（目的）
第２条　連絡会は、学校運営会議との密接な連携のもとに、管理運営の重要事項について機動的な協議を行う。
（組織）
第３条　連絡会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1)　校長
(2)　副校長
(3)　校長補佐
(4)　主事
(5)　事務部長
(6)　課長
（議長）
第４条　連絡会に議長を置き、校長をもって充てる。
２　議長は、連絡会を主宰する。
３　議長が連絡会を主宰することができないときは、議長が予め指名する者が前項の職務を代行する。
（開催）
第５条　連絡会は、原則として定例の学校運営会議の事前及び議長が必要と判断したときに開催する。
（構成員以外の者の出席）
第６条　連絡会は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（出典　本校規則集）

資料11－１－①－５

「福井工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）」

（学校運営会議）
第２条　校長の諮問に応じ、管理運営の重要事項について審議するため、本校に学校運営会議を置く。
２　学校運営会議は、次の職にあるものをもって組織する。
(1)　校　　長
(2)　副 校 長
(3)　校長補佐
(4)　学科長及び教室主任
(5)　事務部長
(6)　その他校長が特に必要と認めた者
３　校長は、学校運営会議を招集してその議長となる。

（出典　本校規則集）

資料11－１－①－６

「福井工業高等専門学校教員会議規則（抜粋）」

（設置）
第１条　本校に教員会議を置く。
（目的）
第２条　教員会議は、校長の命を受けて次の事項を審議する。
(1)　校長の諮問した事項
(2)　学生の入学、卒業、懲戒その他学籍の異動に関する判定
(3)　諸規程の制定及び改廃
（組織）
第３条　教員会議は、専任の教授、准教授、講師、助教及び助手をもって組織する。
２　教員会議の議長は、校長が任命する。
３　議長の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き2年を超えることはできない。
４　校長は、教員会議に出席する。
５　教員会議の議長は、教員会議に教員以外の者の出席をもとめてその意見をきくことができる。
（議長の職務）
第４条　教員会議の議長は、案件の受付・調整、会議の運営等にあたる。
（会議）
第５条　教員会議は、毎月1回定例日に開催する。ただし、議題の都合により定例の教員会議を開催しないことがある。必要があるときは、臨時に開催することができる。

（出典　本校規則集）

資料11－１－①－７

「福井工業高等専門学校規則集（抜粋）」

ファイル番号	目　　次	頁数	備　考
	第2章　組織・運営		
02010	内部組織規則	6	
02011	運営連絡会規則	2	
02012	危機管理規則	3	
02020	事務組織規則	7	
02030	外部有識者会議規則	2	
02040	教員会議規則	2	
02060	自己点検・評価委員会規則	2	
02070	施設整備委員会規則	2	
02080	外部評価委員会規則	2	
02081	機関別認証評価専門部会設置要項	1	
02090	JABEE委員会規則	1	
02100	知的財産教育委員会規則	2	
02120	専攻科委員会規則	2	
02130	教務委員会規則	2	
02131	協働教育推進専門部会設置要項	1	
02140	補導委員会規則	2	
02150	入学試験委員会規則	2	
02160	進路指導委員会規則	2	
02161	進路指導幹事会設置要項	1	
02170	教育システム推進委員会規則	2	
02190	研究改善委員会規則	1	
02220	防災対策委員会規則	2	
02270	広報委員会規則	2	
02280	教職員厚生委員会規則	2	
02290	安全衛生委員会規則	2	
02300	研究紀要委員会規則	2	
02310	青武台だより編集委員会規則	2	
02320	校友会誌編集委員会規則	2	
02330	事務情報化委員会規則	1	
02340	連絡会議設置要項	1	
02350	国際交流委員会規則	2	

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

校長，副校長，校長補佐及び委員会等の役割は学則等で明確に定められている。重要な管理運営事項については，校長が主宰し，定期的に開催している運営連絡会や学校運営会議において，校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取及び情報の共有が図られ，校長のリーダーシップの下で，学校の目的を達成するために効果的な意思決定を行える態勢となっている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

学校運営に関する組織は，学則（資料11－１－②－１），内部組織規則（資料11－１－②－２）及び事務組織規則（資料11－１－②－３）において定めている。管理運営に関する重要事項については，学校運営会議で審議されるが（資料11－１－②－４），その決定方針等について，教員会議や各種委員会等へ反映すべく，校内意見の調整を行い，校長が効率的に意思決定を行えるよう運営されている（資料11－１－②－５）。

学校運営会議は，副校長（３主事及び企画室長），校長補佐（専攻科長），各学科長及び教室主任並びに事務部長で構成され，教員会議は，校長及び専任の教員で構成されているため，関係者の意見を十分くみ取り，各事項についての効率的な意思決定とその周知徹底が図られ，効率的な運営ができる態勢となっている。また，教員は各学科に所属し，それぞれの校務を「校務分掌表」（資料11－１－②－６）のとおり行っている。

資料11－１－②－１

「福井工業高等専門学校学則（抜粋）」

第８条　本校に，校長，教授，准教授，講師，助教，助手，事務職員及び技術職員を置く。
２　職員の職務は，学校教育法その他法令の定めるところによる。
第９条　本校に，企画室長，教務主事，学生主事，寮務主事及び専攻科長を置く。
２　企画室長は，校長の命を受け，本校の新規事業の立案その他企画室に関することを掌理する。
３　教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
４　学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
５　寮務主事は，校長の命を受け，学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
６　専攻科長は，校長の命を受け，専攻科に関することを掌理する。
第９条の２　本校に，副校長，校長補佐を置くことができる。
２　前項の職は，本校教授の中から校長が任命する。
第１０条　本校に，校務一般の事務を処理するため，事務部を置く。
第１１条　前2条に規定するもののほか，本校の内部組織は別に定めるところによる。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－２

「福井工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）」

（趣旨）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）第５条第６項及び福井工業高等専門学校学則第11条に基づき、福井工業高等専門学校の内部組織（事務部組織を除く。）を定めるものとする。
第２章　会議
（学校運営会議）
第２条　校長の諮問に応じ、管理運営の重要事項について審議するため、本校に学校運営会議を置く。

２　学校運営会議は、次の職にあるものをもって組織する。
(1)　校　　長
(2)　副 校 長
(3)　校長補佐
(4)　学科長及び教室主任
(5)　事務部長
(6)　その他校長が特に必要と認めた者
３　校長は、学校運営会議を招集してその議長となる。
４　学校運営会議の庶務は、総務課が処理する。
（特別委員会）
第２条の２　学校運営会議の所掌事項を特別に調査審議するため、学校運営会議に常設の委員会又は臨時の委員会を置くことができる。
２　委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。
（教員会議）
第３条　校長の諮問に応じ、教務・厚生補導その他教育運営に必要な事項を審議するため、本校に教員会議を置く。
２　教員会議について必要な事項は、別に定める。
（各種委員会）
第４条　校長の命を受けて、運営に必要な諸問題を審議するため、本校に委員会を置く。
２　委員会に関し必要な事項は、学校運営会議の議を経て校長が別に定める。
第３章　教員組織
（教員組織）
第５条　本校に次の教員組織を置き、教員はそれぞれこの組織に属する。
(1)　機械工学科
(2)　電気電子工学科
(3)　電子情報工学科
(4)　物質工学科
(5)　環境都市工学科
(6)　一般科目教室（自然科学系）
(7)　一般科目教室（人文社会科学系）
第４章　校務分掌
（校務分掌）
第６条　教員は校務を分掌するものとし、分掌すべき校務は次のとおりとする。
(1)　副校長
(2)　校長補佐
(3)　企画室長
(4)　主事及び主事補
(5)　専攻科長及び専攻主任
(6)　学科長、教室主任及び補佐
(7)　学級担任及び補佐
(8)　各種委員会委員
(9)　指導教員
(10)　その他校長が必要と認めるもの
（副校長及び校長補佐の職務）
第６条の２　学則第９条の２に定める副校長及び校長補佐の職務は、次のとおりとする。
(1)　副校長
イ　本校の教育研究等を推進するため、校長を補佐し、業務を掌理すること。
ロ　校長に事故があるときは、その職務を代理し、校長が欠員のときはその職務を行うこと。
（校長が指名した者に限る。）
(1)　校長補佐
校長を補佐し、校長から指示された特定の職務に関すること。
（企画室長）
第７条　企画室に企画室長を置き、校長がこれを命ずる。
２　企画室長は、次の事項を総括する。
(1)　新規の事業の計画立案に関すること
(2)　本校の長期目標、中期目標、中期計画及び業務運営の計画策定に関すること
(3)　その他校長が必要と認める事項
（主事の業務）
第８条　学則第9条に定める主事の職務は、次のとおりとする。
(1)　教務主事
イ　教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。
ロ　入学、退学、休学、進級及び卒業の認定等に関すること。
ハ　指導要録に関すること。

ニ　教員の研修に関すること。
(2)　学生主事
イ　学生の補導、厚生及び課外教育に関すること。
ロ　学生の個人相談及び集団指導に関すること。
ハ　学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。
(3)　寮務主事
イ　寮生の指導及び厚生に関すること。
ロ　寮生の個人相談及び集団指導に関すること。
ハ　寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。
（専攻科長及び専攻主任）
第１０条　専攻科に専攻科長を置き、校長がこれを命ずる。
２　専攻科長は、次の事項を総括する。
(1)　専攻科の入学者選抜等に関すること。
(2)　専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関すること。
(3)　専攻科の学生の進学及び就職に関すること。
(4)　専攻科の学生の厚生補導に関すること。
(5)　その他専攻科の運営に関すること。
（学科長・教室主任）
第１１条　第5条の学科及び教室にそれぞれ学科長・教室主任（以下「学科長等」という。）を置く。
２　学科長等は、次の事項を担当する。
(1)　当該学科（教室）の教育課程及び厚生補導等に関すること。
(2)　当該学科（教室）に属する施設設備及び機械器具の管理に関すること。
(3)　その他当該学科（教室）の運営に関すること。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－３

「福井工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）」

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条第6項及び福井工業高等専門学校学則第10条の規定に基づく福井工業高等専門学校事務組織は、この規則の定めるところによる。
第２条　事務部に次の2課を置く。
総務課
学生課
第３条　総務課に企画推進室及び次の6係を置く。
総務係
人事労務係
評価・地域連携係
財務係
契約係
施設係
第４条　学生課に次の4係を置く。
教務係
学生生活係
入学試験係
情報サービス係
第５条　事務部に事務部長を置く。
２　事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。
第６条　総務課及び学生課にそれぞれ課長を置く。
２　課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。
第７条　総務課及び学生課にそれぞれ課長補佐を置く。
２　課長補佐は、課長の事務を補佐する。
第８条　企画推進室に室長を置く。
２　室長は、上司の命を受けその室の事務を処理する。
第９条　係に係長及び必要に応じ主任を置く。
２　係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－４

「学校運営会議議事要旨（例）（抜粋）」

平成２４年４月定例学校運営会議議事要旨

日　　時　　平成２４年４月５日（木）１６：３０～１８：３０
場　　所　　校長会議室
出 席 者　　校長、教務主事、学生主事、寮務主事、企画室長、専攻科長、事務部長、加藤(寛)、川本、斉藤、常光、廣部各学科長、長水、廣重各教室主任
列 席 者　　総務課長、学生課長、総務課課長補佐（総務担当、財務担当）、総務係長

始めに校長から、この4月から新たに委員となった学科長及び教室主任の紹介並びに陪席する新任の総務課長及び学生課長の紹介があり、順次自己紹介が行われ、続いて前回(3月定例)の学校運営会議議事要旨の確認が行われ了承された。

Ⅰ　審議事項

１　福井工業高等専門学校名誉教授称号授与について

始めに事務部長から、本校名誉教授称号授与規則における基準が披露され、次いで資料１に基づき4名の候補者ごとに在職歴及び適用条項等の説明があった。

続けて校長から、候補者ごとの功績調書の内容について説明依頼があり、各学科長・教室主任から功績の概略報告があり、審議の結果、全員原案どおり了承された。

また校長から、今回退職された4名の教授はいずれも再雇用され、職名は正式には「嘱託教授」となるが、名刺への記載等、通常の呼称に「教授」を用いても良いか諮りたいとの提案があり、機構本部が定める実施要項では「単に教授と称することができる」こととなっていることから、通称として「教授」を用いることを全会一致で了承した。

２　規則（ハラスメント防止等に関する規則）の改正について

始めに校長から、資料２に基づき本校では平成22年にパワハラを含めたハラスメント防止等に関する規則を制定済みであるが、第6条の相談員の配置が現状では特定の分野や性別に偏ってしまう恐れがあることから、全体的なバランスを取るために、第5号に「その他校長が特に必要と認めた者　若干名」を加えたいとの発言があり、次いで事務部長から改正の詳細について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。　なお校長から、第5号相談員には安丸教授に打診中であることの付言があった。

３　規則（特別支援室規則）の改正について

教務主事から、発達障害学生への支援に限定して昨年規則を制定し、1名の学生支援を行ってきたところであるが、今般、車椅子の学生が入学したことから、特別支援の範囲を広げるべく規則の改訂を行いたいとの発言があり、続けて資料３に基づき改正の詳細について逐条説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

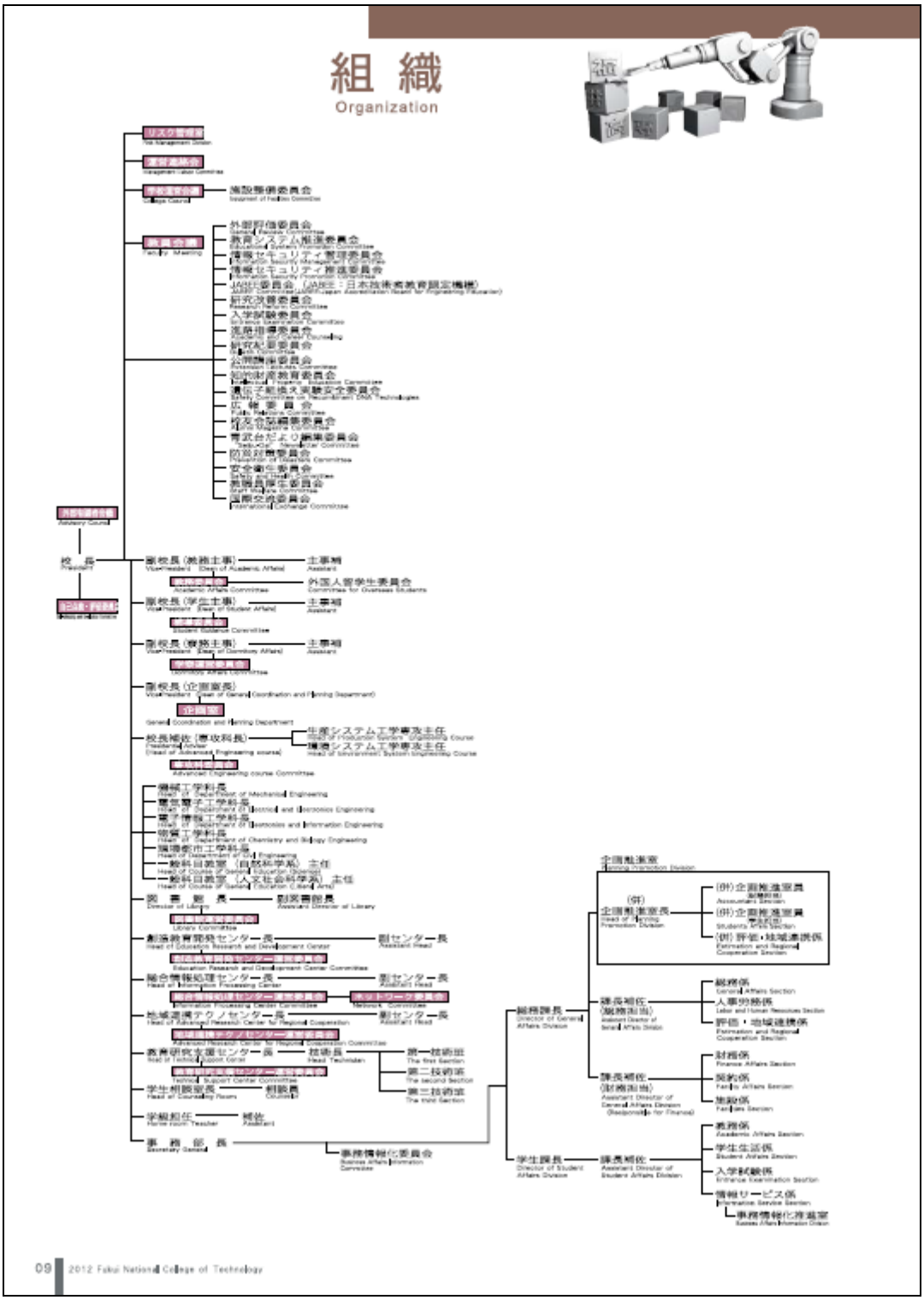
なお、当面は昨年からの継続支援チームの他に件の新入生を対象として支援チームを立ち上げること及び本改正は4月1日からの適用とすることの付言があった。

（以下省略）

（出典　学校運営会議議事要旨）

資料11－１－②－５

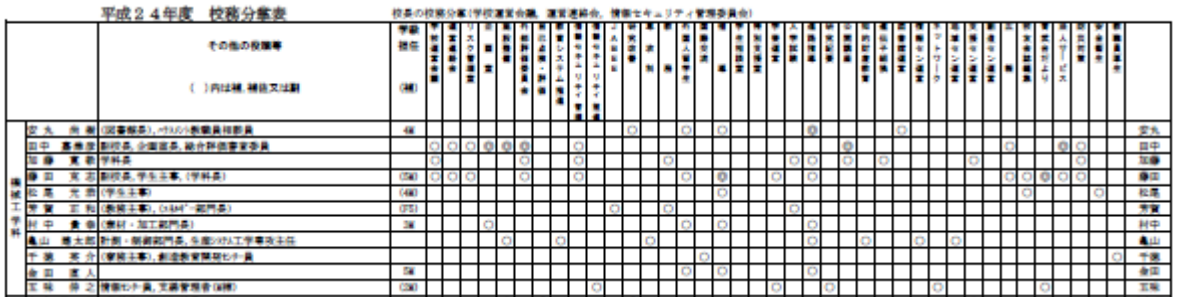
「福井工業高等専門学校運営組織図」



（出典　国立福井高専要覧２０１２，　p.9）

資料11－１－②－６

「校務分掌表（抜粋）」



平成２４年度　校務分掌表

（出典　総務課）

事務組織は，事務部長の下に，総務課及び学生課の２課を配置し，各所掌業務を行う体制となっている。（資料11－１－②－７）また，部課長，課長補佐，係長，技術長，技術班長で構成する事務連絡会を月１回開催し（資料11－１－②－８），管理運営事項の連絡調整と意思疎通を効率的に行える態勢となっている。各委員会規則には担当課が明記され（資料11－１－②－９），事務職員も委員として参画する等，必要に応じて直接校務を分担し，機能的に活動している。

資料11－１－②－７

「福井工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）」

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条第6項及び福井工業高等専門学校学則第10条の規定に基づく福井工業高等専門学校事務組織は、この規則の定めるところによる。
第２条　事務部に次の2課を置く。
　　総務課
　　学生課
第４条　総務課に企画推進室及び次の6係を置く。
　　総務係
　　人事労務係
　　評価・地域連携係
　　財務係
　　契約係
　　施設係
第４条　学生課に次の4係を置く。
　　教務係
　　学生生活係
　　入学試験係
　　情報サービス係
第５条　事務部に事務部長を置く。
２　事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。
第６条　総務課及び学生課にそれぞれ課長を置く。
２　課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。
第７条　総務課及び学生課にそれぞれ課長補佐を置く。
２　課長補佐は、課長の事務を補佐する。
第８条　企画推進室に室長を置く。
２　室長は、上司の命を受けその室の事務を処理する。
第９条　係に係長及び必要に応じ主任を置く。
２　係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。
第１１条　企画推進室においては、次の事務をつかさどる。
（1）　企画室の所掌事務の連絡調整に関すること。
（2）　その他、企画室に関する事務を処理すること。
第１２条　総務課総務係においては、次の事務をつかさどる。
（1）　事務部の所掌事務の連絡調整に関すること。

(2)　公印の管守に関すること。
(3)　儀式その他諸行事に関すること。
(4)　学校運営会議、教員会議その他諸会議に関すること。
(5)　秘書に関すること。
(6)　規則の制定及び改廃に関すること。
(7)　法令、例規、刊行物及び諸記録の編さん並びに保管に関すること。
(8)　文書の収受、校合、発送及び保管に関すること。
(9)　渉外に関すること。
(10) 宿日直（教員の学寮宿日直を除く。）に関すること。
(11) 広報（学生課の所掌に属するものを除く。）及び掲示に関すること。
(12) 校内の警備に関すること。
(13) 所掌事務に属する諸調査統計に関すること。
(14) その他、他の課及び他の係の所掌に属しない事務を処理すること。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－８

「事務連絡会報告事項（抜粋）」

５　月　事　務　連　絡　会　報　告　事　項

日　時　　平成２４年５月１５日（火）１６：１０～１６：４５
場　所　　大会議室
出席者　　事務部長、総務課長、学生課長、総務課補佐（総務担当）、総務課補佐（財務担当）、学生課補佐、総務係長、人事労務係長、評価地域連携係長、財務係長、施設係長、教務係長、学生生活係長、情報サービス係長、技術長、第一技術班長、第三技術班長

報告・連絡事項
　1　各課・各係報告
　(1) 総務課関係
　　ア　課長連絡会報告
　　・4／23(月)，24(火)に学術総合センターにて開催（参加：総務課長、学生課長）
　　・詳細は資料１及び回覧資料を参照
　　イ　監査法人監査について
　　・５年に１回の法人監査
　　・５月 21 日～23 日の 9:00 から 17:00 迄、終日実施
　　・対応は財務で行うが、質問内容により資料や説明依頼があれば協力依頼
　　ウ　平成 23 年度年度計画について

（出典　事務連絡会）

資料11－１－②－９

「福井工業高等専門学自己点検・評価委員会規則（担当課等明示例）（抜粋）」

福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会規則

（設置）
第１条　本校に、福井工業高等専門学校内部組織規則（昭和54年規則第2号）第４条に基づき、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条　委員会は、本校が自ら行う自己点検・評価及びその結果の公表に関し審議するものとする。
（委員会の組織等）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　委員長（校長、副校長、校長補佐を除く者から、校長が指名する。）
(2)　委員　若干名（委員長が指名する者）
２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
３　第１項各号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員以外の者の出席）
第４条　委員長は、必要に応じて委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。
（委員会の任務）
第５条　委員会は、次の各号に掲げる事項について企画、検討及び実施する。
(1)　自己点検・評価の基本方針に関すること。
(2)　自己点検・評価の項目に関すること。
(3)　自己点検・評価の実施に関すること。
(4)　自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関すること。
(5)　その他自己点検・評価に関すること。
（専門部会）
第６条　委員会の所掌事項を専門的に調査検討するため、委員会に専門部会を置くことができる。
２　専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
（結果の報告及び公表）
第７条　委員会は自己点検・評価の結果を校長に報告するとともに、刊行物その他広く周知を図ることのできる方法によって公表するものとする。
（事務）
第８条　委員会の事務は、総務課が処理する。
（雑則）
第９条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（出典　本校規則集）

危機管理体制については，危機管理を総合的かつ計画的に推進するためのリスク管理室の設置を，危機管理規則（資料11－１－②－10）で明確に定め，危機管理に係る事態に組織的に迅速かつ的確に対応をするための体制整備を図っている。

資料11－１－②－10

「福井工業高等専門学校危機管理規則（抜粋）」

（目的）
第１条　この規則は，福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び対処方法等を定めることにより，本校の学生，教職員及び近隣住民等（以下「学生等」という。）の安全確保を図るとともに，本校が社会的な責任を果たすことを目的とする。

（危機管理の対象）
第２条　前条の目的を達成するため，この規則に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は，次の各号の一に該当するものであって，組織的・集中的に対処することが必要な事態とする。
(1)　学生等の安全にかかわる重大な事態
(2)　本校の教育研究等の活動の遂行に重大な支障がある事態
(3)　本校に対する社会的信頼を損なう事態
(4)　施設管理上の重大な事態
(5)　社会的影響の大きな事態
(6)　その他前各号に類するような事態
（リスク管理室の設置）
第４条　本校に，危機管理を総合的かつ計画的に推進するため，リスク管理室を置く。
２　リスク管理室は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1)　副校長
(2)　校長補佐
(3)　教務主事，学生主事及び寮務主事
(4)　事務部長
(5)　課長
(6)　その他校長が特に必要と認めた者
３　前項第１号から第６号に掲げる者をリスク管理室員とする。
４　第２項第６号の室員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室員に欠員が生じた場合の補充室員の任期は，前任者の残任期間とする。
５　リスク管理室に室長を置き，校長が指名した者をもって充てる。
６　リスク管理室の事務は，総務課が行う。
（リスク管理室の業務）
第５条　リスク管理室は，次に掲げる業務を行うものとする。
(1)　危機事象への対処に関すること
(2)　危機管理に関する情報の収集分析及び周知に関すること
(3)　危機管理ガイドライン及び危機管理マニュアルの策定及び周知に関すること
(4)　危機管理に関する教育，研修及び訓練等に係る企画，立案及び実施に関すること
(5)　危機管理対策の評価及び見直しに関すること
(6)　緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備及び周知に関すること
(7)　危機管理に関し，機構本部リスク管理本部と連携を図ること
(8)　その他危機管理に係る必要な事項に関すること
（リスク管理室員以外の者の出席）
第６条　リスク管理室長が必要と認めたときは，リスク管理室員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。
（危機事象に関する通報等）
第７条　教職員は，緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生する恐れがあることを発見した場合は，リスク管理室員に通報しなければならない。
２　リスク管理室員は，前項の通報を受け，又は自ら危機事象を察知した場合は，直ちにリスク管理室長に連絡するとともに，緊急に必要な措置を講じた場合においては，その旨を報告するものとする。
３　前項の連絡を受けたリスク管理室長は，直ちに校長に報告するとともに，当該危機事象の状況を確認し，校長と対処方針等を協議しなければならない
４　前項の協議により対処方針等を決定したときは，次条により危機対策本部を設置する場合を除き，リスク管理室が対処に当たるものとする。

（出典　本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

本校の管理運営に関する各種委員会等は，その趣旨，目的，組織等が規則に明記され，適切な役割分担と責任体制が確立し，効果的に活動している。事務組織は，事務部長の下、事務分掌に従い，組織間の意思疎通と連携を保ち，効率的な管理運営を行っている。更に，事務職員が委員会等の構成員として加わるなどして学校運営に参画し，適切に役割を分担し効果的に活動している。

危機管理体制については，迅速かつ的確に対応するために危機管理規則を定めるとともに，リスク管理室を設置し，危機管理に係る事態に迅速な対応ができる体制を整えている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，国立高等専門学校機構本部が作成した中期計画及び年度計画に対応した，本校独自の中期計画（資料 11－２－①－１）・年度計画（資料 11－２－①－２）を立案し目標を定め，その目標の下，健全な学校運営が図られている。本校で定めた中期計画・年度計画は，教育，研究，社会との連携・国際交流，管理運営等の区分により，具体的な目標を定め，この目標に対する達成状況を把握することで学校全体の総合的な自己点検・評価を行っている。自己点検・評価にあたっては，中期計画・年度計画を踏まえ，学校の活動の総合的な状況に対して行われておいる。その結果は，「自己点検・評価報告書」に取り纏め，本校ホームページで公表している（資料 11－２－①－３）

資料11－２－①―１

「第Ⅱ期中期計画」

福井工業高等専門学校第 II 期中期計画

（序文）

ICT 技術の革新によって，社会はいま情報技術を中心に大きく転換し始めようとしている。また，教育のグローバル化，教育機会均等化が進み，高等教育のこれまでのシステムが大きく変化しようとしている。産業界からもこれまでの画一主義教育より，創造性の高い個性を伸ばす教育が求められている。地域社会からも大きな期待を寄せられている。

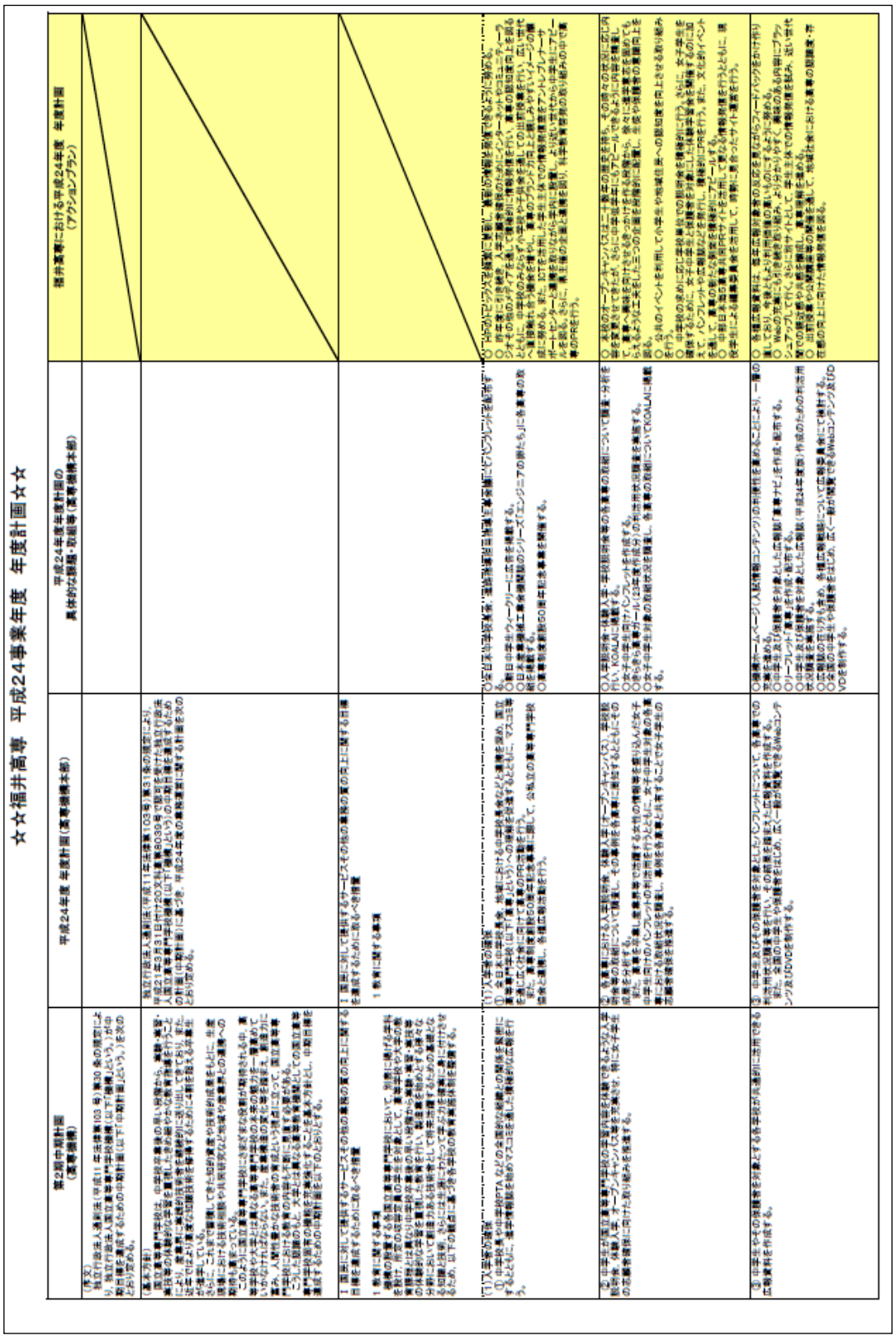
福井工業高等専門学校では，これら社会の要請に応え，２１世紀を担う人材を育成するため，新しい教育・研究の理念とそれに伴う整備計画を策定したい。特に，学生の夢が実現する学校、学生・社会から魅力ある学校，環境・社会・人に優しい学校を目指したい。

これらの実現のために，本校の教育理念，教育方針，教育目標，養成すべき人材像による，第Ⅱ期中期計画（平成２１年度～平成２５年度）を次のように策定する。

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/info/pdf/tyukikeikaku2.pdf）

資料11－２－①―２

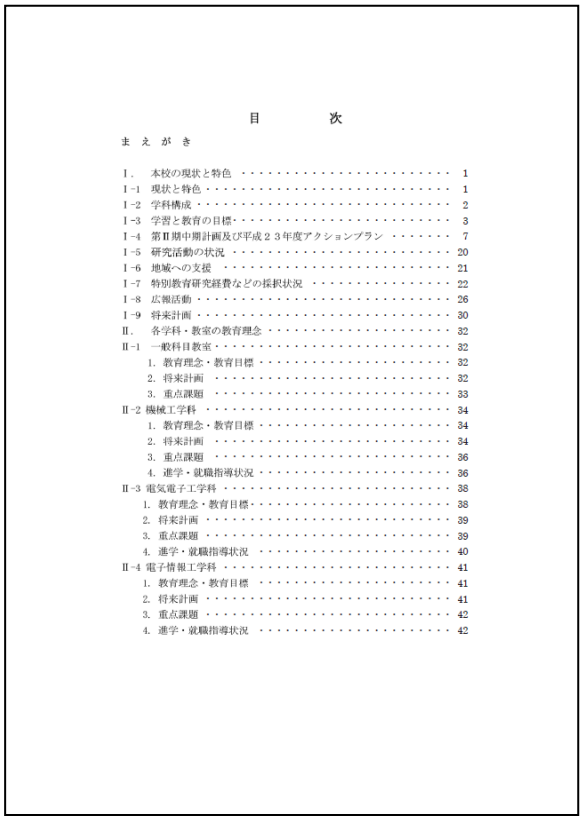
「平成２４年度　年度計画」



（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/info/pdf/2012Action.pdf）

資料11－２－①―３

「自己点検・評価報告書」



目　　次

ま え が き
Ⅰ．　本校の現状と特色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅰ-1　現状と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅰ-2　学科構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅰ-3　学習と教育の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
Ⅰ-4　第Ⅱ期中期計画及び平成２３年度アクションプラン ・・・・・・・ 7
Ⅰ-5　研究活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
Ⅰ-6　地域への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅰ-7　特別教育研究経費などの採択状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅰ-8　広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
Ⅰ-9　将来計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
Ⅱ．　各学科・教室の教育理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
Ⅱ-1　一般科目教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
1．教育理念・教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
2．将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
3．重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
Ⅱ-2 機械工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
1．教育理念・教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
2．将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
3．重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
4．進学・就職指導状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
Ⅱ-3 電気電子工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
1．教育理念・教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
2．将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
3．重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
4．進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
Ⅱ-4 電子情報工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
1．教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
2．将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
3．重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
4．進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/~kikaku/lecture/data/jikotenken_2012.02.pdf）

（分析結果とその根拠理由）

本校の自己点検・評価については，中期計画及び年度計画の項目を踏まえて本校の総合的な状況に関する行われており，その結果は自己点検・評価報告書を作成し，本校ホームページで公表している。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，外部有識者による「外部有識者会議」を開催し，毎年，外部評価を行っており，本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について，審議・評価を行っている（資料11－２－②－１）。具体的には，各委員に自己点検・評価報告書を事前に配付し，この資料を基に外部有識者会議で検証が行われ，自己評価を含む学校運営に関する重要事項についての提言・助言を受けている。

この内容については，「外部有識者会議報告書」（資料11－２－②－２）に掲載し，本校ホームページで公表している（資料11－２－②－３）。

資料11－２－②－１

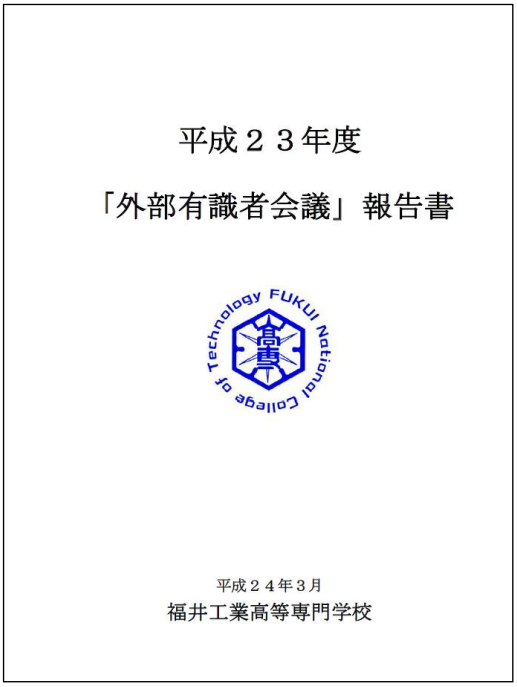
「福井工業高等専門学校外部有識者会議規則（抜粋）」

（設置）
第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。
（任務）
第２条　会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。
（組織）
第３条　会議は、10人以内の委員で組織する。
２　委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。
３　委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（議長）
第４条　会議の議長は、委員の互選により定める。
（会議の開催）
第５条　会議は、校長が招集する。
２　会議は、年1回以上開催するものとする。
３　会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。
（守秘義務）
第６条　委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。
（庶務）
第７条　会議の庶務は、総務課が処理する。

（出典　本校規則集）

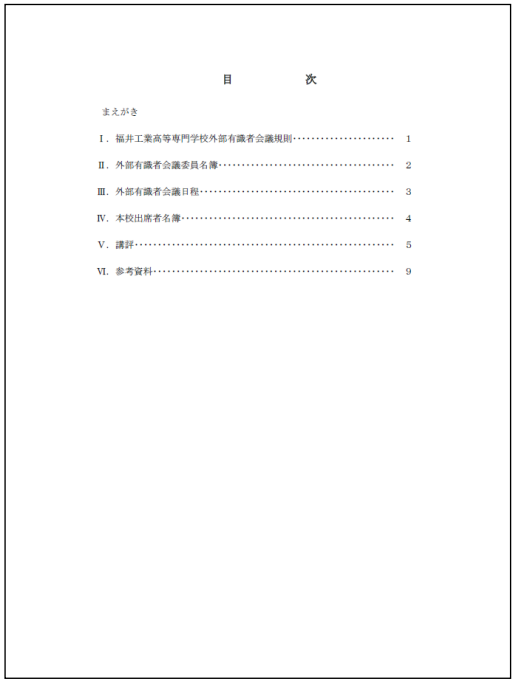
資料11－２－②－２

「外部有識者会議報告書」


平成２３年度

「外部有識者会議」報告書

平成２４年３月
福井工業高等専門学校


目　　次

まえがき
Ⅰ．福井工業高等専門学校外部有識者会議規則…… 1
Ⅱ．外部有識者会議委員名簿…… 2
Ⅲ．外部有識者会議日程…… 3
Ⅳ．本校出席者名簿…… 4
Ⅴ．講評…… 5
Ⅵ．参考資料…… 9

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/~kikaku/lecture/data/h23gaibuyushikisha.pdf）

資料11－２－②－３

「外部有識者会議報告書の公表」

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/info/shiryo.html）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価の評価結果については，毎年，外部有識者会議において検証が行われ，その内容については，外部有識者会議報告書に掲載し，公表している。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

本校では，自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を整備し，普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている（資料11－２－③－１）。この「福井高専教育点検システム」は，計画(Plan)，実施及び運用(Do)，点検・検証(Check)，見直し・改善(Action)の，いわゆるPDCAサイクルが常時運用されている。なお，平成２４年度から「福井高専教育点検システム」を「福井高専教育改善システム」（資料11－２－③－２）に改め，教育システム推進委員会をPDCAサイクルの中心に置き，サイクル内の調整・橋渡し・フォローアップを行うこととしている（資料11－２－③－３）。

実際に管理運営上の改善に結びついた取組事例としては，入学者確保の取組がある。本校の教育理念に沿った教育を進め，また，本校の教育のレベルの維持・向上を図るためには，入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な課題である。入試倍率は平成18年度の1.7倍から平成21年度1.5倍へと少しずつ低下する傾向にあったが，これまでの結果を検証し，①入試に関する1年生へのアンケート調査，②推薦基準の改正，③入試会場の増設，④全中学生配布用入試リーフレットの作成，⑤入試関連行事の見直しと改善，⑥入試会場の増設，⑦推薦募集枠の１名増加などを行った結果，平成22年度には1.6倍に回復した。さらに，平成23年度にはキャンパスツアーの新企画を5月と早い時期に導入するなど広報活動の強化を図ったところ，1.7倍に向上した（資料11－２－③－４）。

資料11－２－③－１

「福井高専教育点検システム」

（出典　国立福井高専学校要覧２０１１）

資料11－２－③－２

「福井高専教育改善システム」

（出典　国立福井高専学校要覧２０１２ p. 51）

資料11－２－③－３

「自己点検・評価等に関する教育システムの推進のためのＰＤＣＡサイクル」

自己点検・評価、外部評価、第3者評価、学内アンケートに関する教育システムの推進のためのPDCAサイクル（平成24年度）

No.	教育点検項目	Plan（担当委員会）	Do（担当委員会）直接関わっている	Check（報告書・アンケートなどの内容確認、評価する人、結果をまとめる人、報告方法）							Actionする時にどこの委員会の了解をとっているのか	Action（Checkして報告した後に改善を直接指示するなどの委員会）
				内容確認	評価者	取りまとめ	報告					
							自己点検・評価委員会	学校運営会議	教員会議	公開方法		
1	自己点検・評価	自己点検・評価委員会	自己点検・評価に関する担当委員会	自己点検・評価委員会	自己点検・評価委員会	自己点検・評価委員会	－	○	－	自己点検・評価報告書	学校運営会議	自己点検・評価に関する担当委員会
2	外部有識者会議	外部評価委員会	外部評価委員会	外部評価委員会	外部有識者会議	外部評価委員会	○	○	○	外部有識者会議報告書	学校運営会議	指摘事項の担当委員会
3	JABEE審査	JABEE委員会	JABEE委員会	自己点検・評価委員会	JABEE	JABEE委員会	○	○	○	JABEE自己点検書	学校運営会議	JABEE委員会・指摘事項担当委員会
4	機関別認証評価	外部評価委員会	外部評価委員会	自己点検・評価委員会	大学評価・学位授与機構	外部評価委員会	○	○	○	認証評価自己評価書	学校運営会議	外部評価委員会・指摘事項担当委員会
5	卒業生・修了生・進路先アンケート(3~4年ごと)	創造教育開発センター	創造教育開発センター	創造教育開発センター	卒業生・修了生・進路先	創造教育開発センター	○	○	－	報告書	学校運営会議	指摘事項担当委員会
6	寮生会 寮生アンケート(4月末) 寮生アンケート(8月末)	学寮運営委員会（寮生）	寮務主事団（寮生）	寮務主事団（寮生）	寮生	寮務主事団（寮生）	－	－	－	寮内掲示	学寮運営委員会	寮務主事団（寮生）
7	教員 寮生活に関する（隔年）		寮務主事団（寮生）	寮務主事団（寮生）	寮生	寮務主事団（寮生）	－	－	○	寮内掲示	学寮運営委員会	寮務主事団（寮生）
8	新入生アンケート(4月)	入試委員会	入試委員会	入試委員会	在校生	入試委員会	－	○	○	教員会議資料	入試委員会	入試委員会
9	キャンパスウォーク(5月)		入試委員会	入試委員会	参加者(中学生)	入試委員会	－	○	○	教員会議資料	入試委員会	入試委員会
10	キャンパスツアー(8月)		入試委員会	入試委員会	参加者(中学生)	入試委員会	－	○	○	教員会議資料	入試委員会	入試委員会
11	キャンパスリサーチアンケート(10月)		入試委員会	入試委員会	参加者(中学生)	入試委員会	－	○	○	教員会議資料	入試委員会	入試委員会
12	入試説明会アンケート		入試委員会	入試委員会	参加者(中学生)	入試委員会	－	○	○	教員会議資料	入試委員会	入試委員会
13	専攻科生との懇談会（生活環境アンケートから）	専攻科委員会	専攻科委員会	専攻科委員会	専攻科生	専攻科委員会	－	○	－	－	学校運営会議	専攻科委員会
14	授業アンケート	創造教育開発センター	創造教育開発センター	創造教育開発センター	在校生	創造教育開発センター	－	－	－	ラクーダと教室にファイル	－	評価等に対して教員個人
15	進路指導アンケート	進路指導委員会	進路指導委員会	進路指導委員会	在校生	進路指導委員会	－	－	○	学内掲示	進路指導委員会	進路指導委員会
16	学習・教育目標アンケート	専攻科委員会・教務委員会	専攻科委員会・教務委員会	専攻科委員会・教務委員会	在校生	専攻科委員会・教務委員会	－	○	○	教員会議資料	専攻科委員会・教務委員会	専攻科委員会・教務委員会
17	女子中学生体験学習会アンケート	企画室	企画室	企画室	参加者(中学生)	企画室	－	－	○	－	学校運営会議	企画室
18	高専祭クリーン大作戦アンケート	補導委員会	補導委員会	補導委員会	在校生	補導委員会	－	－	－	－	補導委員会	補導委員会
19	教育環境アンケート		補導委員会	補導委員会	在校生	補導委員会	－	○	○	学内掲示	学校運営会議	指摘事項担当委員会
20	学生相談関係アンケート(隔年)	学生相談室	学生相談室	学生相談室	在校生	学生相談室	－	－	○	学内掲示	学生相談室	学生相談室
21	クラシックコンサートアンケート	企画室	企画室	企画室	参加者(在校生、一般)	企画室	－	－	○	教員会議資料	学校運営会議	企画室
22	学年末の達成度評価	教務委員会	教務委員会	教務委員会	在校生	教務委員会	－	－	－	公開する必要がある	教務委員会	教務委員会

（出典　学校運営会議）

資料11－２－③－４

「過去３年間の入試倍率の推移」

＜過去３年間の入試倍率の推移＞　　（　）内は女子で内数。

年度	学科［募集人員］	機械［４０］	電気電子［４０］	電子情報［４０］	物質［４０］	環境都市［４０］	計［２００］
H23	志願者数	78(2)	76(8)	64(10)	54(26)	76(25)	348(71)
	合格者数	40(1)	40(5)	40(8)	41(20)	40(12)	201(46)
	倍率	2.0	1.9	1.6	1.4	1.9	1.7
H22	志願者数	51(1)	55(3)	80(10)	82(20)	55(10)	323(44)
	合格者数	41(1)	40(3)	40(5)	40(12)	40(9)	201(30)
	倍率	1.3	1.4	2.0	2.1	1.4	1.6
H21	志願者数	60(1)	75(3)	47(8)	57(17)	57(13)	306(42)
	合格者数	40(0)	40(3)	40(4)	40(14)	40(10)	200(31)
	倍率	1.5	1.9	1.2	1.4	1.4	1.5

（出典　平成２３年度自己点検・評価報告書，p.56）

（分析結果とその根拠理由）

改善を必要とする評価結果については，事項ごとに担当する委員会等へ提起し，具体的な改善方策等の検討からその実施と学校運営会議への報告まで一貫した教育改善システム（PDCA サイクル）が構築され，有効に運用されている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では，教育，研究，社会との連携・国際交流，管理運営等の学校全般に渡っての具体的な目標を定めた年度計画及びその自己点検評価について，外部有識者からの意見・提言を受け、今後の学校運営の改善に活かすため外部有識者会議を開催している。その意見・提言は，福井高専教育改善システムにより対応委員会において検討された結果が学校運営会議に報告され，本校の学校運営の改善に活かされている（資料 11－３－①－１～３）。外部評価の位置付けは，前述の福井高専教育改善システム（資料 11－２－③－２）に示したとおりであり，このシステムを循環させることにより，より効率的かつ効果的な学校運営に係る改善を図る仕組みが構築されている。

資料 11－３－①－１

「平成 21 年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言・その対応委員会およびその後の検討結果」

2012，6，6（教育システム推進委員会）

委　　員	提言・意見	対応委員会等	検討結果など(時期や内容)
長岡技術科学大学 新原皓一　学長	地域貢献の一つとしての原子力人材育成プログラムの推進	教務主事	・H22、23年度は実施
	長期的な産業構造の変化に対応した教育プログラムの見直し	企画室	・高度化再編を視野に入れて検討中
鯖江市小中学校校長会 岸松茂　副会長 (鯖江市中央中学校校長)	子ども達に夢を与える学校、地域住民の自慢となる学校であり続けること	教育システム評価委員会	・地域連携テクノセンターなどによる広報 ・喫煙場所の件（施設整備委員会で検討要する）
	受け入れた子供たちが心身とも健康で充実した学校生活が送れること		・制服のリニューアルでの服育 ・発達障害・学習障害・支援が必要な学生へのフォロー ・進路指導の充実
鯖江商工会議所 野村一榮　会頭	ものづくりを通して、高専の卒業生が地元の企業に定着することの促進	企画室	・インターンシップ等を利用して地元企業からのニーズを収集し，地元に有用な人材育成を行っている
	高専生への地元中小企業の紹介・周知(丹南産業フェアへの積極的参加)	~~教育システム評価委員会~~　進路指導委員会	・就職説明会での地元企業の紹介
信越化学工業（株） 磁性材料研究所 本島正勝　顧問 （前所長）	ロボコンの様な実体験を通しての柔軟性・多様性を持った学生の育成	企画室	・各種コンテストへの参加を今後も奨励する
福井新聞社 山下裕己　論説主幹	福井高専の学生による「まちおこし」や「まちづくり」の活動の奨励	学生主事	・鯖江市を中心に、サイエンスクラブの活動や環境フェアへの参加、環境都市学生によるエコクラブ活動、出前授業を通して科学技術の発展に関する活動を多数実施
福井大学 中川英之　副学長	地域連携アカデミアを活用した産業界との教育面での連携推進	地域連携テクノセンター	・検討中
	インターンシップ先としての地元企業の更なる開拓	進路指導委員会	・実習先訪問での新規開拓 ・就職説明会での地元企業の紹介
	Web応用、コンピュータを使った学習支援策の積極的な展開	創造教育開発センター	・数学や英語でのe-ラーニングを実施中
	単なる就職指導ではない、キャリア教育への取り組み	教務主事	・進路指導室中心にキャリア教育セミナー実施中
	外部資金の獲得努力	研究改善委員会・企画室	・科研費獲得に向けた講演会を実施している。平成24年度は科研費がＶ字回復
	女子学生の受け入れ（女子学生の志願者確保に向けた取り組みの継続）	企画室	・「女子中学生と保護者のための公開講座」を実施しており，次年度も継続して行うことを検討している
	高校生への４年次編入学のPR	教務主事	・H22年度は行なっていない ・H23年度はオープンキャンパスなどへの案内を出す予定にしていたが実行はしなかった。 ・H23年度は受験希望者に第4学年の前期中間試験問題を配布し、受験の参考とした。 ・H24年度入試では物質工学科にも不可欠の物理的な思考能力の合否判定のために入試科目に物理Ⅰを追加した。 ・入試委員会で第3学年への編入学を検討したが見送った。
	国際化への対応（留学生の受け入れ拡大）	教務主事	・女子寮の改修により６名受け入れ増が可能
	メンタルヘルスへの継続的取り組み	学生主事	・Ｈ２３年度は自殺予防講演会実施
	将来の高度化再編へ向けての対応	企画室	・高度化再編に関し検討中

（出典　学校運営会議）

資料 11－３－①－２

「平成 22 年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言・その対応委員会およびその後の検討結果」

2012，6，6（教育システム推進委員会）

委　　員	提言・意見	対応委員会等	検討結果など(時期や内容)
長岡技術科学大学 新原晧一　学長	外部資金の獲得努力	企画室・研究改善委員会	・科研費獲得のための講演会 ・平成24年度は科研費がＶ字回復
	学寮の良い面の活用	学寮運営委員会	・検討中(清掃活動のボランティア)
	将来求められる技術を予測し，自ら伸びていく，チャレンジしていく意識の教育	教務委員会・専攻科委員会	・ロボコン・プロコへの積極的参加 ・ＡＳＥＴや海外研修への積極的参加 ・キャリア教育の充実 ・専攻科として学習・教育目標に掲げていることであり，専攻科教育のカリキュラムを通して実践していることである．ただし，本校教員だけではなく，外部講師の話を聞くことも，技術の予測には必要であるので，講演会の実施や大学・企業への訪問を継続的に企画する．（専攻科委員会）
鯖江市小中学校校長会 岸松茂　会長	地域から愛される，関心を持たれる学校にしていく努力(広報・情報発信)	広報委員会・企画室	・おもしろフェスタinサンドームでの地域に対する情報発信(企画室)
鯖江商工会議所 野村一榮　会頭	ものづくりを通しての起業家精神の育成	企画室・教務委員会・専攻科委員会・地域連携テクノセンター	・高専機構特別教育研究経費「アントレプレナー醸成・キャリア教育の進展」の採択を受けての，舞鶴高専・明石高専・呉高専・本校での連携事業(企画室) ・知財教育に関する講演会を実施しており，その内容を通して起業に対しての意識啓発を図っている．また，デザイン工学や創造デザイン演習の授業内容に起業家精神の育成を盛り込んでいくことを検討する．（専攻科委員会）
	高専生への地元中小企業の紹介・周知(丹南産業フェアへの積極的参加)	進路指導委員会へ	・就職説明会での地元企業の紹介
信越化学工業（株） 磁性材料研究所 美濃輪武久　所長	英語によるコミュニケーション能力の向上	教務委員会・専攻科委員会	・Ｈ２３年度の教員間ネットワーク会議において活発な議論がなされている。 ・平成23年度「現代英語」において，英語におけるポスタープレゼンテーションスキルの向上を内容に取り入れ，非常勤外国人講師による指導を実施することになっている ・積極的に高専機構による海外インターンシップやISTSへの学生派遣を奨励する．その結果，今年度夏季海外インターンシップに専攻科2年生がマレーシアに派遣されることとなった．今後，さらに，学生自らが海外に目を向けるような指導を行っていくこととする．そのためにも，TOEICスコアの向上がモチベーション向上に繋がることから，TOEIC受験を奨励する．（専攻科委員会）．
福井新聞社 山下裕己　論説主幹	工業や技術には関係のない教養的な部分の育成	教務委員会・専攻科委員会	・青樹などの校友会誌編集 ・学生会主体の体育祭や高専祭 ・文化部発表会（文月祭）が復活の話はない。 ・文化（紫式部）に関する公開講座の開講 ・放送大学との単位互換を検討し，本校では修得できない自分社会系の科目の履修を進めることを検討する．（専攻科委員会） ・弁論大会（ディベート）
	コミュニケーション能力の向上，デザインマインドの育成	教務委員会・専攻科委員会	・　後期1年に開講する「創造デザイン演習」によって，エンジニアリング・デザイン能力の向上を図る．内容については，他の教育機関における実施例を検討し準備を行っていく．この授業では，日本語における討論から１つの妥当な解決策を導き出すことやグループワークの重要性の涵養を主とする．（専攻科委員会）
福井大学　小倉久和 工学部長・工学研究科長	学校としての課題や問題点を整理・明確化した上での方向性	企画室	・高度化再編，国際交流，外部資金獲得など現状として最も重い課題と考えられる項目を最優先に各種委員会で検討を行っている

（出典　学校運営会議）

資料 11－３－①－３

「平成２３年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言と検討委員会」

委　　員	意　見　・　提　言	内容（平成23年度外部有識者会議の録音テープ起こし原稿（校正前）の抜粋）	検討委員会（案）
長岡技術科学大学 新原　晧一　学長	学生が夢を育むことができる教育への取組	企業が持っている、政府が持っている、世界が持っている、いろいろな所が持っている未来に対する思考と未来に対する議論みたいなものを、どこもあまり大きな声で言えなくなっています。若者を育てる教育機関においては、私は堂々と、20年先の夢を話すべきだと思います。それが正しいかどうかは関係なく、そういう雰囲気を学生に与えるべきだと私は思っています。。いわゆる普通の教育論はいっぱいありますが、なぜここに大学があるのか、なぜ高専があるのだ、高校や中学校があるのかと考えてきますと、教育者とはそもそも何だ。結論に達したのは教育というのはある面では未来を創るのだということです。我々は学生を教えることによって学生が創る未来、20年先、30年先に創るその時に彼らが自分たちが持っている能力を最大に引き出して、未来社会に参加するのだという気に。彼らがいろいろな事をやって未来社会を創るのだと思うのですが、それに我々もある面で教育するという立場から参加していく。だから教育チームは高尚な、ある意味一般とは違うのだというのはそこにあると私は感じました。そういう意味では、今、出た後、今後何をするかではなくて、今後伸びるチャレンジする学生が今後20年、30年、自分の最高のレベルに達するためにチャレンジしていかないといけない。その手助けをやっているのがある意味大学の教育なのではないかという気がします。そういう意味で考えると、専攻科がなぜ必要か、高専を出た人がなぜ大学に編入していかなければいけないのか、論理的にできそうな気がしています。その流れが一番大事だと思います。未来を見る事と、未来を見られない学生、若い人たちに先生方が、我々が、社会が若い人たちに向かって夢を語ってやるべきだと。それが今日本の社会に無くなったから、その結果として学生が内向きになる、学生が未来を見られなくなる、俯いて、学生が今いろいろな事を社会から言われているのは、あれは元々我々がその原因を作っているだけの話なのだと。そういう意味では、少なくとも夢を語れるのは、教育機関ではそれができるはずです。	企画室 進路指導委員会 （講演会・単なる就職指導でないキャリア教育）
鯖江市小中学校校長会 島嵜　徹夫　会長	卒業後，高専でのキャリアが活かされる取組	今夢の話がありましたが、私たちは子どもを高専だけではなくて高校へ出すときに、やはり、いろいろと考えていまして、やはり５年経って、どのような世の中を子どもが見て進んでいくのかなということが一番、送る側としては気になる事です。評価表、点検、すばらしい事なのですが、私は仕事として、子どもの意見、保護者の意見、または中学校の先生方の意見、そういう所も大事にしていただいて教育を考えていただけるとありがたいと思います。女子が宣伝なさって45人たいへん増えていますが、校内が女子がいると華やかになるというそれだけでは駄目なのではないかと思います。その女子が５年後、どこに就職するのか。女子がこの地区に残って貰えるかなという気がしますので、そういう意味では良いのですが、俗な言い方をすると潰しが効かないかなという気もするので、どうか、この子たちがすばらしい大人になって、キャリアを持って、生きていけるようによろしくお願いします。	企画室 進路指導委員会 （女子中学生の体験学習会・女子学生向けのキャリア教育）
鯖江商工会議所 野村　一榮　会頭	女子学生増への取組	今後５年10年先の事を考えると、創造性とか自主性とか活動性とか、女性のほうがあるような気がします。これから企業は女性の管理職登用とか、デザインとか発想とか、そういうものにどんどん登用されてきますので、ぜひ今後とも高専も女性の生徒の割合をこれからどんどん増やしていただけると、またその辺が変わってくるのではないかという感じがいたします。	企画室 進路指導委員会 （女子中学生の体験学習会や女子学生向けのキャリア教育）
	さばえものづくり博覧会への協力	今年の11月16日（金）～18日（日）の三日間ですが、従来の丹南産業フェアをサンドームでやっていますが、今回は鯖江商工会議所独自で鯖江ものづくり博覧会を開催しようと思っています。その目的は二つあって、一つは鯖江にはものづくりの素晴らしい 産業がいっぱいあるのですが、ところが今までの丹南産業フェアでは出店しません。ご覧になると分かりますが、めがね業界の方で楽器を作っているとか、あるいは医療器具を作っているとか、繊維業界で建築資材を作っているとか、全然違うものづくりがありますし、伝統工芸師も鯖江にはいっぱいおられますので、そういった隠れた素晴らしいものづくりの技術をぜひ見せたいということです。もう一つは、若者にその企業を見ていただこうという事から、地元の中学生や、もちろん高専の生徒さん、工大、大学の生徒さんにも見ていただいて、後継者育成の一環としても考えておりますので、ぜひその時には高専の、できればロボットの実演をやっていただけると良いと思っています。	企画室 進路指導委員会 （地元企業の紹介）
信越化学工業（株） 磁性材料研究所 美濃輪　武久　所長	部門間の連携強化	皆さんはそれぞれの分野において非常に一生懸命、手取り足取り、校外の事まで気を配られて、よくおやりになっていることがよく分かりました。ちょっと心配なのは、皆さんはそれぞれの分野で一生懸命にやられておられていますが、全体として、日本の組織には起こりがちな話ですが、部門間のつながりが悪くならないようにお願いしたいという気がしました。	教育システム推進委員会 （ＰＤＣＡサイクルの確実な実施）
(株)福井新聞社 山下　裕己　論説主幹	創造性やデザインマインドの育成	今の経済状況とか、日本の状況などを見ると、学生ひとりひとりの創造性とか、デザインマインドをどう育てるかとか、今までとは違った所に力をこれから入れていかなければいけないという気がします。やはり手取り足取り教え込むというだけでは、そういう物はなかなか身に付かないところがあるので、これは簡単にこうすればできるんだよという事が分かるのであればそれほど難しくはないでしょうが、私自身もいろいろな今の日本の状況とか福井の状況を見ると、変な話、大きな大学や公立都道府県などの教育委員会などの縛りがある学校と違って、高専さんはそういう所に挑戦するには比較的良い環境にあるのではないかという期待をしています。そういう意味では、忙しい中たいへんだと思いますが、デザインマインドとかイマジネーションとか、非常に分かりにくい部分を子どもたちに教えていく方法を努力するというか、そういうところを是非取り組んでいただきたいと思います。	教務委員会 専攻科委員会 （学習・教育目標に掲げている）
福井大学 小倉　久和 工学部長・ 工学研究科長	積極的に行動できる学生の育成	学生たち、創造性の問題がかなり大きいと思いますが、よく言われるように内向き志向を大学生についてずいぶん言われています。多分、高専の中でもあるかと思いますが、非常にたくさんの取り組みがされていてびっくりするくらいやられていると思いますが、その中で実際に学生たちの自主性、創造性、イマジネーションがどのように発展していくかについては、やっぱり内向き志向といわれるような傾向が学生それぞれの中にあると思います。私もずいぶん長いこと学生の教育に携わって来ましたが、例えば、「それは習っていません」と言う学生があいかわらずいる。例えば半年なり1年のある授業科目で教えられる事はごく僅かで、それはきっかけを与えるに過ぎないと言って宿題とか出すのですが、なかなかそういうものが出て来ない。我々の大学でも実学志向と言いますか、実践教育が盛んで、座学ではない部分が増えて来ていますが、そうすると座学が益々軽視されてきて、個人的には、いわゆる技術の体系、あるいは科学の体系に裏付けられたイマジネーションが本来あるはずだと思っていますが、それが内向き志向によって、外から与えられたものばかりやっている。自分で外へ出て、あるいは自主的にやっているのは少ないという感じがしています。同じような事が高専の中にもあるのではないかと思います。そういった課題が今日の報告の中に見えなかった。	補導委員会 教務委員会 専攻科委員会 （学生会での自主的な取り組み・仮進級を自ら解こうとしない現状・学修単位・海外留学の促進など）
	きめ細かな教育体制の継続	伸びる学生は伸ばすのは重要ですし、手間暇をかけなければいけない学生には手間暇をかける。同時に今の学生たちは大きなお店の二代目、三代目の雰囲気が無くはないのです。自分たちで分からない事、教えられない事も関心があれば、あるいは必要があれば自分でやっていってほしいといつも思っています。それが海外に出て行く傾向が少なくなっている一つの原因にもなっているのだろうと思うし、学生たちも就職活動の中で、自分の手近な所で済ましてしまうようになってしまう気がしております。そのへんについても、特に高専はある意味、縛りが少ない。大学とは違った事が取り組める環境がある。逆の意味で縛りもあるのでしょうが、ぜひいろいろな対応の取り組みをしていただきたいと思いました。	教務委員会 専攻科委員会 （進級制度・海外留学の促進、発達障害への支援など）

（出典　学校運営会議）

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者会議を開催し，その提言・助言は，学校運営会議及び関係委員会等で対応を検討し，年度計画等に取り入れるなど，外部の意見を反映させている

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

本校では，外部の教育資源の積極的な活用に関して，様々な取組を行っている。高等教育機関との協定は，平成２０年９月に福井県内の大学及び短大と「戦略的大学連携支援事業の共同実施に関する協定」を締結し（資料11－３－②－１），福井県内の６つの高等教育機関が連携して他機関の学習資源に容易にアクセスできる環境をつくるプロジェクト「Ｆレックス」に参画している。また，現役の企業技術者を招聘し，本校教員と共に学生に対して共同教育を行う「企業技術者等活用プログラム」，原子力関係分野で活躍することができる実践的な人材の育成を目的とする「原子力人材育成プログラム」（経済産業省補助事業）や長岡技術科学大学，(財)放射線利用振興協会及び(独)日本原子力研究開発機構との連携・協力による機関横断的な人材育成事業「機関連携による防災・安全教育を重視した実践的原子力基礎技術者育成の実施」を実施している（資料11－３－②－２）。さらに，長岡技術科学大学と高等専門学校が協働して戦略的な技術展開ができる人材を育成する教育プログラムを確立することを目的に，本校他５高専をモデル校として連携した教育プログラムの推進に参加し，同大学と「戦略的技術者育成アドバンストコース事業」を実施しているなど，多様な連携による共同教育のさらなる実現に向けて事業展開を図り，外部の教育資源の積極的な活用を図っている。

資料11－３－②－１

「戦略的大学連携支援事業の共同実施に関する協定書」

戦略的大学連携支援事業の共同実施に関する協定書

福井県立大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井工業高等専門学校（以下「構成大学等」という。）は、戦略的大学連携支援事業に基づく大学間の連携取組に関し、次の条項により協定を締結する。

（目的）
第１条　構成大学等は、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的とし、大学間の積極的な連携を推進する。

（内容）
第２条　構成大学等は、「戦略的大学連携支援事業」の申請書及び大学間連携戦略に基づき、連携取組を確実に実施する。

（期間）
第３条　本協定は、協定締結の日から効力を生じ、概ね１０年間有効とする。

（その他）
第４条　本協定に定めのない事項又は本協定の条項について疑義が生じた場合は、構成大学等が協議し、決定する。

この協定を証するため、本書５通を作成し、構成大学等が各１通を保有する。

平成２０年９月２４日

福井県立大学長　　祖田　修

福井工業大学長　　城野　政弘

仁愛女子短期大学長　　禿　正宣

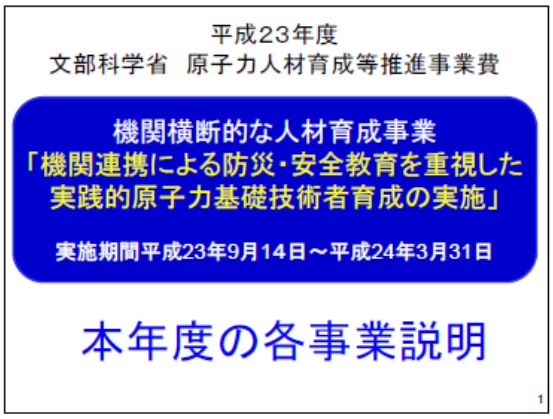
敦賀短期大学長　　三橋　昌幸

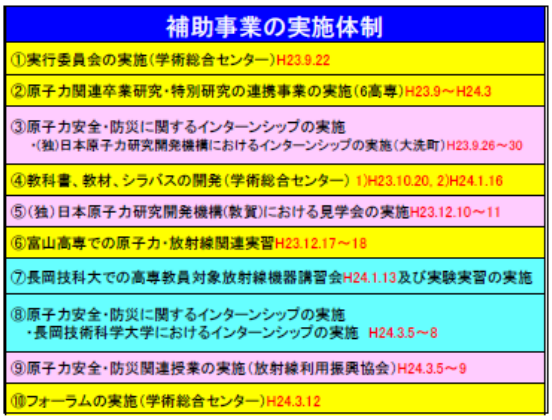
福井工業高等専門学校長　池田　大樹

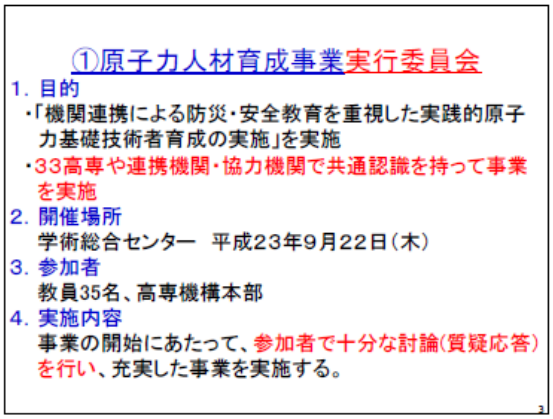
（出典　総務課）

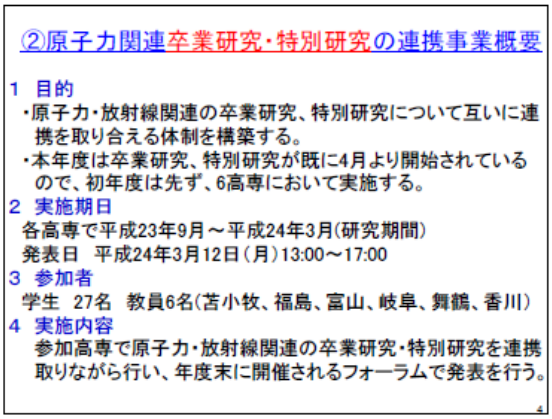
資料11－３－②－２

「原子力人材育成等推進事業概要」









（出典　総務課）

（分析結果とその根拠理由）

外部の教育資源の活用という観点では，高等教育機関等との連携や企業技術者の活用などの多様な連携による共同教育の取組を実践しており，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動等の状況は，学校教育法第113条及び第115条に基づき，本校ホームページへ掲載することにより公表している。学校教育法の改正を踏まえ，本校の教育研究活動等の状況をわかりやすく公表するという観点から，本校ホームページのトップページの「学校案内」に「教育情報公開」を設定し，学校教育法施行規則第172条の２に規定されている項目について，学校概要，目的，教育理念，組織，施設等の基本事項及び学科情報，教員総覧並びに入試案内等の情報を掲載し，広くわかりやすく一般社会に発信している（資料11－４－①－１）。

さらに，本校ホームページによる情報発信だけではなく，テレビ，新聞，ラジオ等のマスメディアへの情報提供を積極的に行っており，テレビ放映及び新聞記事等への記事掲載依頼や地元のコミュニティーＦＭ放送を通した本校の教育研究活動の状況・各種行事，イベント等の本校関連の情報提供などを行い，広く一般社会へ向けての積極的な情報発信に努めている。また，研究活動においては，「福井工業高等専門学校シーズ集」や地域連携テクノセンターの活動紹介誌「JOINT」を刊行し，地元企業等に配布する等など，情報提供を活発に行っている。

資料11－４－①－１

「本校ホームページのトップページ」

（出典　本校ホームページ　http://www.fukui-nct.ac.jp/）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動の状況については，本校ホームページに掲載し，広く一般社会に情報発信している。また，積極的な情報発信手段として，ホームページだけではなく新聞等のマスメディアにも情報発信を行っているほか，研究シーズ集等の刊行等の研究に関する資料も作成し，活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育改善システム（ＰＤＣＡサイクル）が機能し，外部有識者等の提言・意見や自己点検・評価結果が年度計画に反映され，継続的に改善が行える体制整備がなされている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準11の自己評価の概要

本校では，校長，副校長，校長補佐及び各種委員会等の役割が明確に規定されており，学校の目的を達成するために，各種委員会等で検討・提案された事項は，自己点検・評価委員会で審議のうえ，最高意思決定機関である学校運営会議に諮られ決定しており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える体制となっている。管理運営に関する各種委員会及び事務組織等においても，その役割を規定に定め，適切に役割分担し，効果的な運営がなされている。また，危機管理については，あらゆる危機管理に組織的に対応するため危機管理規則を定め，危機管理に係る体制整備を図っている。

自己点検・評価については，教育，研究，社会との連携・国際交流，管理運営等の学校全般に渡っての具体的な目標を定めた中期計画・年度計画の項目を踏まえて，総合的な観点からの適切な自己点検・評価を行っている。また，評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるように教育改善システム（ＰＤＣＡサイクル）を機能させ次年度以降の年度計画等に反映させ，継続的に改善を行うための体制が整備されているほか，評価結果は，本校ホームページにより広く一般に公表している。

外部評価については，外部評価機関である「外部有識者会議」を開催し，外部有識者から学校の運営全般に渡って提言・助言を受けているほか，その内容については積極的に取り入れ，次年度以降の年度計画に反映し，学校運営の改善に役立てるシステムを構築している。

本校は，福井県内外の高等教育機関等との多様な連携による共同教育の取組を実践しており，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

本校の教育研究活動の状況については，学校教育法に基づき，主に本校ホームページに掲載し，広く一般社会に情報発信している。また，積極的な情報発信手段として，ホームページだけではなく新聞等のマスメディアにも情報発信を行っているほか，本校の研究シーズ集等の研究に関する刊行物を発行し，情報発信するなど，本校の活動の成果の関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。